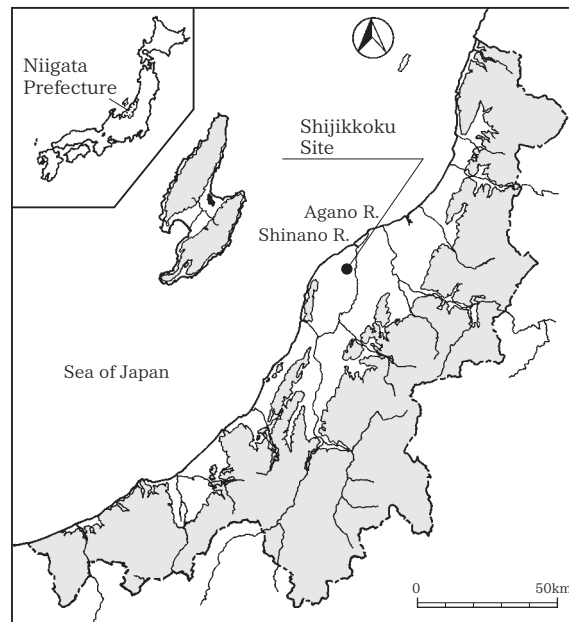


# し じ っ こ く 四十石遺跡 第2次調査

— (仮称) 新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書 —



2012











新潟市教育委員会

# 例 言

- 1 本書は新潟県新潟市西区東山<sup>にしくひがしやまあざしじこく</sup>字四十石 123 番地 1 他に所在する四十石<sup>しじこく</sup>遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、(仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴い、新潟市教育委員会(補助執行:新潟市文化スポーツ部歴史文化課埋蔵文化財センター)が新潟市長(担当:廃棄物施設課)から依頼を受けて行った。
- 3 発掘調査は、平成 21 年 2 月 16 日から 12 月 14 日までの 2 か年度にわたり継続して実施したが、平成 20 年度は主に調査のための準備工事および工事立会を行い、平成 21 年度に発掘調査の本格的な作業を行った。発掘調査面積は、5540.1m<sup>2</sup>である。
- 4 平成 21・22 年度に整理作業、平成 23 年度に報告書刊行を行った。
- 5 発掘調査と整理作業の体制は第三章に記した。
- 6 調査記録及び出土遺物、整理作業に係る記録類は、一括して新潟市文化財センターが保管・管理している。
- 7 本書の執筆は、第 I～V 章及び第七章第 1・2・4 節を渡邊ますみ(新潟市歴史文化課主査)が、第七章第 3 節を奈良貴史(日本歯科大学准教授)が執筆した。第 VI 章の自然科学分析については株式会社火山灰考古学研究所から提出された業務成果を編集して掲載している。また、第 V 章の金属製品(腰帯金具・刀子金具)の理化学分析は、財団法人元興寺文化財研究所が保存処理に伴って行ったものであり、提出された結果報告の一部である。本書の編集は、渡邊ますみが行った。
- 8 本書で用いた写真は、遺跡写真は渡邊・相田泰臣(市埋蔵文化財センター副主査)・池田ひろ子(同専門臨時職員)が、遺物写真は佐藤俊英(ビッグヘッド)が撮影した。ただし写真図版 1 は国土地理院が、写真図版 2 は株式会社オリスが撮影したものを使用した。
- 9 各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビナス・有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 10 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。  
穴澤義功・甘粕 健・石川日出志・小笠原好彦・岡本郁栄・春日真実・河合英夫・小林厳雄・小林昌二・坂井秀弥・  
笹澤正史・関 雅之・滝沢規朗・田嶋明人・田中耕作・田村浩司・林 大智・細野高伯・松島悦子・三ツ井朋子・  
南 憲一・水澤幸一・吉村武彦・渡邊美穂子・新潟県教育庁文化行政課・財団法人石川県埋蔵文化財センター・  
財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・奈良県立橿原考古学研究所付属博物館(所属・敬称略、五十音順)



## 凡 例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
- 3 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものについては、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 引用文献は著者と発行年(西暦)を〔 〕中に示し巻末に一括して掲載したが、第Ⅵ章・第Ⅶ章第3節に伴うものについては、分けて明記した。
- 5 本文の事実記載（第Ⅳ・Ⅴ章）や図面・写真掲載（図版）において遺構あるいは遺構に関わるものについては、上層・下層を分け、上層→下層を基本とした。
- 6 遺構番号は現場で付したものをを用いた。番号は種別関係なく通し番号とした。但し、ピットで構成される掘立柱建物・柵列については新たに番号を付し、掘立柱建物はSB2001～SB2009、柵列はSA3001とした。
- 7 遺構実測図中のトーンについて、凡例のないものについては、以下のとおりである。  
焼土痕跡 
- 8 土器実測図で全周の1/9以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、須恵器以外を白抜きとした。トーンについては以下のとおりである。  
土 器 …… 黒色処理  赤彩  墨痕  炭化物・スス   
石 製 品 …… 使用部分   
金属製品 …… 膜状物質（金成分が含まれる）  付着物   
木 製 品 …… 黒漆  赤漆 
- 9 土層観察及び土器観察の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局1967）を用い、その記号を本書に掲載した。
- 10 遺物の注記は、四十石遺跡の略記号「四十石」とし、出土地点を続けて記した。出土地点計測をした遺物については、取り上げNo.と小グリッドを併記した。
- 11 遺物番号は種別関係なく通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 12 遺構計測表及び遺物観察表は、本文の最後に別表として掲載し、その凡例については各表の巻頭に示した。

# 目 次

## 第I章 序 章

- 第1節 遺跡概観 ..... 1
- 第2節 発掘調査に至る経緯 ..... 1

## 第II章 遺跡の位置と環境

- 第1節 地理的環境 ..... 2
- 第2節 周辺の遺跡 ..... 3
- 第3節 歴史的環境 ..... 4

## 第III章 調査の概要

- 第1節 試掘調査 ..... 10
  - A 調査方法と経過 ..... 10
  - B 調査体制 ..... 10
- 第2節 本発掘調査 ..... 10
  - A 調査方法 ..... 10
  - B 調査経過 ..... 12
  - C 調査体制 ..... 13
- 第3節 整理作業 ..... 13
  - A 作業方法 ..... 13
  - B 作業経過 ..... 14
  - C 作業体制 ..... 14

## 第IV章 遺 跡

- 第1節 概 要 ..... 15
- 第2節 層 序 ..... 15
- 第3節 遺 構 ..... 16
  - A 上層遺構（奈良・平安時代の遺構） ..... 16
  - B 下層遺構（縄文・弥生・古墳時代の遺構） ..... 30

## 第V章 遺 物

- 第1節 土 器 ..... 35
  - A 概 要 ..... 35
  - B 記 述 ..... 36
  - C 分 類 ..... 36
  - D 出土土器等各説 ..... 44
- 第2節 土 製 品 ..... 59
- 第3節 石 器 ..... 59

第4節 石製品	59
第5節 金属製品	60
A 腰帯金具	60
B 刀子金具	62
第6節 鍛冶関連遺物	62
第7節 木製品	62

## 第VI章 自然科学分析

第1節 土層とテフラ	64
A はじめに	64
B 微高地A地点の土層層序	64
C テフラ検出分析	64
D 屈折率測定	65
E 考察	65
F まとめ	65
第2節 植物珪酸体分析	66
A はじめに	66
B 試料	66
C 分析方法	66
D 分析結果	66
第3節 プラント・オパール分析	69
A はじめに	69
B 試料	69
C 分析方法	69
D 分析結果	69
E 考察	70
F まとめ	71
第4節 花粉分析	71
A はじめに	71
B 試料	71
C 分析方法	71
D 分析結果	71
第5節 珪藻分析	76
A はじめに	76
B 試料	76
C 分析方法	76
D 分析結果	76
第6節 種実同定	80
A はじめに	80
B 試料	80
C 分析方法	80
D 分析結果	80

第7節 放射性炭素年代測定	83
A 測定試料と測定方法	83
B 測定値の見かた	83
C 測定結果	83

## 第Ⅶ章 総括

第1節 遺構	86
A 奈良・平安時代の掘立柱建物について	86
B 奈良・平安時代の埋葬関連遺構について	89
第2節 遺物	90
A 古墳時代の土器について	90
B 奈良・平安時代の土器について	91
C 古代の帯金具について	95
第3節 四十石遺跡の出土骨片の人類学的検討	102
A はじめに	102
B 肉眼観察	104
C 骨組織形態学的検討	106
D 考察	108
E まとめ	110
第4節 遺跡の変遷と位置付け	110
A 縄文・弥生・古墳時代	110
B 奈良・平安時代	111
引用・参考文献	116
別表	120
報告書抄録・奥付	巻末

## 挿図目次

第1図 四十石遺跡周辺の地形	2	第11図 奈良・平安時代の須恵器器種・胎土分類	37
第2図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図1 (旧石器・縄文・弥生時代)	5	第12図 奈良・平安時代の土師器・黒色土器器種分類	38
第3図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図2(古墳時代)	6	第13図 古墳時代の土師器器種分類(1)	41
第4図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図3 (飛鳥・奈良・平安時代)	7	第14図 古墳時代の土師器器種分類(2)	42
第5図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図4 (鎌倉・南北朝・室町時代・時代不明)	8	第15図 鍛冶関連遺物出土状況	63
第6図 試掘調査の成果と本発掘調査範囲	11	第16図 微高地A地点の土層柱状図	65
第7図 SI307 遺物出土状況	17	第17図 植物珪酸体分析結果	68
第8図 SX71 遺物出土状況	27	第18図 植物珪酸体の顕微鏡写真	68
第9図 SX100 遺物出土状況	28	第19図 プラント・オパール分析結果	70
第10図 SX97 遺物出土状況	34	第20図 プラント・オパールの顕微鏡写真	70
		第21図 花粉ダイアグラム①(SD984、SD868)	72
		第22図 花粉ダイアグラム②(微高地A地点)	73
		第23図 花粉ダイアグラム③(SK923)	73

第 24 図	花粉ダイアグラム④ (P309、低地部 B 地点) …… 73	第 38 図	腰帯金具出土の遺跡…………… 97
第 25 図	花粉・胞子の顕微鏡写真① (微高地 A 地点) …… 74	第 39 図	県内出土の腰帯具 (金属製品 1) …… 98
第 26 図	花粉・胞子の顕微鏡写真② (低地部 B 地点 遺構) …… 74	第 40 図	県内出土の腰帯具 (金属製品 2) …… 99
第 27 図	珪藻の顕微鏡写真① (微高地 A 地点) …… 77	第 41 図	県内出土の腰帯具 (石製品) …… 100
第 28 図	珪藻の顕微鏡写真② (低地部 B 地点) …… 78	第 42 図	腰帯金具タイプ別出土状況…………… 103
第 29 図	主要珪藻ダイアグラム① (微高地 A 地点) …… 79	第 43 図	四十石遺跡出土焼骨片写真①…………… 105
第 30 図	主要珪藻ダイアグラム② (低地部 B 地点) …… 79	第 44 図	四十石遺跡出土焼骨片写真②…………… 105
第 31 図	種実の顕微鏡写真…………… 81	第 45 図	出土骨試料 No.3701 および比較標本における H-On 示数平均値の分布範囲…………… 107
第 32 図	竪穴住居 (SI246・SI307) …… 84	第 46 図	試料骨片および比較標本の骨組織像 (写真) …… 108
第 33 図	掘立柱建物 (SB2005・SB2006) …… 85	第 47 図	比較標本の骨組織像 (写真) …… 108
第 34 図	埋葬関係遺構 (SX71・SK159) …… 85	第 48 図	下層における主要溝状遺構検出状況…………… 112
第 35 図	2 間×2 間総柱建物 (四十石遺跡・笹山前遺跡) …… 87	第 49 図	古代集落の変遷…………… 113
第 36 図	四十石遺跡出土の刻書土器…………… 93	第 50 図	周辺の遺跡…………… 115
第 37 図	四十石遺跡出土の墨書土器…………… 94		

## 表 目 次

第 1 表	周辺の遺跡…………… 9	第 17 表	掘立柱建物 (SB2005・SB2006) 放射性炭素年代 測定を試料と方法…………… 84
第 2 表	古代土器編年対照表…………… 35	第 18 表	掘立柱建物 (SB2005・SB2006) 放射性炭素年代 測定結果…………… 84
第 3 表	古墳時代土器編年対照表…………… 35	第 19 表	埋葬関係遺構 (SX71・SK159) 放射性炭素年代 測定を試料と方法…………… 85
第 4 表	須恵器無台杯体部斜度…………… 36	第 20 表	埋葬関係遺構 (SX71・SK159) 放射性炭素年代 測定結果…………… 85
第 5 表	須恵器有台杯径高指数…………… 39	第 21 表	県内の 2 間×2 間総柱建物…………… 86
第 6 表	土師器碗径高指数…………… 39	第 22 表	笹山前遺跡 SB2・SB3 出土の土器…………… 86
第 7 表	テフラ検出分析結果…………… 65	第 23 表	主要遺構の器種 (分類) 構成…………… 91
第 8 表	屈折率測定結果…………… 65	第 24 表	県内出土の腰帯具 (1) …… 101
第 9 表	植物珪酸体分析結果…………… 68	第 25 表	県内出土の腰帯具 (2) …… 102
第 10 表	プラント・オパール分析結果…………… 70	第 26 表	四十石遺跡出土骨試料の骨組織形態計測値…………… 107
第 11 表	花粉分析結果…………… 72	第 27 表	比較動物四肢骨標本における骨組織形態計測 平均値の範囲…………… 107
第 12 表	珪藻分析結果① (微高地 A 地点) …… 77	第 28 表	周辺遺跡の様相…………… 114
第 13 表	珪藻分析結果② (低地部 B 地点) …… 77		
第 14 表	種実同定結果…………… 81		
第 15 表	竪穴住居 (SI246・SI307) 放射性炭素年代測定 の試料と方法…………… 83		
第 16 表	竪穴住居 (SI246・SI307) 放射性炭素年代測定 結果…………… 83		

## 別 表 目 次

別表 1	遺構一覧表…………… 120	別表 3	土製品・石器・石製品・金属製品・鍛冶関連 遺物観察表…………… 145
別表 2	土器観察表…………… 131	別表 4	木製品観察表…………… 146

## 図版目次

- 図版 1 周辺の旧地形図 (1/50,000)
- 図版 2 明治 44 (1911) 年の市域の地形
- 図版 3 四十石遺跡と周辺の遺跡 (1/10,000)
- 図版 4 グリッド設定図 (1/2,500)
- 図版 5 遺構全体図 上層
- 図版 6 遺構全体図 下層
- 図版 7 小グリッド別古代須恵器 土師器出土重量分布図
- 図版 8 小グリッド別古墳土師器 縄文・弥生土器出土重量分布図
- 図版 9 基本層序
- 図版 10 上層遺構平面割付図 (1/700)
- 図版 11 上層遺構配置図 1
- 図版 12 上層遺構配置図 2
- 図版 13 上層遺構配置図 3
- 図版 14 上層遺構配置図 4
- 図版 15 上層遺構配置図 5
- 図版 16 上層遺構個別図 1 (1/40)
- 図版 17 上層遺構個別図 2 (1/40)
- 図版 18 上層遺構個別図 3 (1/40・1/80)
- 図版 19 上層遺構個別図 4 (1/40・1/80)
- 図版 20 上層遺構個別図 5 (1/40・1/80)
- 図版 21 上層遺構個別図 6 (1/40・1/80)
- 図版 22 上層遺構個別図 7 (1/40・1/80)
- 図版 23 上層遺構個別図 8 (1/40・1/80)
- 図版 24 上層遺構個別図 9 (1/40・1/80)
- 図版 25 上層遺構個別図 10 (1/40・1/80)
- 図版 26 上層遺構個別図 11 (1/40)
- 図版 27 上層遺構個別図 12 (1/40)
- 図版 28 上層遺構個別図 13 (1/40)
- 図版 29 上層遺構個別図 14 (1/40)
- 図版 30 上層遺構個別図 15 (1/40・1/80)
- 図版 31 上層遺構個別図 16 (1/40)
- 図版 32 上層遺構個別図 17 (1/40)
- 図版 33 下層遺構平面割付図 (1/700)
- 図版 34 下層遺構配置図 1
- 図版 35 下層遺構配置図 2
- 図版 36 下層遺構個別図 1 (1/40)
- 図版 37 下層遺構配置図 3
- 図版 38 下層遺構個別図 2 (1/40)
- 図版 39 下層遺構配置図 4
- 図版 40 下層遺構個別図 3 (1/40)
- 図版 41 下層遺構個別図 4 (1/40)
- 図版 42 下層遺構配置図 5
- 図版 43 下層遺構個別図 5 (1/40)
- 図版 44 遺物実測図 1 上層遺構出土土器 (SI246・SI307・SB2001・SB2003・SB2004)
- 図版 45 遺物実測図 2 上層遺構出土土器 (SB2004・SB2005・SB2006・SB2009・SK183・SK185)
- 図版 46 遺物実測図 3 上層遺構出土土器 (SK243・SK650・SK825・SK923・SX71)
- 図版 47 遺物実測図 4 上層遺構出土土器 (SX71・SX100・SX573・SX605・SX867)
- 図版 48 遺物実測図 5 上層遺構出土土器 (SX867・P21・P104・P153・P200・P332・P402・P440・P725・P908)
- 図版 49 遺物実測図 6 下層遺構出土土器 (SK20・SK689・SK936)
- 図版 50 遺物実測図 7 下層遺構出土土器 (SK942・SD108・SD109)
- 図版 51 遺物実測図 8 下層遺構出土土器 (SD110・SD111・SD868・SD925・SD984・SX97)
- 図版 52 遺物実測図 9 下層遺構出土土器 (SX97・SX870・SX946・P933・P1050) 包含層出土土器 (奈良・平安時代 1)
- 図版 53 遺物実測図 10 包含層出土土器 (奈良・平安時代 2)
- 図版 54 遺物実測図 11 包含層出土土器 (奈良・平安時代 3)
- 図版 55 遺物実測図 12 包含層出土土器 (奈良・平安時代 4)
- 図版 56 遺物実測図 13 包含層出土土器 (奈良・平安時代 5)
- 図版 57 遺物実測図 14 包含層出土土器 (奈良・平安時代 6)
- 図版 58 遺物実測図 15 包含層出土土器 (奈良・平安時代 7)
- 図版 59 遺物実測図 16 包含層出土土器 (奈良・平安時代 8)
- 図版 60 遺物実測図 17 包含層出土土器 (古墳時代 1)
- 図版 61 遺物実測図 18 包含層出土土器 (古墳時代 2)
- 図版 62 遺物実測図 19 包含層出土土器 (古墳時代 3)
- 図版 63 遺物実測図 20 包含層出土土器 (古墳時代 4)
- 図版 64 遺物実測図 21 包含層出土土器 (古墳時代 5)
- 図版 65 遺物実測図 22 包含層出土土器 (古墳時代 6)
- 図版 66 遺物実測図 23 包含層出土土器 (古墳時代 7 縄文・弥生時代 1)
- 図版 67 遺物実測図 24 包含層出土土器 (縄文・弥生時代 2) 土製品 石器 1
- 図版 68 遺物実測図 25 石器 2 石製品 1
- 図版 69 遺物実測図 26 石製品 2 鍛冶関連遺物 木製品
- 図版 70 遺物実測図 27 金属製品

## 写真図版目次

写真図版 1	四十石遺跡周辺空中写真 1 米軍撮影1948年	SB2007-P583 土層断面	SB2007-P583 完掘状況
写真図版 2	四十石遺跡周辺空中写真 2 四十石遺跡周辺空中写真 3	写真図版 17	SB2007-P651 土層断面 SB2007-P651 完掘状況 SB2007-P652 土層断面
写真図版 3	調査区全景 上層遺構検出状況	SB2007-P652 完掘状況	SB2008-P95 土層断面 SB2008-P95 完掘状況 SB2008-P96 土層断面 SB2008-P96 完掘状況
写真図版 4	SI246 完掘状況 SI307 完掘状況	写真図版 18	SB2009-P163 土層断面 SB2009-P163 完掘状況 SB2009-P202 土層断面 SB2009-P202 完掘状況 SB2009-P232 土層断面 SB2009-P232 完掘状況 SB2009-P323 土層断面 SB2009-P323 完掘状況
写真図版 5	SB2004・SB2005 完掘状況 SB2006 完掘状況	写真図版 19	SB2009-P392 土層断面 SB2009-P392 完掘状況 SB2009-P528 土層断面 SB2009-P528 完掘状況 SK203 土層断面 SK203 完掘状況 SK336 土層断面 SK336 完掘状況
写真図版 6	SX71 完掘状況 SX71 出土遺物	写真図版 20	SK399 土層断面 SK399 完掘状況 SK441 土層断面 SK441 完掘状況 SK481 土層断面 SK481 完掘状況 SK564 土層断面 SK564 完掘状況
写真図版 7	SB2001 完掘状況 下層遺構空中写真	写真図版 21	SK596・SK597 土層断面 SK596・SK597 完掘状況 SK641 土層断面 SK641 完掘状況 SK650 土層断面 SK650 完掘状況 SK815 土層断面 SK815 完掘状況
写真図版 8	下層遺構完掘状況 1 下層遺構完掘状況 2	写真図版 22	SK825 土層断面 (A-A'・B-B') SK825 完掘状況 SK919 土層断面 SK912 土層断面 SK912 完掘状況 SK923 土層断面 SK923 完掘状況
写真図版 9	基本層序調査区南壁 基本層序 (A・B・C・D・E・F・G)	写真図版 23	SK935 土層断面 SK935 完掘状況 SK939 土層断面 SK939 完掘状況 SK947 土層断面 SK947 完掘状況 SK948 土層断面 SK948 完掘状況
写真図版 10	SI246 プラン検出状況 SI246 完掘状況 SI246 土層断面 (C-C'・D-D') SI246 カマド土層断面 (A-A'・B-B') SI246-P499 土層断面 SI246-P499 完掘状況	写真図版 24	SK950 土層断面 SK950 完掘状況 SK1006 土層断面 SK1006 完掘状況 SK1023 土層断面 SK1023 完掘状況 SD61・SD62・SD63・SD70・SD106 完掘状況 SD61・P65 土層断面 (D-D')
写真図版 11	SI246-P548 土層断面 SI246-P548 完掘状況 SI246-SK561 土層断面 SI246-SK561 完掘状況 SI307・SB2002・SB2003 完掘状況 SI307 土層断面 (C-C'・D-D') SI307-P828 土層断面	写真図版 25	SD62 土層断面 (C-C') SD63・P81 土層断面 (E-E') SD70 土層断面 (A-A') SD106 土層断面 (B-B') SD64 土層断面 SD64 完掘状況 SD493 土層断面 (A-A') SD493 土層断面 (B-B')
写真図版 12	SI307 カマド A-A' 周辺遺物出土状況 SI307 カマド A-A' SB2001 完掘状況 SB2001-P43 土層断面 SB2001-P44 土層断面 SB2001-P46 土層断面 SB2001-P49 土層断面 SB2001-P50 土層断面	写真図版 26	SD493 完掘状況 SD1009 完掘状況 SD538 土層断面 SD538 完掘状況 SD539 土層断面 SD539 完掘状況 SD747 土層断面
写真図版 13	SB2001-P52 土層断面 SB2001-P53 土層断面 SB2001-P54 土層断面 SB2001-P57 土層断面 SB2002 完掘状況 SB2002-P98 土層断面 SB2002-P122 土層断面 SB2002-P147 土層断面		
写真図版 14	SB2002-P155 土層断面 SB2002-P245 土層断面 SB2002-P301 土層断面 SB2002-P529 土層断面 SB2002-P921 土層断面 SB2002-P922 土層断面 SB2003-P99 土層断面 SB2003-P113 土層断面		
写真図版 15	SB2003-P119 土層断面 SB2003-P123 土層断面 SB2003-P128 完掘状況 SB2003-P130 土層断面 SB2003-P310 土層断面 SB2003-P524 土層断面 SB2004・SB2005・SB2006 完掘状況 SB2005・SB2006 完掘状況		
写真図版 16	SB2004-P309 土層断面 SB2005-P834 土層断面 SB2005-P835 土層断面 SB2006-P833 土層断面 SB2007-P574 土層断面 SB2007-P574 完掘状況		



	面 SD747 完掘状況	写真図版 39	調査の経過 1 (2009.2.13) 調査経過 2 (2009.3.10) 調査経過 3 (2009.5.13) 調査経過 4 (2009.6.23) 調査経過 5 (2009.9.2) 調査経過 6 (2009.12.2) 調査経過 7(2009.12.8) 調査経過 8(2010.2.16)
写真図版 27	SD962 土層断面 SD962 完掘状況 SA3001 完掘状況 SA3001-P388 完掘状況 SA3001-P516 土層断面 SA3001-P516 完掘状況 SX59 土層断面 SX59 完掘状況	写真図版 40	土器 1 (上層遺構- SI246・SI307・SB2001・SB2003・SB2004)
写真図版 28	SX71 完掘状況 SX71 土層断面 (A-A'・C-C'・D-D') SX71・P643 土層断面 (B-B') SX71 遺物出土状況	写真図版 41	土器 2 (上層遺構- SB2005・SB2006・SB2009・SK183・SK185・SK243)
写真図版 29	SX100 土層断面 SX100 遺物出土状況 SX478 土層断面 SX478 完掘状況 SX541・P560 土層断面 SX541・P560 完掘状況 SX573 土層断面 SX573 完掘状況	写真図版 42	土器 3 (上層遺構- SK650・SK825・SK923・SX71・SX100)
写真図版 30	SX605 土層断面 SX605 完掘状況 SX867 土層断面 SX867 完掘状況 SX926 土層断面 SX926 完掘状況	写真図版 43	土器 4 (上層遺構- SX100・SX573・SX605・SX867・P21・P104・P126)
写真図版 31	SX961 土層断面 SX961 完掘状況 SX71・P643 土層断面 (B-B') P643 完掘状況 P826 土層断面 P826 完掘状況 P905 土層断面 P905 完掘状況	写真図版 44	土器 5 (上層遺構- P153・P200・P332・P402・P440・P725・P908 下層遺構- SK20・SK689・SK936)
写真図版 32	SK19 土層断面 SK19 完掘状況 SK20 土層断面 SK20 完掘状況 SK689 土層断面 SK689 完掘状況 SK936 土層断面 SK936 完掘状況	写真図版 45	土器 6 (下層遺構- SK936・SK942・SD108・SD109・SD110・SD111・SD868・SD925)
写真図版 33	SK942 土層断面 SK942 完掘状況 SD 全景完掘状況 SD109 土層断面 (A-A'・B-B')	写真図版 46	土器 7 (下層遺構- SD984・SX97・SX870・SX946・P933・P1050, 包含層-奈良・平安時代)
写真図版 34	SD109 土層断面 (C-C'・D-D'・E-E'・F-F') SD110 土層断面 (A-A'・B-B'・C-C'・D-D')	写真図版 47	土器 8 (包含層-奈良・平安時代)
写真図版 35	SD110 土層断面 (E-E'・F-F') SD111 土層断面 (B-B') SD111 完掘状況 SD868 土層断面 (A-A') SD871 完掘状況 SD871 土層断面 (A-A'・B-B')	写真図版 48	土器 9 (包含層-奈良・平安時代)
写真図版 36	SD925 土層断面 (A-A'・B-B'・C-C'・D-D') SD984 土層断面 (A-A'・B-B'・C-C'・D-D')	写真図版 49	土器 10 (包含層-奈良・平安時代)
写真図版 37	SD984 土層断面 (E-E') SD1000 土層断面 (A-A') SD1021 土層断面 (A-A'・B-B'・C-C'・D-D') SD1051 土層断面 SD1052 土層断面	写真図版 50	土器 11 (包含層-奈良・平安時代)
写真図版 38	SX97 遺物出土状況 SX870 土層断面 SX870 完掘状況 SX953・P977 土層断面 SX953・P977 完掘状況 SX960 土層断面 SX960 完掘状況	写真図版 51	土器 12 (包含層-奈良・平安時代)
		写真図版 52	土器 13 (包含層-奈良・平安時代 古墳時代)
		写真図版 53	土器 14 (包含層-古墳時代)
		写真図版 54	土器 15 (包含層-古墳時代)
		写真図版 55	土器 16 (包含層-古墳時代)
		写真図版 56	土器 17 (包含層-古墳時代)
		写真図版 57	土器 18 (包含層-古墳時代 弥生土器 縄文土器)
		写真図版 58	土製品・石器・石製品 1
		写真図版 59	石製品 2・鍛冶関連遺物・木製品
		写真図版 60	金属製品



# 第 I 章 序 説

## 第 1 節 遺 跡 概 観

四十石遺跡は新潟市西区東山字四十石 123 番地 1 ほかに所在する。このあたりは赤塚地区とよばれ、かつては砂丘地と水田を風景とした農村部であった。砂丘や河川沿いに細長く形成された集落は、標高 1m に満たない低湿な土地での土地利用の様子を示しており、古代以来変らない。平成になり、遺跡の南方、約 1.4km にある越後赤塚駅周辺で住宅開発が急速に進むと、市内中心部のベッドタウンとしての顔をもつようになるが、周辺の田園風景はそのままである。

遺跡は西側に存在する砂丘と東側を流れる西川に挟まれた平坦な水田地にあり、南西に角田山・弥彦山を望む。平成 19（2007）年 11 月の試掘調査で発見され、広大な後背湿地に埋没した砂丘に立地することが確認された。同時に、これまで何人かの研究者によって指摘されてきた未発見の砂丘の存在も証明されることになった〔卜部・高濱 2002、岡本郁 2007〕。そして平成 20・21 年度の本発掘調査により、縄文時代後期～中世（鎌倉時代）の遺跡であり、古墳時代と奈良・平安時代においては一定規模の集落が成立していたことが明らかになった。

## 第 2 節 発掘調査に至る経緯

今回の発掘調査の原因である新埋立処分地整備事業の計画が歴史文化課に知らされたのは、平成 16 年度における開発事業の照会においてであった。当時は事業内容が漠然としており着手時期も確定していないことから、遺跡の有無を確認する試掘調査が必要であるという共通認識をもつにとどまったが、その後計画が具体化する中で廃棄物施設課と歴史文化課との間で協議を行い、同年 11 月 2 日付け新廃第 446 号で新潟市教育委員会教育長（以下、市教育長という）あてに試掘調査の依頼書が提出された。

歴史文化課（市教育長）は、試掘調査の着手報告（平成 19 年 11 月 13 日付け新歴第 5205 号の 2）を新潟県教育委員会教育長（以下、県教育長という）あてに提出し、同年 11 月 13 日～ 19 日の 5 日間試掘調査を行った（第 1 次調査）。その調査では古墳時代と古代の遺物が確認され、終了報告（県教育長あて、平成 19 年 11 月 30 日付け新歴第 5205 号の 3）・埋蔵文化財発見通知（県教育長あて、平成 19 年 11 月 30 日付け新歴第 5205 号の 5）・埋蔵文化財保管証（新潟西警察署長あて、平成 19 年 11 月 30 日付け新歴第 5205 号の 6）とともに、新遺跡の発見届（県教育長あて、平成 19 年 11 月 30 日付け新歴第 5205 号の 7）を提出した。新たに発見された遺跡は「四十石遺跡」と名づけられ、周知化された。

この調査結果を踏まえて、廃棄物施設課と歴史文化課の間で協議が行われた。遺跡は工事範囲の南隅に存在していたが、そこには貯留構造物が設置され地盤改良も行われることから、工事が遺跡にかかる約 5,800m<sup>2</sup>を対象として本発掘調査が実施されることになった。本体工事の工期に余裕がないため、協議では調査期間が問題になったが、調査は平成 21 年中の終了を目標とし、調査対象地以外は調査と並行して本体工事を行うことで合意した。

廃棄物施設課から本発掘調査依頼書（歴史文化課長あて、平成 20 年 7 月 28 日付け新廃施第 280 号）が提出されたが、基盤層が砂という中での鋼矢板打設や暗渠設置はその仕様に多くの課題があり、検討に時間を要した。準備工事発注の見通しがたった翌年 2 月、歴史文化課（市教育長）は、本発掘調査の着手報告（県教育長あて、平成 21 年 2 月 13 日付け新歴第 5113 号の 9）を行い、2 月 16 日から準備工事である鋼矢板打設を開始した。鋼矢板打設・暗渠設置は遺跡内の工事であり、一部遺物包含層を掘り抜くため、職員による立会い調査を行った。

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

新潟市が所在する越後平野は、信濃川・阿賀野川などの河川が土砂を運んでつくり出した沖積平野であり、南西―北東方向に細長く広がっている。その面積は約2,030km<sup>2</sup>で、日本屈指の広さをもつ。東は越後丘陵、南は魚沼丘陵、西は弥彦山地・東頸城丘陵がひかえ、三方を丘陵・山脈が取り囲む。また、北側には新潟砂丘と呼ばれる砂丘列が何本も存在し、排水条件を極めて悪くしている。この平野にみられる地形は上流から扇状地・氾濫原・三角州・海岸低地であるが、市域は海岸低地がほとんどで、河川の洪水が原因でつくられる自然堤防が非常によく発達している。市内を流れる信濃川や中之口川の流域では自然堤防の分布が連続してみられ、それらのあり方から信濃川が西から東へ徐々に移動した可能性が考えられている。これに対し、阿賀野川の下流域では、乱流・蛇行の痕跡を留める自然堤防が多くみられ、複雑に発達している様子が窺われる。これらの自然堤防は後背湿地を取り囲んで湖沼群を多く残し、潟が散在する広大な低湿地帯となった。

越後平野の海岸側に発達している新潟砂丘は、10列もの砂丘が海岸線にほぼ平行していることを特徴としており、沖積世(約1万年前以降)に形成された新砂丘からなっているという点で、日本海側でみられる他の砂丘とは構造を異にする。これらの砂丘は内陸側から順次形成されたことが指摘されており、大きく3群に分けられ、古いほうから新砂丘Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと呼ばれている。さらに細別されるが、阿賀野川・信濃川で分断される砂丘の細かい対比がされていないため、阿賀野川以北では数字、阿賀野川―信濃川間では地名の砂丘列名、信濃川以西ではアルファベットで記されることが多い。新砂丘Ⅰは最も内側に分布する砂丘列で、阿賀野川以北および阿



第1図 四石遺跡周辺の地形『アーバンクボタ No.17』1979 (p13) を一部改変

賀野川－信濃川間で4列（市域では3列）、信濃川以西で6列ある。新砂丘Ⅱは新砂丘Ⅰより海側にあり、4列ある。海岸に近い砂丘は、新砂丘Ⅲの下に埋もれているものもある。新砂丘Ⅲは海岸に沿ってみられる規模の大きな砂丘で、現在の海岸砂丘にあたる。形成年代は、新砂丘Ⅰが約6,000年前以降、新砂丘Ⅱが約4,000年前以降、新砂丘Ⅲが約1,700年前以降といわれている。

四十石遺跡は越後平野のほぼ中央の海岸寄りに位置する。南西に角田山・弥彦山を望み、東には西川が流れる。西には規模の大きな新砂丘Ⅲと部分的に新砂丘Ⅲの下に埋もれた新砂丘Ⅱがあり、さらにその南側に新砂丘Ⅰが存在する。また、北東の低地部には、新砂丘Ⅰの残丘とも推定される緒立・的場や六地山の砂丘がある。このあたりは広大な低地帯となっており、近くには六字潟・早潟・乳潟などの潟があった。本遺跡は埋没砂丘に立地するが、遺跡のすぐ西側に小規模な帯状の砂丘も確認されており、ともに新砂丘Ⅰに属すると考えられる。

## 第2節 周辺の遺跡

四十石遺跡が存在する越後平野は約12,000年前以降に形成された平野であり、そこに旧石器時代の遺跡は存在しない。角田山南麓の台地にあるケカチ堂遺跡〔小野1994a〕で旧石器時代末期の石器が出土したといわれているが、詳細は不明である。

縄文時代の草創期・早期の遺跡は角田山山麓の台地でわずかにみられるが、痕跡は石器を中心とした遺物のみである。御手洗山遺跡や福井遺跡〔小野1994b〕などがある。前期になると海岸部への進出が本格化し、新砂丘Ⅰ－a（布目砂丘）に存在する布目遺跡〔小野・小熊1987〕のような集落がみられる。しかし、集落の立地は台地が中心で、角田山山麓においては前期から後期にかけて、低い台地から高い台地へという変化がみられる。低位台地の豊原遺跡〔小野・前山<sup>ほか</sup>1988〕・重稲場遺跡〔前山1994b〕や同標高の扇状地にある新谷遺跡〔前山1994a〕、高位台地の大沢遺跡〔甘粕・古川<sup>ほか</sup>1981、小野<sup>ほか</sup>1982〕・上原遺跡〔上原1971〕は、その代表的な集落遺跡である。そして、周辺の砂丘はキャンプ地や短期間の居住地として利用されるようになる。砂丘に存在する大藪遺跡〔新潟市史編さん原始古代中世史部会1994〕・北浦原A遺跡〔同〕では、石鎌などの狩猟具が一定量出土するがほとんどなく、その性格を表している。後期に入って減少する遺跡数は晩期になるとさらに減少し、低地に立地する集落遺跡がみられる。木柱群や貯木場が検出された御井戸A遺跡〔前山1994c〕や祭祀行為の痕跡が確認された緒立遺跡〔金子<sup>ほか</sup>1983〕などがある。

弥生時代の遺跡は市域でも少ないが、四十石遺跡付近では、北東8kmに前期の緒立遺跡、同3kmに後期の六地山遺跡〔寺村1960、中村1960〕がある。どちらも砂丘に立地する遺跡である。緒立遺跡は縄文晩期から続く遺跡であるが、弥生時代には再埋葬がつくられたと考えられている。加工人骨・抜歯痕の残る顎骨や人面付土器などが出土している。六地山遺跡では東北系土器と北陸系土器が共伴し、この時期の越後平野の特徴を表している。

古墳時代の遺跡は多く、古墳とそれに関係した集落遺跡がみられる。四十石遺跡周辺では、角田山山麓に山谷古墳〔甘粕・小野1993〕・菖蒲塚古墳〔相田・前山2003・2005〕と御井戸B遺跡〔前山・相田2003・2004〕・南赤坂遺跡〔前山・相田2002〕、信濃川河口付近に緒立八幡宮古墳（緒立A遺跡）〔吉田<sup>ほか</sup>1982〕と緒立B〔金子<sup>ほか</sup>1983〕・緒立C〔渡邊ま1994〕遺跡がある。南赤坂遺跡では続縄文土器が出土しており、海を介して北陸地方と東北地方を結ぶ交流が行われていたことが窺われる。市内の集落遺跡の多くは中期あるいは中期後半以降衰え、四十石遺跡を含む周辺の遺跡でも同様の様相がみられる。

飛鳥・奈良・平安時代は、遺跡が沖積地の微高地に多くみられる。飛鳥時代に大島橋遺跡〔春日2000、新潟市国際文化部歴史文化課2007〕や奈良時代の初めに茶院遺跡〔家田<sup>ほか</sup>1976、新潟市国際文化部歴史文化課2007〕が出現する。どちらも内陸の微高地に存在しており、四十石遺跡を含めて低地の利用が早くから行われていたことがわかる。やや遅れて出現する緒立C遺跡〔渡邊ま1994〕・的場遺跡〔小池邦<sup>ほか</sup>1993〕は官衙関連遺跡とされ

るが、やはり信濃川河口に近い低地の微高地（砂丘）にあり、律令国家の意図がみえる。9世紀以降低地の遺跡はさらに増えるが、開墾を目的とした地方有力者の動きが活発になったためであろう。四十石遺跡周辺では、低地の遺跡は発見されていないが、すぐ近くの砂丘上に遺跡が集中しており、前田遺跡〔廣野2000〕や坂田遺跡〔新潟市史編さん原始古代中世史部会1994〕、製塩を行っていた大藪遺跡のような大規模な遺跡が並ぶ。また、角田山麓の東側には、須恵器窯である重稲場窯跡〔山口1994・春日2000〕・前平野窯跡〔同〕などの生産遺跡もあり、律令体制におかれた地方の様子が窺える。

10世紀半ば以降人々の動きは遺跡にみられなくなるが、鎌倉時代になると再び現れる。四十石遺跡の周辺では、やはり赤塚地区の砂丘上に集中しているが、四十石遺跡のすぐ近くに古銭を出土したとされる伝念野毛遺跡や木山水田中古銭出土地があり、周辺に未発見の集落遺跡が存在する可能性がある。

## 第3節 歴史的環境

日本は後期旧石器時代（約30,000年前）大陸と陸続きであった可能性が高い。後期旧石器時代以前の遺跡が発見される例は全国的に増えてきているが、県内においてはまだ知られていない。市域では20,000～15,000年前にナイフ形石器や尖頭器（槍）を使う人々が、新津丘陵や角田山麓の台地で狩猟と採集の生活をしていたと思われる。

縄文時代が始まる約12,000年前ころ、氷河期が終わって気候が温暖になると、徐々に解けた氷河の水が海面を100m以上も上昇させた。日本は大陸から完全に離れた列島となり、越後平野あたりは角田山・弥彦山が半島のように突き出た湾となった。四十石遺跡周辺における縄文時代草創期・早期の人々の動きは不明であるが、前期前葉には角田山麓で定住集落が成立する。市域における縄文時代の遺跡は日本海側の特徴をもっており、海岸部の人々は日本海・内水面を舞台とした交流を行っていたと考えられる。

弥生時代の幕開けは、縄文時代晩期に北九州で成立した稲作と金属器の使用に始まるが、新潟市では稲作特有の農具が前期ではまだ使用されておらず、土器にも弥生文化を示す急激な変化はみられない。しかし、後期の六地山遺跡出土の弥生土器に籾殻痕がみられることからこのころには周辺でも稲作が行われていた可能性がある。弥生時代後期になると西日本で高地性集落が盛んにつくられるが、それは中国の史書『魏志』倭人伝にある2世紀後半の「倭国大乱」と結びつく様相と言われている。この戦乱との関わりは不明であるが、越後平野周辺では後期末になると丘陵に多くの高地性集落が出現し、最終末に一斉に消える。そして、前期古墳はその高地性集落と同じ分布を示すことから、この地域に大きな歴史的変化があったことが窺われる。

越後平野につくられた前期古墳の主（首長）は一定の領域を支配していたと考えられ、市域ではその領域が角田・弥彦山麓、新津丘陵北部、信濃川河口付近の海岸平野部と捉えられる。これらの地域は北進する古墳文化の前線拠点でもあり、また南下する北方文化受け入れの地でもあった。ヤマト王権にとって勢力拡大のための重要な役割を担っていたと考えられる。しかし、5世紀の倭の五王の時代になると、王権支配が各地に広がっていく中で前線は東に移り、前期でみられた日本海ルートは衰えていったと思われる。

『先代旧事本紀』（年代不詳）収録の「国造本紀」に高志深江国造の名があり、彼は6世紀半ばから7世紀後半にかけて実在した国造のひとりであると考えられている。後の古志郡・蒲原郡・沼垂郡・磐船郡の広い地域を支配していたと推測される。この越（高志）が越前・越中・越後に分割されるのは7世紀末とされる（『日本書紀』）。このとき越後国は沼垂郡・磐船郡と北の出羽地方を含む範囲であり、阿賀野川以西の現新潟市域を含む蒲原郡は越中国に属していたが、その後、2回（702年・708年）の再編成により、頸城郡・古志郡・魚沼郡・蒲原郡・沼垂郡・磐船郡が越後国として確定した。当時の地方組織は、国一郡一里（郷）で構成されており、郡司や里（郷）長は地方の豪族や氏族が任命された。四十石遺跡が存在する蒲原郡の豪族・氏族に関する史料は少ない。長岡市（旧和島村）八幡林遺跡の木簡にみる「高志君」や『後日本紀』にみられる「三宅連」などわずかである。現





四十石遺跡は 17

第2図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図1 (旧石器・縄文・弥生時代)





国土地理院 新潟・新潟・内野・弥彦 1/50,000 → 1/100,000 一部修正

四十石遺跡は 17

第3図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図2（古墳時代）



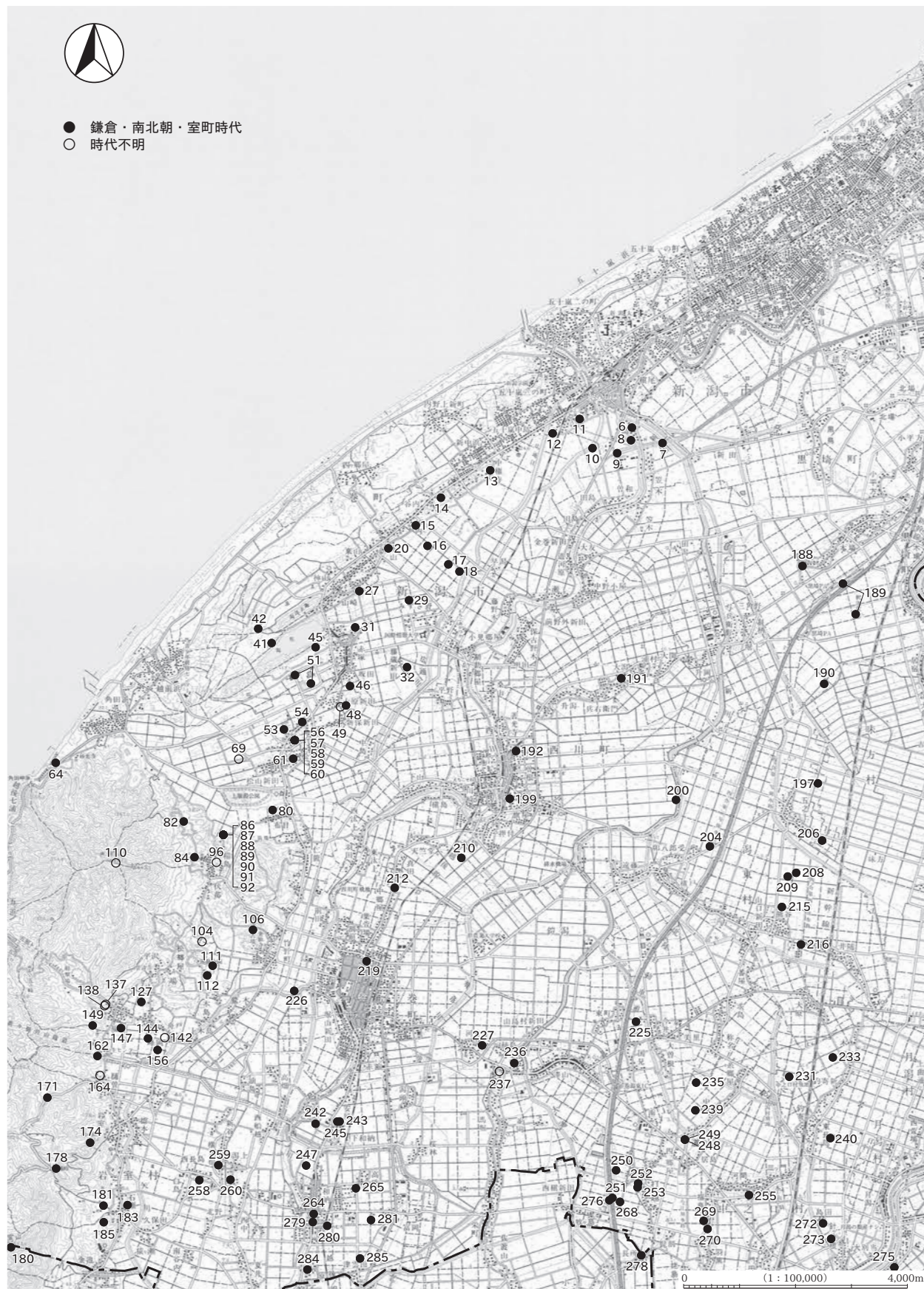


国土地理院 新潟・新津・内野・弥彦 1/50,000 → 1/100,000 一部修正

四十石遺跡は 17

第4図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図3(飛鳥・奈良・平安時代)





国土地理院 新潟・新潟・内野・弥彦 1/50,000 → 1/100,000 一部修正

四十石遺跡は 17

第5図 四十石遺跡周辺の遺跡分布図4（鎌倉・南北朝・室町時代・時代不明）



第1表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	的場	49	山田屋敷塚	97	久保	143	福井	191	西川大閘館跡
2	緒立 (A)	50	原付	98	北赤坂	144	下町	192	太田
3	緒立 (C)	51	南浦原	99	下田	145	中島	193	中才
4	緒立城館跡	52	清水上	100	上ん原 B	146	舟山神社 A・B	194	三町歩
5	緒立 (B)	53	兵衛塚	101	上ん原	147	御井戸 B	195	五之上曾根上
6	高山	54	興業古墓	102	上ん原 C	148	御井戸 A	196	味方曾根下
7	高山前田	55	下稲塚	103	中田割	149	山谷古墳	197	ブギリ
8	高山西	56	浦稲場 1 号塚	104	伏部道下	150	山谷	198	弥左エ門
9	沢田	57	浦稲場 2 号塚	105	南赤坂	151	神明社	199	松崎屋敷
10	六地山	58	浦稲場 3 号塚	106	馬塚 (観音塚)	152	新谷	200	長湯
11	内野湯端 A	59	浦稲場 4 号塚	107	前平野須志器窯跡	153	平田	201	土手内
12	内野湯端 B	60	浦稲場 5 号塚			154	堰場 A	202	漕上り
13	道下	61	散布地	108	菖蒲塚古墳・ 隼人塚古墳・ 菖蒲塚古墳経塚	155	クリヤ湯	203	浦田
14	尼池	62	坊主田			156	舟戸上田 B	204	二丁下
15	茨曾根	63	代官屋敷	109	蔵王	157	高島	205	樋切
16	伝念野毛	64	銭原	110	長者塚	158	桜田	206	芋畑
17	四石	65	定口	111	下城跡	159	水渡	207	骨田
18	木山水田中古銭出土地	66	長道	112	上城跡	160	干納	208	与平湯
19	木山墓所	67	イタチハラ	113	天神 B	161	観音山古墳	209	六十歩下
20	木山	68	権作	114	天神 C	162	ハザマ	210	元官
21	ツル子 C	69	新次郎江	115	天神 A	163	稲場	211	なえびき橋
22	神山	70	一の沢	116	久保田	164	樋首道下	212	真田
23	庚塚	71	二の沢	117	重稲場	165	猿田今山官	213	大島橋
24	ヤマサキ	72	山の奥	118	重稲場窯跡	166	猿田	214	四ッ割
25	茶畑	73	諏訪山	119	釜の口	167	離山	215	三條田
26	屋敷添	74	上堰湯 A	120	松郷屋	168	七十刈	216	長湯
27	前田	75	上堰湯湖底	121	萱場	169	堰場 B	217	西前田
28	屋敷浦	76	上堰湯 B	122	上田	170	豊原	218	沼下
29	山崎水田中古銭出土地	77	向上堰	123	諏訪神社境内	171	御羽黒塚塚	219	巻館跡
30	観音原	78	タテ	124	山の上	172	羽黒社	220	千日
31	大藪	79	さかしの	125	御手洗山	173	甫ヶ谷	221	烏瀬瀬
32	藤蔵新田	80	布目館跡	126	峰岡上町	174	松崎山城跡	222	本田
33	ツル子 B	81	布目	127	ヤチ	175	岩室神明社	223	浦 (A)
34	吹荒地	82	大沢	128	大間湯	176	筑越	224	林付
35	ツル子 A	83	山王	129	片平	177	一本杉	225	家掛
36	荒所 B	84	上の原	130	ケカチ堂	178	天神山城跡	226	石塔島
37	赤塚神明社	85	酒の沢 B	131	桜本	179	岩ヶ谷	227	河井前
38	荒所 A	86	赤坂 1 号塚	132	茶塚	180	十宝塚	228	浦 (B)
39	病院脇	87	赤坂 2 号塚	133	堂ノ腰 A	181	石瀬岡田東	229	堤
40	上谷内 B	88	赤坂 3 号塚	134	山中	182	浄寺寺跡	230	下新田
41	上谷内 A	89	赤坂 4 号塚	135	山中 B	183	石瀬陣屋跡	231	兵蔵
42	石ナゲ山	90	赤坂 5 号塚	136	大平	184	八田ヶ入	232	六枚田
43	沼	91	赤坂 6 号塚	137	堂ノ腰 B	185	田ノ平	233	長田
44	北浦原 A	92	赤坂 7 号塚	138	福井浦ノ畑	186	石瀬岡田	234	西萱場
45	北浦原 B	93	赤坂	139	番場西	187	青龍寺	235	道上荒田
46	坂田	94	中村	140	番場	188	木場城跡	236	館ノ腰
47	大原	95	前表	141	舟戸下田	189	釈迦堂	237	角兵衛塚
48	山田屋敷	96	源地	142	舟戸上田 A	190	己ノ明	238	高畑
239	伸歩切								
240	本行寺								
241	ハガヤバ								
242	金丸								
243	下和納								
244	おおやさま屋敷								
245	下和納寺跡								
246	住吉神社脇								
247	関ノ内								
248	万坊江								
249	万坊院跡								
250	高六								
251	モスの塚								
252	打越館跡								
253	宇智古志神社								
254	長善寺								
255	河間八幡								
256	長島館跡								
257	早稲田								
258	寺屋敷石塔								
259	長島天神								
260	狐塚								
261	大縄								
262	上町								
263	高橋								
264	水戸下								
265	永安寺の五輪塔群								
266	茶院 A								
267	茶院 B								
268	長所天神								
269	和納八幡前								
270	和納館跡								
271	三田・新谷								
272	南谷内古屋敷								
273	郷屋								
274	原館跡								
275	童子								
276	馬堀荒田								

存する地名と 10 世紀に成立した『延喜式』や『和名類聚抄』に記された神社名や郷名との比定により、郷の位置が推定されているが、それによれば、桜井郷は弘彦村付近、勇礼郷は三条市付近、青海郷は加茂市付近、となるが、小伏郷・日置郷は不明である。しかし、『和名類聚抄』において頸城郡の郷名の記載順が逆時計回りの地域順に列挙されていることから、どちらも阿賀野川以西の新潟市域に存在する可能性がある。古墳分布を参考に小伏郷は旧新津市付近、日置郷は角田山麓北端か旧黒崎町付近という説もある。

天平 15 (743) 年の墾田永年私財法の制定後、有力寺社・貴族による田地の開発が初期荘園を生み地方へ及んだが、越後平野では山寄りにあったことが鶺鴒橋荘・槐田荘の比定地から推測される。そして初期荘園は 10 世紀以降廃絶し、平安末期になると中世に引き継がれる本格的な荘園が多く成立するとともに、国衙領である保も生まれた。蒲原郡の低湿地帯の開墾が困難であったことは想像に難くないが、平成 22 年に調査された旧湯東村の林付遺跡で「川合庄」と書かれた墨書土器が出土しており、当時の低地への進出の様子を垣間みることができる。

## 第Ⅲ章 調査の概要

### 第1節 試掘調査

#### A 調査方法と経過

試掘調査（第1次調査）は、（仮称）新赤塚埋立処分地整備工事の予定地約 142,000m<sup>2</sup>を対象に平成 19 年 11 月 13 日～ 19 日の 5 日間実施された。対象地は休耕地となっており、92 か所に試掘坑をいれた。試掘調査総面積は 441.6m<sup>2</sup>である。

調査はバックホウで少しずつ掘り下げながら遺物・遺構の有無を確認する予定であったが、掘削がⅥ層（黒色砂質土）～Ⅷ層（暗黄灰色砂）に及ぶところでは湧水による試掘坑壁の崩落が著しく、遺構検出面の精査作業が困難となった。そのため、作業は土層堆積状況および遺物包含層の確認のみとなり、新発見となった遺跡と砂丘の範囲の把握を重点的に行った。土層記録は、各試掘坑の地表面の標高を調査対象地東隅の道路標高から算出し、それを基準とした。

砂丘と認定する「黒砂」層（Ⅵ・Ⅶ層）は 27 か所で確認され、2 つの砂丘があることがわかった。調査範囲が狭いため確定的なことはいえないが、砂丘は概ね北東－南西方向に帯状に延び、海岸線にほぼ平行する。このうち東側の砂丘で、7 か所の試掘坑（69T・70T・71T・74T・82T・83T・84T）から奈良・平安時代と古墳時代の遺物が出土した。これらのほとんどがⅥ層から出土しており遺物包含層と認識されたが、Ⅴ層で遺物が確認された試掘坑が 1 か所（70T）あったことから、遺構確認面が 2 面ある可能性が残った。以上の結果を踏まえ、遺物が確認された東側の砂丘とそれが続くと思われる隣接地を範囲として「四十石」遺跡と名付け周知化した。

#### B 調査体制

調査主体	新潟市教育委員会（佐藤満夫）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 山田一雄 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務局	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査員	調査担当 相田泰臣（新潟市埋蔵文化財センター副主査） 調査員 今井さやか（同副主査）

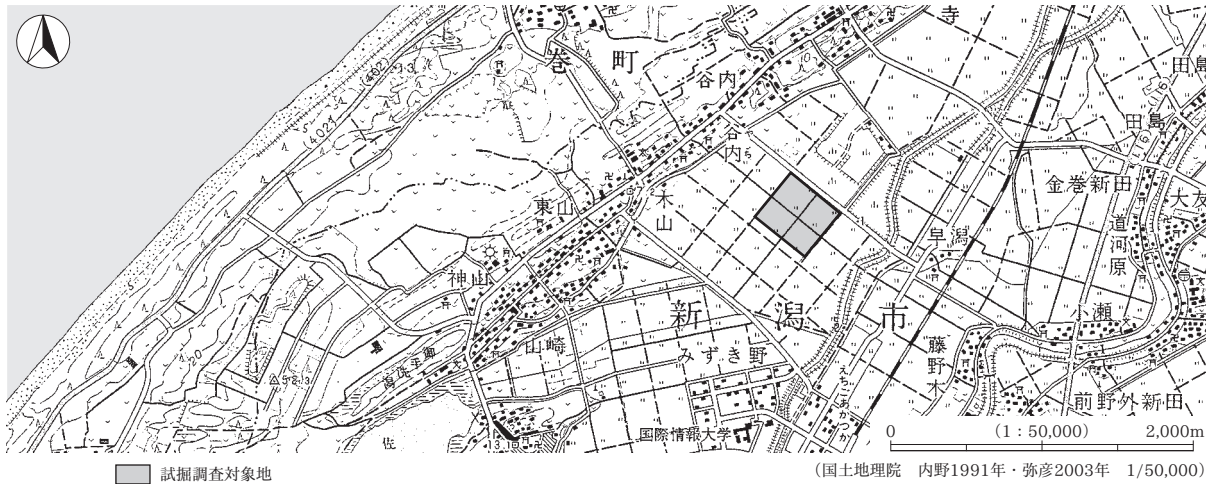
### 第2節 本発掘調査

#### A 調査方法

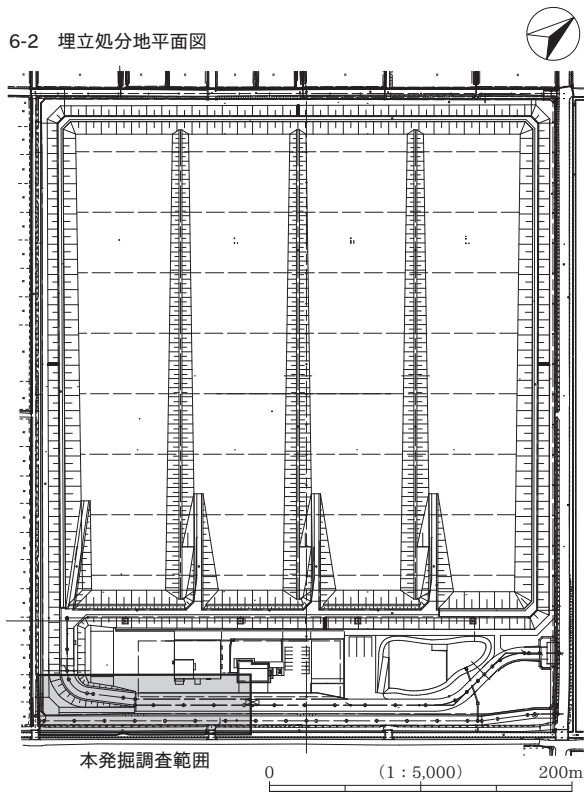
##### 1) グリッドの設定

グリッドは、X座標 +203,070.000m・Y座標 +35,630.000m（世界測地系平面直角座標第Ⅷ系）、緯度 37 度 49 分 45.6 秒・経度 138 度 54 分 17.1 秒とする原点を設定し、それを下に 10m 方眼の大グリッドを組んだ。大グリッドの名称は、北西隅（原点）を「1A」杭として、南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで表した。さらに、その中を 2m 方眼で区切って 25 分割する小グリッドを設定し、「11H9」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。任意の隣り合う 2 つのグリッド杭、9J 杭・10J 杭の座標は、9J 杭が X 座標 +202,990.000m・Y 座標 +35,720.000m、10J 杭が X 座標 +202,980.000m・Y 座標 +35,720.000m であり、10J 杭の座標北は真北に対し 14 分 56 秒東偏、同磁北は真北に対し 7 度 47 分西偏する。

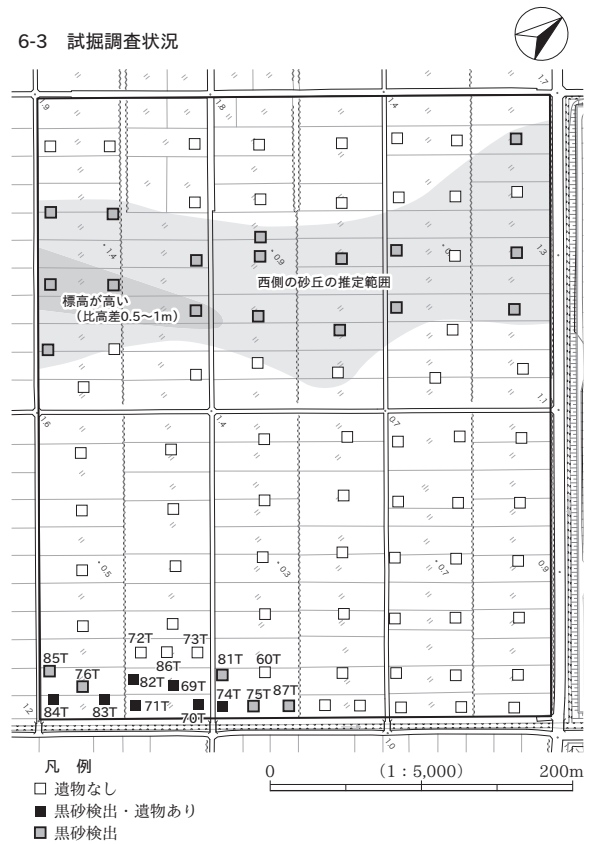
6-1 試掘調査位置図



6-2 埋立処分地平面図

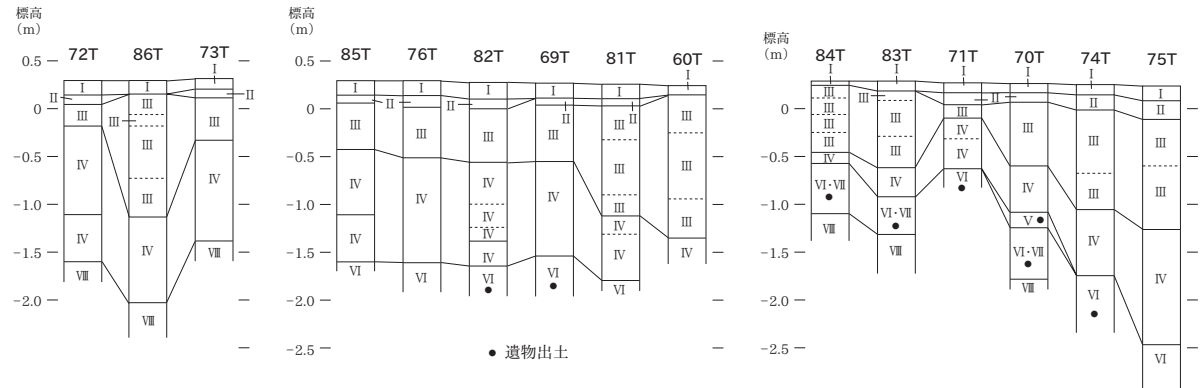


6-3 試掘調査状況



6-4 主要トレンチ柱状図

※土層説明は第IV章参照



第6図 試掘調査の成果と本発掘調査範囲

## 2) 調査の手順と方法

**鋼矢板打設・暗渠設置** 試掘調査結果から掘削が深くなることや湧水が想定されたため、鋼矢板の打設・暗渠の設置工事を行った。調査区の周囲を長さ7.5～8mの鋼矢板で囲み、そのすぐ内側に暗渠を巡らした。暗渠は上面が基盤層（Ⅷ層）上面より低くなるようにしている。南辺については、観察用に通しの基本土層を残すこととし1.5m内側に暗渠を設置した。掘削に伴う暗渠設置工事では職員が立会う中で作業が進められたが、湧水による壁の崩落が著しく、遺物が出土しても正確な地点を確認することが不可能であった。遺物が出土した東辺の暗渠では調査区東角から3mごとに区切った区画で遺物包含層土をあげ、その中から遺物を探すという作業を行った。

**表土剥ぎ** 調査で生じた排土は調査後の埋め戻しに使われることになっていたため、暗渠工事の前に地表から15cmほどの表土を0.7m<sup>3</sup>のバックホウで剥ぎ取り、雑草の除去を行った。暗渠工事終了後、バックホウによる本格的な表土剥ぎを行ったが、Ⅰ～Ⅳ層掘削は、バックホウのアームの届く範囲ごとに地表面から30～40cmの厚さで掘り下げていき、遺物包含層が近づくⅣ層下方ではその単位を数cmに切り替えた。また、遺物が包含層上面に存在することも多く粘性の強いⅣ層に引っ張られる可能性もあるため、Ⅳ層を少し残したところもある。遺物包含層が深くなる北側については、鋼矢板の支持能力の問題や遺構検出面の崩壊に繋がる遺物包含層（砂質土）・地山（砂）の流出があるため、遺物の出土がみられず、傾斜が急激に落ち込んでいくあたりから西側では、Ⅳ層の途中で掘削を止めた。

**包含層掘削・遺構検出・発掘** 人力で行った。包含層は連続した2層（Ⅴ・Ⅵ層）であり、平面的には非常に区別の付きにくい土質であった。場所によって厚さが大きく異なり、地震による乱れもあることから、調査区の短辺に平行したトレンチを5か所に入れた。なおも識別が困難なところについては、遺構検出面の標高に注意しながら、5cm単位で掘り下げていき、遺構プランが確認できた段階で掘削を留めた。遺構確認面の精査で検出された遺構プランは、1/200の略図に記録し、遺構番号を付けた。遺構の発掘においては、半裁して覆土の観察・記録してから完掘を行った。SB2004～2006の大きな柱穴については、一部柱の痕跡を探すために面的に掘り下げたものもある。排土はベルトコンベアを用いて調査区域外に排出した。

**実測・写真撮影** 調査に係る実測・測量はすべて、測量業者に委託した。断面実測は手取り、平面実測はトータルステーションを用いて作業を行った。遺構断面・平面の写真撮影は、調査員が内容によって、デジタル・35mm版・6×7版のカメラおよび白黒フィルム・カラーポジフィルムを適宜選択しながら行った。遺構の全体写真は、測量業者がラジコンヘリコプターにより行った。

**遺物取り上げ** 包含層出土遺物については、小グリッド単位あるいはトータルステーションによる地点測量での取り上げを行った。地点測量での取り上げ番号は、遺構出土遺物は遺構ごとに包含層出土遺物はグリッド関係なく通しにしている。

**自然科学分析** 古環境復元のために植物珪酸体・プラント・オパール・花粉・珪藻・種実の各分析を、また自然堆積層・遺構の年代推定の参考とするためにテフラ検出分析や放射性炭素（<sup>14</sup>C）年代測定を行った。分析は専門業者に委託した。

## B 調査経過

平成21年2月6日から諸準備に入り、2月17日に鋼矢板の打設を開始した。その作業がほぼ終了するとすぐに雑草の除去を行ったが、その作業においてⅡ層下部から、漆器椀1点が出土している（3月10日）。暗渠工事は3月11日に着手した。調査区東角から始め、時計回りに進めたが、溝壁の崩れのために難航し、4月中旬までかかった。包含層の標高が高い地点では水はけが良くなったため、暗渠工事と並行して4月8日からバックホウによるⅠ～Ⅳ層の表土剥ぎを行った。4月6日・7日に調査区南側壁の基本土層の記録をとったが、このころから暗渠に流れ込む水に砂層が引っ張られ、基本土層のあちらこちらで壁の崩落が起こった。また、調査区



西側の地形が落ちていく斜面部分で、地下の砂が流され、たびたび遺構検出面が陥没した。包含層の掘削作業は4月15日に開始した。作業は調査区南側から始めて、遺構検出面の精査を合わせて行った。この段階で、遺構検出面が2面あることが確定したが、調査区南側では上層遺構の検出面が確認できないところもあった。上層遺構の掘削作業は4月20日から行った。規模は小さいながらも官衙的な掘立柱建物やほぼ一条分の腰帯金具を伴う周溝(墓)が検出され、10月1日、奈良大学教授の坂井秀弥氏を現地に招聘し、指導をしていただいた。上層遺構の調査がほぼ終了した9月上旬にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影(9月5日)・高所作業車やローリングタワーによる撮影(9月10日・11日)を行った。9月19日には現地説明会を開催し、150人を超える参加があった。その後、下層遺構の掘削作業を開始したが、下層遺構は長大な溝状遺構が多く、掘削に時間を要した。12月4日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影と高所作業車・ローリングタワーによる撮影を行った。遺構の実測も並行してほぼ終了し、これにて下層の調査は終了となったが、12月7日～14日に基盤層の流出を防ぐために掘削を断念した低地部の北東部分の調査を行った。12月14日に測定の最終確認を行うとともに、機材などの撤収を行った。本発掘調査の最終面積は5,540.1m<sup>2</sup>である。12月15日に開発者側に引渡すと、すぐに埋め戻しが始まった。

この調査では、平成23年の夏にオープンした新潟市文化財センターの展示に活用するために、調査着手から開発側による埋め戻しまでの現場の様子を撮影する「定点撮影」や遺構調査風景のビデオ撮影を行っている。

## C 調査体制

### 平成20年度

調査主体	新潟市教育委員会(教育長 佐藤満夫)
所管課	新潟市歴史文化課(課長 倉地一則 課長補佐 山田一雄 埋蔵文化財係長 渡邊朋和)
事務局	新潟市埋蔵文化財センター(所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和)
調査員	調査担当 渡邊ますみ(新潟市埋蔵文化財センター主査) 調査員 相田泰臣(新潟市埋蔵文化財センター副主査)・池田ひろ子(同専門臨時職員)

### 平成21年度

調査主体	新潟市教育委員会(教育長 鈴木廣志)
所管課	新潟市歴史文化課(課長 倉地一則 課長補佐 頓所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和)
事務局	新潟市埋蔵文化財センター(所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和)
調査員	調査担当 渡邊ますみ(新潟市埋蔵文化財センター主査) 調査員 相田泰臣(新潟市埋蔵文化財センター副主査)・池田ひろ子(同専門臨時職員)

## 第3節 整理作業

### A 作業方法

#### 1) 遺物

試掘調査でコンテナ(内寸54.5×33.6×10.0cm)2箱分、本発掘調査で約125箱分の遺物が出土している。土器が中心であり、他に石器・石製品・土製品・金製品・鍛冶関連遺物などが出土している。

遺物の整理作業は、①洗浄→②注記→③グリッド別・種別の重量・点数計測→④接合→⑤報告書掲載遺物の抽出→⑥実測図・観察表作成→⑦写真撮影の順を基本とし作業を行った。進捗状況によって、作業の順番が逆になったり、並行して行ったりしたものもある。

#### 2) 遺構

現場の測量図はすべて測量業者作成のものであり、トータルステーションで測量した遺構平面図は1/20で出

力したものを校正した。また、手取りの断面図についてはデジタル化し出力したものを校正した。さらに、平面図・断面図の整合については、それぞれ確認した図面を用いて作業を行い、原図と校了図データを残した。現場で撮影した記録写真については、フィルム写真はフィルムの現像・ベタ焼き（ネガフィルムのみ）を行い、アルバムに収めた。デジタル写真は日ごとに整理しハードディスクに保存した。フィルム写真は、画像ごとに露出が適正なコマをデジタル化している。

## B 作業経過

出土遺物の水洗・注記は発掘作業と並行して行い、現場でほぼ終了した。その後の作業については、新潟市埋蔵文化財センターに場所を移して行ったが、現地説明会のために現場で接合までの作業を行ったものもある。また、腰帯金具などの十数点の銅製品については、保存処理を急いだため、発掘作業期間中に実測・写真撮影も行っている。遺構実測図などの測量図は、デジタルデータの出力紙による平面図・断面図の整合の後、掲載遺構の抽出を行い、図面図版・写真図版のレイアウトを行った。遺物は、掲載遺物を抽出後、実測（図化）・写真撮影し、図面図版・写真図版のレイアウトを行った。遺物実測図のトレース・各図版の版下作成はデジタル図化編集業者に委託した。

## C 作業体制

### 平成 21 年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頓所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務担当	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査員	調査担当 渡邊ますみ（新潟市埋蔵文化財センター主査） 調査員 相田泰臣（新潟市埋蔵文化財センター副主査）・池田ひろ子（同専門臨時職員）

### 平成 22 年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市歴史文化課（課長 倉地一則 課長補佐 頓所洋一 埋蔵文化財係長 渡邊朋和）
事務担当	新潟市埋蔵文化財センター（所長 山田光行 埋蔵文化財係長兼主任 渡邊朋和）
調査員	調査担当 渡邊ますみ（新潟市埋蔵文化財センター主査） 調査員 牧野耕作（新潟市埋蔵文化財センター嘱託）

### 平成 23 年度

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 鈴木廣志）
所管課	新潟市文化財センター（所長 高橋保 所長補佐 丸山徳幸 主任 渡邊朋和）
事務担当	同上
調査員	調査担当 渡邊ますみ（新潟市歴史文化課兼文化財センター主査）

## 第Ⅳ章 遺 跡

### 第 1 節 概 要

四十石遺跡は北東－南西方向に走る埋没砂丘上に立地しており、調査区はその北西に位置する。遺構は標高-1.8m 以上の高まりに集中しており、南西側の調査区外に続く。砂の流出による陥没等で検出作業ができなかったことを考慮してもこれより低い地点に遺構が集中する可能性は低いと思われるが、水辺の構築物があった可能性は否定できない。

遺物包含層は連続した上下の 2 層であり、それぞれの下面で遺構が検出される。上層では竪穴住居 2 棟・掘立柱建物 9 棟・土坑 44 基・溝状遺構 16 条・柵列 1 列・不明遺構 10 基・小穴・柱穴（竪穴住居・掘立柱建物の柱穴含む）876 基、下層では土坑 5 基・溝状遺構 13 条・不明遺構 6 基・小穴・柱穴 9 基が確認された。

今回の調査では土器・土製品・石器・石製品・金属製品・木製品・鍛冶関連遺物が出土している。その量はコンテナ（内径 54.5 × 33.6 × 10cm）にして約 125 箱であり、土器が 114 箱を占めるが、時代別でみると縄文土器・弥生土器が 3 箱、古墳時代の土器が 54 箱、奈良・平安時代の土器が 57 箱である。

### 第 2 節 層 序

四十石遺跡の基本層序（図版 9）は、基盤層まで大きく 7 層に分けられるが、高低差があるため、表土が厚く堆積する低地部では層数が多くなっている。また、地震の影響もあり、堆積に乱れもみられる。

包含層はⅤ層とⅥ層である。Ⅴ層からは縄文時代～奈良・平安時代の遺物、Ⅵ層からは縄文時代～古墳時代の遺物が出土しているが、Ⅴ層にみられる遺物には下層から表出した遺物が含まれている。また、Ⅴ層はごく小範囲であるが、地震などによる土壌の流出がみられ、その分層を示した、最下層が基本土層である。遺構確認面はⅥ層上面とⅦ層上面である。ただしⅦ層上面は旧地表面（遺構の掘り込み面）と考えるもので、作業においてはⅦ層を削りこんだところで遺構の検出作業を行っている。Ⅵ層上面で検出される遺構（以下、上層遺構という）は奈良・平安時代の遺構、Ⅶ層上面で検出される遺構（以下、下層遺構という）は縄文時代～古墳時代の遺構と考える。Ⅴ層下面は場所によって削平されているため、上層遺構と下層遺構が同一面で検出されることもある。

- I 層 褐色粘質土（10YR4/4）粘性やや強い。しまり弱い。表土・床土。
- II 層 黒褐色粘質土（10YR2/2）未分解有機物多量含む。粘性やや強い。しまり弱い。
- III a 層 オリーブ黒色粘質土（5Y3/2）未分解有機物含む。粘性強い。しまり弱い。
- III b 層 灰オリーブ粘質土（5Y4/2）未分解有機物含む。粘性強い。しまり弱い。
- III c 層 オリーブ黒色粘質土（5Y3/2）～灰オリーブ粘質土（5Y4/2）黄色粘土ブロック多量含む。未分解有機物含む。粘性強い。しまり弱い。
- IV a 層 灰色粘質土（5Y4/1）未分解有機物含む。粘性強い。しまり弱い。
- IV b 層 灰色粘質土（7.5Y4/1）未分解有機物含む。粘性強い。しまり弱い。
- VI c 層 灰色粘質土（7.5Y4/1）・黒色砂質土（10YR2/1）の混合 未分解有機物含む。粘性弱い。しまりあり。
- V a 層 黒色砂質土（10YR3/1）灰色粘質土（7.5Y4/1）少量～中量混入。炭化物を含む。粘性弱い。しまりやや強い。包含層（上層）。

- V b 層 黒色砂質土 (10YR2/1) 灰色粘質土 (7.5Y4/1) 少量混入。炭化物を含む。粘性弱い。しまりあり。包含層 (上層)。
- V c 層 黒色砂質土 (10Y2/1) 灰色粘質土 (7.5Y4/1) ごく少量混入。炭化物を含む。粘性弱い。しまりあり。包含層 (上層基本土層)。
- VI 層 黒色砂質土 (10YR2/1) ~ (7.5Y2/1) 粘性弱い。炭化物を含む。しまりやや強い。包含層 (下層、上面—遺構確認面)。
- VII 層 黒色砂質土~砂 (10YR2/1)・暗黄灰色砂 (2.5Y4/2) の混合 粘性弱い。しまりやや強い。漸移層 (上面—遺構確認面)。
- VIII 層 暗黄灰色砂 (2.5Y4/2) 粘性弱い。しまりあり。地山。

### 第3節 遺 構

遺構名は、遺構の性格を示す(種別)記号と数字によって付けている。種別記号は竪穴住居—SI、掘立柱建物—SB、土坑—SK、溝状遺構—SD、不明遺構—SX、柱穴・ピット—Pとし、遺構番号は検出順に通して付けている。本来、切り合い関係にある複数の遺構については小さい番号の遺構が新しい遺構となり、下層遺構は大きい番号になるところであるが、プランで新旧関係が不明だった場合や上層・下層遺構が同一面で検出された場合、また誤認があった場合にはその関係が逆になることもある。掘立柱建物や柵列のように複数の遺構によって構成されるものについては、それを表す番号を各遺構番号の頭に付して表記した。本文では、主要遺構について、まず上層遺構を竪穴住居・掘立柱建物・土坑・溝状遺構・柵列・性格不明の順に、次に下層遺構を土坑・溝状遺構・不明遺構の順に記述を行った。各遺構の属性等の情報は別表1に示したが、主軸方位の計測については、竪穴住居・掘立柱建物・溝状遺構・柵列のみにし、それ以外の遺構で長軸が捉えやすいものについては本文中に北—南、西—東、北西—南東、北東—南西の範囲で示した。また、遺構の形状は、平面形が円形・楕円形・方形・隅丸方形・不定形の4種類を、断面形が箱形・台形・皿形・U字形・不定形の5種類を基本として表中に記載したが、判断が難しいものも多い。切り合い関係については、同一検出面における新旧関係を示しており、上層・下層間の関係は省略している。主要遺構以外の遺構についての情報は、項目を絞って表を作成した。なお、本文中の出土遺物の記述においては、図版掲載遺物に報告 No. を付した。

#### A 上 層 遺 構 (奈良・平安時代の遺構)

##### 1) 竪 穴 住 居 (SI)

SI246 (図版13・16、写真図版4・10・11)

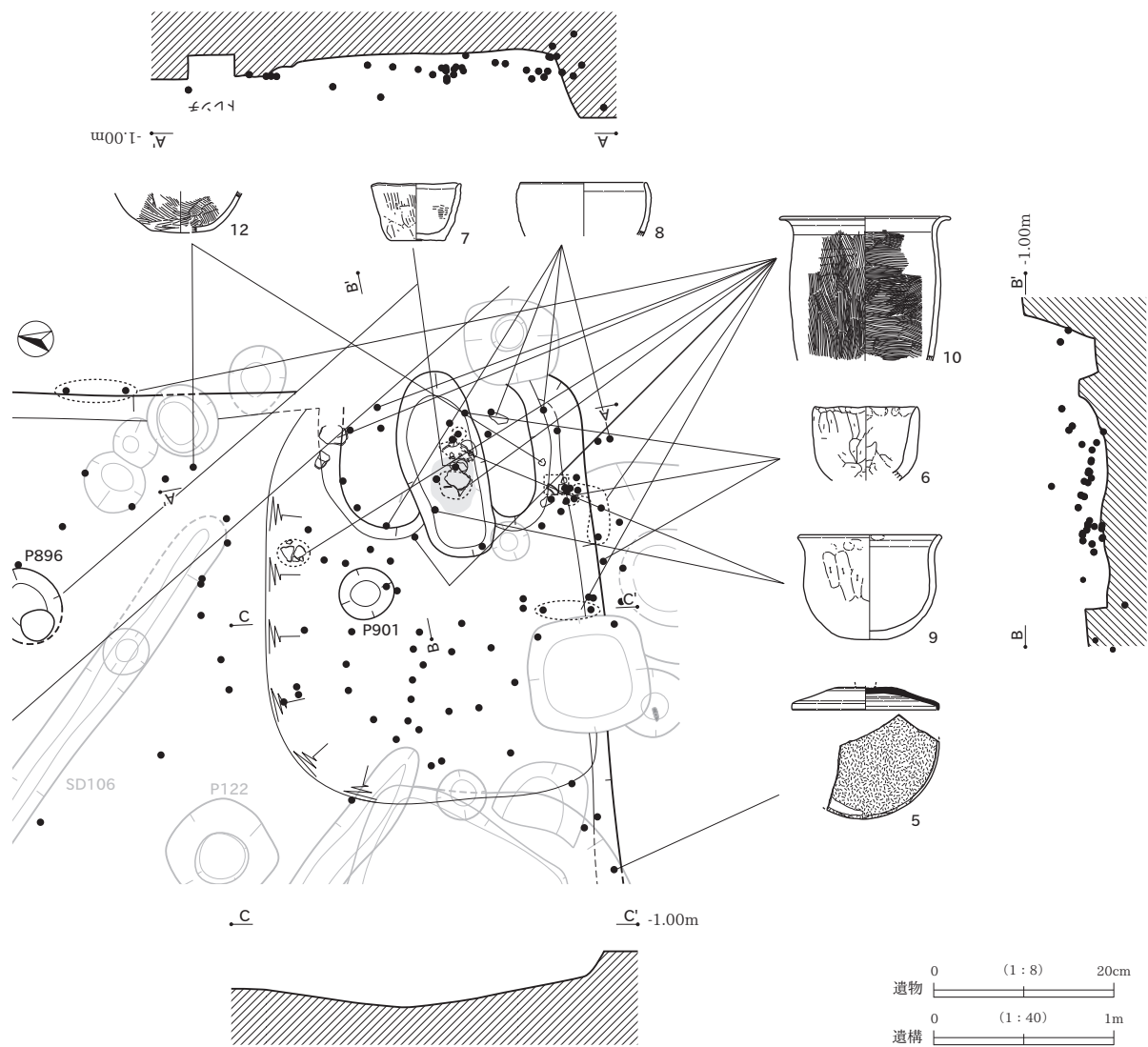
12Hグリッドに存在する方形の竪穴住居である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。試掘坑で壊された南西コーナーとP551に切られている東辺の北寄りの壁付近を除けば、遺存状態は良好である。主軸はN-33°-Wを指し、長軸4.6m・短軸4.0mを測る。南辺の東寄りにカマドをもつ。床面はところどころ小さい凹凸があるもののほぼ平坦で、確認面からの深さは最大で0.28mほどである。壁は急ではないが、しっかりした立ち上がりをみせる。覆土は14層に分層され、上半は水平堆積に近い緩やかなレンズ状堆積、下半はカマド袖付近を中心に細かい堆積がみられる。カマドは両袖が比較的良好に残っているが、床面に火床を示す焼土範囲は確認されていない。カマド付近の覆土に焼土がみられるだけである。住居内には主柱穴と思われるP499・P500・P548と性格不明であるが、本遺構に付帯すると思われるSK561が検出されている。主柱穴は大きさが異なる楕円形か不整楕円形をしているが、最も小さいP499(長軸0.40m・短軸0.33m)が柱材に近い大きさなのであろう。少し変形するが方形に配される4本柱と考えられ、確認されなかった1基は試掘坑に破壊された可能性もある。3基は深さが約0.30~0.45mで、ぼらつきがある。SK561は隅丸方形に



近い平面形を呈しており、長軸 0.69m・短軸 0.67m を測る。床面からの深さは 0.17m で、丸底面である。浅い掘り込みで壁際にあることから、何かを据え付けるためのものか貯蔵穴であろう。遺物は床面から浮いているものがほとんどで、1・2層など上部層から出土しているものが多い。土器約 90 点と土錘 (457)・砥石 (478)・銅系の可能性があるガラス質滓、小型のタイや種別不明の魚骨 (第VII章第3節) が出土している。土器は須恵器有台杯 (1)・甕・杯蓋 (2)、土師器長甕 (3) 類がみられる。

SI307 (図版 13・17、写真図版 4・11・12)

10I・Jグリッドに存在する方形の竪穴住居である。遺構確認面はVI層上面であるが、覆土がわかりにくく、同じような覆土をもつ遺構と重なっていたため、確認面精査においてプランを確認することができたのはトレンチの北側で検出された住居北東コーナーだけである。切り合っている遺構が多く、主要遺構で見ると、SB2002・SB2003・SB2004・SD61・SD62・SD106 に切られている。主軸は N-78°-E を指し、長軸 4.4m・短軸 4.2m を測る。東辺の南寄りにカマドをもつ。床面は平坦で、確認面からの深さは最大で 0.24m ほどである。カマド焚口の手前あたりがわずかに窪んでおり、カマド使用に関わる痕跡と思われる。覆土は 11 層に分層され、東西方向ではレンズ状堆積、南北方向では緩い斜め方向の堆積がみられる。床面直上には炭化物を含む薄い層がカマド周辺から北西側へ広がっており、これらが切れるあたりで住居の壁を捉えることができた。この層がカマド使用によるものか、意図的にまかれたものかは不明である。カマドは袖の基盤と崩落土 (ともに



第 7 図 SI307 遺物出土状況

粘土・粘質土)を区別するのが難しく、トレンチを入れて確認した。SI246のカマドより小さいもので、その内側が窪んでいる(第7図C-C)。ほぼ中央に火床と思われる焼土痕跡が確認された。住居内にはいくつかのピットが検出されたが、このうちP828・P896・P901が主柱穴と思われ、4本の柱が方形に配されていたと考えられる。いずれも浅くて小さい柱穴である。遺物は、カマド周辺からまとまって出土しており、それらは床面に近い位置で出土しているが、それ以外の遺物は覆土1層の上半から出土しているものがほとんどである。100点以上の土器の他に鉄滓(495)・古墳時代の白玉(469)が出土している。土器は須恵器無台杯(4)・杯蓋(5)、土師器無台杯(6・7)類・鉢(8・9)類・長甕(10~12)類、古墳時代の土師器甕(13)類がみられる。古墳時代の遺物は、本遺構が下層のSD109・SD110を掘り込んでいることから、それらに伴う土器の可能性もある。

## 2) 掘立柱建物(SB)

### SB2001(図版12・18、写真図版7・12・13)

9Kグリッドに存在する掘立柱建物である。9基のピット(P43・P44・P46・P49・P50・P52・P53・P54・P57)が検出されているが、南東の暗渠・調査区外へ延びている可能性があり、それを想定した記述をする。桁行は不明であるが、梁間は2間(3.18m)であり、長軸はN-45°-Wである。おそらく梁間側に廂をもつ総柱建物であろう。柱筋は直交しないが、柱穴は整然と並ぶ。柱間寸法は身舎では桁行方向がP50・P43間で2.42m、P52・P46間で2.46m、梁行方向がP52-P49間で1.54m、P49-P50間で1.64mで、廂は桁行方向が1.44mである。柱掘形は一辺0.40~0.50mの隅丸方形で、底面に柱痕がみられる。柱痕はほぼ円形をしており、径は20cm前後である。SB2009と重複関係にあることになるが、新旧関係は不明である。また、この建物の内側に同じような形態の柱穴が3基(P45・P48・P55)存在するが、東柱として機能していたものがあるかもしれない。7基の柱穴(P43・P44・P46・P49・P50・P52・P54)から合わせて約40点の土器が出土しているが、時代不明の土師器細・小片が多い。

### SB2002(図版13・19、写真図版11・13・14)

10I・Jグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、P410・P921・P922はプランが不明瞭であったが、それ以外はほぼプランを確認することができた。11基の柱穴(SB2002-P98・P122・P147・P155・P168・P245・P301・P529・P531・P921・P922)が検出されており、桁行4間・梁行2間の側柱建物としたが、P531・P921・P922は東柱の可能性もある。建物の平面形はほぼ長方形を呈しており、主軸方位はN-28°-Wを指す。梁行は4.30mを測るが、桁行の寸法は東辺(P98-P921-P147-P922-P155)と西辺(P301-P531-P122-P245)で異なり、東辺は5.14m、西辺は5.36mである。柱間寸法は桁行方向が0.61~0.76mで各柱穴間に大きな差はないが、梁行方向の南辺は0.73m(P155-P119間)・0.92m(P119-P301間)で差がある。南側の異なった間隔は出入り口に関係しているとも考えられる。面積は約22.6m<sup>2</sup>。柱掘方は隅丸方形・円形・楕円形の歪んだものも多く規模も異なるが、底面が壊されているP529を除いては、確認面からの深さは0.31m~0.56m、底面標高は-1.217~-1.786mである。覆土断面に柱痕が認められるものもあり、径0.25~0.30mの丸材で先端が少し細くなった材が推定できる。また、6基の柱穴に柱根が残るが遺存状態は極めて悪く、柱材の形状がわかるものがない。南西コーナーにあるP301がSB2003を構成するP113に切られていることから、本遺構はSB2003より古いと捉えられた。6基の柱穴(P98・P122・P147・P155・P531・P828)から合わせて約30点の土器が出土しているが、土師器細・小片が多い。

### SB2003(図版13・20、写真図版11・14・15)

10I・Jグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、P524はプランが不明瞭であったが、それ以外はほぼプランを確認することができた。8基の柱穴(SB2003-P99・P113・P119・P123・P128・P130・P310・P524)が検出されており、桁行2間・梁行2間の側柱建物と捉えた。建物の平面形はほぼ正方形を呈し、わずかに長い東西方向の軸方位はN-66°-Eを指す。桁行(東西方向)4.04m、梁行(南北方向)3.86m、柱間寸法は1.80~2.06mである。面積は約15.59m<sup>2</sup>。柱掘方はP128のように長方形もあるが、隅丸方形が基本と

思われ、それらは一辺が0.50～0.67mほどである。他には円形もあり径0.40m前後である。遺構面からの深さは0.4～0.7m、底面標高は-1.53～-1.71mとややバラつきがある。覆土断面に柱痕が認められるものもあり、径0.2m前後の柱材が推定できる。柱根が遺存しているものはない。ベルトの下で検出されたP524以外は、いずれも早い時期の確認面精査でプランが検出されており、周辺の遺構を切っていることが多い。位置がSI307と重複しており、ほとんどの柱穴がSI307を切っている。またP130はSB2004-P244やSB2004より新しいSD61に切られていることから、4者の関係は古いほうからSI307→本遺構→SB2004→SD61と捉えられる。また、位置関係や検出状況からSD61と同時期と考えられるSD62・SD106も同様の新旧関係である。6基の柱穴(P99・P113・P119・P123・P128・P130)から合わせて約30点の土器が出土しており、時代不明の土師器細・小片が多いが、須恵器杯蓋(15)がみられる。

#### SB2004 (図版13・21、写真図版5・15・16)

10・11Iグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で各柱穴のプランは不明瞭なものが多く、規模から井戸と誤認してしまったものもある。そのため層序の確認も不十分であったことを記しておく。軸方位・形状がSB2005とほぼ同じであり、2棟の東辺軸筋は一直線上にのる。9基の柱穴(SB2004-P244・P302・P309・P393・P406・P410・P511・P514・P837)が検出され、正方形を呈する総柱建物と捉えた。南北方向の軸方位はN-19°-Eを指す。桁行・梁行の規模は4.40mで、面積は約19.36m<sup>2</sup>である。柱間寸法は2.20m前後で、ほぼ等間隔である。柱掘方の平面形は方形を基本としているが不整のものも多く、また廃絶時あるいはそれ以降に受けた破壊のため、形状をとどめていないものもある。一辺1m以上の柱穴がほとんどである。確認面からの深さは0.54～0.71m、底面標高は-1.68～-1.85mである。柱穴内に柱材は残っておらず、覆土断面にもその痕跡が認められない。抜き取りを行っていたと考えられ、いくつかの柱穴にみられる上端付近の窪みは、抜き取りの際についた作業痕跡の可能性もある。またP406・P511間のSD318やP514・P393間のSD489は「布掘り」あるいは「地中梁」の痕跡と捉えられるもので、2か所にしかみられないことが何に起因するのかが注意される。すべての柱穴から合わせて約240点の土器と、P302から石鏟(463)が出土している。土器は時代不明の土師器細・小片も多いが、須恵器無台杯(17)・杯蓋(18・19)、土師器高杯(16)・小甕(20)・長甕(21)類、古墳時代の土師器壺(22)類・甕類がみられる。時代不明の土師器細・小片も多い。

#### SB2005 (図版13・22、写真図版5・15・16)

11・12H・Iグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、各柱穴のプランは不明瞭なものが多く、規模から井戸と誤認してしまったものもある。そのため層序の確認も不十分であったことを記しておく。軸方位・形状がSB2004とほぼ同じであり、2棟の東辺軸筋は一直線上にのる。9基の柱穴(SB2005-P118・P234・P394・P522・P532・P638・P834・P835・P836)が検出され、正方形を呈する総柱建物と捉えた。南北方向の軸方位はN-19°-Eを指す。桁行・梁行の規模は4.60mで、面積は約21.16m<sup>2</sup>である。柱間寸法は2.30m前後で、ほぼ等間隔である。柱掘方の平面形は方形を基本としているが不整のものも多く、また廃絶時あるいはそれ以降に受けた破壊のため、形状をとどめていないものもある。一辺1m以上の柱穴がほとんどである。確認面からの深さは0.67～0.84m、底面標高は-1.70～-1.86mである。柱穴内に柱材は残っておらず、覆土断面にもその痕跡が認められるものが少ない。SB2005-P835の底面に柱設置痕を示していると思われる円形の窪みがあるが、崩れやすい地山砂であることから、柱の規模を表しているかどうかは不明。柱は抜き取りを行っていたと考えられ、いくつかの柱穴にみられる上端付近の窪みは、抜き取りの際についた作業痕跡の可能性もある。すべての柱穴から合わせて約230点の土器とP522・P638から古墳時代の白玉3点(470～472)が出土している。土器は時代不明のものも多いが、須恵器有台杯(27)、土師器小甕(25)類・長甕(23・24・26)類、古墳時代土師器器台(28)・壺・甕がみられる。

#### SB2006 (図版13・23、写真図版5・15・16)

11・12G・Hグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、各柱穴のプランは不明瞭

なものが多く、規模から井戸と誤認してしまったものもある。そのため層序の確認も不十分であったことを記しておく。軸方位・形状がSB2004・SB2005とほぼ同じである。9基の柱穴(SB2006・P236・P265・P422・P434・P465・P644・P649・P832・P833)が検出され、正方形を呈する総柱建物と捉えた。南北方向の軸方位はN-19°-Eを指すとしたが、芯の捉え方によって、わずかに東に振れる可能性もある。桁行・梁行の規模は4.60mで、面積は約21.6m<sup>2</sup>である。柱間寸法は2.30m前後で、ほぼ等間隔である。柱掘方の平面形は方形を基本としているが不整のものも多く、また廃絶時あるいはそれ以降に受けた破壊のため、形状をとどめていないものもある。一辺1m以上の柱穴がほとんどである。確認面からの深さ・底面標高ともに極端に異なるものはなく、深さは0.52~0.68m、底面標高は-0.53~-0.68mである。柱穴内に柱材は残っておらず、覆土断面にもその痕跡が認められない。抜き取りを行っていたと考えられ、いくつかの柱穴にみられる上端付近の窪みは、抜き取りの際についた作業痕跡の可能性もある。またP649・P644間のSD827やP833・P832間のSD762は「布掘り」あるいは「地中梁」の痕跡と捉えたが、溝の中央が柱穴の中央から外れていることに注意する必要がある。7基の柱穴から合わせて約50点の土師器が出土しており、時代不明の土師器細・小片が多いが、古代の土師器甑(29)がみられる。他にP465からフィゴの羽口(486)が出土している。

#### SB2007 (図版14・24、写真図版16・17)

14Gグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼプランを確認することができた。4基の柱穴(SB2007・P574・P583・P651・P652)が検出されているが、東側を暗渠に壊されていることから建物の形態を捉えることができない。さらに調査区外へ広がると思われる。南北方向の軸方位はN-6°-Eを指す(東西方向の場合はN-84°-Wとなる)。南北方向の柱間寸法はP652・P651間は1.76m、P651・P574間は2.26m、東西方向の柱間寸法はP574・P583間は2.26mである。柱掘方の平面形はやや歪んだ円形か楕円形であり、P574がやや大きい径0.60m前後を測る。遺構面からの深さは0.45~0.63m、底面標高は-1.53~-1.70mである。P651には柱根が残るが遺存状態は極めて悪く、柱材の形状は不明である。土器は確認されていないが、鉄系の椀形滓(492)が出土している。

#### SB2008 (図版12・24、写真図版17)

9Kグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼプランを確認することができた。2基の柱穴(SB2008・P95・P96)が検出されているが、東側を暗渠に壊されていることから建物の形態を捉えることができない。さらに調査区外へ広がるものと思われる。確認できる南北方向の軸方位はN-25°-Eを指す。2基間の寸法は3.28mである。柱掘方の平面形は方形を基本とし、一辺0.9m前後である。遺構面からの深さは0.57~0.69m、底面標高は-1.808~-1.947mである。覆土断面に柱痕が認められ、径0.50m前後の材が推定できる。この2基の柱穴の北側にほぼ規模の同じP21が存在する。やや軸筋からはずれ、覆土のあり方も異なる(柱痕が認められず、覆土も比較的混入の少ない黒色砂質土である)ことから本遺構に含めていないが、可能性はある。ただし、P21からはVI期の遺物が一定量出土しており、時期的な考察も注意する必要がある。合わせて約36点の土器が出土しており、時代不明や古墳時代の土師器細・小片が多いが、古代の土師器長甕A2類がみられる。

#### SB2009 (図版13・25、写真図版18・19)

11Hグリッドに存在する掘立柱建物である。遺構確認面はVI層上面で、各柱穴のプランを確認することができた。8基のピット(SB2009・P163・P202・P232・P323・P392・P512・P528・P1012)が検出されており、桁行2間(1.94m)・梁行2間(1.94m)の総柱建物と捉えられる。面積は、約3.78m<sup>2</sup>である。遺構面精査では各ピットとも比較的明瞭なプランが検出されたが、底面・壁は下層包含層や下層遺構覆土となるため不明瞭なものが多かった。これらは、SX71の周溝と同じ面での完掘となったが、SX71に伴うと思われる遺物がこれらの上部で出土していることやP1012がSX71にきられていることから、本遺構はSX71より古いと考えられる。建物の平面形はほぼ正方形を呈すると思われ、主軸はN-40°-E(あるいはN-50°-W)である。柱間寸法は、南辺(P202・P323・P392)と西辺(P392・P512・P232)で0.97m前後を測るが、東辺はP1012・P163が0.92m、



P163・P202間が1.03mである。柱掘方の平面形は円形に近いものがあるが基本的には隅丸方形である。方形のものは一辺が0.47～0.75m、円形に近いものは径が0.4m前後でバラつきがある。確認面からの深さは0.21～0.58m、底面標高は-1.29～-1.74mである。覆土断面に柱痕が認められるものは少なく、柱材の形状は不明である。2基（P323・P528）の柱穴から合わせて4点の土器が出土しており、時代不明の土師器細片が多いが、古代の土師器小甕（30）がみられる。

### 3) 土 坑 (SK)

**SK203** (図版13・25、写真図版19)

11H1・6・7グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形は円形で、長軸1.48m・短軸1.43mを測る。下端の平面形は径0.55m前後の円形で、壁はその緩い丸底面から挿鉢状に立ち上がる。確認面からの深さは最大0.47mである。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、4層に分層される。水平堆積に近い緩やかなレンズ状堆積がみられ、上部を中心とした広範囲に炭化物が少量含まれる（1・2層）。須恵器杯類1点とハケメがみられる長甕の細片2点が出土している。

**SK336** (図版13・25、写真図版19)

11G8・9・13・14グリッドに存在する土坑である。SB2006の北辺の西方延長上に位置する。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。P239・P348を先行してプランを確認しており、P239・P348が新しいと捉えた。上端の平面形は円形に近い形で、長軸1.82m・短軸1.69mを測る。下端の平面形は長軸1.60m・短軸1.45mの緩い丸底面で、壁は急な角度で内湾気味に立ち上がる。確認面からの深さは最大0.43mである。覆土は黒褐色砂質土が主体で、5層に分層される。レンズ状堆積がみられ、上半の黒褐色砂質土（1層）に炭化物が多量に含まれる。遺物は出土していない。

**SK399** (図版13・26、写真図版20)

10J16・21グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができたが、SX926と重複する南側ではそれがやや不明瞭であった。平面的には形状・規模が掘立柱建物の大形の掘り方によく似ている。上端の平面形は北西－南東方向にやや長い隅丸方形で、長軸0.97m、短軸0.82mを測る。南側がやや深く、確認面からの深さは最大0.24mである。下端の平面形は長軸0.75m、短軸0.63mの隅丸方形で、平坦な底面から立ち上がる壁は直線的な所とカーブを描く所がある。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。レンズ状堆積がみられ、上半の黒褐色砂質土（1層）に炭化物が含まれる。古墳時代を中心とした土師器が10点以上出土している。

**SK441** (図版14・27、写真図版20)

12G24、13G4・5グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができたが、SK564のプランは明瞭でなく、切り合いは認識できるものの正確な位置関係を捉えることができなかった。西側がSK564を切っている。上端の平面形は北東－南西方向に長いやや歪んだ楕円形で、長軸1.59m、短軸1.25mを測る。断面はほぼ水平の底面から壁がやや急な角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大0.49mである。覆土は下半に基盤層砂の多量の流入がみられるが、上半は黒褐色砂質土が主体で、4層に分層される。緩いレンズ状堆積がみられ、最上層（1層）に炭化物が一定量含まれる。古墳時代を中心とする土師器細片が10点近く出土している。

**SK481** (図版13・27、写真図版20)

11G18・19・23グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形は北東－南西方向に長い楕円形であり、長軸1.60m、短軸1.15mを測る。断面は平坦な底面から急な角度で立ち上がる。壁がやや急な角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大0.49mである。覆土黒色・黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。緩いレンズ状堆積がみられ、最上層（1層）のみ炭化物が一定量含まれる。遺物は出土していない。

**SK564** (図版 14・27、写真図版 20)

13G4 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、SK441 に切られていることが確認されていたが、プランは不明瞭であった。南北方向に長い方形で、長軸 1.54m、短軸遺存部分で 0.82m を測る。下端の平面形は上端のような角がほとんどなく楕円形に近いものである。断面は丸底面から弱いカーブを描きながら緩く立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.40m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。緩いレンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物は含まれない。時代不明の土師器細片が 4 点出土している。

**SK596** (図版 14・26、写真図版 21)

13G3・4・8・9 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面である。切り合いが不明な状態で SK597 とともにプランが検出され、断面観察により SK597 を切っていることが捉えられた。東西方向に長い楕円形で、長軸 1.65m、短軸 1.12m を測る。断面形は弧状を描く丸底であり、確認面からの深さは最大 0.29m である。覆土は下部に基盤層砂の多量な流入がみられるが、上半は黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。レンズ状堆積がみられ、最上層(1層)に炭化物が多量に含まれる。時代不明の土師器小片が 1 点出土している。

**SK597** (図版 14・26、写真図版 21)

13G8・9 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、SK596 とともにプランが検出された。南側では SX573・P683 を切り、北西側では SK596 に切られている。上端の平面形は SK596 とほぼ同じく東西方向に主軸方向がある楕円形であり、長軸 1.32m、短軸遺存部分で 0.71m を測る。断面形はやや歪んだ皿状で、確認面からの深さは最大 0.19m である。覆土は粘質シルトの単層であり、炭化物が多量に含まれる。遺物は出土していない。

**SK641** (図版 14・27、写真図版 21)

13H16・21 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、確認面精査では SD493・SD539 のプランが本遺構のプランを切る状態で確認されている。SD493・SD539・P642 に切られるが、P642 は本遺構掘削直前にかろうじてプランを確認したものである。上端の平面形は北東-南西方向に長い楕円形であり、長軸 2.00m、短軸 0.85m を測る。断面は平坦な底面から壁がやや急な角度で立ち上がる。北東側がやや深く、確認面からの深さは最大 0.23m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。レンズ状堆積がみられ、上半(1・2層)に炭化物が少量含まれる。古墳時代の土師器小片が 1 点出土している。

**SK650** (図版 13・26、写真図版 21)

10J21・11J1 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができ、P826 と並んで検出された。SX926 を切っている。上端の平面形は南西-北東方向に長い楕円形であり、長軸 1.28m、短軸 0.97m を測る。南西側がやや深く確認面からの深さは最大 0.31m である。下端の平面形も同じ方向に長い楕円形であり、平坦な底面からカーブを描きながら立ち上がる。覆土は黒色砂質土を主体で、4層に分層される。南西に寄ったレンズ状堆積がみられ、上部を中心とした広範囲に炭化物が一定量含まれる(1~3層)。古代の土師器小甕(47)が出土している。

**SK815** (図版 15・28、写真図版 21)

15F17・18 グリッドに存在する土坑である。暗渠によって大部分を壊されており、暗渠溝の壁に現れていたものである。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。規模は不明であるが、円形か楕円形を描くものであろう。断面は底面と壁の境が明瞭ではなく、平坦な底面から緩やかに立ち上がる。遺存部分での深さは確認面から 0.22m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土で、2層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物は含まれない。遺物は出土していない。

**SK825** (図版 14・28、写真図版 22)

15F4・5・9・10・14・15、15G1・6 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SK1023 を切り、P741・P796・P814 に切られている。P831・P1035・P1036 は完掘後に底面で確認されたもので、本遺構より古い。上端の平面形は東西方向がやや長い楕円形であり、長軸 3.96m、短軸 3.40m を測る。断面は凸凹がある広い底面から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.20m である。覆土は黒色砂質土で、3 層に分層される。南北方向では水平堆積、東西方向で緩やかなレンズ状堆積がみられ、上半 (1 層) に炭化物が一定量含まれる。土器が 30 点以上出土しており、古代の須恵器有台杯 (39・40)・杯蓋 (41)、土師器無台杯 (42~46)、時代不明の土師器細・小片がみられる。

**SK912** (図版 13・27、写真図版 22)

10I20、10J16 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面であるが、プランが検出できなかった。SI307 の壁に現れている覆土によって認識されたものである。下層遺構の中に本遺構があるため、下遺構の覆土が壁となる上半の検出は困難であった。北側を SI307・SB2003-P113 に切られている。上端の平面形は南北方向にやや長い楕円形であり、長軸 1.10m、短軸遺存部分で 1.03m を測る。断面は変形した播鉢状で、確認面からの深さは最大 0.42m である。覆土は黒色砂質土が主体で、6 層に分層される。細かい堆積がみられ、上部の広範囲 (1~3・5 層) に炭化物がわずかに含まれる。遺物は出土していない。

**SK919** (図版 13・28、写真図版 22)

11I23・24、12I3・4 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。南西側で P843 に切られている。上端の平面形は東西方向に楕円形としたが、歪んでいる。長軸 1.68m、短軸 1.55m を測る。断面は平坦な底面から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.17m である。覆土は黒色砂質土の単層で、炭化物がわずかに含まれる。古代の土師器長甕 A2 類を含む小片が 5 点と土製の紡錘車 (453) が出土している。

**SK923** (図版 12・28、写真図版 22)

9J18・19・23・24 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面であるが、プランが不明瞭であり、何回も精査作業を行う中でかろうじて検出したものである。上端の平面形は北東-南西方向に長い卵型をした楕円形であり、長軸 2.40m、短軸 1.86m を測る。断面は壁の中腹に段があり、底面は平坦で上端に比べてかなり小さく、長軸 0.70m、短軸 0.62m の北西-南東方向にやや長い楕円形である。確認面からの深さは 0.55m である。覆土は黒色砂質土が主体で、7 層に分層される。レンズ状堆積がみられ、上半のいくつかの層 (1・2・4 層) に炭化物が少量含まれる。土師器が 20 点近く出土しており、古墳時代の土師器壺 (38)・甕がみられる。

**SK935** (図版 12・29、写真図版 23)

9K3・8 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面である VI 層上面が削平されており、下層の確認面 (VII 層上面) での検出であった。プランは比較的明瞭であるが、下層遺構 (SK936) を切っている西側は壁の検出が困難であった。上端の平面形は楕円が一部飛び出たような不定形で、北東-南西方向を長軸とした。長軸 1.46m、短軸 1.42m を測る。断面は緩い段をもつ底面から延びた壁が、急な角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.48m である。覆土は下部に基盤層砂が多量に流入した層がみられるが、黒色砂質土が主体で、7 層に分層される。細かいレンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。遺物は出土していない。

**SK939** (図版 13・29、写真図版 23)

10J10・15 グリッドに存在する土坑である。南東側 1/3 を暗渠によって壊されている。暗渠溝の壁に現れており、遺構確認面はVI層上面でプランが検出された。上端の平面形は円形に近い楕円形であろう。北東-南西方向を長軸として、1.06m、短軸遺存部分で 0.73m を測る。断面は丸みをもった平底から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.20m である。覆土は黒色砂質土で、2 層に分層される。レンズ状堆積がみられ、最上層 (1 層) に炭化物が含まれる。遺物は出土していない。

**SK947** (図版 12・29、写真図版 23)

8K19・20・24・25 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面で、SX961に先行してほぼ全体のプランを確認することができた。SX961の南側の一部を切っている。上端の平面形は径 1.5m 前後の正円形に近い円形である。広い平坦な底面から緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.17m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。遺物は出土していない。

**SK948** (図版 12・29、写真図版 23)

8K18・23 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面であるVI層上面が削平されており、下層の確認面(VII層上面)での検出であった。確認面精査では比較的明瞭にプランが検出された。上端の平面形は変形した円形で、長軸 1.30m、短軸 1.16m を測る。断面は平坦な底から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.24m である。覆土は黒色砂質土が主体であり、3層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。古墳時代の土師器小片が 1 点出土している。

**SK950** (図版 12・29、写真図版 24)

8K21・22、9K1・2 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面であるVI層上面が削平されており、下層の確認面(VII層上面)での検出であった。プランは不明瞭で、半截の段階で拡大したものである。上端の平面形は北西―南東方向にやや長い楕円形であり、長軸 2.30m、短軸 1.77m を測る。断面は底面と壁との境が不明瞭で、凸凹がある広い底面から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.27m である。覆土は黒色砂質土が主体で、4層に分層される。緩やかなレンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。時代不明の土師器細・小片が 3 点出土している。

**SK1023** (図版 14・28、写真図版 24)

15G6 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はVI層上面であるが、プランの検出ができず、SK825の壁に現れている覆土によって認識されたものである。西側をSK825に切られている。上端の平面形は径 1.7m 前後の円形と思われる。長軸 1.69m、短軸遺存部分で 1.85m を測る。断面はやや凸凹した底面から壁が斜め方向に立ち上がるが、底面との境が明瞭ではない。確認面からの深さは最大 0.22m である。覆土は黒色砂質土が主体で、3層に分層される。西側を半分欠落しているが、レンズ状と思われる堆積状況であり、広範囲に炭化物を一定量含む。古墳時代・古代の土師器が 3 点出土している。

4) 溝 状 遺 構 (SD)

**SD61** (図版 13・30、写真図版 24)

10I18~20 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、他の遺構に先行してほぼ全体のプランを確認することができた。SI307、SB2003-P130、SB2004-P410、P65 を切っている。長さ 3.60m、幅 0.27~0.30m で、北西―南東方向 (N-68°-W) に走る。同じような形状のSD62・SD106と同方向・等間隔で並ぶ。断面は場所によってU字形あるいはV字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.12m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、2層に分層される。レンズ状堆積がみられ、上層(1層)に炭化物が多量に含まれる。古代長甕 A2 類を含む土師器が 7 点出土している。

**SD62** (図版 13・30、写真図版 24・25)

10I14・15 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SI307、SB2004-P393・P410、P894 を切っている。長さ 2.54m、幅 0.25~0.30m で、北西―南東方向 (N-69°-W) に走る。同じような形状のSD61・SD106と同方向・等間隔で並ぶ。断面は場所によってU字形あるいはV字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.16m である。覆土は黒褐色砂質土の単層で、炭化物が少量含まれる。時代不明の土師器小片が 1 点出土している。



**SD63** (図版 13・30、写真図版 24・25)

10I17~19・24・25 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SB2004-P244・P302・P511 を切り、P81・P87 に切られている。長さは遺存部分で6.95m、幅 0.15~0.26m で、北西-南東方向 (N-68°-W) に走る。北東側に並ぶ SD61・SD62・SD106 と同方向である。断面は場所によって U 字形あるいは V 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.10m である。覆土は黒褐色砂質土の単層あるが、炭化物を含まない。古代長甕 A2 類を含む土師器が 4 点出土している。

**SD64** (図版 13・30、写真図版 25)

10I25、11I5・9・10・14・19 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、他の遺構に先行してほぼ全体のプランを確認することができた。切り合い関係がある遺構については、本遺構がすべて切っている。長さ 7.70m、幅 0.23~0.26m で、北東-南西方向 (N-22°-E) に走る。断面は場所によって U 字形あるいは V 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.18m である。覆土は黒褐色砂質土の単層で、炭化物が少量含まれる。胎土 A 群と思われる須恵器杯類が 1 点出土している。

**SD70** (図版 13・30、写真図版 24・25)

10I8・9・12・13・17 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、他の遺構に先行して、ほぼ全体のプランを確認することができた。SI307、SB2002-P245、SB2004-P511・P514 を切っている。長さ 5.25m、幅 0.20~0.22m で、北東-南西方向 (N-41°-E) に走る。断面は場所によって U 字形あるいは V 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.11m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2 層に分層される。レンズ状堆積物がみられ、炭化物が少量含まれる。遺物は出土していない。

**SD106** (図版 13・30、写真図版 24・25)

10I9・10・15 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、他の遺構に先行してほぼ全体のプランを確認することができた。SI307 を切っている。トレンチによって南東側が壊されており、長さは遺存部分で 3.17m、幅 0.22~0.25m で、北西-南東方向 (N-66°-W) に走る。同じような形状の SD61・SD62 と同方向・等間隔で並ぶ。断面は場所によって U 字形あるいは V 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.25m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、2 層に分層される。レンズ状堆積物がみられ、上層に炭化物が多量に含まれる。古墳時代や時期不明の細・小片が 7 点出土している。

**SD493** (図版 14・27、写真図版 25・26)

13G20、13H16・17 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。東側を暗渠によって壊されているが、調査区外へ続いている可能性がある。SK641 を切っている。長さは遺存部分で 4.95m、幅は 0.23~0.28m で東西方向 (N-89°-W) に走る。断面は U 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.25m である。覆土は黒色砂質土が主体で、3 層に分層される。U 字形・レンズ状堆積物がみられ、広範囲に炭化物を少量含む。土師器が 6 点と胎土 C 群と思われる須恵器杯類が 1 点出土している。

**SD538** (図版 13・31、写真図版 26)

11H8・9 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SX71 に切られている。長さは 0.73m、幅は遺存部分で 0.15~0.23m で、南北方向 (N-20°-W) に走る。断面は浅い U 字形で、確認面からの深さは最大 0.13m である。覆土は黒色砂質土が主体で、2 層に分層される。斜め方向に堆積しており、上層 (1 層) を中心に炭化物が多量に含まれる。遺物は出土していない。

**SD539** (図版 14・27、写真図版 26)

13H11・12・16 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SK641 を切っている。長さ 1.85m、幅 0.15~0.17m で、北東-南西方向 (N-29°-E) に走る。断面は U 字形を呈し、確認面からの深さは最大 0.13m である。覆土は黒色砂質土が主体で、2 層に分層される。レンズ状堆積物がみられ、覆土の大部分を占める 1 層にわずかながら炭化物が含まれる。古墳時代の土師

器細・小片が2点出土している。

**SD747** (図版14・30、写真図版26)

14F25、14G21 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。長さ2.00m、幅0.18～0.23mで、ほぼ東西方向(N-85°-W)に走る。断面はU字形あるいはV字形を呈し、確認面からの深さは最大0.14mである。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。遺物は出土していない。

**SD962** (図版12・32、写真図版27)

8K13・14 グリッドに存在する溝状遺構である。SX867の底面で検出されており、ほぼ全体のプランを確認することができた。SX867に切られるとしたが、同じ遺構の可能性も否定できない。長さ1.72m、幅0.31～0.38mで、東西方向(N-86°-E)に走る。断面はU字形で、中央部分に浅い窪みがみられる。確認面からの深さは最大0.22mである。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。SX867との覆土とは異なる。古墳時代の土師器小片が1点出土している。

**SD1009** (図版14・30、写真図版26)

12H24・25 グリッドに存在する溝状遺構である。遺構確認面はVI層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。長さ2.42m、幅0.20～0.25mで、北東-南西方向(N-66°-E)に走る。断面はU字形あるいはV字形で、確認面からの深さは最大0.15mである。覆土は黒色砂質土の単層で、炭化物を少量含む。古代の土師器と思われる小片が1点出土している。

#### 5) 柵 列 (SA)

**SA3001** (図版13・30、写真図版27)

10・11I・J グリッドに存在する柵列である。9基のピット(東からP321・P940・P385・P386・P388・P505・P502・P515・P516)で構成されるものとした。遺構確認面はVI層上面で、各ピットともほぼ全体のプランを確認することができた。P388を中心にして南西と北西でそれぞれ4基のピットがほぼ等間隔で並ぶ。柵列の長さは7.44mで、向きは北東-南西方向(N-54°-E)である。各ピットは径0.21～0.40mの円形・楕円形で歪んだものもある。これらの確認面からの深さは0.19～0.25mである。断面は半円状あるいはU字形を呈す。覆土は黒色砂質土が主体で、2層か3層に分層される。炭化物を少量含むものが多い。2基のピット(P321・P940)から合わせて10点前後の古墳時代や時代不明の土師器が出土している。

#### 6) 不 明 遺 構 (SX)

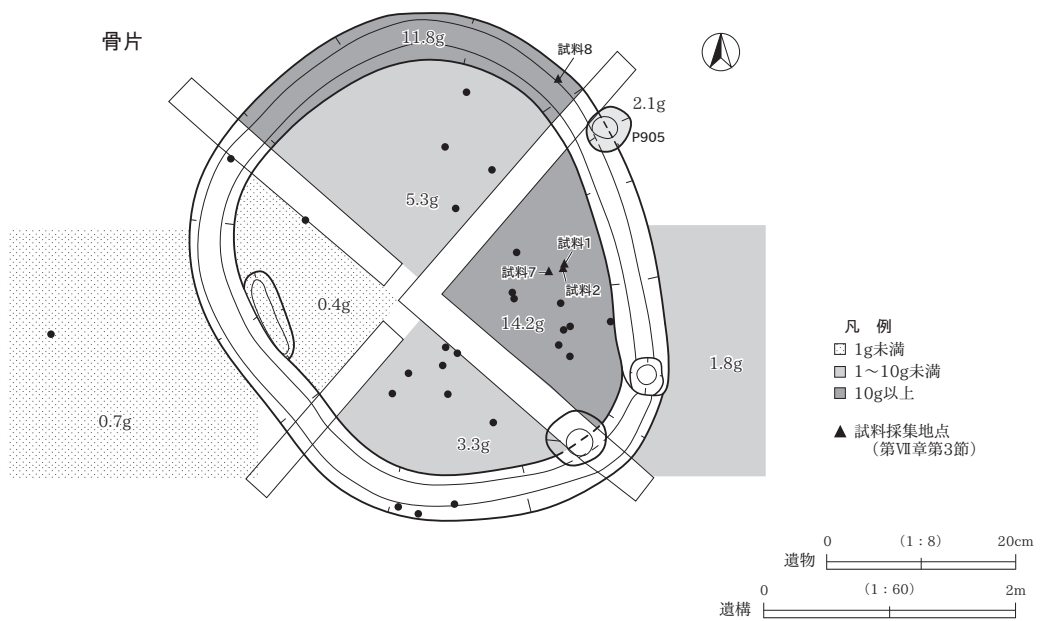
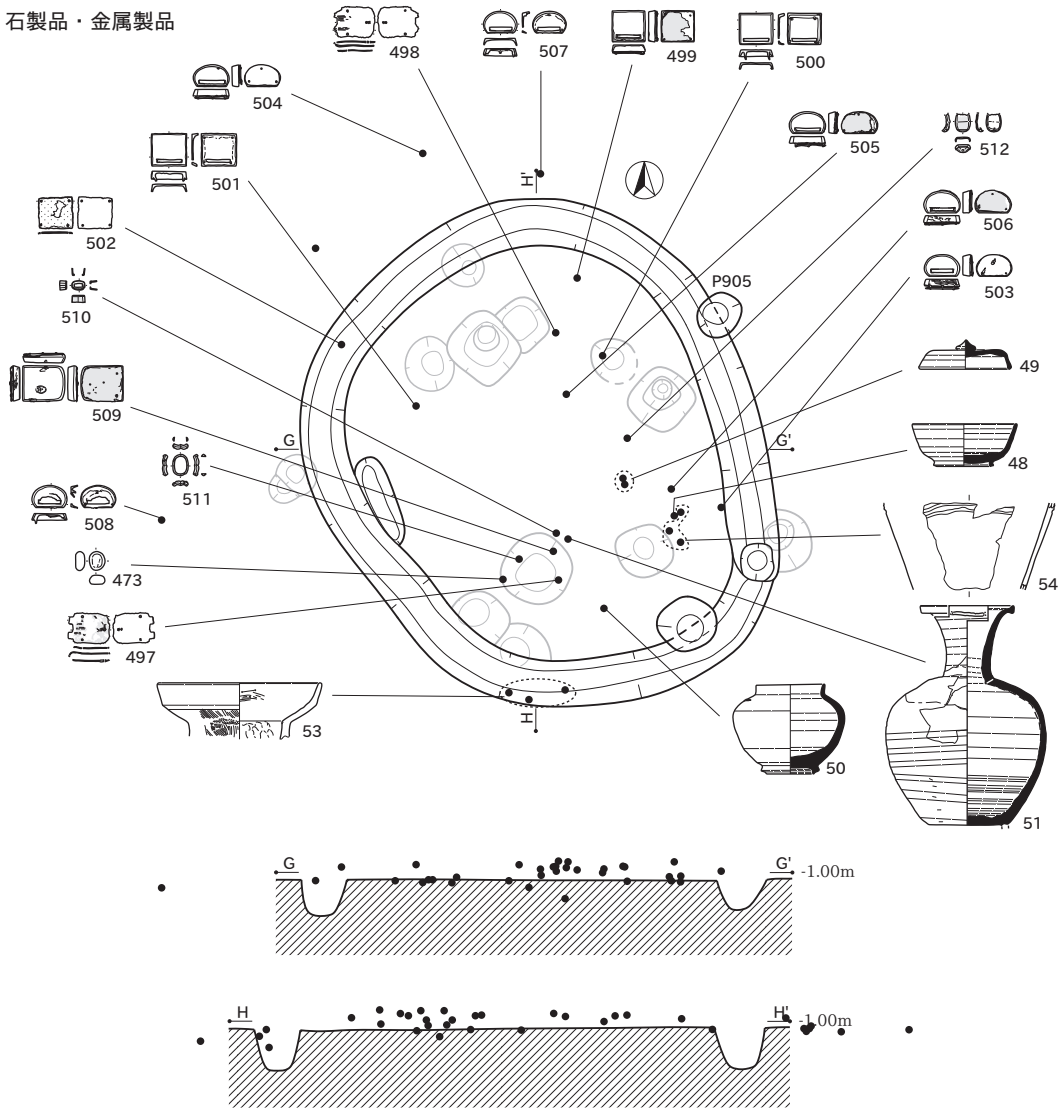
**SX59** (図版12・31、写真図版27)

9J4・5・9・10 グリッドに存在する不明遺構である。遺構確認面であるVI層上面が削平されており、下層の確認面(VII層上面)での検出であった。確認面精査では東側はプランが検出されたが、西側は不明瞭であった。上端の平面形は北東-南西方向に長い楕円形であり、長軸3.51m、短軸2.08mを測る。断面は広い平坦な底面から壁が緩やかに延びながら立ち上げる。確認面からの深さは最大0.19mである。覆土は黒色砂質土が主体で3層に分層される。水平堆積に近いレンズ状堆積がみられ、上半の1・2層に炭化物が含まれる。古代土師器長甕A2類や時代不明の土師器細・小片が出土している。

**SX71** (図版13・31、写真図版6・28・31)

11H グリッドに存在する遺構である。遺構確認面はVI層上面で、周溝のプランが部分的にしか検出されず、断面でも不明瞭な部分が多かった。上層包含層(V層)を掘削している段階で、副葬品と思われる遺物が周溝の内側とその周辺から出土している。本来は周溝とその内側の盛土(墳丘)によって構成される墓と思われるが、溝のみの遺存のため「SX」を付与した。P643・P905が本遺構を切っており、P905の覆土には多量の焼人骨が混入している。また、SD538を切るとしたが、覆土が炭化物を多量に含んでいることから、本遺構にかかわるもの(同時期)とも考えられる。SB1009-P1012が周溝に切られているが、この他に周溝の内側で検出された

土器・石製品・金属製品

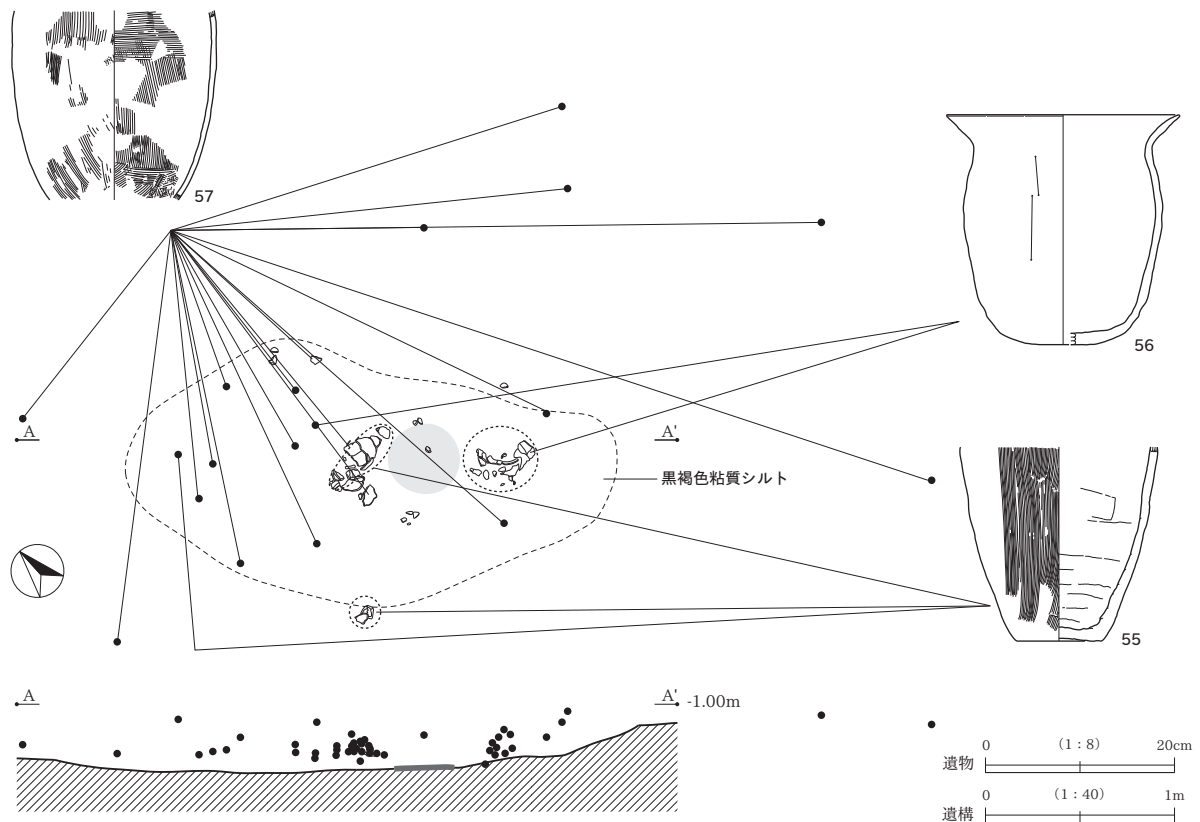


第 8 図 SX71 遺物出土状況

遺構もすべて本遺構より古いと考える。周溝は楕円状に巡り、その規模は長軸 4.08m、短軸 3.51m である。長軸の方向は、北西-南東 (N-32°-W) と捉えた。副葬品と思われる遺物が周溝の内側とその周辺から出土している(第8図)。副葬品が安置されていたと思われる盛土部分が破壊を受けて周囲に散らばったものと思われる。また、骨も細片であるが出土しており、分析により「焼人骨」であることが確認されている(第VII章第3節)。周溝は上端の幅は0.34~0.40m、深さは0.42mである。南東部分がやや浅い。溝の断面形はU字形を呈しており、概ね2・3層のレンズ状堆積が捉えられるが、細かい堆積がみられるところもある。溝の覆土は黒色砂質土が主体で炭化物が含まれる。須恵器有台杯(48)・壺蓋(49)、短頸壺(50)・長頸壺(51)、土師器長甕(52)、弥生土器壺(53)、縄文土器深鉢(54)、腰帯金具(497~509、513・514)、刀子金具(510~512)、玉類(473)、焼人骨の他に、土師器細・小片が約60点出土している。土師器細・小片は周溝出土のものが多く、古墳時代の土師器壺・古代の土師器長甕A2類等や時代・器種不明のものがみられる。

SX100 (図版13・32、写真図版29)

10H21~23・11H1~3グリッドに存在する遺構である。遺構確認面はVI層上面で、地面の被熱(焼土)、カマド材と思われる粘質シルト、被熱した土器などが確認された。住居に伴うカマドの可能性はある。P312・P313は完掘後にプランが検出されたもので、本遺構より古い。0.4×0.3mの楕円状に広がる焼土があり、その両脇に多くはないが被熱が著しい土器がまともって出土している。それを完全に覆って黒褐色の粘質シルトが北西-南東方向で広がっており、その範囲は長さ2.6m、幅1.3mである。断面ではそれが部分的に地面まで達しているのがみられ、カマドの袖部分と捉えられるかもしれない。黒褐色粘質シルトはしまっているが、硬化は強くない。炭化物はほとんどの層でみられ、焼土直上の8層に最も多く含まれる。掘り込みは、黒褐色粘質シルトがあるあたりで浅いものがみられたが、その底面は周辺の低い地面とほぼ同じレベルであるため、壁を捉えることができなかった。土器が70点近く出土しており、古代の土師器長甕(55~57)や古代の土師器長甕A2類などがみられる。



第9図 SX100 遺物出土状況



**SX478** (図版 13・32、写真図版 29)

12G8・9・13・14 グリッドに存在する性格不明の遺構である。遺構確認面はVI層上面である。本遺構を切るピットが集中しており東側のプランは不明瞭であったが、SX541 に先行してかろうじてプランを確認することができた。SX541 を切り、P372・P373・P374・P377・P378・P379・P429・P442・P447・P479 に切られている。上端の平面形は北東―南西方向に長い歪んだ楕円形で、長軸 2.10m、短軸 1.86m を測る。底面は凹凸があり、確認面からの深さは最大 0.30m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で 3 層に分層され、レンズ状堆積がみられる。薄く堆積している最上層 (1 層) のみ炭化物が一定量含まれる。遺物は出土していない。

**SX541** (図版 13・32、写真図版 29)

12G9・10・14・15 グリッドに存在する性格不明の遺構である。遺構確認面はVI層上面で、プランが不明瞭であった。P563 を切り、SX478・P423・P442・P447・P450・P462・P560 に切られている。上端の平面形は南北方向に長い歪んだ楕円形であり、長軸 2.95m、短軸遺存部分で 1.59m を測る。底面と壁の境は不明瞭で、凹凸をもちながら弧状に立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.19m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2 層に分層される。レンズ状堆積がみられ、上半 (1 層) に炭化物が多量に含まれる。古墳時代の土師器細・小片が 4 点出土している。

**SX573** (図版 14・26、写真図版 29)

13G7～9・12～14 グリッドに存在する性格不明の遺構である。遺構確認面はVI層上面で、プランが不明瞭であった。セクションラインあたりで不整形のプランを確認したが、掘削している段階で西側に広がることがわかった。SK597・SX605 に切られている。P683・P690 は完掘後に底面で検出されたもので、本遺構より古い。上端の平面形は東西に長い不定形で、長軸遺存部分で 3.38m、短軸 2.34m を測る。断面はほぼ水平な底面から壁が緩やかに立ち上がる。確認面に高低差があるため確認面からの深さは場所によって異なるが、底面はほぼ水平である。確認面からの深さは最大 0.26m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2 層に分層される。緩いレンズ状堆積がみられ、東側に片寄る 1 層に炭化物が多量に含まれる。須恵器無台杯(58)、土師器小甕(59)・鍋(60)・短胴甕(61)、古墳時代の土師器甕(62)の他に、古代の土師器長甕 A2 類を含む土師器細・小片が 30 点近く出土している。土師器細・小片には、古代の土師器長甕 A2 類や時代・器種不明の土師器がみられる。

**SX605** (図版 14・26、写真図版 30)

13G6・7・11・12 グリッドに存在する性格不明の遺構である。遺構確認面はVI層上面で、プランが不明瞭であり、トレンチでの土層確認により捉えたものである。SX573 を切り、P559 に切られている。P745・P746 は完掘後に底面で検出されたもので、本遺構より古い。上端の平面形は南北に長い不定形で、長軸 3.40m、短軸 2.43m を測る。断面形は西側がやや深い平坦な底面で、底面と壁との境はやや不明瞭である。確認面からの深さは最大 0.35m である。覆土は黒～黒褐色砂質土が主体で、4 層に分層される。下半が水平堆積、上半が緩いレンズ状堆積をみせる。西側に片寄る 1 層に炭化物がわずかに含まれる。土師器長甕(63)の他に、30 点以上の土師器小片が出土しているが、ほとんどが古代の土師器長甕 A2 類の体部片である。

**SX867** (図版 12・32、写真図版 30)

8K12～14・17～19 グリッドに存在する性格不明の遺構である。遺構確認面であるVI層上面が削平されており、下層の確認面 (VII層上面) での検出であった。プランは不明瞭である。底面で SD962・P956 が検出されており、本遺構が切っていると捉えた。上端の平面形は東西方向に長いやや歪んだ楕円形で、長軸 3.20m、短軸 2.23m を測る。底面と壁の境は不明瞭で、広い平坦な底面から緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.16m である。覆土は黒色砂質土が主体で、2 層に分層される。緩やかなレンズ状堆積がみられ、上半に炭化物が多量に含まれる。須恵器杯蓋(64～66)、古墳時代甕(67)の他に、30 点以上の土師器細・小片が出土している。ほとんどが古墳時代の土師器細・小片である。

**SX926** (図版 13・26、写真図版 30)

10J16・17・21・22 グリッドに存在する性格不明遺構である。遺構確認面はⅥ層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SK399・SK650・P645・P826 に切られている。上端の平面形は歪んだ形で、南西―北東方向に長軸がある。長軸 2.10m、短軸 1.97m を測る。断面形は浅い皿状であり、確認面からの深さは最大 0.10m である。覆土は黒褐色砂質土の単層で炭化物等は見られず自然の窪みともとれるが、上部が削平されている可能性もあるため、ここでは遺構として扱った。遺物は出土していない。

**SX961** (図版 12・29、写真図版 31)

8K14・15・19・20 グリッドに存在する性格不明遺構である。遺構確認面はⅥ層上面で、プランが不明瞭であった。南側を一部 SK947 に切られている。上端の平面形は台形に近い楕円で、長軸遺存部分で 2.21m、短軸 1.85m を測る。広い平坦な底面から緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.17m である。覆土は黒褐色砂質土が主体で、2 層に分層される。緩やかなレンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。古墳時代の土師器小片が 1 点出土している。

**B 下 層 遺 構** (縄文・弥生・古墳時代の遺構)

1) 土 坑 (SK)

**SK19** (図版 42・43、写真図版 32)

13E4・5・9・10 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はⅦ層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形は南北方向に長いやや歪んだ楕円形で、長軸 2.67m、短軸 2.43m を測る。断面は底面と壁との境が不明瞭で、凹凸がある丸底面から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.41m である。覆土は黒褐色砂質土と基盤層砂が混入した砂質土が主体で、5 層に分層される。乱れたレンズ状堆積がみられる。上層を中心に未分解有機物を含むが、炭化物は認められない。遺物は出土していない。

**SK20** (図版 39・43、写真図版 32)

12F17・18・22・23 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はⅦ層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形はやや歪んだ円形で、長軸 2.13m、短軸 2.08m を測る。凹凸がある平底から壁が緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.27m である。覆土は黒褐色砂質土の単層で、炭化物をわずかに含む。約 110 点の古墳時代土師器片が出土しており、壺 (84・85) 類・甕 (86) 類がみられる。

**SK689** (図版 39・43、写真図版 32)

12F23 グリッドに存在する土坑である。遺構確認面はⅦ層上面で、プランがわかりにくく、部分的な確認しかできなかった。上端の平面形は南北方向に長い楕円形で、長軸 0.94m、短軸 0.86m を測る。断面はほぼ平坦な底面から斜め方向に立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.27m である。覆土は黒色砂質土が主体で 3 層に分層され、レンズ状堆積がみられる。上層 (1・2) に炭化物がみられるが、特に上面近くに多量に含まれる。古墳時代の土師器甕 (87) が 1 点出土している。

**SK936** (図版 35・43、写真図版 32)

9K2・3・7・8 グリッドに存在する土坑である。東側を上層遺構に壊されている。遺構確認面はⅦ層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形はやや歪んだ円形で、直径 1.55m 前後を測る。平坦な底面から壁がやや急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大 0.57m である。覆土は黒色砂質土が主体で 8 層に分層され、細かいレンズ状堆積がみられる。炭化物は含まれない。約 130 点の古墳時代の土師器片が出土しており、器台 (88・89) 類・鉢 (90) 類・壺 (91~95) 類・甕 (96~101) 類がみられる。

**SK942** (図版 35・43、写真図版 33)

9K13・14・18・19 グリッドに存在する土坑である。竪穴住居の可能性もあったが、ここでは土坑として扱った。東側を暗渠に壊されている。遺構確認面はⅦ層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。

SD868・SX960を切っている。平面形は方形と思われ、そのコーナー部分が遺存している。平坦な底面から壁が比較的急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大0.32mである。覆土は黒色・黒褐色砂質土で2層に分層され、緩やかなレンズ状堆積がみられる。上半を占める1層に炭化物が少量含まれる。約60点の古墳時代の土師器片が出土しており、壺(102)類・甕(103~105)類がみられるが、この他に弥生土器片が1点出土している。

## 2) 溝 状 遺 構 (SD)

### SD108 (図版 35・38)

10・11J・Kグリッドを北東-南西方向に走る溝状遺構である。東側を暗渠に壊されているが、調査区外へ延びると思われる。遺構確認面はⅦ層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。P1050が底面で確認されており、P1050を切っていると思われる。幅が計測できるのは南端近くであり1.57mを測るが、北側はこの幅より大きいことが想像できる。西壁際の底面に壁に沿った浅い溝が検出されている。全長3.84m・幅0.81~1.10m・深さ0.10m前後を測る。断面は比較的平坦な底面から壁がやや急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大0.37mである。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。水平に近いレンズ状堆積がみられ、上半に炭化物が一定量みられる。約210点の古墳時代の土師器片が出土しており、鉢(106)類・甕(107・108)類・手捏ね土器(109)類がみられる。

### SD109 (図版 34~42、写真図版 33・34)

8~15F~Lグリッドを概ね北東-南西方向に走る溝状遺構である。北東端部側を暗渠に壊されているが、調査区内で収まる可能性もある。南西側は調査区外へ延びる。10・11Iグリッドで上層遺構に切られている。遺構確認面はⅦ層上面で、11グリッドライン以北では全体の平面プランが不明瞭ながら確認できたが、それ以南ではところどころしか確認することができなかった。10JグリッドでSD1018を、13・14GグリッドでSD1051・SD1052を切っており、また、10・11IグリッドでSD110に、11I・12H・15FグリッドでSD925に切られている。SX946・SX960との切り合い関係は不明である。方位は10Iグリッドあたりで変化しており、北東側はN-50°-E、南西側はN-38°-Eを指す。全体でみると地形(標高)に合わせたように走っている。また、方位の変換点あたりを境にして溝の幅が異なり、北東側は1.77~2.95m、南西側0.77~1.42mを測る。幅の広い方には、底面に低い段や西壁に沿った浅い溝がみられる。断面は、北東側は段や溝があるものの概ね平坦な底面で、壁はやや急角度で立ち上がる場所が多い。確認面からの深さは最大で0.77mである。底面標高は相対的に南西側が高く、北東側との比高差は0.30~0.40mである。覆土は、上半は黒色・黒褐色砂質土、下半は黒褐色砂質土・オリーブ黒色砂(基盤層)の混合が主体で、最大で7層に分層される。水平堆積に近いレンズ状堆積がみられ、北東側で上半に炭化物がわずかに含まれるところもあるが、南西側はほとんど含まれない。約560点の古墳時代の土師器片が出土しており、器台(110~112)類・高杯(113)類・壺(114~116・122)類・甕(117~121・123)類がみられるが、この他に弥生土器(124)・縄文土器(125)が出土している。

### SD110 (図版 36~42、写真図版 34・35)

9~15E~Jグリッドを概ね北東-南西方向に走る溝状遺構である。南西側は調査区外へ延びる。10・11H・Iグリッドで上層遺構に切られている。遺構確認面はⅦ層上面で、平面プランがわかりにくく、確認できたのは10グリッドライン以北で、それ以南では部分的な確認しかできなかった。11IグリッドでSD109をわずかに切る。方位はところどころわずかに異なるようであるが、全体でN-39°-Eを指す。幅は場所によって大きく異なるが、その状況に規則性や周辺遺構との対応関係はみられない。10Iグリッドでは0.70~1.64m、13Gグリッドでは5.09mである。11~12Hグリッドでは東壁際の底面に壁に沿った浅い溝(全長6.70m・幅0.76m・深さ0.1m)がみられる。北側が二股に分かれている。ところどころ段や窪みがみられるが、概ね平坦な底面から壁がやや急角度で立ち上がる場所が多い。確認面からの深さは最大で0.35mである。底面標高は12Gグリッド付近がもっとも深い(-1.57m)が、そこ以外はほぼ同じ(-1.40m前後)である。覆土は、上半は黒色・黒褐色砂質土、下半は黒褐色砂質土・オリーブ黒色砂(基盤層)の混合が主体で、最大で5層に分層される。水平堆積に



近いレンズ状堆積がみられ、上半に炭化物がわずかに含まれるところもある。約 120 点の古墳時代の土師器片が出土しており、高杯 (126・127) 類・器台 (128) 類・鉢 (129) 類・甕 (130~132) 類がみられる。

**SD111** (図版 35・36、写真図版 35)

8・9J・K グリッドを北東-南西方向に走る溝状遺構である。確認面はⅦ層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。溝状遺構の中では最も低い位置にある。P965 を切っている。方位は N-31°-E を指す。全長 16.97m、幅 1.53~2.52m を測る。断面形は緩やかな弧状を描き、壁がやや急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大で 0.28m である。底面標高は北東側がわずかに高いが、その差は 0.10m 前後である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3 層に分層される。緩いレンズ状堆積がみられ、上層 (1 層) に炭化物がわずかに含まれる。約 90 点の古墳時代の土師器片が出土しており、壺 (133・134) 類・甕がみられる。

**SD868** (図版 35・36、写真図版 35)

9・10J・K グリッドを概ね北東-南西方向に走る溝状遺構である。北東端部側を暗渠に壊されているが、調査区外へ続くと思われる。遺構確認面はⅦ層上面で、ほぼ全体のプランを確認することができた。SK942 に切られているが SX946・SX960 との切り合い関係は不明である。方位は N-48°-E を指す。本遺構に近い SD109 の北東部に近い方位である。幅は 0.43~1.21m で一様でなく南西端近くは細い。西壁際の底面に壁に沿った浅い溝 (全長 13.68m・幅 1.65m・深 0.14m) がみられる。壁の立ち上がりは比較的急角度である。確認面からの深さは最大で 0.65m である。覆土は黒色・黒褐色砂質土主体で、5 層に分層される。斜め方向の堆積がみられ、上部の一部 (1 層) に炭化物をわずかに含む。約 20 点古墳時代の土師器片が出土しており、壺 (135) 類や甕がみられる。

**SD871** (図版 34・36、写真図版 35)

7L・M グリッドを南北方向に走る溝状遺構である。南側を暗渠に壊されているが、調査区外へ続くと思われる。遺構確認面はⅦ層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。南側でカーブを描くようであるが、その北側の方位は N-15°-W を指す。幅は 0.82~1.16m で大きく変わるところはない。断面形は緩やかな弧状を描き壁はやや急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大で 0.33m である。覆土は黒色砂質土で、2 層に分層される。緩いレンズ状堆積がみられ、広範囲に炭化物が少量含まれる。古墳時代の土師器と思われる細片が 2 点出土している。

**SD925** (図版 37~42、写真図版 36)

10~15E~J グリッドを概ね北東-南西方向に走る溝状遺構である。南西側は調査区外へ延びる。11I・12H グリッドで上層遺構に切られている。遺構確認面はⅦ層上面で、平面プランがわかりにくく、確認できたのは 12 グリッドライン以北で、それ以南では部分的な確認しかできなかった。SD109・SD1000・SD1018・SD1052・P1004・P1005 を切る。方位は 15F グリッドあたりで大きく変化し、北東側は N-37°-E、南西側は N-67°-E を指している。幅は一定せず、1.17~4.95m である。北東側では西壁際の底面に壁に沿った溝 (全長 13.68m・幅 1.65m・深さ 0.10m) や同じ同方位の細い溝 (全長 8.39m・幅 1.11m・深さ 0.10m) がみられる。12・13H グリッドの底面にみられる溝は本遺構内で収まっていることから一部としたが、方位が N-16°-E を指し、本遺構に対して斜めとなるものである。断面では崩れた線ではあるが分層され、また同じような方位の SD1051・SD1052 がみられることから、別遺構の可能性もある。ところどころ段や窪みがみられるが、概ね平坦な底面から壁がやや急角度で立ち上がるところが多い。確認面からの深さは最大で 0.73m である。底面標高は 13H グリッド付近がもっとも深く (-1.50 ~ -1.60m)、その北東側が -1.40 ~ -1.45m、南西側が -1.30 ~ -1.35m である。覆土は、上半は黒色・黒褐色砂質土、下半は黒褐色砂質土・灰オリーブ砂 (基盤層) の混合が主体で、最大で 7 層に分層される。水平堆積に近いレンズ状堆積がみられ、上部の一部に炭化物が少量含まれるところがある。約 70 点の古墳時代の土師器片と石鏃(459)が出土している。土器は土師器高杯(136)類・鉢(137)類・壺・甕がみられる。

**SD984** (図版 37~42、写真図版 36・37)

10~15E~I グリッドを概ね北東-南西方向に走る溝状遺構である。南西側は調査区外へ延びる。10H・10I・11H・11G グリッドで上層遺構に切られている。遺構確認面はⅦ層上面で、平面プランがわかりにくく、確認できたのは12グリッドライン以北で、それ以南では部分的な確認しかできなかった。13FグリッドでP1053を切っている。方位はN-41°-Eを指すが、14Fグリッドあたりで部分的に変化する(N-25°-E)。幅は北東端側と南西側はやや細い(1.62~2.08m前後)が、その間の幅は広く2.25~3.81mである。北東側で西壁に沿った細い溝(全長18.61m・幅0.77m・深さ0.10~0.20m)や方位がほぼ同じ細い溝(全長5.68m・幅0.50m・深さ0.15前後)がみられる。概ね平坦な底面から壁が斜め方向に立ち上がるが、急角度のところも少なくない。確認面からの深さは最大で0.57mである。底面標高は南西側がわずかに高く、北東側との比高差は0.10m前後である。覆土は、上半は黒褐色砂質土、下半は黒褐色砂質土・オリブ黒色砂(基盤層)の混合が主体で、最大で5層に分層される。水平堆積やレンズ状堆積がみられ、上部の一部に炭化物が少量含まれるところがある。約30点の古墳時代の土師器片が出土しており、鉢(138)類・壺(139~141)類・甕(142)類がみられる。この他に時代は不明であるが縄文(目)がついた土器小片1点が出土している。

**SD1000** (図版 37・38、写真図版 37)

12H・I グリッドを北東-南西方向に走る溝状遺構である。両端部付近で上層遺構に切られている。遺構確認面はⅦ層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。P1031を切るが、SD925に西側のごく一部を切られている。方位はN-41°-Eを指す。全長8.20m、幅1.24~1.78mを測る。凹凸がある丸底から壁が斜め方向にそのまま立ち上がる。確認面からの深さは最大で0.48mである。覆土は黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、いずれの層も炭化物を含まない。遺物は出土していない。

**SD1018** (図版 37・38)

10Jグリッドに概ね東西方向に走る溝状遺構である。SD109・SD925に切られており、両者の底面で確認されている。緩いカーブを描いているが、中心部での方位はN-48°-Eを指す。全長3.30m、幅0.24~0.40mを測る。断面形は浅いU字形で、遺存部分の深さは最大で0.20mである。覆土は黒褐色砂質土を主体とする。レンズ状堆積がみられるが、炭化物を含まない。遺物は出土していない。

**SD1021** (図版 39~42、写真図版 37)

11~14E~Hグリッドに概ね北東-南西方向に走る溝状遺構である。南西側は調査区外へ延びる。11Gグリッドで上層遺構に切られている。遺構確認面はⅦ層上面で、平面プランがわかりにくく、部分的な確認しかできなかった。方位は緩い蛇行が何か所でみられるため場所によって異なるが、全体ではN-25°-Eを指す。幅は14Eグリッドラインあたりを境にして以北が0.50~0.88m、以南が1.35~1.79mである。やや丸みをもった平坦な底から壁が急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大で0.40mであり、底面標高は概ね-1.55m前後である。覆土は黒色・黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。緩やかなレンズ状堆積がみられ、上部に炭化物を少量含むところもある。古墳時代の土師器壺の小片1点と器種不明の細片1点が出土している。

**SD1051・SD1052** (図版 41・42、写真図版 37)

14Gグリッドに南北方向に走る溝状遺構で、両者はほぼ平行である。遺構確認面はⅦ層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。SD109・SD925に切られている。方位はSD1051がN-9°-E、SD1052がN-8°-Eである。全長は不明であるが、両端がSD109・SD925の中で収まっていると考えられ、比較的短い溝であろう。幅はほぼ一定で0.65m前後である。断面形は、SD1051は半円形に近いU字形であるが、SD1052は平坦な底面から壁が急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大でSD1051が0.36m、SD1052が0.27mである。覆土はどちらも黒褐色砂質土が主体で、3層に分層される。レンズ状堆積がみられるが、炭化物を含まない。SD1051から古墳時代の土師器壺の小片1点が出土している。

3) 不明遺構 (SX)

SX97 (図版 34、写真図版 38)

8L11 グリッドに存在する土器集中か所である。下層包含層 (VI層) 掘削時に検出された。1.35m × 0.60m の範囲で土器が集中しており、2つのまとまりがみられるものの、その間で同一個体と思われるものが存在していたため一括とした。出土状況を第10図で示した。約70点の古墳時代の土師器片が出土しており、原形に近い形をとどめているものもある。土師器高杯 (143)・甕 (144~147) がみられるが、土師器甕の体部片が多い。

SX870 (図版 34・36、写真図版 38)

7L24・25、8L3・4・5・8・9 グリッドに存在する性格不明遺構である。東側を暗渠に壊されている。遺構確認面はVII層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。ものである。平面形は不定形である。遺存部の北東-南西方向の規模は4.20mである。断面形は緩やかな弧状であり、確認面からの深さは最大0.23mである。覆土は3層に分層され、緩やかなレンズ状堆積がみられる。量は多くないが、すべての層に炭化物が含まれる。

5点の古墳時代の土師器片が出土しており、器台 (148)・壺類・甕類がみられる。

SX946 (図版 35)

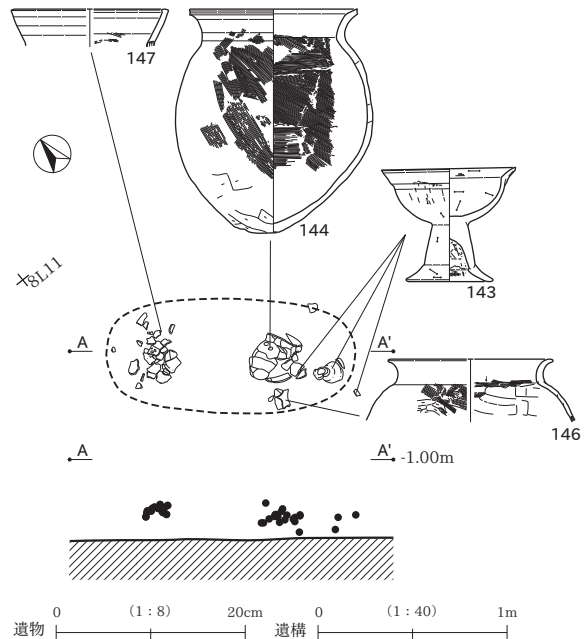
9J25、9K21、10J4・5・9・10、10K1 グリッドに存在する性格不明遺構である。遺構確認面はVII層上面であるが、全体のプランを確認できなかったものである。SD109を完掘後その壁で確認されたため、新旧関係は不明である。SD868・P933についても同じ。平面形はほぼ東西方向に長い歪んだ楕円形であると思われる。遺存部の長軸は5.90m、短軸は1.85mである。断面形は比較的平坦な底面からやや急角度で立ち上がる。確認面からの深さは最大0.40mである。覆土は2層に分層され、緩やかなレンズ状堆積がみられる。上半を占める1層に炭化物が少量含まれる。約130点の古墳時代の土師器片が出土しており、壺 (149・150) 類・甕 (151・152) 類がみられる。

SX953 (図版 35・36、写真図版 38)

9J2・3・8・9・13 グリッドに存在する性格不明遺構である。遺構確認面はVII層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。上端の平面形は北西-南東方向に長いやや歪んだ楕円形で、長軸4.68m、短軸1.14~1.37mを測る。断面はほぼ広い平坦な底面から斜め方向に立ち上がる。確認面からの深さは最大0.41mである。覆土は2層に分層され、緩やかなレンズ状堆積がみられる。上半を占める1層に炭化物が少量含まれる。約20点の古墳時代の土師片が出土している。

SX960 (図版 35・43、写真図版 38)

9K9・10・14 グリッドに存在する性格不明遺構である。東側を暗渠に壊されている。遺構確認面はVII層上面で、不明瞭ながらほぼ全体のプランを確認することができた。SX942に切られているが、SD109・SD868との切り合いは不明である。平面形は不定形である。遺存部の確認面からの深さは最大0.17mである。覆土は3層で、緩やかなレンズ状堆積がみられる。量は多くないが、すべての層に炭化物が含まれる。遺物は出土していない。



第10図 SX97 遺物出土状況

# 第V章 遺物

今回の調査では土器・土製品・石器・石製品・金属製品・木製品・鍛冶関連遺物が出土している。その量はコンテナ（内径54.5×33.6×10cm）にして約125箱であり、内訳は土器114箱、土製品0.5箱、石器・石製品・搬入礫10箱・金属製品0.5箱、柱根を含む木製品1箱である。Ⅱ層から出土している鎌倉時代後期と思われる漆器1点以外は、包含層（Ⅴ・Ⅵ層）と各層下面で検出される遺構から出土したものであり、縄文時代後期～平安時代の遺物がある。遺構出土遺物は少なく、土器でみると1/3ほどの39箱である。包含層掘削において出土した遺物は可能な限りトータルステーションによる記録を行ったが、分布状況が遺構の範囲内でまとまっているものは少ない。接合資料についてはその帰属の判断が難しいところであるが、遺構資料が含まれる場合には遺構出土遺物として扱い、複数の遺構資料が含まれる場合には、遺構の切り合い関係や破片数・破片の大きさで帰属を決めている。したがって、遺構出土となっている遺存率の高い遺物でも遺構からまとまって出土したとは限らない。接合関係は観察表に記載した。

掲載遺物のうち、土器については遺構出土資料を優先し、第Ⅳ章の遺構順に準じて記載している。その他の遺物については量が少ないため器種ごとに掲載した。上層遺構には、下層からの遺物の混入が認められ、それについても掲載している。各遺物の属性・情報については観察表（別表2）にまとめたが、特に注意される点や補足が必要なものは本文に記した。各項目の注意点は、別表2の最初に示している。

## 第1節 土器

### A 概要

縄文土器（後期）、弥生土器（前・中・後期）、古墳時代の土師器（前・中期）、奈良・平安時代の須恵器・土師器・黒色土器が出土している。遺構が帰属する奈良・平安時代と古墳時代の土器が9割以上を占める。各時代の出土状況は図版7・8に示したとおりである。

土器は標高の高い範囲にみられるが、集中の仕方は時代で異なり、上層は遺構の集中しているところで土器が多く出土するが、下層は遺構のないところでも土器が多く出土している。

出土量の多い古墳時代と奈良・平安時代の土器は、その時代の一般的な器種が揃っているが、細かい時期区分でみた場合、偏りがみられる。在地あるいは近隣で製作されたものが主体と思われるが、古代の土器では東北の影響を持つ土師器が、古墳時代の土器では畿内の影響を持つ土器が一定量みられ、遺跡の性格に関

第2表 古代土器編年対照表

	春日 (1999)	坂井 (1984)	田嶋 (1986・88)	窯跡資料			
				阿賀北	新津	頸城	佐渡
700	III 1期 III 2期 IV 1期 IV 2期	I期 II期 III期 IV期	II 3期	下小中山窯跡		苗代の腰窯跡 納戸沢窯跡	
			III期				本郷新溜池窯跡
			IV 1期	山崎窯跡	向橋窯跡		
			IV 2期 (古)	貝屋窯跡	滝寺1号窯跡		
800	V 1期 V 2期 VI 1期 VI 2・3期	V期 VI期	IV 2期 (新)	神田長峰1号窯跡		石地河内窯跡	
			V 1期	馬上窯跡		下口沢窯跡	
			V 2期	狼沢窯跡	今熊1号窯跡		
			VI 1期	VI 1期		カメ畑窯跡	
900	VI 2・3期 VII 1期	VI期 VII期	VI 2期			江の下窯跡	
			VI 3期				
			VII 1期			高野	

第3表 古墳時代土器編年対照表

時代	新潟シンボ (1993)	坂井・川村 (1993)	川村編年 (川村2000)	漆町編年 (田嶋1986)	畿内 (米田1992)
弥生時代	3期			漆町3群	
	4期	I期最後		漆町4群	庄内I
	5期	II-1期	1段階	漆町5群	庄内II
	6期	II-2期	2段階	漆町6群	庄内III
古墳時代 前期	7期	II-3期	3段階	漆町7群	庄内IV
	8期	III期	4段階	漆町8群	布留I
	9期	IV期	5段階	漆町9群	布留II
	10期		6段階	漆町10群	布留III
古墳時代 中期				7段階	漆町11群 布留IV
				8段階	漆町12群
				9段階	
				10段階	漆町13群
				11段階	



係して注目される。

時期区分については、古代では春日真実氏による編年〔春日 1999〕、古墳時代では「新潟シンボ編年」〔新潟県考古学会 2000〕・「漆町編年」〔田嶋 1986<sup>ほか</sup>〕を用いたが、各時代の研究者による成果も援用している（編年対照表参照）。

## B 記 述

記述にあたって、『山三賀Ⅱ遺跡』〔坂井<sup>ほか</sup> 1989〕を参考にして以下のように用語の整理をした。古代・古墳時代共通とする。

①ナデ・ケズリ・ハケメ・ミガキ・ヨコナデーロクロの回転を利用しない調整。

→図化においてはケズリ・ミガキを模式化し、ケズリは移動した砂粒の終点を短線で区切った「┊」（右から左へ）、ミガキは「⇔」（横方向）とした。ただし、ミガキの痕跡が特徴的で明瞭に残るものについてはそれを実測している。また、ヨコナデはその範囲を実線で表した。

②ロクロナデ・ロクロケズリ・カキメーロクロの回転を利用した調整。

→図化においてはカキメを定規線で表すことを原則としたが、回転が弱く一定しないカキメ（土師器長甕 B1 類）については、フリーハンドで表した。

③タタキメ・あて具痕ータタキ調整で外面と内面にみられる工具痕。観察表では技法名称として使用。

④底部のヘラ切り・糸切りーロクロの回転を利用したヘラや糸による切り離し。

また、部位名称がわかりにくいものや分類のために計測を行った部位については、器種分類図（第 11 図）の中で示した。

## C 分 類

時代ごとに、製作技術や形態の特徴による器種分類を行った。分類表記は、器種内の大別を A・B・C…、細別を 1・2・3…としたが、量が少ないものについては器種名のみ表記した。ローマ数字は法量による分類を表す。須恵器については、胎土にみられるいくつかの特徴が生産地を反映していると思われるため、その分類も行った（第 11 図中）。

### 1) 奈良・平安時代

8 世紀初め～9 世紀末（Ⅲ～Ⅵ期）の遺物がみられるが、施釉陶器は出土していない。須恵器・土師器・黒色土器が出土しており、土師器には赤彩が施されるものも少量みられる。また、墨書・刻書が施される食膳具がある。

### 須 恵 器

器種は、無台杯・有台杯・杯蓋・高杯・鉢・長頸壺・短頸壺・壺蓋・甕がみられる。胎土も生産地を想定した違いがみられ、5 種に分けられる（第 11 図中の表）。

無 台 杯 体部の立ち上がりの角度（以下、斜度という）により 3 種に分けた。本遺跡では、斜度が急なものと緩やかなもので、胎土の違いをみることができ。底部の切り離しは、ロクロ回転を利用した「ヘラ切り」と「糸切り」があるが、「ヘラ切り」はその後にナデ調整がされ、痕跡がみられないものも多い。

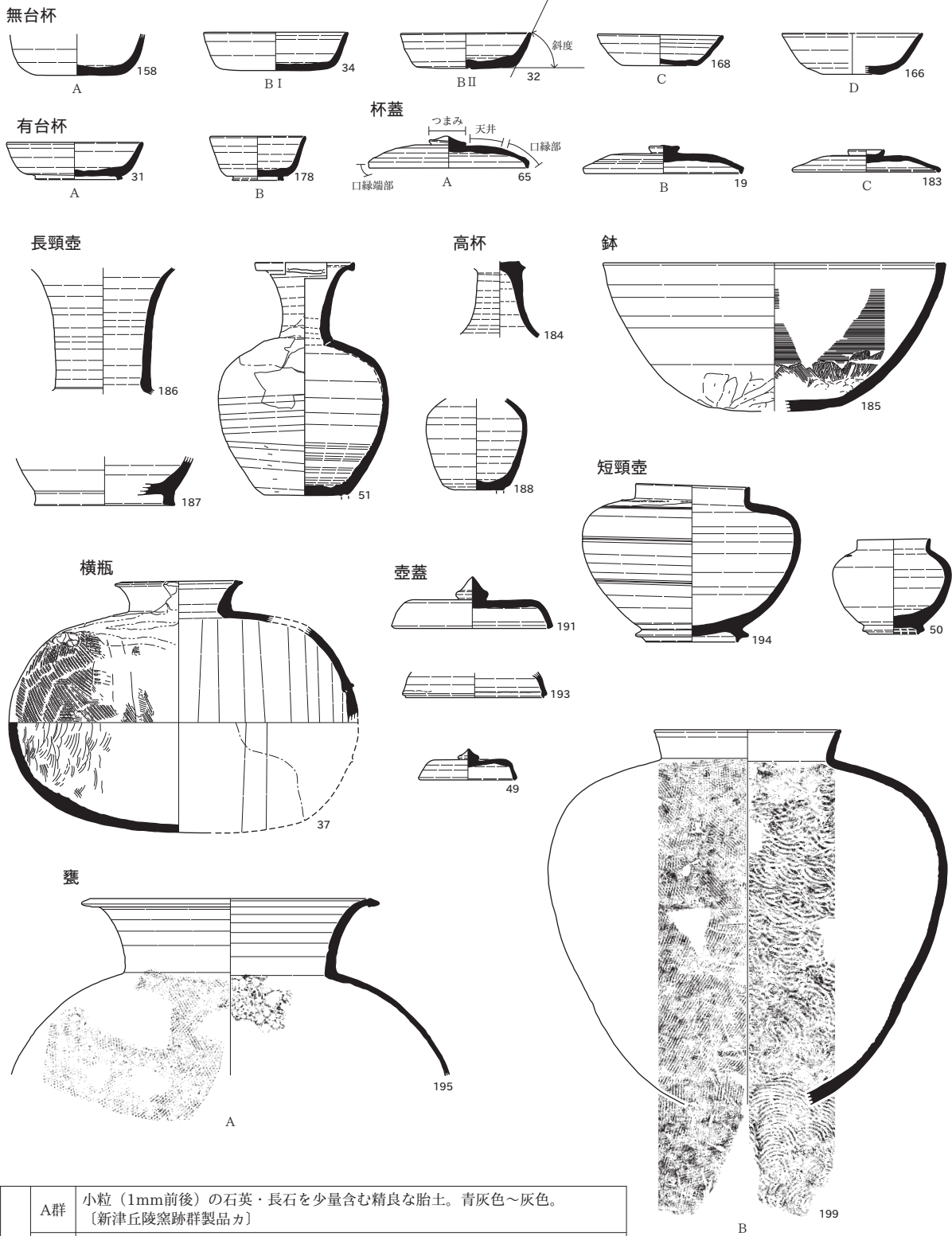
A 類：体部の斜度が 70° 以上のもの。

B 類：体部の斜度が 60～70° のもの。口径の大きさを I（口径 13.5cm 以上）と II（口径 13.5cm 未満）に分けられる。

第 4 表 須恵器無台杯体部斜度

図版 No.	報告 No.	出土地点 (遺構名)	斜度 (°)	胎土 (群)
44	4	SI307	69°	B
44	17	SB2004-P393	59°	A ?
45	32	SK185	60°	A
45	33	SK185	65°	B
45	34	SK185	65°	A
46	36	SK243	62°	B
47	58	SX573	63°	A
52	158	10I16 他	71°	B
52	159	10I17 他	67°	A
52	160	13G4 他	60°	B
52	161	15F12	65°	A
52	162	13G10	65°	A
52	163	13H2 他	61°	A
52	164	8K2	63°	B
52	165	13H7	55°	D
52	166	12G25 他	55°	E
53	167	10J17	52°	C
53	168	12H24	50°	C
53	169	13G20 他	52°	C
53	170	10I8 他	53°	C
53	171	7L23	53°	C
53	172	9J18 他	49°	C
59	271	14G8 他	50°	C
59	272	11H15	50°	C
59	273	10J18	50°	C
59	274	13G17 他	45°	C

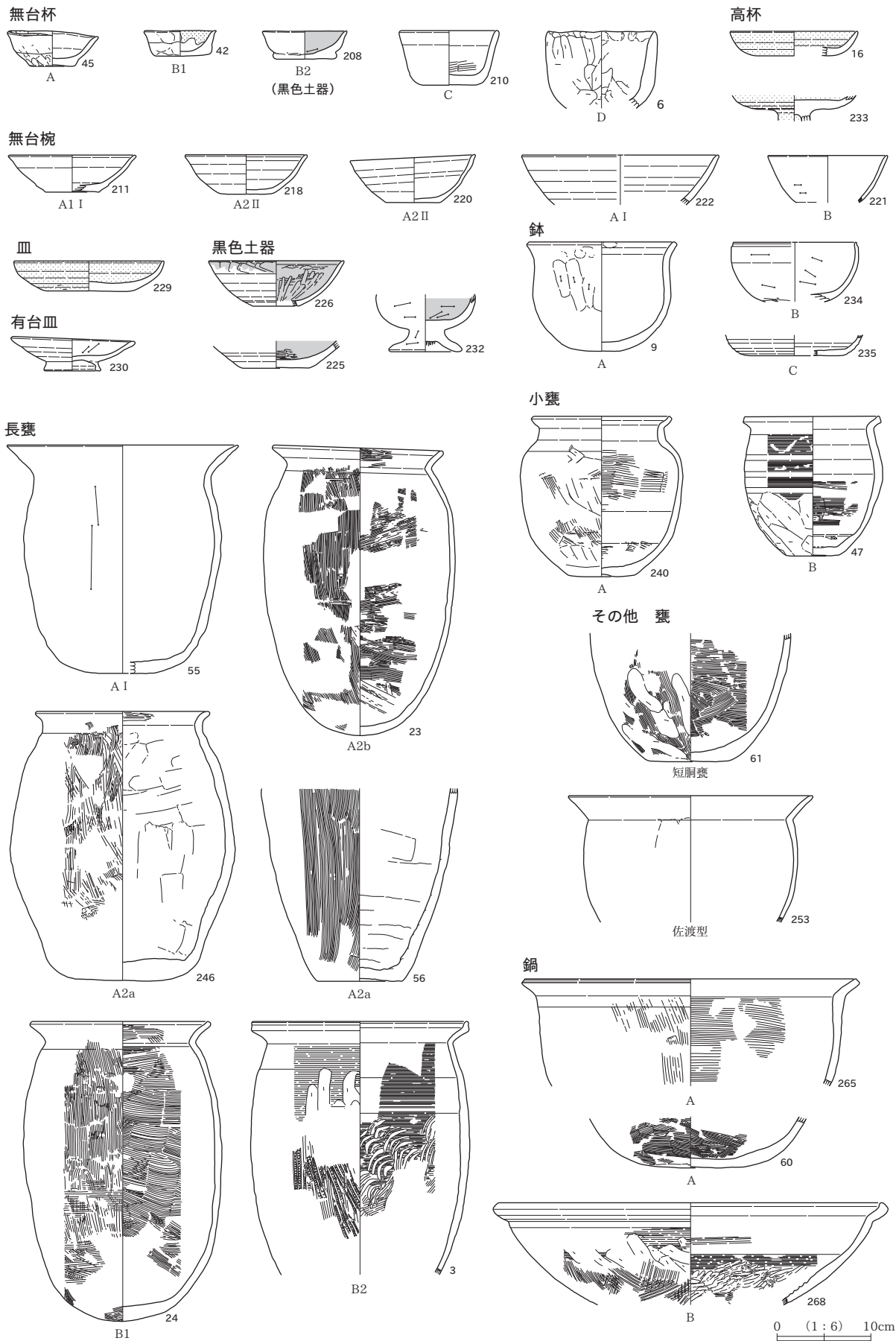




須恵器の胎土	A群	小粒（1mm前後）の石英・長石を少量含む精良な胎土。青灰色～灰色。 〔新津丘陵窯跡群製品カ〕
	B群	大粒（2mm～5mm）の石英・長石を多量に含む相対的に粗い胎土。灰色～灰白色。 〔阿賀北地方窯跡群製品カ〕
	C群	白色小粒子を多量に含むやや砂質感がある胎土。器面は滑らかで黒色の吹出しがみられる。青灰色～灰白色。 〔佐渡小泊窯跡群製品カ〕
	D群	石英・長石を少量含む砂質の強い胎土。暗灰色～灰色。 〔西古志窯跡群製品カ〕
	E群	白色小粒子を含む砂質感がある精良な胎土。暗灰色～灰色。 〔滝寺・大貫窯跡群製品カ〕

195・199  $\frac{0}{10}$  (1:8) 10cm  
 その他  $\frac{0}{10}$  (1:6) 10cm

第 11 図 奈良・平安時代の須恵器器種・胎土分類



第12図 奈良・平安時代の土師器・黒色土器器種分類

C類：体部の斜度が60°未満のもの。

D類：底部から体部への立ち上がりがA～Cのような直線的ではなく、下部で丸みをみせながら立ち上がる。椀に近い器形である。

**有台杯** 高台の高さを除いた身の深さ(径高指数)により2種に分けたが、口径の大きさでの分類も同じになる。

A類：径高指数(器高-高台分/口径×100)が30未満の浅いもの。(口径は13cm以上)

B類：径高指数(器高-高台分/口径×100)が35以上の深いもの。(口径は12cm未満)

**杯 蓋** 口縁端部の形態により3種に分けた。

A類：口縁端部が長く垂下するもの。

B類：口縁端部が短く垂下するもの。口縁端部の断面が逆三角形になるものが多い。

C類：口縁端部が短く収まるもの。口縁端部の断面が玉縁状である。

**高 杯** 脚部だけが出土している。杯蓋を逆さまにした形態の杯部をもつと思われる。

**長頸壺** 長い頸部をもつ壺で、体部は球形のもの・やや長めのものがある。法量的には大形・中形・小形がみられる。

**短頸壺** 短い口縁部をもつ壺で、体部には張るものと張らないものがあり、法量的には大形・小形がみられる。小形はロクロ水挽きによる成形と思われるが、大形はタタキメが体部下部の外面にみられることから、製作技法の違いで分類できる可能性もある。

**壺 蓋** 短頸壺等の蓋である。身に被せて焼成しており、双方にその接着痕がみられる。

**横 瓶** 俵形の体部をもつ。体部の成形は、ロクロ長甕の成形技法によるものである。

**鉢** 1点のみ出土している。体部が逆ハの字状に開く大振りの鉢である。

**甕** 大型の甕が数点みられ、頸部の径(体部に開けられた孔の径)と体部の最大径との関係で分けた。

A類：体部最大径に対する頸部の径が大きい。口縁部の長さは長い。

B類：体部最大径に対する頸部の径が小さい。口縁部の長さは短い。

**土 師 器**

器種は、無台杯・無台椀・皿・有台皿・鉢・小甕・長甕・鍋・製塩土器がみられる。無台杯・無台椀については黒色土器で同じ分類を使っている。

**無台杯** いずれもロクロ未使用のものであり、形態から大きく3種に分け、さらに細分したものもある。

A類：小型で体部がハの字状に開き、身がやや深い。

B類：小型で体部が直立気味に立ち上がり、身が浅い。

B1類：体部の立ち上がりが直立気味で、底部のでっぱりがない。

B2類：体部の立ち上がりは直立気味で、底部のでっぱりがある。

C類：コップ形で、身が深いものを一括した。形態にバラエティがみられる。

**無台椀** 調整技法によって大きく2種に分け、さらに細分したものがある。

また、同形で法量の違いがみられることから、I(口径20cm前後以上)・II(口径12~13cm前後)も設定した。

A類：体部ロクロナデが行われているもの。底部はほとんどが糸切りである。

A1類：体部が直線的に立ち上がるもの。A2類に比べ径高指数が小さい(浅い)。

A2類：体部が内湾気味に立ち上がるもの。径高指数(深い・浅い)でさらに分けることができるようであるが、ここでは分類基準として扱わなかった。

第5表 須恵器有台杯径高指数

図版 No.	報告 No.	出土地点 (遺構名)	径高指数	胎土 (群)
44	1	SI246	27	D
45	31	SK183 他	24	A
46	39	SK825	24	A
46	40	SK825	28	B
46	48	SX71	36	A
48	78	P402	35	A
48	79	P440	24	B
53	173	13F16 他	27	B
53	175	14G4	25	B
53	176	14F14 他	28	A
53	178	11H5 他	43	A

(器高-高台分) / 口径 × 100

第6表 土師器椀径高指数

図版 No.	報告 No.	出土地点 (遺構名)	径高指数
48	68	P21	38
48	69	P21	33
56	211	10I13 他	29
56	212	8K23 他	34
56	214	8K10	35
56	215	8L8 他	33
56	216	8L3	37
56	217	8L2	33
56	218	8L12 他	33
56	219	11I18 他	35
56	220	15F5 他	39
56	226	13H17 他	34
59	280	11H20 他	34

器高 / 口径 × 100

B類：丁寧なナデやミガキが施されるもの。器壁が薄く、上質のものであろう。

皿 内外面赤彩されたものが出土している。口径をみると、いくつかの規格を想定できるが、量が少ないため細分していない。

有台皿 直線的に開く体部に径が小さい（口径の1/2以下）高台が付くものが1点出土している。他に赤彩された高台のみが出土しているが、有台碗かもしれない。

高杯 杯部が皿形で長い脚をもつと思われる。赤彩が施され、装飾効果をもたらした丁寧な作りである。

鉢 口縁部が外反するものと内湾するものがある。内湾するものには器面調整の違いがあり、機能の違いが想定できる。

長甕 製作におけるロクロ使用の有無で大きく分け、さらに調整技法・形態により細分した。

A類：ロクロを使用していないもの（カキメがみられないもの）。

A1類：体部外面にミガキが施されるもの。

A2類：体部外面にハケメが施されるもの。

A2a：底部平底 A2b：底部丸底

B類：ロクロを使用しているもの（カキメがみられるもの）。

B1類：体部内外面にハケメが施されるもの。ロクロの回転による調整は積極的ではないためか、カキメの痕跡はわずかにみられる程度である。くの字状に外反する口縁部の端部が丸く収まる。

B2類：体部にカキメ・タタキメ（当て具痕）がみられるもの。くの字状に外反する口縁部の端部が面をもち、上方につまみ上げられている。

小甕 製作におけるロクロ使用の有無で分けた。

A類：ロクロを使用していないもの。体部は外面に縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメが施され、口縁部はヨコナデされるものが多い。

B類：ロクロを使用しているもの。体部にカキメやロクロメがみられる。

鍋 製作におけるロクロ使用の有無で分けた。

A類：ロクロを使用していないもの。体部の立ち上げりは急で、身が深い。丸底であるが接地面は平である。体部にはハケメが施され、口縁部はヨコナデされる。

B類：ロクロを使用しているもの。体部にカキメやロクロメがみられる。

その他の甕

佐渡型甕：口縁部がくの字状に外反し、体部は長甕に比べて短めである。器壁は薄い。

短胴甕：全体形が不明であるが、長甕とは明らかに異なる器形であり、短胴甕とした。1点のみ出土している。

## 黒色土器

器種は限られ、本遺跡からは無台杯・無台碗・高杯が出土している。

無台杯 分類は土師器無台杯と同じ。

無台碗 体部が内湾気味に立ち上がる。内面が黒色処理されている。大形と小形がみられる。

高杯 碗形の杯部と短い脚を持つ。杯部の内面に黒色処理が施されている、装飾効果をもたらした丁寧な作りである。

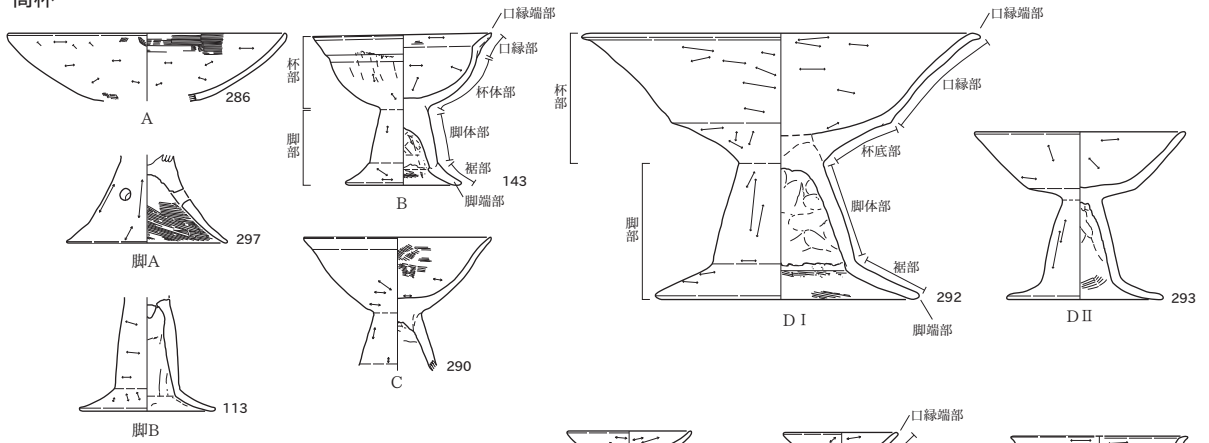
### 2) 古墳時代

前期（6期）～中期（13群）の遺物がみられる。形態上の系譜を意識したが、器種によってはそれが考慮されていないものもある。高杯・器台・鉢・壺・甕が出土している。

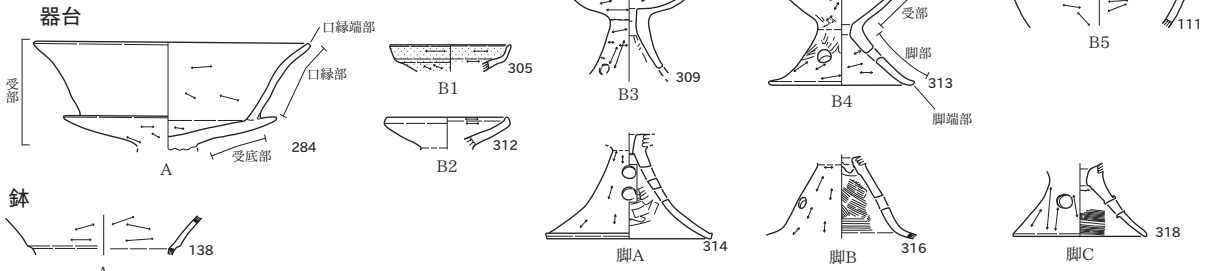
高杯 脚部のみを遺存もあり、分類可能なため脚部の分類も行った。

A類：内湾する口縁部をもつもの。いわゆる東海系の高杯である。

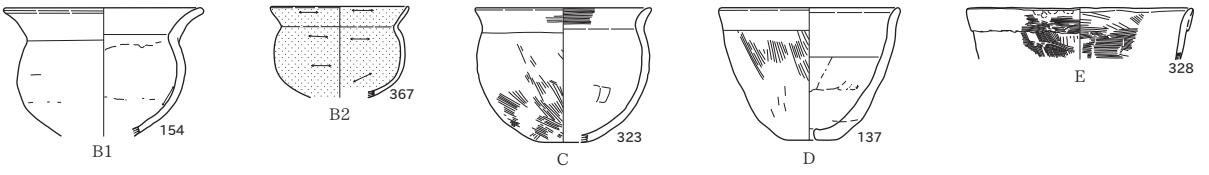
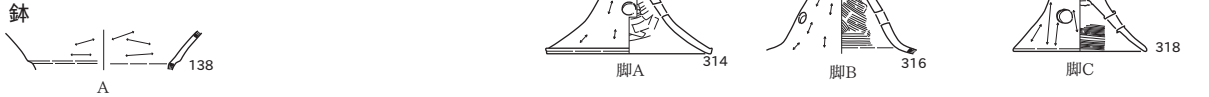
高杯



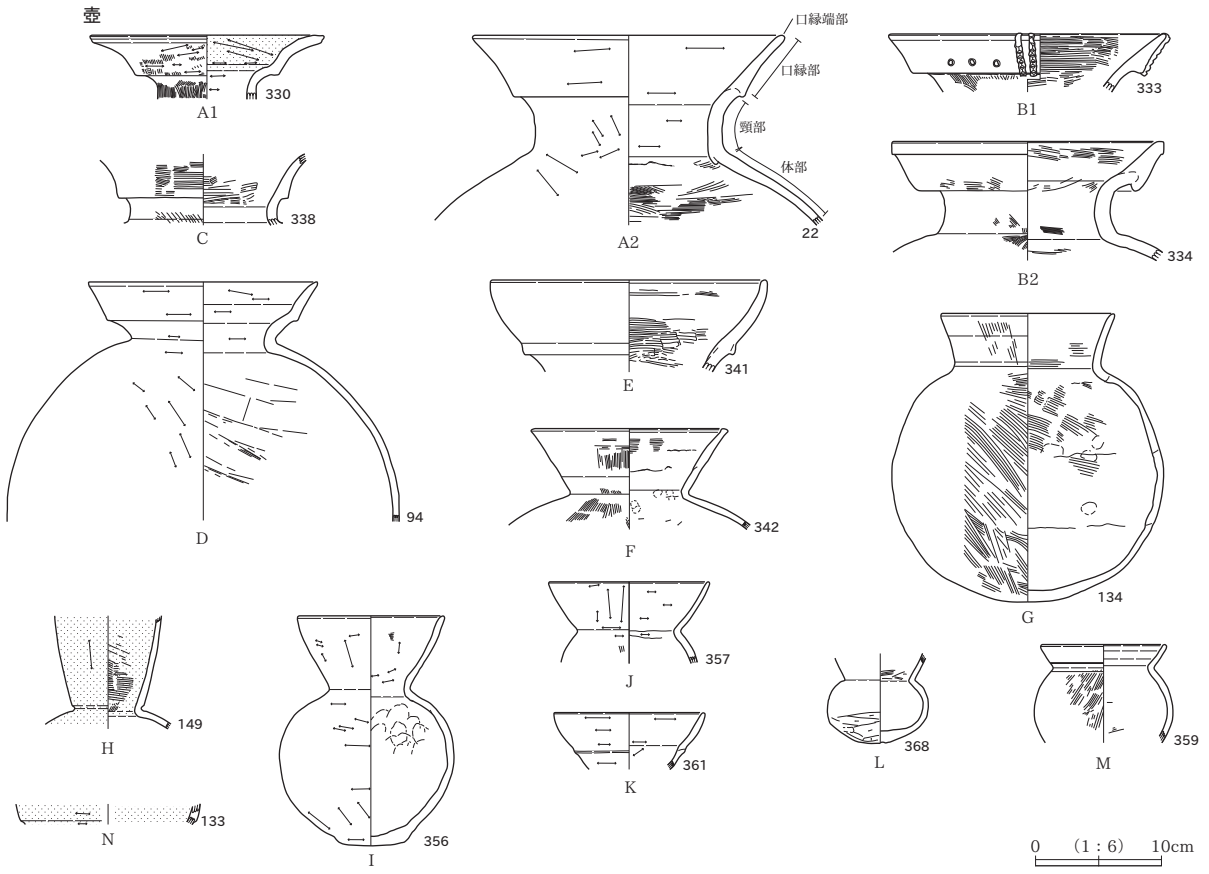
器台



鉢



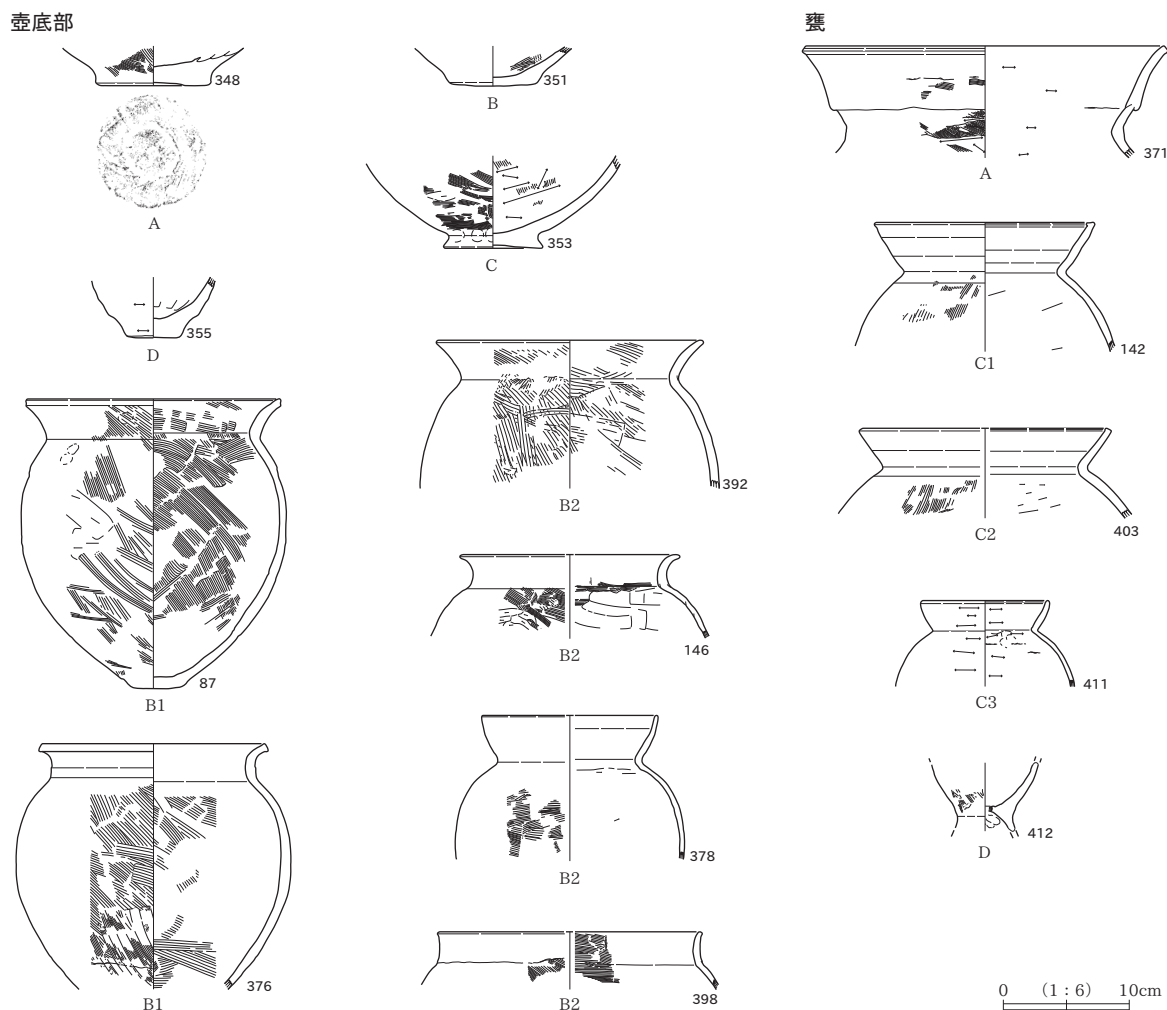
壺



0 (1:6) 10cm

第13図 古墳時代の土師器器種類分類(1)





第14図 古墳時代の土師器器種分類(2)

B類：杯体部が碗形の丸みを帯びた杯体部をもつもの。脚は棒状脚。

C類：口縁部が逆ハの字状に開いて立ち上がるもの。

D類：杯部下半に稜をもつもの。脚は畿内系柱状屈折脚。大形（Ⅰ）と小形（Ⅱ）のものがある。

脚A類：脚部が外反するもの

脚B類：畿内系柱状屈折脚をもつもの。細いものと太いものがある。

器台 受部のみの遺存もあり、分類可能なため脚部の分類も行った。

A類：北陸系の流れをくむと思われる装飾器台。1点のみ出土している。

B類：小型の器台を細分した。

B1類：口縁部が上方につまみあげるもの。

B2類：口縁端部が面をもつもの。

B3類：受部が内湾するもの。

B4類：受部は直線的に開き、端部は丸く収まるもの。

B5類：受部は内湾し、口縁端部を外方へつまみだすもの。1点のみ出土している。

脚A類：大きく外反するもの。

脚B類：やや内湾気味に広がる脚が裾部で外反するもの。

脚C類：脚の広がりが大きくないもの。短めのものが多いようである。

鉢 形態や調整に大きな差がみられ、用途の差とも考えられる。

A類：口縁部と体部の間に段をもつもの。ミガキや赤彩が施されるものが多い。

B類：口縁部が「く」の字状のもの。

B1類：口縁部が外反するもの。口縁部はB2類よりやや長い。

B2類：口縁部が内湾気味のもの。

C類：短い口縁部が外反するもの。

D類：体部が内湾気味に立ち上がり、底部に孔をもつもの。

E類：鉢と思われるが、A～D類との共通点がほとんどない。1点のみ出土している。

壺 系統の異なる土器がいくか認められる。いわゆる小型壺を含めて分類した。

A類：筒状に延びる頸部に長い口縁部が外反する二重口縁壺。畿内系の流れをくむものと考えられる。

A1類：口縁部の外反が強いもの。

A2類：口縁部の外反が弱いもの。畿内系の在地かあるしたもの可能性がある。

B類：短い口縁部が外反する二重口縁壺。口縁部外面下端が肥厚している。東海系の流れをくむものと考えられる。

B1類：口縁部に装飾を施すもの。1点のみ出土している。

B2類：口縁部に装飾を施さないもの。

C類：細口の有段口縁部をもつもの。口縁部内面の段の有無で分類される可能性がある。

D類：外反する頸部に短めの口縁部が外傾するもの。

E類：内湾する口縁部の外面下端の肥厚により段を有するもの。山陰地方の影響を受けたものの可能性がある。1点のみ出土している。

F類：大きく開く口縁部をもつもの。体部径に対する頸部（径）は小さい。

G類：直立気味に立ち上がる口縁部をもつもの。体部径に対する頸部（径）は大きい。

H類：細長い口縁部をもつ小型壺で段をもつもの。体部は扁平な球形と思われる。1点のみ出土している。

I類：球形の体部に内湾気味の長い口縁部がつく壺。畿内系の流れをくむいわゆる長頸壺。

J類：球形の体部に内湾気味の短い口縁部がつく小型壺。

K類：半球形の体部に内湾気味の比較的長い口縁部がつく小型壺。

L類：扁平な球形の体部に比較的長い口縁部がつく小型壺。

M類：球形の体部に短いくの字状の口縁部がつく小型壺。

甕 主に口縁部形態による分類を行った。

A類：有段口縁の甕。1点のみ出土している。

B類：「く」の字または「コ」の字状口縁の甕。口縁端部の形状により細分した。

B1類：口縁端部が面をもつもの。

B2類：口縁端部が丸く収まるもの。

C類：くの字状を呈す口縁部の端部が肥厚するもの。体部内面はケズリが施されている。布留系の甕。

C1類：肥厚する口縁端部が水平なもの。

C2類：肥厚する口縁端部が外傾するもの。

C3類：精製の甕。口縁端部は肥厚せず丸く収まる。1点のみ出土している。

D類：台付き甕。2点出土しているが、全体の形は不明である。

## D 出土土器等各説

## 1) 上層遺構出土土器

## SI246 出土土器 (図版 44、写真図版 40)

図示した須恵器有台杯 (1)・杯蓋 (2)、土師器長甕 (3) の他に、須恵器甕の体部小片 1 点、土師器細・小片約 90 点出土している。土師器細・小片には時代・器種不明のものも多いが、古代の土師器長甕 A2 類・B2 類、小甕 B 類と思われる破片や古墳時代の土師器甕類等もみられる。須恵器甕体部片は、内面が彫り込みに木目が直交するタタキメ、外面が木目のみられない当て具痕が残るものである。

1 は須恵器有台杯 A 類で、胎土はやや砂質感の強い D 群である。口縁部から体部にかけて一部炭化物・ススが付着している。2 は天井がやや高い須恵器杯蓋 B 類。厚みのない扁平なつまみが付く。胎土に 5mm 前後の長石粒がごく少量みられるものの胎土は緻密であり A 群とした。3 はロクロ使用の土師器長甕 B2 類である。体部から口縁部への屈曲は明瞭なくの字状で、口縁端部は上方につまみあげられている。体部外面上半にカキメ、下半にタタキメを施し、外面中位にタテ方向のケズリ、内面の下部にハケメのやや粗い調整がみられる。外面のスス付着が激しい。時期は、1・2 がⅣ 1 期、3 がⅤ期と思われる。

## SI307 出土土器 (図版 44、写真図版 40)

図示した須恵器無台杯 (4)・杯蓋 (5)、土師器無台杯 (6・7)・鉢 (8・9)・長甕 (10~12)、古墳時代の土師器甕 (13) の他に、土師器細・小片約 100 点出土している。土師器細・小片には古墳時代のものや時代不明のものも多いが、掲載した古代の土師器無台杯 C 類、鉢 A 類・B 類、長甕 A2 類 B1 類と同類の破片がみられる。掲載遺物のうち、6~10 はカマドおよびその周辺から出土しており (第 7 図)、変色や器面剥落等の被熱の痕跡が著しいものもある。土師器小片はハケメのみられる奈良時代の土師器が中心であるが、混入したと思われる古墳時代の土師器も若干みられる。

4 は須恵器無台杯 B I 類で、胎土は 1mm 前後の長石粒が含まれた B 群。5 は口縁端部の垂下が長い杯蓋 A 類で、口縁部径が 16cm 強と大きいものである。胎土は比較的精良な A 群。内面はやや摩耗しており、墨痕がほぼ全面に及ぶ。硯に転用されたのであろう。6・7 はロクロ未使用・中形・深い身という点で一括にした土師器無台杯 C 類である。両者はまた、口縁部の内側を指の調整によって先細りにする等の共通点もあるが、全体の形状や器壁の厚さ等はかなり異なっており、機能の違いがあるのかもしれない。8 は口縁部が内湾する土師器鉢 B 類、9 は口縁部が外反する土師器鉢 A 類である。どちらも被熱によると思われる変色がみられ、9 は外面に激しい崩落の痕がみられる。10・11 はロクロ未使用 (A 類)、12 はロクロ使用 (B 類) の土師器長甕である。10 は体部にハケメ調整が施された長甕 A2 類で、ハケメの方向は外面がタテ方向、内面がヨコ方向である。口縁部が水平に長く延び、丁寧なヨコナデがされる。体部は膨らまず、器壁は比較的薄い。胎土は比較的精良であり軟質感がある。11 は、ロクロ未使用の長甕 A 類の底部。調整が粗いが、焼き上がりは堅緻である。12 は体部全面にハケメが施される長甕 B1 類の底部と思われるもの。ハケメ調整により底を押し出し丸底にしている。須恵器に近い胎土で焼成は良好である。13 は古墳時代の布留型甕で土師器甕 D2 類。口縁端部の肥厚はほとんど認められず、内側の先端をつまみ上げることによって端面が外傾している。古代の土器 4~12 の時期は、5 がⅢ 1 期かⅢ 2 期、10 がⅢ 2 期、その他がⅢ期で捉えられる。13 は古墳時代前期 (9 期か 10 期) の土器であろう。

## SB2001 出土土器 - P46 (図版 44、写真図版 40)

本遺構を構成する柱穴は 9 基あるが、遺物の出土量は極めて少ない。図示した P46 出土遺物 (14) の他に、7 基の柱穴から合わせて約 40 点の土師器細・小片が出土している。古墳時代・古代の識別ができるものもあるが、時代・器種不明のものが多い。

14 は古墳時代の土師器甕。くの字状の口縁部で、外側の先端がつまみ出されて明瞭な面をもつ。甕 B1 類。

## SB2003 出土土器－ P113 (図版 44、写真図版 40)

本遺構を構成する柱穴は8基あるが、遺物の出土量は極めて少ない。図示したP113出土遺物(15)の他に、6基の柱穴から合わせて約30点の土師器細・小片が出土している。古墳時代・古代の識別ができるものもあるが、時代・器種不明のものが多い。

15は天井がやや高い須恵器杯蓋B類で、外面全体にロクロナデが施されるが粗く、ヘラ切り痕の凹凸が少し残る。外面の一部に自然釉が掛かる。胎土に1～3mmの長石粒が混じるが、素地は精良で胎土A群。時期はⅢ2～Ⅳ1期と思われる。

## SB2004 出土土器－ P244・P393・P406・P514 (図版 44・45、写真図版 40)

本遺構を構成する柱穴は9基あり、すべての柱穴に遺物がみられる。合わせて約240点の土師器細・小片が出土しているが、時代・器種不明のものが多い。4基から出土した須恵器無台杯(17)・杯蓋(18・19)、土師器高杯(16)・小甕(20)・長甕(21)、古墳時代の土師器壺(22)の7点を図示した。これらは遺存率が高いが遺構単独出土はほとんどなく、周辺の包含層出土破片と接合したことが多い。

16はP244から出土した土師器高杯と思われるもの。杯部が皿状(高杯A類)で、内外面赤彩が施される。器面は滑らかであるが、ミガキは認められない。17～19はP393から出土したもの。17は須恵器の無台杯BⅠ類。同類の中では体部の立ち上がりがやや緩やかである。焼成が不完全なため焼き上がりは土師器のようであるが、胎土は比較的精良でA群。18・19は須恵器杯蓋B群で、端部が逆三角形を呈する。18は口縁部径が17.2cmと本遺跡で最大である。天井から口縁部の張りが強く高さもある。どちらも胎土A群で、19は断面の中央部分の色調がその両脇の色調と異なるサンドカラーがみられる。20はP406出土の土師器小甕A類。口縁端部は丸く取まり、口縁部のヨコナデがしっかりされている。外面のススと口縁部内面の炭化物が顕著である。21・22はP514から出土している。21は土師器長甕の底部で、体部外面は縦方向のケズリの後にナデがされており、ケズリの痕が残るものの器面は比較的滑らかである。底部外面も丁寧なナデが施されている。長甕A2a類に属するものと思われる。胎土に金雲母がみられる。22は古墳時代前期の土師器壺A2類。大形で口径が24.4cmある。直立した頸部から口縁部が外反するが、反りは小さい。外面と内面の口縁部・頸部にミガキが施されている。時期は、20がⅢ期、16・19がⅣ1期、17・18がⅣ2期、22が古墳前期9・10期と考えられる。

## SB2005 出土土器－ P118・P234・P522・P836 (図版 45、写真図版 41)

本遺構を構成する柱穴は9基あり、すべての柱穴に遺物がみられる。合わせて約230点の弥生土器・土師器の細・小片が出土しているが、時代・器種不明のものが多い。弥生土器は下層遺構出土土器と同一個体である。4基から出土した須恵器有台杯(27)、土師器小甕(25)・長甕(23・24・26)、古墳時代器台(28)の6点を図示した。

23・24はP118から出土している。23は土師器長甕A2b類、24は土師器長甕B1類。どちらも遺存率が高いが、他の遺構や周辺の包含層出土破片と接合するものである。ハケメ調整を主体としており、外面は縦方向、内面は横方向のハケメがみられる。底部は丸底で、工具により押し出したものと思われる。24の体部外面に弱いカキメが部分的に残る。23はカキメがみられないが、それ以外は24とまったく同じであり同類とした。焼成は良好で、焼き上がりは堅緻である。25・26はP522から出土している。25は土師器小甕A類。体部外面は縦方向のハケメ調整であり、口縁部のヨコナデがしっかりされる。口縁端部は丸く収まる。スス・炭化物はほとんど認められないが、被熱によると思われる変色がみられる。26は土師器長甕A2類で、口縁部が短く外反する。外面にススが付着している。27はP234から出土した須恵器有台杯A類。底部外面に硯に転用したと思われる墨痕がみられるが、摩耗は顕著ではない。胎土はA群でサンドカラーがみられる。28はP836から出土した古墳時代の土師器器台B1類。受部内面に放射状のミガキ痕が認められる。時期は、23・24・26・27がⅢ期、25がⅣ期、28が古墳時代6・7期と思われる。

## SB2006 出土土器－ P649 (図版 45、写真図版 41)

本遺構を構成する柱穴は9基あるが、遺物の出土量は少ない。7基の柱穴から合わせて約50点の土師器が出



土しているが、時代・器種不明のものも多い。P649 出土の遺物 (29) を図示した。

29 は土師器甑の把手である。内外面とも細かい目のハケメ調整であるが、外面の把手や内面の一部にナデもされている。時期は8世紀の中葉あたりであろう。

**SB2009 出土土器— P392** (図版 45、写真図版 41)

本遺構を構成する柱穴は7基あるが、遺物の出土量は極めて少ない。2基の柱穴から合わせて4点の土器が出土しているが、図示した P392 出土遺物 (30) の他は、時代・器種不明の土師器細片である。

30 は土師器小甕 A 類で、25 によく似る。体部外面は縦方向のハケメ調整であり、口縁部のヨコナデがしっかりされる。口縁端部は丸く収まる。口縁端部から外面にススが付着しており、被熱によると思われる変色もみられる。時期はⅢ期と思われる。

**SK183 出土土器** (図版 45、写真図版 41)

図示した須恵器有台杯 (31) の他に、時代・器種不明の細片が1点出土している。

31 は有台杯 A 類で、包含層出土破片が接合している。高台が歪んで貼り付けられており、片側に少し寄っている。底部はヘラ切りの後ナデを行っているが雑である。胎土は A 群で、1mm 前後の長石粒を含む。時期はⅣ1期と考えられる。

**SK185 出土土器** (図版 45、写真図版 41)

図示した須恵器無台杯 (32~34)・杯蓋 (35) の他に、古墳時代土師器1点と時代・器種不明土師器小片1点出土している。

32~34 はいずれも須恵器無台杯 B 類で、口径により 32 が須恵器無台杯 B Ⅱ類、33・34 が須恵器無台杯 B Ⅰ類とした。いずれも底部外面はヘラ切りの後ナデを行なっているが、34 には板状圧痕がみられる。胎土は 32・34 が A 群、33 が B 群で、後者は前者に比べ長石が多く、白っぽい灰色をしている。35 は須恵器杯蓋 B 類で、口縁端部断面が逆三角形をしている。胎土は A 群。時期は、34 がⅢ2~Ⅳ1期、32・33・35 がⅣ1期と思われる。

**SK243 出土土器** (図版 46、写真図版 41)

図示した須恵器無台杯 (36)・横瓶 (37) の他に、時代・器種不明の土師器が1点出土している。

36 は須恵器無台杯 B Ⅰ類で、底部外面に「+」のヘラ書きがみられる。また、その中央部分に墨痕が認められ、全面が摩耗していることから硯に転用されたと思われる。胎土は B 群。37 は両面閉塞の須恵器横瓶。SK825 出土の破片も接合している。片側の外面にタタキメ・内面に当て具痕がみられる。自然釉が口縁部内外面と体部外面上部に掛かる。胎土は B 群。時期はどちらもⅣ1期と考えられる。

**SK650 出土土器** (図版 46、写真図版 42)

図示した土師器小甕 (47) のみの出土である。

ロクロ使用の土師器小甕 B 類。体部外面はロクロナデの後上半にカキメ調整が施されるが、ロクロナデの凹凸が太い沈線状に残る。下半は縦方向のケズリがみられる。時期はⅣ1~Ⅳ2期と考えられる。

**SK825 出土土器** (図版 46、写真図版 42)

図示した須恵器有台杯 (39・40)・杯蓋 (41)、土師器無台杯 (42~46) の他に、約 30 点の土師器細・小片が出土している。古代土師器無台杯 B 類の細・小片や時代・器種不明の土師器細片がみられる。

39・40 は須恵器有台杯。39 は高台内に墨痕が認められ硯として二次使用されたと考えられるが、摩耗はほとんどみられない。40 は高台内にナデ調整時の擦痕と「一」のヘラ書きがみられる。胎土は 39 が A 群、40 が B 群。41 は須恵器杯蓋 B 類。胎土は A 群。口径に対して天井が高く、口縁端部は断面三角形を呈す。42~46 は土師器無台杯 A 類。42~44 は身が浅く底部の張り出しがないもの (B1 類)、45 は身が深くハの字状に開くもの (A 類)、46 は身が浅く底部の張り出しがあるもの (B2 類)。いずれも内面が丁寧なナデカミガキ調整が施される。46 は内面黒色処理をされている。口縁部にタール状の炭化物やススが付着しており、灯明具として使

用された可能性がある。時期は、39～41はⅢ2期と考えるが、法量の点において39が新しく捉えられる可能性がある。42～46は類例を知らないが、しいて言えば燕市(旧吉田町)三角田遺跡でロクロ未使用の小形土師器杯があり、それを参考にⅢ2期と捉えたい。

#### SK923 出土土器 (図版46、写真図版42)

図示した古墳時代土師器壺(38)の他に、古墳時代の土師器甕D類・壺や時代・器種不明の細・小片が20点近く出土している。

38は台をもつ土師器壺底C類。体部が球形になるものであろう。外面はミガキ・赤彩が施されている。時期は不明。

#### SX71 出土土器 (図版46・47、写真図版42)

出土状況(第8図)により原位置を保っていないことがわかるが、包含層(V層)を掘削する過程において周溝の内側でまとまって出土した遺物と周溝内出土遺物を本遺構に伴う遺物として扱った。図示した須恵器有台杯(48)・壺蓋(49)、短頸壺(50)・長頸壺(51)、土師器長甕(52)、弥生土器壺(53)、縄文土器深鉢(54)の他に、土師器細・小片が57点出土している。土師器細・小片は周溝出土のものが多く、古墳時代の土師器壺・古代の長甕A2類等や時代・器種不明のものがみられる。土師器図示遺物のうち、52・53は周溝から、それ以外は周溝の内側から出土している。

48は須恵器有台杯B類で、胎土はA群。49・50はセットである須恵器短頸壺の蓋と身。濃淡はみられるものの自然釉がほぼ全面に掛かり、蓋と身が接着した痕がみられる。胎土はA群。51は中形の須恵器長頸壺。自然釉が上半を中心に掛かる。口縁部の一部が欠損した状態で焼成している。底部は高台貼付け痕が残るが、縁をきれいに整形して平らにしている。胎土A群。52は土師器長甕B1類。目の幅がやや大きいカキメがみられる。焼き上がりは堅緻である。53は弥生土器の有段の壺。外面は口縁部が横方向のナデ、頸部がハケメ、内面は丁寧なナデが施される。54は縄文土器。内外面ミガキが施され、平行沈線がみられる。時期は、48～51がⅣ2期か3期、52がⅢ期、53が法仏並行期(弥生時代)、54が加曽利B期と考えられる。

#### SX100 出土土器 (図版47、写真図版42・43)

焼土周辺でまとまって出土しており(第9図)、カマドの芯部材やそこで使用した土器の可能性もある。図示した土師器長甕(55～57)の他に、70点近くの土師器小片が出土している。同一個体と思われる破片を含むが、古代の土師器長甕A2類や同器種破片を含む。

55は土師器長甕A1類。製作技法が特異であり、外面はミガキ、内面は丁寧なナデを施す。口縁部は長く外反し、先端にむかって細くなる。被熱による変色と外面の剥落が著しく、内面には炭化しきれていない付着物が底部から体部上部までみられる。口縁部にはススが付着している。56は土師器長甕A2a類。器壁は厚く重量感がある。内面はナデが施されるが、輪積み痕がところどころ残る。外面のハケメは目が細かい。57は土師器長甕B1類。器壁は薄い、焼き上がりは堅緻である。内面に目が粗いカキメがみられる。時期は概ねⅢ期と思われる。

#### SX573 出土土器 (図版47、写真図版43)

図示した須恵器無台杯(58)、土師器小甕(59)・鍋(60)・短胴甕(61)、古墳時代の土師器甕(62)の他に、30点近くの土師器細・小片が出土している。土師器細・小片には、古代の土師器長甕A2類や時代・器種不明の土師器がみられる。

58は須恵器無台杯BⅡ類である。胎土はA群で、1mm未満の長石粒が比較的多い。底部外面はヘラ切り後ナデがされており、「×」がヘラ書きされている。59は土師器小甕としたが、調整等は不明。底部の外面は比較的丁寧なナデであるが、内面は工具痕が残る雑な仕上がりである。60は土師器鍋A類と思われるもの。内外面とも細かい目のハケメが施されるが、底部外面は軽いナデが行なわれている。胎土は混入物の少なく比較的精良である。内面に炭化物、外面にススや器面の変色もみられる。61は土師器短胴甕としたもので、底部の厚みに重量感がある。内外面に目の細かいハケメが施されるが、外面下半にはところどころケズリの痕が残る。内面に

炭化物、外面にススがみられ、器面は変色し剥落している。62は古墳時代の甕B2類。口縁端部が丸く収まり、ヨコナデされている。時期は、58がⅢ～Ⅳ1期と考えられるが、他は不明である。

**SX605 出土土器** (図版47、写真図版43)

図示した土師器長甕(63)の他に、30点以上の土師器小片が出土している。ほとんどが古代の長甕A2類の体部片である。

ロクロ未使用の土師器長甕A類の底部と思われる。内面はナデ、外面はナデに近いケズリが施されている。内面に炭化物、外面にわずかなススがみられる。時期は不明である。

**SX867 出土土器** (図版47・48、写真図版43)

図示した須恵器杯蓋(64～66)、古墳時代甕(67)の他に、30点以上の土師器細・小片が出土している。ほとんどが古墳時代の土師器細・小片である。

64は須恵器杯蓋の一部で、天井部外面に製作時のものと思われる擦痕がみられる。66は須恵器杯蓋A類で、65は内面に「×」のヘラ書き、66は外面に「秋」の墨書がみられる。66は碗に転用している。胎土は、64・65がA群、66がD群。67は古墳時代の土師器甕B1類。口縁端部が面取りをされており、ヨコナデされている。時期は、65がⅢ2期、66がⅢ1(新)期かⅢ2期と思われるが、他は不明である。

**P21 出土土器** (図版48、写真図版43)

図示した土師器無台椀(68・69)、古墳時代土師器壺(70・71)の他に、60点以上の土師器片・2点の須恵器片が出土している。土師器片は細・小片が多く、そのほとんどが古墳時代の土師器である。須恵器片は横瓶か甕と思われるものがある。

68・69は土師器無台杯椀A2Ⅱ類である。68は69より身が深めで、径高指数が大きい。68の体部外面には判読不明文字が墨書されている。どちらも底部は糸切りで、回転方向は右である。70は古墳時代の土師器壺Iで、内外面ミガキ・赤彩が施されている。71は古墳時代の土師器壺G類。口縁端部が外方につまみ出されたように丸く収まる。時期は、68・69がⅥ2・3期、70が古墳時代9期と思われるが、71は不明である。

**P104 出土土器** (図版48、写真図版43)

図示した土師器長甕(72・73)の他に、下層から遺構から出土した土器と同一固体と思われる弥生土器片や時代・器種不明の土師器細・小片が4点出土している。

72・73は同一個体である。ロクロ未使用の長甕A2類で器壁が厚い。口縁部は短く外反し、体部は張らずに下方にむかってややすぼまっていく。内外面とも細かい目のハケメが施されるが、外面はその後ケズリも行われている。時期はⅢ期と思われる。

**P126 出土土器** (図版48、写真図版43)

図示した縄文土器(74)のみの出土である。

体部上部が内側に屈曲する深鉢で、平行する沈線の間に斜縄文が施される。内外面ともにミガキが施される。加曽利B2式。

**P153 出土土器** (図版48、写真図版44)

図示した土師器長甕(75)の他に、古墳時代の土師器や時代・器種不明の土師器細・小片が6点出土している。

本資料にみられる調整はハケメのみであるが、カキメをもつ52や57とよく似ていることから、長甕B1類とした。器壁は薄く、焼き上がりは堅緻である。時期はⅢ期と思われる。

**P200 出土土器** (図版48、写真図版44)

図示した須恵器杯蓋(76)のみの出土で、包含層出土破片と接合している。

杯蓋B類で、天井が低く扁平である。外面全体に自然釉が掛かっている。胎土はA群。時期はⅣ1期と思われる。

**P332 出土土器** (図版48、写真図版44)

図示した古墳時代の土師器甕(77)の他に、時代・器種不明の土師器細・小片が3点出土している。

77は、甕C1類、口縁端部が水平で、内端がわずかに肥厚する布留系甕である。口縁部はヨコナデで、下部に膨らみをもつ。体部は外面に縦方向のハケメ、内面にケズリを行っている。摩耗した鉾石・岩石を多量に含む。時期は古墳時代9期か10期と思われる。

#### P402 出土土器 (図版48、写真図版44)

図示した須恵器有台杯(78)のみ出土している。

78は有台杯B類で、胎土はA群。内面全体に自然釉が掛かる。時期はIV2~3期かV期と思われる。

#### P440 出土土器 (図版48、写真図版44)

図示した須恵器有台杯(79)のみ出土している。

79は有台杯A類で、胎土はB群。1~5mm前後の長石粒を多量に含み、器面がザラついている。時期はIV1~IV2期と思われる。

#### P725 出土土器 (図版48、写真図版44)

図示した縄文土器(81~83)のみ出土している。

81~83は、4単位の波状口縁部をもつ深鉢である。斜め方向に縄文原体(LR)を転がし、平行沈線・蛇行沈線を引いている。沈線の引き方は雑である。内外面は丁寧なミガキが施されている。加曾利B2式と思われる。

#### P908 出土土器 (図版48、写真図版44)

図示した古墳時代の土師器小甕(80)のみの出土である。

80は大振りの土師器小甕B類。器壁は厚めで、内面にロクロナデの凹凸がみられる。底部外面はナデがされているもののヘラ切りの痕跡が残る。また「×」がヘラ書きされている。内面にスス・外面に炭化物がわずかにみられる。時期はIV1期かIV2期と思われる。

### 2) 下層遺構出土土器

#### SK20 出土土器 (図版49、写真図版44)

約110点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部片の細・小片である。土師器壺(84・85)・甕(86)を図示した。

84・85は土師器壺。84は体部上部に焼成後開けた孔がみられる。補修孔であろう。内面は器面が荒れており、実測図では実線で表したが、器面が剥落している可能性がある。外面はミガキが施されている。85は土師器壺底A類で、底部外面縁部がわずかに盛り上がっている。内面は丁寧なナデ、外面はケズリやナデの後ミガキが施されている。内面下方に炭化物がみられる。86は甕B2類。口縁端部は丸く取まり、体部があまり張らない。器面が荒れているため不明な部分もあるが、内外面にハケメやナデが施されている。口縁部のヨコナデは認められない。時期はいずれも中期と思われる。

#### SK689 出土土器 (図版49、写真図版44)

図示した古墳時代土師器甕(87)のみの出土である。

87は遺構単独出土で、遺存率が高い。甕B1類で、口縁端部の面取りはしっかりされており、体部の最大径がやや上部にくる。内外面ハケメが施され、口縁部はヨコナデされるが、弱いためハケメが残る。時期は7期か8期と思われる。

#### SK936 出土土器 (図版49、写真図版44・45)

約130点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部片の細・小片である。土師器器台(88・89)・鉢(90)・壺(91~95)・甕(96~101)を図示した。

88・89は外面にミガキ・赤彩が施されている器台であるが、89はその痕跡がわずかである。88が土師器器台脚B類、89が土師器器台脚A類。90は壺の可能性もあるが、土師器鉢B1類とした。器壁が薄く、内外面にミガキが行われているが、方向ははっきりしない。91が土師器壺J類、92が土師器壺L類、93が土師器壺J類に伴うと思われる身で、器壁が薄く外面にミガキが施されるものが多い。94・95は同一個体の土師器壺。



94 は外反した短い頸部に口縁部が付く土師器壺 D 類で、95 は土師器壺底 A 類である。内面はヘラ状工具によるナデの痕がみられる。外面と口縁部内面はミガキが施されている。96～101 は土師器甕。97～100 は土師器甕 B1 類、101 は土師器甕 B2 類。内面に炭化物 (97)、外面にスス (97～99) が付着しているものがある。焼成は概ね良好であるが、特に 97 の焼き上がりは堅緻である。時期は、99 の甕は口縁端部をやや上方につまみ上げていることから 6 期か 7 期と考えるが、他は概ね 7・8 期で捉えられよう。

**SK942 出土土器** (図版 50、写真図版 45)

約 60 点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片であるが、図版 67 - 445 と同一個体の可能性がある条痕がみられる弥生土器片が 1 点含まれる。土師器壺 (102)・甕 (103～105) を図示した。

102 は土師器壺 L 類で、内外面にミガキが施され器壁は薄い。103 は土師器甕の底部。内面と底部外面はナデ、体部外面はケズリがみられる。104・105 は小破片であるが、104 は土師器甕 B1 類、105 は土師器甕 B2 類。時期は、いずれも古墳時代前期で、104 は 7 期か 8 期と思われる。

**SD108 出土土器** (図版 50、写真図版 45)

約 210 点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。図示した土師器鉢 (106)・甕 (107・108)・手捏ね土器 (109) を図示した。

106 は内外面にミガキ・赤彩が施されている鉢 B1 類。体部の赤彩は部分的に消えている。107 は土師器甕 B2 類、口縁部はヨコナデされ、先端に向かって細くなる。外面下半にススが付着している。108 は土師器甕 D1 類。口縁端部に貼り付けがみられ、肥厚が顕著である。強いヨコナデがされる。外面にススが付着している。109 は軽いナデが行われているが器面の凸凹がみられる手捏ね土器。外面に一部ススが付着している。時期は、109 が不明であるが、その他は 9 期と思われる。

**SD109 出土土器** (図版 50、写真図版 45)

約 560 点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器器台 (110～112)・高杯 (113)・壺 (114～116・122)・甕 (117～121・123)、弥生土器 (124)・縄文土器 (125) を図示した。

110・111 は土師器器台の受部としたが、111 は口縁端部が外へつまみ出されており、他器種の可能性もある。110 は体部が直線的に立ち上がる土師器器台 B4 類、111 は土師器器台 B5 類。どちらも内外面にミガキが施されている。112 は器台で、裾の広がり大きい。113 は高杯脚 B 類で、脚体部がやや細めである。112・113 とともに外面にミガキが施される。112 は粒子が 1～3mm の混和材がやや多い。114 は土師器壺 D 類。内外面とも荒れているが、ミガキが施されている。115 は頸部が垂直に立ち上がる二重口縁壺 (土師器壺 A1 類)。内外面にミガキがされているが、体部の内面は器面の剥落がみられる。117 は甕 B2 類で、口縁端部が細くなり、下半が肥厚している。118・119 は土師器甕 B1 類で、口縁端部は 118 が内方向、119 が外方向にわずかにつまみ出されている。120・121 は土師器甕 B2 類で、ヨコナデが施されている。焼き上がりは堅緻である。122 は土師器壺 L に伴うと思われる底部、123 は土師器甕の底部で、どちらも外面にケズリがみられるが、122 は丁寧なケズリである。124 は弥生時代の甕形土器。口縁・頸部は無文帯で、横方向のミガキを施している。体部は条痕文を地文とし、肩部に羽状沈線文を描く。口縁部に突起をもつ。125 は縄文時代の深鉢。口縁部の 4 つの突起をもつと思われるが、対角上には位置しない。入り組み状に沈線を施し、区画内を縄文 (LR) で充填している。時期は、古墳時代の土器 (110～123) は概ね前期と思われ、119 の 8 期を前後とする時期であろう。弥生土器の 124 は前期緒立式、縄文土器の 125 は加曾利 B2 式と思われる。

**SD110 出土土器** (図版 51、写真図版 45)

約 120 点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器高杯 (126・127)・器台 (128)・鉢 (129)・甕 (130～132) を図示した。

126 は土師器高杯 A 類としたが、径が小さいことから他器種の可能性もある。弱いミガキが施されている。

127は土師器高杯脚B類。脚体部は中空と思われるもので、外面のミガキはしっかりしている。128は透かし孔が1か所残る土師器台脚B類。外面を丁寧なミガキが施されるが、ケズリ痕もわずかに残る。129は土師器鉢A類。口縁部の肥厚と直下に凹線により、段をつくっている。外面と口縁部内面に赤彩がされているが、ところどころ薄くなっている。胎土は、混和材を一定量含むが、生地は精良で白っぽい。やや軟質感がある焼き上りとなっている。130は土師器甕B1類、131・132は土師器甕B2類。130・132は口縁部にヨコナデがみられるが、131はみられず一部歪みがある。時期は、129が5・6期、126・128・130は古墳時代前期、127・131・132は古墳時代中期と思われる。

#### SD111 出土土器 (図版51、写真図版45)

約90点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片であるが、ミガキ・赤彩が施された小片も2点出土している。土師器壺(133・134)を図示した。

133はごく小さい破片で壺N類としたが、丸底壺の可能性もある。口縁部にあたると思われ、内外面赤彩されている。134は壺G類。球形の体部で、底部は丸底に近いがわずかな面をもつ(平底)。内面のナデはやや雑であり、輪積み痕が残る。外面はハケメで口縁部はヨコナデがされている。時期は、133が8期以降、134が下限7期とするものと思われる。

#### SD868 出土土器 (図版51、写真図版45)

約20点古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器壺(135)を図示した。

I類で外面が赤彩されている。時期は9期と思われる。

#### SD925 出土土器 (図版51、写真図版45)

約70点の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器高杯(136)・鉢(137)を図示した。

136は高杯脚A類。杯部内面は調整が粗く、器面が凸凹している。137は鉢D類。平らな底部に外側から孔が開けられている。内面は工具によるナデ、外面はハケメ・ケズリがみられ、口縁部はヨコナデの痕が顕著に残る。時期は、どちらも前期であろう。

#### SD984 出土土器 (図版51、写真図版46)

約30点の古墳時代土師器片と縄文(目)がついた時代不明の土器小片1点が出土している。土師器片の多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器鉢(138)・壺(139~141)・甕(142)を図示した。

138は鉢A類。器壁は薄く、内外面にミガキが施されている。やや砂質感のある胎土である。139・141は直立した口縁部の壺G類で、140はその可能性のあるもの。球形の体部をもつ。口縁部はミガキに近い丁寧なヨコナデ、体部外面はミガキが施される。142は布留系土器で甕C1類。口縁部が肥厚し、端部はほぼ水平で内側がわずかに突出する。体部外面に縦方向のハケメが残るが口縁部から体部に欠けて丁寧なヨコナデが施され、体部内面はケズリがされている。口縁部外面と体部外面中位にススが付着している。粒子が1~2mmの混和材を多量に含む。時期は、138~141が7期、142が9期か。

#### SX97 出土土器 (図版51・52、写真図版46)

約70点の古墳時代土師器片が出土している。土師器甕の体部片が多い。土師器高杯(143)・甕(144~147)を図示した。

143は土師器高杯B類。杯体部が鉢形で、口縁部がわずかな段をもって短く外反する。脚部は屈折脚であるが短い。脚内部以外ミガキが施される。144は土師器甕B1類、145・146は土師器甕B2類、147は土師器甕C1類。144は口縁端部を強くヨコナデし、面をつくる。体部外面はハケメが施されるが下部はケズリの痕がみられる。体部内面もハケメが施され、比較的滑らかであるが、輪積み痕が残る。体部は外面に上半にスス、内面ほぼ全体に炭化物が付着している。145は大形の土師器甕。口縁端部は面にしてはあまい調整のため土師器甕

B2 類とした。146 は口縁部が強く外反する。147 は布留系甕で口縁部が肥厚し、端部はほぼ水平で内側がわずかに突出する。外面にススが付着している。時期は、143～146 は 8 期、147 は 9 期前後と思われる。

**SX870 出土土器** (図版 52、写真図版 46)

5 点の古墳時代土師器片出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器器台 (148) を図示した。

148 は口縁部が上方へ屈曲して立ち上がる口縁部をもつと思われる器台 B1 類。内外面ミガキが施されている。時期は下限が 7 期と考える。

**SX946 出土土器** (図版 52、写真図版 46)

約 130 の古墳時代土師器片が出土している。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。土師器壺 (149・150)・甕 (151・152) を図示した。

149 は土師器壺 H 類で、細長い口縁部の下端に段がみられる。赤彩がされるが、内面は口縁部のみである。150 は土師器壺 L 類。やや内湾気味の口縁部で、先端が細くなっている。内外面ミガキが施されている。151 は土師器甕 B2 類。口縁部はヨコナデされている。152 は土師器甕の底部。内面全面に炭化物が付着しており、外面は一部にススがみられる。時期はすべて 9 期と思われる

**P933 出土土器** (図版 52、写真図版 46)

約 40 点の古墳時代土師器片が出土した。その多くが壺や甕の体部の細・小片である。図示した土師器器台 (153)・鉢 (154)・壺 (155)・甕 (156) を図示した。

153 は土師器器台としたが、小片であり他器種の可能性もある。脚がハの字状に開くと思われる。内外面ミガキが施されている。154 は土師器鉢 B1 類。口縁部が大きく外反し、体部径は口径よりも小さい。口縁部はヨコナデ、体部はナデが施される。外面全体にススが付着する。155 は土師器壺 G 類。ヨコナデされた先細りの口縁部である。156 は土師器甕 B2 類。口縁部は丁寧なヨコナデを行っており、上半が内湾気味に立ち上がる。外面にススが付着している。時期は 154 が 8・9 期と思われ、他は不明。

**P1050 出土土器** (図版 52、写真図版 46)

図示した古墳時代土師器壺 (157) のみ出土している。

壺 L 類と思われるもの。口縁部はヨコナデが行われているが、外面はハケメが残る。時期は 8 期以降と思われる。

**3) 包含層出土土器**

**奈良・平安時代** (図版 52～59、写真図版 46～52)

須恵器無台杯 (158～172・271～275)・有台杯 (173～178)・杯蓋 (179～183)・高杯 (184)・鉢 (185)・長頸壺 (186～190)・壺蓋 (191・193)・短頸壺 (192・194)・甕 (195～199)、土師器無台杯 (200・202・205・209・210)・無台椀 (211～224・276～283)・皿 (228・229)・有台皿 (230・231)・高杯 (233)・鉢 (234・235)・小甕 (236～244)・長甕 (245～251・254～264)・その他の甕 (252・253)・鍋 (265～268)、製塩土器 (269・270)、黒色土器の無台杯 (201・203・204・206・207・208)・無台椀 (225～227)・高杯 (232) を図示した。

須恵器無台杯 158 は無台杯 A 類、159～162 は無台杯 B I 類、163～165 は無台杯 B II 類、167～172・271～275 は無台杯 C 類、166 は無台杯 D 類。底部は、166 が糸切りで、その他はほとんどヘラ切りである。ヘラ切りのものはその後ナデを行っているものが多いが、ヘラ切り痕が残るもの (160・165・168・169・171) も少なくなく、まったくナデが行われていないもの (158) もある。また、刻書 (158) や墨書 (271～275) がみられるものもある。172 には外面ほぼ全体にススが付いているが、底部は部分的に薄く残る程度である。胎土は、A 類の 158 は B 群、B 類は A 群 (159・161～163)・B 群 (160・164)・D 類 (165)、C 類 (167～172・271～275) はすべて C 群、D 類の 166 は E 群で、形態的特徴が生産地によって異なることがわかる。時期は、158・163 は III 期 (158 - III 2 期)、159～162・164・166 は IV 期 (159・160 - IV 1 期、164 - IV 1～2 期、161・166 - IV 2～3 期)、165 は IV 3～V 期、170 は V 2～VI 1 期、168・169・171・172・271～275 は VI 期、と捉えられる。

**須恵器有台杯** 173～176は有台杯A類、178は有台杯B類で、177は有台杯B類の可能性のあるもの。176は焼成が不良で、生焼けである。胎土は、176・178がA群、173・175・177がB群、174がD群。時期は、173・174・179はⅢ期（173－Ⅲ1期、174－Ⅲ2期）、175～177はⅣ期（175－Ⅳ1～2期、176・177－Ⅳ2～3期）、178はⅤ期と思われる。

**須恵器杯蓋** 179は杯蓋A類、180・182は杯蓋B類、183は杯蓋C類。硯に転用しているもの（182・183）があり、内面に墨痕が残る。器面はやや摩耗している。180～182は外面に焼成時の降灰の痕がみられる。胎土は179がD群、180・182がA群、181はB群、183はC群である。時期は、181はⅢ2～Ⅳ1期、180・182はⅣ1期、183はⅥ2～3期と思われる。

**須恵器高杯** 杯部の口縁部と裾部を欠損しているもの（184）が出土している。意図的な打ちかきの可能性がある。胎土はC類。時期はⅤ～Ⅵ期。

**須恵器鉢** 185は大形のもの。口縁端部が平らな面をもち、底部は丸底に近い平底で、外面はケズリが行われている。ロクロを使用しており、内面はカキメ、外面はロクロナデがみられる。胎土はB群で、1未満～5mmの長石粒を多量に含む。時期はⅣ期以前と思われる。

**須恵器長頸壺** 186・187は大形の長頸壺で同一個体の可能性もある。186は口縁部がラップ状に開くと思われる。187は底部内面にわずかに自然釉がみられる。胎土はどちらもC群で、時期はⅥ期か。188～190は小形の長頸壺と思われるもので、内面のロクロメの凹凸が顕著である。188は高台が欠損しているが、貼付け部分を整形している。底部内面に自然釉が付着している。189は体部で、188に比べると体部最大径に対する深さがやや浅めである。190は底部で、底部内面に自然釉が掛かっている。胎土は、188・190がC群、189がA群。時期は、188・190がⅤ～Ⅵ期と思われるが、189は不明である。

**須恵器短頸壺** 191・193は蓋、192・194は嘴状の高台をもつ身。191は他器種の壺蓋の可能性もある。外面に自然釉が付着している。192は外面にタタキメの痕が残るが、内面はロクロナデの凸凹がみられる。外面と底部内面に自然釉が付着している。193・194はセットであり、くっついた状態で出土した。194の口縁部直下に、193をかぶせて焼成した時の接着痕が残る。胎土は、191・192がB群、193・194がA群である。

**須恵器甕** 195・196・198は甕A類、197・199は甕B類。195は口縁部上部が大きく外反している。内面の荒れが激しく、器面の剥落が口縁部～体部まで及ぶ。外面は白濁した自然釉が体部のタタキメに入り込んでいるため、タタキメの平行文に木目があるかどうか不明である。内面の当て具痕は木目のない同心円文である。196は口縁部のみであるが体部の開口部が最も大きいものである。口縁端部は外方へ延びる。197は比較的短い口縁部が付くもので、器壁は薄い。外面のタタキメは中の木目が不明の平行文、内面の当て具痕は柁目状の木目がみられる同心円文である。198は肩部の張りがやや小さいもの。外面のタタキメは格子目文、内面の当て具痕は柁目状の木目がみられるもの。199が口縁部の立ち上がりが直立気味のもの。外面のタタキメは格子目文、内面の当て具痕は木目の有無が不明な同心円文である。195・197は混和材が少なく、胎土A群と思われる。196・199は、1～5mmの長石粒が多く含まれ、胎土B群。198は胎土C群。時期は、195がⅢかⅣ期、196がⅤ期より古い可能性がある。197はほぼⅤ期、198はⅤ期以降と思われるが、199は不明。

**土師器無台杯** 200～202は無台杯A類、203～209は無台杯B2類で、210は無台杯C類。いずれも手捏ねのつくりで指頭の残るものもあるが、外面は底部も含めてナデ調整を行っている。内面は非常に丁寧なナデかミガキを施している。また内面を黒色処理しているもの（201・203・204・206～208）がある。200・202は黒色処理のような炭化物の付着であるが、濃淡があることや、付着が内面上半に限られることから黒色処理とは区別した。210はやや器壁が厚いが整っているもので、鉢に近い器形である。200～209の焼き上がりが堅緻であるが、210はやや軟質感がある。時期は、200～209はⅢ期～Ⅳ期、210はⅢ期と思われる。

**土師器無台椀** 211は無台椀A1Ⅱ類、212・214～220・280は無台椀A2Ⅱ類、213・221は無台椀B類、222～224は無台椀AⅠ類、276～279・281～283は無台椀AⅡ類である。213・221を除いて、いずれも



ロクロナデによる調整で、底部は糸切りがされる。糸切りの回転方向は214が左回転、それ以外が右回転である。体部や底部の外面に刻書(219)や墨書(276~283)がみられるものもある。また、219の口縁部と体部外面にかけて炭化物・ススが付着している。213・221は、ミガキや丁寧なナデを行っており、器壁が薄く、焼き上がりがやや堅緻である。時期は、211・223がⅤ期、それ以外がⅥ期と思われる。

**黒色土器無台椀** 226・227は無台椀AⅡ類、225はAⅠ類である。内面はミガキ・黒色処理を施しており、底部は丁寧なナデやミガキを行っている。225は底部外面に刻書がみられる。いずれもⅥ期と考えられる。

**土師器鉢** 234は鉢B類。口縁部は内湾気味であり外面に1条の沈線が巡らされる。外面に一部ケズリが残るものの内外面ミガキが施され、いわゆる仏鉢と思われるもの。235は鉢としたが、全体形状が不明で、杯の可能性もある。外面に赤色顔料が部分的にみられる。時期はⅢ~Ⅳ1期と考えられる。

**土師器皿** 228・229は体部が外へ開き口縁部が内湾気味に立ち上がる皿である。どちらも内外面にミガキ・赤彩が施され、丁寧な作りである。器壁は、228が薄手であるが、229は厚手である。時期は、Ⅲ期と思われる。

**土師器有台皿** 230は高台径が口径の約1/2で、体部が外へ直線的に延びる。器面はミガキや丁寧なナデが行われている。口縁部にスス・炭化物が付着している。231は有台皿としたが、有台椀の可能性もある。赤彩の痕跡がわずかに残る。時期は、230がⅥ期と思われる、231が不明である。

**土師器高杯** 232は杯部の口縁部~杯底部、233は杯体部である。脚部は出土していない。ミガキ・赤彩が施される。時期はⅢ期あたりであろう。

**土師器小甕** 236~240が小甕A類、241~244が小甕B類である。236・237は口縁部のヨコナデが行われていないが、238・240はヨコナデがしっかり行われている。小甕B類はカキメを特徴とするが、243・244は内面に残ったロクロメで判断した。243の底部外面は丁寧なナデが行われている。244は底部切り離しが糸切りで、縁辺部に短い棒状の痕が放射状にみられる。小甕の器形全体がわかるものが少ないが、口縁部の屈曲(くの字)が明瞭なものは体部が球胴形(237・239・240・242)、緩いものは体部がやや長くなる(236・238・241)のものであろう。口縁部内面に炭化物、外面広範囲にススの付着がみられるものが多い。時期は、Ⅲ~Ⅳ期のものがほとんどで、236・237・246がⅢ期、239・240・243がⅢ~Ⅳ1期、242がⅣ期、238はⅣ2~Ⅴ期、244はⅣ2以降と思われる。

**土師器長甕** 245・247・248は長甕A2類、246は長甕A2a類・262は長甕A2b類、249・250は長甕B1類、251・263・264は長甕B2類である。底部の254・258・261は、長甕A2aの可能性もあるが、遺存が少ないため、ここでは長甕A類とした。

長甕A2類は形態や調整にバラエティがある。245・246は短い口縁部が外反し、口縁部のヨコナデがしっかりされている。245は体部外面に縦方向の非常に丁寧なナデを施しており、その痕跡がわずかに残る。内面は横方向を中心としたハケメであるが、下半は縦方向も行われていることがわかる。246は器壁が厚く、底部は丸みを帯びた平底である。247は口縁部が水平に延び、あまり膨らまない体部をもつ。248は口縁端部がつまみだされ先細りのもの。外面にススが付着している。249・250は体部外面に縦方向のハケメが施され、目の粗く弱い線のカキメが部分的にみられる。口縁部はロクロナデされ、端部は丸く整えられている。焼き上がりは堅緻である。251はしっかりしたカキメがみられる。体部の一部しか遺存していないが、体部下半にタタキが施されると思われ、長甕B2類とした。口縁端部は広い面をもち、内端が嘴状に少し飛び出ている。焼き上がりは堅緻である。長甕A類の底部である254~258は器壁も厚く、作りが雑な感じをうけるが、底部外面に葉脈痕等の東北系の技法がみられる。底部の形態からすると、体部はあまり張らない細身のものと思われる。259・260は底部が明確な平底であり、外面の調整は259がハケメ、260が丁寧なナデである。内外面にハケメがみられることから長甕A2a類の可能性が大きい。261は内外面に比較的丁寧なナデが行われるが、やや丸みを帯びた平底で、器壁が厚めである。262は内面に横方向のハケメ、外面に縦方向のハケメとケズリがみられるもの。胎土はやや白っぽく、焼き上がりはわずかであるが軟質感がある。263・264は長甕B2の体部下半である

が、どちらもタタキ調整の後に内面を中心としてハケメが施され、特に264は当て具痕が残っていない。時期は、246・248～250・254～259・261・262がⅢ期、245・260がⅢかⅣ期、251がⅤかⅥ期、263・264がⅣ期以降と考えられる。

その他の土師器甕は、佐渡型と思われるものが252・253である。どちらも器壁が薄く、胎土は粒子の細かい砂質感のある点で共通するが、口縁端部の形態が252の面を持つのに対し253が丸く収まり、調整も252のハケメに対し253が丁寧なナデ、と異なる点がある。異なる器種の可能性もある。

**土師器鍋** 265が鍋A類、266～268が鍋B類。265は、体部の立ち上がりが急で、鍋B類に比べて身が深い。内面は横方向のハケメ、外面は縦方向のハケメが施されている。胎土は砂質感があり、西古志製品の胎土に似る。色調はやや白っぽい。266～268は体部が大きく開くもので、カキメやロクロメがみられる。266・268はス・炭化物の付着が顕著である。時期は265がⅣ2かⅣ3期、266～268がⅥ期と考えられる。

**製塩土器** 大形の269と小形の270である。どちらも外面と断面に輪積み痕がみられる。被熱による変色もみられる。9世紀後半～10世紀後半の年代が与えられている大藪遺跡出土の製塩土器とは形態が明らかに異なり、体部上部があまり開かない形態に古い要素がみられることから、この年代を8世紀代と考える。

**墨書土器** 271～275は墨書がみられる須恵器無台杯、276～283は墨書がみられる土師器無台碗である。細かい器種分類や時期については、既に記述しているので、ここでは墨書に絞って述べる。271は底部外面に細いながら大きく文字が書かれている。「津」の可能性はある。272も同じく「津」であるが、無台杯の体部外面に頭を右にして横位に書かれている。273は2つの文字が異なる場所に書かれている。体部外面には正位で「大」、底部にはバランスの悪い「×」がみられる。274は底部外面に墨書がはっきり認められるが、判読は不明。275は底部外面に「寺」の可能性のある文字が書かれている。276～280は土師器碗の糸切り痕が残る底部外面に書かれた墨書土器である。277は「津」で、278は「寺」、280は「万」の可能性はある。その他は判読不明である。281～283は体部外面に書かれた墨書であるが、判読不明である。

#### 古墳時代 (図版60～66、写真図版52～57)

土師器高杯(285～304)・器台(284・305～320)・鉢(321～328・366・367)・蓋(329)・壺(330～365・368～370)・甕(371～418)・ミニチュア土器(419・420)を図示した。

**土師器高杯** 285～288は高杯A類、289は高杯B類、290・291は高杯C類、292は高杯DⅠ類、293～296は高杯DⅡ類、297・298は高杯脚A類、299～304は高杯脚B類である。

285・286は口縁部が残るもので、内湾気味に立ち上がる。286の外面下部には緩やかな稜がわずかに認められる。内外面ミガキが施され、285は赤彩もみられる。どちらも器壁は薄い。287・288は杯部下半が残るものであり、外面の下部に稜がみられる。287は脚部内面以外にミガキ・赤彩が施されるが、消えかかっているところも多い。脚部に2か所の透かしが残っており、その位置から3か所か4か所開けられていたと思われる。288は内外面ミガキが施されている。289は杯部が碗形を呈するものと思われる。外面はミガキが施されているが、内面は器壁が荒れて調整は不明である。290・291は身が深い鉢形で、口縁部は緩やかに反る。脚部内面以外はミガキが施されている。脚は細身の柱状屈折脚であろう。290は杯部内面に黒斑がみられ、291は杯部内面のミガキの痕が顕著に残る。292は大型の高杯で、下部に稜があり、外反気味立ち上がった口縁部は端部付近で外へ引き出される。脚は杯部に対して短い。器壁は厚く、重量感がある。脚部内面以外はミガキ。脚部内面は粗いナデ、裾部内面はハケメが少し残るところがあるが丁寧なナデが行われている。293～296は下部に稜がみられ、杯体部の立ち上がりはやや内湾気味である。293～295は細身で長めの柱状屈折脚、296は太めで短い柱状屈折脚である。いずれも脚部内面以外はミガキが行われている。293は胎土が比較的精良で、全体の調整も丁寧である。295の脚部内面は調整がほとんどされおらず、輪積み痕が顕著に残る。296の脚部内面は横方向のケズリがきれいにされている。297・298はハの字状に開く脚で、小型高杯と思われるもの。どちらも透かしが3か所あり、外面はミガキが施されている。298は裾部が大きく広がる可能性がある。299

～304は柱状屈折脚で、300は脚部が長い、それ以外は短い。いずれも外面にミガキが施されるが、内面は調整が粗く輪積み痕が残るもの(303・304)もある。時期は、前期と中期のものがあり、285・287・297が7期か8期、286が8期以前、289・298が8期、291が9～12期、299が9期か10期、292・295・296・300～304は12・13群と考えられる。

**土師器器台** 284は器台A類、305・306は器台B1類、307・312は器台B2類、308～310は器台B3類で、311はその可能性があるもの、313は器台B4類、314・315は器台脚A類、316・317は器台脚B類、318・319は器台脚C類である。

284は大形で、受部が突出して鐮状を呈している。口縁部外面はヨコナデであるが、それ以外はミガキが施されている。305・306は受部の屈曲が明瞭であるが、306は浅い。どちらも脚部内面以外ミガキが施されており、305は赤彩されている。306は透かしが3か所あるもので、1か所はかろうじて認識できる程度である。307・308口縁端部の面が明瞭であるが、307はほぼ垂直、308は外傾している。どちらも他と同じ調整がみられるが、307は脚部内面のミガキも行われている。308～311は受部の深さが異なるが、内湾しながら立ち上がる。脚部内面以外ミガキが施されており、310は赤彩されている。透かしが残るものもあり、308が1か所、309が3か所、311が2か所確認できる。313は遺存度がよく、脚はすべて残る。ミガキが杯部・脚部の内外面全体に及ぶ。透かしが3か所みられる。314～319は受部の形態が不明な脚部で、外面はミガキ、内面はナデがされるものである。314・315は脚上部が細身で裾に向かって大きく広がるものである。外面のミガキ・内面のナデが丁寧である。314は透かしが縦方向に2つ並んでおり、他にわずかに残る痕跡から4か所に配されるものと考えられる。315は透かしが3か所に配されている。316・317は脚の中位に膨らみをもつ。どちらも2か所に透かしが残っており、その位置から透かしが3か所配されるものであろう。318は短めの脚をもつもので、透かしが3か所開けられている。1～3mmの長石・石英粒等が多量に含まれており、器面に粒子が現れている。内面はハケメが残るナデ、外面はミガキが施されている。319は脚裾部が広がらず直線的である。内面はケズリによって動いた1～3mmの長石・石英粒がみられる。時期はすべて前期に属すると思われる、305～307は6・7期、308・310・311・315・317が7・8期、309・312は7期かそれ前後、313が8・9期、314が6～8期、318が7～9期、319が8期以降であろう。320は脚と思われるが、全体形が不明なもの。指でつまみ出したような裾部である。時期も不明。

**土師器鉢** 321は鉢A類、322は鉢B1類、366・367は鉢B2類、323・324は鉢C類、325～327は鉢D類、328は鉢E類である。

321は、内外面にわずかであるが段をもち、全面にミガキが施されている。器壁が薄く、焼き上がりは堅緻である。322は、口縁部はヨコナデされ、体部は内面がやや粗いナデ、外面が非常に丁寧なナデを行っている。やや厚手である。323は口縁部がヨコナデ、体部は内面がやや粗いナデ、外面が縦方向のハケメである。調整は全体に粗い。324は内外面にミガキが施されており、器壁が薄く、焼き上がりは堅緻である。325～327は底部から体部にかけてハの字状に開き、底部に穿孔がみられるものである。いずれも穿孔は焼成前である。325・326は、底部外面に面をもつ。体部内外面にハケメが施されるが、326は内面にナデもみられる。327は、内面ナデ、外面ミガキが施されているが、孔付近の調整は雑である。胎土は混和材を多量に含み、ガサガサしている。326の外面にはススの付着、327の外面には黒斑がみられる。328は全体の器形がわからないが、底部に向かってすぼまるものと思われる鉢とした。口縁部は外側に折り返され、肥厚している。内外面に細かい目のハケメがみられる。器壁は薄く、焼き上がりは硬質感がある。366は体部外面ハケメ・内面ケズリで畿内系の調整がみられる。外面にススが付着している。367は器壁が薄いものである。内外面ミガキ・赤彩されているが、内面の下部は消えかかっている。時期は、概ね前期と捉えられるが、326は中期の可能性もある。321・367は8期、324は8～9期、328は8期以降、366は9期前後と考えられる。

**土師器蓋** 329は逆台形のつまみをもつ蓋。内外面にミガキが施されている。時期は6期か7期と思われる。



**土師器壺** 330・331は壺A1類、332は壺A2類、333は壺B1類、334～336は壺B2類、337・338は壺C類、339・340は壺D類、341は壺E類、342は壺F類、343～345は壺G類、346は壺N類、356は壺I類、357は壺J類、368は壺L類、359・360・362は壺M類、363～365は壺I類の体・底部の可能性のあるもの、369・370は壺L類の体・底部の可能性のあるものである。

330・331は口縁部が大きく外反し、端部は330が面をもち、331が丸く収まる。口縁部内外面にミガキが施され、赤彩が口縁部内面のみ(330は口縁端部も)されている。332は口縁部がやや短めで口縁部外面下端に粘土貼付による段がみられる。333は口縁部外面には刻みのはいった2本1単位の棒状浮線文が1か所残る。棒状浮線文間は横位1列に円形竹管文が刺突されている。口縁部はヨコナデされているが内面にはハケメが残り、頸部外面には縦方向のハケメがみられる。334は口縁部外面下端の肥厚が大きく、全体の器壁も厚い。口縁部・頸部はヨコナデ、体部外面はハケメを行っているが、頸部下半から体部にかけての内面は器面の剥落があり、調整不明。335・336は短い口縁部外面下端が肥厚して断面三角形になっており、335は外反、336は内面気味に立ち上がっている。口縁部はヨコナデであるが、336は丁寧である。337・338は細口の有段口縁部をもつもので、337は内面にも段がみられる。ハケメが残るところもあるがヨコナデしている。338の口縁部内面の上半には炭化物の付着がみられる。339・340の口縁部外面にみられる段のつくり出しは小さく雑である。339はヨコナデ、340はミガキが施されている。341の口縁部の段は粘土を貼り付けたもので断面が小さな三角形になっている。口縁部はヨコナデ。粒子が1～5mmの混和材を多量に含み。器面にも現れている。342は口縁部が直線的に開き、体部が張るものである。口縁部はヨコナデ、体部内外面はナデを行っているが、体部内面にはケズリの痕も残る。器壁の厚さは均一で薄い。胎土は精良であり、大きな粒子の混和材はみられない。343～345は小さく外傾した口縁部で、端部は丸く収まるが、343が先細りになっている。343・344は内外面ミガキが施されているが、345は口縁部内面・外面上端ヨコナデ、外面ハケメである。細かい目のハケメや薄い器壁、胎土から352と同一個体の可能性もある。346は壺の装飾部分であると思われるが、器壁が薄く、推測される体部径も大きいことから、異器種の可能性もある。内外面ミガキ・赤彩が施されている。347は球形の体部で、外面はミガキ、内面は横方向のハケメがみられる。壺の底部(348～355)のうち、348～350・353は体部が張る球形で、やや突き出た底部をもつ。348～350は底部外面の縁部がドーナツ状にわずかに盛り上がる。353は底部の下端が張り出しており、外面は内側にやや反っている。これらの外面はハケメ(348・353)やミガキ(349)、丁寧なナデ(348・350)が行われている。348には一部黒斑がみられる。351・352は、体部の張りが強くなく、底部はほぼ平らである。351は胎土に1～3mmの粒子の混和材を多量に含む。352は器壁が薄い。354・355は体部が張らない小形の壺と思われるものである。354は底部が碁笥底状であり、縁部の接地部分がわずかに擦れている。355は外面に凸凹がみられるが、丁寧なナデを行っている。356は遺存率が高く、長い口縁部が内湾気味に立ち上がる。体部は球形で、底部は丸みを帯びており安定しない。口縁部内外面・体部外面はミガキがされている。357・358は、壺I1類に比べ口縁部が短く、頸部が太い。口縁部内外面・体部外面はミガキが施されており、358は内外面赤彩されている。359は口縁部ヨコナデで、体部は外面がハケメの後に丁寧なナデ、内面がケズリの後に丁寧なナデを行っている。1～3mmの粒子の混和材を多量に含む。362と同一個体の可能性のある。361は内外面ミガキが施されている。363～365は球形の体部で、外面ミガキ、内面は363がナデ、364・365が弱いミガキが施されている。368～370のうち、369は底部外面に明瞭な面をみるが、368・370は体部との稜がみられない。368は内外面に丁寧なナデを行うが、外面下半はケズリがみられる。369は、内面がナデ、外面が細かい目のハケメである。370は内面がやや粗いナデ、外面が丁寧なナデである。時期は、前期・中期のものと考えられるが、330が8期、331～333・343・344が7・8期、334・358・359・362は8・9期、335は7期、337・342・356・357・361・363・370は9期あるいはその前後、338は6・7期、339は9・10期、345は9期以降、346は下限が7期、361・369は10・11期、368は12期と捉えられる。

**土師器甕** 371は甕A類、372～376は甕B1類、377～398は甕B2類、399はD1類、400～410はC2類、



411はC3類、412・413は甕D類である。

371は内面はミガキ、外面ハケメ・ナデが行われているが、甕としたものである。内面は黒斑が広がる。372～376は口縁部のヨコナデにより意識して面取りを行っており、内端がつまみ上げられたようになっているもの(372・374)や外端がつまみ出されたようになったもの(376)がある。375・376は外面にススが付着しているが、口縁部から体部上半に顕著である。377は口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ケズリで畿内系の調整技法がみられる。378～380は口縁部が内湾気味に立ち上がるものである。いずれも器壁は薄めで、口縁部はヨコナデ、体部(378のみ遺存)は外面ハケメ、内面ケズリで畿内系の調整技法がみられる。外面にススが付着しているが、口縁部付近が顕著である。381・382は口縁部のヨコナデが内面には施されるが、外面はほとんどみられない。口縁部のつくりもやや歪んでいる。外面のススの付着が顕著である。383は口縁部が直線的に立ち上げるもので、ヨコナデが丁寧である。外面にススが薄く付着している。384は口縁部が厚く先が細るものである。外面のススの付着が顕著である。385は口縁部内面がヨコナデ、それ以外ケズリである。焼き上がりは堅緻である。386・387は口縁部が外反するものであるが、口縁部の調整が雑で厚さが不均等であるが、体部のナデは丁寧で器壁は薄くほぼ均等である。外面に薄くススが付着している。388は、口縁部が直立して端部付近で開くものである。口縁部上半はヨコナデを行っているが、下半はやや雑なハケメである。389は口縁部のヨコナデが雑である。器壁は薄い、均等ではない。体部の内面はナデ・ケズリ、外面は縦方向のケズリが施される。外面のススの付着は顕著である。390～397は口縁部がくの字状に外反するものであるが、相対的に390～393は長く、394～397は短い。また、体部の最大径も前者の方が上部にある。口縁部はハケメが残るがヨコナデされ、体部は内外面ハケメである。391～394は外面にススが付着しており、394は外面、396は内面に剥落がみられる。397は小形の甕であるが、口縁部はヨコナデ、体部は内外面ハケメが施されており、焼き上がりは堅緻である。398は口縁部外面に未調整の粘土の後が残るが器壁が薄い。外面にススが付着している。399～411は布留系甕で、411は精製品である。399～410は口縁部の肥厚の仕方にバラエティがあるが、口縁部はヨコナデ、体部は外面にハケメ、内面にケズリが施される。粒子が1～3mmの混和材を多量に含むもの(403・404・407・409)も少なくない。403の体部外面には黒斑がみられる。399～402・404～406・408・409の外面にススが付着している。411は内外面ミガキが施される。412・413は器厚が異なるが、膨らまない体部であろう。内面はナデ、外面はハケメがみられる。414・418は内面にケズリ、外面にハケメが施されており、布留系甕の一部であろう。粒子が1～3mmの混和材を多量に含む。414の外面下部にもわずかにススがみられる。415は甕の口縁部と思われるが、口縁部が垂直に立ち上がり、上部で外反するものである。416・417は体部の最大径が中位より上にくる形態のものと思われる。416は体部内面ハケメ・ナデ、外面ケズリがされている。417は底部外面がナデで、それ以外はハケメである。どちらも内面に輪積み痕がみられ、程度の差はあるが内面に炭化物、外面にススが付着している。時期は前期・中期のものと考えられるが、371が6・7期、372～374・378は7・8期、375は8期、376は7期、377・381・383～387・393・399は9期あるいはその前後、379・388～392は9・10期、382は8・9期、398・416・417は前期、394・395・397は中期と捉えられる。その他は時期不明。

**ミニチュア土器** 419は口縁部が平縁であるが、雑な調整である。420は壺を模倣したと思われるミニチュア土器。比較的雑な内外面ナデが行われている。

**縄文・弥生時代** (図版66・67、写真図版57)

**縄文土器** 421～433・446～449は深鉢、434～441は鉢とした。421は口縁部に付く把手と思われるもの。422・423は粗製の深鉢で、口縁端部が肥厚している。424～427・437～439は太めの沈線で区画し、その中を単節縄文(425～426・437・439)や無節(438)等で充填している。また、429～434・440は細めの沈線で区画し、その中を羽状縄文で充填したり(429～434)、沈線文を描いたり(440・441)している。鉢は平縁が多いが、441は緩やかな山形の突起を3か所配すようである。446～449は撚糸文(446)や斜縄文(447～449)

を施すものである。時期は、421 が加曽利 B1 式、その他が加曽利 B2 式と考えられる。446～449 は詳細時期不明であるが、おそらく後期か晩期であろう。

**弥生土器** 442 は壺で、弥生土器としたが、類例を知らない。胎土も金雲母を多量に含み異質である。443・444 は粗製の大型深鉢で、443 の口縁部外面には波状沈線文が施されている。445 は内外面に条痕文が施される甕。450 は甕で、上部で大きく外反する口縁部内面にハケ状工具による施文がみられる。時期は、442 は不明であるが、443～445 は前期の緒立式、450 は中期の小松式である。

**時代不明** 451 は外面に網代痕がみられる底部である。時代不明。

## 第2節 土製品 (図版 67・68、写真図版 58)

図示した遺物のみ出土している。支脚 (452)・紡錘車 (453・454)・土錘 (455～458) の 7 点があり、453・457 は遺構出土、それ以外は V・VI 層出土である。

**支脚** V 層から出土した 1 点である。SI246 が位置する 12H グリッドの西隣の 12G (12G15) グリッドから出土している。一部欠損しているが、指で調整した痕が残る。両端の調整は異なっており、片端はやや粗い調整で窪んでいる (実測図上端) が、もう一方の片端は丁寧なナデを行って平らである (実測図下端)。被熱のための変色がみられ、下にわずかであるがススが付着している。焼き上がりは堅緻である。

**紡錘車** 453 は上層遺構の SK919 から出土している。おそらく小甕底部を転用したもので、穿孔や破片縁部の調整がみられる。454 は V 層出土のもので、断面台形の紡錘車である。半分を欠損している。全面丁寧なナデが行われている。時期はどちらも古代であろう。

**土錘** 455・456 は VI 層から出土している。どちらも半分以上欠損しているが、全体形は俵形と思われる。断面円形で、直径は 2 cm に満たない小さなものであり、紐かけ用と思われる溝がみられるが、かなり細いものである。漁撈用と思われ、御井戸 A 遺跡 [前山・相田 2003] で報告されていることから縄文時代の遺物と考える。457・458 は筒形の土錘である。457 は SI246、458 は V 層から出土している。全体に丁寧なナデが施されるが、一部ハケメが残っている。内水面漁撈用と思われる。

## 第3節 石器 (図版 67・68、写真図版 58)

図示した石鎌のみ出土している。

**石鎌** 製品 (459～467) 9 点と未製品と思われるもの (468) 1 点がある。遺構出土のもの (459・463) は流入したものであり、包含層出土のものは、ほとんどが VI 層からの出土である。平基有茎 (459・460)・凹基有茎 (465)・凸基有茎 (461～464)・凹基無茎 (466・467) がみられる。比較的遺存度は良好であるが、先端と茎を欠損しているものが多い。石材は珪質頁岩が多い (462～465) が、他に蛇紋岩 (459・467)・鉄石英 (460)・メノウ (461)・黒曜石 (466) がみられる。時代は、465 が弥生時代、それ以外は縄文時代と考えられる。

## 第4節 石製品 (図版 68・69、写真図版 58・59)

石製品と認識されるものは、図示した白玉 (469～472)・玉状製品 (473)・砥石 (474～477)・磨石状製品 (479～482)・石錘 (483・484) である。

**白玉** いずれも遺構 (SI307・SB2005-P522・SB2005-P638) 出土であるが、覆土を洗浄して採集されている。直径が 0.5cm 前後、厚さ 0.2～0.3cm の非常に小さなもので、石材は灰色頁岩 (469・471)・黒色頁岩 (470・472) であろう。時代は古墳時代と考えられる。

玉状製品 特に加工の痕跡はみられないが、埋葬施設と思われる SX71 から出土していることと石材が玉髄であり比較的整った円礫であるということから、そのまま使用された可能性のあるものとして図示した。水底でつく衝撃痕のような傷がわずかに認められる。

砥石 477 は SI246、それ以外は V 層から出土している。自然礫の形が残るものや完全に整形して利用しているものがある。使用痕である擦痕がみられる。474 は磨石状製品の 480 と並んで出土している。片端に打痕のような傷があり、細長い楕円状の素材を割って面を作り出している可能性がある。3 面を使用しており、非常に使い込んでいる。475 は切断面を除いて全面が磨耗しており、欠損は使用後と考えられる。片面の中央に小さなへこみがあり擦痕や傷がみられることから、場所によって使い分けをしていた可能性もある。被熱している。476・477 は方形に形を整えられたものであろう。よく使い込んでいる。478 は元の形状を加工せず使用しているもので、磨耗は弱い擦痕がみられる。砥石とは別の用途で使用された可能性もある。石材は 474・475 が凝灰岩、476 が泥岩、477・478 は安山岩である。時代は、出土遺構・層位から、すべて奈良・平安時代と考えられる。

磨石状製品 いずれも V 層から出土している。磨耗が全面に及ぶものはなく、痕跡も弱いことから、短期間の使用であろう。480 は 474 と並んで出土している。481・482 は被熱している。石材は 479・480 が安山岩、481・482 が花崗岩である。時代は、奈良・平安時代であろう。

石 錘 どちらも V 層から出土している。483 は切断した面を加工して平らにしているが、元は 484 と同じく砲弾形であったと思われる。どちらも紐を通す孔と紐を掛ける溝がある。石材は、483 が凝灰岩、484 が石英安山岩である。時代は、奈良・平安時代と考えられる。

## 第5節 金属製品 (図版 70、写真図版 60)

図示した銅製品のみ出土している。埋葬施設と思われる SX71 とその周辺から出土した銅製の腰帯金具と刀子の飾り金具で、出土状況 (第 8 図) から副葬品と捉えられる。鉄製品は 1 点も出土していない。

今回出土した金属製品については、財団法人元興寺文化財研究所 (以下、元興寺文化財研究所という) に委託して保存処理を行なっているが、それに伴う理化学的分析の中で「鍍金」の可能性のある「金」成分が確認されている。この「金」成分が検出されたのは元興寺文化財研究所が分析の中で「膜状物質」とするものからであり、肉眼で確認される付着物の痕跡と一致する。実測図においてトーンで示したものである。元興寺文化財研究所の分析結果は本章の最後に掲載したが、紙面の都合上、分析箇所の写真や成分抽出グラフ等は割愛した。

### A 腰帯金具

鉸板 (鉸具の板金具)、鉈尾、巡方、丸鞆が出土している。鉸具の刺金や弓金具が欠けているが、ほぼ一条分の金具と思われる。表金具と裏金具が接着した状態のものも多い。

鉸板 497・498 は縁部がやや欠けているが、ほぼ全体の形状をとどめている。2 か所の突出部分で繋がっていたもので、帯革を挟んで表・裏となる。498 に開け損じと思われる鉸孔がみられることから、497 が表、498 が裏である可能性がある。理化学分析によればどちらも外側に「金」成分が検出されており、497 ではそれが含まれる極薄い膜状物質が肉眼で確認できる。また、表・裏金具の外側には、使用時についたと考えられる横方向の擦痕が認められる。

鉈尾 509 は表・裏金具が接着しているものである。横方向がやや長い長方形で、帯の尻側の角は丸みをもっている。内側を観察することはできないが、裏金具の外側に鉸痕が表れており、4 本の鉸で留められていることがわかる。分析では裏金具の外側に金が検出され、それを含んでいると思われる膜状物質が肉眼で確認できる。

## 帯金具・刀子金具の分析について

(財団法人 元興寺文化財研究所 研究部 保存科学研究室による)

### 1) 分析対象：新潟市四十石遺跡出土

帯金具（鉸具 図版 70 - 497・498、巡方 図版 70 - 499・501・502、丸鞘 図版 70 - 506、蛇尾 図版 70 - 509）

刀子金具（柄金具？ 図版 70 - 510、鞘金具 図版 70 - 511）

### 2) 分析内容：鍍金、漆、皮革等で構成されていると思われる帯金具の構造を調査する。

### 3) 使用機器

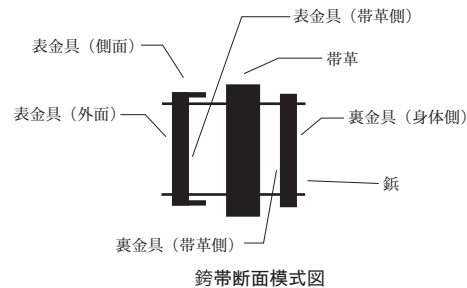
- エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 (XRF) 【SII ナノテクノロジー SEA5230】  
測定条件：大気中、管電圧 45kV、Mo 管球
- 全反射フーリエ変換型赤外分光光度計 (ATR - FTIR) 【SensIR Technologies TravelIR】
- 実体顕微鏡 【Leica MZ16・KEYENCE VHX200】

### 4) 結果

新潟市四十石遺跡出土の帯金具を観察すると、裏金具の身体側に金色箇所や膜状物質があったため、XRF 分析と ATR - FTIR 分析を行った。下表にその結果をまとめた。なお、帯金具の各部位は下図に示すように表記した。

XRF 分析により金が検出できたのは、表金具・裏金具の別が不明の鉸具（図版 70 - 497.498）を除き、すべて裏金具（図版 70 - 502 巡方、図版 70 - 499 巡方、図版 70 - 506 丸鞘、図版 70 - 509 蛇尾）の身体側であり、他の部分からは検出できなかった。

さらに、図版 70 - 502 巡方(裏金具)を観察したところ、身体側の箇所に膜状物質がめくれ上がった部分があり、銅地板の身体側に赤色層と暗色層が順に重なっていることが確認できた。そこで、2 か所から膜状物質を採取し樹脂包埋のうえ、断面観察と XRF 分析を行ったところ、銅を多く含む厚み約 50 μm の赤色層と金を多く含む(水銀は未検出) 厚み約 20 μm の暗色層があり、暗色層内には厚さ数 μm の金色層がみえた。また、暗色層を ATR - FTIR により分析したところ、劣化が著しく、漆や皮革の可能性はあるが判定困難な有機物という結果であった。



### 分析結果のまとめ

図版No.	報告書No.	器種		遺物と分析箇所※	主たる検出元素	備考	
70	497	帯金具	鉸具	表・裏金具の別は不明	外側または身体側 2 か所	鉄 (Fe), 銅 (Cu), 鉛 (Pb), 金 (Au)	膜状物質あり
					帯革側 2 か所	鉄, 銅, 鉛	膜状物質なし
70	498	帯金具	鉸具	表・裏金具の別は不明	外側または身体側 2 か所	鉄, 銅, 鉛, 金	膜状物質あり
					帯革側 2 か所	鉄, 銅, 鉛	膜状物質なし
70	501	帯金具	巡方	表金具	外側	鉄, 銅, 鉛	
					帯革側 2 か所	鉄, 銅, 鉛	緑部分
					側面	鉄, 銅, 鉛	鉸脚
70	502	帯金具	巡方	裏金具	身体側 6 か所	鉄, 銅, 鉛, 金	膜状物質あり
						鉄, 銅, 鉛	膜状物質なし
						鉄, 銅, 鉛, 金	金色層
						銅, 鉛, 金	膜状物質に層状の金あり
				銅, 鉛	膜状物質に層状の銅 (赤色)		
				ATR-FTIR: 皮革・漆の可能性はあるが判定困難な有機物			
				帯革側 2 か所	鉄, 銅, 鉛		
70	499	帯金具	巡方	表金具	外側	鉄, 銅, 鉛	
				側面	鉄, 銅, 鉛		
				裏金具	身体側 2 か所	鉄, 銅, 鉛, 金	膜状物質あり
						鉄, 銅, 鉛, 金	金色層
70	506	帯金具	丸鞘	表金具	外側	鉄, 銅, 鉛	
				側面	鉄, 銅, 鉛		
				裏金具	身体側 2 か所	鉄, 銅, 鉛, 金	膜状物質あり
						鉄, 銅, 鉛	膜状物質なし
70	509	帯金具	蛇尾	表金具	外側	鉄, 銅, 鉛	
					側面	鉄, 銅, 鉛	
					裏金具	身体側 3 か所	鉄, 銅, 鉛, 金
						鉄, 銅, 鉛	膜状物質なし
						鉄, 銅, 鉛, 金	金色層
70	511	刀子金具	鞘金具	—	—	鉄, 銅, 鉛, 金	
70	510	刀子金具	柄金具?	—	—	鉄, 銅, 鉛, 金	

※細かい分析箇所については割愛した。



巡 方 499～502 はやや横幅が長い方形の金具である。表金具には長辺寄りに細長い長方形の垂孔が付き、内側に金具を装着するための鉾がコーナー寄りに4か所鑄出されている。表・裏金具が接着しているもの1点(499)、表金具2点(500・501)、裏金具1点(502)がある。表金具の鉾足と裏金具の鉾孔の位置が一致することから501と502がセットであることがわかる。表金具3点の大きさを比較すると縦幅と横幅に0.2cmほどの幅がみられる。厚さは0.1cmほどの差であるが、やはり平面形(縦幅・横幅)が大きいものが厚い。499の裏金具の外側は分析により金が確認されており、肉眼でもその痕跡を認めることができる。501の裏金具である502は外側に膜状の物質が付着しており、特定困難な有機物とされるが金も認められる。

丸 鞆 503～508・513・514は蒲鉾形をした金具である。表金具には細長い長方形の垂孔が付く。鑄出した鉾が内側3ヶ所に付いている。表・裏金具が接着しているもの4点(503～506)、表金具2点(507・508)、裏金具2点(494)である。遺存状況は概ね良好であるが、表金具だけのもの・裏金具だけのものは損傷がみられる。506の裏金具の外側に「金」成分が確認されている。

## B 刀子金具

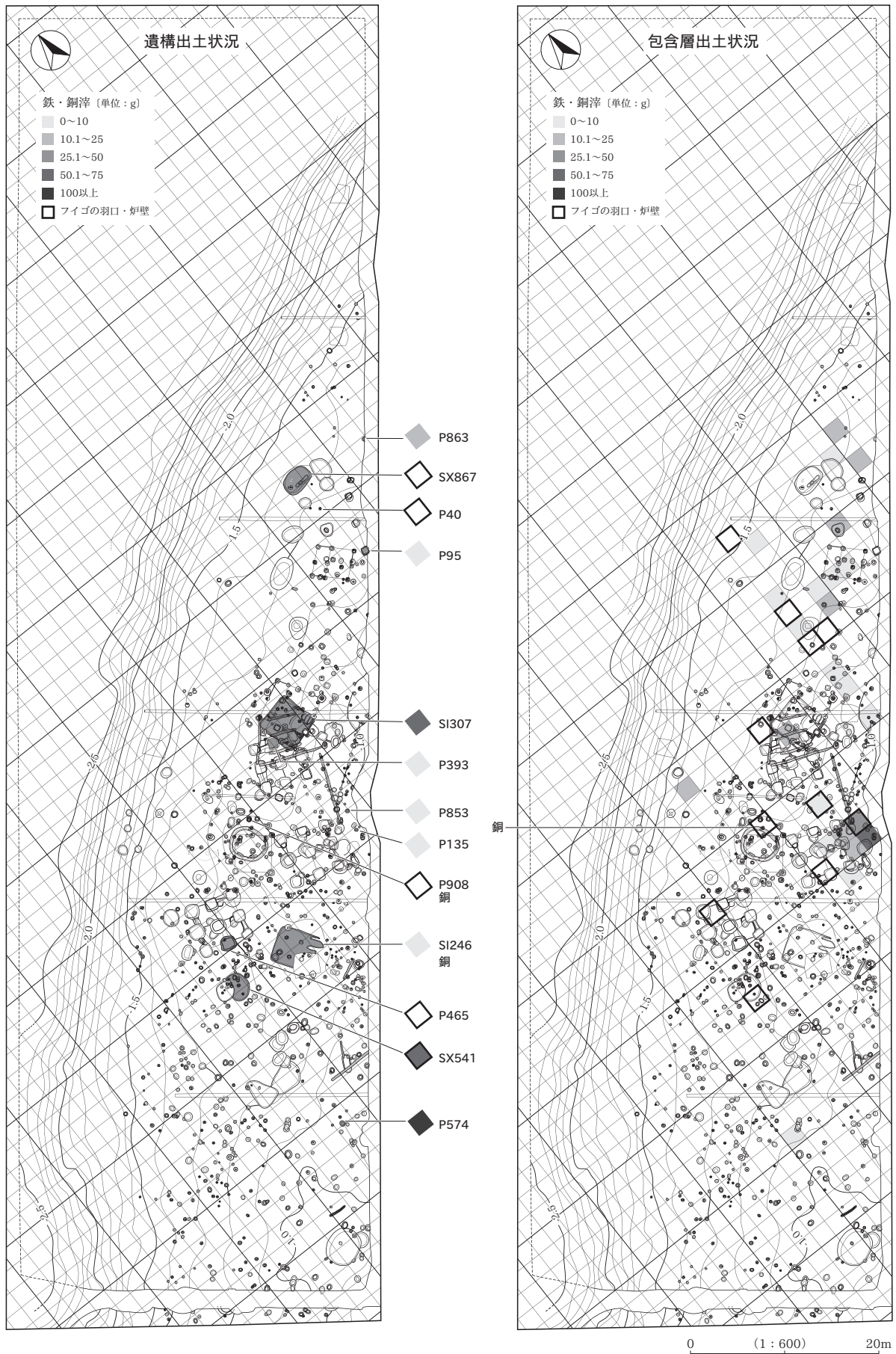
類例をあまり知らないが、510は柄につける金具、511・512は鞆につける金具で、一振り分の刀子の金具と思われる。510は刃を柄にはめるときに押さえる<sup>はばき</sup>鑷のようなもの、511は鞆の胴部にはめる飾り、512は同じく鞆の先端(尻)に装着する飾りと考えられる。いずれも外側に何かの付着痕がみられ、そのうち、510・511は「金」成分が検出されている。

## 第6節 鍛冶関連遺物(図版69、写真図版59)

ファイゴの羽口・鉄滓・銅滓・金床石が出土しており、そのうち形状が描ける大きめのものを図示した。ファイゴの羽口と金属滓の出土状況は第15図のとおりである。金属滓には鍛冶滓や炉壁に付着した滓が含まれる。ほとんどが上層遺構やV層から出土しており、奈良・平安時代のもと考えられる。485～489はファイゴの羽口である。全体の大きさが推定できるものは485のみで、径は6.4cmである。492～495は椀形滓で、492・493・495は中形、494はそれよりも小さい鍛冶滓である。490・491は炉壁に銅滓がみられるもの。赤色系の滓であり、肉眼で認められる。第15図に示すことのできなかつた金床石は、SK336と11118グリッドで極小片が出土している。

## 第7節 木製品(図版69、写真図版59)

漆椀が1点出土している。15G6グリッドのII層直下で出土している。体部下半～底部の一部しか遺存していないが、木胎の状態は比較的良好である。器壁は比較的薄く、削り出されたわずかな高台をもつ。全面に黒漆が施され、見込みには赤漆で描かれた絵がみられる。鎌倉時代後期のもと思われる。



第15図 鍛冶関連遺物出土状況[縮尺 1/600]

## 第VI章 自然科学分析

### 第1節 土層とテフラ

#### A はじめに

新潟平野とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層や土壌には、妙高・沼沢・浅間など新潟県域とその周辺に分布する火山のほか、御岳・十和田・始良・鬼界など遠方の火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、<sup>さいせつぶつ</sup>いわゆる火山灰）が数多く降灰している。これらのテフラの多くについてはすでに噴出年代が明らかにされており、過去の時空指標として有効に利用できる。このようにテフラを利用して編年を行う火山灰編年学は、わが国において考古学や地形地質学の分野で盛んに利用されている。

四十石遺跡でも、層位や年代が不明な土層が認められたことから、微高地 A 地点で認められた基本土層断面について地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、高純度の試料採取を実施して、すでに層位や年代が知られていて各種編年に有効な指標テフラの検出同定を行った。

#### B 微高地 A 地点の土層層序

微高地 A 地点（採取地点は図版 9 参照）では、下位より黄色砂層（層厚 5cm 以上, VIII 層）、灰褐色砂質土（層厚 13cm, VII 層）、黒色砂質土（層厚 13cm, VI b 層）、黄灰色シルトブロックや炭化物を含む暗灰褐色砂質土（層厚 5cm, V 層）、青灰色シルト層（層厚 12cm, IV b 層）、わずかに青みがかった灰色シルト層（層厚 15cm）、若干色調が暗い灰色シルト層（層厚 4cm, 以上 IV a 層）、緑色がかった暗灰色腐植質泥層（層厚 2cm）、緑色がかった灰色泥層（層厚 2cm）、緑色がかった暗灰色腐植質泥層（層厚 7cm, 以上 III b 層）、灰色シルト層（層厚 2cm）、成層した灰褐色シルト層（層厚 5cm）、灰白色シルト層（層厚 2cm）、灰色シルト層（層厚 5cm）、灰白色シルト層（層厚 4cm, 以上 III a 層）、暗灰色腐植質泥層（層厚 1cm）、灰白色シルト層（層厚 0.3cm）、暗灰褐色腐植質泥層（層厚 7cm, 以上 II 層）、角礫混じり灰褐色土（層厚 27cm, 礫の最大径 23mm, I 層）が認められる（第 16 図）。

#### C テフラ検出分析

##### 1) 分析試料と分析方法

土層断面において、土層の層界をまたがないように基本的に 5cm ごとに設定採取された試料のうち、12 試料を対象にテフラ粒子の相対的な特徴を把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

- ① 試料ごとに 9g を秤量。
- ② 超音波洗浄装置を用いながら、ていねいに泥分を除去。
- ③ 80℃で恒温乾燥。
- ④ 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。

##### 2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第 7 表に示す。比較的粗粒の軽石やスコリアは検出されなかったものの、試料 2、試料 4、試料 6、試料 14、試料 17、試料 18 から火山ガラスが検出された。全体的な火山ガラスはごくわずかではあるが、試料 14 にはより多くの透明の火山ガラスが含まれている。この試料では、繊維束状に発泡した軽石型や、平板状のいわゆるバブル型の火山ガラスが認められる。

## D 屈折率測定

### 1) 測定試料と測定方法

テフラ検出分析によりテフラの降灰層準の可能性が考えられた微高地 A 地点の試料 14 に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置(古澤地質社製 MAIOT)をもちいて、1/8-1/16mm の火山ガラスの屈折率(n)の測定を実施した。

### 2) 測定結果

火山ガラスの屈折率測定の結果を第 8 表に示す。火山ガラス(38 粒子)の屈折率(n)は、1.498-1.502 である。

## E 考察

試料 14 (IV a 層)に含まれる火山ガラスについては、火山ガラスの色調や形態などから、約 2.8 ~ 3.0 万年前に南九州の始良カルデラから噴出した始良 Tn 火山灰(AT, 町田・新井 1976・2003, 村山ほか 1993, 池田ほか 1995, 町田私信)や、約 1.5 ~ 1.65 万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石[As-YP, 新井 1962, 古環境研究所 1999, 町田・新井 2003]の一部と考えられる浅間草津テフラ[As-K, 新井 1962, 町田・新井 2003 など]に由来する可能性が指摘される。火山ガラスの具体的な起源の解明には、信頼度の高い EPMA を利用した火山ガラスの主成分化学組成分析が有効となろう。

ただ、新潟県域に降灰する完新世テフラについては、妙高地域を除けばまだ分析例が多くなく、たとえば 915 年に十和田火山から噴出し、福島市域でも検出されている十和田 a 火山灰[To-a, 大池 1972, 町田ほか 1981, Hayakawa 1985, 早田 未公表資料]など重要なテフラが検出される可能性も十分考えられる。テフラに関する調査分析の継続が期待される。

## F まとめ

四十石遺跡微高地 A 地点において、地質調査を実施して土層の層序を記載するとともに、テフラ分析や微化石分析に供する高純度の試料の採取を実施した。室内においてテフラ検出分析を行った結果、指標テフラに由来する可能性が高い火山ガラスを検出することができた。

第 7 表 テフラ検出分析結果

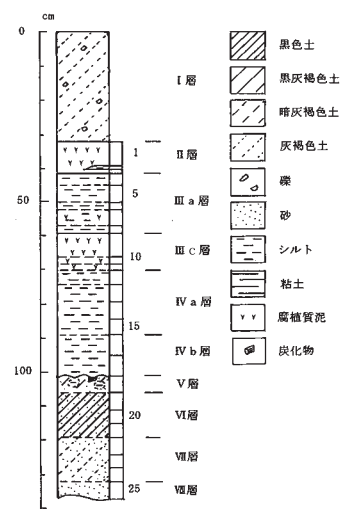
地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
微高地 A 地点	1						
	2				(*)	pm	透明
	4				(*)	bw,md	透明
	6				(*)	bw	淡褐, 透明
	8						
	10						
	12						
	14				*	pm,bw	透明
	17				(*)	bw	透明
	18				(*)	pm	透明
	20						
23							

\*\*\*\*: とくに多い, \*\*\*: 多い, \*\*: 中程度, \*: 少ない, (\*): とくに少ない。  
bw: バブル型, md: 中間型, pm: 軽石型。

第 8 表 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラスの屈折率	測定粒子
微高地 A 地点	14	1.498-1.502	38

屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置(MAIOT)による。



第 16 図 微高地 A 地点の土層柱状図



## 第2節 植物珪酸体分析

### A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 ( $\text{SiO}_2$ ) が蓄積したもので、植物が枯れたあとも微化石となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法で、古植生を含む古環境復元分析などに応用されている〔杉山 2000〕。

### B 試料

分析試料は、SD984 の3層～6層、SD868 の5層、SK923 の1層～6層、P309 の4層、および低地部 B 地点（採取地点は図版 9 参照）から採取された計 15 点である。

### C 分析方法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて、次の手順で行った。

- ①試料を 105℃ で 24 時間乾燥（絶乾）。
- ②試料約 1g に対し直径約 40  $\mu\text{m}$  のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）。
- ③電気炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理。
- ④超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散。
- ⑤沈底法による 20  $\mu\text{m}$  以下の微粒子除去。
- ⑥封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。
- ⑦検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-5}\text{g}$ ）を乗じて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。

### D 分析結果

#### 1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その分析結果を第 9 表および第 17 図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真（第 18 図）を示す。

〔イネ科〕

イネ、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族 A（チガヤ属など）

〔イネ科-タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等

〔イネ科-その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

その他

## 2) 植物珪酸体の検出状況

### a 低地部 B 地点 (IV層)

試料 4、試料 1、試料 2 では、部分的にヨシ属、ウシクサ族 A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。試料 5 では植物珪酸体が検出されなかった。

### b 上層 SK923

1 層と 2 層ではイネが検出されたが、密度はいずれも 700 個 /g と低い値である。その他の分類群では、上位層を中心にキビ族型、ススキ属型、ウシクサ族 A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型、および樹木 (その他) などが検出されたが、いずれも少量である。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり積極的に評価する必要がある [杉山 1999]。なお、すべての樹種で植物珪酸体が形成されるわけではなく、落葉樹では形成されないものも多い [近藤・佐瀬 1986]。下位の 5 層と 6 層では、ウシクサ族 A などが検出されたが、いずれも少量である。

### c 下層 SD868

5 層では、キビ族型やミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。

### d 下層 SD984

3 層ではイネが検出された。密度は 500 個 /g と低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている 5,000 個 /g を下回っている。その他の層では、部分的にウシクサ族 A などが検出されたが、いずれも少量である

### e 上層 SB2004-P309

4 層 (試料 9) ではイネが検出されたが、密度は 2,300 個 /g と比較的低い値である。その他の分類群では、キビ族型・ウシクサ族 A・チマキザサ節型・ミヤコザサ節型・樹木 (その他) などが検出されたが、いずれも少量である。

## 3) 推定される植生と環境

### a 低地部 B 地点 (IV層)

植物珪酸体があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、部分的にササ属 (チマキザサ節やミヤコザサ節) などのイネ科植物が生育し、ヨシ属が生育するような湿地的なところも見られたと考えられる。植物珪酸体が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

### b 上層 SK923

1 層と 2 層の堆積当時は、遺構周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で遺構内にイネの植物珪酸体もしくは稲藁が混入したと考えられる。当時の遺構周辺にはススキ属やチガヤ属、キビ族、ササ属 (チマキザサ節やミヤコザサ節) などのイネ科植物が生育し、遺跡周辺には何らかの樹木 (落葉樹) が生育していたと推定される。ササ属については、落葉樹の林床植生として分布していた可能性も考えられる。

なお、下位の 5 層と 6 層では植物珪酸体があまり検出されないことから、植生や環境の推定は困難である。植物珪酸体が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

### c 下層 SD868

5 層では、植物珪酸体があまり検出されないことから、植生や環境の推定は困難である。植物珪酸体が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

### d 下層 SD984

3 層の堆積当時は、遺構周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で遺構内にイネの植物珪酸体もしくは稲藁が混入したと考えられる。稲藁の利用としては、屋根材や敷物、藁製品など多様な用途が想定される。

その他の層では植物珪酸体があまり検出されないことから、植生や環境の推定は困難である。植物珪酸体が検

第9表 植物珪酸体分析結果

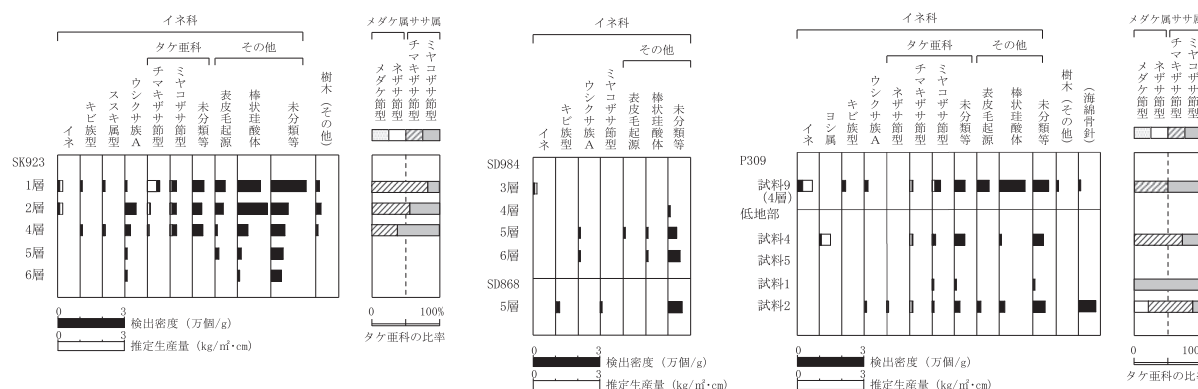
検出密度 (単位: × 100 個/g)		地点・試料														
分類群	学名	低地部 B 地点				SK923				SD868		SD984		P309		
		4	5	1	2	1	2	4	5	6	5	3	4	5	6	9
イネ科	Gramineae															
イネ	<i>Oryza sativa</i>					7	7					5				23
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	8														
キビ族型	Panicaceae type					7		8			15					15
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type					7		8								
ウシクサ族 A	Andropogoneae A type				8	7	48	23	8	8			7	7		15
タケ亜科	Bambusoideae															
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>				8											
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	15			15	57	14	8								15
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	15		7	8	29	28	30			8					38
未分類等	Others	45		7	23	50	41	45								46
その他のイネ科	Others															
表皮毛起源	Husk hair origin				15	43	34	8	15				7			53
棒状珪酸体	Rod-shaped	8			23	100	131	45	15	8			7	7		114
未分類等	Others	45		7	53	157	76	61	53	45	61		8	37	52	68
樹木起源	Arboreal															
その他	Others					14	21	8								8
(海綿骨針)	Sponge spicules				76											8
植物珪酸体総数	Total	135	0	22	151	479	400	242	90	60	83	5	8	60	67	395

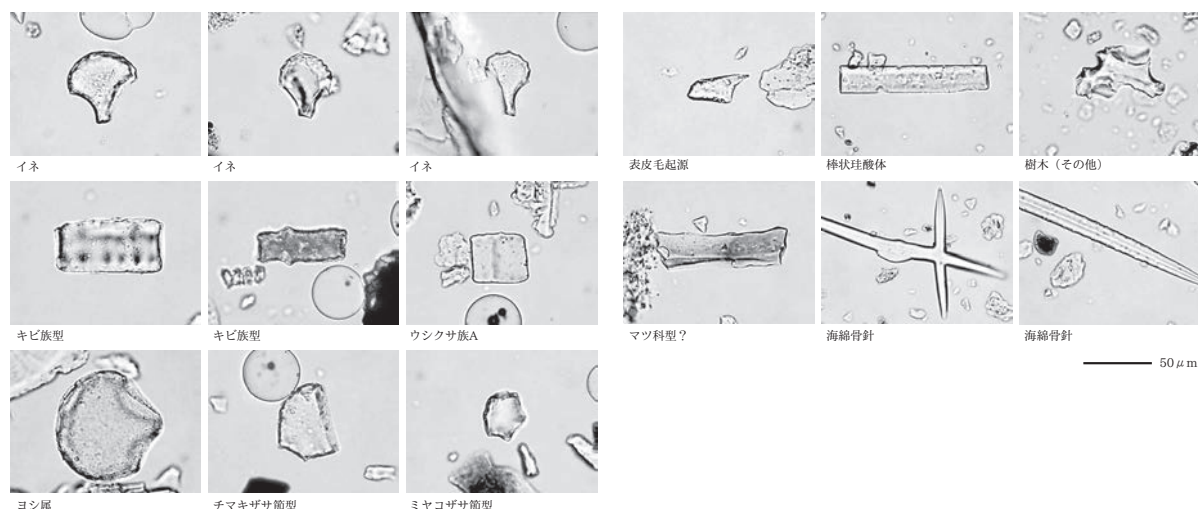
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m <sup>2</sup> ・cm) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出																
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.21	0.20							0.15						0.67
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.47														
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type					0.09		0.09								
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>			0.04												
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.11			0.11	0.43	0.10	0.06								0.11
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.05	0.02	0.02	0.09	0.08	0.09			0.02						0.11

タケ亜科の比率 (%)																	
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>					21											
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	71				66	83	56	38								50
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	29		100	13	17	44	62		100							50
メダケ率	Medake ratio	0	0	21	0	0	0	0		0							0



第17図 植物珪酸体分析結果



第18図 植物珪酸体の顕微鏡写真

出されない原因としては、河川の影響など何らかの原因でイネ科植物の生育には適さない環境であったこと、土層の堆積速度が速かったこと、水流などによる淘汰・選別を受けたこと、さらに風化作用によって植物珪酸体が分解消失したことなどが考えられるが、ここでの具体的な原因は不明である。

#### e 上層 SB2004-P309

4層の堆積当時は、遺構周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で遺構内にイネの植物珪酸体もしくは稲藁が混入したと考えられる。当時の遺構周辺にはササ属（チマキザサ節やミヤコザサ節）などのイネ科植物が生育し、遺跡周辺には何らかの樹木（落葉樹）が生育していたと推定される。

## 第3節 プラント・オパール分析

### A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（ $\text{SiO}_2$ ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとでも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する分析方法であり、特にイネの消長を検討することで水田跡（稲作跡）の検証や探査が可能である〔藤原・杉山 1984、杉山 2000〕。

### B 試料

分析試料は、微高地 A 地点から採取された 9 点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

### C 分析方法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて、次の手順で行った。

- ①試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）。
- ②試料約 1g に対し直径約 40  $\mu\text{m}$  のガラスビーズを約 0.02g 添加（電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量）。
- ③電気炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理。
- ④超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散。
- ⑤沈底法による 20  $\mu\text{m}$  以下の微粒子除去。
- ⑥封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。
- ⑦検鏡・計数。

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重、単位： $10^{-5}\text{g}$ ）をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。

### D 分析結果

プラント・オパール分析では、イネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な 6 分類群について同定・定量を行っている。分析結果を第 10 表および第 19 図に示し、主要な分類群の顕微鏡写真（第 20 図）を示す。



## E 考 察

### 1) 水田跡（稲作跡）の検討

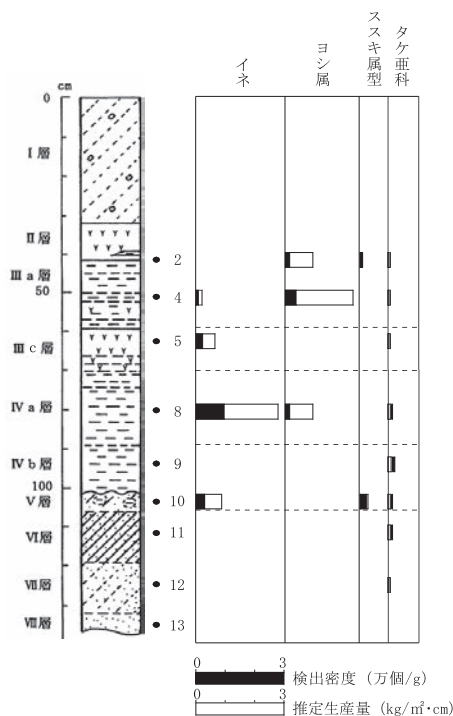
水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料 1g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している〔杉山 2000〕。ただし、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g とし検討を行った。

微高地 A 地点では、Ⅱ層（試料 2）からⅧ層（試料 13）までの層準を対象に分析を行った。その結果、Ⅲ a 層（試料 4）、Ⅲ b 層（試料 5）、Ⅳ a 層（試料 8）、Ⅴ層（試料 10）からイネが検出された。このうち、Ⅳ a 層（試料 8）では密度が 9,700 個 /g と高い値であり、Ⅴ層（試料 10）でも 3,000 個 /g と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

Ⅲ a 層（試料 4）とⅢ b 層（試料 5）では、密度が 700 個 /g および 2,200 個 /g と比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、稲藁の大半が耕作地以外に持ち出されていたこと、さらに上層や他所からの混入などが考えられる。

### 2) イネ科栽培植物の検討

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。



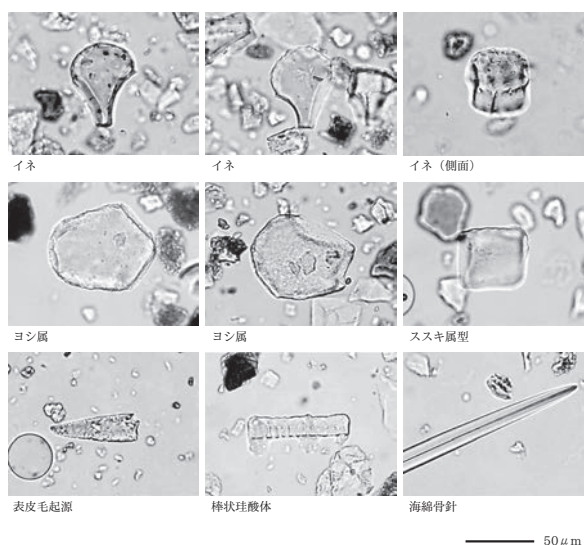
第 19 図 プラント・オパール分析結果

第 10 表 プラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: × 100 個 /g)		微高地 A 地点									
分類群	学名	2	4	5	8	9	10	11	12	13	
イネ	<i>Oryza sativa</i>		7	22	97		30				
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	15	37		15						
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7					22				
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	7	7	7	15	23	15	15	7		

推定生産量 (単位: kg/m <sup>2</sup> ·cm) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出		微高地 A 地点									
分類群	学名	2	4	5	8	9	10	11	12	13	
イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.22	0.66	2.85	0.88						
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	0.94	2.35	0.94							
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09					0.28				
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	0.04	0.04	0.04	0.07	0.11	0.07	0.07	0.04		



第 20 図 プラント・オパールの顕微鏡写真

## F ま と め

プラント・オパール分析の結果、IV a層およびV層ではイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、III a層とIII b層でも稲作が行われていた可能性が認められた。

## 第4節 花 粉 分 析

### A は じ め に

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

### B 試 料

分析試料は、SD984の3層～6層、SD868の5層、SK923の1層～6層、P309の4層、および低地部から採取された計15点である。これらは、植物珪酸体分析に用いられたものと同一試料である。

### C 分 析 方 法

花粉の分離抽出は、中村(1967)の分析方法をもとに以下の手順で行った。

- ①試料から1cm<sup>3</sup>を秤量。
- ②0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加えて15分間湯煎。
- ③水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。
- ④25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置。
- ⑤水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- ⑥再び氷酢酸を加えて水洗処理。
- ⑦沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。
- ⑧検鏡・計数。

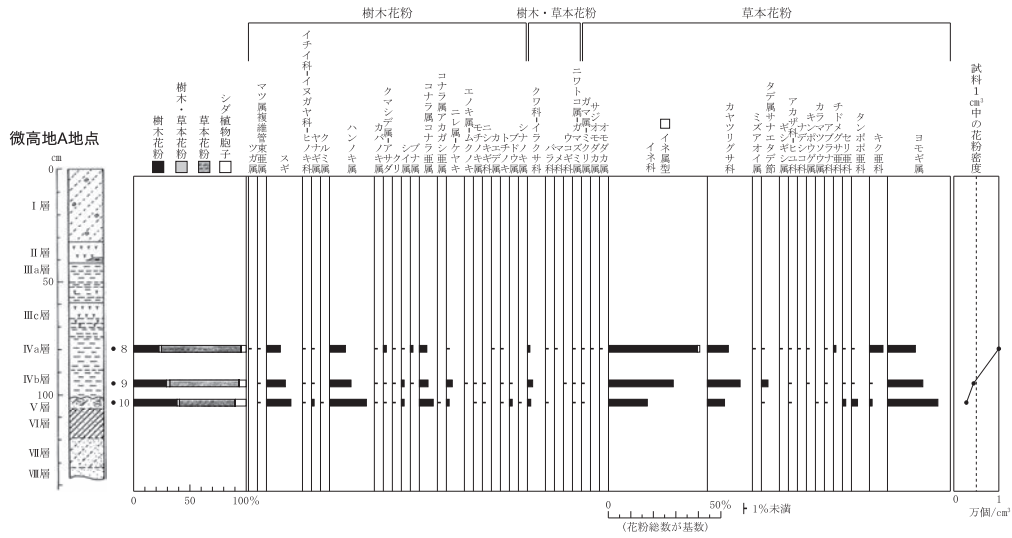
検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。イネ属については、中村(1974・1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

### D 分 析 結 果

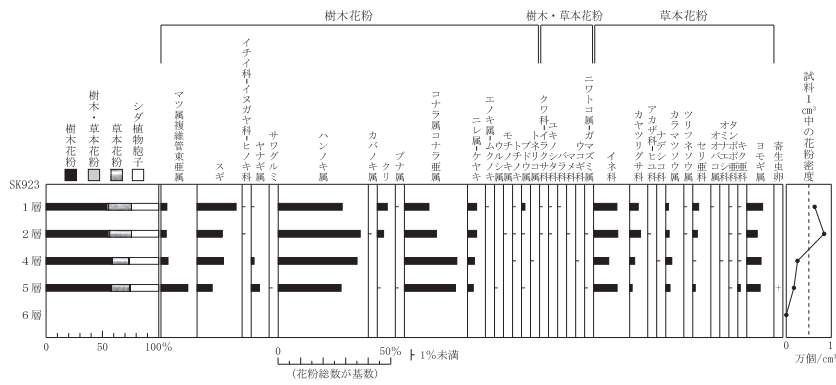
#### 1) 分 類 群

出現した分類群は、樹木花粉32、樹木花粉と草本花粉を含むもの7、草本花粉25、シダ植物孢子2形態の計64である。また、寄生虫卵1分類群が検出された。分析結果を第11表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラム(第21～24図)を示した。主要な分類群について顕微鏡写真(第25・26図)を示す。以下に出現した分類群を記載する。

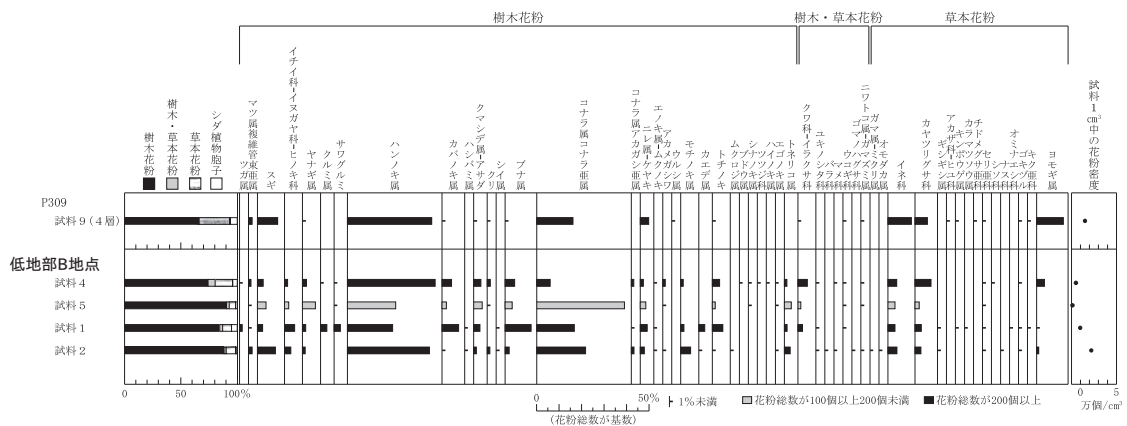




第 22 図 花粉ダイアグラム② (微高地 A 地点)



第 23 図 花粉ダイアグラム③ (SK923)



第 24 図 花粉ダイアグラム④ (P309、低地部 B 地点)



〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、ナス科、オオバコ属、オミナエシ科、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

〔寄生虫卵〕

鞭虫

2) 花粉群集の特徴

a 微高地 A 地点

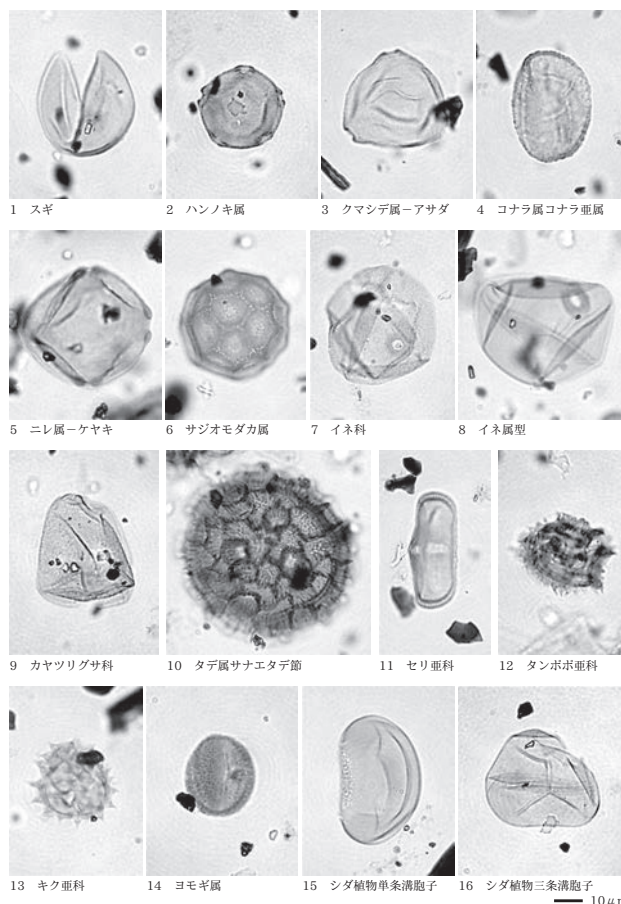
V層(試料10)では、樹木花粉よりも草本花粉の占める割合が高い。草本花粉ではイネ科・ヨモギ属が優勢で、カヤツリグサ科・タンポポ亜科・セリ亜科などが伴われる。樹木花粉ではスギ・ハンノキ属が優勢で、コナラ属コナラ亜属などが伴われる。IV b層(試料9)からIV a層(試料8)にかけては、イネ科が増加し、ヨモギ属および樹木花粉は減少している。IV a層ではイネ属型が伴われ、ミズアオイ属・オモダカ属なども認められた。

b 低地部 B 地点

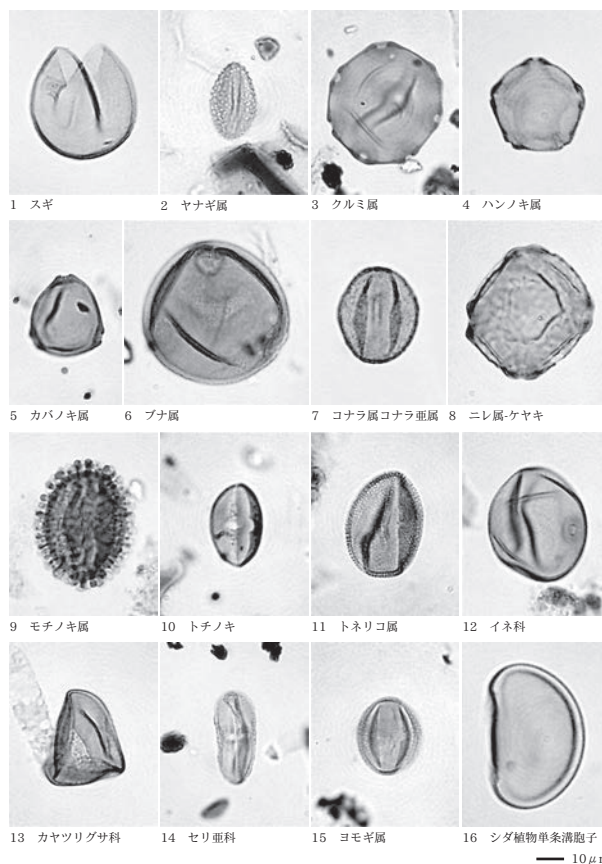
試料4・試料5・試料1・試料2では、樹木花粉の占める割合が約75~90%である。樹木花粉では、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属が優勢で、カバノキ属・ブナ属・クマシデ属-アサダ・トチノキ・トネリコ属・スギ・イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科などが伴われる。草本花粉では、カヤツリグサ科・イネ科・ヨモギ属などが認められた。

c 上層 SK923

下位の6層では花粉が検出されなかった。5層では樹木花粉の占める割合が約55%、シダ植物孢子が約25%である。樹木花粉ではハンノキ属・コナラ属コナラ亜属が優勢で、マツ属複維管束亜属・スギ・ヤナギ属・ニレ属-ケヤキなどが伴われる。草本花粉ではイネ科・ヨモギ属が優勢で、カヤツリグサ科・カラマツソウ属などが伴われる。また、寄生虫卵の鞭虫卵がわずかに検出された。4層から1層にかけては、スギが増加し、マツ属複維管束亜属、



第25図 花粉・孢子の顕微鏡写真①(微高地 A 地点)



第26図 花粉・孢子の顕微鏡写真②(低地部 B 地点 遺構)

コナラ属コナラ亜属は減少している。また、2層から1層にかけては、クリがやや増加している。

#### d 下層 SD868

5層では、樹木花粉のクマシデ属－アサダ・ニレ属－ケヤキ、草本花粉のカラマツソウ属が検出されたが、いずれも少量である。

#### e 下層 SD984

3層では、部分的に樹木花粉のハンノキ属・マツ属複雑管束亜属・コナラ属コナラ亜属・スギ、ヤナギ属・ブナ属・草本花粉のヨモギ属・イネ科・タンポポ科・キク科が検出されたが、いずれも少量である。

#### f 上層 SB2004-P309

試料9(4層)では、樹木花粉の占める割合が約65%である。樹木花粉ではハンノキ属・コナラ属コナラ亜属が優勢で、スギ・ニレ属－ケヤキなどが伴なわれる。草本花粉ではヨモギ属・イネ科・カヤツリグサ科などが認められた。

### 3) 推定される植生と環境

#### a 微高地 A 地点

V層からIV a層にかけては、イネ科やカヤツリグサ科などが生育する湿地的な環境だったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはヨモギ属などが生育していたと考えられる。また、周囲にはハンノキ属の湿地林が分布し、周辺にはスギやコナラ属コナラ亜属などが分布していたと推定される。IV a層ではイネ属型が検出され、水田雑草のミズアオイ属・オモダカ属も認められることから、周囲に水田が分布していたと考えられる。IV b層は平安海進堆積物の可能性も考えられていたが、塩分等による植生への影響はとくに認められなかった。

#### b 低地部 B 地点

調査区周辺は、湿地林を形成するハンノキ属、およびナラ類・カバノキ属・ブナ属・クマシデ属－アサダ・トチノキなどの落葉広葉樹林を主体として、スギなども生育する森林植生が分布しており、草本類はあまり見られなかったと考えられる。

#### c 上層 SK923

下位の6層では花粉が検出されなかった。花粉が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。5層から1層にかけては、湿地林を形成するハンノキ属、およびナラ類・ニレ属－ケヤキなどの落葉広葉樹林を主体として、スギ・マツ属なども生育する森林植生が分布していたと考えられ、上位層ではスギが増加し、マツ属やナラ類は減少したと推定される。また、遺構付近にはイネ科・ヨモギ属・カヤツリグサ科・カラマツソウ属・シダ類などの草本類が生育していたと考えられる。

5層では、寄生虫卵の鞭虫卵が検出されたが、低密度であることから、集落周辺などでの通常の生活汚染に由来するものと考えられる。鞭虫は中間宿主を必要とせず、虫卵の付着した野菜・野草の摂取や水系により経口感染する。寄生虫に起因する鞭虫症は、腹痛を主とする消化器病症がおこり、多数寄生の場合は症状が重い。

#### d 下層 SD868

5層では、花粉がほとんど検出されないことから植生や環境の推定は困難である。花粉が検出されない原因としては、前述のようなことが考えられる。

#### e 下層 SD984

3層では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の推定は困難であるが、遺構付近にイネ科やヨモギ属が生育し、周辺にハンノキ属やナラ類(コナラ属コナラ亜属)などの樹木が分布していたことが示唆される。花粉が検出されない原因としては、一般に乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたこと、土層の堆積速度が速かったこと、および水流や粒径による淘汰・選別を受けたことなどが考えられるが、ここでの詳細な原因は不明である。

f 上層 SB2004-P309

4層の堆積当時は、湿地林を形成するハンノキ属、およびナラ類・ニレ属－ケヤキなどの落葉広葉樹林を主体として、スギなども生育する森林植生が分布していたと考えられ、遺構付近にはイネ科、ヨモギ属、カヤツリグサ科などの草本類が生育していたと推定される。

## 第5節 珪藻分析

### A はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物で、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

### B 試料

分析試料は、微高地 A 地点の IV b 層から採取された 1 点と低地部 B 地点から採取された 4 点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

### C 分析方法

珪藻の抽出と同定は以下の手順で行った。

- ①試料から 1cm<sup>3</sup> を秤量。
- ② 10% 過酸化水素水を加え、加温反応させながら 1 晩放置。
- ③上澄みを捨て、細粒のコロイドと薬品を水洗 (5 ~ 6 回)。
- ④残渣をマイクロピペットでカバーガラスに滴下して乾燥。
- ⑤マウントメディアによって封入し、プレパラート作成。
- ⑥検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって 600 ~ 1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 100 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

### D 分析結果

#### 1) 分類群

試料から出現した珪藻は、微高地 A 地点が中－貧塩性種(汽－淡水生種) 2 分類群、貧塩性種(淡水生種) 64 分類群、低地部 B 地点が破片の計数は基本的に中心域を有するものと、中心域がない種については両端 2 個につき 1 個と数えた。分析結果を第 12・13 表に示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定したダイアグラムを第 29・30 図に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性については Lowe (1974) や渡辺 (2005)、陸生珪藻については小杉 (1986)、環境指標種群の海水生種から汽水生種については小杉 (1988)、淡水生種については安藤 (1990) の記載を参照した。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記し、主要な分類群について顕微鏡写真 (第 27・28 図) を示す。

#### a 微高地 A 地点

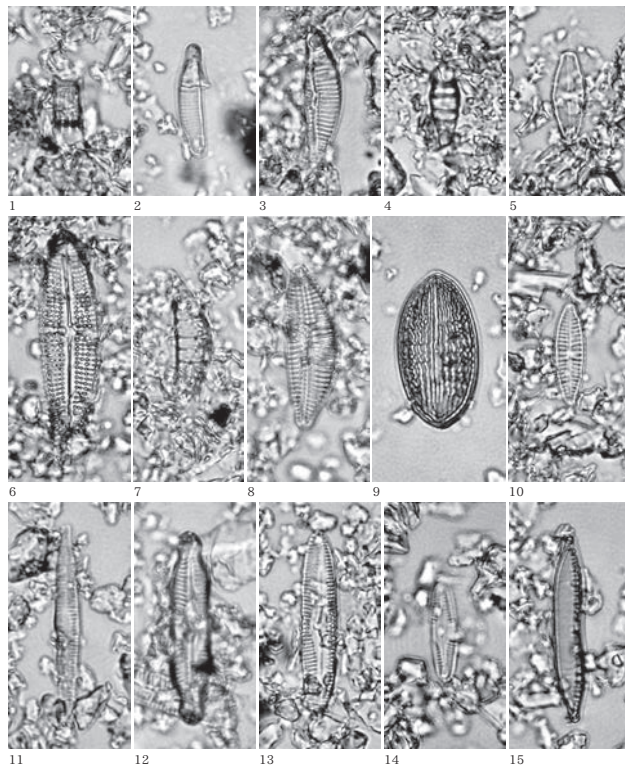
[中－貧塩性種]

*Achnanthes brevipes*, *Rhopalodia gibberula*



第12表 珪藻分析結果① (微高地 A 地点)

分類群	微高地 A 地点 試料 9	分類群	微高地 A 地点 試料 9
貧塩性種 (淡水生種)		<i>Hantzschia amphioxys</i>	38
<i>Achnanthes lanceolata</i>	1	<i>Meridion circulare</i>	1
<i>Achnanthes reversa</i>	1	<i>Meridion circulare v. constrictum</i>	5
<i>Amphora copulata</i>	2	<i>Navicula americana</i>	2
<i>Aulacoseira ambigua</i>	6	<i>Navicula bacillum</i>	1
<i>Aulacoseira canadensis</i>	2	<i>Navicula confervacea</i>	1
<i>Aulacoseira granulata</i>	1	<i>Navicula contenta</i>	4
<i>Caloneis silicula</i>	1	<i>Navicula cryptocephala</i>	1
<i>Cocconeis placentula</i>	20	<i>Navicula elginensis</i>	2
<i>Cymbella naviculiformis</i>	2	<i>Navicula gallica</i>	1
<i>Cymbella silesiaca</i>	11	<i>Navicula mutica</i>	24
<i>Cymbella sinuata</i>	6	<i>Navicula spp.</i>	2
<i>Cymbella spp.</i>	4	<i>Neidium ampliatum</i>	3
<i>Cymbella tumida</i>	2	<i>Nitzschia amphibia</i>	1
<i>Cymbella turgidula</i>	12	<i>Nitzschia brevissima</i>	1
<i>Diatoma spp.</i>	1	<i>Pinnularia borealis</i>	6
<i>Diploneis elliptica</i>	1	<i>Pinnularia gibba</i>	9
<i>Diploneis spp.</i>	2	<i>Pinnularia interrupta</i>	10
<i>Diploneis yutakaensis</i>	1	<i>Pinnularia microstauron</i>	9
<i>Epithemia adnata</i>	2	<i>Pinnularia schroederii</i>	5
<i>Epithemia soresx</i>	1	<i>Pinnularia subcapitata</i>	5
<i>Eunotia bilunaris</i>	1	<i>Pinnularia viridis</i>	11
<i>Eunotia minor</i>	9	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	3
<i>Eunotia praerupta</i>	3	<i>Rhopalodia gibba</i>	2
<i>Fragilaria capucina</i>	35	<i>Stauroneis anceps</i>	2
<i>Fragilaria construens v. venter</i>	3	<i>Surirella angusta</i>	2
<i>Fragilaria pinnata</i>	3	<i>Synedra ulna</i>	2
<i>Frustulia vulgaris</i>	1	<i>Tabellaria fenestrata-flocculosa</i>	1
<i>Gomphonema acuminatum</i>	2	中-貧塩性種 (汽水-淡水生種)	
<i>Gomphonema affine</i>	1	<i>Achnanthes brevipes</i>	11
<i>Gomphonema angustum</i>	2	<i>Rhopalodia gibberula</i>	16
<i>Gomphonema augur</i>	2	合計	363
<i>Gomphonema clevei</i>	2	未同定	15
<i>Gomphonema gracile</i>	3	破片	265
<i>Gomphonema minutum</i>	17	試料 1cm <sup>3</sup> 中の殻数密度	3.2
<i>Gomphonema parvulum</i>	9		× 10 <sup>4</sup>
<i>Gomphonema spp.</i>	10	完形殻保存率 (%)	58.8



1. *Aulacoseira ambigua* 2. *Eunotia minor* 3. *Cymbella silesiaca* 4. *Meridion circulare v. constrictum*  
 5. *Navicula mutica* 6. *Achnanthes brevipes* 7. *Rhopalodia gibberula* 8. *Cymbella turgidula* 9. *Cocconeis placentula*  
 10. *Gomphonema parvulum* 11. *Fragilaria capucina* 12. *Pinnularia interrupta* 13. *Pinnularia schroederii*  
 14. *Pinnularia subcapitata* 15. *Hantzschia amphioxys*

第27図 珪藻の顕微鏡写真① (微高地 A 地点)

第13表 珪藻分析結果② (低地部 B 地点)

分類群	低地部 B 地点			
	4	5	1	2
貧塩性種 (淡水生種)				
<i>Achnanthes exigua</i>	1			1
<i>Achnanthes hungarica</i>				1
<i>Achnanthes inflata</i>		2	1	1
<i>Achnanthes lanceolata</i>	18	20	17	6
<i>Actinella brasiliensis</i>				1
<i>Amphora copulata</i>	4		1	2
<i>Amphora montana</i>	1	4		
<i>Aulacoseira ambigua</i>	6	1	1	11
<i>Aulacoseira canadensis</i>				3
<i>Aulacoseira granulata</i>	2			1
<i>Aulacoseira varians</i>				2
<i>Caloneis hyalina</i>				1
<i>Caloneis silicula</i>		2	2	1
<i>Caloneis spp.</i>	1	1		2
<i>Cocconeis placentula</i>	26	15	13	7
<i>Cyclotella meneghiniana</i>		2		5
<i>Cymbella gracilis</i>	1			
<i>Cymbella lanceolata</i>			1	1
<i>Cymbella minuta</i>	11	18	7	3
<i>Cymbella naviculiformis</i>	1			1
<i>Cymbella silesiaca</i>	13	12	17	9
<i>Cymbella sinuata</i>	15	11	24	1
<i>Cymbella tumida</i>	1	7	3	2
<i>Cymbella turgidula</i>	20	6	30	7
<i>Denticula spp.</i>	1	1	3	1
<i>Diatoma mesodon</i>			1	
<i>Diatomella balfouriana</i>	1	2		
<i>Diploneis elliptica</i>				2
<i>Diploneis ovalis</i>			1	
<i>Diploneis subovalis</i>			2	1
<i>Epithemia adnata</i>	1		1	1
<i>Eunotia bilunaris</i>	2		1	4
<i>Eunotia minor</i>	9	5	10	47
<i>Eunotia pectinalis</i>				3
<i>Eunotia praerupta</i>	1	1	3	5
<i>Eunotia soleirolii</i>				1
<i>Eunotia spp.</i>				2
<i>Fragilaria brevistriata</i>	3	4	4	33
<i>Fragilaria capucina</i>	23	34	28	12
<i>Fragilaria construens</i>	9	3	2	15
<i>Fragilaria construens v. binodis</i>	1			
<i>Fragilaria construens v. venter</i>	1		5	35
<i>Fragilaria parasitica</i>		2	2	9
<i>Fragilaria ulna</i>			4	1
<i>Frustulia rhomboides v. saxonica</i>		1		
<i>Frustulia vulgaris</i>	5	14	7	1
<i>Gomphonema acuminatum</i>				1
<i>Gomphonema angustum</i>				1
<i>Gomphonema angustum</i>		1	1	
<i>Gomphonema augur</i>	1		5	2
<i>Gomphonema clevei</i>	1	1	1	1
<i>Gomphonema gracile</i>	1	1	2	2
<i>Gomphonema minutum</i>	12	8	15	4
<i>Gomphonema parvulum</i>	16	10	17	17
<i>Gomphonema sphaerophorum</i>				1
<i>Gomphonema spp.</i>	7	6	2	
<i>Gyrosigma spp.</i>	1		1	3
<i>Hantzschia amphioxys</i>	2	1	1	1
<i>Meridion circulare v. constrictum</i>	2	1	1	2
<i>Navicula americana</i>				1
<i>Navicula cohnii</i>				1
<i>Navicula confervacea</i>		2	1	4
<i>Navicula contenta</i>	4	11	4	3
<i>Navicula cryptocephala</i>	5	3	2	1
<i>Navicula cryptotenella</i>	16	9	18	4
<i>Navicula elginensis</i>	1	3	3	2
<i>Navicula gallica</i>		3	7	
<i>Navicula goeppertiana</i>	6	6	4	6
<i>Navicula hasta</i>		1		
<i>Navicula kotschyi</i>	1			
<i>Navicula menisculus</i>				1
<i>Navicula mutica</i>	8	2	8	12
<i>Navicula mutica v. ventricosa</i>	1	1	6	4
<i>Navicula pupula</i>		6		1
<i>Navicula pusilla v. capitata</i>				1
<i>Navicula radiosa</i>	3	4	5	4
<i>Navicula spp.</i>	1	5	2	
<i>Navicula veneta</i>	3			1
<i>Neidium affine</i>		1		
<i>Neidium ampliatum</i>		4	1	1
<i>Nitzschia amphibia</i>	1		1	
<i>Nitzschia brevissima</i>	1	2	4	7
<i>Nitzschia debilis</i>		2	1	4
<i>Nitzschia nana</i>	1			
<i>Nitzschia palea</i>	17	18	2	4
<i>Nitzschia recta</i>				1
<i>Nitzschia spp.</i>		3		1
<i>Nitzschia umbonata</i>				1
<i>Pinnularia appendiculata</i>	2			
<i>Pinnularia braunii</i>				1
<i>Pinnularia gibba</i>		1	2	4
<i>Pinnularia interrupta</i>		1	2	4
<i>Pinnularia microstauron</i>		2	1	3
<i>Pinnularia schroederii</i>				1
<i>Pinnularia subcapitata</i>	4	5	2	1
<i>Pinnularia viridis</i>	2	1	2	1
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>		3	3	2
<i>Rhopalodia gibba</i>				1
<i>Stauroneis anceps</i>		2	1	
<i>Stauroneis kriegeri</i>	1	1		
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>			1	1
<i>Stauroneis smithii</i>		6	1	
<i>Stauroneis spp.</i>		4		
<i>Surirella angusta</i>		1		1
<i>Surirella ovata</i>		1		1
<i>Synedra ulna</i>	3		2	1
<i>Tabellaria fenestrata-flocculosa</i>	2	3	7	20
中-貧塩性種 (汽水-淡水生種)				
<i>Achnanthes brevipes</i>	1			
<i>Diploneis pseudovalis</i>	1			
<i>Rhopalodia gibberula</i>	5	5	2	4
<i>Rhopalodia musculus</i>	2	6	3	1
合計	315	325	336	387
未同定	6	7	11	10
破片	109	141	123	84
試料 1cm <sup>3</sup> 中の殻数密度	2.9	1.9	1.7	1.6
	× 10 <sup>5</sup>	× 10 <sup>5</sup>	× 10 <sup>5</sup>	× 10 <sup>5</sup>
完形殻保存率 (%)	74.7	70.2	73.8	82.5



〔貧塩性種〕

*Aulacoseira ambigua*, *Cocconeis placentula*, *Cymbella silesiaca*, *Cymbella sinuata*, *Cymbella* spp., *Cymbella turgidula*, *Eunotia minor*, *Eunotia praerupta*, *Fragilaria capucina*, *Fragilaria construens* v. *venter*, *Fragilaria pinnata*, *Gomphonema gracile*, *Gomphonema minutum*, *Gomphonema parvulum*, *Gomphonema* spp., *Hantzschia amphioxys*, *Meridion circulare* v. *constrictum*, *Navicula contenta*, *Navicula mutica*, *Neidium ampliatum*, *Pinnularia borealis*, *Pinnularia gibba*, *Pinnularia interrupta*, *Pinnularia microstauron*, *Pinnularia schroederii*, *Pinnularia subcapitata*, *Pinnularia viridis*, *Rhoicosphenia abbreviata*

b 低地部 B 地点 (IV層)

〔中-貧塩性種〕

*Rhopalodia gibberula*, *Rhopalodia musculus*

〔貧塩性種〕

*Achnanthes lanceolata*, *Aulacoseira ambigua*, *Cocconeis placentula*, *Cymbella minuta*, *Cymbella silesiaca*, *Cymbella sinuata*, *Cymbella tumida*, *Cymbella turgidula*, *Eunotia minor*, *Fragilaria brevistriata*, *Fragilaria capucina*, *Fragilaria construens*, *Fragilaria construens* v. *venter*, *Fragilaria parasitica*, *Frustulia vulgaris*, *Gomphonema minutum*, *Gomphonema parvulum*, *Gomphonema* spp., *Navicula contenta*, *Navicula cryptotenella*, *Navicula goeppertiana*, *Navicula mutica*, *Navicula pupula*, *Navicula radiosa*, *Nitzschia brevissima*, *Nitzschia palea*, *Pinnularia subcapitata*, *Tabellaria fenestrata-flocculosa*

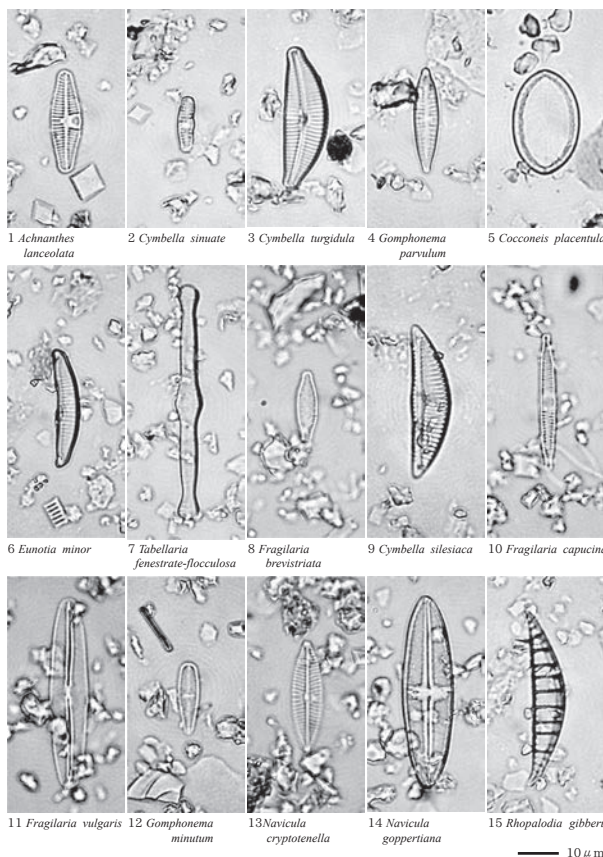
2) 珪藻群集の特徴

a 微高地 A 地点

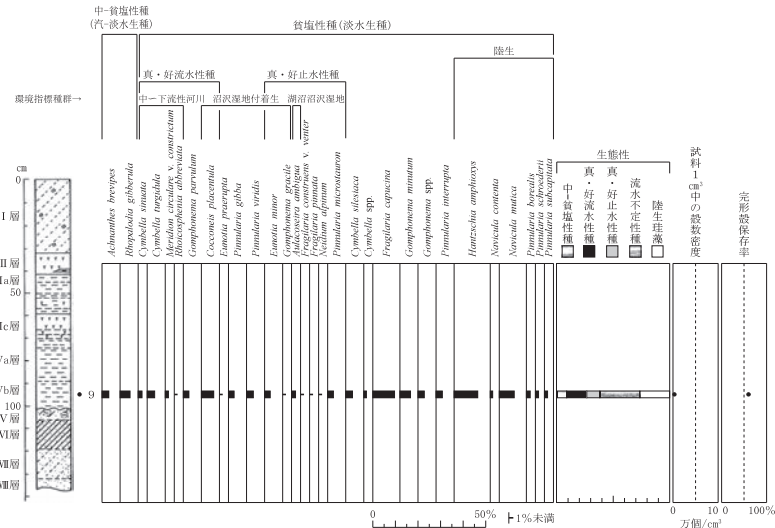
IV b 層 (試料 9) では貧塩性種 (淡水生種) が約 90% を占め、残りが中-貧塩性種 (汽-淡水生種) である。貧塩性種 (淡水生種) では流水不定性種の占める割合がやや高く、次いで陸生珪藻、真・好流水性種、真・好止水性種が占める。流水不定性種では *Fragilaria capucina* がやや多く、*Gomphonema minutum*, *Gomphonema* spp., *Cymbella silesiaca*, *Pinnularia interrupta*, 沼沢湿地付着生環境指標種群の *Pinnularia gibba*, *Pinnularia viridis* など多様な分類群が低率に認められた。陸生珪藻では *Hantzschia amphioxys* を主に、*Navicula mutica* などが認められた。真・好流水性種では沼沢湿地付着生環境指標種群の *Cocconeis placentula*, 中~下流性河川環境指標種群の *Cymbella turgidula*, 好流水性種の *Gomphonema parvulum* などが低率に認められた。真・好止水性種では沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotia minor*, 湖沼沼沢湿地付着生環境指標種群の *Aulacoseira ambigua*, 好止水性種の *Pinnularia microstauron* などが低率に認められた。中-貧塩性種 (汽-淡水生種) では *Achnanthes brevipes*, *Rhopalodia gibberula* が認められた。

b 低地部 B 地点 (IV層)

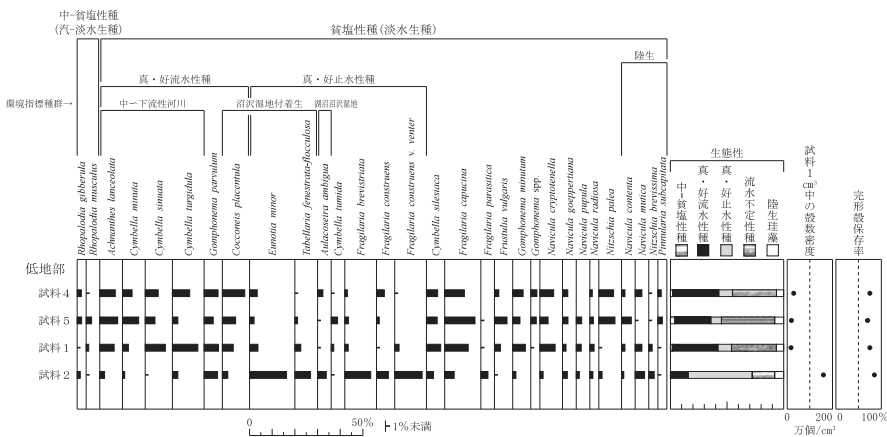
試料 4、試料 5、試料 1 では類似した出現傾向を示し、真・好流水性種と流水不定性種の占める割合がそれぞれ約 40% である。真・好流水性種では中~下流性河川環境指標種群の *Cymbella turgidula*, *Cymbella sinuata*,



第 28 図 珪藻の顕微鏡写真② (低地部 B 地点)



第 29 図 主要珪藻ダイアグラム① (微高地 A 地点)



第 30 図 主要珪藻ダイアグラム② (低地部 B 地点)

*Achnanthes lanceolata*、*Cymbella minuta* などが優勢し、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Cocconeis placentula*、好流水性種の *Gomphonema parvulum* などが伴なわれる。流水不定性種では *Fragilaria capucina* を主に、*Cymbella silesiaca*、*Navicula cryptotenella*、*Gomphonema minutum*、*Nitzschia palea*、*Frustulia vulgaris* などが出現する。中-貧塩性種 (汽-淡水生種) の *Rhopalodia gibberula*、*Rhopalodia musculus* が低率に出現する。

試料 2 では真・好止水性種の占める割合が約 55%、流水不定性種が約 20%、真・好流水性種が約 15% である。真・好止水性種では沼沢湿地付着生環境指標種群の *Eunotia minor*、好止水性種の *Fragilaria construens* v. *venter*、真止水性種の *Fragilaria brevistriata* などが優勢し、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Tabellaria fenestrata-flocculosa*、好止水性種の *Fragilaria construens*、湖沼沼沢湿地付着生環境指標種群の *Aulacoseira ambigua* などが伴なわれる。流水不定性種では *Fragilaria capucina*、*Cymbella silesiaca*、*Fragilaria parasitica* などが低率に出現する。真・好流水性種では好流水性種の *Gomphonema parvulum*、沼沢湿地付着生環境指標種群の *Cocconeis placentula* などが低率に出現する。

3) 推定される植生と環境

a 微高地 A 地点

IV b 層の堆積当時は、流水の影響のある沼沢湿地、水草の生育する不安定な滞水域、湿潤な陸域など、多様な環境が共存もしくは繰り返されていたと推定される。なお、中-貧塩性種 (汽-淡水生種) が低率に認められ

たが、真塩性種（海水生種）は検出されないことから、直接的な海の影響はなかった可能性が考えられる。

#### b 低地部 B 地点 (IV層)

試料 4、試料 5、試料 1 では、河川の影響を受ける流水域、不安定な滞水域、水草の生育する沼沢地、湿潤な陸域など、多様な環境が共存もしくは繰り返されていたと推定される。試料 2 では、流水域の影響が少なく、水草の生育する停滞した沼沢地の環境が示唆される。

## 第6節 種実同定

### A はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

### B 試料

試料は、低地部 B 地点から採取された堆積物 3 点である。

### C 分析方法

以下の手順で、種実の抽出と同定を行った。

- ①試料 500cm<sup>3</sup> に水を加えて泥化。
- ②攪拌した後に 0.25mm の篩で水洗選別。
- ③双眼実体顕微鏡下で検鏡・計数。

同定は種実の形態的特徴および現生標本との対比で行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

### D 分析結果

#### 1) 分類群

樹木 6、樹木・草本を含むもの 1、草本 12 分類群が同定される。学名、和名および粒数を第 14 表に示し、主要な分類群を顕微鏡写真（第 31 図）に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

〔樹木〕

ハンノキ属 *Alnus* 種子 カバノキ科：長さ 4.25mm × 幅 3.31mm、長さ 3.51mm × 幅 2.04mm

種子は広卵形や卵形、倒卵形を呈し、扁平である。暗褐色で平滑となる。

ヤマグワ *Morus australis* Poir. 種子 クワ科

茶褐色で広倒卵形を呈し、基部に突起がある。表面はやや粗い。

マメ科 Leguminosae 種子：長さ 7.72mm × 幅 4.79mm × 厚さ 3.82mm

淡褐色で楕円形を呈し、縦に一本の溝状の筋が走る。

モチノキ属 *Ilex* 核 モチノキ科：長さ 4.25mm × 幅 2.26mm

浅赤黄色で楕円形を呈し、V 字状の溝があり、縁は鋭く、光沢はない。鋭い隆条や凹凸が多く、粗面。

マタタビ属 *Actinidia* 種子 マタタビ科：長さ 1.07mm × 幅 0.68mm

暗褐色ないしやや紫色を帯びる茶褐色で、楕円形を呈す。断面は両凸レンズ形、表面には穴が規則的に分布する。

エゴノキ *Styrax japonica* S. et Z. 核（完形・破片） エゴノキ科：長さ 10.27mm × 幅 7.44mm

黒褐色で楕円形を呈し、下端にへそがある。表面に 3 本の溝が走る。

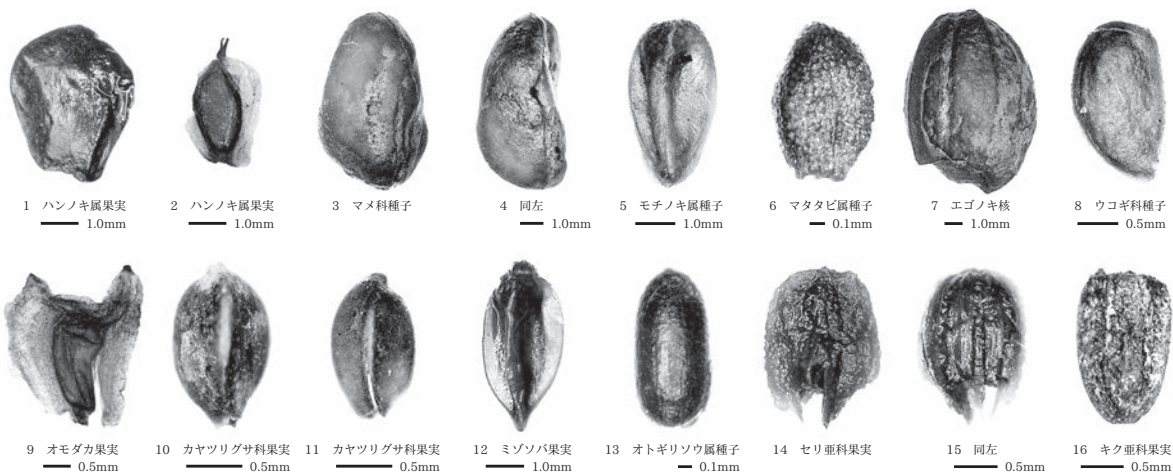
〔樹木・草本を含むもの〕

ウコギ科 Araliaceae 種子：長さ 2.00mm × 幅 1.17mm

第 14 表 種実同定結果

学名	分類群	和名	部位	低地部 B 地点		
				4	5	2
Arbor		樹木				
<i>Alnus</i>		ハンノキ属	果実 (破片)	28		18 9
<i>Morus australis</i> Poir.		ヤマグワ マメ科	種子 種子		2	
<i>Ilex</i>		モチノキ属	種子			1
<i>Actinidia</i> Lindley		マタタビ属	種子	10		
<i>Styrax japonica</i> S. et Z.		エゴノキ (破片)	核			1 2
Arbor・Herb		樹木・草本				
Araliaceae		ウコギ科	種子 (破片)	2 2		
Herb		草本				
<i>Sagittaria trifolia</i> L.		オモダカ	果実			2
<i>Sagittaria</i>		オモダカ属	果実			4
Gramineae		イネ科	穎 (破片)	4	2	
<i>Carex</i>		スゲ属	果実 (破片)		2	
Cyperaceae		カヤツリグサ科	果実 (破片)	26	8	14 2
Juncaceae		イグサ科	種子	4		
<i>Polygonum thunbergii</i> S. et Z.		ミゾソバ	果実	2		
Urticaceae		イラクサ科	種子	4		
<i>Hypericum</i>		オトギリソウ属	種子	2		
Apiaceae		セリ亜科	果実			2
Labiatae		シソ科	果実	2		
Asteroideae		キク亜科	果実		38	
Total		合計		86	52	56

(500cm<sup>3</sup> 中 0.25mm 篩)



第 31 図 種実の顕微鏡写真

淡褐色ないし茶褐色で、半月状を呈する。断面は扁平、向軸側はほぼ直線状になり、肺軸側には浅い溝が 2～3 本走る。表面はざらつく。

[草本]

オモダカ *Sagittaria trifolia* L. 果実 オモダカ科：長さ 2.96mm × 幅 2.53mm

淡褐色～黄褐色で歪んだ倒卵形を呈す。周囲は翼状となり、上部は針状にとがる。

オモダカ属 *Sagittaria* 果実 オモダカ科

淡褐色～黄褐色で歪んだ倒卵形を呈す。周囲は翼状部が傷んでおり、その概形が判別できないため、属レベルの同定にとどめる。

イネ科 Gramineae 穎 (完形・破片)

穎は灰褐色～茶褐色で楕円形を呈す。腹面はやや平らで、背面は丸い。表面は滑らかである。



スゲ属 *Carex* 果実(破片) カヤツリグサ科

茶褐色で倒卵形、扁平である。果皮は柔らかい。

カヤツリグサ科 *Cyperaceae* 果実(完形・破片):長さ 1.52mm × 幅 0.88mm、長さ 1.33mm × 幅 0.79mm

茶褐色でやや狭い倒卵形を呈す。断面は両凸レンズ形である。また、茶褐色で倒卵形を呈し、断面が三角形のものも認められる。

イグサ科 *Juncaceae* 種子

半透明の黄褐色ないし茶褐色、ゆがんだ卵形を呈す。両端は尖り、黒褐色。表面には網目模様がある。

ミゾソバ *Polygonum thunbergii* S. et Z. 果実 タデ科:長さ 4.53mm × 幅 2.17mm

黄褐色で三角状広卵形を呈し、基部に小突起がある。表面には微細な網目模様がある。

イラクサ科 *Urticaceae* 種子

黄褐色を呈し、ゆがんだ卵形で両端は尖る。表面はざらつき、種皮は厚くやや堅い。

オトギリソウ属 *Hypericum* 種子 オトギリソウ科:長さ 1.18mm × 幅 0.58mm

暗褐色で円柱状長楕円形を呈す。表面に不明瞭な網目模様が発達。

セリ亜科 *Apioidae* 果実:長さ 1.89mm × 幅 1.37mm

淡褐色～黄褐色で楕円形を呈す。果皮はコルク質で厚く弾力があり、片面に3本の肥厚した隆起が見られる。断面は半円形である。

シソ科 *Lamiaceae* 果実

倒卵状3稜形を呈し、先端は切形で扇形。着点は扇形で斜切形である。

キク科 *Compositae* 果実 キク科:長さ 1.84mm × 幅 1.12mm

茶褐色で楕円形を呈し、両端は切形となる。表面には縦方向に8本程度の筋が走る。

## 2) 種実群集の特徴

### a 試料 4

樹木種実のハンノキ属・マタタビ属、草本種実のカヤツリグサ科が多く、樹木・草本を含むウコギ科、草本種実のイネ科・イグサ科・イラクサ科・ミゾソバ・オトギリソウ属・シソ科も検出された。

### b 試料 5

草本種実のキク科が多く、カヤツリグサ科・イネ科・スゲ属、および樹木種実のヤマグワも検出された。

### c 試料 2

樹木種実のハンノキ属、草本種実のカヤツリグサ科が多く、樹木種実のエゴノキ・マメ科・モチノキ属、草本種実のオモダカ属・オモダカ・セリ亜科も検出された。

## 3) 推定される植生と農耕

低地部B地点では、試料により差異はあるが、沼沢地に生育するハンノキ属やカヤツリグサ科が多く、スゲ属、ミゾソバ、オトギリソウ属、オモダカなどの水生植物も見られることから、湿地から浅水域の環境が示唆される。なお、試料5ではキク亜科が多いことから、比較的乾燥していた可能性も考えられる。

試料4で検出されたマタタビ属は、食用になる有用植物で山地に生育する。試料5で検出されたヤマグワは、食用ないし有用植物で流路沿いなど水辺に生育する。

## 第 7 節 放射性炭素年代測定

### A 測定試料と測定方法

竪穴住居 (SI246・SI307)・掘立柱建物 (SB2005・SB2006)・埋葬関係遺構 (SX71・SK159) から検出された炭化物 6 試料について、酸-アルカリ-酸洗浄ののちに加速器質量分析 (AMS) 法により放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) 年代測定を行った。試料の詳細を表 1 に示す。年代測定は米国の Beta Analytic Inc. (ベータ社) で実施され、測定には 3MV HVVEE タンデトロン加速器が使用された (第 15・17・19 表)。

### B 測定値の見かた

各用語の意味は次の通りである。

#### 1) 未補正 $^{14}\text{C}$ 年代値 (measured radiocarbon age)

試料の  $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$  の半減期は、国際的慣例によりリビー (Libby) の 5,568 年を用いた。

#### 2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定  $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  比を補正するための炭素安定同位体比 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

#### 3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値 (conventional radiocarbon age)

$\delta^{13}\text{C}$  測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の  $\delta^{13}\text{C}$  値を -25 (‰) に標準化することによって得られる年代値である。

#### 4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中  $^{14}\text{C}$  濃度の変動を補正することにより算出した年代 (西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の  $^{14}\text{C}$  の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と  $^{14}\text{C}$  年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

使用したデータセットは、INTCAL04 : Calibration Issue of Radiocarbon, 46 (3), 2004 (海洋性試料については、Marine04) である。また、較正曲線のスムーズ化には下記の理論を用いた。

なお、暦年代の交点とは、補正  $^{14}\text{C}$  年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1  $\sigma$  (68% 確率)・2  $\sigma$  (95% 確率) は、補正  $^{14}\text{C}$  年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

### C 測定結果

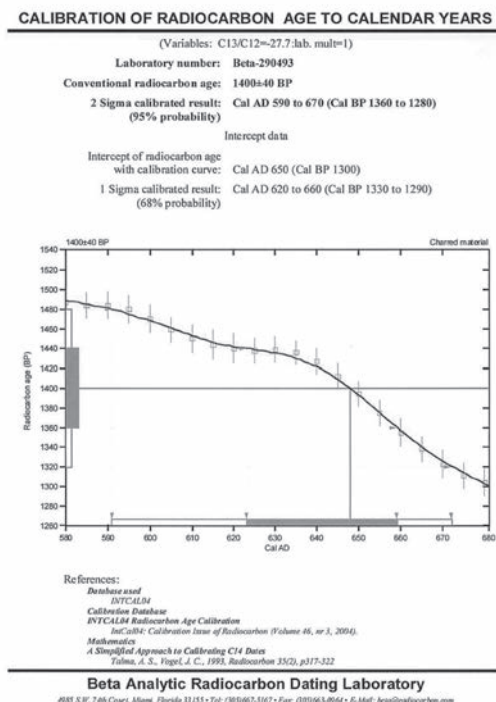
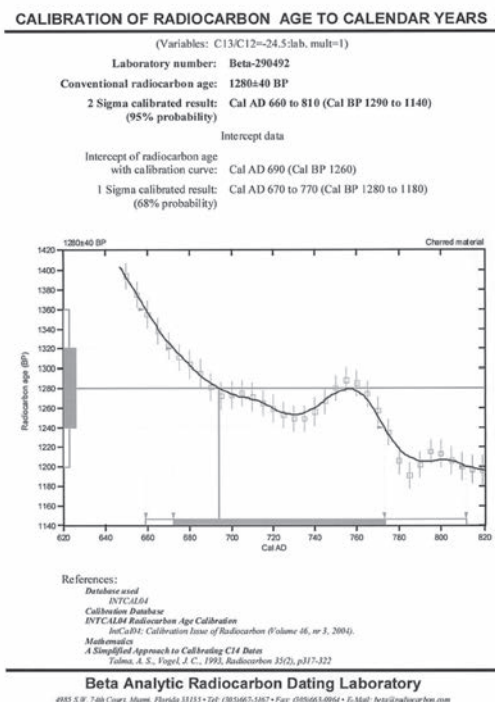
測定結果および暦年較正年代を第 16・18・20 表と第 32~34 図に示す。

第 15 表 竪穴住居 (SI246・SI307) 放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	地点	種類	重量	前処理	測定方法
TNH-0145S	SI246・カマド周辺	炭化物	1.07g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
TNH-0146S	SI307・カマド周辺	炭化物	0.56g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法

第 16 表 竪穴住居 (SI246・SI307) 放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (yBP)	$\delta^{13}\text{C}$	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 (yBP)	暦年較正年代 (CalAD)	測定番号
TNH-0145S	1270 $\pm$ 40	-24.5	1280 $\pm$ 40	2 $\sigma$ : AD660 ~ AD810 1 $\sigma$ : AD670 ~ AD770 交点 : AD690	Beta-290492
TNH-0146S	1440 $\pm$ 40	-27.7	1400 $\pm$ 40	2 $\sigma$ : AD590 ~ AD670 1 $\sigma$ : AD620 ~ AD660 交点 : AD650	Beta-290493



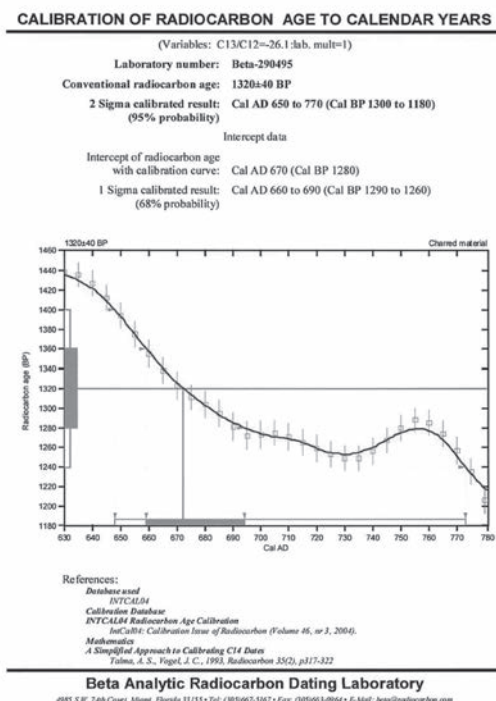
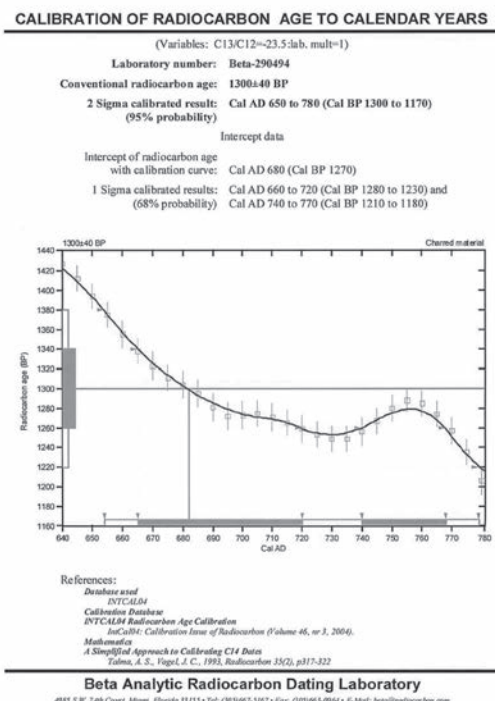
第 32 図 竪穴住居 (SI246・SI307)

第 17 表 掘立柱建物 (SB2005・SB2006) 放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	地点	種類	重量	前処理	測定方法
TNH-0147S	P118	炭化物	0.98g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
TNH-0148S	P832	炭化物	0.50g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法

第 18 表 掘立柱建物 (SB2005・SB2006) 放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 <sup>14</sup> C 年代 (yBP)	δ <sup>13</sup> C	補正 <sup>14</sup> C 年代 (yBP)	暦年較正年代 (CalAD)	測定番号
TNH-0147S	1280 ± 40	-23.5	1300 ± 40	2 σ : AD650 ~ AD780 1 σ : AD660 ~ AD720, AD740 ~ AD770 交点: AD680	Beta-290494
TNH-0148S	1340 ± 40	-26.1	1320 ± 40	2 σ : AD650 ~ AD770 1 σ : AD660 ~ AD690 交点: AD670	Beta-290495



第 33 図 掘立柱建物 (SB2005・SB2006)

第 19 表 埋葬関係遺構 (SX71・SK159) 放射性炭素年代測定の前処理と方法

試料	地点	種類	重量	前処理	測定方法
TNH-0149S	SX71	炭化物	1.07g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
TNH-0150S	SK159	炭化物	1.31g	酸-アルカリ-酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法

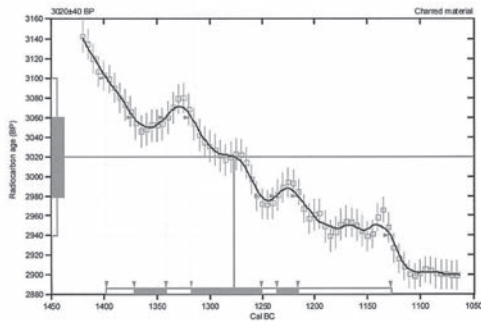
第 20 表 埋葬関係遺構 (SX71・SK159) 放射性炭素年代測定結果

試料	未補正 <sup>14</sup> C 年代 (yBP)	δ <sup>13</sup> C	補正 <sup>14</sup> C 年代 (yBP)	暦年較正年代 (CalAD)	測定番号
TNH-0149S	3020 ± 40	-25.3	3020 ± 40	2 σ : AD660 ~ AD810 1 σ : AD670 ~ AD770 交点 : AD690	Beta-290496
TNH-0150S	1300 ± 40	-25.0	1300 ± 40	2 σ : AD590 ~ AD670 1 σ : AD620 ~ AD660 交点 : AD650	Beta-290497

**CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS**

(Variables: C13C12=-25.3;lab,mult=1)

Laboratory number: Beta-290496  
 Conventional radiocarbon age: 3020±40 BP  
 2 Sigma calibrated result: Cal BC 1400 to 1130 (Cal BP 3350 to 3080)  
 (95% probability)  
 Intercept data  
 Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal BC 1280 (Cal BP 3230)  
 1 Sigma calibrated results: Cal BC 1370 to 1340 (Cal BP 3320 to 3290) and Cal BC 1320 to 1250 (Cal BP 3270 to 3200) and Cal BC 1240 to 1220 (Cal BP 3190 to 3170)



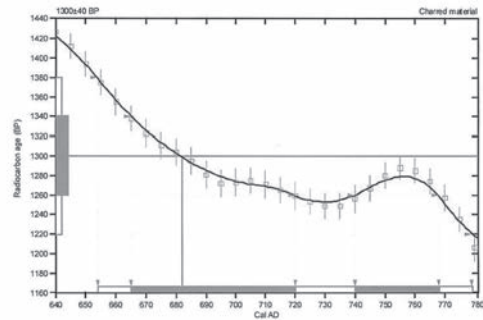
References:  
 Database used: INTCAL04  
 Calibration Database: INTCAL04 Radiocarbon Age Calibration  
 InCal04: Calibration Issue of Radiocarbon (Volume 46, nr 3, 2004).  
 Mathematics: A Simplified Approach to Calibrating C14 Data  
 Stuiver, A. S., & Reimer, J. C., 1993. Radiocarbon 35(2), p317-322

**Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory**  
 4885 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-3167 • Fax: (305)663-8964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

**CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS**

(Variables: C13C12=-25;lab,mult=1)

Laboratory number: Beta-290497  
 Conventional radiocarbon age: 1300±40 BP  
 2 Sigma calibrated result: Cal AD 650 to 780 (Cal BP 1300 to 1170)  
 (95% probability)  
 Intercept data  
 Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal AD 680 (Cal BP 1270)  
 1 Sigma calibrated results: Cal AD 660 to 720 (Cal BP 1280 to 1230) and Cal AD 740 to 770 (Cal BP 1210 to 1180)



References:  
 Database used: INTCAL04  
 Calibration Database: INTCAL04 Radiocarbon Age Calibration  
 InCal04: Calibration Issue of Radiocarbon (Volume 46, nr 3, 2004).  
 Mathematics: A Simplified Approach to Calibrating C14 Data  
 Stuiver, A. S., & Reimer, J. C., 1993. Radiocarbon 35(2), p317-322

**Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory**  
 4885 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-3167 • Fax: (305)663-8964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

第 34 図 埋葬関係遺構 (SX71・SK159)



# 第Ⅶ章 総 括

## 第 1 節 遺 構

### A 奈良・平安時代の掘立柱建物について

県内の古代の掘立柱建物については、個々の報告書で考察を行っているものも多いが、1989年に川村浩司氏(川村1989)が、2009年に春日真実氏(春日2009)が各報告書の成果を踏まえた集成と論考を行っている。ここではこれらの成果を参考にしながら、四十石遺跡で検出された掘立柱建物にみられる特徴を検討してみたい。

四十石遺跡ではⅥ層上面で9棟の掘立柱建物が検出されている。ほとんどが奈良時代(Ⅳ期)を中心とした建物であると思われるが、平安時代に下る可能性をもつものもある。これらの時期認定については後述するとおり、出土遺物・遺構間の切り合い・建物の軸筋の類似性を考慮して行っているが、今後検討の余地がある。

掘立柱建物は柱の配置から側柱建物・総柱建物・束柱建物に大別されるが、本遺跡では建物全体の形状が捉えられたのは6棟であり、柱が外回りに配置される側柱建物と基盤目状に配置される総柱建物がみられる。総柱建物としたものの中には束柱建物との区別がつきにくいもの(SB2009)があるが、建物内部の柱穴が外回りの柱穴と同じかやや大きいため、ここでは総柱建物とする。

側柱建物は、SB2002・SB2003が該当する。間数は、梁行がどちらも2間で、桁行は4間(SB2002)と2間(SB2003)である。梁行2間は、県内のこの時代に多くみられるものである。面積はSB2002が23.16m<sup>2</sup>、SB2003が15.59m<sup>2</sup>である。総柱建物はSB2004・SB2005・SB2006・SB2009が該当する。また、梁行側に廂をもつが、SB2001もその可能性がある。SB2004・SB2005・SB2006・SB2009は、ほぼ正方形を呈する2間×2間の建物である。SB2009は規模が小さいものであり、柱掘方も小さい。SB2004・SB2005・SB2006は規模・方位ともにほぼ同じである。面積はSB2004が19.36m<sup>2</sup>、SB2005・SB2006が21.16m<sup>2</sup>、

第 21 表 県内の 2 間×2 間総柱建物

遺跡名	市町村名	遺構名	桁行	梁行	面積(m <sup>2</sup> )	方位	時期	備考
蔵ノ坪	胎内市	SB1A	4.3	3.0	12.9	N-52°-W	Ⅳ期	
		大坪	阿賀野市	SB21	4.8	3.9	18.8	N-80°-E
山三賀Ⅱ	聖籠町	SB252	4.2	3.5	14.3	N-87°-W	不明	
		SB262	3.5	3.4	11.9	N-55°-W	不明	
		SB355	3.7	3.5	12.8	N-52°-W	不明	
		SB604	3.5	3.2	11.0	N-2°-W	不明	
		SB1162	3.5	3.5	11.9	N-35°-W	不明	
		SB1165	3.3	3.3	10.7	N-28°-W	不明	
		SB1241	3.8	3.5	13.3	N-49°-W	不明	
		SB1370	3.6	3.5	12.4	N-27°-W	不明	
		SB1535	3.9	3.7	14.0	N-22°-E	不明	
		笹山前	新潟市	SB2	4.8	4.0	19.2	N-30°-W
SB3	4.8			4.4	21.1	N-30°-W	V期か	
四十石	新潟市	SB2004	4.4	4.4	19.4	N-19°-E	Ⅳ 2 期	(出土遺物から)
		SB2005	4.6	4.6	21.2	N-19°-E	Ⅳ 2 期	(出土遺物から)
		SB2006	4.6	4.6	21.2	N-19°-E	Ⅳ 2 期	(出土遺物から)
		SB2009	3.9	3.9	14.9	N-40°-E	Ⅲ期	(出土遺物から)
岩田	長岡市	SB1	4.1	4.0	16.4	N-45°-W	Ⅳ～Ⅴ期	
土用木西	長岡市	SB6	4.2	3.6	15.1	N-6°-E	10世紀末	
津倉田	上越市	SB165	3.4	3.2	10.9	N-21°-W	Ⅱ期	
		SB260	2.6	2.6	6.8	N-15°-E	Ⅱ期	
		SB354	3.2	3.0	9.6	N-34°-E	Ⅱ期	
五反田	上越市	SB16	2.1	2.8	12.8	N-11°-E	Ⅳ 2～Ⅴ期	
岩ノ原	上越市	SB2003	5.5	5.5	30.2	N-83°-E	Ⅳ～Ⅵ期	
下新町	上越市	SB7	5.0	4.8	24.0	N-25°-E	Ⅶ期	
狐宮	上越市	SB12	5.9	4.0	23.8	N-3°-E	Ⅳ～Ⅵ期	

\*※時期は春日編年(春日1999)による

第 22 表 笹山前遺跡 SB2・SB3 出土の土器

遺構名	出土量(点)	古代の土器(点)
SK18	須恵器	1 杯類(8C前半～中葉) 1
	土師器	47 長甕(9C前半) 2
SK19	須恵器	2 杯類(8C前半～中葉) 1 杯蓋 1
	土師器	10
SK22	須恵器	2 杯類 2
	土師器	58 鍋? 1
SK24	須恵器	2
	土師器	19 小甕(古代) 1
SB2 SK26	須恵器	
	土師器	1
SK28	須恵器	2 杯類 2
	土師器	14
SK29	須恵器	3 杯類 1
	土師器	17 杯類 1 長甕 3
SK38	須恵器	
	土師器	
P159	須恵器	1 甕 1
	土師器	6
SK199	土師器	16
SK200	土師器	24
SK203	土師器	54
SK205	土師器	38
SB3 SK211	土師器	31 (古代?) 1
SK212	土師器	50
SK213	土師器	
SK223	土師器	5
SK224	土師器	26

土師器は古墳時代・古代の土師器

四十石遺跡（西区） 上層遺構



笹山前遺跡（江南区） 下層遺構\*



※2面あるうちの下の面（Ⅶ層上面）

第 35 図 2 間×2 間縦柱建物（四十石遺跡・笹山前遺跡）

SB2009 が 14.9m<sup>2</sup> である。

方位については、短軸・長軸の規模がほとんど変わらず主軸がどちらであるか不明のものもあるため、北から東西両方位への角度も合わせて標記した。これによると、本遺跡では2つの方位のまとまりがみられる。一つはN-40°前後～70°-W(N-20°～50°前後-E)、もう一つはN-5°～30°-W(N-60°～85°-E)である。前者は後者に比べて、相対的に柱穴が小規模で、平面積が狭い。これらのまとまりで配置をみると前者は地形に合わせた形であるが、後者はそれとは関係なく、真北を意識しているようにも思える。また、SB2004・SB2005は東側の柱筋を揃えており、正倉院の倉庫群が広場(空閑地)側を直線的に揃えている傾向があることから、本遺跡もこれらの東側に広場があったことが想像される。

遺構の時期は、層位・出土遺物・遺構間の切り合いなどによって推定されるが、ここではそれらを踏まえて各掘立柱建物の時期を考えてみたい。遺構出土遺物は全体を通して少ないが、特に掘立柱建物の柱穴から出土する遺物は、土器細小片がほとんどであり、古墳時代のものも多い。年代がわかる遺物の下限をみると、SB2003が古代Ⅲ2～Ⅳ1期、SB2004がⅣ2期、SB2005がⅣ期、SB2006が8世紀中葉、SB2009がⅢ期と捉えられる。次に、新旧関係をみると、SB2002・SB2003・SB2004の間で重複が認められる。これらの関係については、これまでの報告の中で、SB2004(旧)→SB2002→SB2003(新)としていたが、その後の検討で、出土遺物や各掘立柱建物の軸方位から切り合いを見直す必要があることを感じた。当初想定した切り合い関係は、SB2003-P130がSB2004-P244を切ると判断したことによるが、検出時の標高はSB2003-P130がSB2004-P244より低く、上部の攪乱を取り除いた後に検出した可能性があること、またSB2002-P531はSI307とともに検出されており、SB2002-P531とSB2004-P410の直接的な切り合い関係を確認できなかった。再度、当時の調査状況や図面を関係者で確認した結果、SB2002→SB2003の新旧関係はそのままであるが、SB2002・SB2003とSB2004との関係は訂正することにし、この報告書では、3者の関係をSB2002→SB2003→SB2004とする。また、この他に切り合うSI307との関係は当初のとおりとすることから、SI307→SB2002→SB2003→SB2004という変遷を想定する。時期については、各遺構で古い時代の遺物が混入しているのも見受けられるが、現在のところは出土遺物を参考に、SI307がⅢ2期、SB2002・SB2003がⅣ1期、SB2004がⅣ2期と捉えている。

今回の調査では、ほぼ同じ規模の建物が3棟検出された。それらは、2間×2間の総柱建物で、柱穴の規模も大きいことから倉庫と考えるものである。柱筋を揃えて配置されており、計画的に建てられていることが想像できる。官衙的な建物として捉えられるが、面積は20m<sup>2</sup>前後と小規模である。いわゆる正倉は3間×3間・4間×3間が多く、官衙の倉は50m<sup>2</sup>以上が主体であるが、居宅や集落では2間×2間の倉が多く、20m<sup>2</sup>以下の倉庫については穂先だけを収納する穎倉である可能性が指摘されている〔山中敏史2003〕。県内の2間×2間の総柱建物をみると本遺跡を含めて26例ほどある。そのうち、1/3ほどを山三賀Ⅱ遺跡が占め、検出数には偏りがあるものの県内広く分布している。柱間寸法がほぼ同じため平面形は正方形に近いものが多いが、長方形のものも若干存在する。15m<sup>2</sup>以下のものが半分以上存在し、他に20m<sup>2</sup>前後、25前後～30前後m<sup>2</sup>のまとまりがみられる。それぞれの年代は不明のものも多いが、相対的に時代が古いと建物の面積は小さく、新しいと大きいという傾向が窺える。この中で、笹山前遺跡の掘立柱建物は本遺跡の掘立柱建物とよく似た規模・配置をみせる。報告書においては古墳時代の建物とされたものであるが、報告書の基本層序の記述からその検出面は古代の遺構が検出される可能性が十分あること、そして柱穴の中から一定量の古代の土器が出土している(第22表)ことから古代の遺構として取り上げた。出土遺物は小片ばかりであるが、土器がSB2は9基の柱穴のうち8基から合わせて17点出土しており、年代が特定されるものは古代Ⅲ期2点とⅤ期2点であることから、ここではⅤ期と捉えることにした。本遺跡との類似点は、建物が20m<sup>2</sup>前後の規模であること、柱掘方が一定規模をもつこと、2棟の建物が片側の柱筋を揃えて配置されていること、建物間の距離が同じような間隔をもつことなどであり、相違点は、所属時期が異なること、柱掘方が隅丸方形もわずかにみられるものの不定形が多いこと、方位が真北を意識

していないことなどである。相違点は遺構の時期差や地域の特徴、あるいは遺跡の性格に起因すると思われるもので、両遺跡にみられる倉は計画的に建てられた建物と理解される。時期差はあるものの、そこには何らかの基準となるものがあり、両遺跡で検出された倉庫はそれを反映しているとも考えらえる。これらの倉庫が頼倉ということであれば、平面規模に基準があってもおかしくはないように思われる。倉庫の規模・規格について官が関与する可能性は十分あることから、今後の事例を待ちたい。

## B 奈良・平安時代の埋葬関連遺構について

県内の埋葬関連の事例については、1995年に春日真実氏が東日本埋蔵文化財研究会で県内の集成を行い〔春日1995〕、2000年に江口友子氏が報告書の中で資料の追加を行っている〔江口2000〕。調査事例は少なく、その後土坑墓（木棺痕有り）が検出された加茂市の馬越遺跡〔伊藤2005〕や木棺墓が検出された三条市の安曲遺跡〔田村2009〕を加えても15遺跡に満たない。また、報告された事例は遺構全体の形状が不明であることが多く、またそれに関連した遺物（埋葬行為を示す遺物や副葬品等）も良好な状態で残ることが少ない。こうした中で県内の墓制と捉えられるのは、火葬墓・土坑墓・横穴墓（古墳）の再利用〔春日1995〕であり、9世紀から10世紀初頭において火葬墓と土坑墓が混在することが認識されている。このような様相は北陸地方でもみられる〔柿田1995、岡本一<sup>ほか</sup>1995〕が、やはり調査事例が少ないため、今後の事例待ちである。

四十石遺跡では火葬墓（SX71）が確認されている。楕円状に溝が巡っており、その内側や周辺から副葬品と思われる須恵器壺類・銅製腰帯金具・刀子金具・玉状製品と焼人骨が出土した。調査で検出されたのは溝のみであるが、墓造営当時は内側にマウンド状の盛土があったと想像される。やや歪んだ楕円形で、あえて軸方位を与えるならば、長軸方向でおよそN-32°-W（北西-南東方向）である。遺物の分布状況を見ると、廃絶後に攪乱を受けたことが読み取られるが、溝の内側にある遺物のまとまりが南東側に偏っており、そのあたりが埋納された場所であった可能性もある。焼人骨については、第3節で記述されているが、削平されていることを考慮しても、出土量は人体1体分には満たないと思われる量であることから、主要骨の埋葬と考える。

県内の火葬墓の事例については江口氏が概観しており〔前掲〕、関連した遺構として認識されたのが、蔵骨器と思われる土器の出土や「火葬灰埋納遺構」・「火化遺構」、葬送儀礼にかかわる可能性のある集積遺構である。「火葬灰埋納遺構」は茶毘に付し主要骨を取り出した後残った骨を木炭・灰とともに入れた施設（土坑）であり、「火化遺構」は茶毘に付す施設（土坑）である。しかし、これらはいずれも火葬墓の存在を示すが、それ以上の墓に關係する情報は無い。

ここで県外の周溝状遺構についてみてみたい。1995年に東日本埋蔵文化財研究会が主催した資料集成〔東日本埋蔵文化財研究会1995〕において、墓に関連した遺構として円形周溝状遺構と方形周溝状遺構が取り上げられている。どちらもいわゆる終末期古墳の流れをくんでいるといわれており、円形周溝状遺構は青森県・岩手県を中心とした東北地方に集中し、他の地域では関東地方に若干みられる程度である。削平されていることが多いが、本来墳丘を伴うとされる遺構である。土葬・火葬の両方がみられるが、土葬の方が多い。外径が10mを超えるものもあり、規模が大きいものは概して土葬墓であり、径が3m前後の規模が小さいものは火葬墓と考えられている。副葬品は、周溝をもつ終末期古墳といわれる8世紀中葉までのものには多様なものが出土しており、土器・刀類（刀子含む）・銭貨・腰帯金具・玉類などがみられるが、それ以降のものは土器くらいで遺物を伴わないものも多い。こうした中で本遺跡のSX71は、形状的には終末期古墳に後続する小規模の円形周溝状遺構（火葬墓）に似ているが、副葬品の多彩さは終末期古墳に似るのが注目される。当時の越後は対蝦夷の最前線であった地域と考えられることから、その影響も考える必要があろう。

さて、被葬者であるが、直接的な情報としては焼人骨から得られるものがあり、理化学的な分析による成果が第3節で述べられている。それによれば、「強い火力を長く受けて火葬された」「ヒト一人から由来する」「壮熟年程度の男性」である。つまり被葬者は、1人の成人男性ということになり、腰帯の持ち主という点と違和感無



く結びつけられる。また、火葬は上流階級でも一般化しておらず、欲して願い出る場合に許される〔黒崎1980〕ものであること、そしてそれにはかなりの労力（費用）が必要とされることから、被葬者は財力をもつ有力者と考えられる。役人に任命された在地の有力者を想定できよう。

本遺構は、県内ではこれまでみられなかった珍しい事例となったが、集落内に存在する点では他の遺跡と共通する。この特殊性が何を意味するのか、今後の課題である。

## 第2節 遺物

### A 古墳時代の土器について

四十石遺跡では、古墳時代前期・中期の土器が出土している。その時期は、新潟シンボ編年の5期を初現とし、漆町編年の13群並行を下限とする。出土量が少なく一括資料も良好とはいえないが、複数の土器が出土している遺構を中心に本遺跡の土器のあり方を概観する。

本遺跡では7～9期に属する遺構が多い。最も古い様相を示すのはSK936・SK942・SD984で7・8期と捉えられるものである。SK936は口縁端部をわずかに上方へつまみ上げている甕(99)が6・7期のものと思われるが、その他は7・8期で捉えられるものである。器台(88・89)は裾が大きく広がり、甕は口縁端部に面をもつもの(97・98・100)が多い。92はいわゆる小型丸底壺の可能性のあるもの。小型丸底壺は、信濃川左岸では9期あたりに盛行する〔相田2005〕が、本資料は口縁部が内湾気味の長いものと思われ、古い特徴をもつものであろう。SK942も小型丸底壺が出土している。SD984は8期以降出現するとされる〔田嶋1986〕布留系甕1点が相伴しているが、それ以外は7期と思われる土器でまとまっている。口縁部に段をもつ鉢や直立気味の口縁部をもつ壺が出土している。これらの特徴は、8期には続かない特徴であり、異器種間で同じ様相をもつことから、布留甕は後世の流れ込みの可能性があるとし、遺構は7期と捉える。続く8・9期の中で捉えられるのはSD108・SD109・SX97・SX946である。SD109は縄文土器や弥生土器も出土しているが、古墳時代の遺構である。受部が直線的な小形の器台(110)や畿内系二重口縁の壺(115)はやや古い特徴をもち、細身の柱状屈折脚(113)はやや新しい特徴をもつものと思われるが、主体は8期である。SX97は、甕の口縁部の形態から8期と捉えたものである。口縁端部にしっかり面をもつもの(144)や口縁部から体部の屈曲・外反が比較的明瞭(145・146)である。高杯は口縁部と杯体部の間にわずかな段がみられ棒状脚をもつことから、7期までは主体的に出土するとされる〔滝沢2005〕有段鉢形の杯部をもつ高杯の新しい形態として捉えられるものであろう。布留系甕の口縁部破片も出土している。SD108・SX946は9期を主体とする。甕(107・151)の口縁部は端部に面をもたず、外反は比較的緩い。他に8期以降に認められるとされる〔滝沢2005〕口縁部が大きく外反(外傾)する鉢(106)やそれ以降盛行する口縁部がやや短い小型丸底壺(150)が出土している。相伴する布留甕(108)の口縁部は比較的大きく開き、端面は水平である。細長い口縁部をもつ壺(149)は脚をもつと思われ、5・6期と捉えられるものである。これ以降の遺構は少ないが、中期の遺構として捉えられるSK20とSD110がある。壺や甕が出土しており、壺はやや胴長の体部をもち、甕は口縁部の外反が緩い、という新しい特徴がみられる。

以上、時期ごとに主要な遺構をみてきたが、これに包含層遺物を加えて土器の様相をまとめてみたい。本遺跡でみられる古墳時代土器の器種は、高杯・器台・鉢・壺・甕であるが、時期により出土状況に偏りがみられる。高杯は、口縁部が内湾しながら立ち上がる東海系のもの(高杯A類)と畿内系柱状屈折脚をもつもの(高杯D類)が一定量みられる。前者は7・8期、後者は12・13群を主体とする。器台は、1点の装飾器台(284)を除いて、すべて小形の器台である。時期は6～8期と捉えられるものである。鉢は、赤彩された精製のものや有孔鉢などがみられ、用途の違いが想像できる。有孔鉢を除くと、口縁部に段をもつもの(鉢A類)、甕に比べて浅い体部に外反(外傾)する口縁部がつくもの(鉢B・C類)に分けられるが、鉢A類は鉢B類より古く捉えられる。



いカマド周辺の出土資料があり、土師器無台杯(6・7)・鉢(8・9)・長甕A2類(10・11)がみられる。また、これに近いところから土師器長甕B1類の破片(12)や、やや外れたところから須恵器食膳具の無台杯B1類(4)・杯蓋A類(5)が出土している。これらは、Ⅲ2期で捉えられるものである。SK825は須恵器有台杯・杯蓋と土師器無台杯が出土している。これらは、形態的には食膳具とされるものであるが、土師器無台杯は灯明具として使用された痕跡をもつものがある。須恵器有台杯A類(39・40)・杯蓋B類(41)、土師器無台杯A類(45)・無台杯B1類(42~44)・無台杯B2類(46)がみられる。須恵器有台杯・杯蓋は、口径がやや小さいという点が新しさをもつ可能性があるが、概ねⅢ2期で捉えられる。土師器無台杯も同時期と考える。SX100は土師器の長甕のみである。器種の偏りは、SX100がカマドの可能性のあることによると思われる。在地の土器ではみられないミガキが施された長甕A1類(55)が出土しており注目される。これとともに長甕A2a類(56)・B1類(57)が出土している。長甕の様相はSI307に近いことから、やはり同じ時期くらいで捉えられよう。SX867は須恵器杯蓋のみの出土である。1点は形態不明なものであるが、他の2点(65・66)は杯蓋A類である。口径の大きい66にやや古さをみるが、Ⅲ2期と捉える。

Ⅳ期として捉えられるのは、SK185・SX71・SX573の他、各柱穴からの出土量は1・2点であるものの合わせると一定量になるSB2004・SB2005がある。SK185は須恵器食膳具のみで、無台杯・杯蓋が出土している。無台杯は体部の斜度が大きい、いわゆる箱形の無台杯B類(33・34・32)と口縁端部の垂下が短い杯蓋B類(35)がみられる。口径が大きい須恵器無台杯(34)に若干の古さをみるが、概ねⅣ1期と捉えられる。SX71は周溝出土遺物を除いて、副葬品として一括性の高いものである。周溝の内側から出土した副葬品とされるものは、須恵器の有台杯B類(48)・長頸壺(51)・蓋と身がセットの短頸壺(49・50)である。有台杯(48)の体部の立ち上がりは、カーブが曲線的でやや高い位置にある。また、長頸壺の体部も球形を残すことから、本遺構はⅣ3期あたりと考える。SX573は、須恵器食膳具と土師器煮炊具が出土している。須恵器食膳具では無台杯BⅡ類(58)、土師器煮炊具では長甕A2類・鍋(60)や短胴甕(61)がみられる。無台杯(58)はⅢ~Ⅳ1期と捉えられるが、土師器鍋や土師器短胴甕は類例を知らない。ただ、どちらもⅢ~Ⅳ期の長甕でみられるハケメと同じように細かい目のハケメで調整されていること、鍋は底部からの立ち上がりが比較的急角度で身が深いと想像されることから、時期については共伴する無台杯と同時期としたい。SB2004は、須恵器食膳具と土師器煮炊具がみられる。いくつかの柱穴から須恵器無台杯BⅠ類(17)・杯蓋B類(18・19)、土師器小甕B類(20)・長甕A2a類(21)、赤彩された土師器高杯が出土している。須恵器無台杯は口径が比較的大きくⅣ1期と思われる。杯蓋は垂下する口縁部が短いものでⅣ1・Ⅳ2期、土師器小甕・長甕はロクロ未使用でハケメ調整が主体であることからⅢ~Ⅳ期の中で捉えられよう。遺構の時期としてはⅣ2期と考える。SB2005は、1点須恵器甕の破片がみられる他は土師器煮炊具がほとんどである。土師器煮炊具は小甕A類(25)・長甕A2類(26)・長甕A2b類(23)・長甕A2a類(24)が出土しているが、未掲載遺物には長甕A2類の体部片が多くみられる。時期はⅢ~Ⅳ期の中で捉えられるようである。

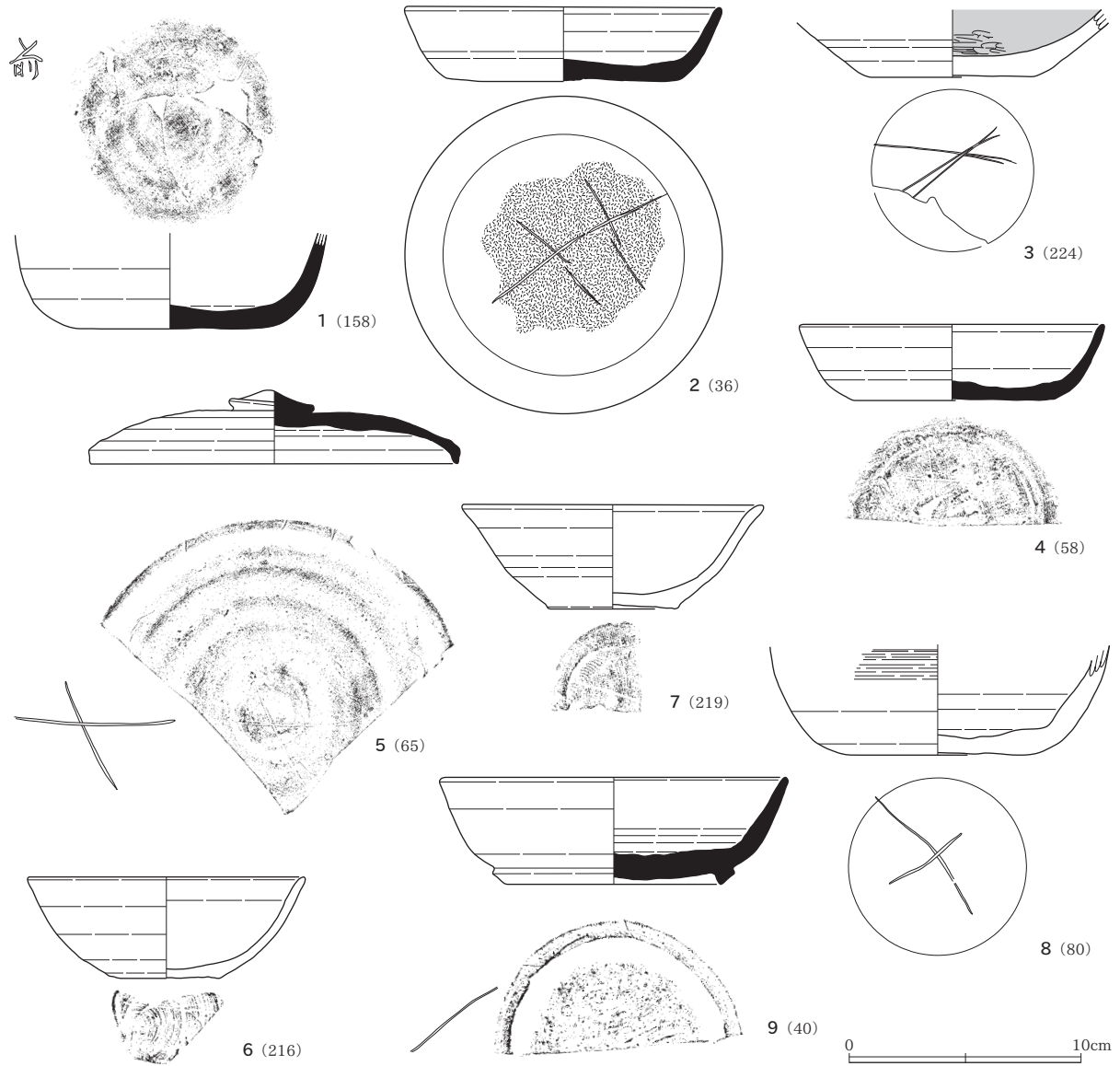
Ⅴ期として捉えられるのは、SI246である。本遺構は竪穴住居であるが、カマド関連遺物はほとんどみられず、食膳具では須恵器有台杯(1)・杯蓋(2)、赤彩された土師器皿か高杯、煮炊具では土師器長甕A2類・B2類(3)、碎片のため明確ではないが長甕B1類・小甕B類が出土している。食膳具は須恵器有台杯や杯蓋の口径の大きさがⅣ期の特徴をみせるが、煮炊具の長甕はタタキメをよく残しておりⅤ期の特徴をみせる。

Ⅵ期として捉えられるのは、P21である。SB2008との関係ははっきりしないが、今後検討されるものである。須恵器甕と土師器無台碗A2Ⅱ類(68・69)、黒色土器無台碗と思われるものが出土している。土師器無台碗は内湾気味に立ち上がる体部でⅥ期と捉えられるものである。墨書土器もみられる。

以上、時期ごとに主要な遺構をみてきたが、これに包含層遺物を加えて土器の様相をまとめてみたい。

食膳具についてみると、Ⅲ期は須恵器の無台杯A類・B類、有台杯A類(杯蓋A類)が主体で、それに実際の用途は異なるかもしれないが形態的には土師器の無台杯が加わる。須恵器の胎土はA群・B群のものである。

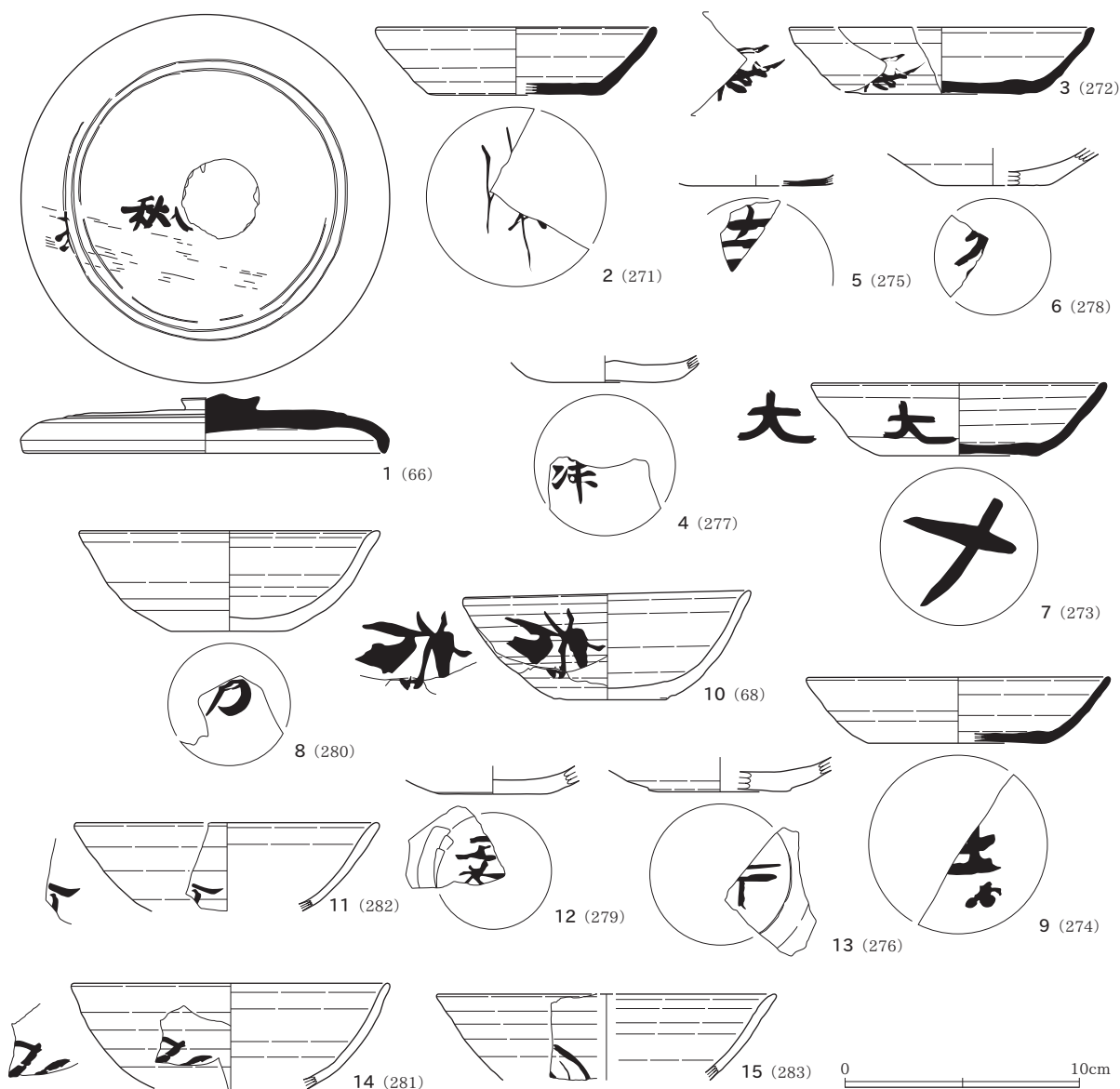
IV期は須恵器の無台杯B類・D類、有台杯A類・B類（杯蓋B類）がみられるが、土師器は確認されていない。須恵器の胎土はA群・B群の他にわずかではあるがC群・D群が加わる。V期は出土量が少ないということがあるが、それまで主流を占めていた須恵器無台杯B類・有台杯A類はみられなくなり、須恵器無台杯C類と土師器碗A類が存在する。須恵器の胎土は、C群のものがほとんどであるが、D群も存在する可能性はある。VI期は引き続き無台杯C類と土師器碗A類が存在するが有台杯は杯蓋がごくわずかみられる程度である。須恵器



刻書 No.	報告 No.	出土地点	種別	器種	部位/方向	积文	時期	備考
1	158	10I16 他	須恵器	無台杯	内面	前カ	III 2	胎土 B
2	36	SK243	須恵器	無台杯	底外	一十	IV 1	胎土 B
3	224	8L12 他	黒色土器	無台碗	底外	2重線の×	VI	
4	58	SX573	須恵器	無台杯	底外	×	III~IV 1	胎土 A
5	65	SX867	須恵器	杯蓋	内面	×	III 2	胎土 A
6	216	8L3	土師器	無台碗	底外	×	VI	
7	219	11I11 他	土師器	無台碗	底外	×	VI	
8	80	P908	土師器	小甕	底外	×	IV 1 か 2	
9	40	SK825	須恵器	有台杯	底外	一	III 2	胎土 B

第 36 図 四十石遺跡出土の刻書土器





墨書 No.	報告 No.	出土地点	種別	器種	部位/方向	釈文	時期	備考
1	66	SX867	須恵器	杯蓋	外面	秋/□/□	Ⅲ 1・2	内面転用硯
2	271	14G18 他	須恵器	杯	底外	□	Ⅵ	「津」の可能性あり
3	272	11H15	須恵器	杯	体外/横位	津	Ⅵ	
4	277	13G19	土師器	椀	底外	津	Ⅵ	
5	275	14F15	須恵器	杯	底外	□		「寺」の可能性あり
6	278	13G20	土師器	椀	底外	□	Ⅵ	「寺」の可能性あり
7	273	10J18	須恵器	杯	底外・体外/正位	十(底外)/大(体外)	Ⅵ	
8	280	11H20 他	土師器	椀	底外	□	Ⅵ	「万」の可能性あり
9	274	13G17 他	須恵器	杯	底外	□	Ⅵ	
10	68	P21	土師器	椀	体外/横位	□	Ⅵ 2・3	
11	282	東暗 14	土師器	椀	体外	□	Ⅵ	
12	279	11J6	土師器	椀	底外	□	Ⅵ	
13	276	14G21	土師器	椀	底外	□	Ⅵ	
14	281	9K9 ほか	土師器	椀	体外	□	Ⅵ	
15	283	8L17	土師器	椀	体外	□	Ⅵ	

第 37 図 四十石遺跡出土の墨書土器

の胎土はC群のみである。また食膳具は、刻書や墨書がみられるものが一定量出土している。刻書土器(第36図)はほぼ全時期にみられるが、土器全体のあり方と同じ様相を示し、Ⅲ・Ⅳ期のものが多い。「×」「ー」といった記号がほとんどで、他に文字(「前」)が書かれたものもある。墨書土器(第37図)はⅢ期とされる杯蓋と時期不明のもの以外すべてⅥ期で、県内の墨書土器が増大する時期と変わらない。判読不明なものもあるが、文字が多い。注目される「津」墨書土器は、蔵ノ坪遺跡(胎内市)でも同時期の土器が出土しているが、そこでは遺跡の性格を国衛支配の中で機能した津施設と捉えている。また、中組遺跡(長岡市)では「池津」の墨書土器が出土している。

煮炊具については、ロクロ使用の有無という点で技術的系譜の大きく異なるものが存在し、時期によってそのあり方に変化がみられる。Ⅲ期はロクロ未使用の長甕A類とロクロ使用の長甕B類、小甕A類がみられる。長甕A類は平底(A2a類)が多いが、注目されるのは長甕A2b類と長甕B1類で、口縁端部が丸く体部の調整がハケメで丸底という形態上の共通点が多く、焼き上がりも堅緻である点で近似する。異なる点としてはハケメの目が長甕A類の方が細かいということであるが、これらの製作技法やつくり手、その背景など両者の関係に注意する必要がある。ハケメ調整を主体とする体部にところどころカキメがみられる土器は、周辺の的場遺跡(小池邦<sup>ほか</sup>1993)で形態がやや異なるものが出土している。また、この時期に、出土量は少ないがミガキや底部の木葉痕など在地ではみられない特徴をもつ土器が存在している。「北方系」あるいは「東北系」といわれる技術的特徴であるが、県内出土の資料についてはこれまで何人かによって述べられている(加藤2004、野水<sup>ほか</sup>2005、水澤2008)。それらによれば、これらの土器は阿賀北地方に多く、分布の時期は7世紀末から8世紀前半とされている。本遺跡周辺では、燕市(旧吉田町)の三角田遺跡(松島2001)でミガキが行われた小甕や底部に木葉痕がみられる鍋が出土しており、同じ西川流域という地理環境が注目される。これより西方では、下ノ西遺跡(田中靖2003)で底部に木葉痕がみられる鉢が出土しているが、それ以南の事例は知らない。Ⅳ期は引き続き長甕A類とロクロ使用の長甕B類がみられるが、この時期ではロクロ未使用の鍋や短胴甕が確認されている。また、一括出土資料ではないが、カキメが顕著な小甕も存在する。Ⅴ期にはロクロ使用でタタキメのみられる長甕B2類が存在しⅥ期に続く。鍋は確認されていないが、ロクロ使用のものが主体であったと思われる。次のⅥ期にはロクロ使用の煮炊具のみであり、小甕・長甕・鍋がみられるが、鍋の占める割合が大きいことが窮える。

貯蔵具については一括資料が少ないため細かい様相は不明であるが、包含層遺物を含め須恵器甕はⅢ期からみられ、瓶壺類はⅣ期あたりから一定量存在するようである。

本遺跡で、土器の出土量が多いのはⅢ～Ⅳ期であり、やはり遺構が集中している時期を中心としている。この時期は、食膳具は口径が大きく体部が急角度の須恵器杯類であり、煮炊具ではハケメ主体の土師器甕類である。ハケメ主体の土師器はロクロ未使用のものがほとんどであるが、ロクロ使用痕(カキメ)がわずかに認められるものがある。Ⅴ期は遺構も遺物も少ないが、食膳具では須恵器杯類と土師器碗類が共伴し、煮炊具にはロクロ使用・タタキメのものが主体を占める。Ⅵ期では遺構は少ないものの遺物は一定量存在しており、「津」墨書土器が出土していることから、調査区外に遺構の存在が想像される。

## C 古代の帯金具について

四十石遺跡からは15点以上の腰帯金具が出土している。それらは比較的狭い範囲でまとまって出土しており、ほぼ1条分と思われる。腰帯金具については、古くから多くの研究者が取り上げてきた。これらについては、田中氏が詳しく書かれている(田中広2003)が、大きく2つの考え方に分けられる。一つは、佐藤興治氏・阿部義平氏が主張する腰帯は官給品であり、腰帯具は位階と結びついて寸法が厳密に決められていたとする考え(佐藤1975・阿部1976)であり、もう一つは亀田博氏・田中広明氏が主張する腰帯は官給ではなく自備が基本であり、腰帯具の寸法は必ずしも位階を反映しているものではないとする考え(亀田1983、田中広2002・2003)である。田中氏は、「垂孔」(透孔)を中心とした腰帯具の形態に型式変化を見出し、そこに時間差があることを指摘した。

さらに、「在地首長である六位以下无位までの下級官人層は烏油・雑石腰帯を用い、彼らを管理・監督し、外交、国家事業を掌握する一位以下五位以上の通貴層は金銀装腰帯・白玉帯・玳瑁帯等を用い、さらに彼らから超越し、規定外にある天皇は大陸から輸入した玉の帯をしめた」〔田中 2003〕とした。つまり、この境界がはっきりしていることが重要であり、腰帯の寸法のわずかな差で位階を表現することはなかった、と主張する。現状では納得できる論とも思われるが、いずれにしろ腰帯（具）が身分を表象するものであるという共通認識は変わらない。

これらを踏まえて、県内で出土した腰帯具について整理してみたい。県内の資料については出越茂和氏〔出越 2002〕がまとめており、ここではそれを参考にしている。なお、「腰帯具」という名称であるが、今回石製品も取り扱っているため、広義で使える用語を用いた。

県内で出土した腰帯具は現在のところ 81 点で、銅製 42 点、鉄製 8 点、石製 31 点である。ただし、金属製の腰帯具については、革帯を挟んで表裏に装着するものであるため、出土時にはどちらか一方であることも多く、出土点数がそのまま腰帯具の個体数とはならない場合もある。県内で腰帯具が出土した遺跡数は 37 か所(第 38 図)で、銅製品は 17 か所、鉄製品は 1 か所、石製品は 21 か所でみられる。鉄製品は東日本の日本海側で分布がみられるとされる〔松村・田中 2002〕。馬越遺跡と八幡林遺跡では、金属製品と石製品が両方出土している。

第 24・25 表は、各遺跡から出土した腰帯具をまとめたものである。材質・部位・形態によって整理した。時期については報告書の中で与えられた遺構や遺跡の時期を記載した。今回、金属製の巡方・丸軋については透孔の形態にも着目し、透孔が腰帯具のどれくらいの割合を占めるかを「透孔の縦幅÷腰帯具の縦幅 (c/a)」で算出した。その結果、ある程度の数値のまとまりがみられたことから、その値が 0.31 以上のものを「大孔」、0.2 前後～0.30 のものを「小孔」、0.18 未満のものを「細長孔」とした。また、大孔・小孔を有する金具（以下、大孔金具・小孔金具という）には裏金具にも透孔がみられることが多いが、細長孔を有する金具（以下、細長孔金具という）には裏金具に透孔がみられない状況が窮われ、裏金具の孔の有無も型式分類では取り上げられるべき視点の可能性はある。今回、透孔の大きさでの分類が容易でないものについては、裏金具の透孔（有無）によって判断したものである。石製の透孔については、それを有する製品が少ないため、分類値が算出できなかったが、少なくとも孔の有無は重要な視点である。

まず、金属製腰帯具について概観する。

大孔金具が出土しているのは、山三賀Ⅱ遺跡・大橋遺跡・延命寺遺跡である。遺跡数としては少ないが、山三賀Ⅱ遺跡では鉄製の丸軋（6～8）が、大橋遺跡・延命寺遺跡では銅製の巡方（42～44－延命寺遺跡、48・49－大橋遺跡）が出土している。いずれも表裏金具に孔をもち、横幅の寸法は、2.0～2.5cm の範囲にある。遺構から出土しているもの（山三賀Ⅱ遺跡）は 8 世紀前半で捉えられるものであり、また包含層出土のもの（大橋遺跡・延命寺遺跡）も遺跡の消長から 8 世紀中葉までの中で捉えられるものである。この他に、八幡林遺跡からはこのタイプに伴うと思われる蛇尾（40）が出土している。

小孔金具が出土しているのは、蔵ノ坪遺跡（1）・的場遺跡（15）・緒立 C 遺跡（10）・馬越遺跡（15）である。蔵ノ坪遺跡（1）は表金具の透孔は細長孔の数値であるが、裏金具にも透孔があり、c/a の数値が小孔に近い数値であることから小孔とした。また、全体形状が不明な山三賀Ⅱ遺跡（9・10）も、報告書中の復元図から小孔とした。10 は透孔を有しない裏金具であり、報告書では触れられていないものの 9 のセットと捉えられるものである。大孔金具に比べ遺跡数はやや多いが、いずれも単独個体の出土である。このうち、表裏金具が遺存し裏金具にも透孔がみられるものは 2 点（1・15）、表金具のみに透孔がみられるのは 1 点（9・10）である。金具横幅の寸法は、2.6～3.1cm 前後の範囲にある。時期が特定できるものが少ないが、山三賀Ⅱ遺跡で 8 世紀第 4 四半期・9 世紀前半の遺構から出土していることや、それ以外の遺跡が 8 世紀中葉以降に出現していることから、8 世紀中葉を上限、9 世紀前半を下限とする。ただし、下限の 9 世紀前半と捉えた 10 は透孔を有さない裏金具で、後出の特徴と捉えられる可能性もあることから、盛行は 8 世紀後半あたりとも考えられる。この他に、山三賀Ⅱ遺跡からはこのタイプに伴うと思われる鉸具（3・4）が、的場遺跡からは鉸具（13）と蛇尾（18）が出土している。

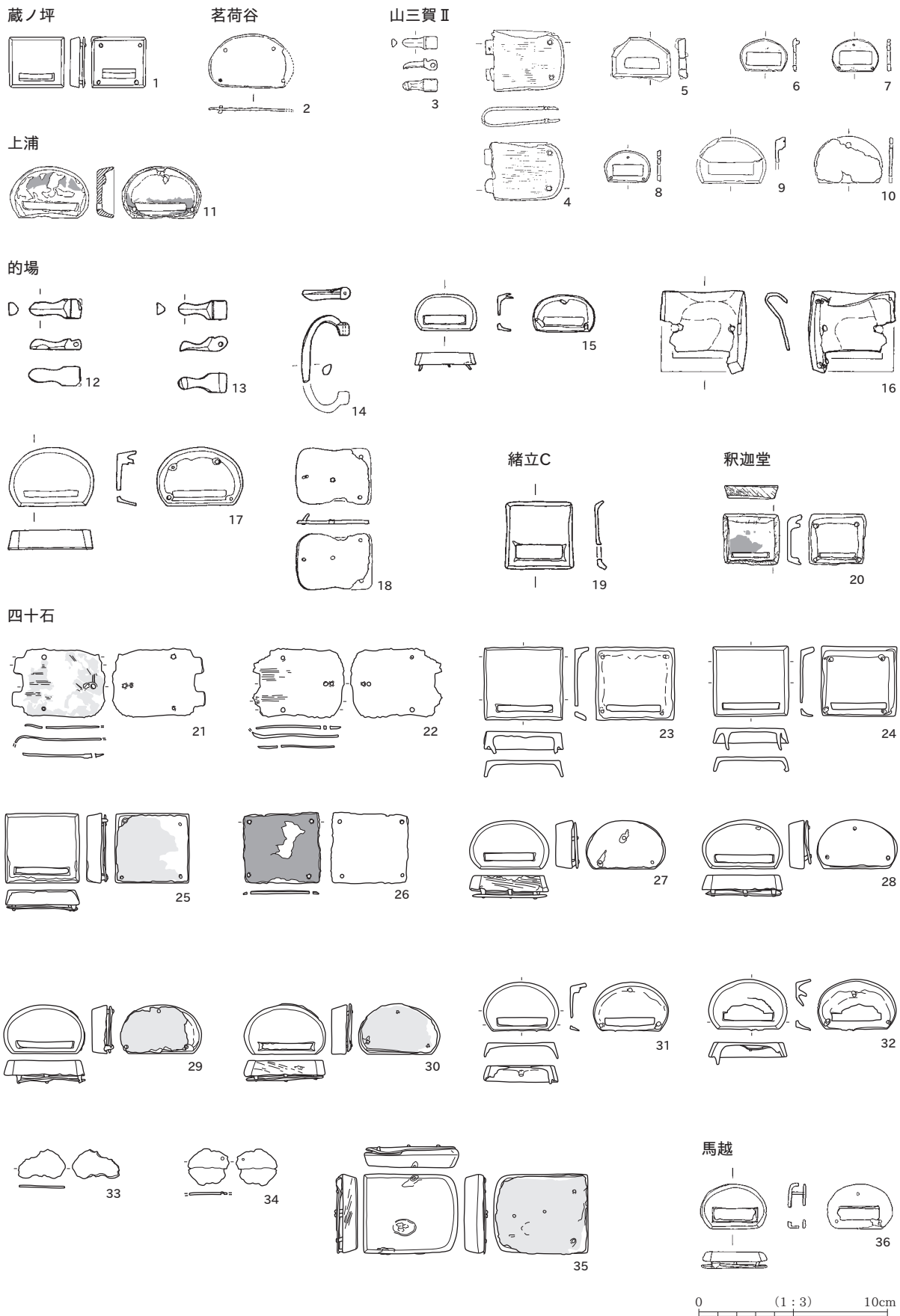


No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地
1	西部	村上市	8	上浦	新潟市	15	馬越	加茂市	22	下ノ西	長岡市	29	新田畑	上越市
2	蔵ノ坪	胎内市	9	的場	新潟市	16	庚塚E	燕市	23	寺前	出雲崎	30	延命寺	上越市
3	中倉	胎内市	10	緒立C	新潟市	17	江添E	燕市	24	小峯	柏崎市	31	栗原	妙高市
4	山三賀Ⅱ	聖籠町	11	釈迦堂	新潟市	18	大橋	燕市	25	箕輪	柏崎市	32	杉明	妙高市
5	山口	阿賀野市	12	四十石	新潟市	19	観音寺	長岡市	26	高津	上越市	33	宮ノ本	妙高市
6	山木戸	新潟市	13	林付	新潟市	20	京田	長岡市	27	宮野	上越市	34	関川谷内	妙高市
7	茗荷谷	新潟市	14	鬼倉	加茂市	21	八幡林	長岡市	28	四ツ屋	上越市	35	田伏山崎	糸魚川市

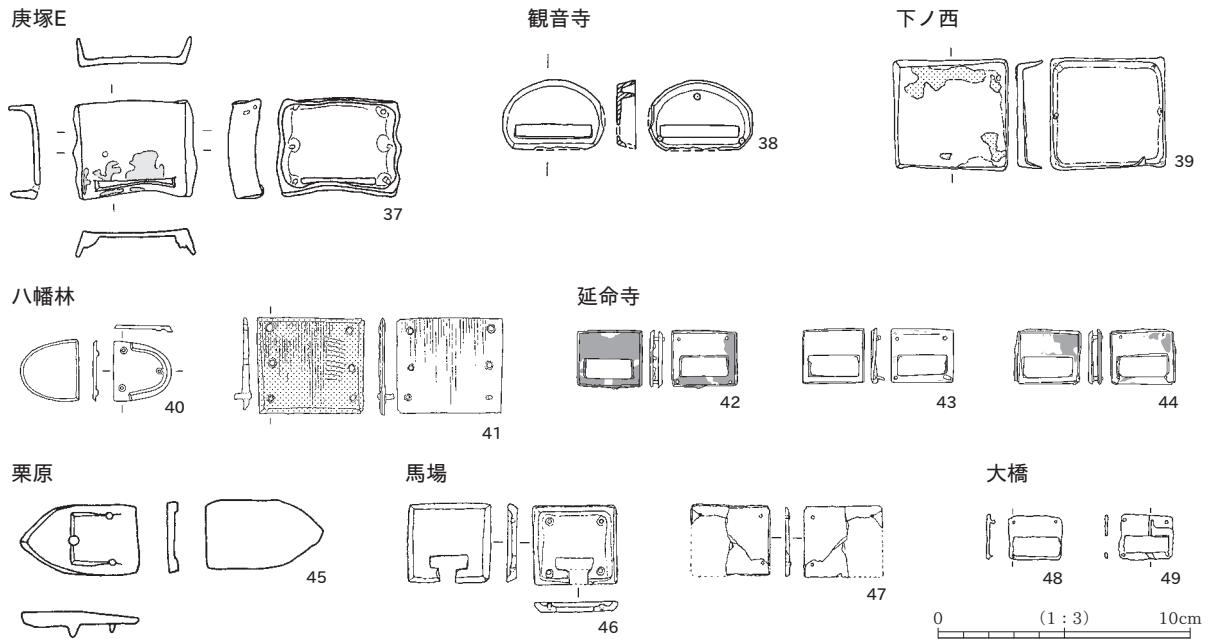
第 38 図 腰带金具出土の遺跡

細長孔金具が出土しているのは、上浦遺跡 (11)・的場遺跡 (9・10)・釈迦堂遺跡 (20)・四十石遺跡 (23～34)・庚塚 E 遺跡 (37)・観音寺遺跡 (38)・馬場遺跡 (46・47) であり、大孔・小孔金具より遺跡数は多い。馬場遺跡の 46・47 はセット (1 個体) と捉えられるものであり、やはり単独出土が多いが、四十石遺跡のように一条分に近い点数の出土をみるものもある。裏金具も一定量出土しているが、孔を有するものはない。横幅の寸法は、極端に小さい 20 (釈迦堂遺跡) を除けば、3.5～4.0cm の範囲にある。46・47 (馬場遺跡) はセットであるため表金具の数値を対象にしている。時期が特定できるのは四十石遺跡のみであり、8 世紀末から 9 世紀初頭という年代が与えられている。他の遺跡をみると、釈迦堂遺跡や観音寺遺跡が 9 世紀代の遺構から出土していること、9 世紀後半から始まる遺跡では出土していないことを考えると、細長孔金具は、8 世紀後半の遅い時期





第39図 県内出土の腰帯具（金属製品1）



第40図 県内出土の腰帯具（金属製品2）

に出現し9世紀前半中で衰退すると考えられる。言うまでもなく四十石遺跡出土の鉸具（21・22）と蛇尾（35）はこのタイプに伴うものであるが、この他に、的場遺跡からも同タイプに伴うと思われる弓金具（14）・刺金（12）が出土している。

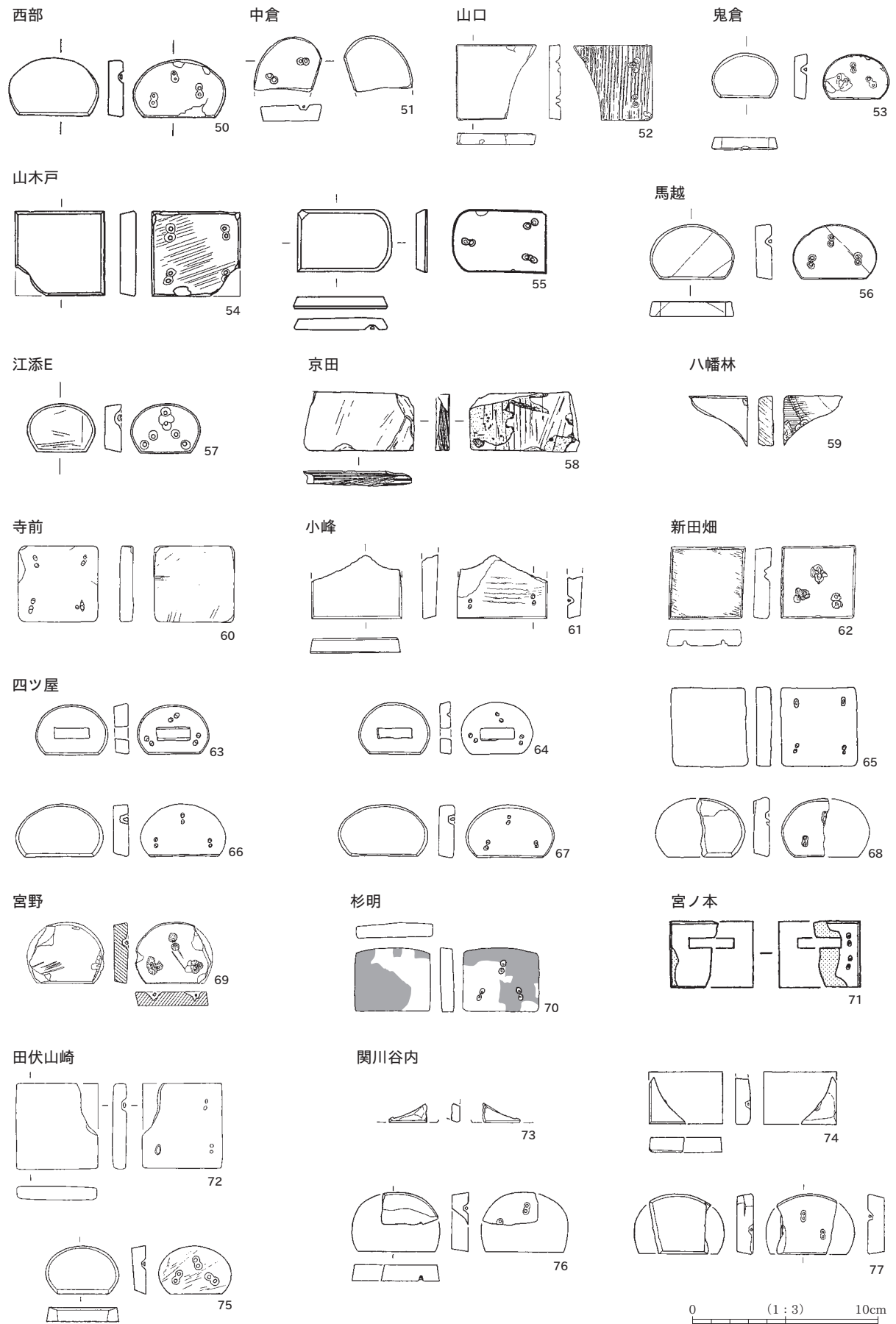
透孔の無い金具（以下、無孔金具という）が出土しているのは、下ノ西遺跡（39）であり、他に八幡林遺跡出土の巡方裏金具と思われるものが、寸法からその可能性をもつものである。時期は透孔を有する金具より時代が下るとされるが、実態は不明である。

次に石製腰帯具について概観する。

数量的なものをみると、石製腰帯具の出土数は金属製腰帯具の出土数よりやや少ないが、それらが出土した遺跡数は金属製腰帯具よりも多い。県内では有孔と無孔のものが出土しているが、有孔のものには県外でみられるような細長孔はみられない。時期については、特定できる良好な資料がないため、出土遺跡の消長によって推定すると、金属製腰帯具に比べて新しい様相と思われる。山口遺跡では中世の井戸（SE50）から出土しているが、遺跡の古代の時期が8世紀後葉～9世紀中葉ということから、石製の無孔腰帯具は少なくとも9世紀中葉には存在していたようである。有孔と無孔の前後関係や消長については不明である。

以上、材質・形態別の特徴を概観したが、気づいた点を述べる。

- ① 金属製腰帯具において、透孔は大孔、小孔、細長孔の3つの形態が捉えられ、それに無孔を加えると4つのタイプがみられる。
- ② 金属製腰帯具において、裏金具にも透孔がみられるのは大孔・小孔金具であるが、小孔金具には透孔がみられないものもある。細長孔金具にはみられず、裏金具の透孔は古い要素と捉えられる可能性がある。
- ③ 金属製腰帯具において、透孔の形態（c/a）と金具の寸法は相対的な関係が捉えられる。孔が大きいものは金具が小さく、孔が小さいものは金具が大きい。無孔のものはさらに大きい可能性がある。
- ④ 金属製腰帯具において、透孔の形態で分類された各タイプは盛行に時期差があり、大孔金具→小孔金具→細長孔金具→無孔金具という流れがみられる。
- ⑤ 石製腰帯具は金属製腰帯具より後出であると思われる。
- ⑥ 出土遺跡数は時代が下る（大孔金具→小孔金具→細長孔金具→無孔金具→石製腰帯具）にしたがって増える。分布状況に偏りがみられるものがあり、細長孔金具が蒲原郡に集中しているのが注目される。



第41図 県内出土の腰帯具（石製品）

第 24 表 県内出土の腰帯具 (1)

◎表・裏金具 ○表金具 ●裏金具

図示 No.	地図 No.	遺跡名	出土地点	時期	材質	部位	腰帯具				透孔		大孔	小孔	細長孔	無孔	備考	文献
							a 縦幅 (cm)	b 横幅 (cm)	c 縦幅 (cm)	d 横幅 (cm)	c/a							
1	2	蔵ノ坪	—	8C~9C	銅	巡方	2.4	2.6	0.35	1.7	0.15		◎			裏金具孔有 縦幅0.45cm 横幅1.6cm	飯坂ほか 2002	
2	7	茗荷谷	—	8C 中葉~9C 末	銅	丸靱	2.5	(4.0)								裏金具 孔形状不明	新潟市史編さん 原始中世史部会 1994	
3	4	山三賀Ⅱ	SI1166	山Ⅰ~Ⅱ 1期 (8C)	鉄	鉸具 (刺金)	0.6	1.6								表裏 小孔金具とセットか	坂井ほか 1989	
4	4	山三賀Ⅱ	SI33A	山Ⅲ 2~Ⅳ 1期 (9C 前半)	鉄	鉸具 (鉸板)	2.7	3.7								小孔金具とセットか	坂井ほか 1989	
5	4	山三賀Ⅱ	SI803	山Ⅱ 1期 (8C 第2 四半期)	鉄	山形	1.9	2.7	0.5	1.6	0.26	○					坂井ほか 1989	
6	4	山三賀Ⅱ	SI640・SI660	8C 第2 四半期	鉄	丸靱	1.5	2.2	0.6	1.5	0.40	○				7の表金具か	坂井ほか 1989	
7	4	山三賀Ⅱ	SI640・SI660	山Ⅱ 1期 (8C 第2 四半期)	鉄	丸靱	1.5	2.2	0.6	1.6	0.40	●				6の裏金具か	坂井ほか 1989	
8	4	山三賀Ⅱ	SI1166	山Ⅰ~Ⅱ 1期 (8C 前半)	鉄	丸靱	1.45	2.1	0.5	1.4	0.34	●					坂井ほか 1989	
9	4	山三賀Ⅱ	SI4	山Ⅲ 2期 (8C 第4 四半期)	鉄	丸靱	—	—				○?					坂井ほか 1989	
10	4	山三賀Ⅱ	SI1100	山Ⅲ 2期~Ⅳ 1期 (9C 前半)	鉄	丸靱	2.1	3.1				●					坂井ほか 1989	
11	8	上浦	包含層	8C 中葉~10C	銅	巡方	(2.5)	3.8	0.4	2.5	0.16		○				渡邊朋和 1992	
12	9	的場	包含層	8C 中葉~10C	銅	鉸具 (刺金)	—	2.4								細長孔金具とセットか	小池邦ほか 1993	
13	9	的場	包含層	8C 中葉~10C	銅	鉸具 (刺金)	—	2.2								小孔金具とセットか	小池邦ほか 1993	
14	9	的場	包含層	8C 中葉~10C	銅	鉸具 (弓金具)	—	—								根元の内幅2.6cm 細長孔金具とセットか	小池邦ほか 1993	
15	9	的場	包含層	8C 中葉~10C	銅	丸靱	1.7	2.8	0.5	2.0	0.29	○					小池邦ほか 1993	
16	9	的場	包含層	8C 中葉~10C	銅	巡方	(3.7)	4.0	0.4	(2.7)	0.11		○				小池邦ほか 1993	
17	9	的場	包含層	8C 中葉~10C	銅	丸靱	2.8	4.0	0.3	2.6	0.11		○				小池邦ほか 1993	
18	9	的場	包含層	8C 中葉~10C	銅	蛇尾	2.6	(3.6)								小孔金具とセットか	小池邦ほか 1993	
19	10	緒立 C	包含層	8C 後葉~9C	銅	巡方	3.1	3.1	0.7	2.3	0.23	○					渡邊ま ほか 1994	
20	11	釈迦堂	SX126	9C	銅	巡方	2.42	2.64	0.2	1.7	0.08		○				江口・小濱ほか 2000	
21	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	鉸具 (鉸板)	3.3	4.4								片面 細長孔金具とセット	本報告書	
22	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	鉸具 (鉸板)	3.3	4.3								片面 細長孔金具とセット	本報告書	
23	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	巡方	3.5	3.8	0.3	2.6	0.09		○			26の表金具	本報告書	
24	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	巡方	3.3	3.6	0.3	2.7	0.09		○				本報告書	
25	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	巡方	3.3	3.5	0.3	2.6	0.09	◎				縦幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
26	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	巡方	3.4	3.6					●			23の裏金具	本報告書	
27	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	丸靱	2.3	3.7	0.4	2.4	0.17	◎				縦幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
28	12	四十石	包含層	8C 末~9C 初頭	銅	丸靱	2.3	3.8	0.4	2.8	0.17	◎				縦幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
29	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	丸靱	2.3	3.85	0.3	2.7	0.13	◎				縦幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
30	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	丸靱	2.4	3.85	0.3	2.7	0.13	◎				縦幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
31	12	四十石	包含層	8C 末~9C 初頭	銅	丸靱	2.3	3.6	0.4	2.45	0.17	○					本報告書	
32	12	四十石	包含層	8C 末~9C 初頭	銅	丸靱	2.45	3.7	(0.4)	2.4	0.16		○				本報告書	
33	12	四十石	包含層	8C 末~9C 初頭	銅	丸靱	—	—					●				本報告書	
34	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	丸靱	—	—					●				本報告書	
35	12	四十石	SX71	8C 末~9C 初頭	銅	蛇尾	3.8	4.5								細長金具とセット 縦幅・横幅は表金具のみ	本報告書	
36	15	馬越	包含層	8C 中葉~10C 前半	銅	丸靱	2.1	3.1	0.6	2.2	0.29	◎				裏金具孔有 縦幅0.6cm 横幅1.9cm	伊藤 2005	
37	16	庚塚 E	—	—	銅	巡方	3.3	4.0					○				布施ほか 2005	
38	19	観音寺	12号土坑	9C	銅	丸靱	2.5	3.7	0.5	2.7	0.20		○				寒川ほか 1995	
39	22	下ノ西	水路1区 SK1053	—	銅	巡方	3.8	4.0						○			田中靖 2003	
40	21	八幡林	I地区	8C 初頭~9C 末	銅	蛇尾	2.2	2.1								大孔とセットか	田中靖 1993	
41	21	八幡林	11T	8C 初頭~9C 末	銅	巡方	3.4	3.8								裏金具 孔形状不明	田中靖 1994	
42	30	延命寺	SD3460	8C 前葉~中葉	銅	巡方	2.0	2.3	0.7	1.75	0.35	◎				裏金具孔有 縦幅0.7cm 横幅1.75cm	山崎ほか 2008	
43	30	延命寺	包含層	8C 前葉~中葉	銅	巡方	1.95	2.25	0.75	1.8	0.38	○					山崎ほか 2008	
44	30	延命寺	SD1381	8C 前葉~中葉	銅	巡方	1.95	2.35	0.75	1.75	0.38	◎				裏金具孔有 縦幅0.7cm 横幅1.7cm	山崎ほか 2008	
45	31	栗原	包含層	—	銅	蛇尾	2.5	4.1									高橋勉 1984	
46	36	馬場	土坑状窪み	奈良時代前半	銅	巡方	3.2	3.3	0.5	1.5	0.16		○			47の表金具か 銅製巡方2	山本仁ほか 1983	
47	36	馬場	土坑状窪み	奈良時代前半	銅	巡方	3.0	3.3					●			46の裏金具か	山本仁ほか 1983	



第3節 四十石遺跡出土骨片の人類学的検討

第25表 県内出土の腰帯具(2)

◎表・裏金具 ○表金具 ●裏金具

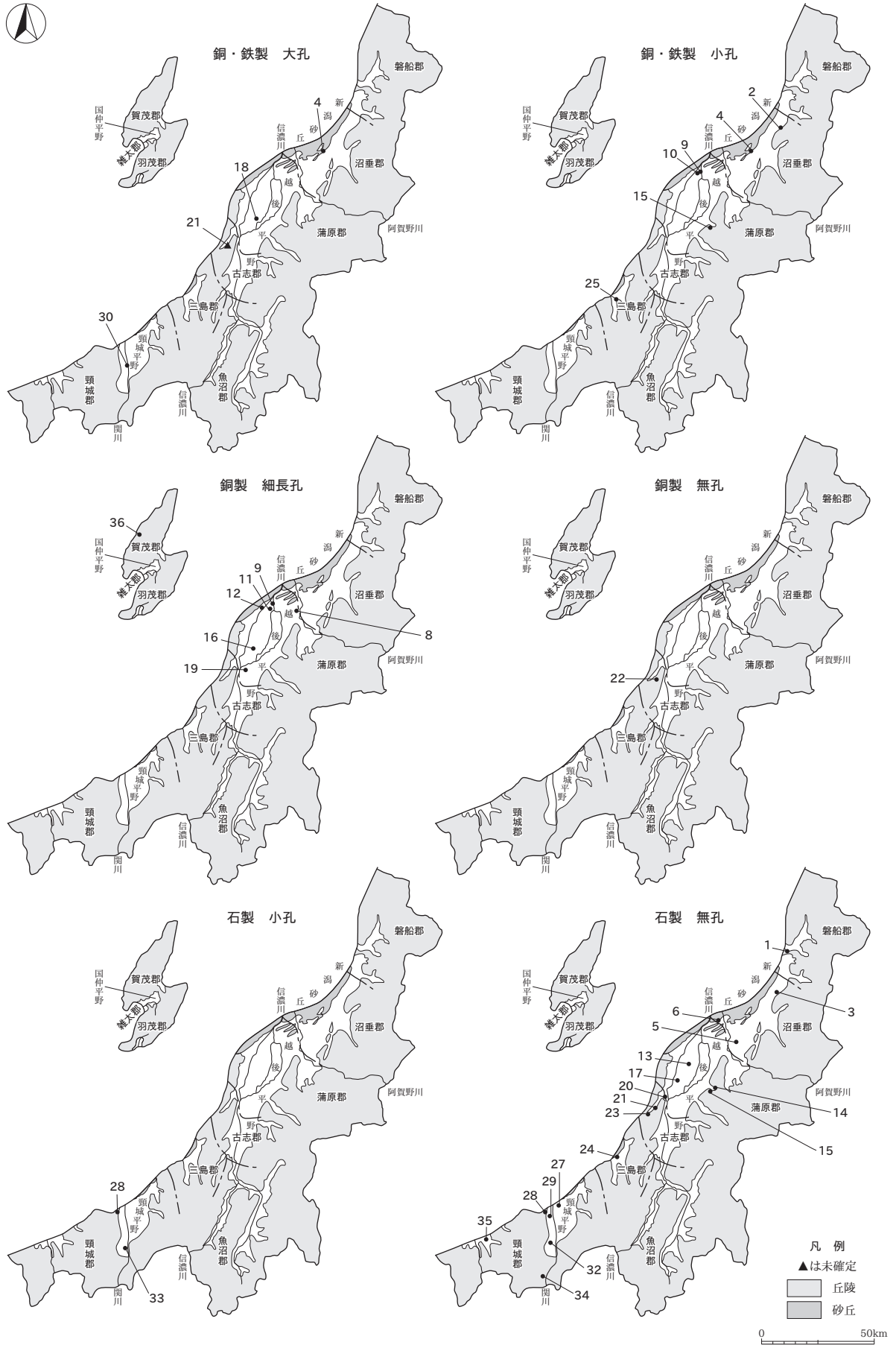
図示 No.	地図 No.	遺跡名	出土地点	時期	材質	部位	腰帯具		透孔		c/a	大 孔	小 孔	細 長 孔	無 孔	備考	文献
							a 縦幅 (cm)	b 横幅 (cm)	c 縦幅 (cm)	d 横幅 (cm)							
48	18	大橋	包含層	7C末~8C前半	銅	巡方	1.6	2.1	0.75	1.85	0.47	○			49の表金具か	布施ほか 2002	
49	18	大橋	包含層	7C末~8C前半	銅	巡方	1.7	2.1	0.65	1.75	0.38	●			48の裏金具か	布施ほか 2002	
50	1	西部	包含層	9C末~10C中葉	石	丸鞆	2.7	4.3						○		鈴木ほか 2010	
51	3	中倉	包含層	—	石	丸鞆	—	—						○		吉村 2003	
52	5	山口	包含層	8C後半~9C中葉	石	巡方	(3.6)	—						○		高橋保雄 2010	
53	14	鬼倉	SK11 (11号土坑)	—	石	丸鞆	2.2	3.2						○		伊藤 2001	
54	6	山木戸	SK9	—	石	巡方	4.05	4.25						○		諫山 2004	
55	6	山木戸	包含層	—	石	蛇尾	2.9	4.5								諫山 2004	
56	15	馬越	包含層	8C中葉~10C前半	石	丸鞆	2.6	4.0						○		伊藤 2005	
57	17	江添 E	P23	平安時代	石	丸鞆	3.2	2.2						○		布施 2000	
58	20	京田	SK002	—	石	巡方	(5.2)	(2.7)						○		関ほか 1987	
59	21	八幡林	SX29	—	石	巡方	(2.8)	(2.4)						○		田中 靖 2005	
60	23	寺前	包含層	—	石	巡方	3.9	3.6						○		高橋保ほか 2008	
61	24	小峯	—	—	石	巡方	—	4.3						○		渡邊尚紀 1999	
62	29	新田畑	SD38	—	石	巡方	3.5	3.5						○		上越市 2003	
63	28	四ツ屋	SB2	9C後半~12C前葉	石	丸鞆	2.3	3.4	0.5	1.7	0.22		○			上越市 2003	
64	28	四ツ屋	SB2	9C後半~12C前葉	石	丸鞆	2.4	3.4	0.5	1.6	0.21		○			上越市 2003	
65	28	四ツ屋	SB2	9C後半~12C前葉	石	巡方	3.8	3.6						○		上越市 2003	
66	28	四ツ屋	SK60	9C後半~12C前葉	石	丸鞆	2.5	4.2						○		上越市 2003	
67	28	四ツ屋	SX27	9C後半~12C前葉	石	丸鞆	2.4	4.3						○		上越市 2003	
68	28	四ツ屋	SX27	9C後半~12C前葉	石	丸鞆	(2.8)	(4.2)						○		上越市 2003	
69	27	宮野	2号建物跡	—	石	丸鞆	2.9	3.7						○		藤巻ほか 1985	
70	32	杉明	包含層	9C後半~10C初頭	石	巡方	3.0	3.7						○		高橋勉 1989	
71	33	宮ノ本	SB7	—	石	巡方	3.2	(4.0)	0.4	(2.0)	0.13		○			高橋勉 1995	
72	35	田伏山崎	包含層	10C前葉~11C前葉	石	巡方	4.1	3.9						○		佐藤ほか 2009	
73	34	関川谷内	包含層	平安時代	石	巡方	—	—						○?		小池義ほか 1998	
74	34	関川谷内	包含層	平安時代	石	巡方	—	(3.5)						○		小池義ほか 1998	
75	34	関川谷内	—	平安時代	石	丸鞆	2.3	3.6						○		小池義ほか 1998	
76	34	関川谷内	包含層	平安時代	石	丸鞆	(2.8)	(4.2)						○		小池義ほか 1998	
77	34	関川谷内	包含層	平安時代	石	丸鞆	2.8	(4.3)						○		小池義ほか 1998	
—	24	箕輪	—	平安時代	銅	丸鞆	—	3.4					○		未報告	ジャパン通信社 1999	
—	13	林付	—	8C末~9C末	石	巡方	3.65	3.85						○		未報告	相田 2011
—	26	高津	—	—	石											石製巡方 1 未報告	上越タイムス 1995
—	37	庚門塚	—	—	石											石製鉈尾 1 文章記載のみ	佐渡博物館 1973

本遺跡の事例は年代が付与できる好資料であり、それを加えることによって、県内の様相がある程捉えられたと思う。しかし、腰帯具については、位階と寸法の関係や1遺跡に1・2点の出土が多いこと、本遺跡で見られるような裏金具のみの鍍金の問題などまだまだ課題は多い。今後の研究に期待したい。

第3節 四十石遺跡出土骨片の人類学的検討

A はじめに

四十石遺跡では少量ながらも細片化が著しい焼骨片が多数出土した。焼骨片の多くは、古代の帯金具が出土したSX71周溝状遺構、およびその周辺から検出されている。これらの骨片は大きいものでも30mmほどで、ほとんどが10mmに満たない細片で肉眼観察によって部位および動物種の同定が可能なものは極僅かである(写真1)。SX71周溝状遺構の性格を考える上で、これらの焼骨が人か動物のものなのかは極めて重要な点であるこ



第 42 図 腰帯金具タイプ別出土状況

とから、形態学的肉眼観察に加えて骨組織形態学的手法を用いてこれらの焼骨片について検討した。

骨組織形態学的研究法とは、骨の切片から得られた緻密質の組織顕微鏡画像を検討することによって、動物種の同定を試みる手法である。ヒトを含む多くの中・大型哺乳類の緻密質はオステオンと呼ばれる円柱構造を主体とし、1個のオステオンは動静脈が通るハバース管とその周囲に同心円状に形成されたハバース層板から構成される。オステオンやハバース管の大きさと分布は動物種類によって相違しており、これを利用した鑑定法は特に法医学分野において人獣鑑別の一方法として援用されている〔山本1993、Cattaneo et al. 1999〕。また、偶蹄目に顕著に発達する葉状骨など特定の動物に形成される組織構造の有無も、動物種類の識別の根拠として有効である〔Enlow and Brown 1956-1958、Ricqlès 1975-1978〕。この方法は骨の組織構造が保存されていれば適用可能なので、肉眼では種を同定できない微小な骨片についても、人獣鑑別を実施できる。

これまで筆者らは、日本列島の人類遺跡から出土した微小骨片の同定に関して事例報告を蓄積しつつ、研究法の進展に努めてきた〔奈良・澤田2007、澤田・奈良2007、澤田<sup>ほか</sup>2010〕。今回、四十石遺跡出土骨片の鑑定にあたり、肉眼観察と併せて、緻密質組織形態の観察と計測に基づいて動物種類の推定を試みたので、以下にその結果を報告する。なお、本稿における骨片の番号は、調査担当者の付した資料番号にしたがった。

## B 肉眼観察

焼骨は、SX71周溝状遺構とこれ以外の遺構にわけて検討する。

### 1) SX71周溝状遺構

SX71周溝状遺構検出の焼骨は、出土地点記録遺物23点、重量11.1g、小グリッド一括取り上げ遺物が重量28.5g、総重量は、39.6gである。これらの焼骨で、ヒトと同定されるものと、焼成等の状況がうかがえるものを中心に記載する。

#### a) ヒトと同定された骨片

##### 試料1 (SX71-No.4767 第8図)

細片化が著しい骨片が十数点遺存する。総重量1.0gである。大きさは骨粉状のものから長径で15mm程のものまでであるが、ほとんどは5mm以下である。そのうちの4点が接合し、ヒトの前頭骨の右眼窩上縁部であることが判明した(第44図-1)。眼窩上縁の形態は、女性的な鋭角ではなく丸みを帯びるが、頑強な印象を受けない。

##### 試料2 (SX71-No.4766 第8図)

骨片が十点ほど遺存する。総重量2.0gである。大きさは骨粉状のものと長径で数ミリ程度のものに別れる。そのうち大きい3点が接合し、ヒトの左側頭骨鱗部前縁と思われる(第44図-2)。

##### 試料3 (SX71-11H4)

細片化が著しい骨片が十数点遺存する。総重量5.4gである。大きさは骨粉状のものから長径で20mm程のものまでであるが、ほとんどは5mm以下である。そのうちヒトの第3ないし第4頸椎椎体後部と思われる破片が含まれている。(第44図-3)

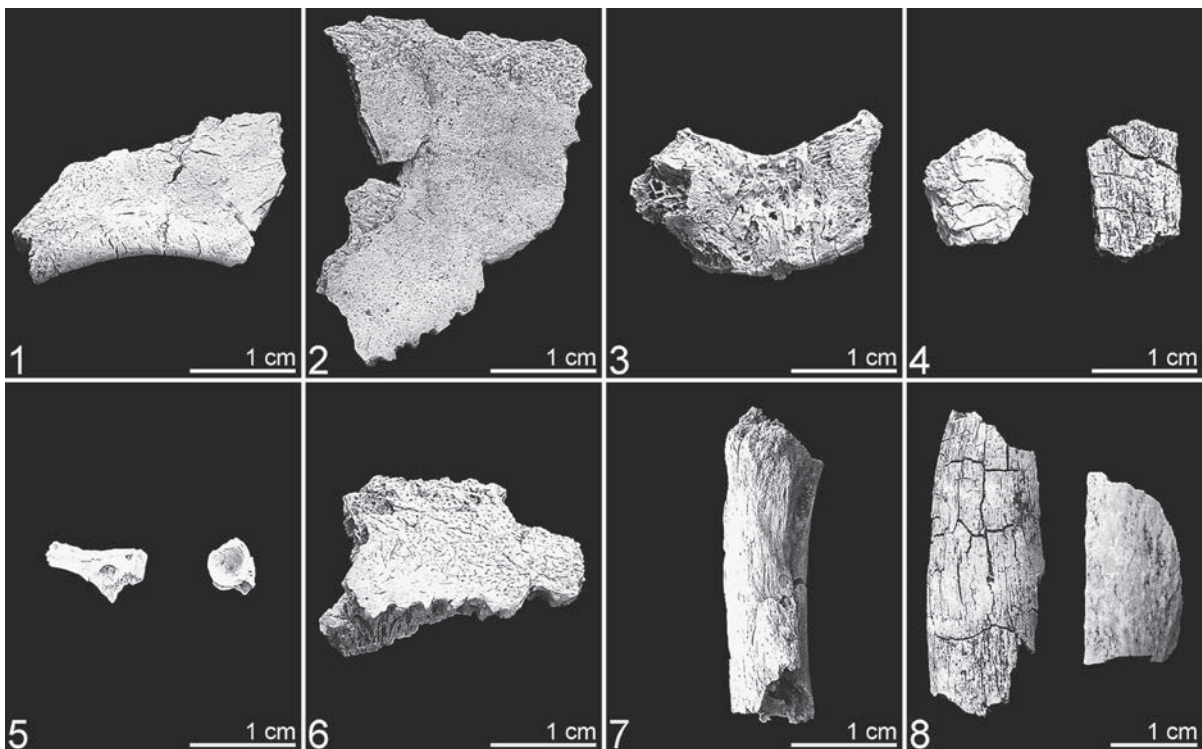
#### b) 焼成状況について

検出された焼骨は、ほとんどが灰白色から白色の色調を呈している。焼成による骨の色調変化は焼成温度と焼成時間に関係しており、白色の色調は800℃以上の高い温度で長時間焼成されたことを示している(Shipman et al. 1984、Nicholson1993)。一部の四肢長骨片に輪状に走る亀裂がみられる(第44図-4・8)。このような四肢長骨の亀裂は、骨が軟部組織に覆われた状態で焼かれた際に生じることが指摘されている〔池田1981〕。したがって、出土した焼骨群はまだ軟部組織が付着しているときに、高温で長時間焼かれたことが想定されよう。

肉眼的観察では種を確定するには至らなかったが、ヒト以外の動物を積極的に想起させるものは存在しなかった。



第 43 図 四十石遺跡出土焼骨片写真①



第 44 図 四十石遺跡出土焼骨片写真②

1. ヒト前頭骨の右眼窩上縁部 (No.4702)、2. ヒトの左側頭骨鱗部前縁部片 (No.4766)、3. ヒトの第3ないし第4頸椎椎体後部、4. 四肢長骨片、  
 5. 小型のタイの左前上顎骨 (左) と魚類の椎骨 (右)、6. ヒトの右側頭骨後頭縁、7. ヒトの左肋骨肋骨頸、8. 骨組織形態学的検討の試料とした四肢長骨片  
 (以上のうち1~4および8はSX71周溝状遺構、5はカマドフク土ST246、6は11H10IV層、7は4層P905から出土した)



## 2) SX71 周溝状遺構周辺の焼骨

焼骨は、いずれも破片で種の同定できるものも少ない。総重量は16.1gと少量である。種が同定できるものについて記載する。

### 試料4 (11H10 V層)

ヒトの右側頭骨後頭縁の破片である。厚さから成人のもので、縫合の癒合が見られないことから老人段階に達していた可能性は低い(第44図-6)。

### 試料5 (P905・4層)

ヒトの左肋骨肋骨頸の破片である(第44図-7)。

### 試料6 (SI246)

細片化が著しい骨片が10片ほど検出されている。その内、小型のタイの左前上顎骨(第44図-5左)と魚類の椎骨(第44図-5右)が確認された。

## C 骨組織形態学的検討

骨組織形態学的検討は、SX71 周溝状遺構検出骨片を対象として実施した。

### 1) 資 料

#### 出土焼骨

先行研究における骨構造の比較解剖学的所見は、特に四肢骨の緻密質に関して蓄積されている[Enlow and Brown 1956-1958、Hillier and Bell 2007、Jowsey 1966、Ricqlès 1975-1978、澤田<sup>ほか</sup>2010]。そこで、SX71 周溝状遺構出土焼骨から四肢長骨の緻密質を探索したところ、大型哺乳類のものと思われる四肢骨幹部の小片2点(試料7と試料8、第44図-8)が認められたので、これらを骨組織形態学的分析の試料とした。

#### 比較標本

分析試料は上述の通り大型哺乳類の四肢長骨とみなされたので、当時の動物相と家畜動物群を参考に、ヒト(現代人骨と遺跡出土人骨)・クマ(本州に生息するクマ科はツキノワグマであるが、収蔵標本の都合によりヒグマで代用した)・ウマ・イノシシ・ニホンジカ・カモシカ・ウシを分析の比較標本として選定した。各動物種はなるべく複数個体を用意し、上腕骨および大腿骨の骨幹中央部前側から、緻密質骨塊をダイヤモンドカッターで摘出した。ニホンジカ大腿骨の骨幹中央部前側は、網状骨が発達し二次オステオンがほとんどみられなかったため、二次オステオンの発達する骨幹中央部後側から緻密質を採取した。

### 2) 方 法

#### 薄切標本の作成

骨の組織形態を顕微鏡で観察するためには、材料となる骨片を樹脂に包埋し、これを薄切して切片を作成する必要がある。出土焼骨試料および比較標本から摘出した骨塊は、それぞれ70%エタノールに浸漬して真空デシケーターで脱気処理を行い、80%エタノールに1.5時間、90%エタノールに1.5時間、100%エタノールに1.5時間、別の100%エタノールに1.5時間浸漬して脱水した。その後、スチレンモノマーに2時間、別のスチレンモノマーに2時間、スチレンモノマーと樹脂(Rigolac2004とRigolac70F(NisshinEM)を7対3で混合)の等量混合液に24時間浸漬した後、樹脂(同上)に24時間浸漬して樹脂を骨内部に浸透させた。以上の過程を経た試料を、重合促進剤(Benzoyl Peroxide, 和光純薬工業)を添加した別の樹脂(Rigolac2004とRigolac70Fを7対3で混合)に包埋して恒温器内に安置し、30℃から12時間毎に10℃ずつ60℃まで温度を上げて樹脂を重合した。試料を包埋した樹脂が十分に硬化したのち、硬組織切断機(SP-1600, Leica)で、四肢長骨の長軸に対して垂直の横断面を得るように厚さ50μmに薄切し、非染色非脱灰標本としてプレパラートに封入した。

#### 顕微鏡観察と骨組織形態計測

検鏡には明視野・偏光観察の可能な光学顕微鏡(Imager A1, Zeiss)を用い、骨組織像の観察所見を得た。

さらに、骨組織像を顕微鏡デジタルカメラ (Go-5, QImaging) で撮影し、コンピューター (Mac mini, Apple) に取り込んだ後、画像解析ソフトウェア (ImageJ, US National Institute of Health) を用いて骨組織形態計測を行った。

緻密質の骨組織形態計測の項目には、オステオンの密度、ハバース管の密度、オステオンの面積と周囲長、ハバース管の面積と周囲長などが一般に用いられている。これらの計測項目のうち、オステオンの面積 (osteon area : On.Ar) とハバース管の面積 (Haversian canal area : H.Ar) は動物種によってそれぞれ異なっており、種の識別に有効な指標となりうる [Harsányi 1993、猪井<sup>ほか</sup>1994、Jowsey 1966、澤田<sup>ほか</sup>2010]。そこで本分析では、この2項目を計測項目として採用し、さらに、オステオンごとに On.Ar に対する H.Ar の比 ((H.Ar/On.Ar) × 100 : H-On 示数) を算出した。

計測方法は澤田<sup>ほか</sup> [2010] に準拠して、リモデリングによる骨吸収を受けていない完形の二次オステオン (secondary osteon) のみを計測対象とし、原始的オステオン (primary osteon)、形成途中の二次オステオン、新たなリモデリングの骨吸収を受けた古い二次オステオンは除外した。また、長骨長軸に対して斜走するオステオンや不規則な形のオステオンを除くため、最大径が最小径の2倍を越えるオステオンや輪郭が不明瞭なオステオンは計測対象外とした。比較動物標本の四肢骨の骨組織形態計測値は、澤田<sup>ほか</sup> [2010] のデータを利用した。

3) 骨組織形態の観察所見と計測的検討結果

以下、試料別に、観察所見と計測的検討結果を記載する。

試料 7 (No.3701 第 8 図)

試料の骨構造は焼成および埋存過程により劣化していたが、二次オステオンを主体とする様相が認められた (第 46 図 -1)。二次オステオンは密に分布しており、ハバース管の径は大きく、比較標本のヒト (第 46 図 -3・4) に類似する。幼齢の個体に形成される線維性骨や原始的オステオンなどの一次骨が見当たらないことから、この試料骨片はある程度成長の進んだ個体のもものと推察される。偶蹄類 (イノシシ、ニホンジカ、ウシなど) や奇蹄類 (ウマ) などヒト以外の哺乳類では、規則的なオステオンの配列 (第 47 図 -1・3) や、葉状骨または網状骨とよばれる構造 (第 47 図 -2・4) がしばしばみられるが [Enlow and Brown 1956-1958、Hillier and Bell 2007]、試料の組織像にそうした骨組織形態は認められなかった。

試料における骨組織形態計測値は、On.Ar が約 22700 μm<sup>2</sup>、H.Ar が約 1500 μm<sup>2</sup> であった (第 26 表)。試料の計測値を比較動物標本のデータ (第 27 表) と比較すると、試料骨片の On.Ar は、ヒト (約 30700-49000 μm<sup>2</sup>) より小さく、シカ (約 16300-28000 μm<sup>2</sup>) やイノシシ (約 19700-25700 μm<sup>2</sup>) などに近い値であった。また、試料骨片の H.Ar は、ヒト (約 1600-2500 μm<sup>2</sup>) よりやや小さいが、ヒト以外のどの動物 (約 500-1300 μm<sup>2</sup>) よりも大きい値であった。ここで、試料が焼骨であることに留意する必要がある。一般に骨は焼成によって収縮し、その収縮率は Nelson [1992] によれば最大で 17% とされる。仮に試料の骨組織形態が焼成により 17% 縮小していたとするならば、本来の試料の On.Ar は

第 26 表 四十石遺跡出土骨試料の骨組織形態計測値

試料 3701	On.Ar (μm <sup>2</sup> )			H.Ar (μm <sup>2</sup> )			H-On 示数		
	N	Mean	SD	N	Mean	SD	N	Mean	SD
	21	22651.0	4901.7	21	1459.7	822.5	21	6.67	3.50

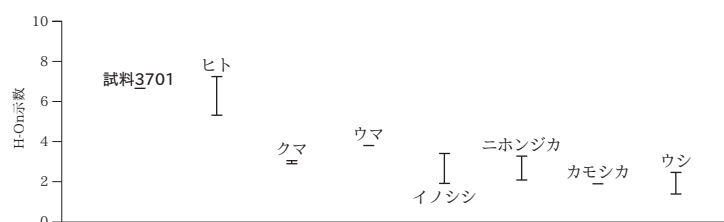
On.Ar : 完形の二次オステオンの面積, H.Ar : ハバース管の面積, H-On 示数 : (H.Ar/On.Ar) × 100

第 27 表 比較動物四肢骨標本における骨組織形態計測平均値の範囲

(澤田<sup>ほか</sup>2010) より)

	On.Ar (μm <sup>2</sup> )	H.Ar (μm <sup>2</sup> )	H-On 示数
ヒト (標本数 8)	30722.8-49038.7	1734.3-2524.5	5.4-7.3
クマ (標本数 2)	22203.2-26356.1	637.3-719.5	3.0-3.1
ウマ (標本数 1)	41422.9	1371.1	3.9
イノシシ (標本数 4)	19673.2-25740.1	463.7-827.7	2.0-3.5
ニホンジカ (標本数 6)	16275.5-28138.8	469.4-722.2	2.2-3.4
カモシカ (標本数 1)	26140.1	485.8	2.0
ウシ (標本数 5)	25216.9-43209.7	472.6-338.1	1.5-2.6

On.Ar : 完形の二次オステオンの面積, H.Ar : ハバース管の面積, H-On 示数 : (H.Ar/On.Ar) × 100



第 45 図 出土骨試料 No.3701 および比較標本における H-On 示数平均値の分布範囲

約 27300  $\mu\text{m}^2$ 、H.Ar は約 1800  $\mu\text{m}^2$  となり、ヒトの値と大きく違わなくなる。また、H-On 示数は、骨組織構造の面積の比であるため、焼成による収縮の影響が小さいと予想され、しかも人獣鑑別の指標としても優れている〔澤田<sup>ほか</sup>2010〕。試料の H-On 示数 (6.7) は、ヒト以外の動物の値 (1.5-3.9) より顕著に大きく、ヒトの値の範囲 (5.4-7.3) に収まっていた。したがって、骨組織形態の計測的検討結果においても、観察所見と同様に、本試料はヒトに最も近いと判断してよさそうである。

**試料 8 (No.3863 第 8 図)**

試料の全体に二次オステオンが認められたが、骨構造の保存状態がきわめて劣悪であり、ほとんどの組織形態においてそれらの輪郭を正確に把握することは不可能であった (第 46 図-2)。緻密質の中央部には二次オステオンが密に分布するが、二次オステオンの輪郭は判然とせず、骨組織形態計測を実施するには至らなかった。緻密質の骨膜側と骨内膜側では中央部に比べて二次オステオンの分布が疎であるが、これらの二次オステオンの周囲を充填する骨質が環状層板なのかそれとも原始的オステオンを多く含む一次骨なのかは、判断が困難であった。なお、葉状骨 (前述) などヒト以外の動物に特徴的にあらわれる組織構造は認められなかった。

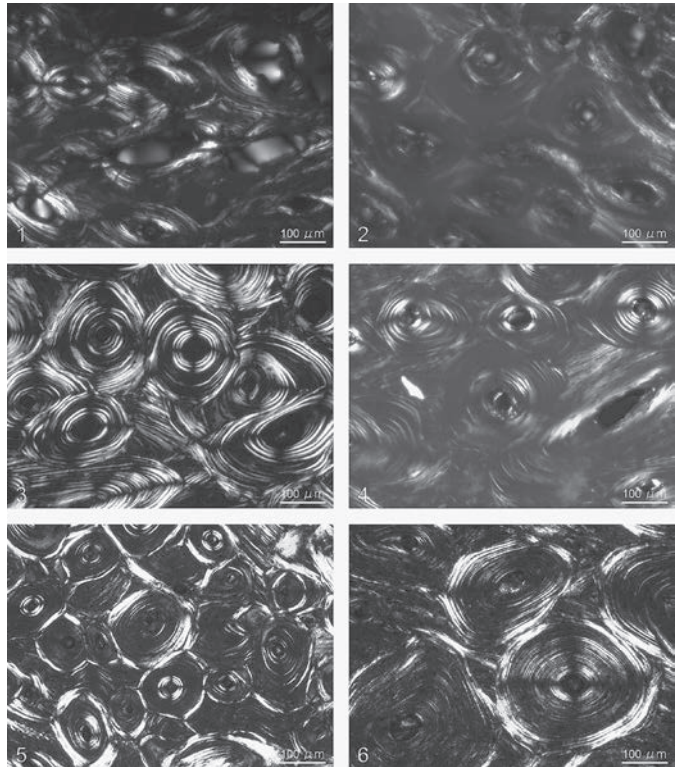
本試料においては、ヒト以外の動物であることを示す特徴を見出すことはできなかったものの、ヒトと動物を区別しうる所見に乏しく、人獣鑑別は保留にせざるをえない。

**D 考 察**

本稿の最初で述べたように、焼骨の大半が帯金具の出土した SX71 周溝状遺構およびその周辺から検出されていることから、この遺構の性格を考える上でこれらの焼骨の存在が重要であると思われる。そこで、特に SX71 周溝状遺構から検出された焼骨について若干の考察を加えてみたい。

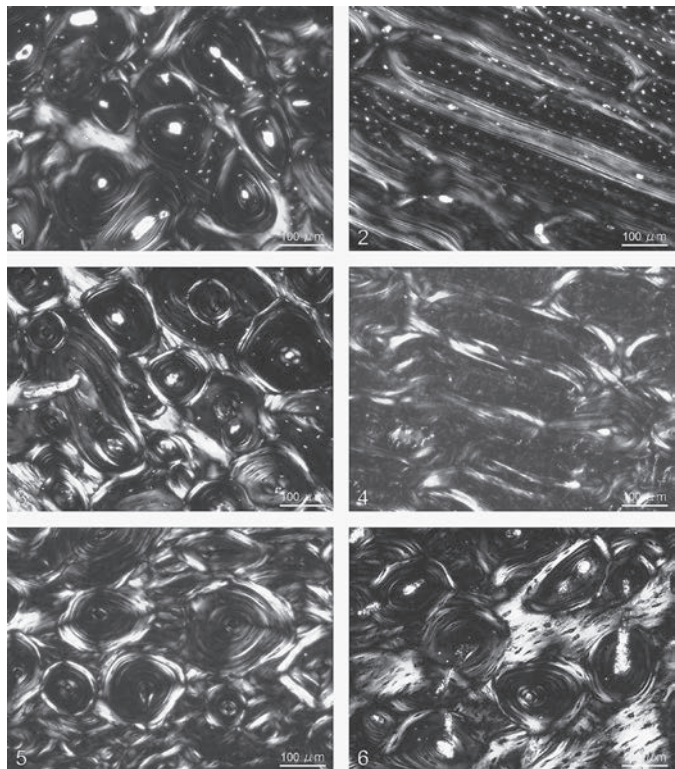
**1) 出土骨の内容**

本遺構から出土した焼骨の総重量は、40.1g



第 46 図 試料骨片および比較標本の骨組織像 (写真)  
(二次オステオンの偏光顕微鏡写真)

1. 試料 No.、2. 試料 No.3863、3. ヒト大腿骨、4. 里浜貝塚から出土した中世焼人骨の大腿骨、5. クマ大腿骨、6. ウマ大腿骨



第 47 図 比較標本の骨組織像 (写真)  
(二次オステオンと葉状骨の偏光顕微鏡写真)

1. イノシシ大腿骨の二次オステオン、2. イノシシ大腿骨の葉状骨、3. ニホンジカ大腿骨の二次オステオン、4. ニホンジカ大腿骨の葉状骨、5. カモンシカ大腿骨の二次オステオン、6. ウシ大腿骨の二次オステオン 5. クマ大腿骨、6. ウマ大腿骨



である。肉眼観察では、種が同定できたものは全てヒトであり、種を確定するには至らなかった資料でもヒト以外の動物を積極的に想起させるものは存在していない。さらに2点の四肢骨骨幹部破片について骨組織形態の観察と計測的検討を行った結果、1点はヒトの可能性が高いと考えられ、もう1点については人獣鑑別はなしえなかったもののヒト以外の動物であることを示す証左は見出せなかった。したがって、出土焼骨の肉眼観察と骨組織形態学的検討の両方において、識別可能な種はヒトのみということになる。

同定できた部位に限られ、複数個体が存在していたかどうかは不明であるが、出土量は成人一体分の焼骨の重さに遠く及ばない。成人男性の一個体の平均的な焼骨重量は約2kg、成人女性では約1.3kgとされるが〔山口1983〕、仮に出土焼骨が一体の男性だとするならば、検出された骨の量は一個体分のわずか2%程度にすぎない。同定できた部位があまりにも少ないので個体識別の意義は大きいとは言えないものの、重複する部位が見当たらないことより、最小個体数は1と算定される。

## 2) 年齢・性別

仮にこれらの焼骨がSX71周溝状遺構に埋葬されたヒト一個体分の被葬者だとして、年齢と性別に関してできる限りの考察を加えてみよう。

出土焼骨のうち、ある程度の年齢を推定できる部位として、頸椎椎体と頭骨片(試料2)の2点が挙げられる。頸椎椎体(第44図-3)は骨端輪の骨化が終了していることから成人段階には達していた。さらに加齢性の骨棘形成などが見られないことから老人の可能性は低く、壮・熟年段階程度と思われる。また、計測可能な椎体背側垂直径は、12.2mmと日本人成人の平均値(成人男性第3頸椎13.3mm、第4頸椎13.3mm、成人女性第3頸椎11.7mm、第4頸椎11.4mm)とほぼ同じ値を示すことから、焼骨の収縮を考慮に入れなければ体格は平均的な大きさの成人であったと思われる。幼児程度の段階でないことは骨組織の観察とも一致する。次に試料2頭骨片(第44図-2)であるが、観察できる縫合は癒合しておらず、老人の可能性は低い。しかし、焼かれた骨は、完全に縫合が癒合していなければ、癒合がかなり進んでいても、縫合に沿って割れてしまうとされているので〔池田1981〕、焼骨の年齢を推定する際、頭骨の縫合の癒着の程度は参考程度に留めた方が良いのだが、確認できた特徴に僅かながらでも老人を想起させるものはない。

性別を推定できる部位が遺存するのは以下の1点である。試料1(第44図-1)の前頭骨の右眼窩上縁部の形態が、女性の特徴を示す薄い鋭角でなく、丸みを帯びている。しかし、眉弓の隆起が発達しているわけではないことから、頑強ではない男性という印象を受ける。また、焼骨の場合、一般的に収縮するとされている。個々の骨の縮小率は一定でなく、収縮率は報告者によりまちまちである。最大で30%縮小するといわれているので、性別推定には注意を要するのだから、池田〔1981〕は、太安万侶墓出土の焼骨の性別を推定する際に収縮率を3%、10%と仮定して検討を加えている。本遺跡の頸椎もこれにならってもとの高さを推定すると、頸椎が3%縮小していたときのもとの高さは12.6mm、10%縮小していたときのもとの高さは13.5mmとなり、日本人男性の平均(前掲)とほぼ同等であり、女性の平均よりはやや大きい値となる。よって、小柄な可能性は低くなり、性別が推定できる特徴は僅かだが、男性的要素が強い。仮に女性だとしても平均以上の身長だったと思われる。

以上のことから、極めて限定された情報からであり、ヒト一人から由来するものと仮定した上の推定だけれども、本遺跡の焼骨は、壮熟年程度の男性と思われる。

## 3) 火葬儀礼と焼骨

この遺構から出土した骨片が全てヒトだとすると、骨体の色調や形状から、死後それほど経たないうちに700~800℃以上の高温で長時間焼成されたものと推察された。こうした焼骨の由来を考えるのに、焼成が偶発的に生じた可能性は低く、強い火力を長く受ける状況として火葬されたものと思われる。また、細片化が著しいことから、焼いた後に焼骨を砕くという民俗例で知られているような行為が存在していた可能性も指摘できる。成人男性の焼骨重量は約2kg、成人女性は約1.3kgとされるが〔山口1983〕、本遺構から検出された焼骨の重量は大幅にこの値を下回る。本来あるべき骨量のわずかしが遺存していないことになる。一般に焼成した骨はもろ



くなるが、遺跡から出土する焼骨は強固な状態であることが多い。この現象の理由ははっきりとわかっていないが、高温により融解した無機質が再結晶化する際に水と反応してより強固な構造に変化したため、あるいは、有機物を含有しないので微生物によって分解されないためと考えられている [Mays 1988]。本遺跡の焼骨は、いずれもよく焼成していることから、ある程度の強度を保っていたと思われるため、埋存過程でのみ消失したと考えるよりも、埋納あるいは遺棄された当初から少量しかなかったか、あるいはこの遺構が後世の攪乱を受けたため少量になったと推定するほうが蓋然性が高い。遺構およびその周辺からは、炭化物や焦土の検出がないことから、この遺構で荼毘されて拾骨された後に取り残された可能性は低い。別のところで荼毘に付された焼骨の一部が選択的に拾骨され持ち込まれたものなのかどうかは、骨の分析からは判断できなかったが、検出された焼骨には頭骨の破片は認められるものの、歯は含まれていなかった。

## E ま と め

四十石遺跡において、SX71 周溝状遺構などから奈良時代の焼骨片が検出された。これらの焼骨片は、カマドから検出された魚骨を除いて、肉眼観察で種が同定できたものは全てヒトであった。肉眼観察では、種を確定するには至らなかった資料でも、ヒト以外の動物を積極的に想起させるものは存在しなかった。さらに、SX71 周溝状遺構から出土した四肢長骨片 2 点について骨組織形態の観察と計測的検討を行った結果、1 点は動物種の同定が困難であったが、もう 1 点はヒトの可能性が高いことが推定された。

SX71 周溝状遺構から出土した焼骨についてその由来を検討したところ、遺構出土焼骨がすべてヒトであるとすれば、別の場所で強い火力を長く受けて火葬された後に、本遺構に埋納あるいは遺棄されたと考えられた。出土量のごく少ないことから、当初から少量の骨のみが持ち込まれたか、あるいはこの遺構が後世の攪乱を受けたことにより本来存在していた骨のごく一部のみが残存したものと推定された。

### 謝 辞

試料の薄切および画像処理に際して佐伯史子氏のご助力を得た。魚骨に関しては慶應義塾大学文学部佐藤孝雄教授にご教示を賜った。記して感謝申し上げる。

## 第4節 遺跡の変遷と位置付け

### A 縄文・弥生・古墳時代

四十石遺跡では縄文時代後期の痕跡がもっとも古い。遺構は明確に認識されるものはなかったが、後期中葉の加曾利 B 式並行土器が一定量出土している。多くが加曾利 B2 式並行のものであり、該期の石鏃と思われるものもみられる。縄文時代晩期の土器は現在のところ確認されていないが、次の弥生時代では前期の「緒立式」土器、中期の「小松式」土器、後期の「法仏式」土器がわずかにみられる。

周辺をみると、縄文時代・弥生時代の遺跡は、本遺跡の西側や南西側で海岸線にほぼ並行して延びる新砂丘Ⅱや新砂丘Ⅰに存在している。しかし、土器はほとんど出土しておらず、石鏃を中心とした石器しか確認されていない遺跡が多い。自然堤防上の遺跡とされる伝念野毛遺跡では弥生時代中期（「小松式」）の土器が、新砂丘Ⅱ－a 列にある病院脇遺跡では縄文時代後期中葉～後葉初期の土器 [岡本郁<sup>ほか</sup>2007] が出土しているが、ごくわずかである。この辺りはキャンプ地的な遺跡が多いと考えられている [新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994]。土器を一定量出土する遺跡は、本遺跡から南西方向約 5.8km にある布目遺跡（縄文時代前期前半）、北東方向約 3.5km にある六地山遺跡（弥生時代後期）、同じく北東方向約 7.8～8.6km にある緒立遺跡・的場遺跡（縄文時代晩期～弥生時代中期）である。各遺跡とも土器が標準資料となっており、遺構も確認されている。特殊な性格をもつものもあるが、いずれも集落遺跡として位置づけられるものである。本遺跡もまた、量は多くないものの複数器種の土器が出土しており、縄文時代後期中葉には短期間の活動の中心となっていた可能性がある。

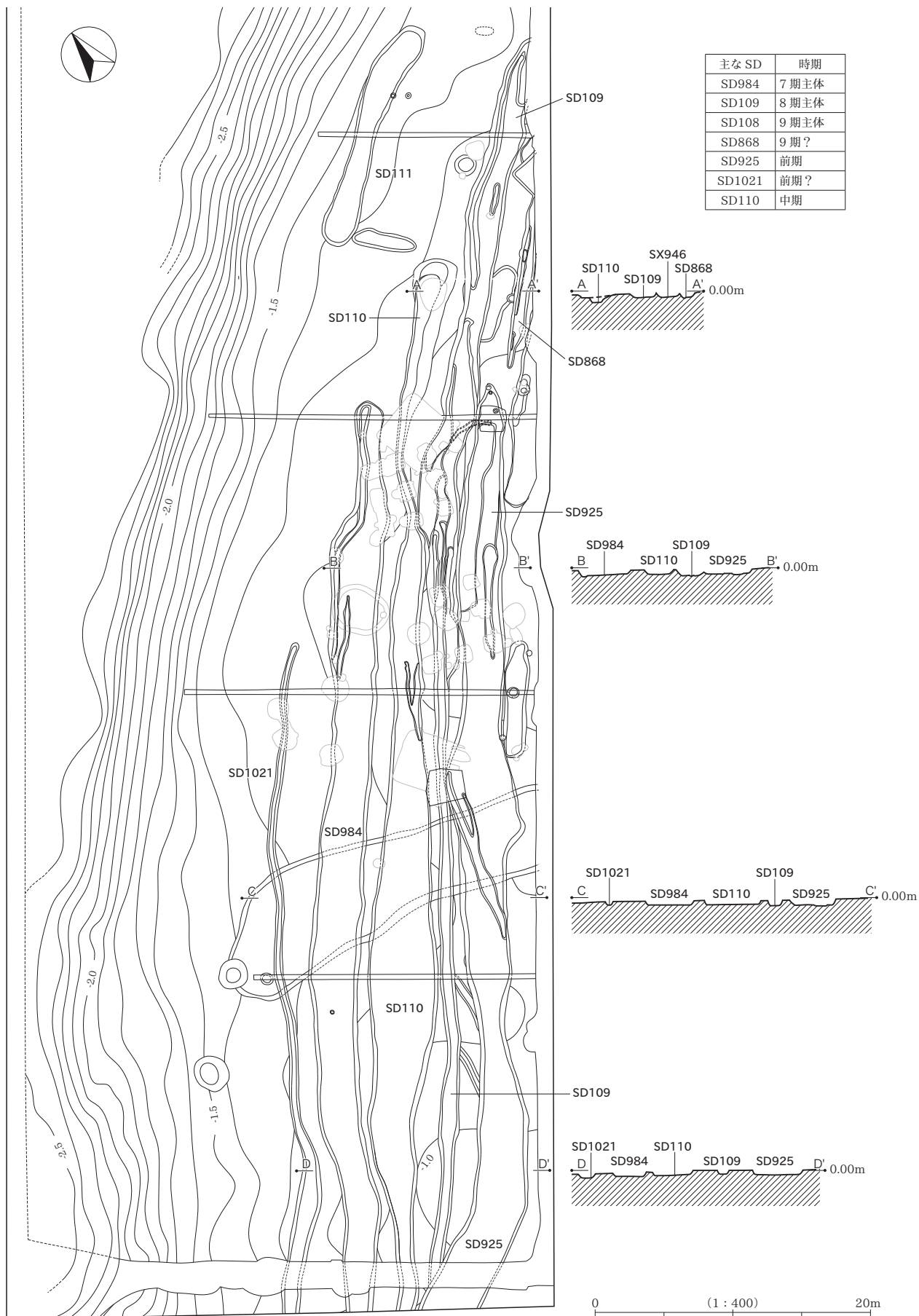
四十石遺跡の古墳時代は、新潟シンポ5期に始まる。遺構は7期以降のものであり、8・9期が中心である。その後一時的にこの空間から痕跡が消えるが、漆町12・13群並行期に再び現れる。竪穴住居の可能性のあるSK942が存在するものの、それ以外に建物等は確認されておらず、溝が主体である(第48図)。溝は、地形に沿ってつくられた長大なものであり、何本も走るといふ特異な様相をみせるが、切りあい関係・時期の違いがあることから、同じ機能をもちながらつくりかえを行っていたと思われる。この溝の性格は不明であるが、集落本体はこの東側に存在すると思われ、集落と水際との間に存在するところが注目される。

このころの周辺の遺跡は、2つの地域的なまとまりが捉えられている〔相田2005〕。ひとつは信濃川河口付近の砂丘であり、もうひとつは角田・弥彦山麓を中心とした矢川流域である。それぞれ、一定量の遺物が出土し、その首長の墓と思われる古墳が存在する。前者に存在する緒立遺跡・的場遺跡は、新潟シンポ5期に出現し8期あたりで衰退する。緒立遺跡は竪穴住居や墓の可能性のある円形周溝遺構が検出され、遺物の出土量も多いことから、的場遺跡と合わせて拠点的な集落であったことが推測される。古墳は葺き石をもつ円墳で、造営は7・8期とされる。外来系の土器も多様で、北陸・東海・近江・畿内・山陰系の土器がみられる他、ヒスイ製の勾玉も出土している。一方、後者に存在する大沢遺跡B'地区・南赤坂遺跡・御井戸遺跡は、大沢遺跡がB'地区は1～5期、南赤坂遺跡が7期～漆町12群並行期、御井戸遺跡が1期～漆町15群並行期とそれぞれ異なるが、捉えられ〔相田2004〕、地域としてみた場合、かなり長い消長を示す。前者と異なる様相である。これらの遺跡では竪穴住居(大沢遺跡B'地区・南赤坂遺跡)や平地式住居(御井戸遺跡)が検出されており、一定規模の集落がいくらかの断絶があるもののずっと存在していたことが窮える。外来系の土器も北陸・東海・近江・畿内・山陰系の他、南赤坂遺跡・御井戸遺跡では縄文土器など北方系の土器も出土しており、この地域の特徴となっている。このような中で、本遺跡は2つの地域の中間的な位置にあり、両地域との共通点も多い。低湿地に囲まれた砂丘上に立地し新潟シンポ5期ころに現れるという点では前者と共通し、中期にも一定の活動がみられるという点では後者と共通する。さらに、外来系土器の多様さも両者に似ており、両地域で少量出土している布留系甕が、本遺跡は20点前後出土していることは注目される。3者の位置関係が示すように、本遺跡は両地域ともに関係があったと思われるが、その関わり方やこの時期の首長(古墳の造営主)の支配領域における位置づけが今後の課題となろう。

## B 奈良・平安時代

ここでは、奈良・平安時代における遺構や遺物の様相を整理し、その位置づけを行いたい。遺跡の変遷を第49図に示した。春日編年VI期はあたる遺構がはっきりしないが、土器の出土量から遺構の存在が推定され、調査区外に期待できる。今回の調査は対象が遺跡の一部であることと事実確認に不備もあると思われるため、本遺跡の変遷について明確な段階設定を行っていない。しかし、遺構が集中する調査区中央部をみると、空間利用の仕方は住居→倉庫群→墓の変遷を認めることができる。以下、遺物の出土状況も合わせてみることにする。

本遺跡の古代における始まりは8世紀の初頭である。このころの遺構はほとんど確認されていないが、「秋」と墨書された須恵器杯蓋が出土しており、識字層の存在が想像される。遺構がはっきりした姿を現すのは春日編年Ⅲ2期である。建物では、その可能性があるSX100を含め竪穴住居が2棟検出されているが、この時期の明確な掘立柱建物は確認されておらず、竪穴住居が主体の段階と考えられる。竪穴住居は正方形に近い。土器は、食膳具・貯蔵具は須恵器、煮炊具はロクロ未使用・ハケメ主体の土師器長甕が中心あり平底が多い。他に東北系の特徴をもつ土器や系譜不明の内面ミガキの土師器杯が出土している。また、わずかではあるがロクロ使用の痕跡(カキメ)をみるハケメ主体の丸底長甕が少量出土している。その後、V期まで調査区内では竪穴住居が確認されないが、竪穴住居がまったく存在しなかったとは考えられにくいことから、竪穴住居と掘立柱建物の共存があったと思われる。中央エリアでみると、少なくとも3段階の変遷がみられる。竪穴住居の廃絶後、一般集落でもみられる規模の掘立柱建物の建て替えが2回あり、その後、官衙的な特徴をもつ倉庫群がつけられる。建



第48図 下層における主要溝状遺構検出状況

春日編年 (1999)	Ⅲ (8c初頭～前葉)		Ⅳ (8c後葉～9c初頭)			Ⅴ (9c前葉～中葉)		Ⅵ (9c後半～10c初頭)	
	Ⅲ1	Ⅲ2	Ⅳ1	Ⅳ2	Ⅳ3	V1	V2	Ⅵ1	Ⅵ2・3
空間利用	--- (正方形) --- 掘立柱建物		--- 竪穴住居 --- (長方形) ---						
建物	東		←---SB2001---		←-----SB2008-----				P21
	中央	SI307 SX100	SB2002 → SB2003 → SB2004 ←---SB2009--- ←---SA3001---	SB2005 SB2006	SX71	SI246			
	南	SK825			←-----SB2007-----				
土師器	ロクロ未使用・ハケメ (平底主体・丸底少)		----->						
	ロクロ使用・ハケメ主体 東北系土器 内面ミガキ無台杯		-----> ロクロ使用・カキメ				----- 無台椀 ----->		
須恵器	胎土A群・B群		(胎土D群・E群)			胎土C群			
その他	「秋」墨書土器					銅製腰帯具 ----- 銅製品生産? -----			「津」墨書土器

第 49 図 古代集落の変遷

物の軸筋は、地形に合わせたものから、方位を意識したものに变化しているようである。そして、その次の段階は、墓が造られる。この時期の土器は前時期と同じように須恵器の食膳具・貯蔵具、ロクロ未使用ハケメ主体の煮炊具にカキメがしっかりみられるロクロ使用の甕類も一定量存在する。また鍋や短胴甕が出土しており、土師器には、胎土に砂を多量に含んだハケメ調整の西古志タイプの鍋もみられる。土器以外では、銅製の腰帯金具がほぼ一条分出土しており、官人の存在が推測できる。次のⅤ期にかけては遺構・遺物ともに少ないが、これは調査区内に墓が存在し、住空間が少ないためとも考えられる。Ⅴ期で長方形の竪穴住居がみられ、この時期の確実な掘立柱建物は確認できていないが、引き続き掘立柱建物も存在していたと思われる。注目されるのは、この竪穴住居から銅系の可能性があるガラス質滓が出土していることである。本遺跡では、この他に銅系滓が付着した炉壁が2点(図版 69-490・491)出土しており、銅製品の生産に関係していたことが考えられる。当時(律令期)の鉄関係手工業は官衙から拠点村落に至る広い範囲で行われていたようであるが、「銅器とガラス器生産は、遺跡の格も操業年代も極めて限られた存在であった」[宇野 1996] ことから、遺跡の性格を考える上で重要である。Ⅵ期の確実な建物は捉えられていないが、「津」が墨書された土器が不確実なものを含めて3点出土していることから、それを示す遺構の存在は十分考えられる。今回、年代付与を避けた SB2008 とⅥ期と捉えられる P21 との関係は今後の課題である。遺物は土器が食膳具・煮炊具を中心に一定量出土しているが、墨書土器以外、特にこの遺跡を特徴づけるものは出土していない。

当時の蒲原郡に属すると思われる周辺の主要な遺跡(第 28 表)をみると、古代において本遺跡より早い段階で出現しているのは新潟市上浦遺跡や燕市大橋遺跡・三角田遺跡などである。いずれも内陸にあり、現況では地形がまったく読めない微高地に存在している。遺構・遺物ともに一定量あることから拠点集落と捉えられる。大橋遺跡・三角田遺跡は本遺跡と同じ西川流域にあり、8世紀前半にピークがある。遺構は竪穴住居の可能性のあるものが検出されているが、掘立柱建物が多い。地面を掘り込む竪穴住居がほとんどみられないのは、低湿な環境であるためかもしれない。また、土器では本遺跡と同じところに東北系の特徴をもつ土器が大橋遺跡・三角田遺跡で出土しているのが注目される。大橋遺跡では8世紀前半と捉えられる銅製腰帯具がみられることから、少なからず律令支配の関わりがあったと考えられる。両遺跡はピーク以降廃絶あるいは衰退に向かい、9世紀にはほとんどその姿をとどめない。これと前後して信濃川河口付近には的場遺跡・緒立遺跡が出現する。両遺跡は一

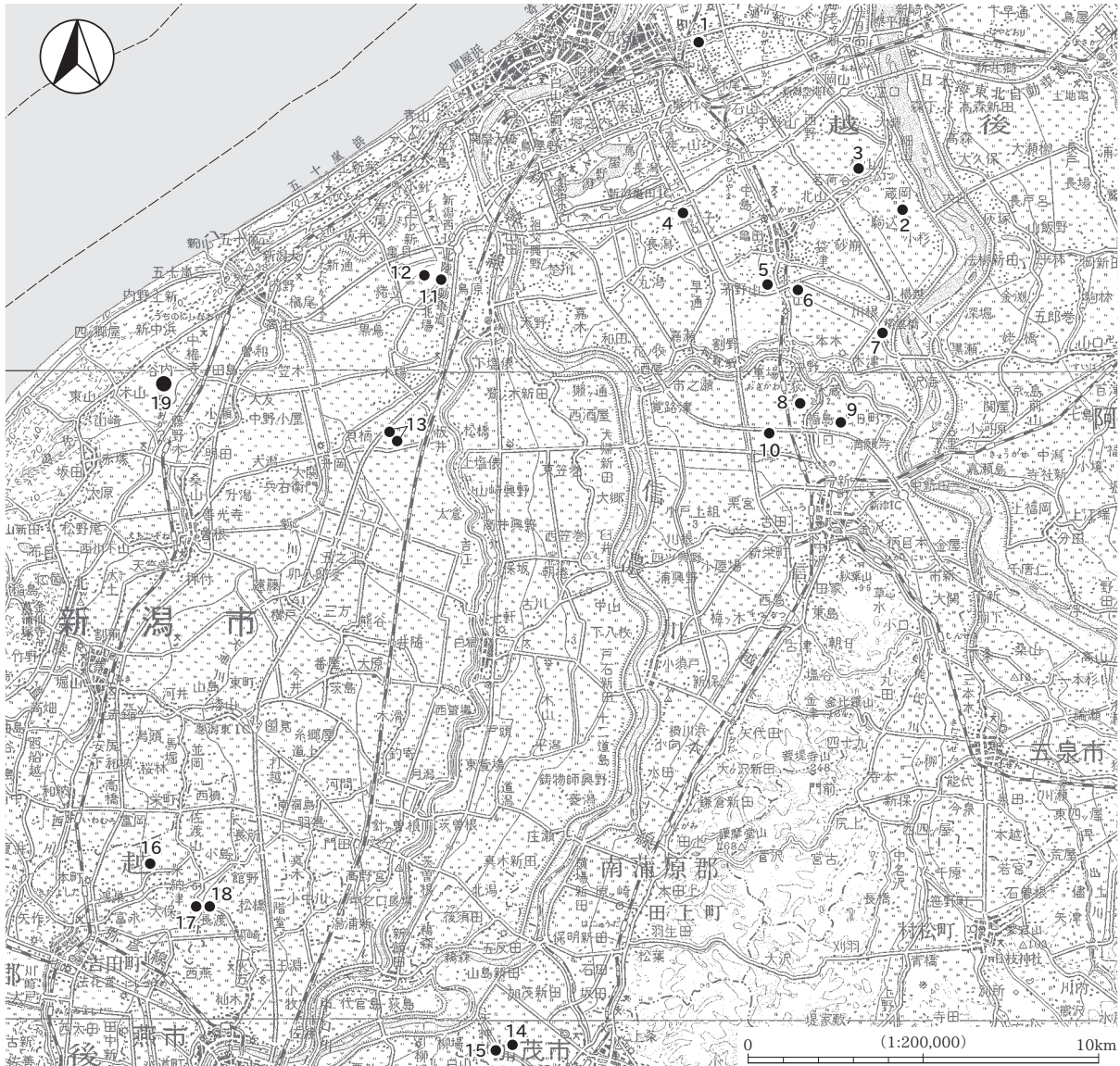


第4節 遺跡の変遷と位置付け

第28表 周辺遺跡の様相

地点No.	遺跡名	立地	時期種類	主要遺構	土器 施軸陶器	墨書土器 刻書土器等	生産・生活				特殊遺物 (銭貨含む)	祭祀・(神仏信仰)	備考	文献	
							漁撈具	鍛冶関係	製塩土器	生活用具					
1	山木戸	砂丘	8C前半~10C初頭 集落	掘立柱建物 竪穴建物 井戸 土坑 溝	緑軸陶器 灰軸陶器 須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器(刻書 含む) 131点 「寺」「井」他 刻書「十」他	土錘	ファイゴの 羽口	有	石製紡錘車 砥石 支脚 円筒形	石製腰帯具 鉄鎌 飾金具	墨書「寺」	カマド型土製 品	謙山2004	
2	笹山前	砂丘	8C~9C 集落	竪穴住居? 掘立柱建物 井戸	須恵器 土師器	-	-	-	-	-	-	-	円筒状土製 品	廣野1997	
3	小丸山	砂丘	9C後半~10C 初頭 集落	掘立柱建物 井戸 土坑 溝 畝状遺構 柵列	緑軸陶器 (素地) 微量 須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器107点 「七」「西家」 「田」「万」他	土錘	ファイゴの 羽口 鉄滓	有	石製紡錘車	-	井戸祭祀 (斎串・箸・磔)	-	小池邦ほか1995	
4	駒首岡	自然堤防	9C全般 集落	掘立柱建物 井戸 土坑 溝 杭列 畝状遺構 火葬灰埋納土坑? 旧河川	須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器109点 「柱六十」「山村」 「足」他	土錘 石錘	ファイゴの 羽口 鉄滓	有	-	「足羽臣」「資人」 木簡	井戸祭祀 (斎串・刀子) 仏鉢形土器(須恵器) 木簡文字	四面筒掘立柱 建物	渡邊まほか2009	
5	日水	自然堤防	9C後半~10C 初頭 集落	掘立柱建物 竪穴建物 井戸 土坑 溝	須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器4点 「上」「一」他	土錘	ファイゴの 羽口 鉄滓	-	-	-	井戸祭祀 (刀子・炭屑)	筒形土器	今井2007	
6	牛道	自然堤防	9C第3四半期 ~10C初頭 生産遺跡(集落 の一部)	井戸 土坑 畝状遺構 溝	緑軸陶器 灰軸陶器 須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器33点 則天文字ほか	-	-	-	-	-	井戸祭祀(楡屑?・ 土器・火鏝棒・炭・ 灰・墨書土器など) 墨書土器(則天文字)	井戸から動植物 遺体	土橋1999	
7	上郷II	自然堤防	9C末~10C初頭 集落 生産遺跡	掘立柱建物 竪穴建物 井戸 土坑 溝 畝状遺構 水田跡	須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器 「大」「平」「十」	-	-	-	-	-	-	-	上野・春日1997	
8	結七島	自然堤防	9C~10C初頭 集落	土坑 溝 水田畦畔 川跡	灰軸陶器 須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器 「下」「万」 「向田入」他 刻書「×」他	土錘	ファイゴの 羽口 鉄滓	-	-	風字硯 開元通寶 元祐通寶 聖宋元寶	仏鉢形土器(土師器)	木製品 什器(皿・碗)	立木・澤野2003 植田ほか2003 田中ほか2004 朝岡2008	
9	沖ノ羽	自然堤防	9C~10C初頭 集落	掘立柱建物 井戸 土坑 溝 旧河川 畝状遺構 水田跡?	緑軸陶器 灰軸陶器	墨書土器多数 「花寺」他	土錘	ファイゴの 羽口 鉄滓	-	土製紡錘車	-	井戸祭祀(斎串) 瓦塔 浄瓶 仏鉢形土器(土師器) 香炉(緑軸陶器) 墨書「花寺」	-	石川ほか1994 星野ほか1996 細野2002 春日2003 立木・澤野2005 立木・澤野2008	
10	上浦	自然堤防	7C末~10C前 集落	掘立柱建物 土坑 溝 凹地遺構 畝状遺構 旧河川	奈良三探 (小壺) 須恵器 土師器	墨書土器80点 「赤背山家」「孝」 「物」「二」「山」 他	土錘 石錘	ファイゴの 羽口 鉄滓	-	土製紡錘車	銅製腰帯具 円面硯 素文鏡 天龍通宝	仏鉢形土器(土師器) 奈良三探小壺?	円筒状土製 品	渡邊(朋)1992 川上1997	
11	鬼倉	-	9C前半	掘立柱建物 土坑 溝 河川(堰状杭群・柱列)	須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器 「古安人」「是人」 他 漆書 刻書「×」	土錘	鉄滓	-	-	石製腰帯具 散脚 銅鏡 和同開珎 神功開寶	斎串 箸状	-	伊藤2001	
12	馬越	微高地	8C中葉~10C 前半 荘園関連遺跡か	掘立柱建物 井戸 土坑 溝 畝状 木棺墓 河川	須恵器 土師器 黒色土器 灰軸陶器	墨書土器 「妙越花」他 刻書土器 「参河」「×」「一」	土錘 有孔 石錘	鉄滓	-	石製紡錘車 砥石 支脚 円筒形	銅製・石製腰帯具 石製分銅	斎串・刀子形・舟形 井戸祭祀(刀子)	管状土製 品	伊藤2005	
13	的場	砂丘	8C前半~10C 後半 集落 官衙関連遺跡	掘立柱建物 土坑 溝 集石遺構	緑軸陶器 灰軸陶器	墨書土器317点 「酒居」「秋庭女」 「廣成」「乙長」 他	土錘 石錘 木製 網針	ファイゴの 羽口 鉄滓	有	土製・石製 鉄製紡錘車	銅製腰帯具 円面硯 鈴 大刀金物 木杵 木簡 和同開珎22点 神功開寶1点	水辺の祭祀(斎串・ 人形・舟形・馬形・ 刀形) 地鏡(和同開珎) 仏鉢形土器(土師器)	多量の漁撈具 土管状土製 品 カマド	小池邦ほか1993	
14	緒立	砂丘	8C前半~9C末 集落 官衙関連遺跡	掘立柱建物 竪穴建物 井戸 土坑 溝 杭列	灰軸陶器 須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器約30点 「官力」他	土錘 石錘	ファイゴの 羽口 鉄滓	有	土製・石製 紡錘車	銅製腰帯具 サイコロ (骨角製) 木簡 和同開珎	斎串 手づくね土器 仏鉢形土器(土師器) 瓊状土製品	カマド	金子ほか1983 渡邊まほか1994	
15	帆連堂	自然堤防	9C全般 中心は9C第2 四半期 集落	土坑 溝 火葬灰埋納土坑 火化遺構	須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器79点 「郡」「千縄」他	土錘 石錘	鉄滓	-	-	銅製腰帯具 円面硯 碁石 (双六)	斎串 手づくね土器 仏鉢形土器(土師器) 瓊状土製品	筒形土器	江口ほか2000	
16	江添	自然堤防	9C末~10C前 半	掘立柱建物 井戸 土坑 溝 畝状 柵列	須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器292点 「品」「大」「田」 他 刻書土器 漆書土器9点	有孔 石錘 土錘	鉄滓	-	刀子 砥石	石製腰帯具	-	-	布施2000	
17	大橋	自然堤防	7C末~8C前半	掘立柱建物 井戸 土坑	須恵器 土師器	-	-	-	-	-	砥石・台石	銅製腰帯具 硯?	-	東北系土器 土管状土製 品	布施ほか2002
18	三角田	-	8C 中心は8C前半	掘立柱建物 土坑 溝 炭化物・焼土集中遺構	須恵器 土師器	-	-	-	-	-	鋤鍬先 鉄斧	-	-	東北系土器	松島
19	四石	砂丘	8C初頭~9C末 集落 官衙関連遺跡?	竪穴住居 掘立柱建物 土坑 溝 柵列	須恵器 土師器 黒色土器	墨書土器 「秋」「津」他	土錘 石錘	ファイゴの 羽口 鉄滓・銅 滓	有	土製紡錘車	銅製腰帯具 刀子金具	仏鉢形土器(須恵器)	東北系土器	本報告書	

(渡邊ますみ2009)に加筆・修正



第 50 図 周辺の遺跡

体として捉えられ、的場遺跡は官営の漁撈・水産加工基地、隣接する緒立遺跡はその管理・執務を行っていた場所と考えられている〔坂井 1996 ほか〕。四十石遺跡は、的場遺跡・緒立遺跡と立地が同じで消長も重なるが、成立時期がやや早い。この段階ではまだ律令支配の中で編成された一集落であったと思われるが、その後官衙に関連した機能をもつ集落へと変化する。それは 8 世紀の後半から 9 世紀であり、的場遺跡・緒立遺跡が官衙関連の集落として機能している時期でもある。一方、9 世紀にはいると越後平野でも新しい有力者の低地への進出が活発になることが、遺跡の増大にみることができる。彼らは水面交通の利便な場所に居住地を定め、自給自足的な生産活動（農業・漁撈・鍛冶など）を基本とする一方で、官や中央の貴族と結びつくことも多かったが、官衙の機能を有することはほとんどない。この点で、四十石遺跡・的場遺跡・緒立遺跡とは異なり、性格の違いが窺われる。

四十石遺跡は官が関与する物資の集積地としてその役割を担っていたと考えられるが、そこには坂井氏のいう〔坂井 1996〕「北陸道を軸にした陸路と越後平野の水路による国府－八幡林遺跡－越後平野(的場遺跡・緒立遺跡－(蒲原津－)沼垂城－曾根遺跡)という頸城平野と越後平野の交通体系」の「整備」が背景としてあり、本遺跡は、そこに組み込まれた集落と考えられる。的場遺跡・緒立遺跡とともに蒲原低湿地帯における律令政治の要となっていたことは想像に難くない。



## 引用・参考文献

### 第Ⅰ～Ⅴ・Ⅶ（第3節除く）

- ア 相田 泰臣 2004 「Ⅳ-3 古墳時代土器の編年的位置づけと御井戸遺跡の動向」『御井戸遺跡Ⅱ』 巻町教育委員会
- 相田 泰臣 2005 「趣旨説明・県内発表要旨 信濃川左岸地域の様相」『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳時代の出現（第1分冊）』 新潟県考古学会
- 相田 泰臣 2011 「新潟市林付遺跡の調査」『新潟県考古学会第23回大会 研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会
- 相田泰臣・前山精明 2003 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳—2002年度確認調査の概要』 巻町教育委員会
- 相田泰臣・前山精明 2005 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳Ⅱ—2003年度確認調査の概要』 巻町教育委員会
- 朝岡 政康 2008 『結七島遺跡 第13・15・17次調査—荻川駅東土地区画整理事業に伴う結七島遺跡7～9次発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- 阿部 義平 1976 「鈔帯と官位制について」『東北考古学の諸問題』 東出版寧楽社
- 甘粕 健 1993 「古墳文化形成過程の新潟平野と会津盆地」『磐越地方における古墳文化形成過程の研究』「磐越地方における古墳文化形成過程の研究」研究者グループ
- 甘粕 健 1994 「古墳時代」『巻町史 通史編上巻』 巻町
- 甘粕 健・小野 昭<sup>ほか</sup> 1993 『越後山谷古墳』 巻町教育委員会
- 甘粕 健・古川知明<sup>ほか</sup> 1981 『大沢遺跡 B'・B 地区の調査概報』 巻町・潟東村教育委員会
- イ 飯坂盛泰<sup>ほか</sup> 2002 『一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書 蔵ノ坪遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 家田順一郎<sup>ほか</sup> 1976 『北陸高速自動車道 埋蔵文化財発掘調査報告書 茶院遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第5集 新潟県教育委員会
- 石川智紀<sup>ほか</sup> 1994 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ（A地区）』新潟県埋蔵文化財調査報告書第58集 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 伊藤 秀和 2001 『兎倉遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』 加茂市教育委員会
- 伊藤 秀和 2005 『馬越遺跡—国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書—』 加茂市教育委員会
- 諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 今井さやか 2007 『日水遺跡 第3次調査—鍋田土地区画整理事業に伴う日水遺跡発掘調査報告書—』 新潟市教育委員会
- ウ 植田 真<sup>ほか</sup> 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 新潟市教育委員会
- 上原甲子郎 1971 『上ノ原遺跡緊急調査事業報告書』 巻町・潟東村教育委員会
- 宇野 隆夫 1996 「越における律令的生産構造の展開」『越と古代の北陸』 古代王権と交流3 名著出版
- 卜部厚志・高濱信行 2002 「新潟平野・西蒲原における縄文時代中期の古地理」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- エ 江口友子<sup>ほか</sup> 2000 『北陸自動車道黒崎パーキングエリア改良工事関係発掘調査報告書 釈迦堂遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第100集 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- オ 岡本 郁栄 2007 「人類遺跡から見た佐潟周辺の砂丘形成期と内陸部の砂丘埋没期の上限」『平成17年度新潟市「佐潟学術研究奨励補助金」研究成果報告書』 新潟市
- 岡本 一祐 1995 「福井県の奈良・平安時代の墓制について」『東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—』 東日本埋蔵文化財研究会
- 小田由美子<sup>ほか</sup> 2006 『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅵ 滝寺古窯跡群・大貫古窯跡群』新潟県埋蔵文化財調査報告書第149集 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小野 昭 1994 「新谷遺跡」「ケカチ堂遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町
- 小野 昭<sup>ほか</sup> 1982 『大沢遺跡・Ⅱ—第3次調査概報』 新潟大学考古学研究室
- 小野 昭・小熊博史 1987 「巻町布目遺跡の調査」『巻町史研究』Ⅲ 巻町
- 小野 昭・前山精明<sup>ほか</sup> 1988 『巻町豊原遺跡の調査』 巻町
- カ 柿田 祐司 1995 「石川県の奈良・平安時代の墓制について」『東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—』 東日本埋蔵文化財研究会
- 春日 真実 1995a 「新潟県の奈良・平安時代の墓制について」『東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—』 東日本埋蔵文化財研究会
- 春日 真実 1995b 「古代集落の展開」『研究紀要』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日真実<sup>ほか</sup> 1997 『横雲バイパス関係発掘調査報告書 上郷遺跡Ⅱ』新潟県埋蔵文化財調査報告書第87集 新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 春日 真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
- 春日 真実 2000 「第5章 まとめ」『吉田町史』資料編1 考古・古代・中世 吉田町
- 春日真実<sup>ほか</sup> 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
- 春日 真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について—「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に—」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 春日 真実 2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
- 春日 真実 2009 「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学Ⅱ』 新潟県考古学会
- 加藤 学 2004 「新潟県域における北方系土器器種—事例紹介と問題提起—」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会

- 金子拓男<sup>ほか</sup> 1983 『緒立遺跡発掘調査報告書』 黒崎町教育委員会
- 亀田 博 1983 『鈎帯と石帯』 関西大学考古学研究室開設 30 周年記念『考古学論叢』 関西大学考古学研究室
- 川上 貞雄 1997 『上浦 A 遺跡 新津市工業団地第 2 期工事地内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川村 浩司 1989 「越後の古代集落の素描—遺跡の種類とその展開—」『新潟考古学談話会会報』 新潟考古学談話会
- ク 黒崎 直 1980 「近畿における 8・9 世紀の墳墓」『研究論集VI』 奈良国立文化財研究所学報 (第 38 冊) 奈良国立文化財研究所
- 熊田亮介・坂井秀弥編 2006 『日本海域歴史体系 第二巻 古代篇II』 清文堂
- コ 小池邦明<sup>ほか</sup> 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池邦明・本間圭吉 1995 『新潟市小丸山遺跡 直り山団地建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
- 小池義人<sup>ほか</sup> 1998 『上信越自動車道関係発掘調査報告書IV 関川谷内遺跡I』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 90 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林 昌二 1996 「越地域における部民分布の再検討」『越と古代の北陸』古代王権と交流 3 名著出版
- 小林昌二・相沢 央<sup>ほか</sup> 2004 『新潟県内出土古代文字資料集成』新潟県墨書土器検討会
- 小林 昌二 2010 「古代越後の蒲原・沼垂郡—新潟市西区の四十石遺跡にふれて—」『新潟史学』第 63 号
- サ 佐藤 興治 1975 「IV 考察 F 金属器」『平城京発掘調査報告書VI』 奈良国立文化財研究所学報 23
- 佐藤 友子 2009 『北陸新幹線関係発掘調査報告書XIII 一般国道 8 号線糸魚川東バイパス関係発掘調査報告書IV 田伏山崎遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 205 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 坂井秀弥<sup>ほか</sup> 1984 『上新バイパス関係遺跡発掘調査報告 I 今池遺跡 下新町遺跡 子安遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 35 集 新潟県教育委員会
- 坂井 秀弥 1989 「第七章 まとめ 2 奈良・平安時代の土器」『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀II 遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 53 集 新潟県教育委員会
- 坂井秀弥<sup>ほか</sup> 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀II 遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 53 集 新潟県教育委員会
- 坂井 秀弥 1996 「水辺の古代官衙遺跡—越後平野の内水面・舟運・漁業—」『古代王権と交流 3 越と古代の北陸』 名著出版
- 坂上 有紀 2003 『磐越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 118 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 寒川 旭<sup>ほか</sup> 1995 『観音寺遺跡 県営広域営農団地農道整備事業及び県営湛水防除事業に伴う発掘調査』中之島町埋蔵文化財調査報告書第 1 集 中之島町教育委員会
- シ 品田 高志 1996 「新潟県における縄文時代後期中葉の土器群—三仏生式土器とその様相の把握にむけて—」『第 9 回縄文セミナー—後期中葉の諸様相』縄文セミナーの会
- 上越市史編さん委員会 2003 『上越市史 資料編 2 考古』 上越市
- ス 鈴木俊成<sup>ほか</sup> 2010 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XXXIII 西部遺跡II』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 206 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 雅之<sup>ほか</sup> 1987 『京田・太屋敷・日光畑遺跡発掘調査概報—昭和 61 年度—』 寺泊町教育委員会
- タ 高橋 保<sup>ほか</sup> 2008 『一般国道 116 号 出雲崎バイパス関係発掘調査報告書VI 寺前遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 189 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋 勉 1984 『栗原遺跡 第 7 次・第 8 次発掘調査報告書』 新井市教育委員会
- 高橋 勉 1989 『杉明遺跡 発掘調査報告書』 新井市教育委員会
- 高橋 勉 1989 『平成 4 年度 新井市遺跡確認調査報告書 杉明遺跡 姫川原地区 猿橋城跡 宮ノ本遺跡』 新井市教育委員会
- 高橋 勉 1993 『平成 6 年度 新井市遺跡確認調査報告書 高柳遺跡群 岡崎新田遺跡群 藤塚新田遺跡群 高床山遺跡群』 新井市教育委員会
- 高橋保雄<sup>ほか</sup> 2010 『一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書II 山口遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第 215 集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 滝沢 規朗 2005 「趣旨説明・県内発表要旨 土器の分類と変遷」『シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳時代の出現 (第 1 分冊)』 新潟県考古学会
- 滝沢 規朗 2007 「新潟県におけるタタキ甕・布留式系甕について」『研究紀要』第 5 号 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 田嶋 明人 1986 「考察—漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡 I』 石川県埋蔵文化財センター
- 田嶋 明人 2008 「古墳確立期土器の広域編年」『石川県埋蔵文化財情報』第 20 号 財団法人 石川県埋蔵文化財センター
- 田中一廣<sup>ほか</sup> 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書III』 新津市教育委員会
- 田中 一穂 2004 『『新潟県の古代港湾遺跡』』平成 16 年度 環日本海交流史研究集会「古代日本海域の港と交流」発表要旨・資料集』財団法人 石川県埋蔵文化財センター
- 田中 靖 1993 『八幡林遺跡』和島村埋蔵文化財調査報告書第 2 集 新潟県和島村教育委員会
- 田中 靖 1994 『八幡林遺跡』和島村埋蔵文化財調査報告書第 3 集 新潟県和島村教育委員会
- 田中 靖 2003 『下ノ西遺跡IV』和島村埋蔵文化財調査報告書第 14 集 新潟県和島村教育委員会
- 田中 靖 2005 『八幡林遺跡IV』和島村埋蔵文化財調査報告書第 16 集 新潟県和島村教育委員会
- 田村浩司<sup>ほか</sup> 2009 『吉津川遺跡II・安曲遺跡 県営ほ場整備事業吉津川地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書V』三条市文化財調査報告書第 28 号 三条市市民部生涯学習課
- 田中 広明 2002 「腰帯具の変遷と諸問題」『鈎帯をめぐる諸問題』 奈良文化財研究所
- 田中 広明 2003 『地方豪族と古代の官人—考古学が徳古代社会の権力構造』KASHIWA 学術ライブラリー 01 柏書房
- ツ 立木宏明・澤野慶子<sup>ほか</sup> 2003 『結七島遺跡発掘調査報告書 I』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子<sup>ほか</sup> 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書III』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子<sup>ほか</sup> 2008 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書IV第 15 次調査 —県営圃場整備事業 (担い手育成型) 満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第 15 次発掘調査報告書』 新潟市教育委員会



- テ 出越 茂和 2002 「北陸（新潟・富山・石川・福井）」『銚帯をめぐる諸問題』奈良文化財研究所  
寺村 光晴 1960 「越後六地山遺跡」『上代文化』30 国学院大学考古学会
- ト 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所・飛鳥藤原宮跡発掘調査部編 2002 「腰帯具の変遷と諸問題」『銚帯をめぐる諸問題』奈良文化財研究所  
土橋由理子 1999 『国道49号横雲バイパス関係発掘調査報告書Ⅲ 牛道遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第91集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 中村孝三郎 1960 「西蒲原郡中野小庄村曾和弥生式六地山遺跡」『日本考古学年報』9 日本考古学協会
- ニ 新潟県古砂丘グループ 1979 『アーバンクボタ17』株式会社クボタ  
新潟市国際文化部歴史文化課 2007 『新潟市史双書2 新潟市の遺跡』新潟市  
新潟市史編さん原始古代中世史部 1994 『新潟市史 資料編1 原始古代中世』新潟市
- ノ 野水晃子<sup>ほか</sup> 2005 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書X 西川内北遺跡 西川内南遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第146集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヒ 東日本埋蔵文化財研究会 1995 『東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—』  
廣野 耕造 1997 『笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡—県営圃場整備事業(先進技術導入モデル事業 亀田郷地区)に伴う平成7年度・平成8年度発掘調査報告書』新潟市教育委員会  
廣野 耕造 2000 『新潟市前田遺跡 県営かんがい排水事業に伴う発掘調査報告書』新潟市教育委員会  
東日本埋蔵文化財研究会・北海道考古学情報交換会 1997 『第6回 東日本埋蔵文化財研究会 遺物からみた律令国家と蝦夷—講演・発表要旨集—』
- フ 藤巻 正信 1985 『北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 宮野遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第32集 新潟県教育委員会  
布施智也<sup>ほか</sup> 2000 『江添E遺跡』吉田町文化財調査報告書第7集 吉田町教育委員会・山武考古学研究所  
布施智也<sup>ほか</sup> 2002 『北小脇遺跡 天神堂城跡 館屋敷遺跡 大橋遺跡—吉田町米納津地内国営排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』吉田町文化財調査報告書第9集 吉田町教育委員会  
布施智也<sup>ほか</sup> 2005 『小諏訪前B遺跡・庚塚E遺跡・雀森遺跡—吉田町米納津地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』吉田町文化財調査報告書第12集 吉田町教育委員会
- ホ 細野 高伯 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
- マ 前山 精明 1994 「新谷遺跡」「重稲場遺跡群」「御井戸遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町  
前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡—縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査—』巻町教育委員会  
前山精明・相田泰臣 2003 『御井戸遺跡I—2002年度確認調査の概要—』巻町教育委員会  
前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡II—2003年度確認調査の概要—』巻町教育委員会  
松島 悦子 2001 『三角田遺跡—国営新荒井川排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 燕市教育委員会・吉田町教育委員会  
松村恵司・田中広明<sup>ほか</sup> 2002 「総合討議の記録」『銚帯をめぐる諸問題』奈良文化財研究所
- ミ 水澤 幸一 2008 「磐舟柵修理前後の北方系土器—胎内市内遺跡を中心にして—」『多知波奈の考古学』
- ヤ 山口 栄一 1994 「重稲場須恵器窯跡」「前平野窯跡」『巻町史 資料編1 考古』巻町  
山崎忠良<sup>ほか</sup> 2008 『一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書VI 延命寺遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
山中敏史<sup>ほか</sup> 2003 『古代の官衙遺跡I 遺跡編』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所  
山本 仁<sup>ほか</sup> 1983 『馬場遺跡 新潟県佐渡郡相川町北片辺馬場遺跡発掘調査報告書』相川町教育委員会
- ヨ 吉田恵二<sup>ほか</sup> 1982 『緒立八幡神社遺跡』黒崎町教育委員会  
吉村 光彦 2003 『中倉遺跡6次・8次・築地原遺跡2次 主要地方道中条紫雲寺改築工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ』中条町埋蔵文化財報告書第26集 中条町教育委員会
- ワ 渡邊 朋和 1992 『上浦遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会  
渡邊 尚紀 1999 「小峯遺跡」『財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成10年度』財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
渡邊ますみ<sup>ほか</sup> 1994 『緒立C遺跡発掘調査報告書』黒崎町教育委員会  
渡邊ますみ<sup>ほか</sup> 2009 『駒首湯遺跡 第3・4次調査—大型小売店舗建設に伴う駒首湯遺跡第3・4次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会

## 第VI章

- ア 新井 房夫 (1962) 関東盆地北西部の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1-79.  
安藤 一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 東北地理, 42, p.73-88.
- イ 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p.23-45.  
池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫 (1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による14C年代. 第四紀研究, 34, p.377-379.
- オ 大池 昭二 (1972) 十和田火山東麓における完新世テフラの編年. 第四紀研究, 11, p.232-233.  
カ 金原 正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.  
笠原 安夫 (1985) 日本雑草図説, 養賢堂, 494p.  
笠原 安夫 (1988) 作物および田畑雑草種類. 金関 恕・佐原 真編「弥生文化の研究 第2巻 生業」, 雄山閣出版, p.131-139.
- コ 小杉 正人 (1986) 陸生珪藻による古環境解析とその意義—わが国への導入とその展望—. 植生史研究, No.1, 植生史研究会, p.29-44.  
小杉 正人 (1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, p.1-20.  
近藤鎌三・佐瀬 隆 (1986) 植物珪酸体, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p.31-63.

- シ 島倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.
- ス 杉山真二・藤原宏志 (1986) 機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定—古環境推定の基礎資料として—. 考古学と自然科学, 19, p.69-84.
- 杉山 真二 (1999) 植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史. 第四紀研究, 38, p.109-123.
- 杉山 真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 辻 誠一郎編「考古学と植物学」. 同成社, p.189-213.
- ナ 中村 純 (1967) 「花粉分析」. 古今書院, p.82-110.
- 中村 純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*) を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.
- 中村 純 (1977) 稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.
- 中村 純 (1980) 日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- フ 藤原 宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.
- マ 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義—. 科学, 46, p.339-347.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981) 日本海を渡ってきたテフラ. 科学, 51, p.562-569.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗 (1987) 始良 Tn 火山灰 (AT) の  $^{14}\text{C}$  年代. 第四紀研究, 26, p.79-83.
- ム 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦 (1993) 四国沖ビストンコア試料を用いた AT 火山灰噴出年代の再検討—タンデロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の  $^{14}\text{C}$  年代. 地質雑, 99, p.787-798.
- ワ 渡辺 仁治 (2005) 群集解析に基づく汚濁指数 DAIPo, pH 耐性能. 淡水珪藻生態図鑑. 内田老鶴圃, 666p.
- H Hayakawa, Y. (1985) Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst., Univ. Tokyo, 60, p.507-592.
- L Lowe, R.L. (1974) Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh water diatoms. National Environmental Reserch Center, 333p.

### 第Ⅶ章第3節

- イ 池田 次郎 (1981) 出土火葬骨について. 奈良県立橿原考古学研究所編, 太安万侶墓, pp.79-88.
- 猪井剛・吉野峰生・瀬田茂彦 (1994) ヒトと各種動物の長骨組織像の顕微 X 線学的研究とその法科学的応用. 科学警察研究所報告法科学編, 47: 92-101.
- サ 澤田純明・奈良貴史 (2007) 花巻市高木中館遺跡出土骨片の骨組織形態学的検討. 岩手考古学, 19: 107-112.
- 澤田純明・奈良貴史・中嶋友文・斉藤慶史・百々幸雄・平田和明 (2010) 骨組織形態学的方法による骨小片の人獣鑑別: 東北北部の平安時代遺跡から出土した焼骨の分析. Anthropological Science (Japanese Series), 118: 23-36.
- ナ 奈良貴史・澤田純明 (2007) 微小骨片の古組織学的検討による動物種類の同定—岩手県中神遺跡出土骨片の分析—. 東北大学大学院文学研究科考古学研究室・須藤隆先生退任記念論文集刊行会編, 考古学談叢, 六一書房, 東京, pp.467-476.
- ヤ 山口 敏 (1983) 出土人骨についての分析. 竜ヶ池観音堂塚群発掘調査報告書Ⅱ, 小千谷市教育委員会, pp.207-224.
- 山本 勝一 (1993) 法医歯科学 (第6版). 医歯薬出版, 東京.
- C Cattaneo C., DiMartino S., Scali S., Craig O.E., Grandi M., and Sokol R.J. (1999) Determining the human origin of fragments of burnt bone: a comparative study of histological, immunological and DNA techniques. Forensic Science International, 102:181-191.
- Currey J.D. (1960) Differences in the blood-supply of bone of different histological types. Quarterly Journal of Microscopical Science, 101, 351-370.
- E Enlow D.H. and Brown S.O. (1956-1958) A comparative histological study of fossil and recent bone tissues, Pt I-III. The Texas Journal of Science, 8:405-443, 9:186-214, 10:187-230.
- H Harsányi L. (1993) Differential diagnosis of human and animal bone. In: Grupe G. and Garland A.N. (eds.) Histology of Ancient Human Bone: Methods and Diagnosis. Springer, pp.79-94.
- Hillier M. and Bell L.S. (2007) Differentiating human bone from animal bone: a review of histological method. Journal of Forensic Sciences, 52:249-263.
- J Jowsey J. (1966) Studies of Haversian systems in man and some animals. Journal of Anatomy, 100:857-864.
- M Mays S. (1998) Cremated bone. The Archaeology of Human Bones, Routledge, London, pp.207-224.
- N Nelson R. (1992) A microscopic comparison of fresh and burned bone. Journal of Forensic Sciences, 37:1055-1060.
- Nicholson R.A. (1993) A morphological investigation of burnt animal bone and an evaluation of its utility in archaeology. Journal of Archaeological Science, 20:411-428.
- R Ricqlès A. (1975-1978) Recherches paléohistologiques sur les os longs des tétrapodes. Annales de Paléontologie, 61:51-129, 62:711-126, 63:33-56, 64:85-111.
- S Shipman P., Foster G., Schoeninger M. (1984) Burnt bones and teeth: an experimental study of colour, morphology, crystal structure and shrinkage. Journal of Archaeological Science, 11:307-325.

別表 1 遺構一覧表

- 凡例 1. 遺構名 記載順は、SI→SB→SK→SD→SA→SX→Pとし、さらにその種別ごとに番号順とした。  
 2. 時代 遺構の所属する時代は大きな区分による。各遺構の詳細な時期については本文中に示した。  
 3. 主軸方向 堅穴住居・掘立柱建物・溝状遺構等、必要と思われるもののみ計測した。  
 4. 平面形・規模 上端・下端について記載した。柱穴の場合は掘り方のみであり、底面にみられる柱痕等は対象としていない。掘立柱建物については、先頭に建物の規模を記載した。(桁)は桁行、(梁)は梁間の計測値である。溝状遺構については、長軸が長さで、短軸が幅である。  
 5. 断面形・深度 断面形はセクションライン上の形状を基本とした。深度は上端の最大標高と底面の最小標高の差である。  
 6. 切り合い関係 切り合う遺構名を記載し、本遺構を切る遺構を(旧)、本遺構を切る遺構を(新)で表示した。  
 7. その他 表中の( )は推定、あるいは残存値である。

主要遺構一覧表 (上層)

図版No	遺構名	グリッド	確認面	時代	主軸方位	規模(m)						断面形	深度	底面標高	分層	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No	備考
						上端			下端										
						平面形	長軸	短軸	平面形	長軸	短軸								
5・13・14・16	SI246	12H	V 上層	古代	N-33'-W	方形	4.60	4.00	方形	4.27	3.74	-	0.28	-1.49	14		44・68		
	SI246-P499	12H8	V 上層		-	不整楕円形	0.40	0.33	楕円形	0.23	0.19	台形	0.31	-1.65	2	SI246(新)			
	SI246-P500	12H7	V 上層		-	楕円形	0.66	0.56	楕円形	0.38	0.33	台形	0.45	-1.78	4				
	SI246-P548	12H8・13	V 上層		-	楕円形	0.48	0.40	不整楕円形	0.30	0.24	U字形	0.33	-1.71	2	SI246(新)			
	SI246-SK561	12H6・7	V 上層		-	不整形	0.69	0.67	方形	(0.43)	(0.37)	皿形	0.24	-1.57	3	SI246(新)			
5・12・13・17・第7図	SI307	10I・J	V 上層	古代	N-78'-E	方形	4.44	4.23	方形	4.45	4.25	-	0.24	-1.67	11		44・68		
	SI307-P828	10I9・14	V 上層		-	不整形	0.29	0.27	不整形	0.13	0.12	U字形	0.34	-1.67	2	SI307(新)			
	SI307-P896	10I10	V 上層		-	楕円形	0.43	0.37	楕円形	0.20	0.19	-	0.13	-1.49	2	SI307(新)			
	SI307-P901	10I15	V 上層		-	不整形	0.31	0.29	不整形	0.17	0.15	皿形	0.12	-1.55	2	SI307(新)			
5・12・18	SB2001	9K	V 上層	古代	N-45'-W	-	-	(梁)3.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	梁間2間	
	SB2001-P43	9K13	V 上層		-	方形	0.43	0.40	不整形	0.33	0.31	不整U字形	0.40	-1.63	4				
	SB2001-P44	9K13・18	V 上層		-	方形	0.40	0.39	方形	0.31	0.25	不整U字形	0.43	-1.67	5	P864(旧)			
	SB2001-P46	9K17	V 上層		-	方形	0.45	0.41	方形	0.32	0.26	不整U字形	0.52	-1.74	3		44		
	SB2001-P49	9K12	V 上層		-	隅丸方形	0.49	0.43	不整隅丸方形	0.30	0.25	不整U字形	0.56	-1.78	4	P56(旧)			
	SB2001-P50	9K7・8	V 上層		-	方形	0.50	0.45	方形	0.35	0.34	不整U字形	0.49	-1.72	3				
	SB2001-P52	9K11	V 上層		-	方形	0.45	0.42	不整楕円形	0.29	0.22	不整U字形	0.62	-1.82	3				
	SB2001-P53	9K6	V 上層		-	不整形	0.41	0.40	不整形	0.28	0.25	不整U字形	0.31	-1.55	3				
	SB2001-P54	9K11	V 上層		-	方形	0.50	0.45	方形	0.42	0.33	不整U字形	0.53	-1.76	2				
	SB2001-P57	9K7	V 上層		-	不整形	0.46	0.45	方形	0.32	0.30	不整U字形	0.46	-1.69	3				
5・12・13・19	SB2002	10I・J	V 上層	古代	N-28'-W	-	(桁)5.36	(梁)4.32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4間×2間	
	SB2002-P98	10J1	V 上層		-	不整形	0.46	0.45	不整形	0.24	0.22	台形	0.44	-1.62	4				
	SB2002-P122	10I14・15	V 上層		-	隅丸方形	0.57	0.55	隅丸方形	0.25	0.25	U字形	0.60	-1.73	6	SI307(旧)			
	SB2002-P147	10J6・7	V 上層		-	方形	0.55	0.52	方形	0.32	0.30	不整U字形	0.59	-1.69	4				
	SB2002-P155	10J12	V 上層		-	方形	0.80	0.77	方形	0.32	0.27	不整U字形	0.60	-1.64	6	P909(旧)			
	SB2002-P168	10I5	V 上層		-	不整形	0.40	0.35	不整形	0.10	0.09	不整U字形	0.25	-1.43	3				
	SB2002-P245	10I9	V 上層		-	方形	0.68	0.60	方形	0.50	0.45	不整U字形	0.65	-1.79	6	SD70(新)			
	SB2002-P301	10I20	V 上層		-	(不整楕円形?)	-	0.38	(円形)	0.15	0.15	U字形	0.55	-1.67	5	SB2003-P113(新)			
	SB2002-P529	10J11・12	V 上層		-	(方形?)	-	-	(円形?)	-	-	U字形	0.28	-1.22	2				
	SB2002-P531	10I20	V 上層		-	円形	0.28	0.28	円形	0.14	0.14	U字形	0.22	-1.41	2	SI307(新), SB2004-P410(新)			
	SB2002-P921	10J1	V 上層		-	不定形	0.42	0.36	円形	0.17	0.15	U字形	0.54	-1.77	5				
	SB2002-P922	10J7・12	V 上層		-	楕円形	0.68	0.53	楕円形	0.51	0.34	U字形	0.39	-1.46	3				
	5・12・13・20	SB2003	10I・J		V 上層	古代	N-66'-E	-	(桁)4.04	(梁)3.86	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SB2003-P99		10I10, 10J6	V 上層	-	不整形		0.62	0.55	方形	0.34	0.31	U字形	0.40	-1.53	3	SI307(旧)			
SB2003-P113		10I20	V 上層	-	方形		0.67	0.65	不整隅丸方形	0.45	0.48	U字形	0.58	-1.68	3	SI307(旧), SB2002-P301(旧), SK912(旧)		44	
SB2003-P119		10J11・16	V 上層	-	不整形		0.51	0.47	円形	0.16	0.15	不整U字形	0.70	-1.74	5	SI307(旧)			
SB2003-P123		10I14・19	V 上層	-	隅丸方形		0.64	0.62	隅丸方形	0.44	0.27	不整U字形	0.56	-1.71	7	SI307(旧), SB2004-P393(新)			
SB2003-P128		10I8・9・13・14	V 上層	-	方形		0.72	0.58	隅丸方形	0.57	0.35	不整U字形	0.54	-1.66	7	SI307(旧)			
SB2003-P130		10I19	V 上層	-	隅丸方形		0.50	0.42	隅丸方形	-	-	U字形	0.59	-1.71	5	SB2004-P244(新), SD61(新)			
SB2003-P310		10I9・10	V 上層	-	隅丸方形		0.65	(0.55)	隅丸方形	0.48	0.32	U字形	0.45	-1.63	5	SI307(旧), P893(旧)			
SB2003-P524		10J11	V 上層	-	円形		0.41	0.37	楕円形	0.23	0.18	不整U字形	0.51	-1.53	4	SI307(旧)			
5・13・21		SB2004	10・11I	V 上層	古代		N-19'-E	-	4.40	4.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	SB2004-P244	10I19・20・24・25	V 上層	-		不定形	(1.50)	1.40	不定形	-	-	台形	0.66	-1.77	4	SB2003-130(旧), SD63(新), P75・90(新)		44	
	SB2004-P302	10I18・19・23	V 上層	-		方形	1.72	1.43	-	-	-	台形	0.69	-1.85	6	SD63(新), P81・172・855(新)		68	
	SB2004-P309	10I22・23, 11I2・3	V 上層	-		不定形	1.73	1.27	方形	-	-	台形	0.63	-1.77	7	P1020(旧)			
	SB2004-P393	10I13・14・18・19	V 上層	-		不定形	1.40	1.20	方形	1.00	0.97	台形	0.65	-1.80	5	SI307(旧), SB2003-P123(旧), SD62(新), P124(新)		44	

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	主軸方位	規模(m)						断面形	深度	底面 標高	分層	切り合い関係	出土 遺物	遺物図版 No.	備考
						上 端			下 端										
						平面形	長 軸	短 軸	平面形	長軸	短軸								
5-13-21	SB2004-P406	10I22	V 上層	古代	-	不整形	1.28	1.15	不整形	1.10	0.85	台形	0.61	-1.76	7	SK198(新), P992(旧)	○	44	
	SB2004-P410	10I14-15-19-20	V 上層		-	不定形	1.16	0.88	方形	1.01	0.78	台形	0.66	-1.80	5	SI307(旧), SB2002-P531(旧), SD62(新)	○		
	SB2004-P511	10I17-18	V 上層		-	不整形	1.35	1.16	不整形	1.07	0.97	箱形	0.71	-1.84	10	SD63(新)	○		
	SB2004-P514	10I12-13	V 上層		-	不整形	1.20	1.15	不整形	0.94	0.87	台形	0.64	-1.80	6	SD70(新)	○	44・45	
	SB2004-P837	10I24, 11I4	V 上層		-	方形	1.15	1.15	方形	0.85	0.81	台形	0.62	-1.70	-	P993(旧)	○		
	SB2004-SD318	10I17-22	V 上層		-	-	-	0.82~0.99	-	-	-	-	-	0.54	-1.68	4		○	
	SB2004-SD489	10I13	V 上層		-	-	-	1.29	-	-	-	-	-	-	-	-		○	
5-13-22	SB2005	1I・12H・1	V 上層	古代	N-19°-E	-	4.60	4.60	-	-	-	-	-	-	-			2間×2間	
	SB2005-P118	11I11-12-16-17	V 上層		-	不整隅丸方形	1.85	1.50	不整形	0.95	1.10	台形	0.82	-1.84	7	P134(新)	○	45	
	SB2005-P234	11H10-15, 11I6-11	V 上層		-	不整隅丸方形	1.52	1.30	不整形	1.35	0.80	台形	0.68	-1.70	6		○	45	
	SB2005-P394	11H15-20-11I11-16	V 上層		-	不整隅丸方形	1.68	1.54	不整形	1.40	1.38	台形	0.71	-1.75	7		○		
	SB2005-P522	11I22-23-12I2-3	V 上層		-	不整形	1.57	1.43	方形	0.90	0.72	台形	0.84	-1.86	7	P847-982-987(旧)	○	45・68	
	SB2005-P532	11H25	V 上層		-	方形	1.45	1.35	不整形	1.07	0.85	台形	0.71	-1.76	5		○		
	SB2005-P638	11I21-22, 12I1	V 上層		-	不整形	1.32	1.20	不整形	1.00	0.90	台形	0.67	-1.72	5		○	68	
	SB2005-P834	11I12	V 上層		-	不整形	1.54	0.90	不整形	1.36	0.93	台形	0.80	-1.80	6	P138(新)	○		
	SB2005-P835	11I17-18-22-23	V 上層		-	不整形	1.50	1.40	方形	-	-	台形	0.73	-1.78	7	P89-104(新)	○		
	SB2005-P836	11I13-18	V 上層		-	不整形	1.10	1.04	不整形	0.84	0.83	台形	0.81	-1.82	7	P107(新)	○	45	
5-13-23	SB2006	1I・12G・H	V 上層	古代	N-19°-E	-	4.60	4.60	-	-	-	-	-	-	-			2間×2間	
	SB2006-P236	11G20, 11H16	V 上層		-	不整隅丸方形	1.64	1.55	不整形	1.23	0.95	台形	0.68	-1.86	5	P858-859(旧)	○		
	SB2006-P265	11G9-10-14-15	V 上層		-	不整形	1.57	1.53	不整形	1.26	1.53	台形	0.63	-1.82	3		○		
	SB2006-P422	11G14-15-19-20	V 上層		-	不整形	1.68	1.55	不整形	1.40	1.30	台形	0.59	-1.83	7	P438-444(旧), P240(新)	○		
	SB2006-P434	11G19-24	V 上層		-	隅丸方形	1.47	1.26	不整形	1.16	1.00	台形	0.53	-1.77	7	P448(新)	○		
	SB2006-P465	11G25, 12G5, 11H21	V 上層		-	不整隅丸方形	1.55	1.10	不整形	1.22	1.10	台形	0.67	-1.86	8	P339(新)	○		
	SB2006-P644	11H12	V 上層		-	方形	1.20	1.07	方形	1.04	0.86	台形	0.55	-1.69	4	P915(旧), P231(新)	○		
	SB2006-P649	11G15-11H11	V 上層		-	方形	1.32	1.25	方形	1.15	1.00	台形	0.52	-1.71	2		○	45	
	SB2006-P832	11H21-22, 12H1	V 上層		-	不整形	1.17	0.98	不整形	1.00	0.90	箱形	0.62	-1.78	8		○		
	SB2006-P833	11H16-17-21-22	V 上層		-	方形	1.27	1.25	方形	1.12	1.10	箱形	0.64	-1.79	4	P860(旧)	○		
	SB2006-SD762	11H21-22	V 上層		-	-	-	0.45~0.55	-	-	-	-	-	-	-	-			
	SB2006-SD827	11H11-12	V 上層		-	-	-	0.49~0.54	-	-	-	-	-	0.59	-1.76	4			
	5-14-24	SB2007	14G		V 上層	古代	N-6°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SB2007-P574		14G4-9	V 上層	-	円形		0.61	0.55	楕円形	0.36	0.23	U字形	0.46	-1.54	3				
SB2007-P583		14G5-10	V 上層	-	不整円形		0.46	0.45	楕円形	0.27	0.22	U字形	0.59	-1.69	3				
SB2007-P651		14G9-14	V 上層	-	不整円形		0.50	0.46	円形	0.13	0.12	不整U字形	0.45	-1.53	4	P654-655(旧)			
SB2007-P652		14G14-19	V 上層	-	円形		0.48	0.44	円形	0.21	0.19	U字形	0.63	-1.70	5				
5-12-24	SB2008	9K	V 上層	古代	N-25°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
	SB2008-P95	9K14-19	V 上層		-	方形	0.90	(0.75)	方形	0.60	0.58	台形	0.69	-1.95	6		○		
	SB2008-P96	9K9	V 上層		-	方形	0.88	0.87	不整形	0.85	0.75	U字形	0.57	-1.81	3		○		
	SB2009	11H	V 上層		-	-	3.86	3.86	-	-	-	-	-	-	-	-			
5-13-25	SB2009-P163	11H5-10	V 上層	古代	-	方形	0.47	0.45	不整形	0.25	0.23	U字形	0.58	-1.63	3				
	SB2009-P202	11H10-11I6	V 上層		-	方形	0.57	0.50	隅丸方形	0.36	0.33	不整U字形	0.44	-1.48	4				
	SB2009-P232	11H8-13	V 上層		-	方形	0.57	0.52	不整形	0.37	0.31	台形	0.46	-1.55	3				
	SB2009-P323	11H15	V 上層		-	円形	0.50	0.48	不整隅丸方形	0.24	0.22	U字形	0.28	-1.35	2		○		
	SB2009-P392	11H14-19	V 上層		-	不整隅丸方形	0.75	0.64	不整隅丸方形	0.55	0.50	不整U字形	0.59	-1.65	5	P391(新)	○	45	
	SB2009-P512	11H13-14	V 上層		-	不整円形	0.41	0.39	不整円形	0.27	0.26	U字形	0.21	-1.29	2				
	SB2009-P528	11H9	V 上層		-	不整隅丸方形	0.55	0.53	不整隅丸方形	0.29	0.26	U字形	0.28	-1.35	4		○		
	SB2009-P1012	11H14	V 上層		-	楕円形	0.35	0.30	円形	0.11	0.11	不整U字形	0.37	-1.74	3	SX71(新)			
5-13-25	SK203	11H1-6-7	V 上層	古代	-	円形	1.48	1.43	円形	0.61	0.53	皿形	0.47	-1.71	4		○		
5-13-25	SK336	11G8-9-13-14	V 上層	古代	-	円形	1.82	1.69	円形	1.60	1.45	皿形	0.43	-1.67	5	P239-P348(新)			
5-12-13-26	SK399	10J16-21	V 上層	古代	-	隅丸方形	0.97	0.82	隅丸方形	0.75	0.63	皿形	0.24	-1.29	3	SX926(旧)	○		
5-13-14-27	SK441	12G24, 13G4-5	V 上層	古代	-	不整楕円形	1.59	1.25	楕円形	1.18	0.75	台形	0.49	-1.66	4	SK564(旧)	○		
5-13-27	SK481	11G18-19-23	V 上層	古代	-	楕円形	1.60	1.15	不定形	1.20	0.54	台形	0.49	-1.75	3	P567-620(旧)			
5-13-14-27	SK564	13G4	V 上層	古代	-	不整形	1.54	(0.82)	不整楕円形	1.10	-	-	0.40	-1.59	3	SK441(新)	○		
5-13-14-26	SK596	13G3-4-8-9	V 上層	古代	-	楕円形	1.65	1.12	楕円形	1.20	0.68	皿形	0.29	-1.53	3	SK597(旧)	○		
5-14-26	SK597	13G8-9	V 上層	古代	-	楕円形	1.32	(0.71)	楕円形	0.98	-	皿形	0.19	-1.43	1	SX573(旧), SK596(新), P683(旧)			
5-14-27	SK641	13H16-21	V 上層	古代	-	楕円形	2.00	0.85	楕円形	1.79	0.63	台形	0.23	-1.27	3	SD493-539(新), P642(新)	○		
5-12-13-26	SK650	10J21, 11J1	V 上層	古代	-	楕円形	1.28	0.97	楕円形	0.87	0.54	皿形	0.31	-1.37	4	SX926(旧)	○	46	



図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	主軸方位	規模(m)						断面形	深度	底面 標高	分層	切り合い関係	出土 遺物	遺物図版 No.	備考
						上 端			下 端										
						平面形	長 軸	短 軸	平面形	長軸	短軸								
5-14-15-28	SK815	15F17-18	V 上層	古代	-	不明	-	-	不明	-	-	皿形	(0.22)	-1.19	2				
5-14-15-28	SK825	15F4-5-9-10-14-15, 15G1-6	V 上層	古代	-	楕円形	3.96	3.40	楕円形	3.50	2.83	皿形	0.20	-1.14	3	SK1023(旧), P831-1035-1036(旧), P741-796-814-(新)	○	46	
5-12-13-27	SK912	10I20, 10J16	V 上層	古代	-	楕円形	(1.10)	(1.03)	不整形円形	0.54	(0.54)	-	0.42	-1.52	6	SI307(新), SB2003-P113(新)			
5-13-28	SK919	11I23-24, 12I3-4	V 上層	古代	-	不整形円形	1.68	1.55	不整形円形	1.40	1.20	皿形	0.17	-1.23	1	P843(新)	○	67	
5-12-13-28	SK923	9J18-19-23-24	V 上層	古代	-	不整形円形	2.40	1.86	楕円形	0.70	0.62	不整U字形	0.55	-1.82	7		○	46	
5-11-12-29	SK935	9K3-8	(V) (上層)	古代	-	不定形	1.46	1.42	不定形	1.30	1.23	不整U字形	0.48	-1.76	7			上層確認面なし	
5-12-13-29	SK939	10J10-15	V 上層	古代	-	(楕円形)	1.06	(0.73)	(円形)	-	-	皿形	0.20	-1.50	2				
5-11-12-29	SK947	8K19-20-24-25	V 上層	古代	-	円形	1.51	1.50	円形	1.27	1.26	皿形	0.17	-1.67	3	SX961(旧)			
5-11-12-29	SK948	8K18-23	(V) (上層)	古代	-	不整形円形	1.30	1.16	不整形円形	1.03	0.85	皿形	0.24	-1.57	3		○	上層確認面なし	
5-12-29	SK950	8K21-22, 9K1-2	(V) (上層)	古代	-	楕円形	2.30	1.77	楕円形	1.98	1.32	皿形	0.27	-1.57	4		○	上層確認面なし	
5-13-28	SK1006	12I3	V 上層	古代	-	楕円形	1.35	0.75	不整形円形	1.00	0.39	-	0.25	-1.34	2	P843(新)			
5-14-15-28	SK1023	15G6	V 上層	古代	-	(円形)	1.69	(1.85)	円形	-	-	-	0.22	-1.27	3	SK825(新)	○		
5-12-13-30	SD61	10I18-20	V 上層	古代	N-68°-W	-	3.60	0.27~0.30	-	-	-	皿形	0.12	-1.29	2	SI307(旧), SB2003-130(旧), SB2004-P410(旧), P65(旧)	○		
5-12-13-30	SD62	10I14-15	V 上層	古代	N-69°-W	-	2.54	0.25~0.30	-	-	-	U字形	0.16	-1.30	1	SI307(旧), SB2004-P393-410(旧), P894(旧)	○		
5-12-13-30	SD63	10I17-19-24-25	V 上層	古代	N-68°-W	-	(6.95)	0.15~0.26	-	-	-	皿形	0.10	-1.26	1	SB2004-P244-302-511(旧), P81-87(新)	○		
5-12-13-30	SD64	10I25, 11I5-9-10-14-19	V 上層	古代	N-22°-E	-	7.70	0.23~0.26	-	-	-	U字形	0.18	-1.19	1	SK400(旧), P402-404-405-840-845-978-998(旧)	○		
5-12-13-30	SD70	10I8-9-12-13-17	V 上層	古代	N-41°-E	-	5.25	0.20~0.22	-	-	-	皿形	0.11	-1.23	2	SI307(旧), SB2002-P245(旧), SB2004-P511-514(旧)			
5-12-13-30	SD106	10I9-10-15	V 上層	古代	N-66°-W	-	(3.17)	0.22~0.25	-	-	-	U字形	0.25	-1.41	2	SI307(旧)	○		
5-14-27	SD493	13G20, 13H16-17	V 上層	古代	N-89°-W	-	(4.95)	0.23~0.28	-	-	-	U字形	0.25	-1.29	3	SK641(旧)	○		
5-13-31	SD538	11H8-9	V 上層	古代	N-20°-W	-	0.73	(0.15~0.23)	-	-	-	U字形	0.13	-1.18	2	SX71(新)			
5-14-27	SD539	13H11-12-16	V 上層	古代	N-29°-E	-	1.85	0.15~0.17	-	-	-	U字形	0.13	-1.18	2	SK641(旧)	○		
5-14-15-30	SD747	14F25-14G21	V 上層	古代	N-85°-W	-	2.00	0.18~0.23	-	-	-	U字形	0.14	-1.08	2				
5-11-12-32	SD962	8K13-14	V 上層	古代	N-86°-E	-	1.72	0.31~0.38	-	-	-	U字形	0.22	-1.68	2	SX867(新)	○		
5-13-14-30	SD1009	12H24-25	V 上層	古代	N-66°-E	-	2.42	0.20~0.25	-	-	-	皿形	0.15	-1.45	1		○		
5-12-13-30	SA3001	10-11I-J	V 上層	古代		N-54°-E	-	7.44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	SA3001-P321	10J23	V 上層			-	不整形円形	0.32	0.28	楕円形	0.18	0.16	U字形	0.25	-1.22	2		○	
	SA3001-P385	11J2	V 上層			-	不整形円形	0.21	0.19	楕円形	0.37	0.36	U字形	0.22	-1.23	2			
	SA3001-P386	11J2	V 上層			-	円形	0.30	0.29	円形	0.16	0.15	U字形	0.19	-1.20	-			
	SA3001-P388	11J1-2	V 上層			-	円形	0.35	0.35	不整形円形	0.13	0.13	U字形	0.21	-1.25	-			
	SA3001-P502	11J6	V 上層			-	円形	0.26	0.25	不整形円形	0.14	0.13	U字形	0.22	-1.32	2			
	SA3001-P505	11J6	V 上層			-	円形	0.21	0.21	円形	0.11	0.09	U字形	0.20	-1.30	2			
	SA3001-P515	11I10	V 上層			-	円形	0.22	0.21	円形	0.13	0.12	U字形	0.19	-1.21	2			
	SA3001-P516	11I10-15	V 上層			-	不整形円形	0.30	0.27	楕円形	0.15	0.14	U字形	0.20	-1.20	2			
	SA3001-P940	10J22-23, 11J2-3	V 上層			-	楕円形	0.40	0.35	円形	0.15	0.14	U字形	0.19	-1.29	3		○	
5-12-31	SX59	9J4-5-9-10	(V) (上層)	古代	-	楕円形	3.51	2.08	楕円形	2.50	1.43	皿形	0.19	-1.47	3		○	上層確認面なし	
5-13-31-第8図	SX71	11H3-4-5-8-9-10-14-15	V 上層	古代	N-32°-W	不整形楕円形	4.08	3.51	-	-	-	U字形	0.42	-1.46	5	SB2009-P1012(旧), SD538(旧), P897-967-971-1016(旧), P643-905(新)	○	46-47-68-69-70	溝上端の幅0.34~0.40m 深度は溝の深さ
5-13-32-第9図	SX100	10H21~23, 11H1~3	V 上層	古代	-	-	2.60	1.30	-	-	-	-	0.27	-1.38	8	P312-313(旧)	○	47	
5-13-14-32	SX478	12G8-9-13-14	V 上層	古代	-	不整形楕円形	2.10	1.86	不整形楕円形	-	-	皿形	0.30	-1.51	3	SX541(旧), P372-373-374-377-378-379-429-442-447-479(新)			
5-13-14-32	SX541	12G9-10-14-15	V 上層	古代	-	不整形楕円形	2.95	(1.59)	不整形楕円形	-	-	皿形	0.19	-1.40	2	SX478(新), P423-442-447-450-462-560(新), P563(旧)	○		
5-14-26	SX573	13G7-9-12~14	V 上層	古代	-	不定形	(3.38)	2.34	不定形	-	-	皿形	0.26	-1.42	2	SK597(新), SX605(新), P683-690(旧)	○	47	
5-14-26	SX605	13G6-7-11-12	V 上層	古代	-	不定形	3.40	2.43	不定形	-	-	皿形	0.35	-1.52	4	SX573(旧), P745-746(旧), P559(新)	○	47	
5-11-12-32	SX867	8K12~14-17~19	(V) (上層)	古代	-	不整形楕円形	3.20	2.23	不整形楕円形	2.97	1.90	皿形	0.16	-1.50	2	SD962(旧), P956(旧)	○	47-48	上層確認面なし
5-12-13-26	SX926	10J16-17-21-22	V 上層	古代	-	不定形	2.10	1.97	不定形	1.87	1.82	皿形	0.01	-1.17	1	P645-826(新), SK399-650(新)			
5-11-12-29	SX961	8K14-15-19-20	V 上層	古代	-	楕円形	(2.21)	1.85	不定形	2.05	1.61	皿形	0.17	-1.55	2	SK947(新)	○		
5-12-13-30	P65	10I19	V 上層	古代	-	楕円形	0.36	0.27	円形	-	-	U字形	0.23	-1.35	2	SI307(旧), SD61(新)	○		
5-12-13-30	P81	10I19	V 上層	古代	-	楕円形	0.22	0.17	不整形円形	0.07	0.06	U字形	0.34	-1.47	2	SB2004-P302(旧), SD63(旧)			
5-13-14-32	P479	12G8	V 上層	古代	-	不整形円形	0.17	0.15	不整形円形	0.09	0.07	U字形	0.15	-1.42	1	SX478(旧)			
5-13-14-32	P560	12G9	V 上層	古代	-	楕円形	0.34	0.32	楕円形	0.16	0.11	U字形	0.16	-1.53	2	SX541(旧)			
5-13-31	P643	11H10	V 上層	古代	-	不整形円形	0.45	0.42	円形	0.21	0.20	U字形	0.47	-1.55	3		○		
5-12-13-26	P826	10J21-22	V 上層	古代	-	楕円形	0.73	0.55	楕円形	0.40	0.28	皿形	0.22	-1.28	3	SX926(旧)			
5-13-31	P905	11H5	V 上層	古代	-	不整形円形	0.36	0.31	不整形円形	0.20	0.18	U字形	0.40	-1.47	4	SX71(旧)			

主要遺構一覧表（下層）

図版No	遺構名	グリッド	確認面	時代	主軸方位	規模(m)						断面形	深度	底面標高	分層	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No	備考
						上 端			下 端										
						平面形	長軸	短軸	平面形	長軸	短軸								
6-42-43	SK19	13E4・5・9・10	VI	下層	古墳	-	不整楕円形	2.67	2.43	楕円形	1.61	1.27	不定形	0.41	-1.77	5			
6-39-42-43	SK20	12F17・18・22-23	VI	下層	古墳	-	不整円形	2.13	2.08	不整円形	1.05	1.03	不定形	0.27	-1.61	1	○	49	
6-39-42-43	SK689	12F23	VI	下層	古墳	-	楕円形	0.94	0.86	不整楕円形	0.61	(0.56)	台形	0.27	-1.60	3	○	49	
6-34-35-43	SK936	9K2・3・7・8	VI	下層	古墳	-	円形	(1.56)	1.50	不整楕円形	1.49	0.96	台形	0.57	-1.86	8	○	49	
6-34-35-43	SK942	9K13・14・18・19	VI	下層	古墳	-	(方形)	-	-	(方形)	-	-	-	0.32	-1.57	2	○	50	
6-35-37-38	SD108	10・11J・K	VI	下層	古墳	-	-	-	(0.81)~(1.57)	-	-	-	-	0.37	-1.36	3	○	50	
6-34-35-36-37-38-39-40-41-42	SD109	9~15F~L	VI	下層	古墳	-	-	-	0.77~2.95	-	-	-	-	0.77	-1.75	7	○	50	
6-35-36-37-38-39-40-41-42	SD110	9~15E~J	VI	下層	古墳	-	-	-	0.70~5.09	-	-	-	-	0.35	-1.50	5	○	51	
6-34-35-36	SD111	8-9J・K	VI	下層	古墳	-	-	16.97	1.53~2.54	-	-	-	-	0.28	-1.65	3	○	51	
6-35-36	SD868	9-10J・K	VI	下層	古墳	-	-	-	0.43~1.21	-	-	-	-	0.65	-1.72	5	○	51	
6-34-36	SD871	7L・M	VI	下層	古墳	-	-	-	0.82~1.16	-	-	-	-	0.33	-1.75	2	○		
6-35-37-38-39-40-41-42	SD925	10~15E~J	VI	下層	古墳	-	-	-	1.17~4.95	-	-	-	-	0.73	-1.68	7	○	51-67	
6-37-38-39-40-41-42	SD984	10~15E~I	VI	下層	古墳	-	-	-	1.62~3.81	-	-	-	-	0.57	-1.67	5	○	51	
6-37-38-42	SD1000	12H・I	VI	下層	古墳	-	-	8.20	1.24~1.78	-	-	-	-	0.48	-1.57	3			
6-35-37-38	SD1018	10J	VI	下層	古墳	-	-	3.30	0.24~0.40	-	-	-	-	0.20	-1.45	2			
6-39-40-41-42	SD1021	11~14E~H	VI	下層	古墳	-	-	-	0.50~1.79	-	-	-	-	0.40	-1.62	5	○		
6-41-42	SD1051	14G	VI	下層	古墳	-	-	-	0.63~0.65	-	-	-	-	0.36	-1.37	3	○		
6-41-42	SD1052	13・14G	VI	下層	古墳	-	-	-	0.67~0.70	-	-	-	-	0.27	-1.36	3	○		
6-34-第10図	SX97	8L11	VI	下層	古墳	-	-	(1.35)	(0.60)	-	-	-	-	-	-	-	○	51-52	
6-34-36	SX870	7L24・25, 8L3・4・5・8・9	VI	下層	古墳	-	不定形	(4.20)	-	-	-	-	-	0.23	-1.57	3	○	52	
6-35-36	SX946	9J25, 9K21, 10J4・5・9・10, 10K1	VI	下層	古墳	-	(楕円形)	(5.90)	(1.85)	-	-	-	-	0.40	-1.53	2	○	52	
6-35-36	SX953	9J2・3・8・9・13	VI	下層	古墳	-	不整楕円形	4.68	1.14~1.37	-	-	-	-	0.41	-1.74	2	○		
6-34-35-43	SX960	9K9・10・14	VI	下層	古墳	-	不定形	-	-	不定形	-	-	-	0.17	-1.55	3	○		

その他の遺構一覧表（上層）

図版No	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No	備考
5-11	SK25	7L19	V	上層	古代	0.10	-1.58			
5-12-13	SK51	9J14・15	V	上層	古代	0.12	-1.38			
5-13	SK66	10G5・10	V	上層	古代	0.36	-2.05			
5-13	SK67	10G10	V	上層	古代	0.35	-2.01	○		
5-13	SK68	10G14・15	V	上層	古代	0.16	-1.59	○		
5-13	SK69	10G14	V	上層	古代	0.31	-1.92			
5-13	SK105	10H3	V	上層	古代	0.38	-1.74	○		
5-13	SK136	11H18・19	V	上層	古代	0.60	-1.60	○	P845(旧)	
5-13	SK159	11H13	V	上層	古代	0.19	-1.28	○		
5-13	SK183	11I2・3	V	上層	古代	0.19	-1.30	○	P980(旧)	45
5-13	SK185	11I2	V	上層	古代	0.12	-1.25	○		45
5-13	SK198	10I21・22	V	上層	古代	0.16	-1.32	○	P406(旧)	
5-13-14	SK243	12H20, 12I16	V	上層	古代	0.33	-1.42	○	P1002(旧), P190(新)	46
5-13	SK346	11G17・18・22-23	V	上層	古代	0.39	-1.65			
5-13	SK419	12H1	V	上層	古代	0.31	-1.49			
5-13-14	SK488	12G25	V	上層	古代	0.42	-1.58			
5-13-14-15	SK622	13F3	V	上層	古代	0.33	-1.66		P623(旧)	
5-15	SK717	13F11	V	上層	古代	0.30	-1.61			
5-13	SK1008	12H25	V	上層	古代	0.32	-1.46	○	P258-332-333(新)	
5-15	SK1026	14E23, 15E3	V	上層	古代	0.24	-1.48			

図版No	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No	備考
5-13	SK1044	10H20・25	V	上層	古代	0.38	-1.71			
6-39-42	SX1054	12・13F~H	VI	-	-	0.44	-1.58	-	-	自然地形
5-11-12	P21	8K25, 9K5	V	上層	古代	0.74	-1.99	○	48	
5-11	P22	7M6	V	上層	古代	0.11	-1.68	○		
5-11	P23	7M11・12	V	上層	古代	0.09	-1.58			
5-11	P24	7M11	V	上層	古代	0.12	-1.54	○		
5-11	P26	7L24	V	上層	古代	0.09	-1.48	○		
5-11	P27	7L24	V	上層	古代	0.09	-1.50	○		
5-11	P28	7L17・18	V	上層	古代	0.09	-1.61			
5-11-12	P29	8L6・7	V	上層	古代	0.08	-1.43	○		
5-11	P30	7L23, 8L3	V	上層	古代	0.07	-1.44		P31(旧)	
5-11	P31	7L23, 8L3	V	上層	古代	0.06	-1.44		P30(新)	
5-11	P32	8L3	V	上層	古代	0.07	-1.42			
5-11	P33	8L3	V	上層	古代	0.12	-1.47			
5-11-12	P34	8L11	V	上層	古代	0.10	-1.45			
5-11-12	P35	7L21	V	上層	古代	0.07	-1.51			
5-11-12	P36	7L21	V	上層	古代	0.09	-1.54			
5-11-12	P37	7L21・22	V	上層	古代	0.06	-1.51			
5-11	P38	7L22	V	上層	古代	0.07	-1.52			
5-11-12	P39	8K19	V	上層	古代	0.09	-1.41	○		

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No.	備考
5-11-12	P40	8K23	V	上層 古代	0.07	-1.35				
5-11-12	P41	8K23	V	上層 古代	0.08	-1.37		○		
5-12	P45	9K12	V	上層 古代	0.34	-1.56		○		
5-12	P47	9K12・17	V	上層 古代	0.09	-1.30	P958(旧)			
5-12	P48	9K11・12	V	上層 古代	0.37	-1.57		○		
5-12	P55	9K12	V	上層 古代	0.42	-1.63		○		
5-12	P56	9K7・12	V	上層 古代	0.36	-1.57	P49(新)			
5-11	P58	7M11	V	上層 古代	0.09	-1.56				
5-12	P60	8J22	V	上層 古代	0.20	-1.62				
5-13	P72	10H6・7・11・12	V	上層 古代	0.48	-1.79		○		
5-13	P73	10H20	V	上層 古代	0.25	-1.40	P116(旧)			
5-13	P74	10H12	V	上層 古代	0.16	-1.44	P103(旧)	○		
5-13-21	P75	10I24	V	上層 古代	0.35	-1.44	P244(旧)			
5-13	P76	10I24・25	V	上層 古代	0.28	-1.39		○		
5-13	P79	10H15, 10I11	V	上層 古代	0.26	-1.42	P885(旧)			
5-13	P80	10H15・20	V	上層 古代	0.35	-1.51				
5-13	P82	10J23	V	上層 古代	0.36	-1.22	P944(旧)			
5-13	P83	11I18	V	上層 古代	0.26	-1.26				
5-13	P84	10J22	V	上層 古代	0.38	-1.38	P85(旧)			
5-13	P85	10J22, 11J2	V	上層 古代	0.34	-1.37	P84(新)			
5-13-30	P87	10J21	V	上層 古代	0.52	-1.58	SD63(旧)			
5-13	P88	11I18	V	上層 古代	0.41	-1.41				
5-13	P89	11I22・23	V	上層 古代	0.30	-1.28	P835・846(旧)			
5-13-21	P90	10I19・20	V	上層 古代	0.51	-1.65	P101・244(旧)			
5-12	P91	8J22	V	上層 古代	0.20	-1.58				
5-12	P92	9K21, 10K1	V	上層 古代	0.16	-1.35				
5-12-18	P93	9K17	V	上層 古代	0.11	-1.32				
5-12-18	P94	9K17	V	上層 古代	0.07	-1.29				
5-13	P102	11I12	V	上層 古代	0.47	-1.46				
5-13	P103	10H12	V	上層 古代	0.26	-1.54	P74(新)			
5-13	P104	11I17・18	V	上層 古代	0.60	-1.60	P835(旧)	○	48	
5-13	P107	11I13・18	V	上層 古代	0.73	-1.74	P836(旧)			
5-13	P112	12I6・7	V	上層 古代	0.36	-1.35	P848(旧)			
5-13	P115	11I3・4	V	上層 古代	0.25	-1.31				
5-13	P116	10H15・20	V	上層 古代	0.29	-1.47	P73(新)			
5-13	P117	10I25	V	上層 古代	0.36	-1.50	P244(旧)			
5-13	P120	10I12	V	上層 古代	0.21	-1.36				
5-13	P121	10I17	V	上層 古代	0.23	-1.36				
5-13	P124	10I13	V	上層 古代	0.14	-1.29	P125・393(旧)			
5-13	P125	10I13	V	上層 古代	0.21	-1.35	P124(新)			
5-13	P126	10I8	V	上層 古代	0.43	-1.58		○	48	
5-13	P127	9I22	V	上層 古代	0.18	-1.44				
5-13	P129	9I22	V	上層 古代	0.22	-1.50				
5-13	P131	10I23	V	上層 古代	0.41	-1.55				
5-13	P132	9I21・22	V	上層 古代	0.20	-1.50				
5-13	P133	11I13	V	上層 古代	0.25	-1.27				
5-13	P134	11I16・17	V	上層 古代	0.29	-1.31	P118(旧)			
5-13	P135	11I24	V	上層 古代	0.18	-1.23				
5-13	P137	11I19	V	上層 古代	0.35	-1.37				
5-13-22	P138	11I12	V	上層 古代	0.42	-1.46	P834(旧)			
5-13	P139	11I17	V	上層 古代	0.31	-1.35				
5-13	P140	11I7・12	V	上層 古代	0.56	-1.65				
5-13	P141	10J7・12	V	上層 古代	0.34	-1.39				
5-13	P142	10I13	V	上層 古代	0.31	-1.34				
5-12	P143	9I25	V	上層 古代	0.14	-1.42				
5-13	P144	10J8・9	V	上層 古代	0.19	-1.29				
5-13	P145	10J3・4・8・9	V	上層 古代	0.26	-1.37				
5-12-13	P146	10J4	V	上層 古代	0.34	-1.47				

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No.	備考
5-12-13	P149	10I4	V	上層 古代	0.32	-1.51				
5-12-13	P150	9J23	V	上層 古代	0.21	-1.40				
5-12-13	P152	10I5	V	上層 古代	0.41	-1.58				
5-12-13	P153	9J24・25, 10J4・5	V	上層 古代	0.37	-1.50		○	48	
5-13	P156	9I22・23	V	上層 古代	0.12	-1.39				
5-12-13	P157	10I5	V	上層 古代	0.09	-1.29				
5-12-13	P158	10I4	V	上層 古代	0.11	-1.31				
5-13	P161	9I12	V	上層 古代	0.01	-1.52				
5-13	P162	9I12・17	V	上層 古代	0.13	-1.51				
5-13-31	P164	11H10	V	上層 古代	0.37	-1.44				
5-13-31	P165	11H4	V	上層 古代	0.68	-1.72	P166(旧)			
5-13-31	P166	11H4	V	上層 古代	0.32	-1.36	P165(新)			
5-13	P167	9I16	V	上層 古代	0.25	-1.64				
5-13	P170	11H5, 11I1	V	上層 古代	0.25	-1.34				
5-13-17	P171	10I14	V	上層 古代	0.35	-1.51	SI307(旧)	○		
5-13-21	P172	10I18	V	上層 古代	0.25	-1.41	P173・302(旧)			
5-13	P173	10I18	V	上層 古代	0.18	-1.33	P172(新)			
5-13	P174	10I18	V	上層 古代	0.24	-1.40				
5-13	P175	11I24	V	上層 古代	0.19	-1.21		○		
5-13	P178	10I17・22	V	上層 古代	0.15	-1.28	P992(旧)			
5-13	P179	10I16	V	上層 古代	0.13	-1.29	P879(旧)			
5-13	P180	10H14・19	V	上層 古代	0.45	-1.68	P247(旧)	○		
5-13	P181	10H15	V	上層 古代	0.25	-1.48				
5-13	P182	10I16	V	上層 古代	0.21	-1.39	P879(旧)			
5-13	P184	10H14・15	V	上層 古代	0.19	-1.42				
5-13	P186	10H19	V	上層 古代	0.39	-1.56	P241(旧)			
5-13	P187	12I11	V	上層 古代	0.30	-1.36				
5-13-14	P188	12H15・20	V	上層 古代	0.28	-1.36		○		
5-13	P189	12H3・4	V	上層 古代	0.30	-1.38				
5-13	P190	12I16	V	上層 古代	0.20	-1.29	SK243(旧)			
5-13	P192	10H18・19	V	上層 古代	0.23	-1.46				
5-13	P193	10H15・20	V	上層 古代	0.15	-1.38				
5-13	P194	10H14	V	上層 古代	0.12	-1.38				
5-13	P195	10H15	V	上層 古代	0.18	-1.39	P886(旧)			
5-13-14	P196	13H4	V	上層 古代	0.25	-1.33	P249(旧), P279(新)			
5-13	P197	10H14	V	上層 古代	0.13	-1.41				
5-13	P199	10H20・25, 10I16	V	上層 古代	0.23	-1.40				
5-13	P200	10H19・20	V	上層 古代	0.27	-1.48		○	48	
5-13	P201	10H23	V	上層 古代	0.49	-1.65				
5-13	P204	9I12・17	V	上層 古代	0.13	-1.51	P205(新)			
5-13	P205	9I17	V	上層 古代	0.19	-1.55	P204(旧)			
5-13	P207	11H13	V	上層 古代	0.37	-1.46	P648・913(旧)	○		
5-13	P208	11H13・14	V	上層 古代	0.14	-1.21				
5-12-13	P209	9I25	V	上層 古代	0.24	-1.51	P210(旧)	○		
5-12-13・14	P210	9I25	V	上層 古代	0.19	-1.44	P209(新)			
5-13	P211	12H14	V	上層 古代	0.15	-1.24		○		
5-13-14	P212	12H24	V	上層 古代	0.24	-1.31				
5-13-14	P213	13H5	V	上層 古代	0.38	-1.49	P257(旧)			
5-13-14	P214	13H4	V	上層 古代	0.27	-1.34				
5-13-14	P215	13H4	V	上層 古代	0.25	-1.32				
5-13-14	P216	12H24	V	上層 古代	0.35	-1.42	P251(旧), P217(新)	○		
5-13-14	P217	12H19・24	V	上層 古代	0.31	-1.38	P251・216(旧)	○		
5-13-14	P218	12H24, 13H4	V	上層 古代	0.31	-1.38		○		
5-13-14	P219	13H3・4	V	上層 古代	0.33	-1.41	P256(旧)			
5-13-14	P220	13H4・5	V	上層 古代	0.32	-1.41	P264(旧)	○		
5-13-14	P221	13H4	V	上層 古代	0.18	-1.26	P283(旧)			
5-13-14	P222	13H9	V	上層 古代	0.26	-1.32				
5-13-14	P223	12H19	V	上層 古代	0.25	-1.33				

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土 遺物	遺物図版 No.	備考
5-13-14	P224	13H4	V	上層 古代	0.28	-1.37				
5-14	P225	13H9	V	上層 古代	0.27	-1.33				
5-14	P226	13H8・9	V	上層 古代	0.22	-1.26				
5-13-14	P227	13H8	V	上層 古代	0.29	-1.37				
5-13-14	P228	13H3	V	上層 古代	0.21	-1.32				
5-14	P229	13H13	V	上層 古代	0.41	-1.46				
5-14	P230	13H13	V	上層 古代	0.21	-1.28				
5-13	P231	11H12	V	上層 古代	0.42	-1.54	P644(旧)			
5-12-13	P233	10I4	V	上層 古代	0.15	-1.38				
5-13	P235	11I1・6	V	上層 古代	0.60	-1.67		○		
5-13	P237	10H22	V	上層 古代	0.12	-1.40				
5-13-25	P238	11G9	V	上層 古代	0.33	-1.54				
5-13-25	P239	11G8	V	上層 古代	0.28	-1.55	SK336(旧)			
5-13	P240	11G14	V	上層 古代	0.19	-1.46	P411・422(旧)			
5-13	P241	10H19	V	上層 古代	0.24	-1.42	P186(新)			
5-13-14	P242	13H8	V	上層 古代	0.31	-1.38		○		
5-13	P247	10H14	V	上層 古代	0.42	-1.69	P180(新)			
5-14	P248	13H8・9	V	上層 古代	0.29	-1.34				
5-13-14	P249	13H4	V	上層 古代	0.30	-1.40	P196(新)			
5-13-14	P250	13H2	V	上層 古代	0.31	-1.41				
5-13-14	P251	12H24	V	上層 古代	0.41	-1.49	P216・217(新)			
5-13-14	P252	13H2	V	上層 古代	0.23	-1.35				
5-13-14	P253	13H3・8	V	上層 古代	0.21	-1.31				
5-13-14	P254	12H17	V	上層 古代	0.20	-1.32				
5-13-14	P255	12H25	V	上層 古代	0.08	-1.18				
5-13-14	P256	13H4	V	上層 古代	0.29	-1.37	P219(新)			
5-13-14	P257	13H5	V	上層 古代	0.34	-1.44	P213(新)			
5-13-14	P258	12H25, 13H5	V	上層 古代	0.13	-1.24	SK1008(旧), P333(旧)	○		
5-14	P259	13H13・14	V	上層 古代	0.47	-1.51				
5-13-14	P260	13H4	V	上層 古代	0.36	-1.44				
5-13-14	P261	12H18・19	V	上層 古代	0.12	-1.20		○		
5-13-14	P262	12H19	V	上層 古代	0.12	-1.21				
5-13-14	P263	12H20	V	上層 古代	0.24	-1.33				
5-13-14	P264	13H4	V	上層 古代	0.27	-1.36	P220(新)			
5-13-14	P266	13H8	V	上層 古代	0.29	-1.38	P355(旧)			
5-13-14	P268	13H2	V	上層 古代	0.18	-1.28				
5-13-14	P269	12H24	V	上層 古代	0.17	-1.25				
5-13-14	P270	12H19・20	V	上層 古代	0.09	-1.17				
5-13-14	P271	12H19	V	上層 古代	0.19	-1.27				
5-13-14	P272	13H2	V	上層 古代	0.17	-1.31				
5-13-14	P273	12H19	V	上層 古代	0.12	-1.22				
5-13-14	P274	13G5	V	上層 古代	0.25	-1.41	SK439(旧)	○		
5-13-14	P275	12H17	V	上層 古代	0.18	-1.28				
5-13-14	P276	12H17	V	上層 古代	0.10	-1.22				
5-13-14	P277	12H17	V	上層 古代	0.23	-1.37				
5-13-14	P278	12H19	V	上層 古代	0.19	-1.28				
5-13-14	P279	13H4	V	上層 古代	0.14	-1.22	P196(新)			
5-13-14	P280	12H16	V	上層 古代	0.15	-1.32	P421(旧)			
5-14	P281	12H11	V	上層 古代	0.15	-1.29				
5-13-14	P282	13H9	V	上層 古代	0.21	-1.29				
5-13-14	P283	13H4	V	上層 古代	0.25	-1.33	P221(新)			
5-13	P284	12H2・3	V	上層 古代	0.19	-1.30				
5-13	P285	12H2・3	V	上層 古代	0.10	-1.21				
5-13	P286	12H2	V	上層 古代	0.15	-1.27				
5-13	P287	12H2	V	上層 古代	0.23	-1.35				
5-13	P288	11H22	V	上層 古代	0.21	-1.34				
5-13	P289	12H6	V	上層 古代	0.13	-1.32	P291・416・449・550(旧)			

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土 遺物	遺物図版 No.	備考
5-13-14	P290	12H19	V	上層 古代	0.08	-1.17		○		
5-13	P291	12H6	V	上層 古代	0.09	-1.27	P416-550(旧) P289(新)			
5-13	P293	12G5, 12H1	V	上層 古代	0.14	-1.32				
5-13	P294	12H1	V	上層 古代	0.11	-1.29	P420(旧)			
5-13	P295	12H1	V	上層 古代	0.09	-1.27				
5-13	P296	12G3	V	上層 古代	0.01	-1.29	P418(旧)			
5-13	P297	12G10	V	上層 古代	0.07	-1.30				
5-13	P298	12G10	V	上層 古代	0.19	-1.39				
5-13	P299	12G10	V	上層 古代	0.25	-1.44				
5-13	P300	12G5	V	上層 古代	0.28	-1.48				
5-13	P303	10J8	V	上層 古代	0.20	-1.27		○		
5-12-13	P304	10J6	V	上層 古代	0.32	-1.44	P872(旧)	○		
5-13	P305	10J2-7	V	上層 古代	0.30	-1.43				
5-13	P306	10J19	V	上層 古代	0.30	-1.27	P1049(旧)	○		
5-13	P308	10J18	V	上層 古代	0.28	-1.29				
5-13	P311	10J8	V	上層 古代	0.33	-1.40				
5-13	P312	10H22	V	上層 古代	0.15	-1.44	SX100(新)	○		
5-13	P313	10H22	V	上層 古代	0.33	-1.72	SX100(新)	○		
5-13	P314	10J18	V	上層 古代	0.27	-1.25				
5-13	P315	10J14・19	V	上層 古代	0.16	-1.16		○		
5-13	P316	10J19	V	上層 古代	0.42	-1.38		○		
5-13	P317	10H23	V	上層 古代	0.14	-1.33		○		
5-13	P319	10J8	V	上層 古代	0.21	-1.32				
5-13	P320	10J23	V	上層 古代	0.23	-1.18				
5-13	P324	11H7・12	V	上層 古代	0.53	-1.65				
5-13	P325	11I13	V	上層 古代	0.43	-1.45		○		
5-13	P326	11I13	V	上層 古代	0.35	-1.38		○		
5-13	P327	11I4	V	上層 古代	0.39	-1.45	P328(新)	○		
5-13	P328	11I4	V	上層 古代	0.21	-1.28	P327・329(旧)	○		
5-13	P329	11I4	V	上層 古代	0.59	-1.65	P328(旧)	○		
5-13-14	P331	12H25	V	上層 古代	0.10	-1.22				
5-13-14	P332	12H25	V	上層 古代	0.34	-1.45	SK1008(旧)	○	48	
5-13	P334	12G4	V	上層 古代	0.34	-1.56				
5-13	P337	11G13	V	上層 古代	0.25	-1.53				
5-13	P338	11G19	V	上層 古代	0.27	-1.55				
5-13	P339	11G25	V	上層 古代	0.22	-1.42	P465(旧)	○		
5-13	P340	11G23	V	上層 古代	0.19	-1.43				
5-13	P341	11G3	V	上層 古代	0.21	-1.51	P349(旧)			
5-13	P342	11G7・8	V	上層 古代	0.20	-1.48				
5-13	P343	11G22	V	上層 古代	0.18	-1.43				
5-13	P344	11G21, 12G1	V	上層 古代	0.12	-1.44	P345(旧)			
5-13	P345	11G21	V	上層 古代	0.22	-1.52	P344(新)			
5-13	P348	11G8・13	V	上層 古代	0.26	-1.51	SK336(旧)			
5-13	P349	11G3	V	上層 古代	0.30	-1.61	P341(新)			
5-13	P350	11G2	V	上層 古代	0.15	-1.46				
5-13	P351	11G2	V	上層 古代	0.33	-1.69				
5-13	P352	11G7	V	上層 古代	0.19	-1.53				
5-13	P353	11G23	V	上層 古代	0.20	-1.45				
5-13	P354	11G22	V	上層 古代	0.20	-1.48				
5-13-14	P355	13H8	V	上層 古代	0.11	-1.20	P266(新)			
5-13	P356	11G2	V	上層 古代	0.34	-1.74				
5-13	P357	11G6	V	上層 古代	0.22	-1.68				
5-13	P358	11G11	V	上層 古代	0.29	-1.77				
5-13	P359	12G2	V	上層 古代	0.18	-1.42				
5-13	P360	12G2	V	上層 古代	0.13	-1.38				
5-13	P361	12G2	V	上層 古代	0.13	-1.38				
5-13	P362	12G2	V	上層 古代	0.21	-1.47				



図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No.	備考
5-13	P363	12G2	V 上層	古代	0.18	-1.43				
5-13	P364	11G14	V 上層	古代	0.27	-1.50				
5-13	P365	12G10	V 上層	古代	0.16	-1.53	P366(旧)			
5-13	P366	11G21	V 上層	古代	0.15	-1.52	P365(新)			
5-13	P367	12F5	V 上層	古代	0.27	-1.59				
5-13	P368	12F5	V 上層	古代	0.13	-1.47				
5-13	P370	12F5	V 上層	古代	0.17	-1.56				
5-13	P371	12F10	V 上層	古代	0.16	-1.52				
5-13	P372	12G8	V 上層	古代	0.17	-1.39	SX478(旧)			
5-13	P373	12G8	V 上層	古代	0.20	-1.43	SX478(旧)			
5-13・14・32	P374	12G13	V 上層	古代	0.27	-1.48	SX478(旧)			
5-13・14	P375	12G18	V 上層	古代	0.31	-1.52	P417(旧)			
5-13・14	P376	12G15	V 上層	古代	0.22	-1.40				
5-13・14	P377	12G9	V 上層	古代	0.31	-1.52	SX478(旧)	○		
5-13	P378	12G9	V 上層	古代	0.14	-1.34	SX478(旧)			
5-13	P379	12G9	V 上層	古代	0.20	-1.42	SX478(旧)			
5-13	P381	11H6	V 上層	古代	0.43	-1.72				
5-13	P382	11G10	V 上層	古代	0.15	-1.40				
5-13	P383	11G4	V 上層	古代	0.18	-1.44				
5-13	P384	10G25, 10H21	V 上層	古代	0.14	-1.44				
5-13	P387	11J2	V 上層	古代	0.23	-1.24				
5-13	P389	11H19	V 上層	古代	0.21	-1.25		○		
5-13	P390	11H14・19	V 上層	古代	0.24	-1.32				
5-13・25	P391	11H19	V 上層	古代	0.24	-1.32	P392(旧)			
5-13	P396	11H6	V 上層	古代	0.20	-1.41	P407(新)			
5-13	P398	11H12	V 上層	古代	0.27	-1.44	P916(旧)			
5-13	P400	11I9・14	V 上層	古代	0.30	-1.29	SD64(新), P842(旧)	○		
5-13	P401	10I22	V 上層	古代	0.32	-1.49				
5-12・13	P402	10I25	V 上層	古代	0.24	-1.33	SD64(新)	○	48	
5-13	P403	11I5	V 上層	古代	0.12	-1.17				
5-13	P404	11I5	V 上層	古代	0.35	-1.40	SD64(新)			
5-13	P405	11I9	V 上層	古代	0.25	-1.28	SD64(新)			
5-13	P407	11I6	V 上層	古代	0.53	-1.74	P396(旧)			
5-13	P411	11G14	V 上層	古代	0.16	-1.43	P240(新)	○		
5-13・14	P412	12G13	V 上層	古代	0.42	-1.63				
5-13・14	P413	12H11	V 上層	古代	0.26	-1.40	P414(新)			
5-13・14	P414	12H11	V 上層	古代	0.22	-1.37	P413(旧)			
5-13	P415	12H1	V 上層	古代	0.16	-1.34				
5-13	P416	12H6	V 上層	古代	0.28	-1.47	P289・291(新)			
5-13・14	P417	12G13	V 上層	古代	0.38	-1.58	P375(新)			
5-13	P418	12G5	V 上層	古代	0.25	-1.45	P296(新)			
5-13	P420	12H1	V 上層	古代	0.34	-1.52	P294(新)			
5-13・14	P421	12H16	V 上層	古代	0.24	-1.41	P280(新)			
5-13	P423	12G9	V 上層	古代	0.24	-1.45	SX541(旧)			
5-13	P424	12G10	V 上層	古代	0.22	-1.40				
5-13	P425	12G2・7	V 上層	古代	0.21	-1.46				
5-13	P426	12G2	V 上層	古代	0.20	-1.45				
5-13	P427	12G1	V 上層	古代	0.16	-1.46				
5-13	P428	12G1・6	V 上層	古代	0.20	-1.49				
5-13	P429	12G9	V 上層	古代	0.18	-1.40	SX478(旧)	○		
5-13	P430	12G4	V 上層	古代	0.34	-1.56				
5-13	P431	12G5, 12H1	V 上層	古代	0.45	-1.63				
5-13・14	P432	12G13	V 上層	古代	0.31	-1.51				
5-13・14	P433	12G23・24	V 上層	古代	0.36	-1.56		○		
5-13	P435	12G10	V 上層	古代	0.42	-1.69		○		
5-13・14	P436	12G20	V 上層	古代	0.27	-1.44				
5-13	P437	12H10	V 上層	古代	0.23	-1.31				
5-13・23	P438	12G15	V 上層	古代	0.55	-1.78	P422(新)			

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No.	備考
5-13・14	P439	13G5	V 上層	古代	0.41	-1.58	P274(新)	○		
5-13・14	P440	12G20	V 上層	古代	0.37	-1.57		○	48	
5-13・32	P442	12G9	V 上層	古代	0.24	-1.48	SX478・541(旧)			
5-13	P443	12H4・9	V 上層	古代	0.18	-1.28				
5-13・23	P444	11G19	V 上層	古代	0.30	-1.56	P422(新)			
5-13	P446	11G24	V 上層	古代	0.25	-1.46				
5-13・32	P447	12G9	V 上層	古代	0.26	-1.48	SX478・541(旧)			
5-13・14・23	P448	11G19	V 上層	古代	0.39	-1.65	P434(旧)			
5-13	P449	12H6	V 上層	古代	0.32	-1.50	P550(旧), P289(新)			
5-13	P450	12G9	V 上層	古代	0.31	-1.58	SX541(旧)			
5-13	P451	11G24・25	V 上層	古代	0.28	-1.52				
5-13	P452	12G5	V 上層	古代	0.24	-1.44	P494(旧)			
5-13	P453	12H4・9	V 上層	古代	0.28	-1.36	P480(新)			
5-13	P454	12H9	V 上層	古代	0.12	-1.24				
5-13	P455	12H6, 12G10	V 上層	古代	0.28	-1.45	P483(旧)			
5-13	P456	12H6	V 上層	古代	0.30	-1.47	P490(旧)			
5-13	P457	12H6・11	V 上層	古代	0.30	-1.46				
5-13	P458	12G5	V 上層	古代	0.17	-1.38	P494(旧)			
5-13・14	P459	12H16・17	V 上層	古代	0.34	-1.47				
5-13・14	P460	12H12	V 上層	古代	0.20	-1.34				
5-13・14	P461	12H19	V 上層	古代	0.22	-1.34				
5-13	P462	12G9	V 上層	古代	0.23	-1.51	SX541(旧)			
5-13	P463	12G5	V 上層	古代	0.23	-1.45				
5-13・14	P464	12G12	V 上層	古代	0.36	-1.61				
5-13	P466	12G7	V 上層	古代	0.28	-1.54				
5-13	P467	12F5	V 上層	古代	0.18	-1.59				
5-13・14	P468	12G11	V 上層	古代	0.16	-1.44				
5-13・14	P469	12G18	V 上層	古代	0.32	-1.53		○		
5-13	P470	12G7	V 上層	古代	0.16	-1.44				
5-13・14	P471	12G11・12	V 上層	古代	0.32	-1.58				
5-13	P473	11H24	V 上層	古代	0.35	-1.41				
5-13	P474	11H24, 12H4	V 上層	古代	0.20	-1.25				
5-13	P475	12G12	V 上層	古代	0.32	-1.56				
5-13	P476	12G7	V 上層	古代	0.20	-1.49				
5-13・14	P477	12G18・19・23・24	V 上層	古代	0.27	-1.48				
5-13	P483	12G10	V 上層	古代	0.28	-1.47	P455(新)			
5-14	P484	13G5	V 上層	古代	0.31	-1.51	P546(新)			
5-13・14	P485	12H23	V 上層	古代	0.22	-1.34				
5-13・14	P486	12G14	V 上層	古代	0.31	-1.52				
5-13・14	P487	12G14	V 上層	古代	0.26	-1.47				
5-13・14	P491	12G14・15	V 上層	古代	0.33	-1.53				
5-13	P492	12H15	V 上層	古代	0.37	-1.49				
5-13	P494	12G5	V 上層	古代	0.30	-1.51	P452・458(新)			
5-13	P495	12H15	V 上層	古代	0.12	-1.21				
5-13・14	P496	13H1	V 上層	古代	0.36	-1.53	P546(旧)			
5-14	P497	13H13	V 上層	古代	0.43	-1.50				
5-13・14	P498	13H6	V 上層	古代	0.40	-1.56				
5-13	P501	11I10	V 上層	古代	0.20	-1.28				
5-13	P503	11J6	V 上層	古代	0.14	-1.25				
5-13	P504	11J6	V 上層	古代	0.15	-1.26				
5-13	P506	11J6	V 上層	古代	0.13	-1.24				
5-13	P507	11J6	V 上層	古代	0.21	-1.31				
5-13	P508	11J6	V 上層	古代	0.18	-1.27				
5-13	P509	11J6	V 上層	古代	0.14	-1.23				
5-13	P510	11J6・7	V 上層	古代	0.15	-1.22				
5-13	P513	11H18	V 上層	古代	0.34	-1.42				
5-13	P517	11I15	V 上層	古代	0.19	-1.19				
5-13	P518	11I10・15	V 上層	古代	0.30	-1.29	P842(旧)			

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土 遺物	遺物図版 No.	備考
5-13	P519	11I15	V	上層 古代	0.17	-1.17				
5-13	P520	11H25, 11I21	V	上層 古代	0.23	-1.28				
5-13	P521	11I22	V	上層 古代	0.21	-1.26				
5-14	P523	13H16	V	上層 古代	0.20	-1.23				
5-13	P525	12I1	V	上層 古代	0.15	-1.20				
5-14	P526	13G20	V	上層 古代	0.24	-1.30	P547(旧)			
5-13	P527	12I1	V	上層 古代	0.20	-1.25				
5-13	P530	11H8	V	上層 古代	0.22	-1.29				
5-13	P533	11I15	V	上層 古代	0.38	-1.38				
5-14	P534	13H21	V	上層 古代	0.26	-1.29				
5-14	P535	13H17	V	上層 古代	0.38	-1.44				
5-14	P536	13H17	V	上層 古代	0.36	-1.42				
5-14	P537	13H22	V	上層 古代	0.32	-1.35				
5-13	P540	11H24	V	上層 古代	0.29	-1.34	P880(旧)			
5-13-14	P542	12G19-24	V	上層 古代	0.41	-1.61				
5-13-14	P543	13H7	V	上層 古代	0.40	-1.50				
5-14	P544	13G10	V	上層 古代	0.22	-1.42				
5-13-16	P545	12H12	V	上層 古代	0.35	-1.68	SI246(新)			
5-13-14	P546	13H1	V	上層 古代	0.34	-1.53	SK496(新), P484(旧)			
5-14	P547	13G20	V	上層 古代	0.19	-1.24	P526(新)			
5-14	P549	13H12	V	上層 古代	0.38	-1.49				
5-13	P550	12H6	V	上層 古代	0.26	-1.45	P289-291-449(新)			
5-13-14-16	P551	12H3-8	V	上層 古代	0.45	-1.55	SI246(旧)	○		
5-14	P552	13G14	V	上層 古代	0.16	-1.33				
5-13	P553	11G23	V	上層 古代	0.26	-1.61				
5-13	P554	12G3	V	上層 古代	0.29	-1.53				
5-13	P555	12G3	V	上層 古代	0.33	-1.57				
5-14	P556	13G15	V	上層 古代	0.33	-1.44				
5-13-14	P557	13G2	V	上層 古代	0.46	-1.66				
5-13-14	P558	13G2	V	上層 古代	0.42	-1.62				
5-13-14-15-26	P559	13G9	V	上層 古代	0.34	-1.54	SX605(旧)			
5-14	P562	13H17	V	上層 古代	0.28	-1.32				
5-13	P563	12G14	V	上層 古代	0.09	-1.45	SX541(新)			
5-13-14-15	P565	13G1	V	上層 古代	0.18	-1.41				
5-13	P567	11G18	V	上層 古代	0.48	-1.74	SK481(新)			
5-14	P568	14G10	V	上層 古代	0.48	-1.55				
5-14	P569	14G9	V	上層 古代	0.28	-1.38				
5-14	P570	13G22	V	上層 古代	0.17	-1.29				
5-13-14-15	P571	12G21	V	上層 古代	0.33	-1.57				
5-13-14-15	P572	12G21	V	上層 古代	0.36	-1.59				
5-14	P575	14G4	V	上層 古代	0.27	-1.34				
5-14	P576	13G23	V	上層 古代	0.23	-1.35				
5-13-14	P577	12H17	V	上層 古代	0.26	-1.38				
5-13-14	P578	12H18	V	上層 古代	0.59	-1.70				
5-14	P579	13G17-22	V	上層 古代	0.31	-1.45	P704(旧)			
5-14-15	P580	13G21-22	V	上層 古代	0.32	-1.46	P704-705(旧)	○		
5-14	P581	14G3	V	上層 古代	0.20	-1.28				
5-14	P582	13G24	V	上層 古代	0.36	-1.44				
5-13-14-15	P584	12F19	V	上層 古代	0.28	-1.62				
5-13-14	P585	12F12	V	上層 古代	0.13	-1.59				
5-13	P586	12F3	V	上層 古代	0.10	-1.60				
5-14-15	P587	13F20	V	上層 古代	0.12	-1.29				
5-14-15	P588	13F20, 13G16	V	上層 古代	0.15	-1.31				
5-14-15	P589	13F15	V	上層 古代	0.17	-1.34				
5-14-15	P590	13F15	V	上層 古代	0.26	-1.45				
5-13-14	P591	12F13	V	上層 古代	0.20	-1.60				
5-14	P592	14G9	V	上層 古代	0.29	-1.36				
5-14	P593	14G5	V	上層 古代	0.16	-1.26				

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土 遺物	遺物図版 No.	備考
5-13-14-15	P594	12F25	V	上層 古代	0.39	-1.65				
5-13-14-15	P595	12F20	V	上層 古代	0.22	-1.53				
5-13-14-15	P598	12F20	V	上層 古代	0.21	-1.53				
5-13-14-15	P599	12F14-19	V	上層 古代	0.19	-1.53				
5-13-14-15	P600	12F24	V	上層 古代	0.25	-1.59				
5-14-15	P601	13F15, 13G11	V	上層 古代	0.27	-1.47				
5-14-15	P602	13F15	V	上層 古代	0.20	-1.38				
5-14-15	P603	13F15	V	上層 古代	0.19	-1.42				
5-14-15	P604	13F14	V	上層 古代	0.13	-1.36				
5-14	P606	13G24	V	上層 古代	0.19	-1.28				
5-13-14-15	P607	13F9	V	上層 古代	0.29	-1.51				
5-14-15	P608	13F14	V	上層 古代	0.41	-1.66				
5-13-15	P609	12F16	V	上層 古代	0.38	-1.81	P610(新)			
5-13-15	P610	12F16	V	上層 古代	0.24	-1.70	P609(旧)			
5-14-15	P611	13F14	V	上層 古代	0.14	-1.38				
5-14-15	P612	13F8-9	V	上層 古代	0.18	-1.43				
5-13-14-15	P613	13F8	V	上層 古代	0.19	-1.45				
5-13-14-15	P614	12F20-25	V	上層 古代	0.27	-1.56		○		
5-13-14	P615	12F15	V	上層 古代	0.13	-1.48				
5-13-14	P616	12F14-15	V	上層 古代	0.13	-1.49				
5-13-14	P617	12F12-13	V	上層 古代	0.13	-1.61				
5-13-14-15	P618	12F12-17	V	上層 古代	0.14	-1.59				
5-14	P619	13G9-10	V	上層 古代	0.25	-1.45				
5-13	P620	11G18	V	上層 古代	0.46	-1.73	SK481(新)			
5-14-15	P621	13F8	V	上層 古代	0.14	-1.43				
5-13-14-15	P623	13F2	V	上層 古代	0.26	-1.61	SK622(新)			
5-13-14-15	P624	13F9	V	上層 古代	0.37	-1.59				
5-13-14-15	P625	15F5-10	V	上層 古代	0.33	-1.55				
5-13-14	P626	12F15	V	上層 古代	0.27	-1.62				
5-13-14-15	P627	12F14-19	V	上層 古代	0.31	-1.68				
5-13-14-15	P628	12F19	V	上層 古代	0.30	-1.65				
5-13-14-15	P629	12F15-20	V	上層 古代	0.26	-1.58				
5-13-14-15	P630	12F19-24	V	上層 古代	0.29	-1.63				
5-13	P631	11H24	V	上層 古代	0.16	-1.22	P880-881(旧)			
5-13	P632	11H24-25	V	上層 古代	0.14	-1.20				
5-13	P633	11H25	V	上層 古代	0.24	-1.28				
5-13	P634	11H25, 12H5	V	上層 古代	0.23	-1.28				
5-13	P635	12H5	V	上層 古代	0.22	-1.26				
5-13-17	P636	10J6-11	V	上層 古代	0.47	-1.60	SI307(新)	○		
5-13	P637	11H24	V	上層 古代	0.26	-1.32	P991(旧)			
5-13	P639	11H20	V	上層 古代	0.13	-1.22				
5-13	P640	11I21	V	上層 古代	0.23	-1.28				
5-14-27	P642	13H16	V	上層 古代	0.19	-1.25	SK641(新)			
5-12-13	P645	10J17-22	V	上層 古代	0.40	-1.45	SX926(新)			
5-13	P646	11H2-3	V	上層 古代	-	-				
5-13	P647	11H4-5	V	上層 古代	0.27	-1.32	P929(旧)			
5-13	P648	11H13-18	V	上層 古代	0.21	-1.30	P207(新)			
5-14	P653	14G13-18	V	上層 古代	0.27	-1.31				
5-14	P654	14G9-14	V	上層 古代	0.30	-1.38	P655(旧), P651(新)			
5-14	P655	14G14	V	上層 古代	0.17	-1.24	P651-654-656(新)			
5-14	P656	14G14	V	上層 古代	0.15	-1.22	P655(旧)			
5-13-14-15	P657	13F2	V	上層 古代	0.34	-1.70	P658(新)			
5-13-14-15	P658	13F2	V	上層 古代	0.15	-1.52	P657-659(旧)			
5-13-14-15	P659	13F2	V	上層 古代	0.29	-1.65	P658(新)			
5-13-14-15	P660	12F22	V	上層 古代	0.17	-1.56				
5-14	P661	14G18	V	上層 古代	0.19	-1.20				
5-14-15	P662	13G16	V	上層 古代	0.21	-1.36				
5-13-14-15	P663	13F5-10	V	上層 古代	0.30	-1.53				

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No.	備考
5-13・14・15	P664	13F9	V 上層	古代	0.26	-1.49				
5-14	P665	14G12・17	V 上層	古代	0.25	-1.25				
5-13-15	P666	13F1	V 上層	古代	0.13	-1.53				
5-13-15	P667	12F21	V 上層	古代	0.25	-1.68				
5-13-15	P668	12F22	V 上層	古代	0.18	-1.58				
5-13	P669	12F9・14	V 上層	古代	0.13	-1.54				
5-13	P670	12F9	V 上層	古代	0.13	-1.52				
5-13・14・15	P671	12F20	V 上層	古代	0.14	-1.48				
5-13・14・15	P672	12F19	V 上層	古代	0.17	-1.51				
5-13・14・15	P673	12F24	V 上層	古代	0.25	-1.59				
5-14	P674	14G16・17	V 上層	古代	0.23	-1.23		○		
5-13・14・15	P675	12F23	V 上層	古代	0.22	-1.55				
5-14-15	P676	14F10・15	V 上層	古代	0.29	-1.28		○		
5-14-15	P677	14F14	V 上層	古代	0.21	-1.24				
5-14-15	P678	13G11・16	V 上層	古代	0.28	-1.45				
5-14-15	P679	14G6	V 上層	古代	0.36	-1.34	P704(旧)			
5-14-15	P680	14G11	V 上層	古代	0.29	-1.27				
5-14-15	P681	14F5, 14G1	V 上層	古代	0.32	-1.35				
5-14-15	P682	14F9・10	V 上層	古代	0.22	-1.25				
5-14-26	P683	13G9	V 上層	古代	0.22	-1.65	SX573(新), SK597(新)			
5-14-15	P684	14G1	V 上層	古代	0.22	-1.23				
5-14-15	P685	14F4	V 上層	古代	0.16	-1.26				
5-14-15	P686	13F25	V 上層	古代	0.25	-1.36				
5-14-15	P687	13F20, 13G16	V 上層	古代	0.24	-1.38				
5-14-15	P688	13F20	V 上層	古代	0.27	-1.39				
5-14	P690	13G14	V 上層	古代	0.31	-1.59	SX573(新)			
5-14-15	P691	14F8	V 上層	古代	0.08	-1.14	P692(旧)			
5-14-15	P692	14F8	V 上層	古代	0.29	-1.36	P691(新)			
5-14-15	P693	14F8	V 上層	古代	0.13	-1.20				
5-14	P694	14G2	V 上層	古代	0.22	-1.25				
5-14	P695	14G7	V 上層	古代	0.14	-1.16				
5-14-15	P696	14G11, 14F15	V 上層	古代	0.12	-1.07				
5-15	P697	12E20	V 上層	古代	0.16	-1.72				
5-15	P698	13F17	V 上層	古代	0.35	-1.61				
5-14-15	P699	13F19・20	V 上層	古代	0.29	-1.43				
5-14-15	P700	13F18	V 上層	古代	0.28	-1.46				
5-14-15	P701	13F13	V 上層	古代	0.29	-1.50	P703(旧)			
5-14-15	P702	13F18・23	V 上層	古代	0.19	-1.38				
5-14-15	P703	13F13	V 上層	古代	0.29	-1.50	P701(新)			
5-14	P704	13G18・22	V 上層	古代	0.32	-1.45	P579・580・679(新)			
5-14-15	P705	13G21	V 上層	古代	0.30	-1.43	P580(新)			
5-14	P706	13G9	V 上層	古代	0.15	-1.40				
5-14-15	P707	13F18	V 上層	古代	0.38	-1.58				
5-14-141	P708	14F2	V 上層	古代	0.17	-1.32				
5-14-15	P709	14F2	V 上層	古代	0.20	-1.40				
5-14-15	P710	14F3	V 上層	古代	0.18	-1.29				
5-13・14・15	P711	12F22	V 上層	古代	0.36	-1.74				
5-14-15	P712	13F22	V 上層	古代	0.21	-1.40				
5-14-15	P713	13F17	V 上層	古代	0.16	-1.39				
5-14-15	P714	13F7・8	V 上層	古代	0.21	-1.54				
5-14-15	P715	13F7・8・12・13	V 上層	古代	0.30	-1.59				
5-14-15	P716	13F7・12	V 上層	古代	0.15	-1.45				
5-14-15	P718	13F13	V 上層	古代	0.14	-1.39				
5-14-15	P719	13F13	V 上層	古代	0.13	-1.41				
5-14-15	P720	13F18	V 上層	古代	0.12	-1.33				
5-14-15	P721	14F14	V 上層	古代	0.23	-1.25				
5-14-15	P722	13F18	V 上層	古代	0.27	-1.46				
5-14-15	P723	13F18	V 上層	古代	0.35	-1.52				

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No.	備考
5-14-15	P724	13F18	V 上層	古代	0.09	-1.32				
5-14-15	P725	14F19	V 上層	古代	0.38	-1.34		○	48	
5-14-15	P726	13F17	V 上層	古代	-	-				
5-14-15	P727	13F22	V 上層	古代	0.32	-1.53				
5-14-15	P728	13F22	V 上層	古代	0.18	-1.40				
5-14-15	P729	13F22	V 上層	古代	0.14	-1.36				
5-14-15	P730	13F18	V 上層	古代	0.23	-1.42				
5-14-15	P731	14F7	V 上層	古代	0.19	-1.33				
5-14-15	P732	14F22, 15F2	V 上層	古代	0.26	-1.25	P743(新)			
5-15	P733	13F16	V 上層	古代	0.08	-1.36				
5-15	P734	13F16・17	V 上層	古代	0.22	-1.48				
5-14-15	P735	14G21	V 上層	古代	0.19	-1.15				
5-14	P736	14G22	V 上層	古代	0.27	-1.25				
5-14-15	P737	15G1	V 上層	古代	0.29	-1.23				
5-14	P738	15G1・2・6・7	V 上層	古代	0.43	-1.35				
5-14-15	P739	13F17	V 上層	古代	0.14	-1.36				
5-14-15	P740	13F14・15	V 上層	古代	0.28	-1.11				
5-14-28	P741	15F10・15	V 上層	古代	0.19	-1.16	SK825(旧)			
5-14-15	P742	15F13	V 上層	古代	0.35	-1.28				
5-14-15	P743	15F2	V 上層	古代	0.24	-1.23	P732(旧)			
5-14	P745	13G7	V 上層	古代	0.17	-1.57	SX605(新)			
5-13-14	P746	13G6	V 上層	古代	0.11	-1.55	SX605(新)	○		
5-15	P748	13F21	V 上層	古代	0.15	-1.41				
5-15	P749	13E20	V 上層	古代	0.17	-1.52				
5-15	P750	15E5	V 上層	古代	0.28	-1.31				
5-15	P751	14E20	V 上層	古代	0.18	-1.31				
5-15	P752	14E20	V 上層	古代	0.16	-1.30				
5-15	P753	14E25	V 上層	古代	0.20	-1.33				
5-15	P754	13F21	V 上層	古代	0.15	-1.41				
5-15	P755	13F21	V 上層	古代	0.12	-1.37				
5-15	P756	14F1	V 上層	古代	0.12	-1.35				
5-14-15	P757	15F2	V 上層	古代	0.34	-1.34	P744(旧), P803(新)			
5-14-15	P758	15F8	V 上層	古代	0.37	-1.32				
5-14-15	P759	15F13	V 上層	古代	0.34	-1.29				
5-15	P760	14F1	V 上層	古代	0.15	-1.37				
5-14-15	P761	15F4・9	V 上層	古代	0.08	-1.06	P1037(旧)			
5-15	P763	14E14	V 上層	古代	0.30	-1.50				
5-14-15	P764	14F19	V 上層	古代	0.14	-1.15	P765(新)			
5-14-15	P765	14F19	V 上層	古代	0.08	-1.10	P764(旧)			
5-15	P766	15E10, 15F6	V 上層	古代	0.12	-1.21	P767(旧)			
5-15	P767	15E10, 15F6	V 上層	古代	0.17	-1.25	P766(新)			
5-15	P768	15E15	V 上層	古代	0.18	-1.27				
5-15	P769	13F16	V 上層	古代	0.16	-1.46				
5-15	P770	13E25	V 上層	古代	0.19	-1.51				
5-15	P771	13E20・25	V 上層	古代	0.25	-1.58				
5-15	P772	13E14・19	V 上層	古代	0.12	-1.49				
5-15	P773	13E19	V 上層	古代	0.19	-1.55				
5-15	P774	13E19	V 上層	古代	0.15	-1.50				
5-15	P775	13E14	V 上層	古代	0.11	-1.51				
5-15	P776	13E13	V 上層	古代	0.07	-1.57				
5-15	P777	13E23・24	V 上層	古代	0.16	-1.56				
5-15	P778	13E24	V 上層	古代	0.19	-1.51				
5-15	P779	13E24	V 上層	古代	0.18	-1.49				
5-15	P780	13E25, 14E5	V 上層	古代	0.21	-1.52				
5-15	P781	14E3・4	V 上層	古代	0.18	-1.55		○		
5-15	P782	14E4	V 上層	古代	0.20	-1.55		○		
5-15	P783	14E3・4	V 上層	古代	0.20	-1.55				
5-15	P784	14E3	V 上層	古代	0.22	-1.61		○		

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土 遺物	遺物図版 No.	備考
5-13	P785	11G11	V	上層 古代	0.22	-1.68				
5-14・15	P786	13F17	V	上層 古代	0.13	-1.37				
5-15	P787	14F11	V	上層 古代	0.14	-1.29				
5-15	P788	14F11	V	上層 古代	0.24	-1.41				
5-15	P789	14E20	V	上層 古代	0.10	-1.27				
5-15	P790	14F16	V	上層 古代	0.21	-1.31				
5-15	P791	14E25	V	上層 古代	0.18	-1.31	P792(新)			
5-15	P792	14E25	V	上層 古代	0.17	-1.28	P791(旧)			
5-15	P793	14F21	V	上層 古代	0.17	-1.25				
5-15	P794	14F21	V	上層 古代	0.12	-1.17				
5-14・15	P795	14F22	V	上層 古代	0.10	-1.12				
5-14	P796	15F9	V	上層 古代	0.21	-1.18	SK825(旧)			
5-14・15	P797	15F17	V	上層 古代	0.19	-1.18				
5-15	P798	15F11・12	V	上層 古代	0.27	-1.32	P799(新)			
5-15	P799	15F11	V	上層 古代	0.29	-1.34	P798(旧)			
5-15	P800	15F11・16	V	上層 古代	0.20	-1.27	P804(旧)			
5-13	P801	11G11	V	上層 古代	0.19	-1.67				
5-13	P802	11G11, 11F15	V	上層 古代	0.19	-1.68				
5-15	P803	15F6・7	V	上層 古代	0.28	-1.30	P757(旧)			
5-15	P804	15F11	V	上層 古代	0.26	-1.33	P800(新)			
5-15	P805	15E3	V	上層 古代	0.13	-1.35				
5-15	P806	14E6	V	上層 古代	0.14	-1.54				
5-15	P807	14E7	V	上層 古代	0.18	-1.57				
5-15	P808	14E7・12	V	上層 古代	0.16	-1.54				
5-15	P809	14E7・8	V	上層 古代	0.16	-1.48				
5-15	P810	14E7・12	V	上層 古代	0.16	-1.48				
5-15	P811	14E13	V	上層 古代	0.15	-1.42				
5-15	P812	14E14	V	上層 古代	0.28	-1.50		○		
5-15	P813	14E18	V	上層 古代	0.29	-1.49				
5-14・28	P814	15G1	V	上層 古代	0.24	-1.23	SK825(旧)			
5-15	P816	15E10	V	上層 古代	0.26	-1.40	P817(旧)			
5-15	P817	15E10	V	上層 古代	0.19	-1.34	P816(新)			
5-15	P818	14E21	V	上層 古代	0.16	-1.42				
5-15	P819	14E21	V	上層 古代	0.22	-1.47				
5-141	P820	14E16	V	上層 古代	0.17	-1.45				
5-15	P821	14D15	V	上層 古代	0.12	-1.59				
5-15	P822	14D20	V	上層 古代	0.27	-1.69				
5-15	P823	14D20	V	上層 古代	0.16	-1.57				
5-15	P824	14E9	V	上層 古代	0.27	-1.58				
5-13	P829	10J6・11	V	上層 古代	0.30	-1.62	SI307(新)			
5-13	P830	10I10	V	上層 古代	0.17	-1.53	SI307(新)			
5-14	P831	15G1	V	上層 古代	0.36	-1.43	SK825(新)			
5-13	P838	11I15	V	上層 古代	0.46	-1.45				
5-13	P839	11J11	V	上層 古代	0.40	-1.43	P387(新)			
5-13	P840	11I14	V	上層 古代	0.36	-1.33		○		
5-13	P841	11I10	V	上層 古代	0.37	-1.37				
5-13	P842	11I14	V	上層 古代	0.38	-1.37	SK400(新), P976(旧), P518(新)			
5-13・28	P843	11I23, 12I3	V	上層 古代	0.33	-1.37	SK919・1006(旧)	○		
5-13	P844	12I8	V	上層 古代	0.25	-1.27		○		
5-13	P845	11I19	V	上層 古代	0.62	-1.59	SD64(新), SK136(新)			
5-13	P846	11I22	V	上層 古代	0.65	-1.65				
5-13	P847	12I3	V	上層 古代	0.36	-1.40	P522(新)			
5-13	P848	12I1・6	V	上層 古代	0.26	-1.32	SK112(新)			
5-13	P849	12I2	V	上層 古代	0.47	-1.49				
5-13	P850	11I21	V	上層 古代	0.51	-1.57				
5-13	P851	12H10	V	上層 古代	0.27	-1.31				
5-13	P852	12H10	V	上層 古代	0.25	-1.32				

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土 遺物	遺物図版 No.	備考
5-13	P853	11I14	V	上層 古代	0.27	-1.25				
5-13	P854	12I3	V	上層 古代	0.32	-1.36		○		
5-13・21	P855	10I18・23	V	上層 古代	0.29	-1.46	P302(旧)	○		
5-13	P857	12I7	V	上層 古代	0.25	-1.29				
5-13・23	P858	11G15・20	V	上層 古代	0.24	-1.45	P236(新)			
5-13・14・23	P859	11G20	V	上層 古代	0.20	-1.43	P236(新)	○		
5-13・14・23	P860	11H16	V	上層 古代	0.35	-1.53	P866(旧), P833(新)	○		
5-12・13	P861	9K21	V	上層 古代	0.31	-1.50		○		
5-12	P862	9K18	V	上層 古代	0.37	-1.66		○		
5-11	P863	8L17	V	上層 古代	0.13	-1.50				
5-11・12	P864	9K13・18	V	上層 古代	0.48	-1.75	P44(新)			
5-12・13	P865	9J20	V	上層 古代	0.25	-1.46				
5-13	P869	10J11	V	上層 古代	0.15	-1.26	SI307(新)			
5-12・13	P872	10J6	V	上層 古代	0.23	-1.45	P304(新)			
5-13	P873	10J9	V	上層 古代	0.21	-1.32	P875(新)			
5-13	P874	10J9	V	上層 古代	0.18	-1.28	P873(旧)			
5-12・13	P875	10J2	V	上層 古代	0.23	-1.39				
5-13	P876	10J14	V	上層 古代	0.13	-1.20				
5-12・13	P877	9J16	V	上層 古代	0.16	-1.47				
5-13	P878	11I9	V	上層 古代	0.34	-1.38		○		
5-13	P879	10I16	V	上層 古代	0.41	-1.60	P179・182(新)			
5-13	P880	11H24	V	上層 古代	0.31	-1.36	P540・631(新)	○		
5-13	P881	11H24	V	上層 古代	0.21	-1.27	P631(新)			
5-13	P882	10I16	V	上層 古代	0.27	-1.42				
5-13	P883	10I17	V	上層 古代	0.23	-1.39				
5-13	P884	11H15	V	上層 古代	0.17	-1.25				
5-13	P885	10H15	V	上層 古代	0.19	-1.39	P79(新)			
5-13	P886	10H15	V	上層 古代	0.23	-1.46	P195(新)			
5-13	P887	11I1	V	上層 古代	0.14	-1.25				
5-13	P888	11I17・18	V	上層 古代	0.31	-1.34				
5-13	P889	10J6	V	上層 古代	0.16	-1.58	SI307(新)			
5-12・13・30	P890	10I15	V	上層 古代	0.07	-1.42	SI307(新)			
5-12・13	P891	10I10	V	上層 古代	0.15	-1.55	SI307(新)			
5-12・13	P892	10I10	V	上層 古代	0.15	-1.55	SI307(新)			
5-12・13	P893	10I9	V	上層 古代	0.13	-1.58	SI307(新), P310(新)			
5-13・17	P894	10I14	V	上層 古代	0.12	-1.50	SI307(新)			
5-13・17	P895	10I19	V	上層 古代	0.12	-1.53	SI307(新)			
5-13	P897	11H10	V	上層 古代	0.38	-1.47	SX71(新)			
5-13	P898	11H23	V	上層 古代	0.17	-1.27				
5-13	P899	11H23	V	上層 古代	0.28	-1.37				
5-13	P900	11H19	V	上層 古代	0.16	-1.25				
5-13	P902	11H18	V	上層 古代	0.21	-1.31				
5-12・13	P903	9K16	V	上層 古代	0.22	-1.55	P941(旧)			
5-12・13	P904	9K16・21	V	上層 古代	0.49	-1.79		○		
5-13	P906	10J16	V	上層 古代	0.10	-1.59	SI307(新)			
5-13	P908	11H5	V	上層 古代	0.51	-1.60		○	48	
5-13	P909	10J12	V	上層 古代	0.49	-1.55	P155(新)			
5-13	P910	10J17	V	上層 古代	0.54	-1.59		○		
5-13	P911	10J12	V	上層 古代	0.14	-1.22				
5-13	P913	11H13	V	上層 古代	0.20	-1.31	P207(新)	○		
5-13	P914	10H25	V	上層 古代	0.19	-1.35				
5-13	P915	11H12	V	上層 古代	0.16	-1.32	P644(新)			
5-13	P916	11H7・12	V	上層 古代	0.20	-1.39	P398(新)			
5-13	P917	10H24	V	上層 古代	0.39	-1.53	P931(旧)	○		
5-13	P920	10J13	V	上層 古代	0.36	-1.42		○		
5-13	P924	11H3	V	上層 古代	0.14	-1.28				
5-13	P927	11H4	V	上層 古代	0.13	-1.26				
5-13	P928	11H3	V	上層 古代	0.25	-1.37				



図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No.	備考
5-13	P929	11H5	V 上層	古代	0.47	-1.61	P647(新)			
5-13	P930	10H25	V 上層	古代	0.32	-1.49				
5-13	P931	10H24, 11H4	V 上層	古代	0.29	-1.46	P917(新)			
5-13	P932	11H4	V 上層	古代	0.17	-1.32				
5-12・13	P934	10J3	V 上層	古代	0.23	-1.42				
5-12・13	P938	9K11	V 上層	古代	0.26	-1.50		○		
5-12	P941	9K16	V 上層	古代	0.10	-1.49	P903(新)			
5-12・13	P943	9J22	V 上層	古代	0.28	-1.60		○		
5-13	P944	10J23・24	V 上層	古代	0.20	-1.27	P82(新)			
5-13・30	P945	10J23, 11J3	V 上層	古代	0.19	-1.29				
5-12	P949	10K2	V 上層	古代	0.17	-1.42		○		
5-12	P951	9K12	V 上層	古代	0.30	-1.62		○		
5-12	P952	9K18	V 上層	古代	0.15	-1.47				
5-12	P955	9K18	V 上層	古代	0.18	-1.47				
5-11・12	P956	8K13	V 上層	古代	0.35	-1.87	SX867(新)			
5-12	P957	9K17	V 上層	古代	-	-				
5-12	P958	9K12	V 上層	古代	0.25	-1.69	P47(旧)	○		
5-13	P966	11I24	V 上層	古代	0.67	-1.74				
5-13	P967	11H9・14	V 上層	古代	0.29	-1.43	SX71(新)			
5-11・12	P968	8K25	V 上層	古代	0.30	-1.70				
5-13	P971	11H9	V 上層	古代	0.43	-1.55	SX71(新)	○		
5-13	P972	11I18	V 上層	古代	0.20	-1.49				
5-13	P973	12I4	V 上層	古代	0.15	-1.35				
5-13	P975	11I3・8	V 上層	古代	0.20	-1.44				
5-13	P976	11I14	V 上層	古代	0.19	-1.39	P978(旧)			
5-12	P977	9J8	V 上層	古代	0.21	-1.56				
5-13	P978	11I14	V 上層	古代	0.17	-1.36	SD64(新), P976(新)			
5-13	P980	11I2	V 上層	古代	0.50	-1.77	P183(新)			
5-13	P981	11I2	V 上層	古代	0.30	-1.46		○		
5-13	P982	11I23	V 上層	古代	0.41	-1.62	P522(新)			
5-13	P985	10H25	V 上層	古代	0.48	-1.74				
5-13	P986	12I3	V 上層	古代	0.15	-1.26				
5-13	P987	12I3	V 上層	古代	0.15	-1.29	P522(新)	○		
5-13	P988	11I11	V 上層	古代	0.51	-1.78				
5-12・13	P989	9J25	V 上層	古代	0.20	-1.66				
5-13	P990	12H5	V 上層	古代	0.28	-1.57				
5-13	P991	11H19	V 上層	古代	0.37	-1.61	P637(新)			

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No.	備考
5-13	P992	10I22	V 上層	古代	0.46	-1.76	P178・406(新)			
5-13	P993	10I24	V 上層	古代	0.54	-1.73	P837(新)			
5-13	P994	12I6	V 上層	古代	0.27	-1.36		○		
5-13	P995	12I6	V 上層	古代	0.64	-1.72				
5-13	P996	12I6	V 上層	古代	0.35	-1.42				
5-13	P997	11H15	V 上層	古代	0.32	-1.61				
5-13	P998	11I9	V 上層	古代	0.22	-1.56	SD64(新)	○		
5-13	P1001	11H4	V 上層	古代	0.26	-1.49				
5-13	P1002	12H20	V 上層	古代	0.53	-1.66		○		
5-14	P1003	12H20	V 上層	古代	0.47	-1.59		○		
5-13	P1010	10J5	V 上層	古代	0.35	-1.48		○		
5-13	P1011	12I11	V 上層	古代	0.46	-1.78				
5-13	P1013	11H4	V 上層	古代	0.27	-1.58				
5-13	P1014	11H8	V 上層	古代	0.61	-1.77				
5-13	P1015	11H3・8	V 上層	古代	0.32	-1.47				
5-13	P1016	11H8	V 上層	古代	0.23	-1.60	SX71(新)			
5-13	P1020	11I3・8	V 上層	古代	0.27	-1.54	P309(新)			
5-13	P1024	11I7	V 上層	古代	0.30	-1.42				
5-13	P1025	12I3	V 上層	古代	0.56	-1.64				
5-13・14	P1027	12H13	V 上層	古代	0.25	-1.80				
5-13・14	P1028	12H13	V 上層	古代	0.23	-1.70			SI246(新)	
5-13・14	P1029	12H13	V 上層	古代	-	-			SI246(新)	
5-13・14	P1030	12H13	V 上層	古代	0.13	-1.52			SI246(新)	
5-13・14	P1032	12H24	V 上層	古代	0.21	-1.62	P1033(新)			
5-13・14	P1033	12H24	V 上層	古代	0.18	-1.60	P1032(旧)	○		
5-14・15	P1034	15G1	V 上層	古代	0.22	-1.54				
5-14・15・28	P1035	15G1	V 上層	古代	0.21	-1.51	SK825(新)	○		
5-14・15	P1036	15F5	V 上層	古代	0.09	-1.40	SK825(新)			
5-14・15	P1037	15F9	V 上層	古代	0.20	-1.51	P761(新)			
5-13・14	P1039	12G25	V 上層	古代	0.27	-1.74				
5-13・14	P1040	12H24・25	V 上層	古代	0.45	-1.90		○		
5-14・15	P1042	15F10・15	V 上層	古代	0.25	-1.22	P1043(旧)			
5-14・15	P1043	15F15	V 上層	古代	0.20	-1.16	P1042(新)			
5-13	P1045	12G3	V 上層	古代	0.24	-1.51				
5-13	P1046	10I3	V 上層	古代	0.36	-1.65				
5-13・14	P1047	12G25	V 上層	古代	0.21	-1.39				
5-13・14	P1048	12H15	V 上層	古代	0.01	-1.52				

## その他の遺構一覧表（下層）

図版No.	遺構名	グリッド	確認面	時代	深度	底面標高	切り合い関係	出土遺物	遺物図版No.	備考
6-35	P933	10J5, 10K1	VI 下層	古墳	0.291	-1.42	SX946(不明)	○	52	
6-34	P965	8K12	VI 下層	古墳	0.282	-1.82	SD111(新)			
6-34	P970	8K12・17	VI 下層	古墳	0.330	-1.88				
6-35	P1004	10J13	VI 下層	古墳	0.170	-1.48	SD925(新)			
6-35	P1005	10J13	VI 下層	古墳	0.223	-1.42	SD925(新)			
6-35	P1017	10J17・18	VI 下層	古墳	0.297	-1.49	SD925(新)			
6-37	P1031	12I7・12	VI 下層	古墳	0.306	-1.63	SD1000(新)			
6-35・37	P1050	10J19	VI 下層	古墳	0.572	-1.72	SD108(新)	○	52	
6-39・42	P1053	13F9・14	VI 下層	古墳	0.231	-1.70	SD984(新)			

別表2 土器観察表

- 凡例
- 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。
  - 接合関係 帰属遺構以外の破片が接合しているものについて、その出土位置を示した。遺構出土のものは遺構名、包含層出土のものはグリッド名を記した。
  - 器種 古墳時代・古代の土器については多種にわたるため、第V章に記した。
  - 法量 口径・底径・器高を示す。( )中の数値は、遺存率の低いものである。
  - 胎土 土器の胎土に含まれる鉱物・小礫等について記した。「石」は石英粒、「長」は長石粒、「雲」は金雲母あるいは黒雲母、「チ」はチャート、「赤」は赤色酸化土粒、「海」は海綿骨針を表す。  
須恵器については胎土分類を行っており、分類内容については本文第11図中に記した。
  - 色調 『新版標準土色帳』(小山・竹原1967)の記号を用いた。

- 焼成 酸化炎焼成・還元炎焼成の区別を記した。須恵器で酸化としたものは褐色あるいは橙色の色調で軟質なものを表す。白色や灰白色のものは含めていない。
- 製作痕・文様等 手法等とそれらが確認できる部位を記した。「→」は調整の先後関係(古→新)を表す。調整痕の方向等については本文・実測図を参照されたい。「口」は口縁部、「頸」は頸部、「体」は体部、「天」は天井部、「底」は底部、「受」は受部、「杯」は杯部、「脚」は脚部、「脚体」は脚体部、「裾」は脚の裾部である。部位が記されていないものは、遺存部位を示す。
- 遺存率 分母を36とした分数表示で示した。※が付いた表示は、実測遺物と明らかに同一個体と思われるものを加えての遺存率である。
- 付着物・使用痕跡等 二次的な痕跡について確認できるものを記した。部位については「製作痕・文様等」に同じ。

分類 A:新津(新) B:笹神(笹、阿) C:小泊(小、佐) D:西古志(西) E:滝寺(滝)

図版No.	報告No.	出土位置			接合関係	種別	器種		胎土		法量(cm)			色調		焼成	製作痕・文様等		遺存率		付着物・使用痕跡等		備考	
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内面	外面		内面	外面	遺存部位	口縁部	底部	内面		外面
44	1	SI246	12H8・12・13	2		須恵器(古代)	有台杯	A	長・海	D	13.4	-	-	暗オリーブ灰(2.5GY5/1)	暗オリーブ灰(2.5GY4/1)	還元	口:ロクロナデ	口:ロクロナデ	口~底	16/36		口:炭化物	口~体:スス	
44	2	SI246	12H7・12・13		試掘83T	須恵器(古代)	杯蓋	B	長	A	14.4	-	2.75	灰(10Y5/1)	灰(N5/)	還元	口:ロクロナデ	口:ロクロナデ	つまみ~口	31/36				
44	3	SI246	12H8・12・13・14	1	P499-1層, P1030-1層 試掘83T, 12H13・18・19・20・23・24	土師器(古代)	長甕	B2	長・石・チ		22.7	-	-	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	口:ロクロナデ 体:カキメ→当て具痕→ハケメ	口:ロクロナデ 体:カキメ→タタキメ→ケズリ	口~底	22/36		体:炭化物	口:スス 体:スス	
44	4	SI307	10I9・10・14・15・19・20, 10J6・11・16			須恵器(古代)	無台杯	B1	長	B	(13.5)	-	-	灰(N5/)	灰(N5/)	還元	口:ロクロナデ	口:ロクロナデ	口	2/36				
44	5	SI307	10I20	1		須恵器(古代)	杯蓋	A	長・石	A	16.1	-	-	灰(N5/)	灰(N6/)	還元	二次使用のため不明	天:ロクロナデ 体:緑:ロクロナデ	天~口	12/36		墨痕・磨耗		
44	6	SI307	カマド			土師器(古代)	無台杯	C	長・石・雲		11.3	-	-	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい赤褐(5YR5/4)	酸化	ナデ	ケズリ・ナデ	口~体	13/36		炭化物		変色(被熱)?
44	7	SI307	カマド			土師器(古代)	無台杯	C			9.8	6.0	6.3	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	体:ハケメ・ナデ 底:ナデ	体:ハケメ・ナデ 底:ナデ	口~底	17/36	36/36	炭化物	スス	変色(被熱)
44	8	SI307	カマド			土師器(古代)	鉢	B	長・石		13.8	-	-	黒褐(5YR3/1)	灰褐(5YR4/2)	酸化	口:ロクロナデ	不明	口~体	17/36※		口:炭化物		外面剥落・変色(被熱)
44	9	SI307	カマド			土師器(古代)	鉢	A	石		15.4	-	11.6	にぶい橙(2.5YR6/4)	にぶい橙(2.5YR6/4)	酸化	ナデ	ナデ	口~底	5/36※	32/36	口:炭化物		変色(被熱)
44	10	SI307	カマド			土師器(古代)	長甕	A2	長・石		18.4	-	-	にぶい黄橙(10YR7/2)	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	12/36		炭化物	スス	
44	11	SI307	10J16			土師器(古代)	長甕	A2a	石		-	10.4	-	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ハケメ	ハケメ	体~底		7/36			
44	12	SI307	10J11		10J2・4	土師器(古代)	長甕	B1	長・石・赤		-	(6.6)	-	にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	酸化	ハケメ	体:ハケメ 底:ナデ	体~底		23/36			
44	13	SI307	10J11	1		土師器(古墳)	甕	D2	長・石・海		(16.7)	-	-	にぶい褐(7.5YR5/4)	橙(7.5YR6/6)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	2/36		口:炭化物	口:スス	
44	14	SB2001-P46	9K17			土師器(古墳)	甕	B1	長		(16.5)	-	-	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい褐(7.5YR6/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	3/36				
44	15	SB2003-P13	10I20	2	10I3, 10J11・23	須恵器(古代)	杯蓋	B	長	A	14.5	-	3.2	灰(5Y5/1)	灰(10Y5/1)	還元	口:ロクロナデ 体:ロクロナデ	天:ロクロナデ 体:ロクロナデ	つまみ~口	24/36				
44	16	SB2004-P244	10I24・25		10I23・24, 11I3	土師器(古代)	高杯		長		13.5	7.9	2.6	褐(7.5YR4/4)	明赤褐(2.5YR5/6)	酸化	口:ロクロナデ 赤彩	口:ロクロナデ	口~体	2/36	9/36			
44	17	SB2004-P393	10I13・14・18・19	1	9I23, 10G10, 10H5・6, 10I2・6・7・11・12・13・23, 10J18, 10I1	須恵器(古代)	無台杯	B1	長・海	A	14.0	9.0	3.9	橙(5YR6/6)	にぶい橙(5YR6/4)	酸化	口:ロクロナデ	口:ロクロナデ 底:ハラ切り→ナデ	口~底	18/36	20/36			
44	18	SB2004-P393	10I13・14・18・19	1・2 4	10I12・13・17・18・22, 11I2・9	須恵器(古代)	杯蓋	B	長	A	17.2	-	3.9	灰(7.5Y6/1)	灰(N5/)	還元	口:ロクロナデ	口:ロクロナデ	つまみ~口	25/36				
44	19	SB2004-P393	10I13・14・18・19	1	10I13	須恵器(古代)	杯蓋	B	長	A	15.5	-	2.8	灰(7.5Y5/1)	灰(N4/)	還元	口:ロクロナデ	口:ロクロナデ	つまみ~口	6/36				
44	20	SB2004-P406	10I22	1・2		土師器(古代)	小甕	A	石・赤		(12.1)	-	-	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	1/36		口:炭化物	スス	
44	21	SB2004-P514	10I12・13	1	10I12, 10I13	土師器(古代)	長甕	A2a	長・石・雲		-	6.2	-	にぶい黄橙(10YR5/3)	にぶい黄褐(10YR5/4)	酸化	ナデ	体:ケズリ→ナデ 底:ナデ	体~底		14/36			
45	22	SB2004-P514	10I12・13	2	9I13・17・19・24, 10J15, 10J17, 11H12・16, 試掘71T	土師器(古墳)	壺	A2	長・チ・赤		24.4	-	-	橙(5YR6/8)	明赤褐(5YR5/8)	酸化	口~頸:ミガキ 体:ハケメ	ミガキ	口~体	3/36				
45	23	SB2005-P118	11I11・12・16・17	1・2	P104-2層, P140-2層, P393, 8I8, 9I19・24, 10H24, 10I19, 11H5, 11I6・7・9・11・16・17・18, 12H8	土師器(古代)	長甕	A2b	長・石・チ		17.8	-	30.6	にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(5YR6/8)	酸化	ハケメ	口:ロクロナデ 体:ケズリ・ハケメ	口~底	11/36	36/36			

図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種別	器種		胎土		法量(cm)			色調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備考		
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内面			外面		内面	外面	遺存部位	口縁部	底部		内面	外面
														内面	外面		内面	外面								
45	24	SB2005-P118	11111・12・16・17	1	P393-1層, 9115, 9J14・21, 10G4, 10I18・23, 10J1・2・22, 11I11・12・16・17	土師器(古代)	長甕	B1	長・石・赤		18.6	-	31.9	にぶい黄橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化	ハケメ	口:ロクロナデ 体:カキメ・ハケメ	口~体	4/36						
45	25	SB2005-P522	11122・23 1212・3	1		土師器(古代)	小甕	A	石・雲		12.6	-	-	にぶい黄橙(7.5YR7/4)	橙(5YR6/6)	酸化	ヨコナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	6/36				変色(被熱)?		
45	26	SB2005-P522	11122・23 1212・3	2・4		土師器(古代)	長甕	A2	雲	(21.4)	-	-	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(7.5YR6/4)	酸化	ハケメ	ハケメ	口~体	2/36				スス			
45	27	SB2005-P234	11H10・15 1116・11	2~ 4・5	SK185-1層, 11H15	須恵器(古代)	有台杯	A	長	A	-	9.7	-	灰(N6/)	灰(N5/)	還元	ロクロ	体:ロクロナデ 底:ナデ	体~底		36/36			底:墨痕		
45	28	SB2005-P836	11113・18			土師器(古墳)	器台	B1	石・チ・赤		9.2	-	-	にぶい黄橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(7.5YR6/4)	酸化	ミガキ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~受	8/36						
45	29	SB2006-P649	11G15, 11H11	1	11J7	土師器(古代)	甌		石		-	-	-	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/3)	酸化	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	把手							
45	30	SB2009-P392	11H14・19	1	11I16	土師器(古代)	小甕	A	石・赤		12.8	-	-	にぶい黄橙(7.5YR7/4)	にぶい黄橙(7.5YR7/4)	酸化	口:ロクロナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	7/36			口:炭化物	スス	変色(被熱)?	
45	31	SK183	11I2・3	1	SK185-1層, 10I3・22・23, 11I3	須恵器(古代)	有台杯	A	長	A	13.4	8.2	3.7	灰(N6/)	青灰(5PB6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	14/36	26/36					
45	32	SK185	11I2	1・3	10I22, 11I2	須恵器(古代)	無台杯	BII	長	A	12.8	9.8	3.6	青灰(5B5/1)	青灰(5B5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	15/36	29/36					
45	33	SK185	11I2	1	11I2	須恵器(古代)	無台杯	BI	長	B	13.6	9.7	3.8	灰白(7.5Y7/1)	灰白(7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ナデ	口~底	15/36	23/36					
45	34	SK185	11I2	1	11I2	須恵器(古代)	無台杯	BI	長	A	14.2	10.6	3.8	オリーブ灰(2.5GY5/1)	オリーブ灰(2.5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ナデ	口~底	13/36	28/36			底:板状痕		
45	35	SK185	11I2	1	10I12・21・22, 11I2, SD61	須恵器(古代)	杯蓋	B	長	A	14.4	-	3.1	灰(N5/)	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	つまみ~ 口	24/36						
46	36	SK243	12H20, 12I16	2		須恵器(古代)	無台杯	BI	長	B	13.4	10.4	3.2	オリーブ灰(2.5GY6/1)	オリーブ灰(2.5GY6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	31/36	36/36			底:墨痕・刻書・磨耗		
46	37	SK243	12H20, 12I16	2	SK825-1層, 12H14・15・20・24・25, 15F10, 東暗33(12I21), 試掘83T, 13H4・5	須恵器(古代)	横瓶		長	B	11.3	-	25.1	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y5/1)	還元	当て具痕・ロクロナデ	タタキメ・ロクロナデ	口~底	11/36			自然釉		両面閉塞	
46	38	SK923	9J18		9J16・18・19, 10K1	土師器(古墳)	壺	底C	チ		-	5.0	-	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい褐(10YR5/2)	酸化	ハケメ	ミガキ 赤彩	体~底		14/36					
46	39	SK825	15F10	1		須恵器(古代)	有台杯	A	長	A	13.2	7.8	3.8	黄灰(2.5Y6/1)	暗青灰(10BG4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ナデ	口~底	34/36	36/36			底:墨痕		
46	40	SK825	15F5	1		須恵器(古代)	有台杯	A	長・チ・海	B	14.7	9.2	4.6	灰(7.5Y6/1)	灰(7.5YR6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ナデ	口~底	15/36	18/36			底:刻書		
46	41	SK825	15F10		15F2・10	須恵器(古代)	杯蓋	B	長	A	14.8	-	2.4	浅黄(2.5Y7/3)	灰黄(2.5YR6/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	天~口	20/36※						
46	42	SK825	15G1	1	14G20, 15G1	土師器(古代)	無台杯	B1	長		7.6	6.0	2.7	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	酸化	ナデ	ナデ	口~底	21/36	25/36			口:炭化物		
46	43	SK825	15F5		15F5, 15G1	土師器(古代)	無台杯	B1	長		9.2	6.2	2.5	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化	ナデ	口:ヨコナデ 体:ナデ 底:ケズリ	口~底	18/36	29/36			炭化物		
46	44	SK825	15G1	1	15G1	土師器(古代)	無台杯	B1			8.6	6.2	2.5	にぶい黄褐(10YR5/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	酸化	ミガキ	口:ヨコナデ 体~底:ケズリ	口~底	5/36	21/36			炭化物		
46	45	SK825	15F5	1	14F25, 15F5, 15G1	土師器(古代)	無台杯	A	長・石		9.4	4.6	3.8	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	酸化	ナデ	ナデ	口~底	20/36	36/36			口:炭化物		
46	46	SK825	15F5		14G21, 15F5	黒色土器(古代)	無台杯	B2	長・雲		10.2	6.0	3.6	黄褐(2.5Y5/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	ミガキ 黒色処理	口:ヨコナデ 体~底:ナデ	口~底	3/36	20/36			炭化物		
46	47	SK650	10J21		10J21	土師器(古代)	小甕	B			14.2	5.6	14.9	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化	口:ロクロナデ	口:ロクロナデ 体:ロクロナデ→上半カキメ・下半ケズリ 底:ナデ	口~底	34/36	33/36			口:炭化物 口:スス 体:スス		
46	48	SX71	11H10			須恵器(古代)	有台杯	B	長	A	10.9	5.7	4.5	灰(N5/)	灰(N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ナデ	口~底	2/36	14/36					
46	49	SX71	11H10		11H8	須恵器(古代)	壺蓋(短頸壺)			A	9.4	-	3.1	灰白(N7/)	灰白(7.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	つまみ~ 口	28/36				50に接着痕あり		
46	50	SX71	11H9		11H9・10	須恵器(古代)	短頸壺			A	7.1	4.9	9.5	灰白(N7/)	灰(7.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	口~底	33/36	36/36			49に接着痕あり		
46	51	SX71	11H4・9		11H8・9・10	須恵器(古代)	長頸壺			A	(9.7)	-	-	灰(7.5Y6/1)	灰(7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	口~底	2/36				高台貼付部分調整		
46	52	SX71	溝(11H3・4)		10H7・9・12・13・24, 11H3・4	土師器(古代)	長甕	B1	長・石・赤・海		22.5	-	-	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR6/6)	酸化	口:ロクロナデ 体:カキメ・ハケメ	口:ロクロナデ 体:カキメ・ハケメ	口~体	17/36						
46	53	SX71	溝(11H14)		11H14	弥生土器	壺				17.1	-	-	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ナデ	口:ヨコナデ 頸:ハケメ	口~頸	9/36※						

図版 No.	報告 No.	出土位置		接合関係	種 別	器 種		胎 土		法 量(cm)			色 調		焼成	製作痕・文様等		遺存率		付着物・使用痕跡等		備 考				
		遺構名	グリッド			層位	器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内 面		外 面		内 面	外 面	遺存部位	口縁部		底部	内 面	外 面	
														口径		底径	器高									内 面
47	54	SX71	11H10		11H10	縄文土器	深鉢		チ・海	-	-	-	褐灰(10YR6/1)	灰黄褐(10YR5/2)	酸化	ミガキ	平行沈線文・ミガキ	体								
47	55	SX100	10H22, 11H2		10H7	土師器(古代)	長甕	A1	長・石・チ・海	24.5	-	24.3	にぶい褐(7.5YR5/4)	明赤褐(2.5YR5/6)	酸化	ナデ	ミガキ	口~底	5/36		体~底:炭化物	口:スス	変色(被熱)			
47	56	SX100	11H2		10H22	土師器(古代)	長甕	A2a	石・海	-	9.0	-	にぶい橙(5YR6/4)	にぶい橙(10YR6/3)	酸化	ハケメ→ナデ	体:ハケメ 底:ナデ	体~底		19/36		スス				
47	57	SX100	10H22, 11H2・3		P180-1層, 10H22, 10G19, 10H3・4・9・14・18・21・22・23・24, 11H1・2・3・7・8・13, 12I12	土師器(古代)	長甕	B1	長・石・チ	-	-	-	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(7.5YR8/6)	酸化	ハケメ・カキメ	ハケメ	体								
47	58	SX573	13G13			須恵器(古代)	無台杯	BII	長	A	13.0	8.7	3.3	青灰(5B6/1)	青灰(5B6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	口~底	16/36	18/36		底:刻書			
47	59	SX573	13G13	1		土師器(古代)	小甕	A	長・石・チ・赤・海	-	7.1	-	浅黄橙(10YR8/3)	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	無調整	ナデ	底		36/36						
47	60	SX573	13G8	1	12G18・19, 13F9・14・15	土師器(古代)	鍋	A	石	-	11.6	-	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	酸化	ハケメ	体:ハケメ 底:ナデ	体~底		24/36	体~底:炭化物	体~底:スス	変色(被熱)			
47	61	SX573	13G13・14	1・2	13F9・10・12・13・14・15, 13G15	土師器(古代)	短胴甕		長・石・チ・海	-	8.4	-	にぶい橙(5YR6/4)	にぶい赤褐(5YR5/4)	酸化	ハケメ	体:ケズリ・ハケメ 底:ナデ	体~底		36/36	体:炭化物	体:スス	変色(被熱)			
47	62	SX573	13G13	1・2		土師器(古墳)	甕	B2	石・チ	(18.8)	-	-	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	4/36			スス				
47	63	SX605	13G6	2	13G11	土師器(古代)	長甕	A	石	-	7.5	-	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰褐(7.5YR5/2)	酸化	ナデ	ケズリ	体~底			炭化物	スス				
47	64	SX867	8K13・14			須恵器(古代)	杯蓋	?	長	A	-	-	-	黄灰(2.5Y5/1)	黄灰(2.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	天			擦痕				
47	65	SX867	8K14		8K14	須恵器(古代)	杯蓋	A	長	A	15.8	-	3.0	黄灰(2.5Y5/2)	黄灰(2.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	天:ロクロナデ→ロクロナデ 体:ロクロナデ	つまみ~ 口	7/36		刻書				
48	66	SX867	8K13			須恵器(古代)	杯蓋	A	長	D	15.4	-	2.55			還元	ロクロナデ	天:ロクロナデ 体:ロクロナデ	つまみ~ 口	3/36		墨痕	墨書			
48	67	SX867	8K13			土師器(古墳)	甕	B1	石	(16.5)	-	-	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	36/36		体:炭化物	口:スス				
48	68	P21	8K25, 9K5	2	8K25, 9K5	土師器(古代)	無台碗	A2II	長・赤	12.1	4.8	4.6	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	口~底	19/36	36/36		体:墨書				
48	69	P21	8K25, 9K5		9K5	土師器(古代)	無台碗	A2II	長・石・赤	11.8	4.5	3.9	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	口~底	4/36	22/36						
48	70	P21	8K25, 9K5			土師器(古墳)	壺	I		(9.0)	-	-	明赤褐(2.5YR5/6)	にぶい赤褐(2.5YR4/3)	酸化	ミガキ 赤彩	ミガキ 赤彩	口	1/36							
48	71	P21	9K5			土師器(古墳)	壺	G	長・石	(13.3)	-	-	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	2/36							
48	72	P104	11I17・18	1・2	9J21, 10H23・24, 11G15, 11H4・5・16, 11I13・16・18	土師器(古代)	長甕	A2	長・石・赤	21.8	-	-	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ→ケズリ	口~体	2/36※				73と同一個体 変色(被熱)			
48	73	P104	11H5			土師器(古代)	長甕	A2	長・石・赤	-	-	-	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	酸化	ハケメ	ハケメ	体				体:スス	72と同一個体 変色(被熱)			
48	74	P126	11H17・18	1	11H5	縄文土器	深鉢		長	-	-	-	暗灰黄(2.5Y5/2)	黄灰(2.5Y4/1)	酸化	ミガキ	沈線・斜縄文(LR) ミガキ	体								
48	75	P153	9J24・25, 10J4・5		10J5・9・10・11・19, 12G17・20・24, 12H16・17	土師器(古代)	長甕	B1	長・石・チ・赤	-	-	-	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR6/6)	酸化	ハケ	ハケメ	体								
48	76	P200	10H20		P189, 10I13・16・17・18	須恵器(古代)	杯蓋	B	長	A	15.4	-	2.0	灰(N5/)	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	つまみ~ 口	14/36			自然軸			
48	77	P332	12H25	1	12H25	土師器(古墳)	甕	C1	長・石	(16.8)	-	-	にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	7/36※			口:スス				
48	78	P402	10I25, 11I5		10I25, 11I5・8	須恵器(古代)	有台杯	B	長	A	10.2	4.6	4.1	青灰(5BG5/1)	暗青灰(10BG4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	口~底	2/36	22/36	自然軸				
48	79	P440	12G20	1	12G20, 12H16	須恵器(古代)	有台杯	A	長・石	B	13.7	8.6	3.9	紫灰(5P5/1)	青灰(5PB5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ナデ	口~底	13/36	36/36					
48	80	P908	11H5	3・6	10I17, 11H5・25, 11I1・6	土師器(古代)	小甕	B	長・石・赤	-	7.7	-	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	体:カキメ・ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	体~底		36/36	炭化物	スス 底:刻書	変色(被熱)			
48	81	P725	14F19	3	14F19	縄文土器	深鉢		石・チ・海	20.0	-	-	にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい黄褐(10YR4/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	口	6/36				82・83と同一個体			
48	82	P725	14F19	3	14F19	縄文土器	深鉢		長・石・チ・海	-	-	-	にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい黄褐(10YR4/3)	酸化	ミガキ	沈線・斜縄文(LR) ミガキ	体					81・83と同一個体			
48	83	P725	14F19	3	14F19	縄文土器	深鉢		長・石・チ・海	-	6.1	-	にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい黄褐(10YR4/3)	酸化	ナデ	ミガキ	底		16/36			81・82と同一個体			
49	84	SK20	12F18			土師器(古墳)	壺	不明	長・石・チ・赤	-	-	-	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい橙(7.5YR6/4)	酸化	不明	ミガキ	体					内面剥落?			
49	85	SK20	12F18			土師器(古墳)	壺	底A	長・石・チ・赤	-	6.0	-	にぶい黄褐(10YR6/4)	灰黄褐(10YR4/2)	酸化	ナデ	ハケメ→ミガキ	体~底		27/36	体~底:炭化物	スス				



図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種別	器種		胎土		法量(cm)			色調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備考		
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内面			外面		内面	外面	遺存部位	口縁部	底部		内面	外面
														灰褐 (7.5YR4/2)	灰褐 (7.5YR4/2)		にぶい黄褐 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR5/4)								
49	86	SK20	12F17		12F17	土師器(古墳)	甕	B2	長・石・赤			20.8	-	-	灰褐 (7.5YR4/2)	灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	口:ハケメ 体:ハケメ→ナデ	ハケメ	口~体	3/36					
49	87	SK689	12F23	1・2		土師器(古墳)	甕	B1	長・石・赤			20.0	4.0	23.0	にぶい黄褐 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	ハケメ 口:ヨコナデ	ハケメ 口:ヨコナデ	口~底	35/36	32/36	体:炭化物	体:スス		
49	88	SK936	9K2・7			土師器(古墳)	器台	脚B				-	(12.4)	-	にぶい黄褐 (10YR7/3)	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	酸化	ナデ	ミガキ 赤彩	脚		3/36				
49	89	SK936	9K2・7	4		土師器(古墳)	器台	脚A				-	(16.8)	-	にぶい黄褐 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ナデ	ミガキ<赤彩	脚		3/36		赤色顔料		
49	90	SK936	9K2・7	5		土師器(古墳)	鉢	B1				-	-	-	にぶい黄褐 (10YR7/3)	にぶい黄褐 (10YR7/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	体						
49	91	SK936	9K2・7			土師器(古墳)	壺	J	石			12.8	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	口	4/36					
49	92	SK936	9K2・7			土師器(古墳)	壺	L				(7.8)	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	3/36					
49	93	SK936	9K2・7	1		土師器(古墳)	壺	J	石			-	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ミガキ・ナデ	ミガキ	体						
49	94	SK936	9K2・7		8J15・20,9K9	土師器(古墳)	壺	D	長・石・赤			18.0	-	-	にぶい黄褐 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ナデ	ミガキ	口~体	14/36				95と同一個体	
49	95	SK936	9K2・7		8J15・19・20・25	土師器(古墳)	壺	底A	長・石・赤			-	6.5	-	にぶい黄褐 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ナデ	ミガキ	体~底		36/36			94と同一個体	
49	96	SK936	9K2・7			土師器(古墳)	甕	不明	石・赤・雲			-	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	ヨコナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	頸~体						
49	97	SK936	9K2・7	2		土師器(古墳)	甕	B1	石・赤			(15.6)	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	褐灰 (10YR4/1)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	4/36		炭化物	スス		
49	98	SK936	9K2・7	5		土師器(古墳)	甕	B1	長・石・赤			(18.7)	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	3/36			スス		
49	99	SK936	9K2・7			土師器(古墳)	甕	B1	長			(21.8)	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	黒(7.5YR2/1)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	1/36			スス		
49	100	SK936	9K2・7			土師器(古墳)	甕	B1	長・石			(20.8)	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	2/36					
49	101	SK936	9K2・7			土師器(古墳)	甕	B2				(19.6)	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	灰黄褐 (10YR5/3)		ヨコナデ	ヨコナデ	口	1/36					
50	102	SK942	9K14			土師器(古墳)	壺	L				(7.7)	-	-	にぶい黄褐 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	口	2/36					
50	103	SK942	9K14			土師器(古墳)	甕	不明	長・石・赤・海			-	2.8	-	にぶい黄褐 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ナデ	ケズリ	体~底		36/36				
50	104	SK942	9K14			土師器(古墳)	甕	B1				(19.4)	-	-	黒褐 (10YR3/2)	黒褐 (10YR2/2)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	1/36		炭化物?	スス		
50	105	SK942	9K14			土師器(古墳)	甕	B2				(18.9)	-	-	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	1/36			スス		
50	106	SD108	11J3		11J3	土師器(古墳)	鉢	B1	長・石・雲			13.1	-	-	にぶい橙 (5YR6/4)	にぶい橙 (5YR6/4)	酸化	ミガキ 赤彩	ミガキ 赤彩	口~体	6/36					
50	107	SD108	11J7			土師器(古墳)	甕	B2	長・赤・雲			(17.5)	-	-	褐灰 (10YR5/3)	褐灰 (10YR4/1)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	3/36			スス		
50	108	SD108	10J19		P1050-1層	土師器(古墳)	甕	D1	長・石・雲			19.9	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	明褐 (7.5YR5/6)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	5/36			スス		
50	109	SD108	10J22			土師器(古墳)	手捏ね土器		長・雲			(8.0)	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ナデ	ナデ	口~体	3/36			スス		
50	110	SD109	9L1			土師器(古墳)	器台	B4				(10.8)	-	-	にぶい黄褐 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	口~受体	1/36					
50	111	SD109	8L21			土師器(古墳)	器台	B5	長・石			(13.7)	-	-	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	酸化	ミガキ	ミガキ	口~受体	3/36					
50	112	SD109	10I25			土師器(古墳)	器台		石・赤			-	-	-	灰白(2.5Y8/2)	灰白(2.5Y8/2)	酸化	受:ミガキ 脚:ナデ	ミガキ	受底~脚						
50	113	SD109	10J12			土師器(古墳)	高杯	脚B				-	(10.2)	-	灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ナデ	ミガキ	脚		2/36				
50	114	SD109	9K8		8J13	土師器(古墳)	壺	D	長・石・赤			16.5	-	-	浅黄褐 (7.5YR8/3)	にぶい黄褐 (10YR7/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	口~頸	1/36				内外面剥れ	
50	115	SD109	9K5		8K18,9K4・9	土師器(古墳)	壺	A1	長・海			-	-	-	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	酸化	ミガキ	ハケ→ミガキ	頸~体					体内面剥落	
50	116	SD109	9~15F~L	1		土師器(古墳)	壺	不明	石			-	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	酸化	ナデ ケズリ	ナデ	口~体						
50	117	SD109	9K8			土師器(古墳)	甕	B2	石			(19.9)	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ 口:ハケメ	口	2/36			スス		

図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種 別	器 種		胎 土		法 量(cm)			色 調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備 考		
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内 面			内 面	外 面	内 面	外 面	遺存部位	口縁部	底部		内 面	外 面
														にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)											
50	118	SD109	9K5			土師器(古墳)	甕	B1			-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR5/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	2/36						
50	119	SD109	9K5, 9L1			土師器(古墳)	甕	B1	長		17.1	-	-	黄灰(2.5Y4/1)	黒褐(2.5Y3/1)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~体	6/36		炭化物	スス			
50	120	SD109	10J12			土師器(古墳)	甕	B2	長・石・雲	(16.8)	-	-	灰黄褐 (10YR4/2)	黒褐 (10YR3/2)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	3/36							
50	121	SD109	9K5			土師器(古墳)	甕	B2	長・赤・海	(16.4)	-	-	褐灰 (10YR4/1)	褐灰 (10YR4/1)	酸化	ヨコナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	5/36※							
50	122	SD109	8L21, 9K5			土師器(古墳)	壺	L			-	4.5	-	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ナデ	ケズリ	底		36/36		スス			
50	123	SD109	10J4			土師器(古墳)	甕	不明	長・石・赤		-	4.0	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ケズリ	体:ケズリ 底:ナデ	体~底		36/36	炭化物?				
50	124	SD109	11I11		P118-1層・835, 10J8, 11I11・16	弥生土器	甕		長・石		33.5	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ミガキ	ミガキ・羽状沈線文・条痕	口~体	6/36※						
50	125	SD109	13G10, 13G5・10, 13H6・12			縄文土器	深鉢		石・チ		15.4	5.6	14.3	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	入組文・沈線区画内充填斜 縄文(LR)	口~底	20/36	31/36			底内面荒れ		
51	126	SD110	9J19			土師器(古墳)	高杯	A?	長・雲	(11.8)	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ミガキ?	ミガキ?	口	3/36							
51	127	SD110	10J1			土師器(古墳)	高杯	脚B	長		-	(13.2)	-	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ナデ	ミガキ	脚		3/36					
51	128	SD110	9J19			土師器(古墳)	器台	脚B	赤・海		-	11.5	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ナデ	ミガキ・ケズリ	脚		6/36					
51	129	SD110	9J19		9J2・18	土師器(古墳)	鉢	A	長・石		-	3.2	-	にぶい橙 (2.5YR6/4)	明赤褐 (2.5YR5/6)	酸化	ナデ 口:赤彩	ミガキ・赤彩	口~底		36/36					
51	130	SD110	9J18			土師器(古墳)	甕	B1	海	(21.0)	-	-	-	灰黄(2.5Y6/2)	浅黄(2.5Y7/3)	酸化	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ	口	2/36						
51	131	SD110	13G11		13G11	土師器(古墳)	甕	B2			18.0	-	-	褐(7.5YR4/3)	灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	ハケメ→ナデ	ハケメ	口~体	6/36			スス			
51	132	SD110	9J19			土師器(古墳)	甕	B2	長	(16.6)	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	黒(10YR2/1)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケ	口~体	3/36		口:炭化物?	スス				
51	133	SD111	8K8			土師器(古墳)	壺	N	長		-	-	-	にぶい橙 (2.5YR6/4)	にぶい橙 (2.5YR6/4)	酸化	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	口							
51	134	SD111	8K11			土師器(古墳)	壺	G	長・赤	13.6	-	22.9	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	口:ハケメ→ヨコナデ 体:ハケメ→ナデ	口:ハケメ→ヨコナデ 体:ハケメ	口~底	14/36※						
51	135	SD868	10K1			土師器(古墳)	壺	I		(9.9)	-	-	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	酸化	ナデ	ミガキ 赤彩	口	1/36							
51	136	SD925	11I9		排土	土師器(古墳)	高杯	脚A	長		-	-	-	浅黄橙 (10YR8/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	杯:ナデ? 脚:ナデ	ミガキ	杯~脚							
51	137	SD925	10J12		SD109-(10J12)	土師器(古墳)	鉢	D	長	14.0	-	10.5	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ・ケズリ	口~底	4/36※						
51	138	SD984	13G1			土師器(古墳)	鉢	A	赤		-	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	口							
51	139	SD984	12G17・22			土師器(古墳)	壺	G	長・石・チ・ 海	16.6	-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ミガキ	口~体	8/36						
51	140	SD984	12G22・23			土師器(古墳)	壺	G?	長・海		-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ 体:ミガキ	口~体							
51	141	SD984	12G22・23			土師器(古墳)	壺	G	長・海	14.8	-	-	-	灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	9/36			スス			
51	142	SD984	10I12	1	SI307, SD63-(10I18), 10I14, 10J1・6	土師器(古墳)	甕	C1	長・石・チ	(17.2)	-	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ 体:ハケメ→ナデ	口~体	8/36※		口:スス				
51	143	SX97	8L11			土師器(古墳)	高杯	B	長	14.0	8.6	11.9	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ナデ	ミガキ	口~脚	27/36	14/36					
51	144	SX97	8L11			土師器(古墳)	甕	B1	石	17.8	-	23.7	-	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ・ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ・ケズリ	口~底	36/36	36/36	体:炭化物	体:スス			
52	145	SX97	8L11		8L12, 東暗14(8L9)	土師器(古墳)	甕	B2	長・赤・雲・ 海	27.4	-	-	-	にぶい赤褐 (7.5YR5/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~体	11/36※						
52	146	SX97	8L11			土師器(古墳)	甕	B2	海	(16.9)	-	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	3/36			スス			
52	147	SX97	8L11			土師器(古墳)	甕	C1	長・チ	(16.0)	-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	3/36			スス			
52	148	SX870	8L8			土師器(古墳)	器台	B1	赤		-	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ミガキ	ミガキ	受							
52	149	SX946	10K1		SD110-(9J19), 9J17, 10K6	土師器(古墳)	壺	H	長・チ		-	-	-	赤褐 (2.5YR4/6)	赤(5R4/6)	酸化	口:ハケメ・赤彩 体:ナデ	ミガキ・赤彩	口~体				スス			

図版 No	報告 No	出土位置		接合関係	種別	器種		胎土		法量(cm)			色調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備考			
		遺構名	グリッド			層位	器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内面		外面		内面	外面	遺存部位	口縁部	底部		内面	外面	
														明赤褐 (5YR5/6)		明赤褐 (5YR5/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)									にぶい黄橙 (10YR5/4)
52	150	SX946	9J25, 9K21, 10J4・5・9・10, 10K1		土師器(古墳)	壺	L	長		(7.5)	-	-	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	酸化	ミガキ	ミガキ	口	2/36							
52	151	SX946	10K1		土師器(古墳)	甕	B2			18.0	-	-	明黄橙 (10YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	口:ヨコナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	2/36							
52	152	SX946	10K1		土師器(古墳)	甕	不明	長・石		-	4.0	-	黒(10YR2/1)	にぶい黄橙 (10YR5/4)	酸化	ナデ	体:ハケメ 底:ナデ	口~底		18/36	炭化物	スス				
52	153	P933	10J5, 10K1		土師器(古墳)	器台?				-	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	ミガキ	ミガキ	受~脚								
52	154	P933	10J5, 10K1	1	土師器(古墳)	鉢	B1	長・石・赤・ 海		15.5	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	黒(5Y2/1)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~体	35/36			スス				
52	155	P933	10J5, 10K1	1	土師器(古墳)	壺	G	長		(13.8)	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	3/36※							
52	156	P933	10J5, 10K1	1	土師器(古墳)	甕	B2	チ・海		(20.6)	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	黒褐 (10YR3/1)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	1/36			スス				
52	157	P1050	10J19	1	土師器(古墳)	壺	L	チ		(8.4)	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ	口	2/36							
52	158	-	10I16・17・21・ 22, 11I2	V	須恵器(古代)	無台杯	A	長・石・白	B	-	8.0	-	灰白(5Y7/2)	灰白(5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り	体~底		31/36	底:刻書					
52	159	-	10I17・21・22	V	須恵器(古代)	無台杯	B1	長	A	13.8	10.1	3.8	灰(7.5Y6/1)	灰白(7.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	3/36	33/36		底:黒斑				
52	160	-	13G4・5・10, 13H11	V	須恵器(古代)	無台杯	B1	長・チ	B	13.8	9.5	3.5	灰白(5Y7/1)	灰白(5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	11/36※	24/36						
52	161	-	15F12	V	須恵器(古代)	無台杯	B1	長・海	A	13.6	9.6	3.3			還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	2/36	16/36						
52	162	-	13G10	V	須恵器(古代)	無台杯	B1		A	13.8	9.7	3.5	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰白(10Y8/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	6/36	15/36						
52	163	-	13H2・12	V	須恵器(古代)	無台杯	BII	長	A	13.3	8.2	3.4		灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	1/36	12/36		体:スス				
52	164	-	8K2	V	須恵器(古代)	無台杯	BII	長	B	12.8	7.6	3.5	灰白(2.5Y8/1)	灰白(2.5Y8/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	9/36	13/36	底:炭化物	底:スス				
52	165	-	13H7	V	須恵器(古代)	無台杯	BII	長	D	-	7.6	-	灰白(5Y7/1)	灰白(5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	体~底		32/36						
52	166	-	12G25, 12H21, 13G5	V	須恵器(古代)	無台杯	D	白	E	(14.0)	(6.0)	(4.1)	灰(N5/1)	灰(N4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	口~底	2/36	15/36※						
53	167	-	10J17	V	須恵器(古代)	無台杯	C	白	C	13.3	-	-	灰(7.5Y5/1)	灰(N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	口~体	6/36							
53	168	-	12H24	V	須恵器(古代)	無台杯	C	白	C	12.4	7.5	3.1	灰白(5Y7/1)	灰白(5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	20/36	31/36		擦痕 (工具痕?)				
53	169	-	13G20, 13H16	V	須恵器(古代)	無台杯	C	長	C	11.8	6.6	3.0	灰(N6/)	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	7/36	15/36	口:炭化物					
53	170	-	10I8・9, 10J21	V	須恵器(古代)	無台杯	C	白・海	C	11.8	7.0	3.1	灰(N4/)	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	6/36	22/36						
53	171	-	7L23	V	須恵器(古代)	無台杯	C	長	C	12.6	7.4	3.3	灰(N5/)	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	口~底	7/36	18/36	底:炭化物					
53	172	-	9J18, 10I5・9・ 10, 10J18	V	須恵器(古代)	無台杯	C	長	C	12.8	7.6	3.3	灰白(N7/)	灰黄(2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	口~底	22/36※	9/36		スス				
53	173	-	13F16・17	V	須恵器(古代)	有台杯	A	長・チ	B	14.2	11.0	4.4			還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ナデ・ロクロナデ	口~底	9/36	34/36		擦痕 (工具痕?)				
53	174	-	9J24, 10J5	V	須恵器(古代)	有台杯	A	長	D	-	10.0	-			還元	ロクロナデ	ロクロナデ	体~底		15/36						
53	175	-	14G4	V	須恵器(古代)	有台杯	A	長・石	B	13.4	8.7	3.8	灰(N6/)	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	1/36	11/36						
53	176	-	14F14・15・18	V	須恵器(古代)	有台杯	A	長・石・チ	A	13.0	8.0	4.1	橙(5YR7/8)	橙(5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り→ナデ	口~底	2/36	9/36						
53	177	-	12G20・25	V	須恵器(古代)	有台杯	B?		B	-	7.0	-	灰(N6/)	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ナデ	底		33/36						
53	178	-	11H5・10	V	須恵器(古代)	有台杯	B	長	A	9.4	4.9	4.4	灰(N5/1)	灰(N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	口~底	5/36	36/36						
53	179	-	12I11	V	須恵器(古代)	杯蓋	A	長	D	15.8	-	2.9			還元	ロクロナデ	天:ロクロケズリ 体:ロクロナデ	つまみ~ 口	4/36							
53	180	-	10I18・23, 11J2	V	須恵器(古代)	杯蓋	B	長	A	15.2	-	3.0	灰(N5/)	灰(N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	つまみ~ 口	7/36			自然軸				
53	181	-	14F25	V	須恵器(古代)	杯蓋	?	長	B	-	-	-	黄灰(2.5Y6/1)	黄灰(2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	天:ロクロケズリ→ロクロナデ 体:ロクロナデ	つまみ~ 体				自然軸				
53	182	-	10I15	V	須恵器(古代)	杯蓋	B	長	A	14.8	-	3.1	灰(5Y4/1)	黄灰(2.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	つまみ~ 口	16/36		墨痕・磨耗	自然軸				
53	183	-	13F25	V	須恵器(古代)	杯蓋	C	長	C	14.4	-	2.2	灰(N5/)	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	つまみ~ 口	1/36		墨痕・磨耗					

図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種別	器種		胎土		法量(cm)			色調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備考	
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内面	外面		内面	外面	遺存部位	口縁部	底部	内面	外面		
																									内面
53	184	-	14E11	V		須恵器(古代)	高杯		長	C	-	-	-	灰(N4/)	灰(N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	脚						杯部・脚部の欠損 意図的?
53	185	-	15F12	V		須恵器(古代)	鉢		長	B	33.8	-	14.8	灰(5Y5/1)	灰(5Y5/1)	還元	口:ロクロナデ 体:ヨコナデ・カキメ 底:ナデ	口~体:ロクロナデ 底:ナデ	口~底	15/36※	15/36				
53	186	-	13H2	V		須恵器(古代)	長頸壺		長	C	-	-	-	灰(N5/)	灰(N4/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	頸						
53	187	-	東略40(14G15)	V		須恵器(古代)	長頸壺		長	C	-	13.9	-	灰(N5/1)	灰(N5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	体~底		5/36	底:自然釉			
54	188	-	東略36(13H14)	V		須恵器(古代)	長頸壺		長	C	-	-	-	灰(N6/)	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ロクロナデ	体~底			底:自然釉		高台貼付部分調整	
54	189	-	13G20	V		須恵器(古代)	長頸壺		長	A	-	-	-	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	体						
54	190	-	13G20	V		須恵器(古代)	長頸壺		長	C	-	8.4	-	灰(N5/)	暗灰(N3/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	体~底		4/36	底:自然釉			
54	191	-	11H14・15・18・ 19・20, 11H18	V		須恵器(古代)	壺蓋(短頸 壺?)		長	B	15.2	-	5.1	灰(N6/)	灰(N5/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	つまみ~ 口	19/36※				自然釉	
54	192	-	8K10, 12H8	V		須恵器(古代)	短頸壺		長	B	-	11.5	-	黄灰(2.5Y6/1)	黄灰(2.5Y6/1)	還元	体:ロクロナデ	体:タタキ・ナデ 底:ナデ	体~底		3/36	底:自然釉	自然釉		
54	193	-	10G25	V		須恵器(古代)	壺蓋(短頸 壺)			A	13.8	-	-	灰(5Y6/1)	暗オリーブ (7.5Y4/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	体~口	13/36				自然釉	194に密着して 出土
54	194	-	10G25, 9K18	V		須恵器(古代)	短頸壺			A	11.1	9.1	15.8	灰(N6/)	灰オリーブ (5Y5/3)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	口~底	32/36	29/36			自然釉	193に密着して 出土
54	195	-	7K18・23・24, 9J9	V		須恵器(古代)	甕	A	長	A	36.9	-	-	灰(N6/)	灰(N5/)	還元	当て具痕	タタキメ	口~体	6/36				自然釉	
54	196	-	13F15	V		須恵器(古代)	甕	A	長・石	B	35.0	-	-	灰(N4/)	暗灰(N3/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	口	3/36					
54	197	-	9I25, 9J18・19, 9K2	V		須恵器(古代)	甕	B		A	(25.3)	-	-	オリーブ灰 (2.5GY5/1)	オリーブ灰 (2.5GY4/1)	還元	当て具痕	タタキメ	口~体	1/36					
55	198	-	13G16	V		須恵器(古代)	甕	A	長	C	(30.0)	-	-	灰(N5/)	灰(7.5Y5/1)	還元	当て具痕	タタキメ	口~体	4/36					
55	199	-	11I18, 11J7, 12G15, 12H21, 13G5, 13H1	V		須恵器(古代)	甕	B		B	24.5	-	-	灰(N6/)	灰白(N7/)	還元	当て具痕	タタキメ	口~体	5/36					
55	200	-	15G1	V		土師器(古代)	無台杯	A			6.3	-	-	黒(N1.5/)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ナデ?	指頭痕	口~体	9/36				口~体:炭化 物	
55	201	-	14F16	V		黒色土器(古代)	無台杯	A	長・石・雲		-	3.5	-	黒(N1.5/)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ミガキ 黒色処理	体:ナデ 底:ケズリ	体~底		36/36				
55	202	-	14G21, 15G1	V		土師器(古代)	無台杯	A	長		7.0	4.0	3.2	にぶい褐 (7.5YR5/4)	明褐 (7.5YR5/6)	酸化	ミガキ	口:ヨコナデ 体~底:ナデ	口~底	10/36	13/36			口~体:炭化 物	
55	203	-	14F25, 14G21	V		黒色土器(古代)	無台杯	B2	石・雲		7.6	5.2	3.5	黒(N1.5/)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	ミガキ 黒色処理	ナデ	口~底	2/36	29/36				
55	204	-	14F25	V		黒色土器(古代)	無台杯	B2	長		8.1	5.0	3.4	黒(N1.5/)	黒(N2/)	酸化	ミガキ 黒色処理	ナデ	口~底	3/36	15/36				
55	205	-	15F5, 15G1	V		土師器(古代)	無台杯	B2	石・チ		8.8	5.6	3.7	にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ミガキ	ナデ	口~底	5/36	35/36				
55	206	-	14G21, 15G1	V		黒色土器(古代)	無台杯	B2	長・雲		8.2	5.6	3.6	黒(N1.5/)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	ミガキ 黒色処理	ナデ	口~底	12/36	32/36				
55	207	-	14G13	V		黒色土器(古代)	無台杯	B2	長		9.0	5.8	3.3	黒(N1.5/)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ミガキ 黒色処理	ナデ	口~底	31/36	36/36				
55	208	-	14F25, 14G21, 15G1	V		黒色土器(古代)	無台杯	B2	長・雲		8.8	6.2	3.0	黒(N1.5/)	黒(N1.5/)	酸化	ミガキ 黒色処理	ナデ	口~底	4/36	35/36				
55	209	-	15F4・5, 15G1	V		土師器(古代)	無台杯	B2	長		8.8	6.1	3.2	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ミガキ	ナデ	口~底	9/36	33/36			口:炭化物	
55	210	-	8K2・4	V		土師器(古代)	無台杯	C	長・石		10.3	5.8	5.8	にぶい黄 (2.5Y6/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ナデ 体~底:ハケ	ナデ	口~底	14/36	32/36				
56	211	-	10I13, 19	V		土師器(古代)	無台碗	A1Ⅱ	長・赤		13.3	5.7	3.9	にぶい黄橙 (10YR6/3)	橙(5YR6/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	口~底	3/36	14/36				
56	212	-	8K23, 8L2	V		土師器(古代)	無台碗	A2Ⅱ	長・赤		12.0	4.6	4.1	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	口~底	5/36	27/36				
56	213	-	東略15(8L18)	V		土師器(古代)	無台碗	B	長・石・赤		11.8	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	口~体	8/36					
56	214	-	8K10	V		土師器(古代)	無台碗	A2Ⅱ	長・石・赤		11.6	4.2	4.1	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	口~底	20/36	36/36				
56	215	-	8L8・17 東略15(8L18)	V		土師器(古代)	無台碗	A2Ⅱ	長・石		12.5	5.2	4.1	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	口~底	4/36	15/36				
56	216	-	8L3	V		土師器(古代)	無台碗	A2Ⅱ	長・赤		11.8	4.4	4.4	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	口~底	4/36	11/36			口:スス	
56	217	-	8L2	V		土師器(古代)	無台碗	A2Ⅱ	石・赤		12.3	5.4	4.1	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	口~底	27/36	36/36			口:炭化物	口:スス 体:スス 底:スス



図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種別	器種		胎土		法量(cm)			色調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備考		
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内面			内面	外面	内面	外面	遺存部位	口縁部	底部		内面	外面
														灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)											
56	218	-	8L12・13・17	V		土師器(古代)	無台碗	A2II	長・チ			12.8	5.0	4.2	灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 底:系切り	口:ヨコナデ 底:系切り	口~底	9/36	36/36		口:スス		
56	219	-	11I18・19	V		土師器(古代)	無台碗	A2II	長・石・赤			12.8	5.6	4.5	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 底:系切り	口:ヨコナデ 底:系切り	口~底	14/36	14/36	口:炭化物	スス 底:刻書		
56	220	-	15F5, 15G5	V		土師器(古代)	無台碗	A2II	長・赤			13.2	5.7	4.8	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	口:ヨコナデ 底:系切り	口:ヨコナデ 底:系切り	口~底	32/36	36/36				
56	221	-	8K24	V		土師器(古代)	無台碗	B	長・石			12.6	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	口:ヨコナデ	ミガキ	口~体	5/36					
56	222	-	13H17	V		土師器(古代)	無台碗	A I	長・石・チ			20.8	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ナデ	口:ヨコナデ	口~体	7/36※			スス	224と同一個体	
56	223	-	東暗36(13H14)	V		土師器(古代)	無台碗	A I	長			-	8.5	-				口:ヨコナデ	口:ヨコナデ 底:系切り	体~底		8/36		底:スス		
56	224	-	13H17	V		土師器(古代)	無台碗	A I	長・石・チ			-	10.0	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ナデ	口:ヨコナデ 底:系切り	体~底		13/36		スス	222と同一個体	
56	225	-	8L12・13 東暗15(8L18)	V		黒色土器(古代)	無台碗	A I	石			-	7.2	-	黒(N2/)	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	酸化	ミガキ 黒色処理	ミガキ 底:ヘラ切り	体~底		22/36			底:刻書	
56	226	-	東暗27(11J11)	V		黒色土器(古代)	無台碗	A II				14.3	4.8	4.9	黒(N1.5/)	にぶい黄橙 (7.5YR5/4)	酸化	ミガキ 黒色処理	ミガキ	口~底	10/36	5/36				
56	227	-	8L16	V		黒色土器(古代)	無台碗	A II				13.8	-	-	黒(N2/)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ミガキ 黒色処理	口:ヨコナデ	口~体	1/36					
56	228	-	12H1	V		土師器(古代)	皿		石・海	(13.7)	-	-			橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	酸化	ミガキ 赤彩	ミガキ 赤彩	口~体	1/36					
56	229	-	10G25, 11G9	V		土師器(古代)	皿		長			15.9	9.0	3.2	明赤褐 (5YR5/6)	明褐 (7.5YR5/6)	酸化	ミガキ 赤彩	ミガキ 赤彩	口~底	7/36	10/36				
56	230	-	8L6・8	V		土師器(古代)	有台皿		長・赤			12.8	5.8	3.4	にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ミガキ	ナデ	口~底	24/36	29/36	口:炭化物	口:スス	外面荒れ	
56	231	-	8K15	V		土師器(古代)	有台皿か碗					-	5.6	-	にぶい黄橙 (2.5YR6/4)	にぶい黄橙 (5YR6/4)	酸化	ミガキ 赤彩	ミガキ 赤彩	高台		9/36				
56	232	-	11G21, 12G2・ 17	V		黒色土器(古代)	高杯		長・石・チ			-	7.2	-	黒(N1.5/)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	杯:ミガキ 黒色処理 脚:ナデ・ハケメ	ミガキ	杯~脚		22/36				
56	233	-	10H10, 10I14・ 16・24	V		土師器(古代)	高杯		長・赤・海			-	-	-	にぶい赤褐 (5YR5/4)	明赤褐 (5YR5/6)	酸化	ミガキ 赤彩	ミガキ 赤彩	口~杯底						
56	234	-	9K6, 10J9・13・ 14	V		土師器(古代)	鉢	B	長・石	(13.0)	-	-			にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	酸化	ミガキ	口:洗線 ミガキ・ケズリ	口~体	5/36※					
56	235	-	11I22, 11J22	V		土師器(古代)	鉢	C?	赤・石			-	10.5	-				口:ヨコナデ 赤彩?	口:ヨコナデ 赤彩?	体~底		7/36				
57	236	-	13G2	V		土師器(古代)	小甕	A	長・雲・海			12.8	-	-	にぶい黄橙 (7.5YR5/4)	にぶい黄橙 (7.5YR5/4)	酸化	口:ヨコナデ	口:ヨコナデ→ハケメ 体:ハケメ	口~体	8/36		口:炭化物	スス	非ロクロ	
57	237	-	13G3	V		土師器(古代)	小甕	A	石・海			14.8	-	-	灰褐 (7.5YR4/2)	灰褐(5YR5/2)	酸化	口:ヨコナデ	口:ヨコナデ→ハケメ 体:ハケメ	口~体	5/36		口:炭化物	スス	非ロクロ	
57	238	-	9I25, 9J21・24	V		土師器(古代)	小甕	A	石・赤			13.5	-	-	明黄褐 (10YR7/6)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	5/36		口:炭化物			
57	239	-	10I19, 11G8	V		土師器(古代)	小甕	A	長・石・チ・ 赤			15.5	-	-	にぶい黄褐 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	13/36		口:炭化物			
57	240	-	7K19・23, 8K3	V		土師器(古代)	小甕	A	石・雲			14.4	7.0	17.1	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ→ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ→ナデ	口~底	7/36※	18/36		口:スス 体:スス	非ロクロ	
57	241	-	8J14	V		土師器(古代)	小甕	B	長	(15.3)	-	-			にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:カキメ	口:ヨコナデ 体:カキメ	口~体	1/36					
57	242	-	10H25, 11H5	V		土師器(古代)	小甕	B	長・チ・赤			14.6	-	-	浅黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい黄橙 (7.5YR7/4)	酸化	口:ヨコナデ	口:ヨコナデ 体:カキメ	口~体	20/36※		口:炭化物			
57	243	-	12G20・24・25	V		土師器(古代)	小甕	B	長・石・チ			-	7.6	-	にぶい黄褐 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (7.5YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ	口:ヨコナデ 底:ナデ	体~底		21/36	体:炭化物	体:スス		
57	244	-	9J11	V		土師器(古代)	小甕	B	長・石・チ・ 赤			-	7.3	-	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (7.5YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ	体:不明 底:系切り	体~底		33/36			変色(被熱)?	
57	245	-	12G22	V		土師器(古代)	長甕	A2	石・チ			18.0	-	-	黒(10YR2/1)	灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~体	3/36		炭化物	体:スス		
57	246	-	10G10・15, 10H6	V		土師器(古代)	長甕	A2a	長・石・チ・ 赤			18.0	10.0	28.7	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ 底:ナデ	口~底	11/36※	36/36	体:炭化物 底:炭化物	口:スス 体:スス		
57	247	-	13F9	V		土師器(古代)	長甕	A2	チ・雲・海			21.6	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	2/36※					
57	248	-	9K15	V		土師器(古代)	長甕	A2	長・チ・赤			19.0	-	-	明赤褐 (2.5YR5/6)	にぶい黄橙 (7.5YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	5/36			スス		

図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種別	器種		胎土		法量(cm)			色調		焼成	製作痕・文様等		遺存率		付着物・使用痕跡等		備考			
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内面	外面		内面	外面	内面	外面	遺存部位	口縁部		底部	内面	外面
57	249	-	8L7-8, 9K18 試掘70T	V		土師器(古代)	長甕	B1	長・石・赤		22.8	-	-	橙(2.5YR6/8)	橙(7.5YR7/6)	酸化	口:ロクロナデ 体:カキメ・ハケメ	口:ロクロナデ 体:カキメ・ハケメ	口~体	6/36						
57	250	-	10H3・12	V		土師器(古代)	長甕	B1	長・石・赤		23.0	-	-	にぶい橙 (5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	口:ロクロナデ 体:カキメ・ハケメ	口:ロクロナデ 体:カキメ・ハケメ	口~体	3/36						
57	251	-	10J11・16	V		土師器(古代)	長甕	B2	石・赤		18.4	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (5YR6/4)	酸化	口:ロクロナデ 体:カキメ	口:ロクロナデ 体:カキメ	口~体	14/36※						
57	252	-	10I24	V		土師器(古代)	甕	佐渡型	長		23.1	-	-	灰褐 (7.5YR5/2)	灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	ハケメ	ナデ ハケメ	口~体	4/36			スス			
58	253	-	14F7	V		土師器(古代)	甕	佐渡型	石・赤・海		25.8	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ナデ	ナデ	口~底	6/36		体:炭化物	スス			
58	254	-	13F9	V		土師器(古代)	長甕	A	長・赤・雲		-	10.0	-	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ナデ	ケズリ ナデ	体~底		15/36		スス	輪積み痕顕著		
58	255	-	13F15, 13G11	V		土師器(古代)	長甕	A	長		-	8.8	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	体:ハケメ 底:ナデ・ハケメ	体:ケズリ 底:木葉痕	体~底		19/36					
58	256	-	11G23	V		土師器(古代)	長甕	A	石・赤		-	8.0	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ハケメ	体:無調整? 底:ナデ・棒痕	体~底		17/36					
58	257	-	12G24, 12H16	V		土師器(古代)	長甕	A	長		-	7.0	-	灰褐 (7.5YR5/2)	灰褐 (7.5YR5/2)	酸化	ハケメ	体:ケズリかナデか不明 底:木葉痕	体~底		33/36					
58	258	-	7K23・24	V		土師器(古代)	長甕	A	長・石・赤		-	9.8	-	にぶい黄橙 (10YR7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ナデ	体:ナデ? 底:ナデ・葉脈痕?	体~底		30/36		底:砂			
58	259	-	10I25, 11I4・5・6	V		土師器(古代)	長甕	A2a	長・赤		-	7.4	-	にぶい橙 (5YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ハケメ	体:ハケメ 底:ハケメ	体~底		23/36	炭化物	スス			
58	260	-	10I5・15, 11I16・17, 東暗26(11J7)	V		土師器(古代)	長甕	A2a	長・石・赤		-	8.9	-	浅黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	体:ハケメ 底:ナデ	体:ハケメ 底:ナデ	体~底		34/36					
58	261	-	10G25, 10I11, 11I2	V		土師器(古代)	長甕	A	石・赤		-	7.0	-	浅黄橙 (10YR8/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ナデ	ナデ 底:ハケメ	体~底		36/36					
58	262	-	10H2・21, 10I19, 10J5, 13F11, 13H11・ 16, 出土地点不明	V		土師器(古代)	長甕	A2b	長・石・赤		-	5.6	-	灰黄褐 (10YR6/2)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	体:ハケメ 底:ナデ	体:ハケメ・ケズリ 底:ナデ	体~底		30/36					
58	263	-	10J18, 11I10, 11J1・6	V		土師器(古代)	長甕	B2	赤		-	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	当て具痕	タタキメ	体~底		20/36		スス			
58	264	-	12H20, 12I16	V		土師器(古代)	長甕	B2	長・赤・海		-	-	-	灰褐 (7.5YR4/2)	灰褐 (7.5YR5/2)	酸化	タタキメ→ハケメ	タタキメ→ハケメ	体~底		36/36	炭化物	スス			
58	265	-	11I8・12	V		土師器(古代)	鍋	A	長・石・赤		35.4	-	-	淡黄(2.5Y8/3)	灰白(2.5Y8/2)	酸化	口:ロクロナデ 体:ハケメ	口:ロクロナデ 体:ハケメ	口~体	9/36			体:スス			
59	266	-	東暗20・2 (9K23, 10K2・6)	V		土師器(古代)	鍋	B	長・石・赤・雲		(36.2)	-	-	浅黄橙 (7.5YR8/3)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 体:ケズリ	口~体	2/36			スス			
59	267	-	東暗39(14H6)	V		土師器(古代)	鍋	B	長・石・赤		(35.4)	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	口:ロクロナデ 体:ナデ	口:ロクロナデ 体:カキメ・ロクロナデ	口~体	3/36		炭化物				
59	268	-	9J20・25, 9K21, 10J2・6・ 11, 10K1	V		土師器(古代)	鍋	B	石・赤・雲		40.6	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	口:ロクロナデ 体:カキメ・当て具痕	口:ロクロナデ 体:カキメ・ケズリ・タタキメ	口~体	5/36		炭化物	スス			
59	269	-	10H12	V		土師器(古代)	製塩土器				26.2	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化			口~体	9/36				変色(被熱) 輪積み痕顕著		
59	270	-	10H12:22	V		土師器(古代)	製塩土器		赤・雲		-	(7.5)	-	にぶい橙 (5YR6/4)	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	酸化	体:ハケメ 底:無調整	ナデ	体~底		3/36				変色(被熱) 輪積み痕顕著	
59	271	-	14G8, 14H1	V		須恵器(古代)	無台杯	C	長	C	11.8	7.5	2.9	暗青灰 (5BG4/1)	暗青灰 (10BG4/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り	体~底	6/36	23/36		底:墨書			
59	272	-	11H15	V		須恵器(古代)	無台杯	C	長	C	12.8	8.0	2.8	灰(10Y5/1)	灰(10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り	体~底	5/36	17/36		体:墨書			
59	273	-	10J18	V		須恵器(古代)	無台杯	C	長	C	12.4	6.8	3.1	オリーブ灰 (2.5GY6/1)	オリーブ灰 (2.5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り	口~底	36/36	36/36		体:底:墨書			
59	274	-	13G17・22	V		須恵器(古代)	無台杯	C	長	C	12.8	7.6	2.8	オリーブ灰 (5GY5/1)	オリーブ灰 (2.5GY5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 底:ヘラ切り	口~底	5/36	15/36		底:墨書			
59	275	-	14F15	V		須恵器(古代)	無台杯	C		C	-	-	-					底					底:墨書			
59	276	-	14G21	V		土師器(古代)	無台碗	AII	長・石・赤		-	6.0	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	体~底		9/36		底:墨書			
59	277	-	13G19	V		土師器(古代)	無台碗	AII			-	6.0	-	暗灰黄 (2.5Y5/2)	にぶい黄 (2.5YR6/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	体~底		6/36		底:墨書			
59	278	-	13G20	V		土師器(古代)	無台碗	AII	長・石・赤		-	5.0	-	にぶい橙 (5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	体~底		8/36		底:墨書			
59	279	-	11J6	V		土師器(古代)	無台碗	AII	石・赤		-	5.0	-	灰黄褐 (10YR6/2)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ 底:糸切り	体~底		7/36		底:墨書			

図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種別	器種		胎土		法量(cm)			色調		焼成	製作痕・文様等		遺存率		付着物・使用痕跡等		備考			
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内面			外面		内面	外面	遺存部位	口縁部		底部	内面	外面
														浅黄 (2.5YR7/3)	浅黄 (2.5YR7/3)		にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)								
59	280	-	11H20・25	V		土師器(古代)	無台椀	A2II	長・石・チ			12.6	5.2	4.3	浅黄 (2.5YR7/3)	浅黄 (2.5YR7/3)	酸化	口クロナデ	口クロナデ 底:糸切り	口~底	2/36				底:墨書	
59	281	-	9K9・10	V		土師器(古代)	無台椀	AII	長・石・赤			13.4	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	口クロナデ	口クロナデ	口~体	5/36		口:炭化物	体:墨書		
59	282	-	東略14(8L9)	V		土師器(古代)	無台椀	AII	長・赤			12.8	-	-	灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	口クロナデ	口クロナデ	口~体	2/36				体:墨書	
59	283	-	8L17	V		土師器(古代)	無台椀	AII	長・石・赤			(14.3)	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	口クロナデ	口クロナデ	口~体	2/36				体:墨書	
60	284	-	8J14・15・20, 9K4・11	VI		土師器(古墳)	器台	A	長・チ・赤・ 海			21.7	-	-	にぶい褐 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ミガキ	口:ヨコナデ 杯底:ミガキ	杯	12/36					
60	285	-	9K2	VI		土師器(古墳)	高杯	A	赤			(17.7)	-	-	明赤褐 (2.5YR5/6)	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	酸化	ミガキ	ミガキ	杯	1/36					
60	286	-	8K11	VI		土師器(古墳)	高杯	A	長・石・海			22.0	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	杯:ミガキ 口:ヨコナデ	ミガキ	杯	5/36					
60	287	-	8K17・21・23, 9K2・7	VI		土師器(古墳)	高杯	A	長・石			-	-	-	明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	酸化	杯:ミガキ 脚:ナデ	ミガキ	杯~脚						
60	288	-	9J16・21	VI		土師器(古墳)	高杯	A	長・赤・海			-	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	杯						
60	289	-	8L3	VI		土師器(古墳)	高杯	B	長			-	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	酸化	器面の荒れにより不明	ミガキ	杯						
60	290	-	8I12	VI		土師器(古墳)	高杯	C	長・石・赤			14.8	-	-	暗灰(N3/)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	杯:ミガキ 脚:ナデ	ミガキ	杯~脚	13/36※					
60	291	-	8L7・8	VI		土師器(古墳)	高杯	C	長・石・赤			15.4	-	-	にぶい褐 (5YR6/4)	にぶい赤褐 (5YR5/4)	酸化	ミガキ	ミガキ	杯	9/36					
60	292	-	8L11・12・13・ 17	VI		土師器(古墳)	高杯	DI	長・石・赤			30.4	20.0	21.1	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	杯:ミガキ 脚:ナデ	ミガキ	杯~脚	5/36	20/36				
60	293	-	8I7・12, 排土	VI		土師器(古墳)	高杯	DI	長・赤			16.5	12.2	13.3	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ミガキ 脚:ナデ	ミガキ	杯~脚	9/36※	18/36				
60	294	-	7L25, 8L8	VI		土師器(古墳)	高杯	DI	長・石・赤・ 海			19.8	-	-	にぶい褐 (7.5YR6/4)	明褐 (7.5YR5/6)	酸化	ミガキ	ミガキ	杯	4/36					
60	295	-	7L15・18・19・ 24・25	VI		土師器(古墳)	高杯	DI	長・赤			-	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	ミガキ 脚:ナデ	ミガキ	杯~脚						
60	296	-	11I14・20, 11J7	VI		土師器(古墳)	高杯	DI	長・石・赤・ 雲			-	12.6	-	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	脚体:ケズリ 裾:ナデ	ミガキ	杯~脚		15/36				
60	297	-	8K7	VI		土師器(古墳)	高杯	脚A	長			-	12.6	-	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ハケメ・ナデ	ミガキ	脚		17/36				
60	298	-	8L11	VI		土師器(古墳)	高杯	脚A	長			-	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	褐灰 (10YR4/1)	酸化	ナデ	ミガキ	脚						
60	299	-	9J13・15・20・ 25	VI		土師器(古墳)	高杯	脚B	長・海			-	11.6	-	黒(10YR2/1)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ナデ・ハケメ	ミガキ	杯~脚		8/36				
60	300	-	8L6	VI		土師器(古墳)	高杯	脚B	長・石			-	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ハケメ	ミガキ ハケメ	脚						
61	301	-	8L11, 9J13	VI		土師器(古墳)	高杯	脚B	長・石・赤・ 海			-	14.2	-	褐(7.5YR4/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ナデ	ミガキ	脚		9/36				
61	302	-	7M12	VI		土師器(古墳)	高杯	脚B	長・石・海			-	12.7	-	にぶい褐 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ナデ	ミガキ	脚		13/36				
61	303	-	7L25 試掘70T	VI		土師器(古墳)	高杯	脚B	長・赤			-	-	-	橙(5YR7/6)	にぶい褐 (7.5YR7/4)	酸化	脚体:無調整 裾:ハケメ	ミガキ	脚						
61	304	-	8L6・7・11・13	VI		土師器(古墳)	高杯	脚B	長			-	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	褐(7.5YR4/3)	酸化	ナデ	ミガキ	脚					スス	
61	305	-	9K4・9	VI		土師器(古墳)	器台	B1	赤			9.6	-	-	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	酸化	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	受	8/36					
61	306	-	8K19・24, 9K5	VI		土師器(古墳)	器台	B1	長・赤			8.6	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	受:ミガキ 脚:ナデ	ミガキ	受~脚	20/36					
61	307	-	8L8・9	VI		土師器(古墳)	器台	B2	石・赤			8.5	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	ミガキ	ミガキ	受~脚	3/36		口:炭化物	口:スス		
61	308	-	8K8	VI		土師器(古墳)	器台	B3	長・赤			10.0	-	-	オリーブ褐 (2.5Y4/4)	黄褐(2.5Y5/3)	酸化	受:ミガキ 脚:ハケメ	ミガキ	受~脚	23/36					
61	309	-	6M14・19	VI		土師器(古墳)	器台	B3	長・石			9.7	-	-	にぶい褐 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR6/4)	酸化	受:ミガキ 脚:ナデ	ミガキ	受~脚	13/36※					
61	310	-	8L6	VI		土師器(古墳)	器台	B3	長・赤			6.9	-	-	明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	酸化	受:ミガキ・赤彩 脚:ナデ	ミガキ・赤彩	受~脚	4/36					
61	311	-	8L4	VI		土師器(古墳)	器台	B3?	長・チ・雲			-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	受:ミガキ 脚:ナデ	ミガキ	受~脚						

図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種 別	器 種		胎 土		法 量(cm)			色 調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備 考		
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内 面			内 面	外 面	内 面	外 面	遺存部位	口縁部	底部		内 面	外 面
														にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)											
61	312	-	7M16	VI		土師器(古墳)	器台	B2	長			9.5	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	受	18/36※					
61	313	-	12I21	VI		土師器(古墳)	器台	B4	長・雲			8.9	11.0	7.5	にぶい黄褐 (10YR6/4)	浅黄 (2.5YR7/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	受~脚	4/36	34/36				
61	314	-	9K9・13	VI		土師器(古墳)	器台	脚A	長・雲			-	13.0	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	ナデ	ミガキ	脚		2/36				
61	315	-	8J16, 9J6	VI		土師器(古墳)	器台	脚A	長			-	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	灰褐 (7.5YR5/2)	酸化	ナデ	ミガキ	脚						
61	316	-	8K15, 8L16・17	VI		土師器(古墳)	器台	脚B	赤			-	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ナデ・ハケメ	ミガキ	脚						
61	317	-	7M12・16	VI		土師器(古墳)	器台	脚B	長・雲			-	-	-	にぶい黄褐 (10YR4/3)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	酸化	ケズリ・ナデ	ミガキ	脚						
61	318	-	7K19・24, 8K7	VI		土師器(古墳)	器台	脚C	長・赤			-	10.5	-	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	脚:ナデ・ハケメ	ミガキ	脚		31/36				
61	319	-	11I2・3	VI		土師器(古墳)	器台	脚C	長・赤			-	13.3	-	灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ケズリ・ナデ	ミガキ	脚		14/36※				
61	320	-	10H5	VI		土師器(古墳)	器台	脚D	赤			-	7.8	-	にぶい黄褐 (10YR6/3)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化	ココナデ	ココナデ	脚		4/36				
61	321	-	9J24	VI		土師器(古墳)	鉢	A	長			16.4	-	-	にぶい褐 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	口~体	7/36※					
61	322	-	12I3	VI		土師器(古墳)	鉢	B1	長・石・海			13.8	-	-	褐(7.5YR4/3)	褐(7.5YR4/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~体	1/36					
61	323	-	7L24・25	VI		土師器(古墳)	鉢	C	長・赤			13.8	3.2	10.7	にぶい黄褐 (10YR7/4)	にぶい黄褐 (10YR7/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~底	3/36	11/36				
61	324	-	9K5	VI		土師器(古墳)	鉢	C	長			11.8	-	-	にぶい褐 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR6/4)	酸化	ナデ	ミガキ	口~体	2/36					
61	325	-	9K4	VI		土師器(古墳)	鉢	D	長・石・雲			-	3.8	-	にぶい黄褐 (10YR7/4)	にぶい黄褐 (10YR6/4)	酸化	ハケメ	ハケメ	体~底		36/36				
61	326	-	8K20	VI		土師器(古墳)	鉢	D	長			-	4.8	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ハケメ・ナデ 一部赤彩	ハケメ ナデ	体~底		7/36	炭化物	スス		
61	327	-	9J15	VI		土師器(古墳)	鉢	D	長・雲			-	2.0	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ナデ	ケズリ・ミガキ	体~底		22/36				
61	328	-	8L8	VI		土師器(古墳)	鉢	E	石・赤			17.8	-	-	黒褐 (7.5YR3/1)	黒褐 (7.5YR3/1)	酸化	口:ナデ 体:ハケメ	ハケメ	口~体	11/36※					
61	329	-	9J25	VI		土師器(古墳)	蓋		赤			-	-	-	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	酸化	ミガキ	ミガキ	つまみ~ 天				つまみ径3.2cm つまみ残30/36		
62	330	-	9H22	VI		土師器(古墳)	壺	A1	長			18.4	-	-	橙(2.5YR6/6)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	酸化	口:ミガキ・赤彩	口:ミガキ 頸:ハケメ	口~頸	12/36					
62	331	-	10H6	VI		土師器(古墳)	壺	A1	長・石・赤			22.0	-	-	にぶい黄褐 (7.5YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR7/2)	酸化	ミガキ	ココナデ	口	4/36					
62	332	-	10H12	VI		土師器(古墳)	壺	A2	石・赤			18.2	-	-	灰黄 (2.5YR6/2)	黄灰 (2.5YR6/1)	酸化	ミガキ	ミガキ	口	6/36					
62	333	-	8K15・20, 8L16	VI		土師器(古墳)	壺	B1	長・石・雲・ 海			21.6	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ	口:ヨコナデ 頸:ハケメ	口~頸	13/36※					
62	334	-	10G15, 10H11	VI		土師器(古墳)	壺	B2	長・石・赤			21.4	-	-	にぶい黄褐 (10YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~底	30/36				体部内面荒れ	
62	335	-	8K5・9・10	VI		土師器(古墳)	壺	B2	長・石・赤			14.6	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ミガキ	口~体	28/36					
62	336	-	9K21	VI		土師器(古墳)	壺	B2	赤			14.8	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄褐 (10YR6/3)					11/36※					
62	337	-	9K4	VI		土師器(古墳)	壺	C	長・雲			-	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ナデ	ココナデ	口						
62	338	-	8K1・2	VI		土師器(古墳)	壺	C	長・雲・海			-	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	ナデ	ココナデ	口~頸				口:炭化物		
62	339	-	8J14	VI		土師器(古墳)	壺	D	長・石			16.8	-	-	にぶい褐 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR6/4)	酸化	ココナデ	ココナデ	口	13/36※					
62	340	-	9J20	VI		土師器(古墳)	壺	D	石・赤			(19.5)	-	-	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	ミガキ	ミガキ	口	3/36					
62	341	-	10H3	VI		土師器(古墳)	壺	E	長・赤			21.8	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR6/4)	酸化	ココナデ・ハケメ	ココナデ	口	4/36※					
62	342	-	6M15	VI		土師器(古墳)	壺	F	長・石			15.0	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~体	1/36					
62	343	-	9I13	VI		土師器(古墳)	壺	G	長・赤			13.8	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	ミガキ	ミガキ	口~体	7/36					



図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種別	器種		胎土		法量(cm)			色調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備考			
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内面			外面		内面	外面	遺存部位	口縁部	底部		内面	外面	
														内面	外面		内面	外面									
62	344	-	東略31(12113)	VI		土師器(古墳)	壺	G	長			13.5	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ミガキ	ミガキ	口	2/36						
62	345	-	8J14	VI		土師器(古墳)	壺	G	長			10.3	-	-	明赤褐 (2.5YR5/6)	橙(5YR6/6)	酸化	ナデ	ハケメ	口	22/36※						
62	346	-	7M12	VI		土師器(古墳)	壺	N	石			-	-	-	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	にぶい橙 (2.5YR6/4)	酸化	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩						体(裝飾 指?)		
62	347	-	8J14	VI		土師器(古墳)	壺	不明	長・石・雲			-	-	-	褐(7.5YR4/4)	褐(7.5YR4/4)	酸化	ナデ ハケメ	ミガキ						体		
62	348	-	10H6	VI		土師器(古墳)	壺	底A	長・石・チ			-	8.4	-	黄灰(2.5Y5/1)	にぶい黄 (2.5Y6/3)	酸化		口:ハケメ 体:ナデ	体~底		36/36				内面荒れ	
62	349	-	9J18	VI		土師器(古墳)	壺	底A	長・海			-	5.8	-	黒褐 (10YR3/1)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ナデ	ミガキ							体~底	
62	350	-	8L8	VI		土師器(古墳)	壺	底A	長・石・チ・ 雲			-	7.5	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	体:ハケメ 底:ナデ	ハケメ							体~底	
63	351	-	9K2・8・9・12	VI		土師器(古墳)	壺	底B	長・チ			-	7.0	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ハケメ	ミガキ							体~底	
63	352	-	8J9	VI		土師器(古墳)	壺	底B	長・石			-	6.0	-	灰褐 (7.5YR5/2)	橙(5YR6/6)	酸化	ナデ	体:ハケメ 底:ナデ	体~底		36/36				スス	
63	353	-	8J14	VI		土師器(古墳)	壺	底C	長・石			-	7.7	-	暗灰黄 (2.5YR5/2)	灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	ミガキ	体:ハケメ 底:ケズリ→ナデ	体~底		36/36					
63	354	-	12H9	VI		土師器(古墳)	壺	底D	長・石			-	5.0	-	黒(10YR2/1)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ハケメ	ケズリ	底		36/36					
63	355	-	12H14	VI		土師器(古墳)	壺	底D	長・石・チ・ 赤			-	4.0	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ナデ	ミガキ							体~底	
63	356	-	6M8・9・14	VI		土師器(古墳)	壺	I	長・赤			11.5	5.5	18.3	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	口:ミガキ 体:ナデ	ミガキ	口~底	27/36	36/36					
63	357	-	8L2・8	VI		土師器(古墳)	壺	J	長			12.6	-	-	褐(7.5YR4/3)	褐(7.5YR4/3)	酸化	口:ミガキ 体:ナデ	ミガキ	口~体	5/36						
63	358	-	9K22	VI		土師器(古墳)	壺	J	赤			12.8	-	-	赤(10R5/6)	赤(10R5/6)	酸化	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	口	1/36						
63	359	-	8J19	VI		土師器(古墳)	壺	M	チ			9.7	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ→ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ→ナデ	口~体	5/36						
63	360	-	8L12	VI		土師器(古墳)	壺	M	長			9.6	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	16/36※						
63	361	-	8K3・25	VI		土師器(古墳)	壺	K	長			11.8	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ミガキ	ミガキ	口~体	12/36						
63	362	-	8J19・20	VI		土師器(古墳)	壺	M	長・チ			-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ケズリ→ナデ	ハケメ ナデ	体							体
63	363	-	7K24	VI		土師器(古墳)	壺	I	長・赤			-	-	-	灰黄褐 (10YR4/2)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	ナデ	ミガキ	体							体
63	364	-	9I8	VI		土師器(古墳)	壺	I	長			-	3.0	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ミガキ	ナデ	体~底		36/36					体:スス
63	365	-	8K7	VI		土師器(古墳)	壺	I	石・海			-	1.0	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	酸化	ナデ	ミガキ	体~底		36/36					
63	366	-	7M6	VI		土師器(古墳)	鉢	B2	チ・赤			11.9	-	-	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ・ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	5/36※						スス
63	367	-	8K2・6・7・17	VI		土師器(古墳)	鉢	B2	長・海			10.8	-	-	赤褐(5YR4/6)	赤褐(5YR4/6)	酸化	ミガキ・赤彩	ミガキ・赤彩	口~体	5/36						
63	368	-	7M16	VI		土師器(古墳)	壺	L	長・チ・赤			-	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ミガキ	口:ナデ 体:ナデ・ケズリ 底:ケズリ	口~底		36/36					
63	369	-	8K15	VI		土師器(古墳)	壺	L	チ			-	3.2	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	ハケメ	ナデ	体~底		36/36					
63	370	-	10I5	VI		土師器(古墳)	壺	L	チ・赤			-	-	-	にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	酸化	無調整 ナデ	ナデ	体~底		36/36					
63	371	-	8K3・6・7・8・18	VI		土師器(古墳)	甕	A	長・石・チ・ 赤			28.3	-	-	黒 (7.5YR1.7/1)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	ミガキ	口:ヨコナデ 頸:ハケメ・ミガキ	口~頸	5/36※						
63	372	-	10H11・16	VI		土師器(古墳)	甕	B1	長・チ・雲			18.3	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい褐 (10YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	19/36						スス
63	373	-	10H11・16	VI		土師器(古墳)	甕	B1	長			16.5	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	30/36						スス
63	374	-	8L4	VI		土師器(古墳)	甕	B1	長			16.8	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR4/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	6/36						
63	375	-	8L12・16・17	VI		土師器(古墳)	甕	B1	長・石			18.2	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ・ケズリ	口~体	11/36※						体:炭化物 スス

図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種 別	器 種		胎 土		法 量(cm)			色 調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備 考		
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内 面			外 面		内 面	外 面	遺存部位	口縁部	底部		内 面	外 面
														灰褐 (7.5YR4/2)	灰褐 (7.5YR4/2)		にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR6/4)								
64	376	-	試掘70T	VI		土師器(古墳)	甕	B1	長・石・赤		17.6	-	-	灰褐 (7.5YR4/2)	灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	5/36		炭化物	スス			
64	377	-	8K6	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・石・雲		(16.6)	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	4/36※			スス			
64	378	-	12I12・13	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・チ		(13.8)	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ 体:ナデ・ハケメ	口~体	5/36※		炭化物	スス			
64	379	-	6M22・23	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・石・チ		16.8	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	6/36			スス			
64	380	-	8K6	VI		土師器(古墳)	甕	B2	チ・赤		(11.0)	-	-	にぶい橙 (7.5YR7/3)	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~体	1/36						
64	381	-	6M14	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・雲		15.8	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~体	6/36※			スス			
64	382	-	12I7	VI		土師器(古墳)	甕	B2	石		(15.1)	-	-	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ハケメ	ハケメ	口	2/36			スス			
64	383	-	11J2・3	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・チ		13.8	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/3)	にぶい褐 (7.5YR6/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	4/36			スス			
64	384	-	8J19	VI		土師器(古墳)	甕	B2	石		(17.8)	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	2/36			スス			
64	385	-	東曙25-2 (11J3・7・11)	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・石・チ		21.9	-	-	黒 (10YR1.7/1)	黒褐 (10YR3/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	ケズリ	口~体	3/36						
64	386	-	12I12	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・チ・赤		16.8	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	暗灰黄 (2.5YR4/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ・ナデ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~体	5/36			スス			
64	387	-	12I12	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・赤		15.6	-	-	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ 体:ハケメ→ナデ	口~体	10/36			スス			
64	388	-	7M2・3	VI		土師器(古墳)	甕	B2	石		22.6	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	5/36						
64	389	-	8K25.9K4	VI		土師器(古墳)	甕	B2	石・チ		19.8	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ・ナデ	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口~体	6/36			体:炭化物	スス		
64	390	-	9J9・10・15	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長		29.8	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/4)	にぶい黄褐 (10YR5/4)	酸化	口:ハケメ・ヨコナデ 体:ハケメ	口:ハケメ・ヨコナデ 頸~体:ハケメ	口~体	12/36						
64	391	-	9J8	VI		土師器(古墳)	甕	B2	石・雲		17.6	-	-	にぶい褐 (7.5YR5/4)	にぶい褐 (7.5YR6/4)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	15/36※			スス			
65	392	-	9J12・13・18	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・石・赤・ 雲		20.8	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	8/36			スス			
65	393	-	12I7・12	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・赤		15.5	-	-	にぶい黄褐 (10YR6/4)	にぶい黄褐 (10YR7/4)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ・ナデ	口:ヨコナデ・ハケメ 体:ハケメ	口~体	18/36			スス			
65	394	-	13F9・10	VI		土師器(古墳)	甕	B2	石・赤		(19.0)	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	2/36			スス			
65	395	-	8L17	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・チ・赤		20.2	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ・ハケメ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	18/36						
65	396	-	10G20	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長・チ・赤		15.3	-	-	にぶい褐 (7.5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	口:ヨコナデ 体:ナデ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	9/36						
65	397	-	8J5	VI		土師器(古墳)	甕	B2	長		13.0	-	-	灰黄褐 (10YR4/2)	褐灰 (10YR4/1)	酸化	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	8/36						
65	398	-	8K20	VI		土師器(古墳)	甕	B2	海		(20.6)	-	-	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	ハケメ	口:無調整 体:ハケメ	口~体	1/36			スス			
65	399	-	12H14	VI		土師器(古墳)	甕	D1	長		15.6	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	2/36			スス			
65	400	-	9J20	VI		土師器(古墳)	甕	C2	長		(19.3)	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	3/36※			スス			
65	401	-	12I16	VI		土師器(古墳)	甕	C2	チ		(19.0)	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ	口~体	3/36			スス			
65	402	-	13H4	VI		土師器(古墳)	甕	C2	赤		(19.2)	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	3/36			スス			
65	403	-	8L12・17 東曙14(8L9)	VI		土師器(古墳)	甕	C2	長・チ		(19.4)	-	-	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ 体:ハケメ	口~体	1/36						
65	404	-	9I21	VI		土師器(古墳)	甕	C2	長・石・チ・ 赤		(15.2)	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	2/36			スス			
65	405	-	8K24	VI		土師器(古墳)	甕	C2	石・赤		(17.4)	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口~体	1/36			スス			
65	406	-	8L4	VI		土師器(古墳)	甕	C2	赤		(13.2)	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	2/36			スス			
65	407	-	7L9	VI		土師器(古墳)	甕	C2	長・石・チ		(17.8)	-	-	灰白 (10YR8/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	2/36						

図版 No	報告 No	出土位置			接合関係	種 別	器 種		胎 土		法 量(cm)			色 調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備 考		
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内 面			外 面		内 面	外 面	遺存部位	口縁部	底部		内 面	外 面
														にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)		にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)								
65	408	-	7L25	VI		土師器(古墳)	甕	C2	長・石・海		(15.4)	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ 体:ナデ	口~体	3/36※			スス			
65	409	-	12I12・16	VI		土師器(古墳)	甕	C2	長・チ・赤		(15.3)	-	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	口	1/36			スス			
65	410	-	9J21	VI		土師器(古墳)	甕	C2	石・雲		(15.5)	-	-	褐(7.5YR4/3)	褐(7.5YR4/3)	酸化	口:ヨコナデ 体:ケズリ	口:ヨコナデ ハケ	口~体	4/36※						
66	411	-	9J8・12	VI		土師器(古墳)	甕	C3	赤		9.9	-	-	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	酸化	ミガキ	ミガキ	口~体	17/36						
66	412	-	9J15	VI		土師器(古墳)	甕	D	長・石		-	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ナデ	ナデ	体~脚							
66	413	-	試掘74T	VI		土師器(古墳)	甕	D	長・海		-	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	体~脚:ナデ	体:ハケメ 脚:ナデ	体~脚							
66	414	-	8J9・13	VI		土師器(古墳)	甕	不明	長・チ		-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ケズリ ナデ	ハケメ ナデ	体							
66	415	-	7K25	VI		土師器(古墳)	甕	不明	石・チ・海		-	-	-	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	ヨコナデ	ヨコナデ	頸				スス			
66	416	-	8L16・21	VI		土師器(古墳)	甕	不明	長・石		-	4.3	-	灰褐 (7.5YR4/2)	灰褐 (7.5YR4/2)	酸化	ナデ・ハケメ	体:ケズリ 底:ナデ	体~底		36/36	炭化物	スス			
66	417	-	試掘71T	VI		土師器(古墳)	甕	不明	長・石		-	3.2	-	灰黄褐 (10YR4/2)	灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	ハケメ	体:ハケメ 底:ナデ	体~底		36/36	炭化物	スス			
66	418	-	8J19・20,8K21	VI		土師器(古墳)	甕	不明	長・チ		-	5.6	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ナデ	体:ハケメ 底:ナデ	体~底		9/36					
66	419	-	排土	VI		土師器(古墳)	ミニチュア 土器		長		6.0	-	-	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5Y7/4)	酸化	ナデ	ナデ			6/36					
66	420	-	10H5	VI		土師器(古墳)	ミニチュア 土器		長		-	3.6	-	にぶい黄橙 (10YR7/3)	褐灰 (10YR5/1)	酸化	ナデ	ナデ			36/36					
66	421	-	11F21	VI		縄文土器	深鉢		長		-	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化		ミガキ	把手							
66	422	-	8J8・25	VI		縄文土器	深鉢		石		28.0	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	斜縄文(LR)	口~体		2/36					
66	423	-	8J19・25	VI		縄文土器	深鉢		石		-	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄褐 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	斜縄文(LR)								
66	424	-	11H10	VI		縄文土器	深鉢?		雲		-	-	-	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填斜縄文(原 体)不明	体							
66	425	-	14F22	VI		縄文土器	深鉢?				-	-	-	灰黄褐 (10YR5/2)	灰黄褐 (10YR5/2)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填斜縄文(LR) ミガキ	体							
66	426	-	9H15	VI		縄文土器	深鉢		長		-	-	-	灰黄(2.5Y7/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填斜縄文(LR) ミガキ	口							
66	427	-	14D14	VI		縄文土器	深鉢		長		-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填斜縄文(LR) ミガキ	体							
66	428	-	9K9	VI		縄文土器	深鉢		海		-	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	灰黄褐 (10YR4/2)	酸化	ミガキ	斜縄文(原体不明)	体							
66	429	-	9H15	VI		縄文土器	深鉢				-	-	-	黄褐(2.5Y5/3)	にぶい黄褐 (10YR5/3)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填羽状縄文 (LR・RL) ミガキ	体							
66	430	-	10H15	VI		縄文土器	深鉢?				-	-	-	にぶい黄褐 (10YR5/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填羽状縄文 (RL・LR) ミガキ	体							
66	431	-	10H10	VI		縄文土器	深鉢		チ		-	-	-	黄灰(2.5Y6/1)	にぶい橙 (5YR6/4)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填羽状縄文 (RL・LR) ミガキ	体							
66	432	-	9H15	VI		縄文土器	深鉢?		石		-	-	-	黒(2.5Y2/1)	黄灰(2.5Y5/1)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填羽状縄文 (RL・LR) ミガキ	体							
66	433	-	10H15	VI		縄文土器	深鉢		長		-	-	-	灰黄褐 (10YR6/2)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ミガキ?	沈線区画内充填羽状縄文 (LR・RL) ミガキ	体							
66	434	-	9H15	VI		縄文土器	鉢		石・チ		19.0	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填斜縄文(LR) ミガキ	体		7/36					
66	435	-	10H15	VI		縄文土器	鉢		石・海		-	-	-	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	ミガキ	ミガキ	口							
66	436	-	9H15	VI		縄文土器	鉢?		石・海		-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	黄灰(2.5Y5/1)	酸化	ミガキ	平行沈線文 ミガキ	体							
66	437	-	12E24・25	VI		縄文土器	鉢?		赤・海		-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填斜縄文(LR)	口							
66	438	-	13F7	VI		縄文土器	鉢		雲		-	-	-	灰黄(2.5Y6/2)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填斜縄文(L) ミガキ	口							
66	439	-	11H10	VI		縄文土器	鉢		石		-	-	-	にぶい黄橙 (10YR6/3)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ミガキ	沈線区画内充填斜縄文(LR) ミガキ	口							

図版 No.	報告 No.	出土位置			接合関係	種 別	器 種		胎 土		法 量(cm)			色 調		焼成	製作痕・文様等		遺存率			付着物・使用痕跡等		備 考		
		遺構名	グリッド	層位			器種名	分類	含有物	分類	口径	底径	器高	内 面			外 面		内 面	外 面	遺存部位	口縁部	底部		内 面	外 面
														にぶい黄褐色(10YR5/3)	黒褐色(10YR3/1)		にぶい黄褐色(10YR7/2)	にぶい黄褐色(10YR6/3)								
66	440		12E16			縄文土器	鉢		石	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR5/3)	黒褐色(10YR3/1)	酸化	ミガキ	沈線区画内沈線文	体								
67	441	-	12E16	VI		縄文土器	鉢		石・海	19.1	3.6	8.2	にぶい黄褐色(10YR7/2)	にぶい黄褐色(10YR7/3)	酸化	ミガキ	平行沈線文 ミガキ	口～体	8/36	7/36						
67	442	-	14E20	VI		弥生土器?	壺		雲	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR7/3)	酸化	ナデ	沈線区画内充填斜縄文(RL)	体								
67	443	-	11F9	VI		弥生土器	深鉢		長・石・赤	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/3)	灰黄褐色(10YR4/2)	酸化	ミガキ	波状沈線文 斜縄文(LR)	口				スス				
67	444	-	11F9	VI		弥生土器	深鉢		長・石・海	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/3)	褐灰(10YR4/1)	酸化	ミガキ	斜縄文(LR)	体				スス				
67	445	-	9K9	VI		弥生土器	甕		石・海	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR5/3)	灰黄褐色(10YR4/2)	酸化	口:条痕 体:ミガキ	条痕	口								
67	446	-	10I3	VI		縄文土器	深鉢?		赤	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR6/3)	酸化	ミガキ	捺紋(R)	体								
67	447	-	10J23	VI		縄文土器	深鉢?		チ・赤	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/3)	褐灰(10YR4/1)	酸化	ミガキ	斜縄文(LR)	体			炭化物					
67	448	-	9I15	VI		縄文土器	深鉢		長・石	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR5/3)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	酸化	ミガキ	斜縄文(L)	体								
67	449	-	9I11	VI		縄文土器	深鉢		長・石	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/3)	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	ミガキ	斜縄文(LR)	体								
67	450	-	12E14	VI		弥生土器	甕		チ	(16.6)	-	-	灰黄褐色(10YR5/2)	灰黄褐色(10YR5/2)	酸化	ハケ	口:ハケ状工具による刺突 体:ハケ	口～体	5/36							
67	451	-	13E18	VI			深鉢?		長・石・赤	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR5/4)	にぶい黄褐色(10YR5/4)	酸化		網代痕									

別表3 土製品・石器・石製品・金属製品・鍛冶関連遺物観察表

- 凡 例 1. 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。  
2. 法 量 長さ・横幅・厚さで示した。長さ・横幅は平面形での数値、厚さは断面形の最大値である。( )中の数値は、欠損していることを示す。

1 土製品観察表

図版 No.	報告 No.	出土位置		層位	器 種	法 量(cm)			重量(g)	遺存状況	備考
		遺構	グリッド			長さ(長軸)	幅(短軸)	厚さ			
67	452	-	12G15	V	支脚(古代)	11.5	5.0	4.7	298.5	一部欠損	
67	453	SK919	11I23		紡錘車(古代)	8.3	8.2	1.25	144.5	ほぼ完形	孔径1.1cm 転用
67	454	-	13H21	V	紡錘車(古代)	5.6	(3.0)	2.1	40.0	1/2欠損	孔径0.8cm
67	455	-	11I13	VI	土錘(縄文?)	(2.0)	1.7	1.6	3.5	欠損	
67	456	-	13H12	VI	土錘(縄文?)	(1.6)	1.75	1.6	5.0	欠損	
67	457	SI246	12H9	I	土錘(古代)	3.7	3.3	3.4	47.5	ほぼ完形	孔径0.7cm
67	458	-	12H10	V	土錘(古代)	3.8	3.5	3.3	49.0	ほぼ完形	孔径0.7cm

2 石器観察表

図版 No.	報告 No.	出土位置			器種	分類	法 量(cm)			重量(g)	遺存状況	石材	備考
		遺構	グリッド	層位			長さ	幅	厚さ				
67	459	SD925	9I7		石鏃	平基有茎	(1.8)	1.65	0.45	1.03	先端・茎欠損	蛇紋岩	
67	460	-	12I12	VI	石鏃	平基有茎	(2.35)	1.5	0.65	1.60	茎欠損	鉄石英	
67	461	-	14E12	VI	石鏃	凸基有茎	(2.0)	1.15	0.3	0.48	先端・基部欠損	メノウ	
67	462	-	9I7	VI	石鏃	凸基有茎	(1.8)	(1.3)	0.45	0.66	先端・片側基部欠損	珪質頁岩	
68	463	SB2004-P302	10I18・19・23		石鏃	凸基有茎	(2.3)	1.25	0.6	0.97	先端側1/3欠損	珪質頁岩	
68	464	-	排土(出土地不明)		石鏃	凸基有茎	2.8	1.35	0.65	1.40	ほぼ完形	珪質頁岩	
68	465	-	12I12	VI	石鏃	凹基有茎	(2.75)	1.3	0.4	0.77	茎欠損	珪質頁岩	
68	466	-	6M23	VI	石鏃	凹基無茎	(1.65)	(1.1)	0.35	0.39	基部欠損	黒曜石	
68	467	-	8J11	VI	石鏃	凹基無茎	3.0	1.45	0.5	1.47	ほぼ完形	蛇紋岩	
68	468	-	11G2	VI	石鏃?	未製品?	4.5	1.7	1.3	8.21	ほぼ完形	珪質頁岩	



## 3 石製品観察表

図版No.	報告No.	出土位置		層位	器種	法量(cm)			重量(g)	遺存状況	石材	備考
		遺構	グリッド			長さ	幅	厚さ				
68	469	SI307			白玉(古墳)	0.45	0.45	0.25	0.08	完形	灰色頁岩	
68	470	SB2005-P522	11I22・23, 12I2-3		白玉(古墳)	0.50	0.50	0.3	0.1	完形	黒色頁岩	
68	471	SB2005-P638	11I21・22,12I1		白玉(古墳)	0.45	0.45	0.3	0.08	完形	灰色頁岩	
68	472	SB2005-P638	11I21・22,12I1		白玉(古墳)	0.55	0.55	0.2	0.1	完形	黒色頁岩	
68	473	SX71	11H9		玉?	2.0	1.65	1.0	5.0	完形	玉髓	
68	474	-	10J8	V	砥石	16.6	6.5	4.4	471.0	ほぼ完形	凝灰岩	
68	475	-	9J11	V	砥石	(13.9)	(8.2)	6.2	923.0	欠損	安山岩	
68	476	-	10I7,9J22	V	砥石	(14.05)	7.5	3.6	402.0	欠損	凝灰岩	被熱?
68	477	-	8L17	V	砥石	(5.5)	3.6	2.8	57.0	欠損	泥岩	
68	478	SI246	12H14	1	砥石	(8.8)	6.7	3.5	221.0	欠損	安山岩	
68	479	-	8J22	V	磨石状製品	11.5	9.7	9.5	1510.0	完形	安山岩	
69	480	-	10J8	V	磨石状製品	8.0	6.2	5.7	413.0	完形	安山岩	
69	481	-	8J25	V	磨石状製品	(8.1)	11.65	5.9	805.5	欠損	花崗岩	被熱
69	482	-	9K21	V	磨石状製品	(5.4)	8.4	4.0	210.0	欠損	花崗岩	被熱
69	483	-	14E9	V	石錘	11.5	7.5	7.6	491.5	完形	凝灰岩	
69	484	-	13G9	V	石錘	(14.0)	7.05	6.7	710.5	一部欠	石英安山岩	被熱

## 4 金属製品観察表

図版No.	報告No.	出土位置		層位	器種		素材	部位	法量(cm)			重量(g)	遺存状況	備考
		遺構	グリッド		(大)	(小)			長さ(縦幅)	幅(横幅)	厚さ			
70	497	SX71	11H9		帯金具	鉸具	銅		3.3	4.4	0.2	7.0	緑部欠損	片面「金」元素検出
70	498	SX71	11H4		帯金具	鉸具	銅		3.3	4.3	0.2	7.5	緑部欠損	片面「金」元素検出
70	499	SX71	11H4		帯金具	巡方	銅	表金具	3.3	3.5	0.7	26.0	完形	透孔 縦0.3cm 横2.6cm
					裏金具		銅	裏金具	3.1	3.4	0.1		一部欠	「金」元素検出
70	500	SX71	11H4		帯金具	巡方	銅	表金具	3.3	3.6	0.7	15.0	完形	透孔 縦0.3cm 横2.7cm 鉸4ヶ遺存
70	501	SX71	11H4		帯金具	巡方	銅	表金具	3.5	3.8	0.8	25.0	完形	透孔 縦0.3cm 横2.6cm 鉸4ヶ遺存
70	502	SX71	11H3		帯金具	巡方	銅	裏金具	3.4	3.6	0.15	6.5	ほぼ完形	付着物有「金」元素検出
70	503	SX71	11H10		帯金具	丸鞘	銅	表金具	2.3	3.7	0.8	15.5	完形	透孔 縦0.4cm 横2.4cm
					裏金具		銅	裏金具	2.2	3.6	0.1		完形	
70	504	-	10H24	V	帯金具	丸鞘	銅	表金具	2.3	3.8	0.7	15.0	完形	透孔 縦0.4cm 横2.8cm
					裏金具		銅	裏金具	2.1	3.6	0.2		完形	
70	505	SX71	11H4		帯金具	丸鞘	銅	表金具	2.3	3.85	0.7	15.0	完形	透孔 縦0.3cm 横2.7cm
					裏金具		銅	裏金具	2.0	3.1	0.1		緑部一部欠	
70	506	SX71	11H10		帯金具	丸鞘	銅	表金具	2.4	3.85	0.7	17.5	完形	透孔 縦0.4cm 横2.7cm
					裏金具		銅	裏金具	2.2	3.6	0.2		完形	「金」元素検出
70	507	-	11H4	V	帯金具	丸鞘	銅	表金具	2.3	3.6	0.75	10.0	ほぼ完形	透孔 縦0.4cm 横2.45cm 鉸3ヶのうち2ヶ欠
70	508	-	11H8	V	帯金具	丸鞘	銅	表金具	2.45	3.7	0.7	11.0	透孔	透孔 縦0.4cm 横2.4cm 鉸3ヶのうち2ヶ欠
70	509	SX71	11H9		帯金具	蛇尾	銅	表金具	3.8	4.5	0.9	35.0	ほぼ完形	
					裏金具		銅	裏金具	3.5	4.2	0.1		ほぼ完形	「金」元素検出
70	510	SX71	11H9		刀子金具	鞘金具?	銅		1.4	1.0	0.75	1.5	完形	「金」元素検出
70	511	SX71	11H9		刀子金具	鞘金具	銅	飾り金具	2.25	1.65	0.55	1.5	完形	「金」元素検出
70	512	SX71	11H10		刀子金具	鞘金具	銅	鞘尻	(1.8)	1.6	0.8	2.0	一部欠	
70	513	SX71	11H9		帯金具	丸鞘か	銅	裏金具	-	-	-	1.5	破片	
70	514	-	7L21	V	帯金具	丸鞘か	銅	裏金具	-	-	-	0.5	破片	

## 別表4 木製品観察表

- 凡例 1. 出土位置 遺構名・グリッド名を記した。  
2. 法量 口径・底径・器高を示す。  
3. 遺存率 分母を36とした分数表示で示した。「体」は体部、「底」は底部である。

図版No.	報告No.	出土位置		層位	種別	器種	法量			遺存率			備考	
		遺構名	グリッド				口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	遺存部位	口縁部	底部		
69	496	-	15G6	II	漆器	椀	-	7.0	-	-	体~底	-	16/36	内外面黒漆 見込みに草花文?(赤漆)

## 5 鍛冶関連遺物観察表

図版No.	報告No.	出土位置		層位	種類	法量(cm)			重量(g)	備考
		遺構	グリッド			長軸	短軸	厚さ		
69	485	-	東塔39(14H6)		羽口	(5.0)	(6.5)	(2.0)	78.5	
69	486	SB2006-P465		1	羽口	(4.4)	(6.3)	(2.7)	31.0	
69	487	-	12G14	V	羽口	(6.5)	(6.0)	(2.6)	54.5	
69	488	-	9J23	V	羽口	(2.9)	(3.3)	(1.1)	10.0	
69	489	-	10I8	V	羽口	(2.5)	(3.0)	(1.5)	9.5	径6.0cm 孔径3.1cm
69	490	P908	11H5		炉壁(銅滓)	(2.3)	(1.6)	(0.9)	2.5	銅を処理した時
69	491	-	11H5	V	炉壁(銅滓)	(2.8)	(1.7)	(1.1)	3.5	
69	492	SB2007-P574		3	椀形滓(鉄滓)	(5.8)	(5.0)	(3.3)	110.0	
69	493	SK541		1	椀形滓(鉄滓)	(5.5)	(4.3)	(2.6)	71.5	
69	494	-	11I19	V	椀形滓(鉄滓)	(5.5)	(3.6)	(1.6)	24.5	
69	495	SI307	10I20		椀形滓(鉄滓)	(5.0)	(3.8)	(2.5)	48.0	

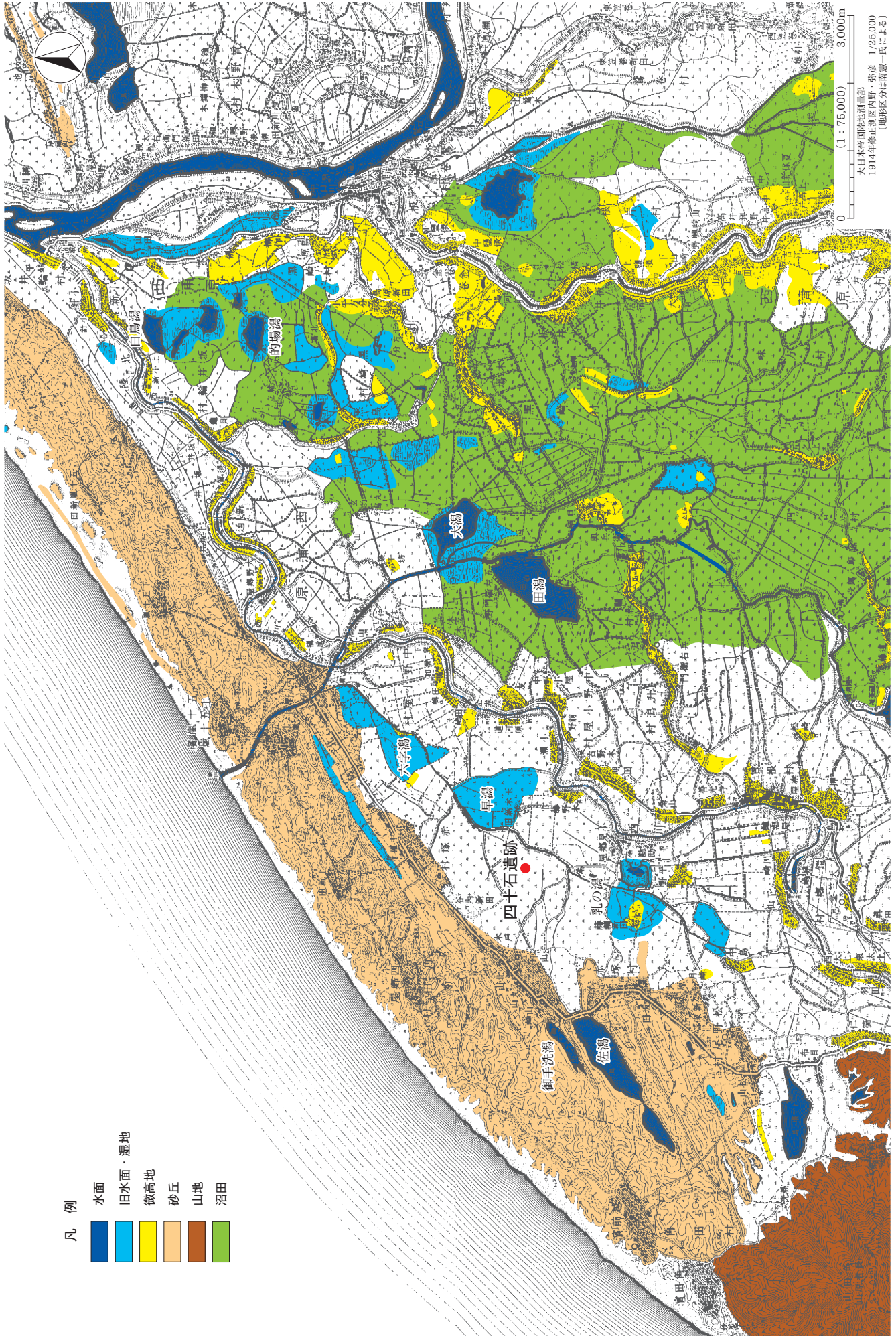
# 圖 版



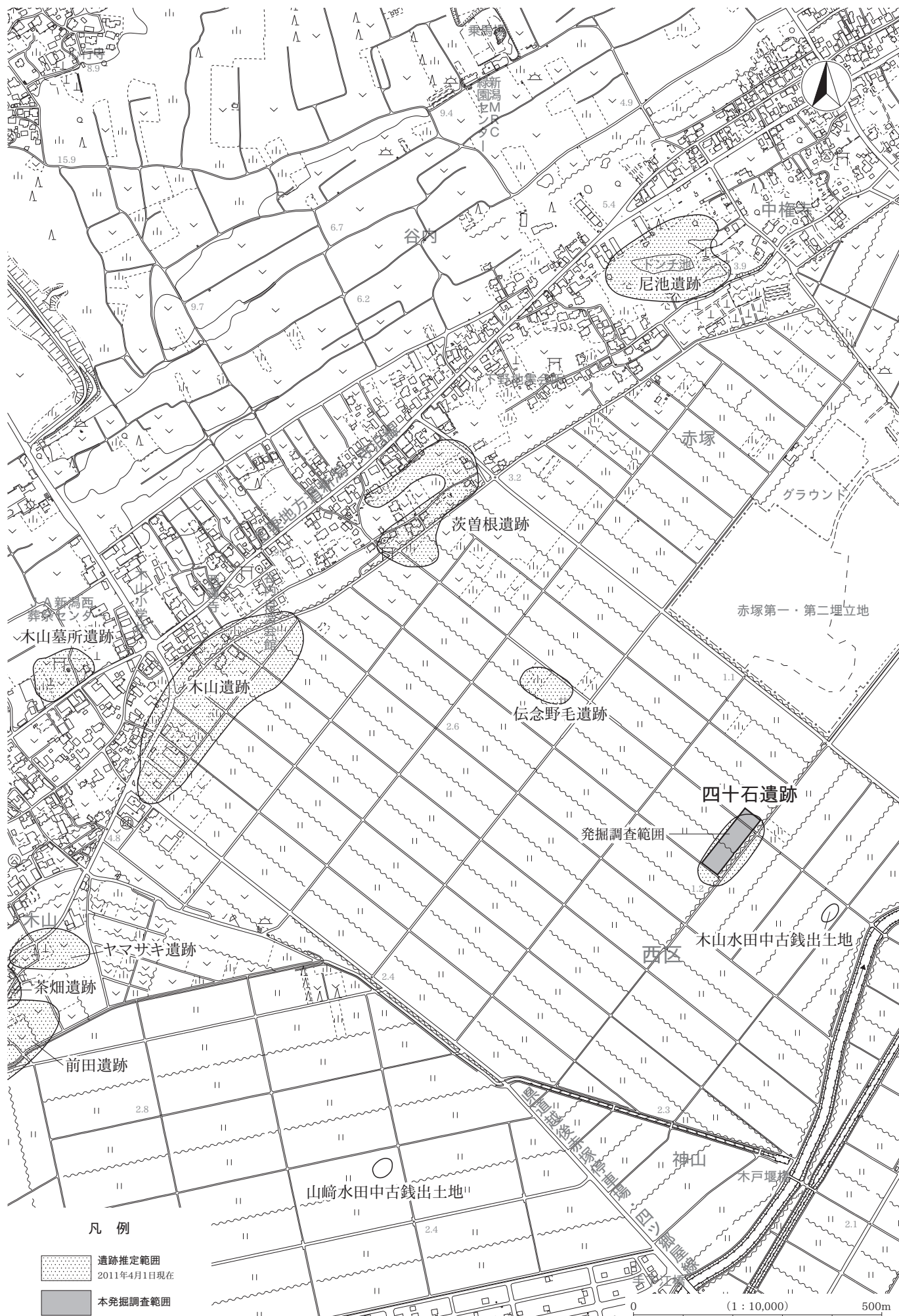
0 (1 : 50,000) 2,000m

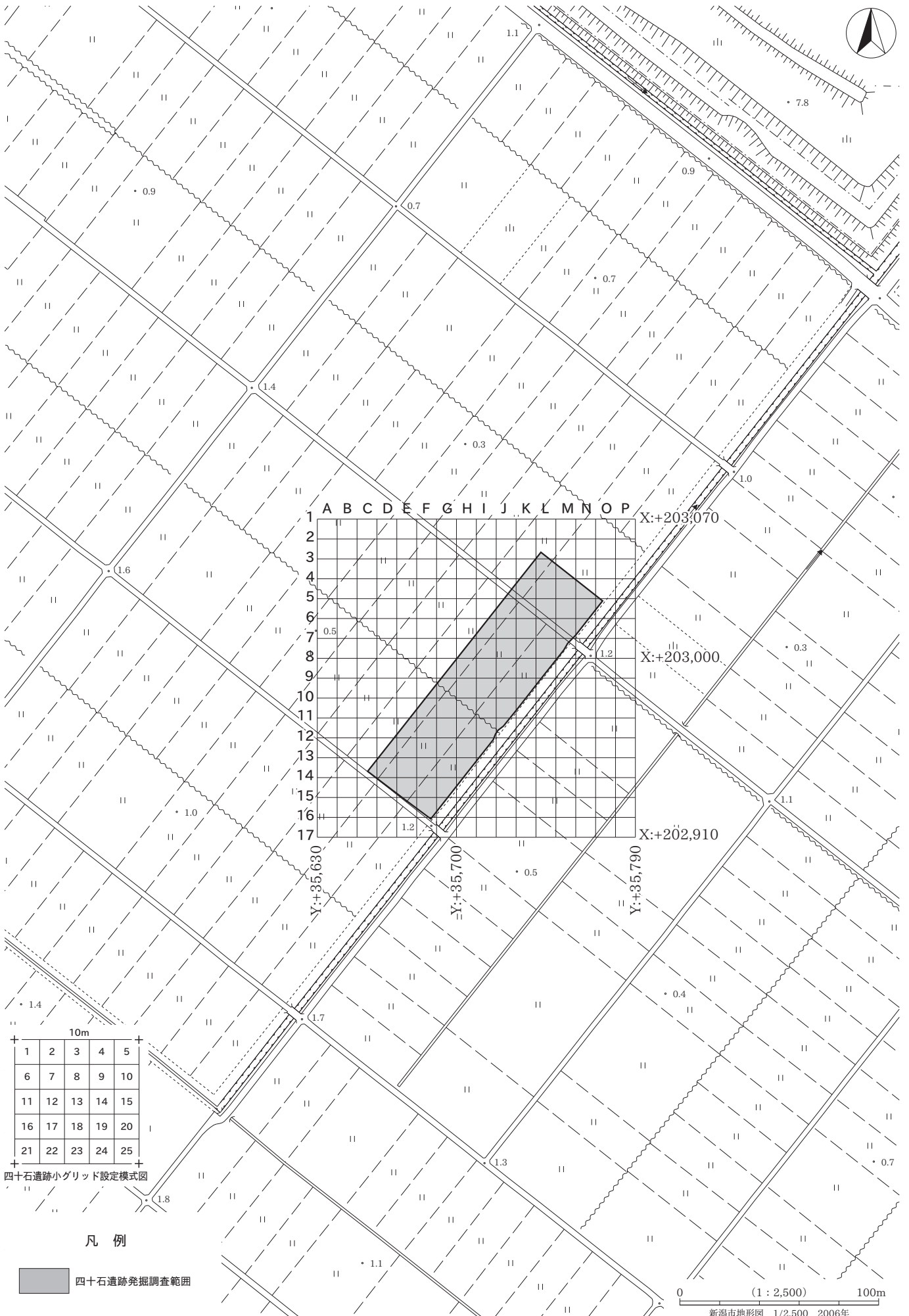
明治44年測図 大正3年発行 内野・弥彦  
1/50,000 大日本帝国陸地測量部












10m

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

四十石遺跡小グリッド設定模式図

凡例

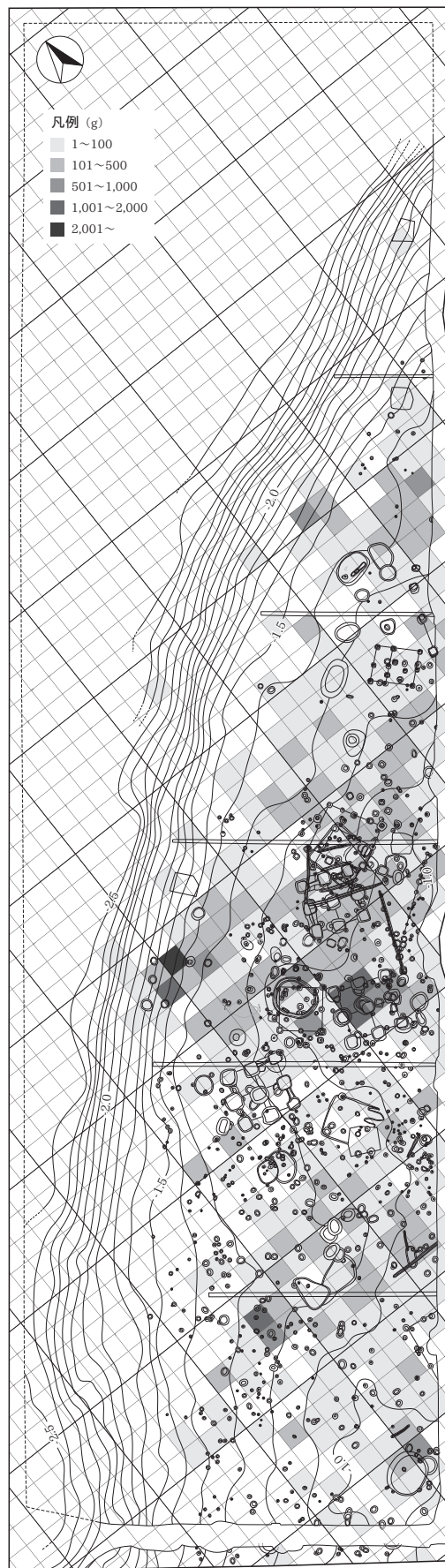
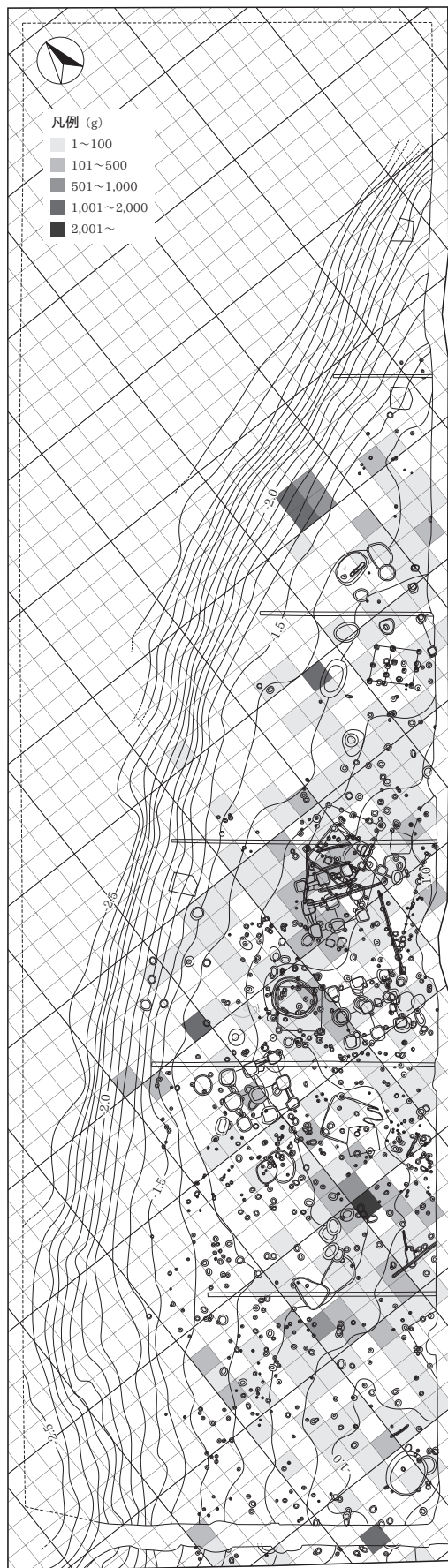
 四十石遺跡発掘調査範囲

0 (1 : 2,500) 100m



上層 古代須恵器

上層 古代土師器

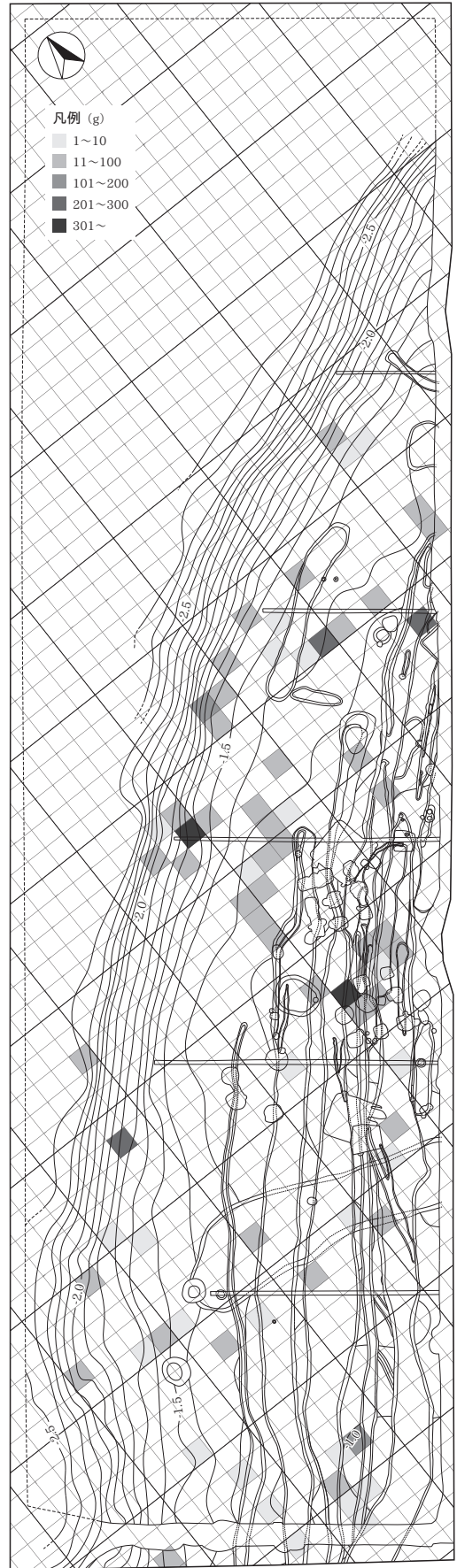
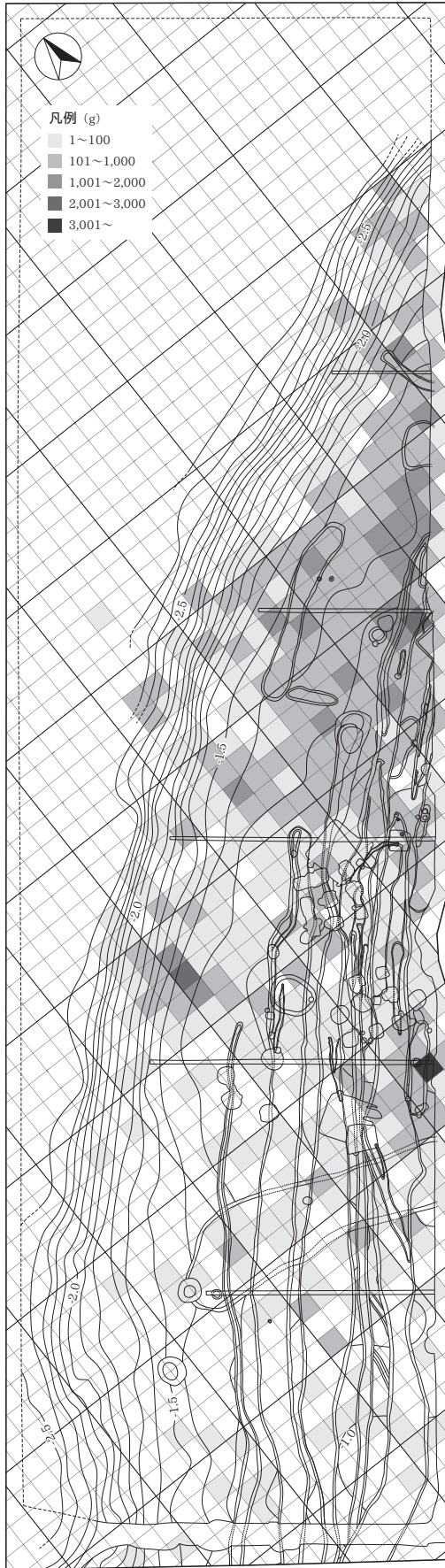


0 (1 : 600) 20m

小グリッド別古代須恵器 土師器出土重量分布図

下層 古墳土師器

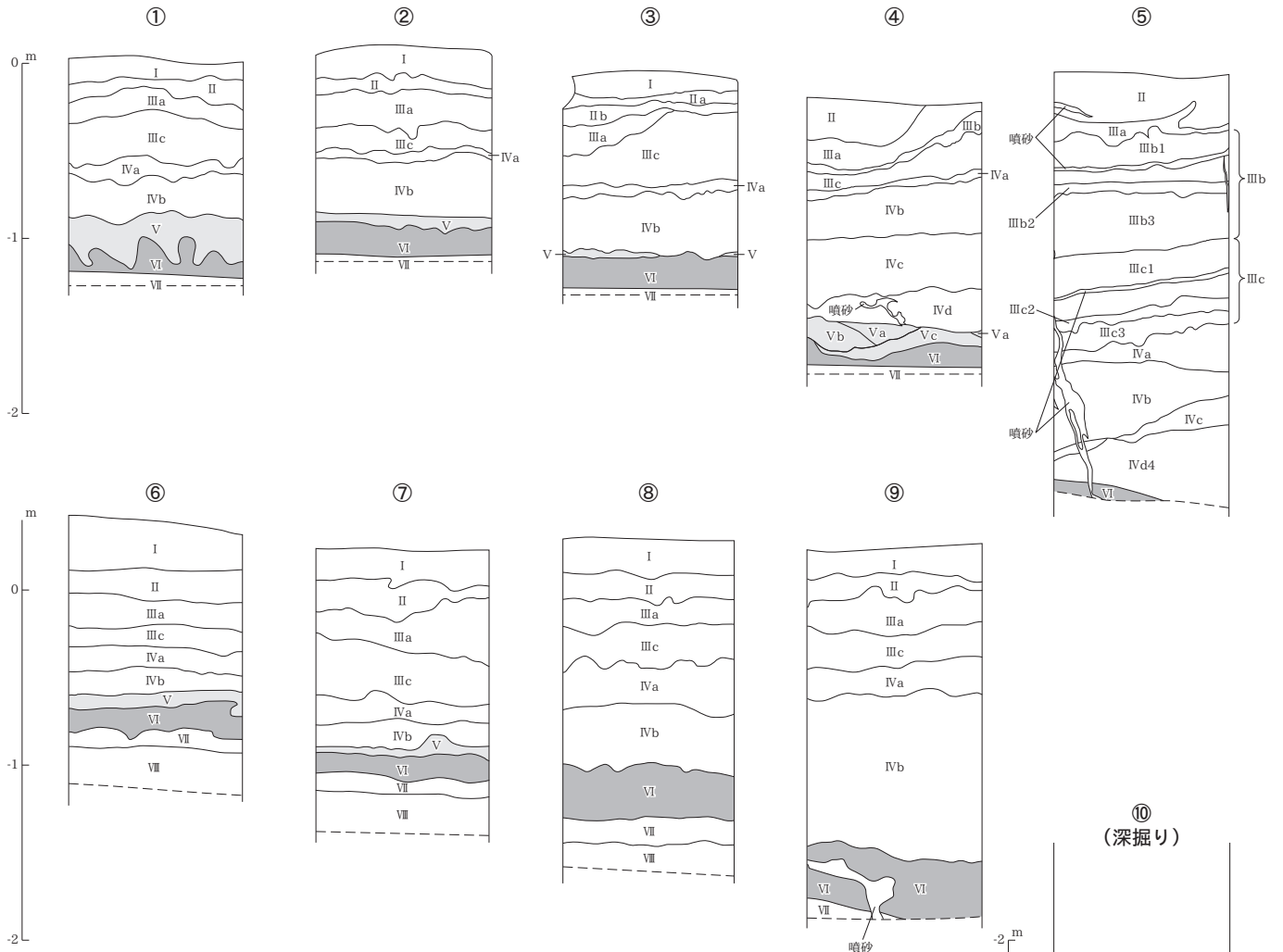
下層 縄文・弥生土器



0 (1:600) 20m

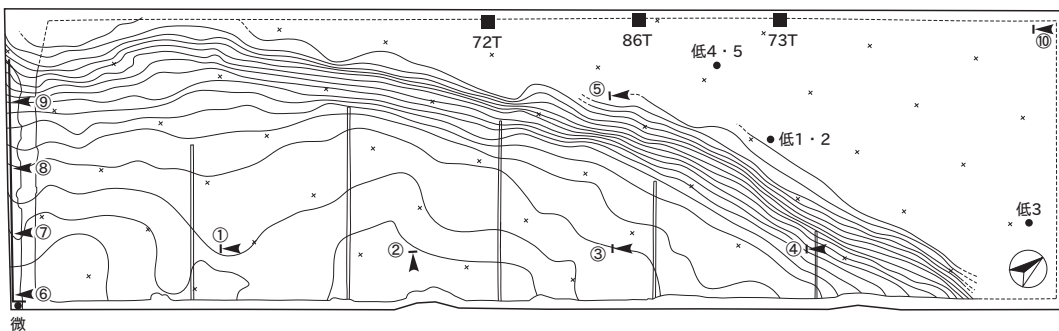
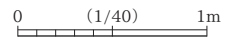
小グリッド別古墳土師器 縄文・弥生土器出土重量分布図





- I 褐色粘質土(10YR4/4) 粘性やや強い、しまり弱い、表土・床土
- II 黒褐色粘質土(10YR2/2) 未分解有機物多量含む、粘性やや強い、しまり弱い。
- IIIa オリーブ黒色粘質土(5Y3/2) 未分解有機物含む、粘性強い、しまり弱い。
- IIIb 灰オリーブ粘質土(5Y4/2) 未分解有機物含む、粘性強い、しまり弱い。  
未分解有機物 3>2>1
- IIIc オリーブ黒色粘質土(5Y3/2)～灰オリーブ粘質土(5Y4/2) 黄色粘土ブロック多量含む。未分解有機物含む、粘性強い、しまり弱い。  
暗 1>3>2 未分解有機物 1>2>3
- IVa 灰色粘質土(5Y4/1) 未分解有機物含む、粘性強い、しまり弱い。
- IVb 灰色粘質土(7.5Y4/1) 未分解有機物含む、粘性強い、しまり弱い。
- IVc 灰色粘質土(7.5Y4/1)・黒色砂(10YR2/1)の混合 未分解有機物含む、粘性弱い、しまりあり。
- Va 黒色砂質土(10YR3/1) 灰色粘質土(7.5Y4/1)少量～中量混入。粘性弱い、しまりやや強い、包含層(上層)。
- Vb 黒色砂質土(10YR2/1) 灰色粘質土(7.5Y4/1)少量混入。粘性弱い、しまりあり、包含層(上層)。
- Vc 黒色砂質土(10YR2/1) 灰色粘質土(7.5Y4/1)ごく少量混入。粘性弱い、しまりあり、包含層(上層)。
- VI 黒色砂質土(10YR2/1)～7.5Y2/1) 粘性弱い、しまりやや強い、包含層(下層、上面一遺構確認面)。
- VII 黒色砂(10YR2/1)・暗黄灰色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性弱い、しまりやや強い、漸移層(上面一遺構確認面)。
- VIII 暗黄灰色砂(2.5Y4/2) 粘性弱い、しまりあり、地山。

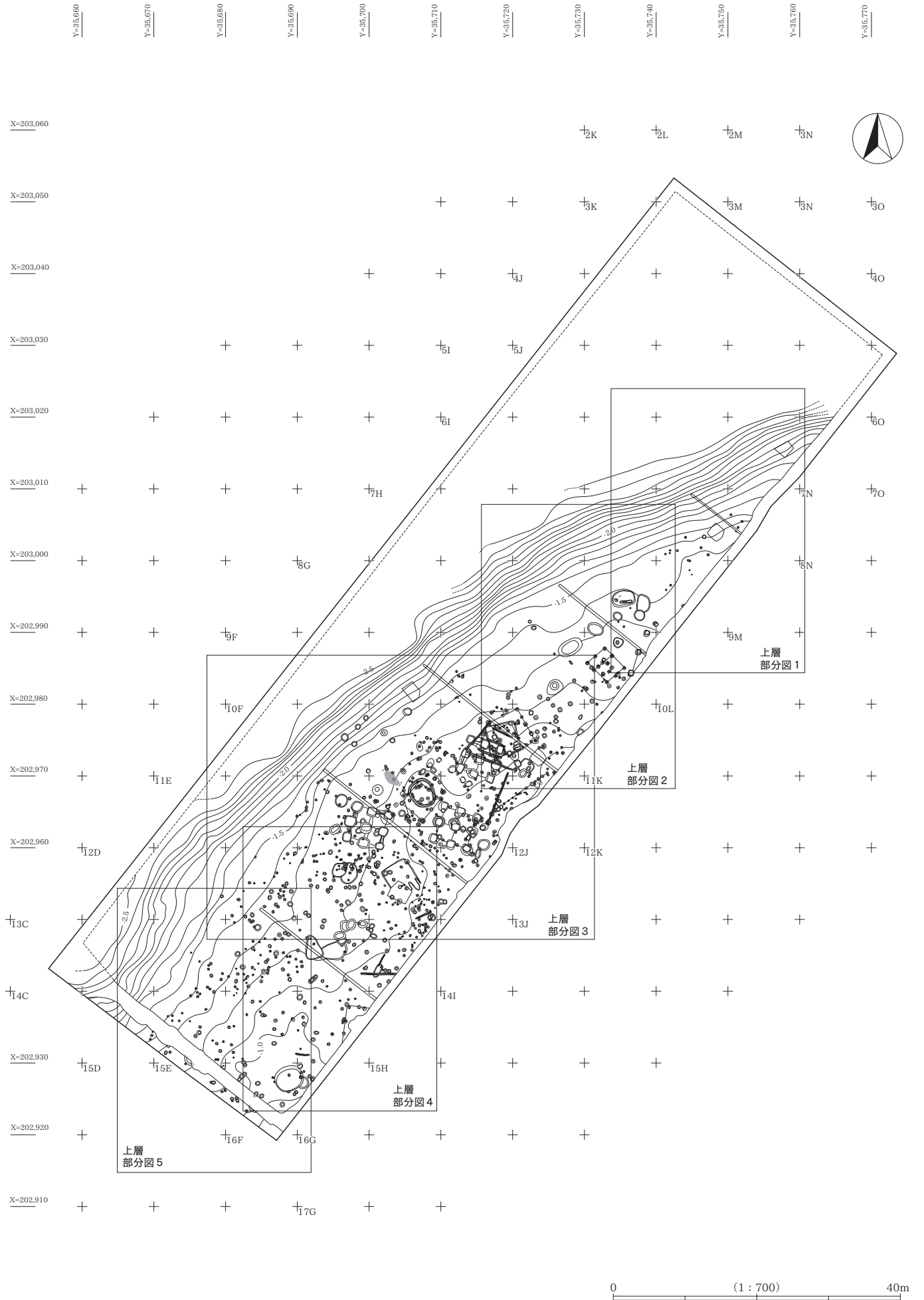
表土掘削深度



凡例

- ◀ 基本層序掘削地点
- 試掘トレンチ
- 土壌サンプル地点
- 微：微高地A地点
- 低：低地部B地点



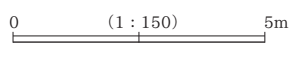
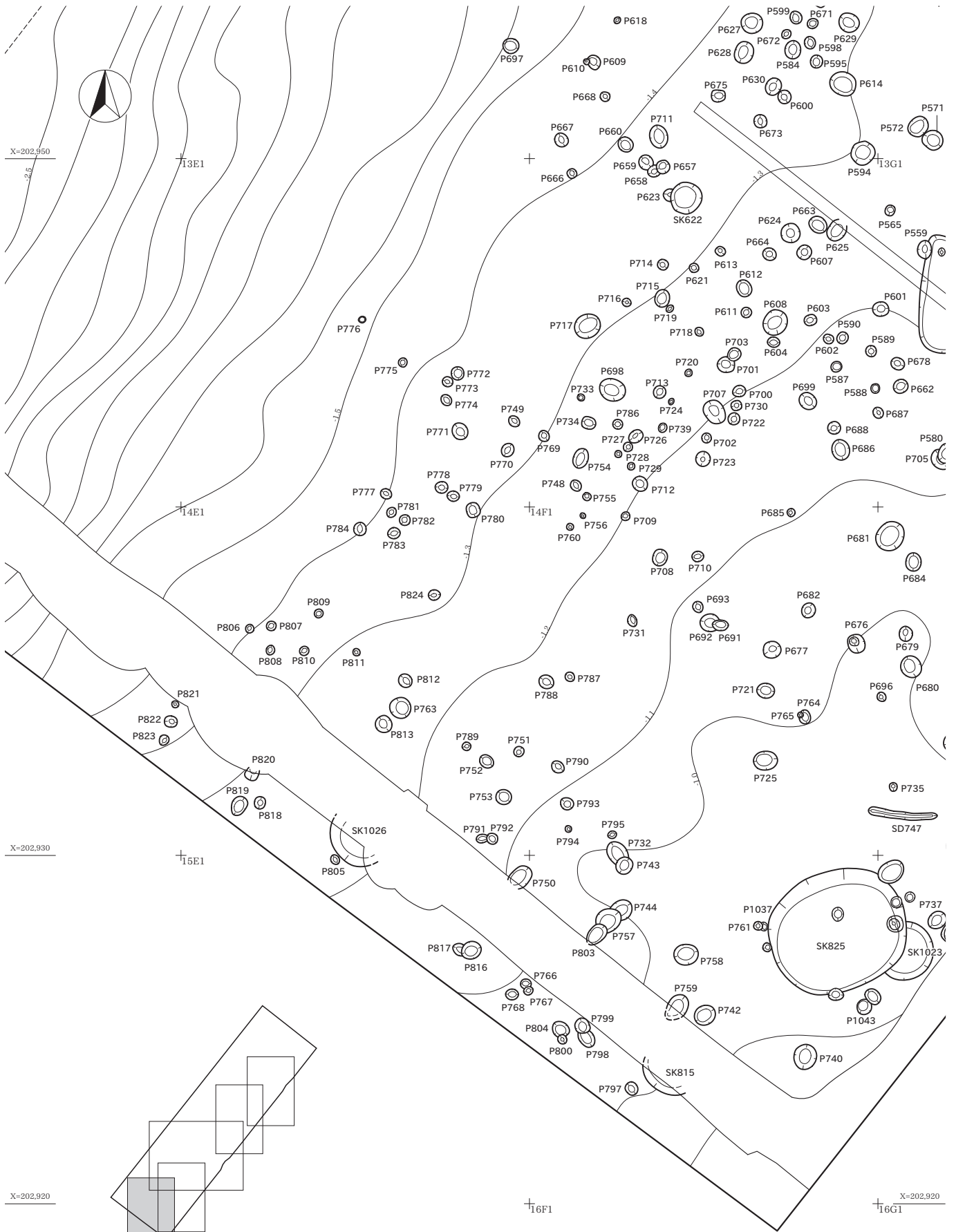










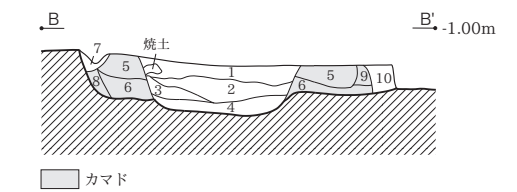
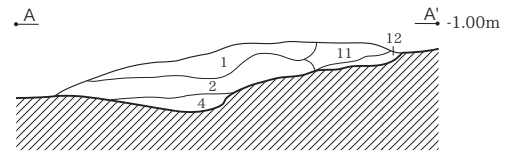
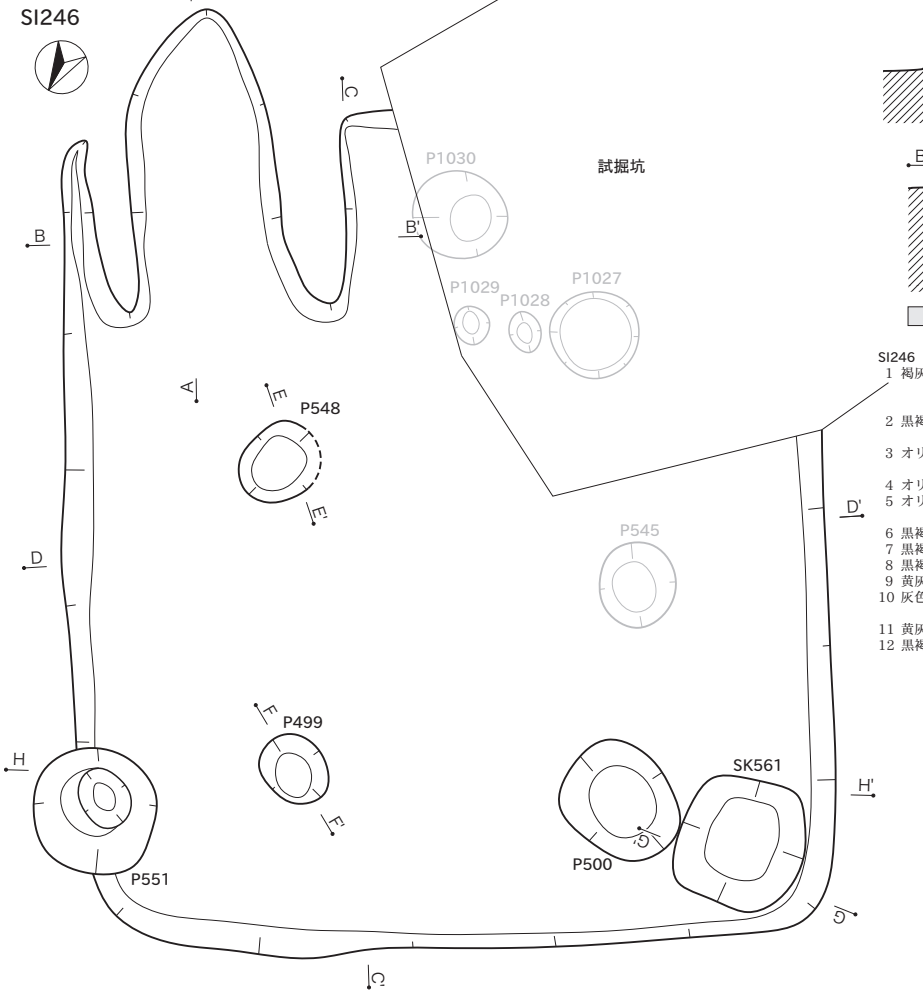


Y=35,670

Y=35,680

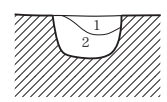
Y=35,680

(部分図3・4)



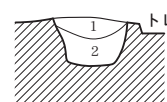
- SI246 A-A'・B-B'
- 1 褐灰色砂質土(10YR4/1)・黄灰色砂質土(2.5Y4/1)の混合  
灰色粘質土(5Y4/1)ブロック混入。炭化物を多量含む。  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色粘質シルト(2.5Y3/1)・黄灰色砂質土(2.5Y3/1)の混合  
粘性あり。しまりやや強い。
  - 3 オリーブ黒色粘質シルト(5Y3/1)・灰色粘質土(5Y4/1)の混合  
粘性強い。しまり強い。
  - 4 オリーブ黒色砂質土(5Y3/1~5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 オリーブ黒色砂質土(5Y3/1) 灰色粘質土(5Y4/1)小ブロック混入。  
炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまり強い。
  - 6 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 7 黒褐色砂質土(10YR3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 8 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 9 黄灰色粘質土(2.5Y4/1) 粘性やや強い。しまりやや強い。
  - 10 灰色粘質土(10YR5/1)・黄灰色粘質土(2.5Y4/1)の混合  
粘性強い。しまり強い。
  - 11 黄灰色粘質土(2.5Y4/1) 炭化物を多量含む。粘性強い。しまり強い。
  - 12 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SI246-P548 E-E' -1.00m



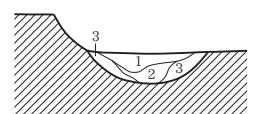
- P548
- 1 黄灰色粘質シルト(2.5Y4/1)・オリーブ黒色粘質シルト(5Y3/1)の混合 炭化物を多量含む。  
粘性あり。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SI246-P499 F-F' -1.00m

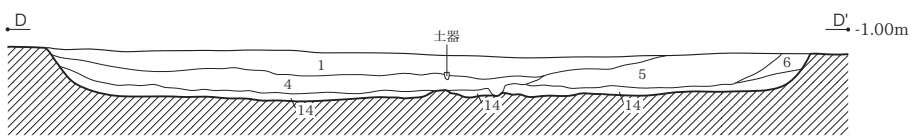
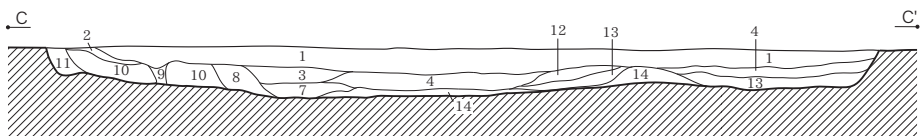


- P499
- 1 黄灰色粘質シルト(2.5Y4/1)・オリーブ黒色粘質シルト(5Y3/1)・暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2)の混合  
粘性あり。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりあり。

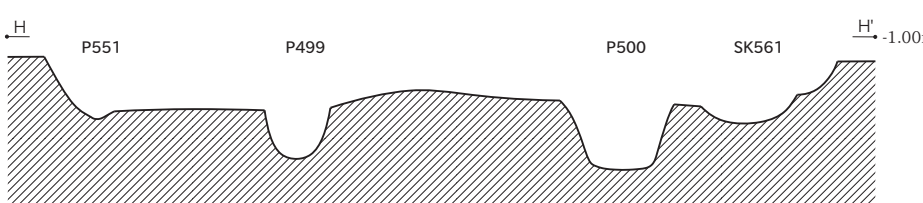
SI246-SK561 G-G' -1.00m



- SK561
- 1 黒褐色砂質土(10YR3/1)・黄褐色砂(10YR4/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(10YR3/1)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



- SI246 C-C'・D-D'
- 1 褐灰色砂質土(10YR4/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 3 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)・褐灰色粘質土(10YR5/1)・黄褐色粘質土(10YR6/4)の混合 炭化物を微量含む。粘性弱い。しまりあり。
  - 4 黒褐色砂質土(10YR2/3) 粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 5 黄褐色粘質土(10YR5/4) (地山)・黒褐色砂質土(10YR3/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 6 黒褐色砂質土(10YR3/2) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 7 黒褐色砂質土(10YR3/2) 黄褐色粘質土(10YR6/4)・褐灰色粘質土(10YR5/1)微量混入。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 8 褐灰色粘質土(10YR6/1) 黄褐色粘質土(10YR6/4)の混合 粘性あり。しまりあり。
  - 9 褐灰色粘質土(10YR6/1)・黒褐色砂質土(10YR3/2)の混合 粘性弱い。しまりあり。
  - 10 褐灰色砂質土(10YR4/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 11 褐灰色砂質土(10YR5/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 12 黒褐色砂質土(10YR3/1) 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 13 黒褐色砂質土(10YR2/2) 黄褐色粘質土(10YR6/4)粘質ブロック微量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 14 黒褐色砂質土(10YR3/1)・褐灰色砂質土(10YR4/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりあり。



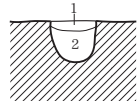
0 (1:40) 2m

(部分図2・3)

SI307

SI307-P828

E E' -1.00m



- SI307-P828
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR1.7/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりや強い。

SI307-P901

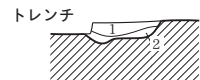
F F' -1.00m



- SI307-P901
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) 微量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・灰オリーブ色砂質土(5Y5/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりあり。

SI307-P896

G G' -1.00m



- SI307-P896
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) にぶい黄褐色砂質土(10YR2/1) 少量混入。炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・灰オリーブ色砂(5Y5/2) 微量混入。炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。

SI307カマド A-A'・B-B'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂(2.5Y3/1)の混合 黄灰色粘土(2.5Y4/1)・オリーブ黒色粘質シルト(5Y3/1) 微量混入。炭化物を多量含む。しまりや強い。
- 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2)の混合 しまりや強い。
- 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・オリーブ黒色砂質土(5Y3/2)の混合 灰オリーブ色粘質土(5Y6/2) 小ブロック少量混入。しまりや強い。
- 4 黒褐色粘質シルト(2.5Y3/2)・オリーブ黒色粘質シルト(5Y3/2)の混合 粘性弱い。しまりや強い。
- 5 黄灰色粘質シルト(2.5Y4/1)・オリーブ黒色粘質シルト(5Y3/1)の混合 炭化物を多量含む。粘性強い。しまり強い。
- 6 灰粘土(5Y4/1) 炭化物を中量含む。粘性やや強い。しまりや強い。
- 7 黄灰色粘質シルト(2.5Y4/1)・黒褐色粘質シルト(2.5Y3/1)の混合 粘性弱い。しまりや強い。
- 8 黄灰色砂(2.5Y3/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合 しまりや強い。
- 9 灰粘土質土(2.5Y4/1)・オリーブ黒色粘質シルト(5Y3/1)の混合 粘性やや強い。しまりや強い。
- 10 黒褐色砂(2.5Y3/1)・黄灰色砂(2.5Y4/1)の混合 しまりや強い。
- 11 黒色砂質土(10YR2/1)・黒色砂質土(10YR1.7/1)の混合 しまりや強い。
- 12 黒色砂質土(10YR2/1) にぶい黄褐色粘土(10YR5/4)・黄灰色粘土(2.5Y5/1) 多量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。

- 13 黄灰色粘質シルト(2.5Y4/1)・黒褐色粘質シルト(2.5Y3/2)の混合 粘性弱い。しまりや強い。
- 14 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR3/1)の混合 灰オリーブ色砂(5Y5/2) 少量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 15 黒褐色粘質シルト(2.5Y3/1)・オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合 粘性弱い。しまりや強い。
- 16 黒褐色粘質シルト(10YR3/1)・黄灰色粘質シルト(2.5Y4/1)の混合 粘性弱い。しまりや強い。
- 17 黒褐色粘質シルト(10YR3/1)・黒褐色粘質シルト(2.5Y3/1)の混合 粘性弱い。しまりや強い。
- 18 黄灰色粘質シルト(2.5Y4/1)・灰粘土質土(5Y4/1)の混合 粘性弱い。しまりや強い。
- 19 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) しまりや強い。
- 20 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・黒色砂質土(5Y2/1)の混合 しまりや強い。
- 21 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合 しまりや強い。
- 22 黒褐色粘土(2.5Y3/1)・黄灰色粘土(2.5Y4/1)の混合 炭化物を中量含む。粘性やや強い。しまりや強い。
- 23 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 しまりや強い。
- 24 灰粘土(5Y4/1)・オリーブ黒色粘土(5Y3/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまりや強い。

カマド

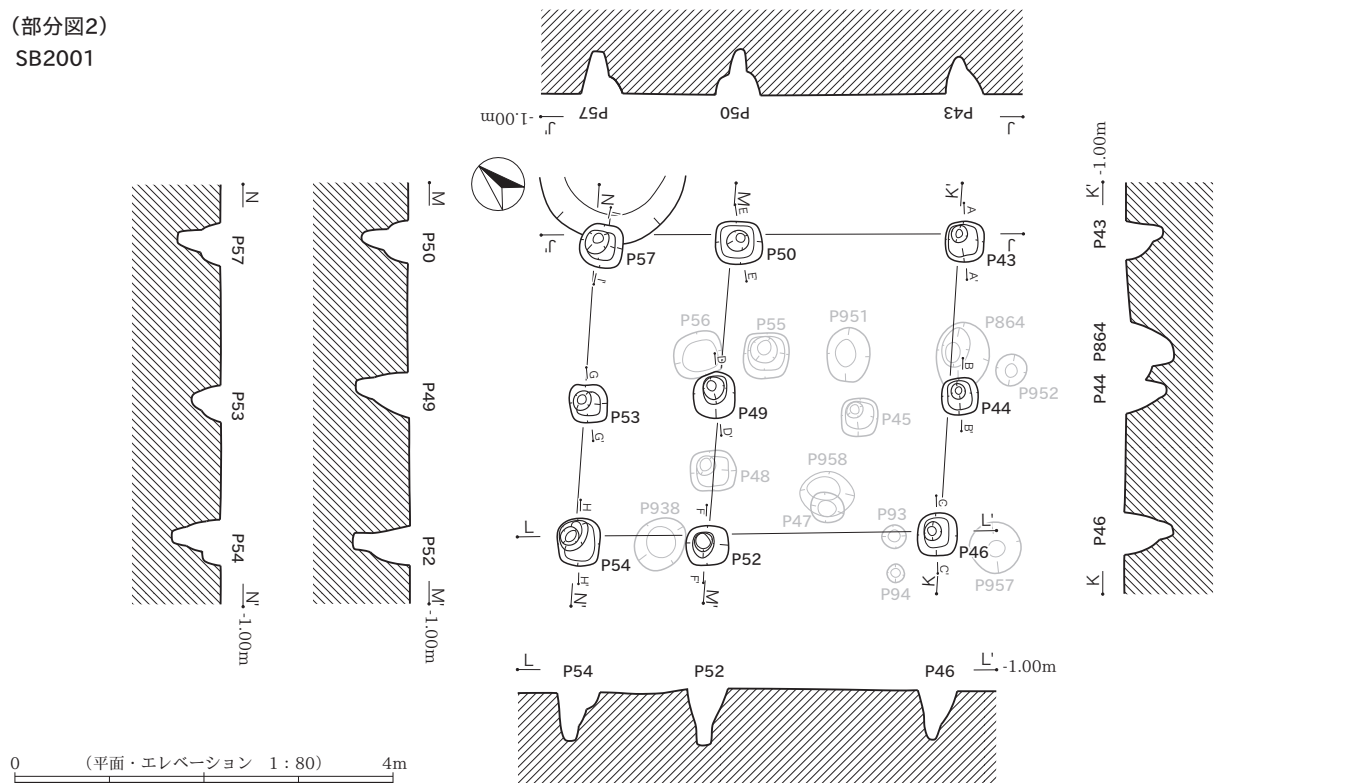
SI307 C-C'・D-D'

- SI307 C-C'・D-D'
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2) 微量混入。炭化物を中量含む。しまりや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1) 暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2) 中量混入。炭化物を中量含む。しまりや強い。
- 3 黒色砂質土(2.5Y2/1) 灰黄褐色砂(10YR 4/2) 少量混入。炭化物を少量含む。しまりや強い。
- 4 黒色砂質土(2.5Y2/1) オリーブ褐色砂(2.5Y4/3) 少量混入。炭化物を少量含む。しまりや強い。
- 5 黒色砂質土(2.5Y2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2) 微量混入。炭化物を中量含む。しまりや強い。
- 6 黒色砂質土(2.5Y2/1)・暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2)の混合 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりや強い。
- 7 黒色砂質土(10YR1.7/1) 黒褐色砂質土(10YR2/2) 微量混入。炭化物を多量・灰を中量含む。しまりや強い。
- 8 黒色砂質土(2.5Y2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y4/2)・暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2)の混合 炭化物を多量・灰を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 9 黒色砂質土(2.5Y2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 しまりや強い。
- 10 黒色砂質土(10YR1.7/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 灰オリーブ色砂質土(5Y4/2) 少量混入。炭化物を少量含む。しまりや強い。
- 11 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 灰オリーブ色砂(5Y4/2) 少量混入。炭化物を少量含む。しまりや強い。

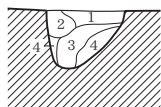
0 (1:40) 2m



(部分図2)  
SB2001



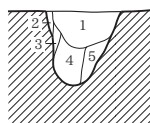
SB2001-P43 A A' -1.00m



SB2001-P43

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1~10YR2/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)・黒色砂質土(10YR2/1)のみだれた層状 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR1.7/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒色砂質土(10YR1.7/1~10YR2/1) 暗灰黄色砂(10YR4/2)筋状に混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

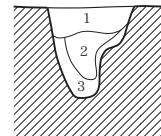
SB2001-P44 B B' -1.00m



SB2001-P44

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1~10YR3/1) 暗灰黄色砂(10YR4/2)混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR2/2) 黒色砂質土(10YR1.7/1)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1) 暗灰黄色砂(10YR4/2)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒色砂質土(10YR2/1)・暗灰黄色砂(10YR4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 5 黒色砂質土(10YR2/1)・暗灰黄色砂(10YR4/2)のみだれた層状 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

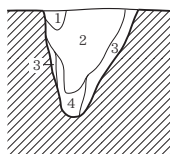
SB2001-P46 C C' -1.00m



SB2001-P46

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1~10YR3/1) 暗灰黄色砂(10YR4/2)混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒砂質土(10YR1.7/1) 黒褐色砂質土(10YR2/2)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR1.7/1) 暗灰黄色砂(10YR4/2)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

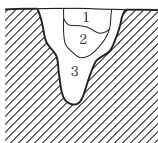
SB2001-P49 D D' -1.00m



SB2001-P49

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR3/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(5Y2/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒色砂質土(5Y2/1) 黒褐色砂質土(10Y2/2)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

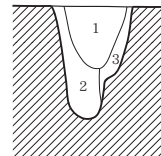
SB2001-P50 E E' -1.00m



SB2001-P50

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(7.5Y2/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(5Y5/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

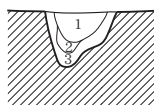
SB2001-P52 F F' -1.00m



SB2001-P52

- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(7.5Y2/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

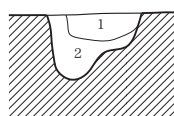
SB2001-P53 G G' -1.00m



SB2001-P53

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒褐色砂質土(7.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

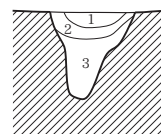
SB2001-P54 H H' -1.00m



SB2001-P54

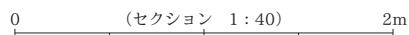
- 1 黒色砂質土(10Y2/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(7.5Y2/1) 黒色砂質土(10Y2/1)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SB2001-P57 I I' -1.00m

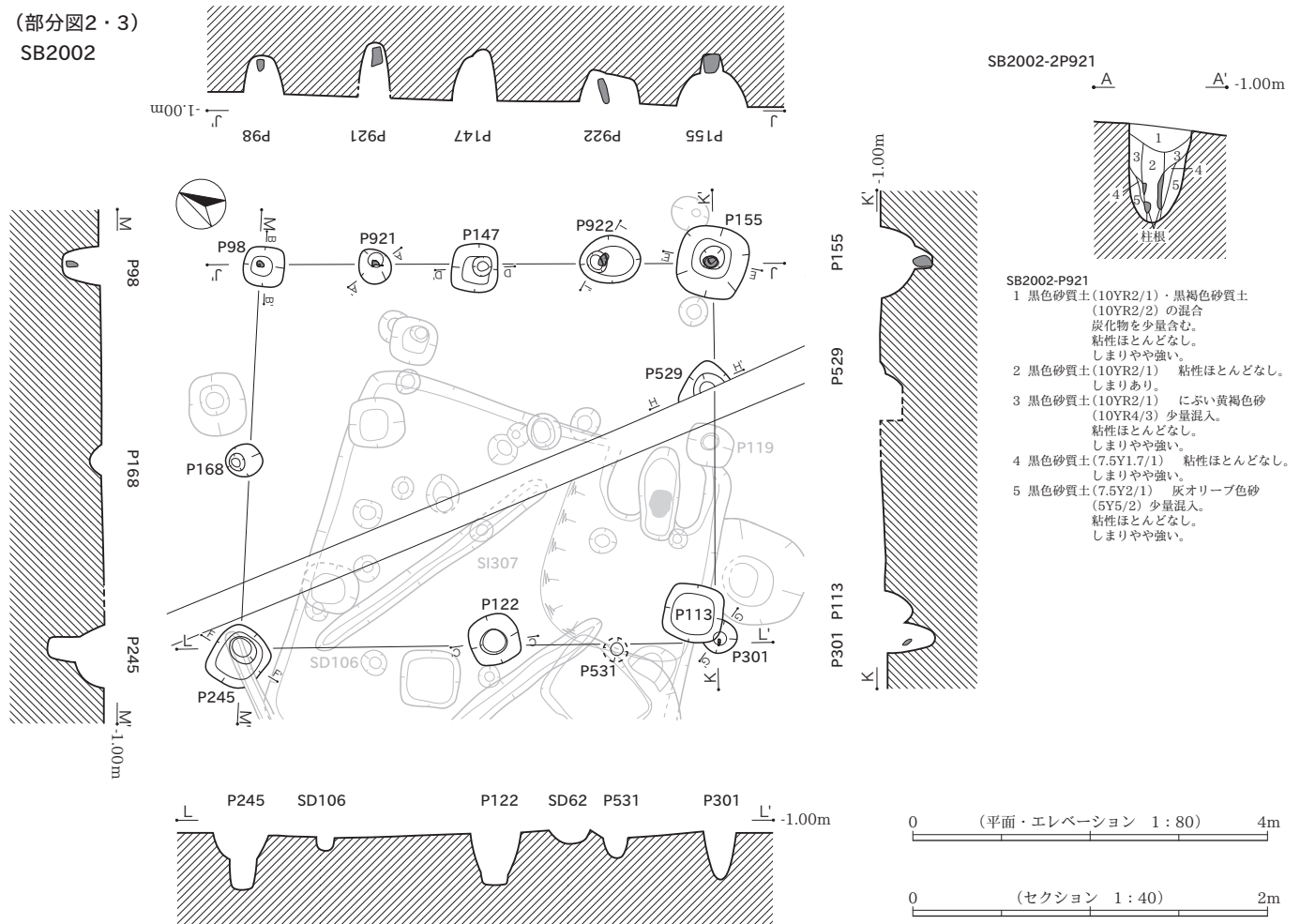


SB2001-P57

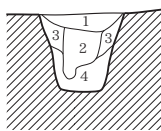
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 暗灰黄色砂(10YR4/2)混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・暗灰黄色砂(10YR4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1) 暗灰黄色砂(10YR4/2)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



(部分図2・3)  
SB2002

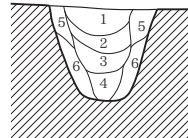


SB2002-P98  
B B', -1.00m



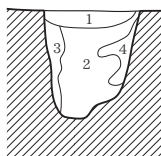
- SB2002-P98**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 褐灰色砂質シルト(10YR5/1)少量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR1.7/1) 褐灰色砂質シルト(10YR5/1)微量・暗灰色黄色砂(2.5Y4/2)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土(10YR1.7/1)・暗灰色黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 暗灰色黄色砂(2.5Y4/2) 黒色砂質土(10YR1.7/1)混入。しまりやや強い。

SB2002-P122  
C C', -1.00m



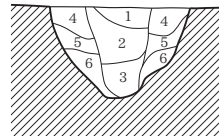
- SB2002-P122**
- 1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 2 オリーブ黒色砂質土(5Y2/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 3 黒色砂質土(2.5Y2/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 4 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 5 黒色砂質土(10YR2/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 6 オリーブ黒色砂質土(5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまり弱い。

SB2002-P147  
D D', -1.00m



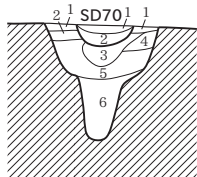
- SB2002-P147**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR1.7/1) 暗灰色黄色砂(2.5Y4/2)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 暗灰色黄色砂(2.5Y4/2) 黒色砂質土(10YR1.7/1)混入。しまりやや強い。
  - 4 オリーブ黒色砂質土(5Y3/2) 黒色砂質土(10YR1.7/1)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SB2002-P155  
E E', -1.00m



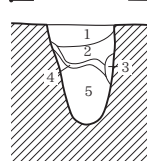
- SB2002-P155**
- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(10YR2/2)・黒色砂質土(10YR2/1)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土(10YR1.7/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 黒色砂質土(10YR2/1) オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 6 黒色砂質土(10YR2/1) オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)多量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SB2002-P245  
F F', -1.00m



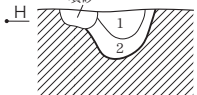
- SB2002-P245**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR3/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(10YR3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)~2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。噴砂みられる。
  - 6 灰オリーブ色砂(5Y4/2) 黒色砂質土(10YR1.7/1)混入。しまりやや強い。

SB2002-P301  
G G', -1.00m



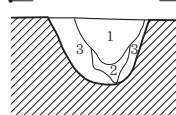
- SB2002-P301**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 黄灰色粘質土(2.5Y4/1)少量混入。炭化物を微量含む。粘性弱い。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土(10YR2/1) 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・黒色砂質土(10YR2/1)の混合 オリーブ黒色砂質土(2.5Y3/2)微量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 黒色砂質土(10YR1.7/1) オリーブ黒色砂質土(2.5Y3/2)層状に混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SB2002-P529  
H H', -1.00m



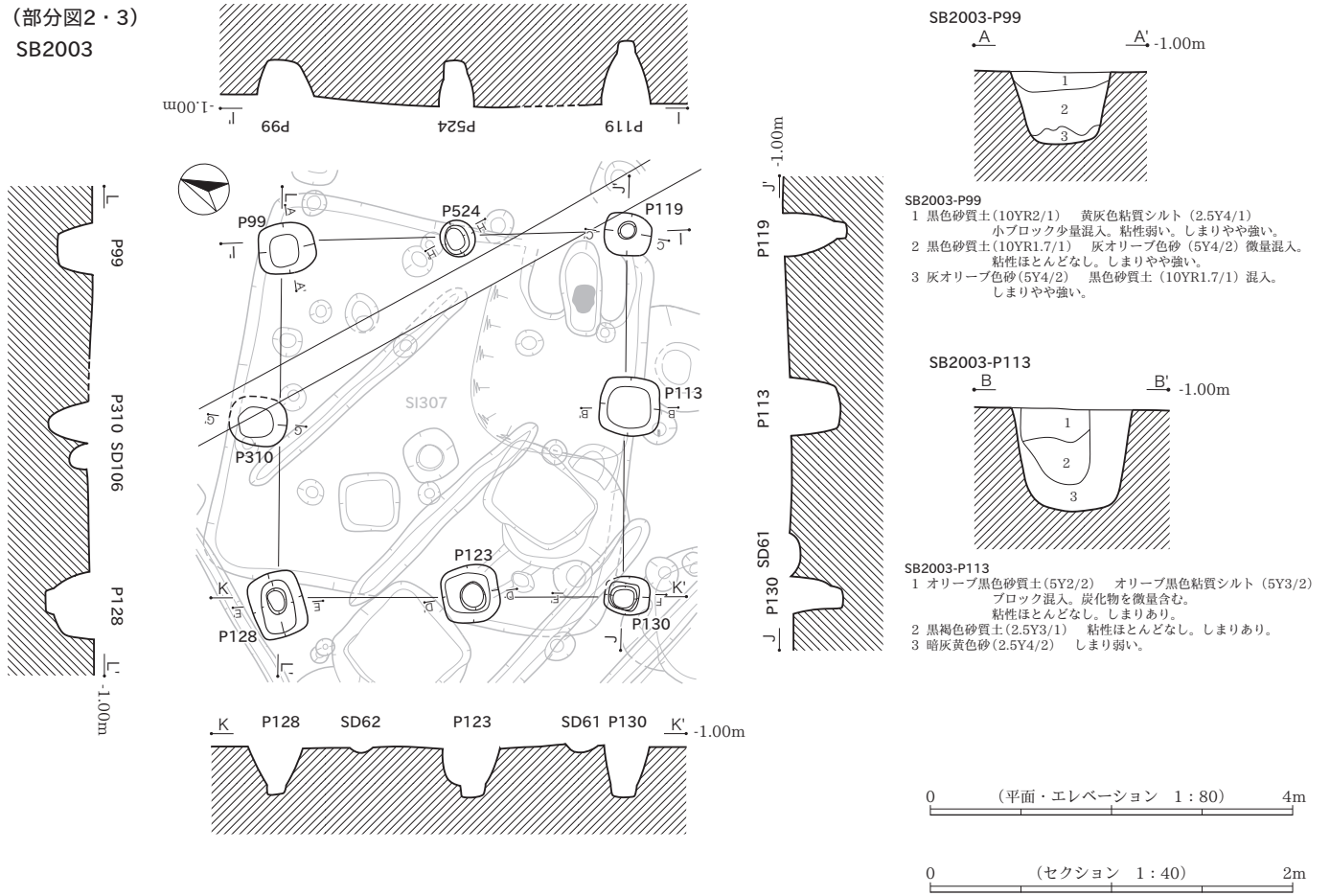
- SB2002-P529**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR3/2)の混合 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。

SB2002-P922  
I I', -1.00m

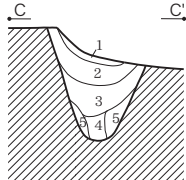


- SB2002-P922**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 植物を中量・炭化物微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR1.7/1) 黒褐色砂質土(10YR2/2)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土(10YR1.7/1) 暗褐色砂質土(10YR3/3)混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図2・3)  
SB2003

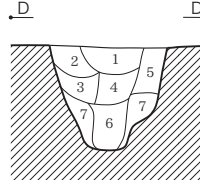


SB2003-P119



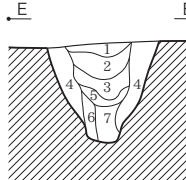
- SB2003-P119  
1 黒色砂質土(10YR2/1) 黄灰色粘質シルト(2.5Y4/1) 混入。粘性ほとんどなし。しまりあり。噴砂みられる。  
2 黒色砂質土(2.5Y2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。  
3 オリブ黒色砂質土(5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまり弱い。  
4 黒色砂質土(2.5Y2/1) 粘性ほとんどなし。しまり弱い。  
5 オリブ黒色砂質土(5Y2/2) 粘性ほとんどなし。しまり弱い。

SB2003-P123



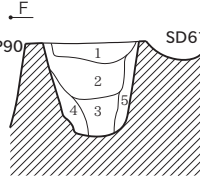
- SB2003-P123  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 黄灰色粘質シルト(2.5Y5/1) 小ブロック・暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2) 混入。粘性ほとんどなし。しまりあり。  
2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。  
3 黒色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。  
4 オリブ黒色砂質土(5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。  
5 オリブ黒色砂質土(5Y2/2) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。  
6 黒色砂質土(2.5Y2/1) 粘性ほとんどなし。しまり弱い。  
7 オリブ黒色砂質土(5Y2/2)・灰オリブ色砂(5Y4/2)の混合。しまり弱い。

SB2003-P128



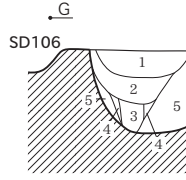
- SB2003-P128  
1 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。  
2 オリブ黒色砂質土(5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。噴砂みられる。  
3 オリブ黒色砂質土(7.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。  
4 オリブ黒色砂質土(5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。  
5 オリブ黒色砂質土(7.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。  
6 黒色砂質土(5Y2/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。  
7 オリブ黒色砂質土(5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。

SB2003-P130



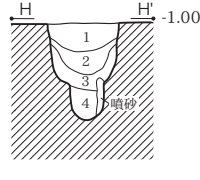
- SB2003-P130  
1 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合。炭化物を多量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。噴砂みられる。  
2 黒色砂質土(2.5Y2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合。粘性ほとんどなし。しまりあり。  
3 黒色砂質土(5Y2/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。  
4 黒色砂質土(5Y2/1)・オリブ黒色砂質土(5Y2/2)の混合。粘性ほとんどなし。しまりあり。  
5 黒色砂質土(5Y2/1)・オリブ黒色砂質土(5Y3/2)の混合。粘性ほとんどなし。しまりあり。

SB2003-P310



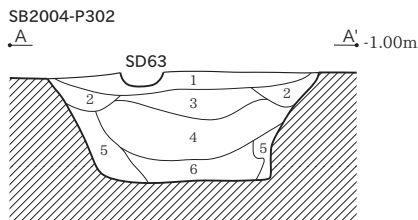
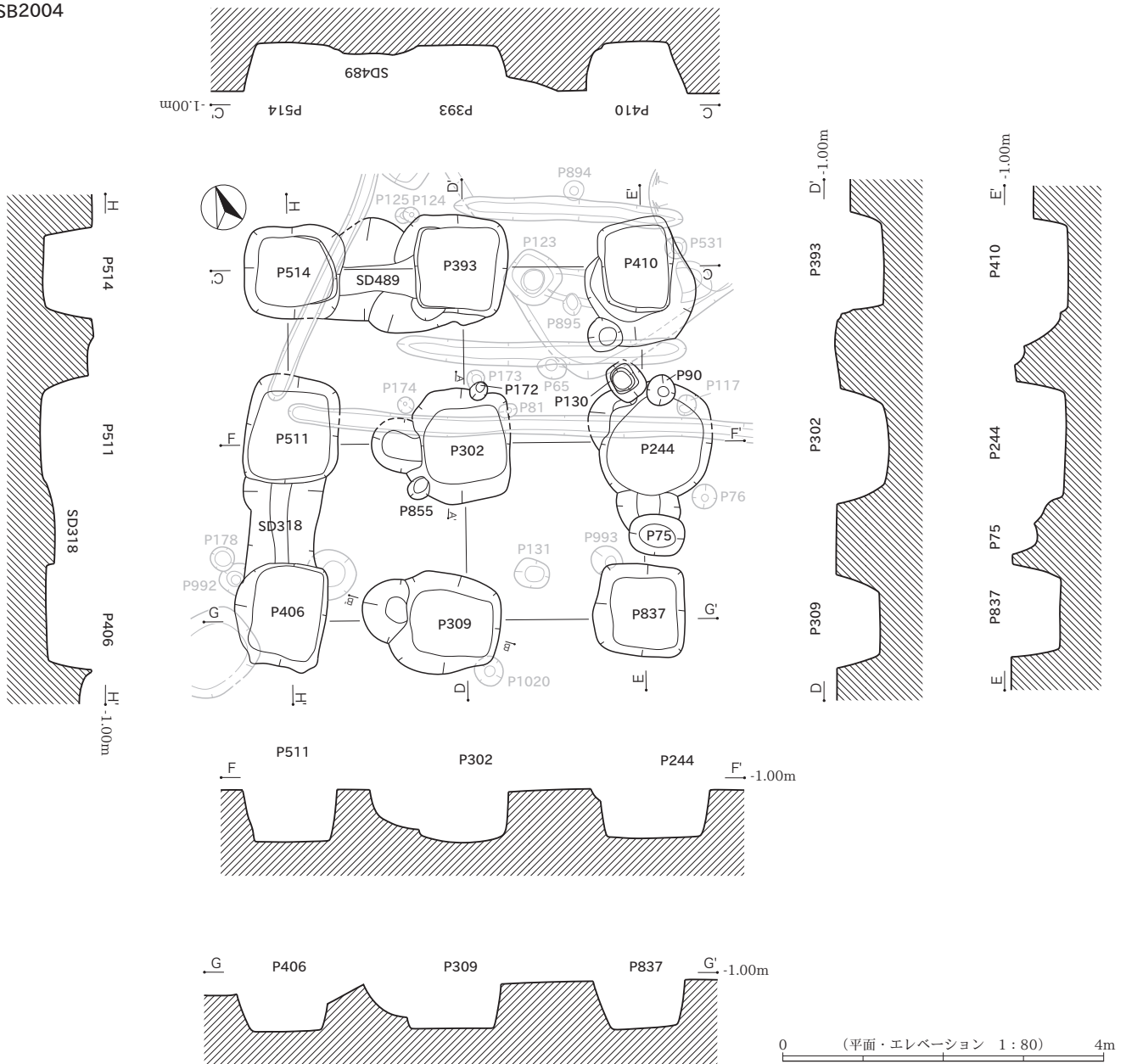
- SB2003-P310  
1 黒色砂質土(10YR2/1) 黄灰色粘質土(2.5Y4/1) 少量混入。炭化物を微量含む。粘性弱い。しまりやや強い。  
2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
3 黒色砂質土(10YR2/1) 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
4 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・黒色砂質土(10YR2/1)の混合。オリブ黒色砂質土(2.5Y3/2) 微量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
5 黒色砂質土(10YR1.7/1) オリブ黒色砂質土(2.5Y3/2) 層状に混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SB2003-P524

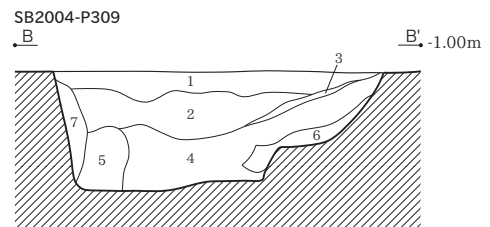


- SB2003-P524  
1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
2 黒褐色砂質土(10YR2/2)・黒色砂質土(10YR2/1)の混合。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
3 黒褐色砂質土(10YR2/2) 黒色砂質土(10YR2/1) 少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
4 黒色砂質土(10YR1.7/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図3)  
SB2004



- SB2004-P302
- 1 黒褐色砂質土 (10YR2/2) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土 (10YR2/2)・黒色砂質土 (10YR1.7/1) の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 灰オリーブ色砂 (5Y4/2) 混入 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 6 黒色砂質土 (10YR1.7/1)・灰オリーブ色砂 (5Y4/2) の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

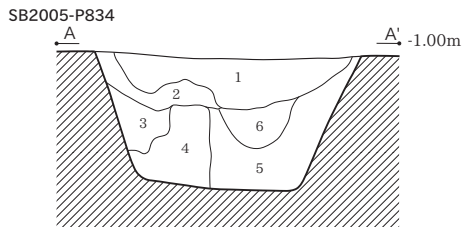
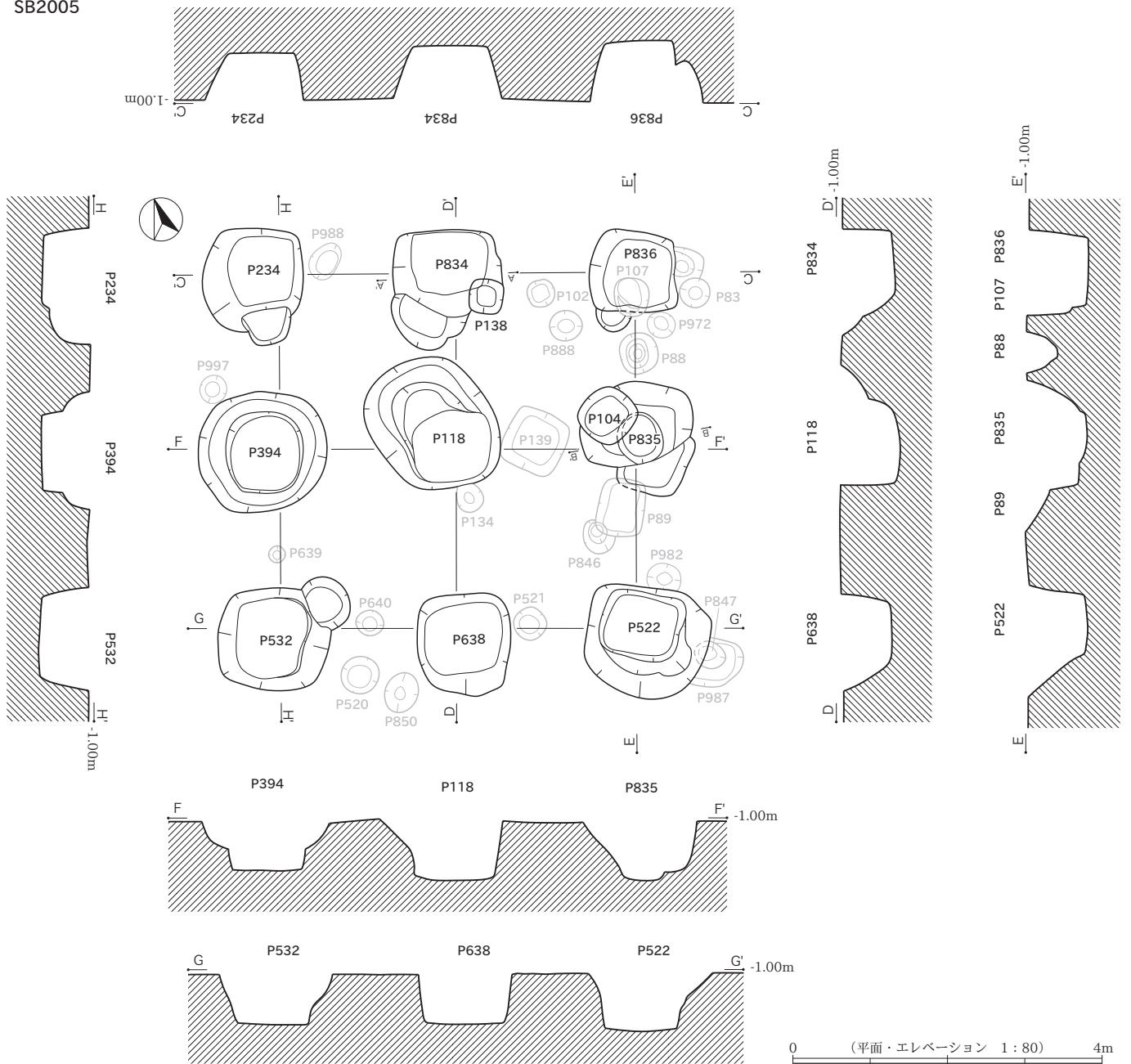


- SB2004-P309
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1)・黒褐色砂質土 (10YR2/2) の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土 (10YR2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 灰オリーブ色砂 (5Y4/2) 黒色砂質土 (10YR2/1) 混入。しまりやや強い。
  - 4 黒色砂質土 (10YR1.7/1~10YR2/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 6 黒色砂質土 (10YR2/1)・灰オリーブ色砂 (5Y4/2) の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 7 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 灰オリーブ色砂 (5Y4/2) 混入 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

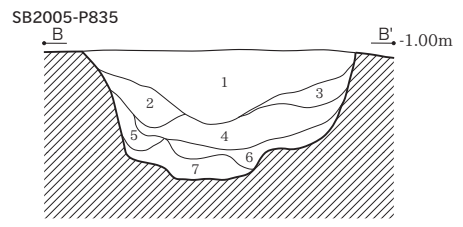
0 (セクション 1:40) 2m



(部分図3)  
SB2005



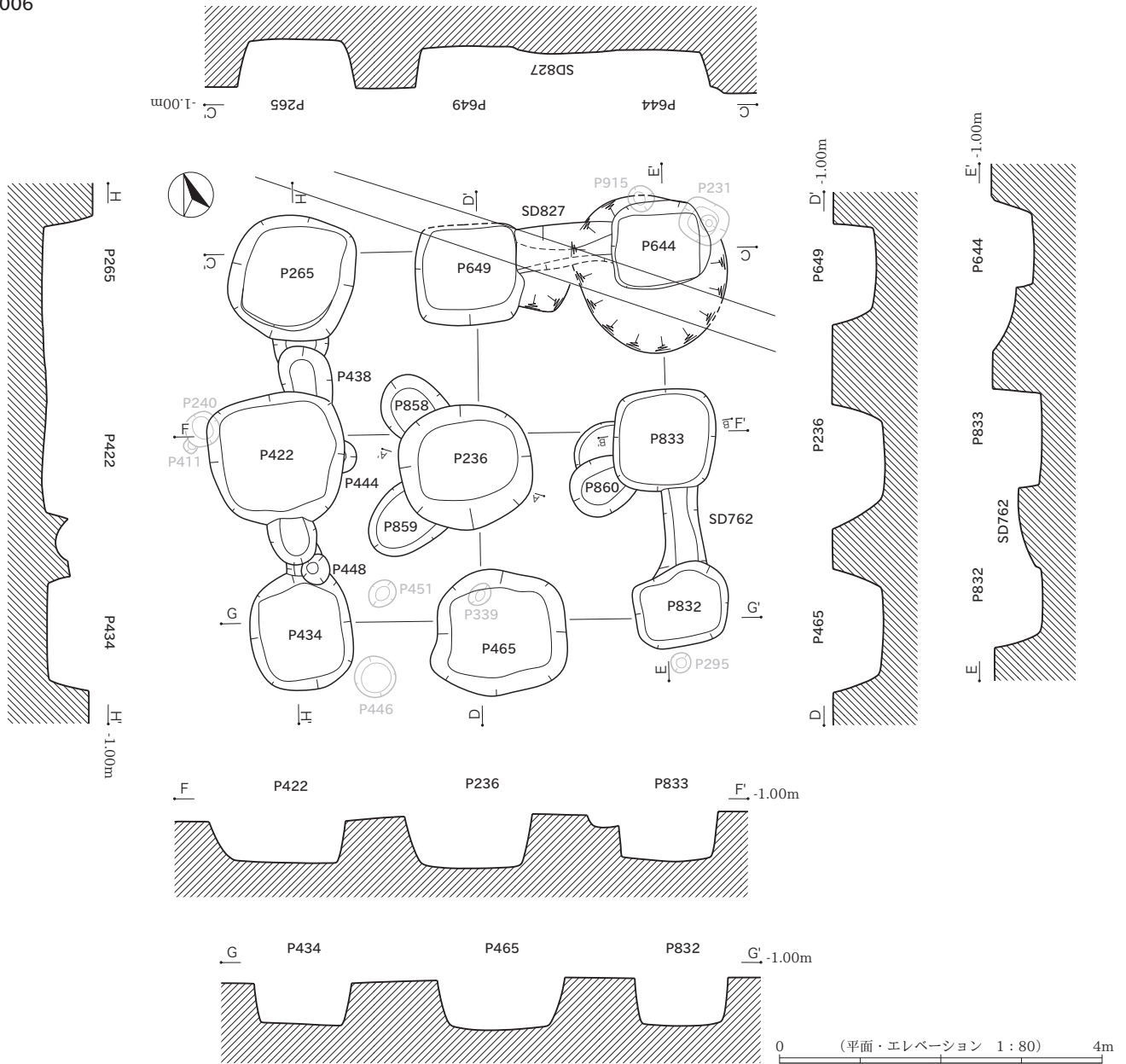
- SB2005-P834**
- 1 黑色砂質土(2.5Y2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合  
炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土(5Y2/1)・オリブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 オリブ黒色砂質土(5Y3/1)・灰色砂(7.5Y4/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 5 オリブ黒色砂質土(5Y3/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・  
暗灰黄色砂(2.5Y5/2)の混合 粘性ほとんどなし。  
しまりあり。
  - 6 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



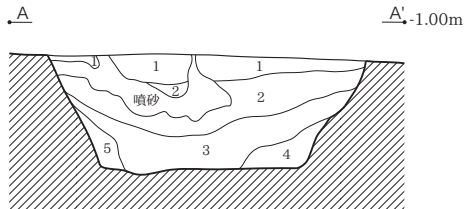
- SB2005-P835**
- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合  
炭化物を多量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 3 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒色砂質土(10YR2/1)・黒色砂質土(2.5Y2/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 黒色砂質土(5Y2/1)・オリブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 6 オリブ黒色砂質土(5Y3/1)・灰色砂(5Y4/1)・  
オリブ黒色砂質土(5Y2/2)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 7 黒色砂質土(5Y2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりあり。

0 (セクション 1:40) 2m

(部分図3)  
SB2006



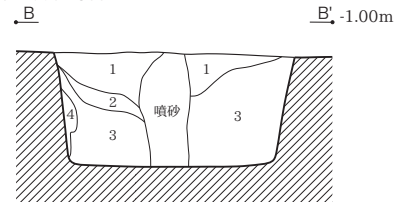
SB2006-P236



SB2006-P236

- 1 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・オリブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合  
炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR1.7/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 オリブ黒色砂質土(5Y2/2)・オリブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 オリブ黒色砂質土(5Y3/2)・黄灰色砂(2.5Y4/1)の混合  
しまりやや強い。
- 5 オリブ黒色砂質土(5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。

SB2006-P833



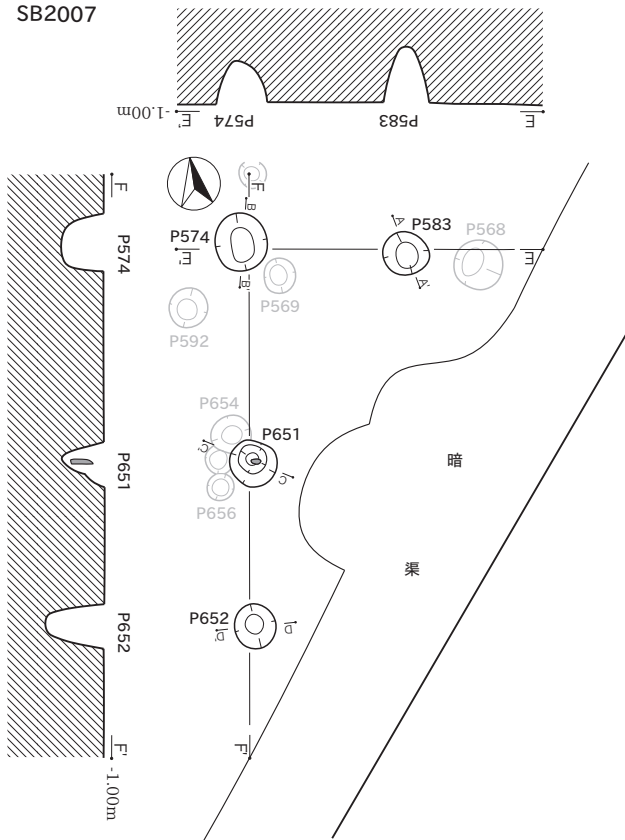
SB2006-P833

- 1 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 黄灰色砂(2.5Y4/1)混入。  
炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。  
しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)~10YR3/1) 粘性ほとんどなし。  
しまりやや強い。
- 3 黒褐色砂質土(10YR3/1)・オリブ黒色砂質土(5Y3/1)  
の混合 黄灰色砂(2.5Y4/1)混入。  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・灰オリブ色砂(5Y4/2)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

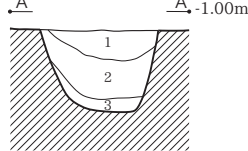
0 (セクション 1:40) 2m

(部分図4)

SB2007



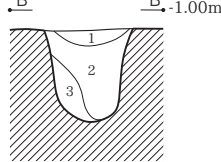
SB2007-P583



SB2007-P583

- 1 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

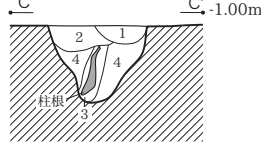
SB2007-P574



SB2007-P574

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/1)・暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 しまりやや強い。

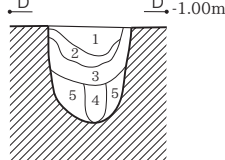
SB2007-P651



SB2007-P651

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 灰オリーブ色砂(5Y4/2)中量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1) 黒褐色砂質土(10YR2/2)中量・オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)少量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR3/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒色砂質土(10YR2/1) 黒色砂質土(10YR1.7/1)ブロック中量・灰オリーブ色砂(5Y4/2)中量・灰オリーブ色砂(5Y5/2)層状に中量混入。粘性ほとんどなし。しまりあり。

SB2007-P652

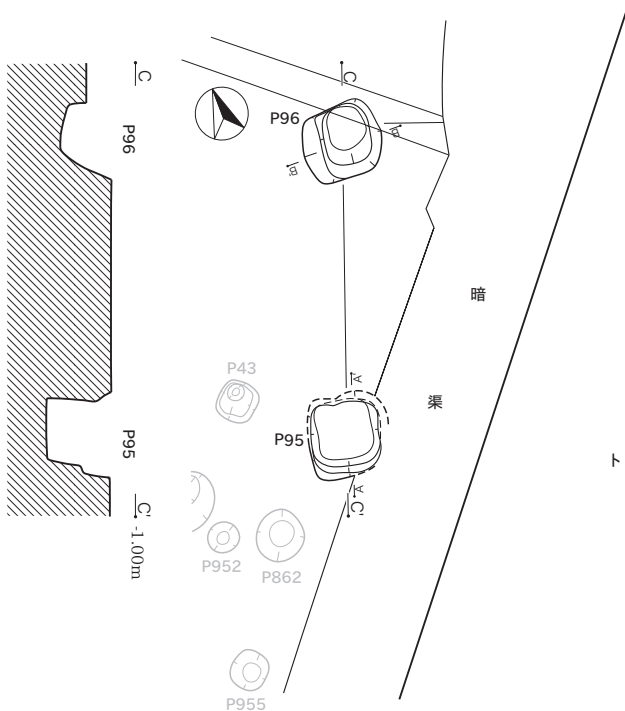


SB2007-P652

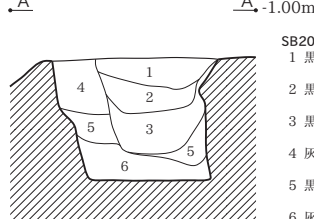
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)少量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR1.7/1) オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)少量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒色砂質土(10YR1.7/1) 灰オリーブ色砂(5Y4/2)微量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 5 黒色砂質土(10YR1.7/1) 灰オリーブ色砂(5Y4/2)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図2)

SB2008



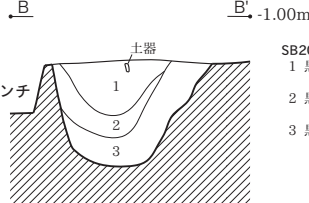
SB2008-P95



SB2008-P95

- 1 黒色砂質土(7.5YR2/1)・黒色砂質土(10YR2/1)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1) 暗灰黄色粘質シルト(2.5Y4/2)混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1) 暗灰黄色粘質シルト(2.5Y4/2)がみだれた層状に混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 灰オリーブ色砂(5Y5/2)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)が層状に堆積 黒色砂質土(10YR2/1)中量混入。しまりやや強い。
- 5 黒色砂質土(10YR2/1)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 6 灰オリーブ色砂(5Y5/2)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)が層状に堆積 黒色砂質土(10YR2/1)中量混入。しまりやや強い。

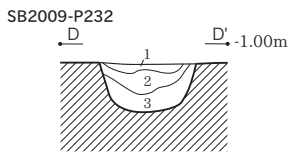
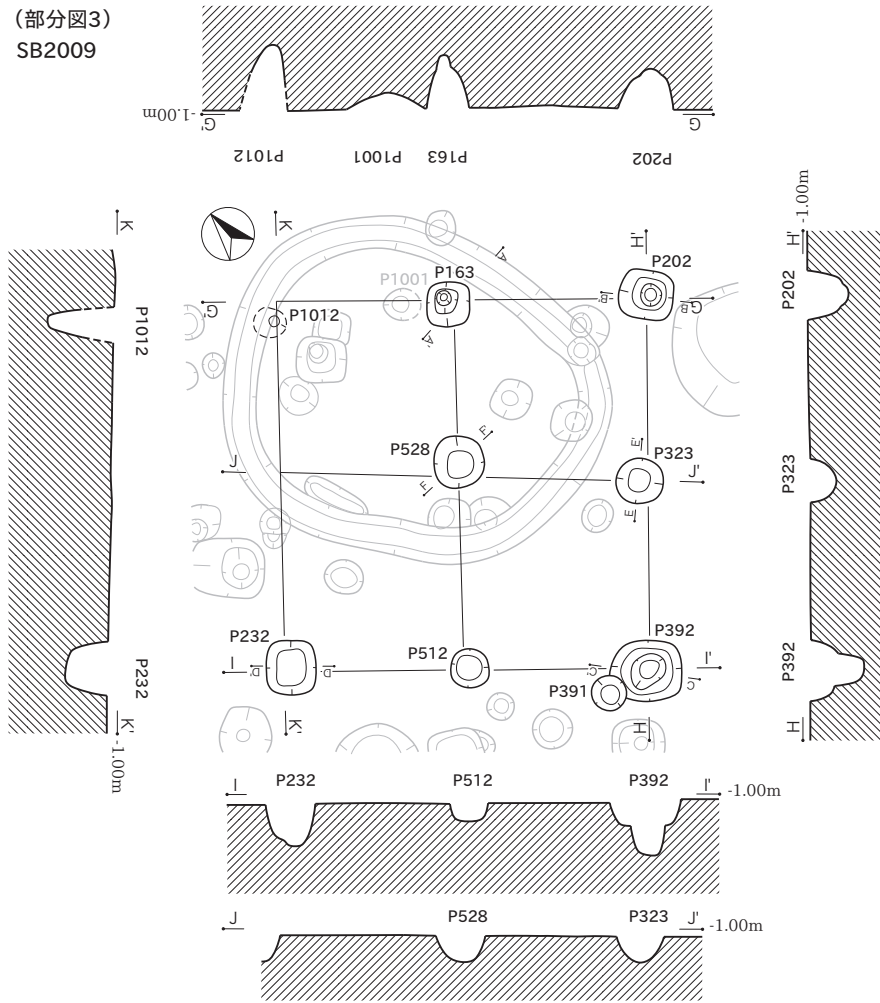
SB2008-P96



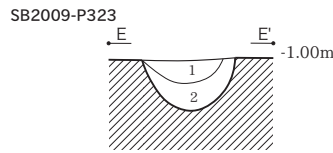
SB2008-P96

- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 灰オリーブ色粘質土(5Y5/2)微量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1) 暗灰黄色砂(2.5Y4/2)微量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1)・暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の互層 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図3)  
SB2009



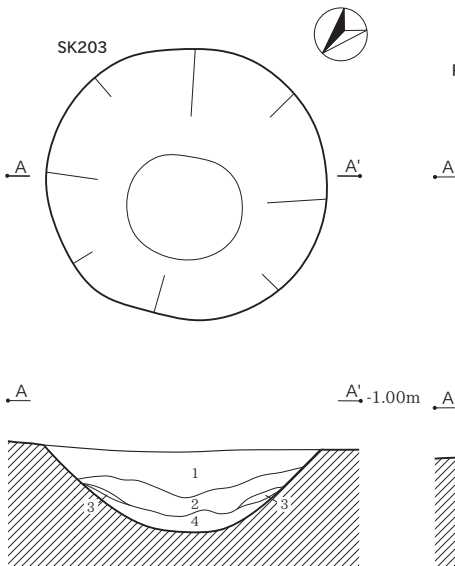
- SB2009-P232
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1) 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土 (10YR1.7/1) オリーブ褐色砂 (2.5Y4/3) 少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



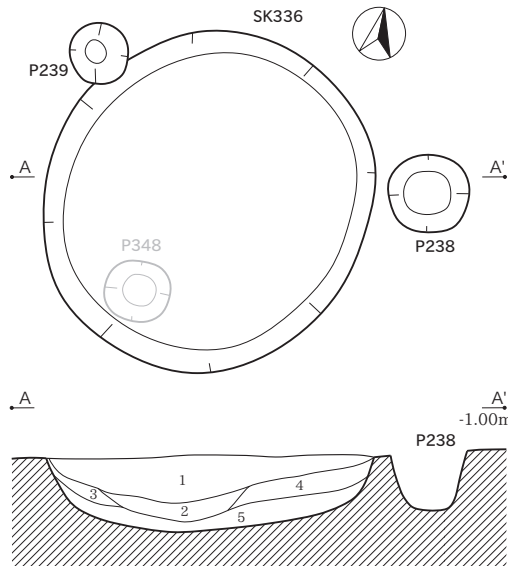
- SB2009-P323
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土 (10YR1.7/1) にぶい黄褐色砂質土 (10YR 4/3) の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

0 (平面・エレベーション 1:80) 4m

(部分図3)

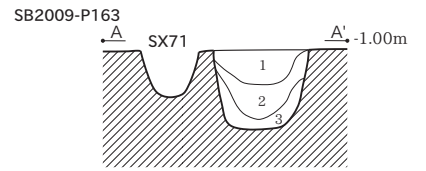


(部分図3)

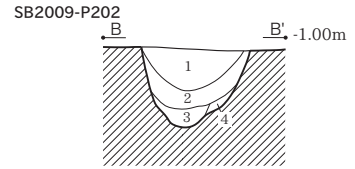


- SK203
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土 (10YR3/1)・黒色砂質土 (10YR2/1) の混合。褐色砂 (10YR5/1) が筋状に混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒褐色砂質土 (10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- SK336
- 1 黒褐色砂質土 (10YR2/2~10YR3/1) 炭化物を多量含む。粘性ほとんどなし。しまり強い。
  - 2 黒褐色砂質土 (2.5Y3/1~2.5Y3/2) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土 (2.5Y2/1)・黒褐色砂質土 (2.5Y3/2) の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 オリーブ黒色砂質土 (5Y3/2)・暗灰黄色砂質土 (2.5Y3/2) の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 オリーブ黒色砂質土 (5Y3/2)・暗灰黄色砂質土 (2.5Y4/2) の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

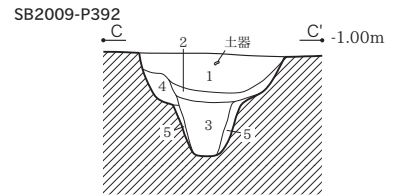
0 (セクション 1:40) 2m



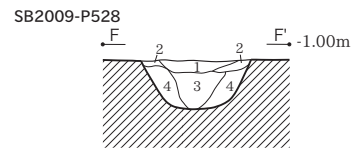
- SB2009-P163
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土 (10YR1.7/1) オリーブ褐色砂 (2.5Y4/3) 中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



- SB2009-P202
- 1 黒褐色砂質土 (10YR2/2) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土 (10YR2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 暗灰黄色砂 (2.5Y4/2) 混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒色砂質土 (10YR2/1)・暗灰黄色砂 (2.5Y4/2) の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



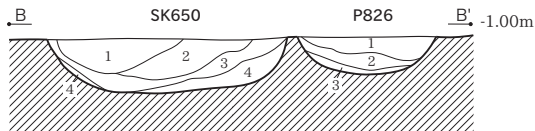
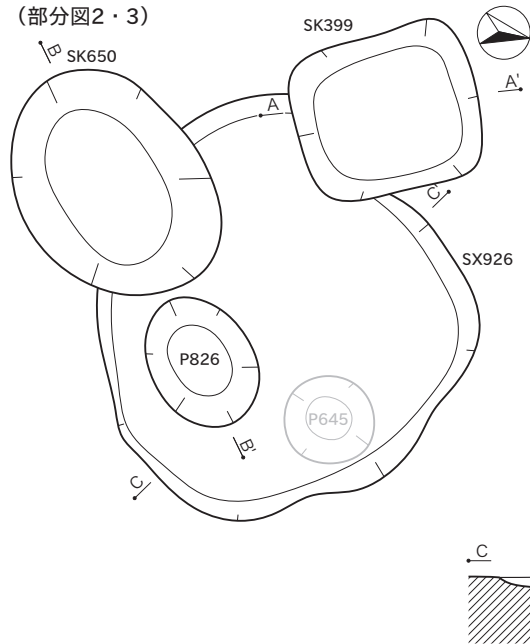
- SB2009-P392
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1)・黒褐色砂質土 (10YR2/2) の混合。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土 (10YR2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒色砂質土 (10YR2/1) 灰オリーブ色砂 (5Y4/2) 中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 灰オリーブ色砂 (5Y4/2) 黒色砂質土 (10YR2/1) 中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



- SB2009-P528
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1)・黒褐色砂質土 (10YR2/2) の混合。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 2 黒色砂質土 (10YR2/1) 黒褐色砂質土 (10YR2/2) 中量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 3 黒色砂質土 (10YR2/1)・黒褐色砂質土 (10YR2/2) の混合。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 4 黒褐色砂質土 (10YR2/2~10YR2/3) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。



(部分図2・3)

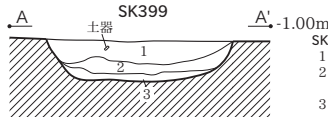


SK650

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 灰オリブ色砂(5Y4/2)少量混入。炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 灰オリブ色砂(5Y4/2)中量混入。炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)・灰オリブ色砂(5Y4/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒色砂質土(10YR2/1)・灰オリブ色砂(5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

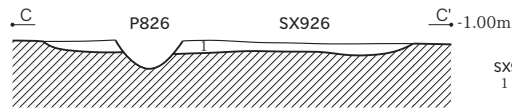
P826

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 灰オリブ色砂(5Y4/2)少量混入。炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)・灰オリブ色砂(5Y4/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1)・灰オリブ色砂(5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



SK399

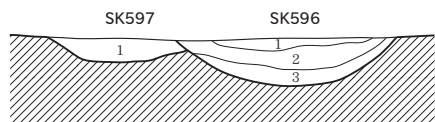
- 1 黒褐色砂(10YR2/2) 炭化物を少量含む。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR1.7/1)・オリブ褐色砂(2.5Y4/3)多量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 オリブ褐色砂(2.5Y4/3) 黒色砂質土(10YR1.7/1)中量混入。しまりやや強い。



SX926

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

A A' -1.00m



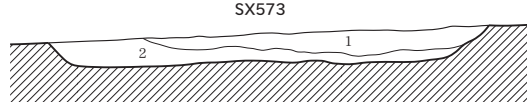
SK597

- 1 オリブ黒色粘質シルト(5Y2/2)・オリブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合にふい黄褐色粘質土(10YR5/4)ブロック混入。炭化物を多量含む。粘性弱い。しまりやや強い。噴砂みられる。

SK596

- 1 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・オリブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合 炭化物を多量含む。粘性弱い。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・黒色砂質土(2.5Y2/1)の混合 ブロック状に混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。噴砂みられる。
- 3 オリブ黒色砂(5Y3/2)・灰オリブ色砂質土(5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

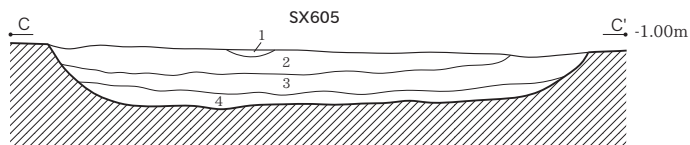
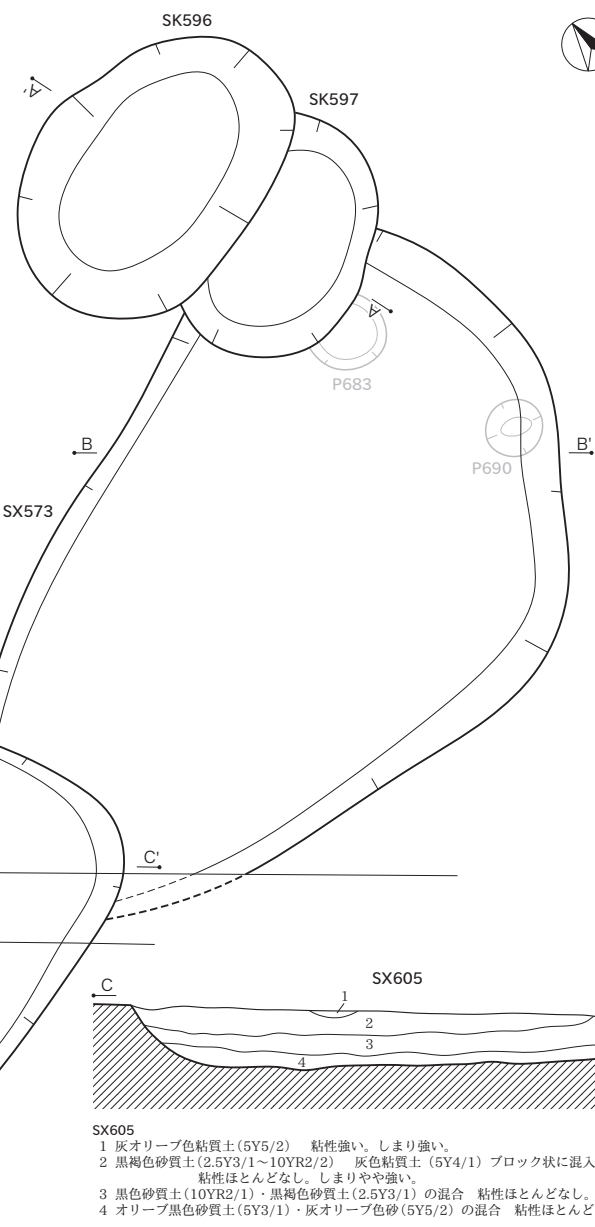
B B' -1.00m



SX573

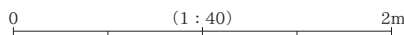
- 1 黒褐色砂質土(10YR3/1)・オリブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合 灰色粘質土(5Y4/1)小ブロック混入。炭化物を多量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図4)

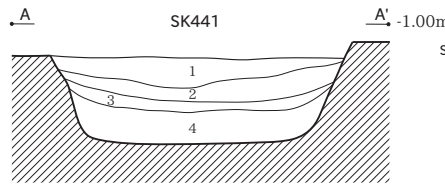
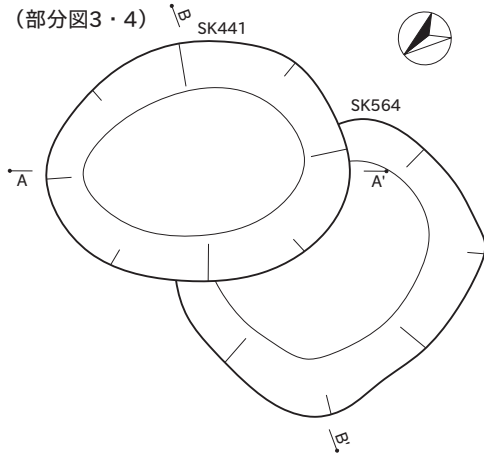


SX605

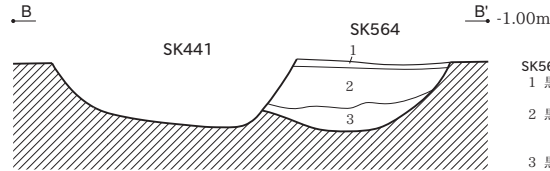
- 1 灰オリブ色粘質土(5Y5/2) 粘性強い。しまり強い。
- 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1~10YR2/2) 灰色粘質土(5Y4/1)ブロック状に混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 オリブ黒色砂質土(5Y3/1)・灰オリブ色砂(5Y5/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



(部分図3・4)

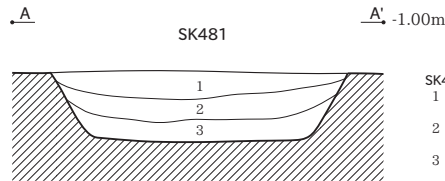
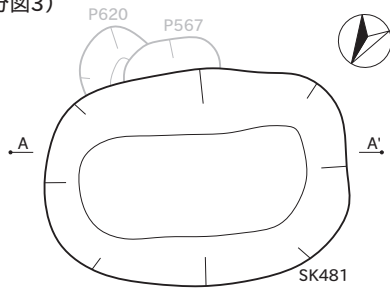


- SK441**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR3/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・オリブ黒色砂(5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 オリブ黒色砂質土(5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。



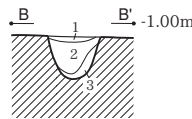
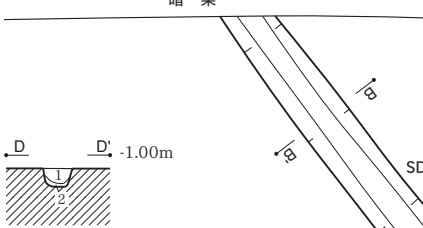
- SK564**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR1.7/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図3)

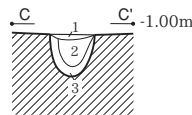


- SK481**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(5Y2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・オリブ黒色砂(5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図4)



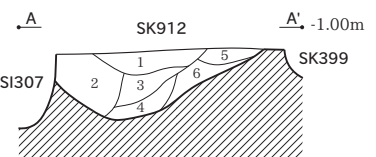
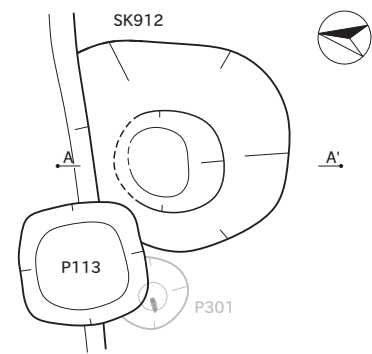
- SD493 B-B'**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR1.7/1) 炭化物を含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



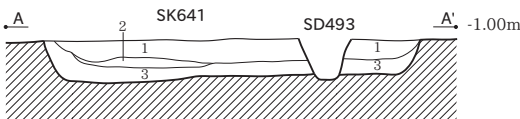
- SD493 C-C'**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR1.7/1) 炭化物を含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

- SD539**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 黒褐色砂質土(10YR2/2) 中量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりあり。

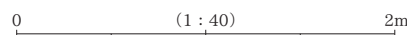
(部分図2・3)



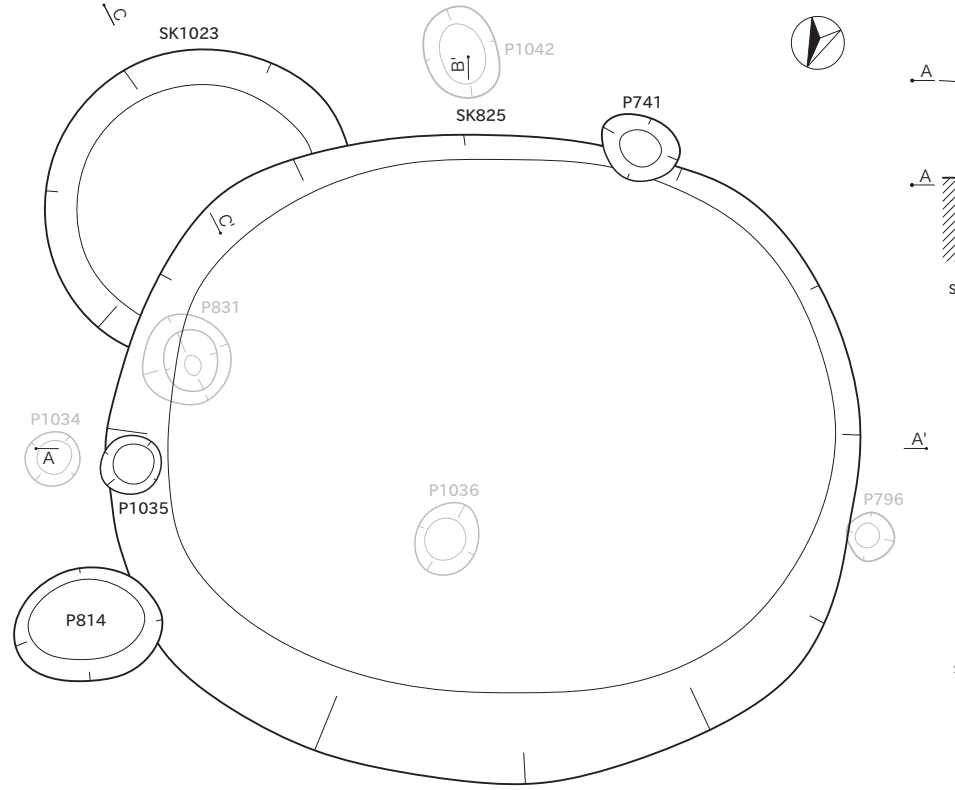
- SK912**
- 1 黒色砂質土(5Y1.7/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(7.5YR2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒色砂質土(10YR2/1) 灰オリブ色砂(5Y5/2)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 黒色砂質土(7.5YR 1.7/1)・黒褐色砂質土(7.5Y2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 6 黒褐色砂質土(10YR2/2)・にぶい黄褐色砂(10YR4/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



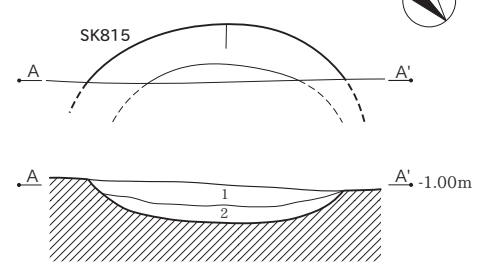
- SK641**
- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 3 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。



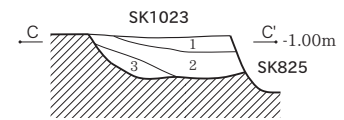
(部分図4・5)



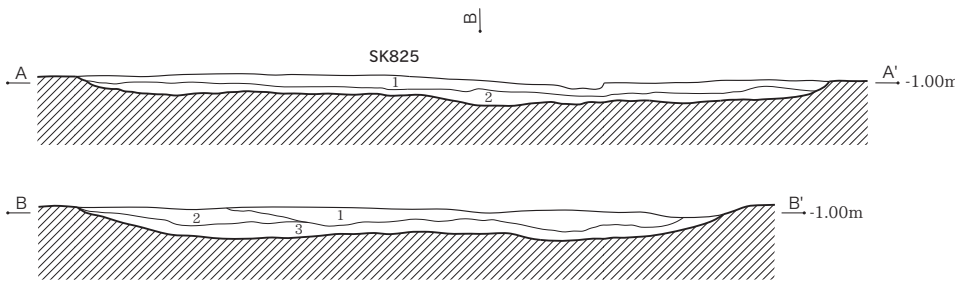
(部分図4・5)



SK815  
 1 黒色砂質土(10YR1.7/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

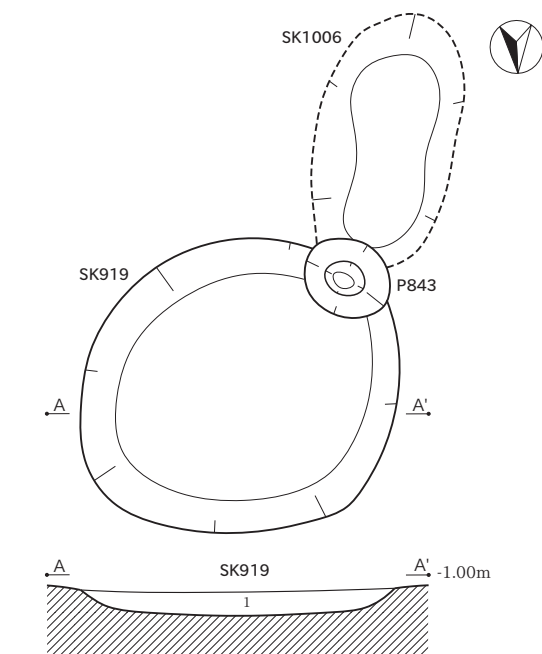


SK1023  
 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 2 黒色砂質土(10YR2/1) 灰黄褐色砂(2.5Y4/1)少量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまり強い。  
 3 黒褐色砂質土(10YR3/2)・灰黄褐色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまり強い。



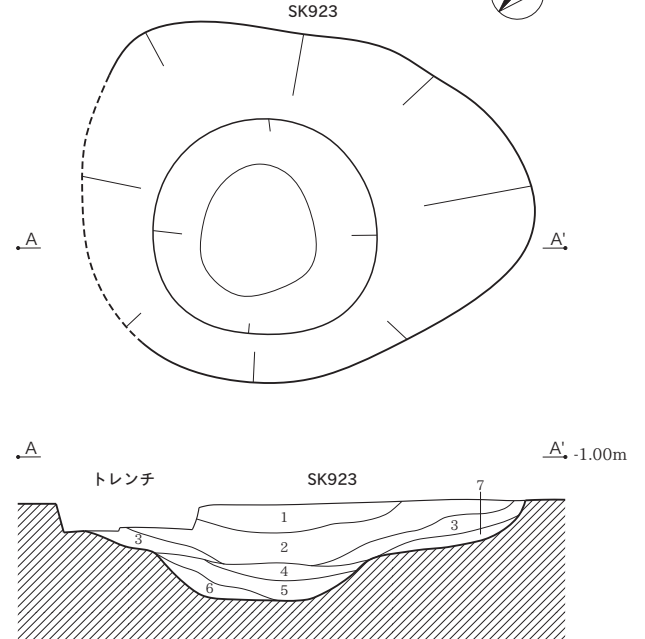
SK825 A-A'・B-B'  
 1 黒褐色砂質土(10YR3/1~10YR3/2) 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図3)



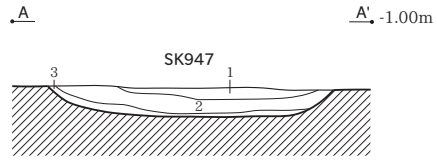
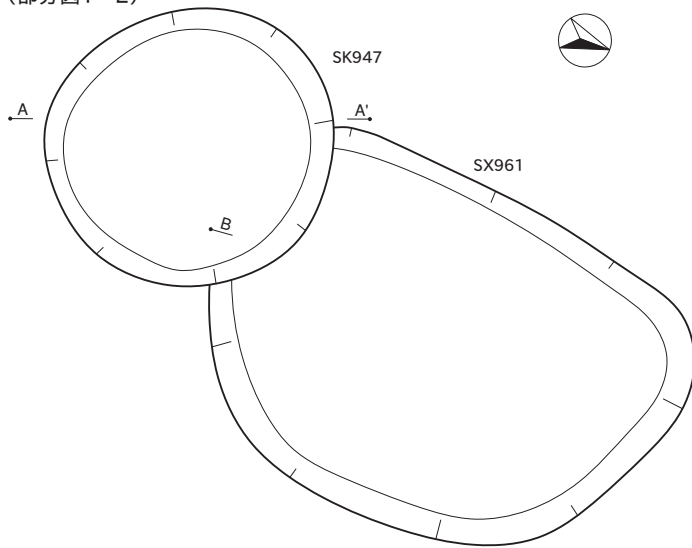
SK919  
 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 黄褐色砂(2.5Y5/3)斑状に多量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図2)

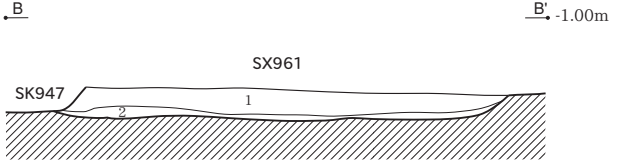


SK923  
 1 黒色砂質土(7.5YR2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 2 黒色砂質土(7.5YR1.7/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 3 黒色砂質土(10YR2/1) 黒褐色砂質土(10YR3/2)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 4 黒色砂質土(10Y1.7/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 5 黒色砂質土(10Y1.7/1)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 6 灰オリーブ色砂(5Y4/2) 黒色砂質土(10YR2/1)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 7 黒色砂質土(10YR2/1) にぶい黄褐色砂(10YR4/3)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図1・2)

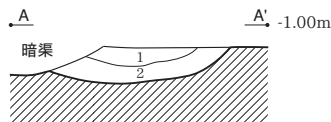
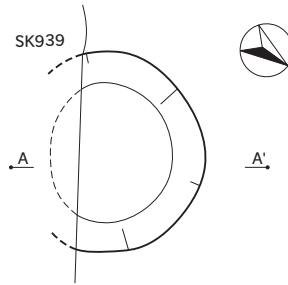


- SK947  
 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・オリーブ黒色砂質土(5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



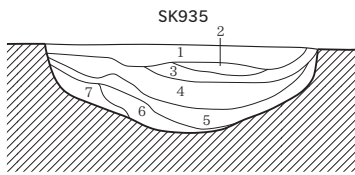
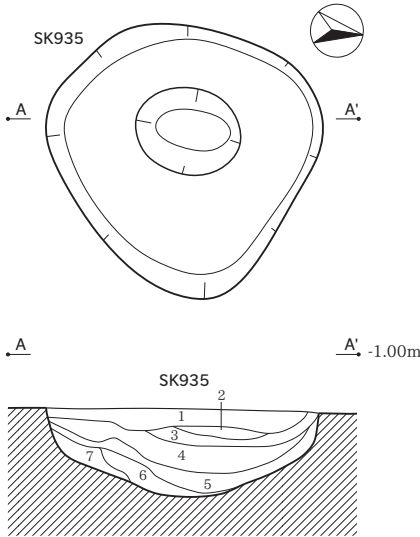
- SX961  
 1 黒褐色砂質土(10YR3/2)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりあり。

(部分図2・3)



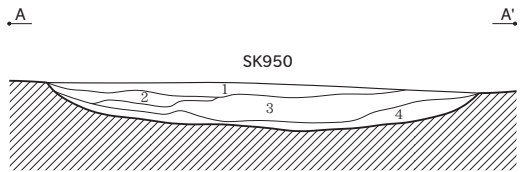
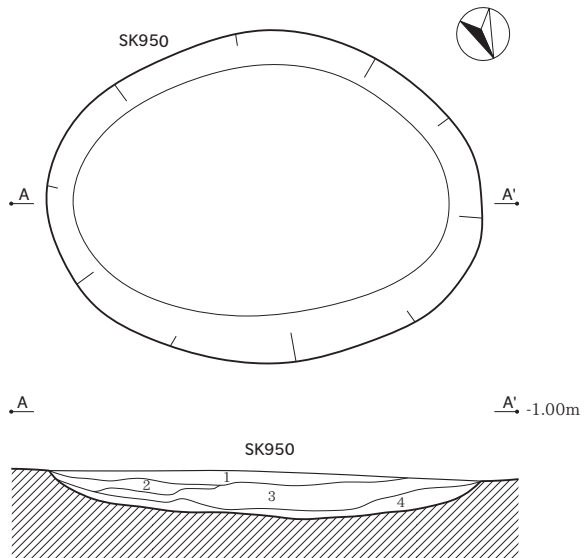
- SK939  
 1 黒褐色砂質土(10YR2/2)・黒色砂質土(10YR2/1)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。  
 2 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。

(部分図1・2)



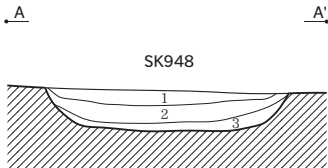
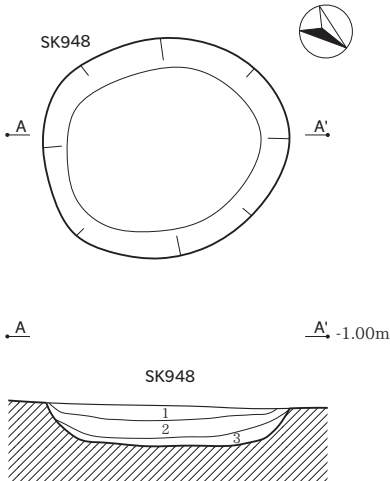
- SK935  
 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 4 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 5 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 6 暗灰黄色砂(2.5Y4/2)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 しまりやや強い。  
 7 オリーブ黒色砂質土(5Y3/2)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 しまりやや強い。

(部分図2)



- SK950  
 1 黒色砂質土(10YR1.7/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 3 黒色砂質土(10YR3/1)・黒褐色砂質土(2.5YR3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 4 黒褐色砂質土(2.5YR3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

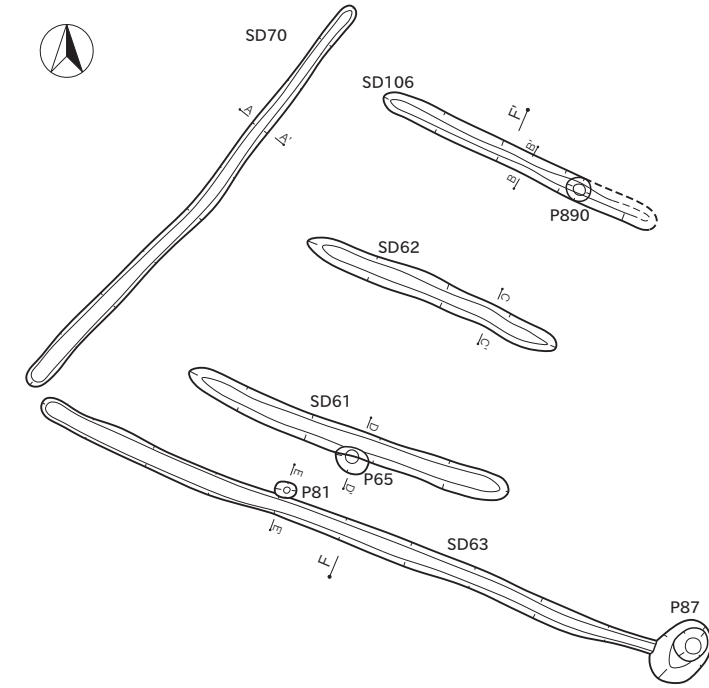
(部分図1・2)



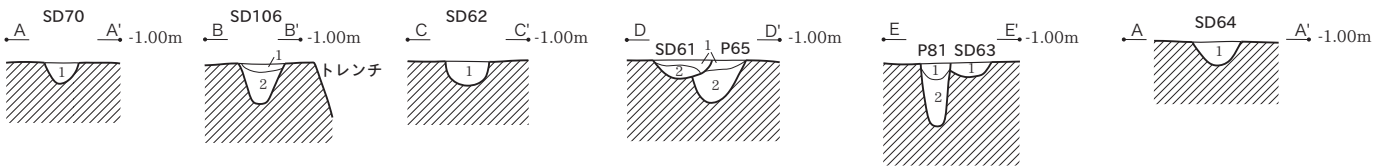
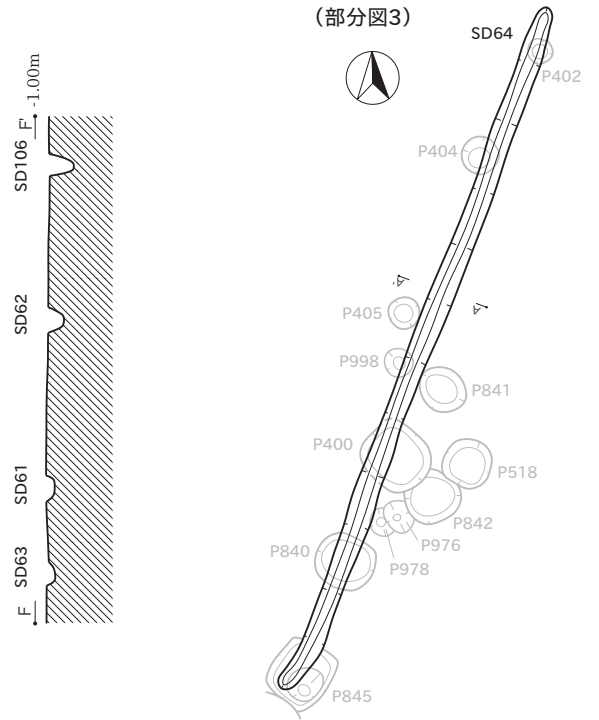
- SK948  
 1 黒色砂質土(10YR2/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・オリーブ黒色砂質土(5Y2/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



(部分図3)



(部分図3)



**SD70 A-A'**  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。

**SD106 B-B'**  
1 黒色砂質土(5Y2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
2 黒褐色砂質土(10YR3/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。

**SD62 C-C'**  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。

**SD61 D-D'**  
1 黒色砂質土(5Y2/1) 炭化物を多量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。  
2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。

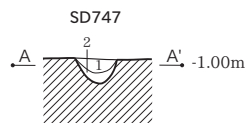
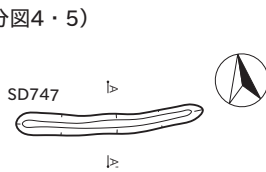
**P65 D-D'**  
1 黒色砂質土(2.5Y2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。  
2 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。

**P81 E-E'**  
1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR3/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
2 黒褐色砂質土(10YR3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

**SD63 E-E'**  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

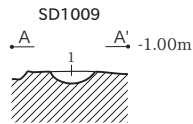
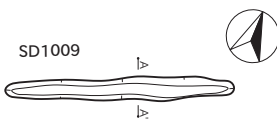
**SD64**  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 黒褐色粘質土(10YR3/1)少量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。

(部分図4・5)



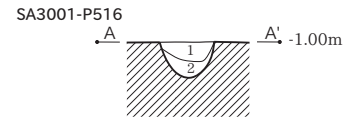
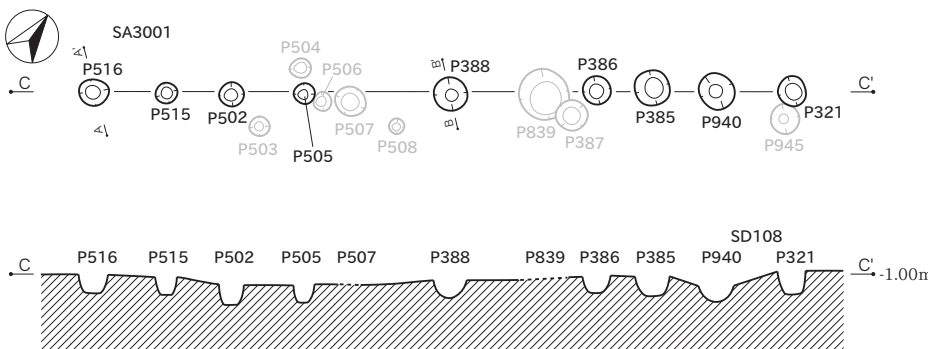
**SD747**  
1 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図3・4)

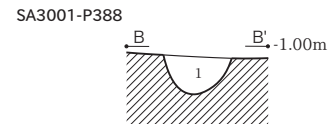


**SD1009**  
1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

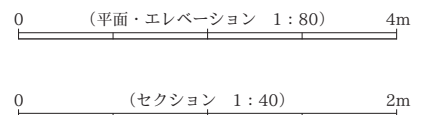
(部分図3)



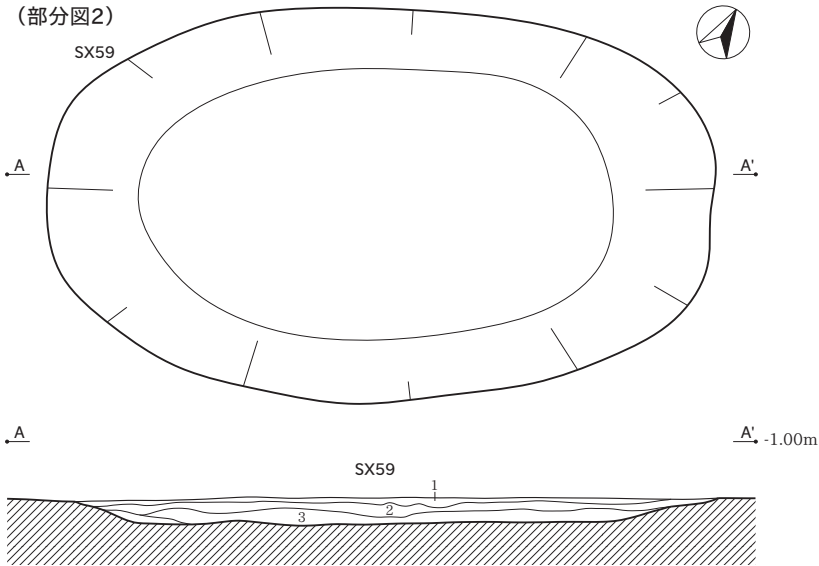
**SA3001-P516**  
1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。  
2 黒色砂質土(10YR2/1)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



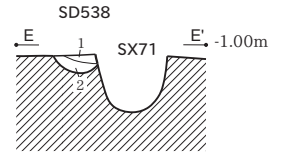
**P388**  
1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



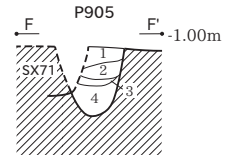
(部分図2)



- SX59**
- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

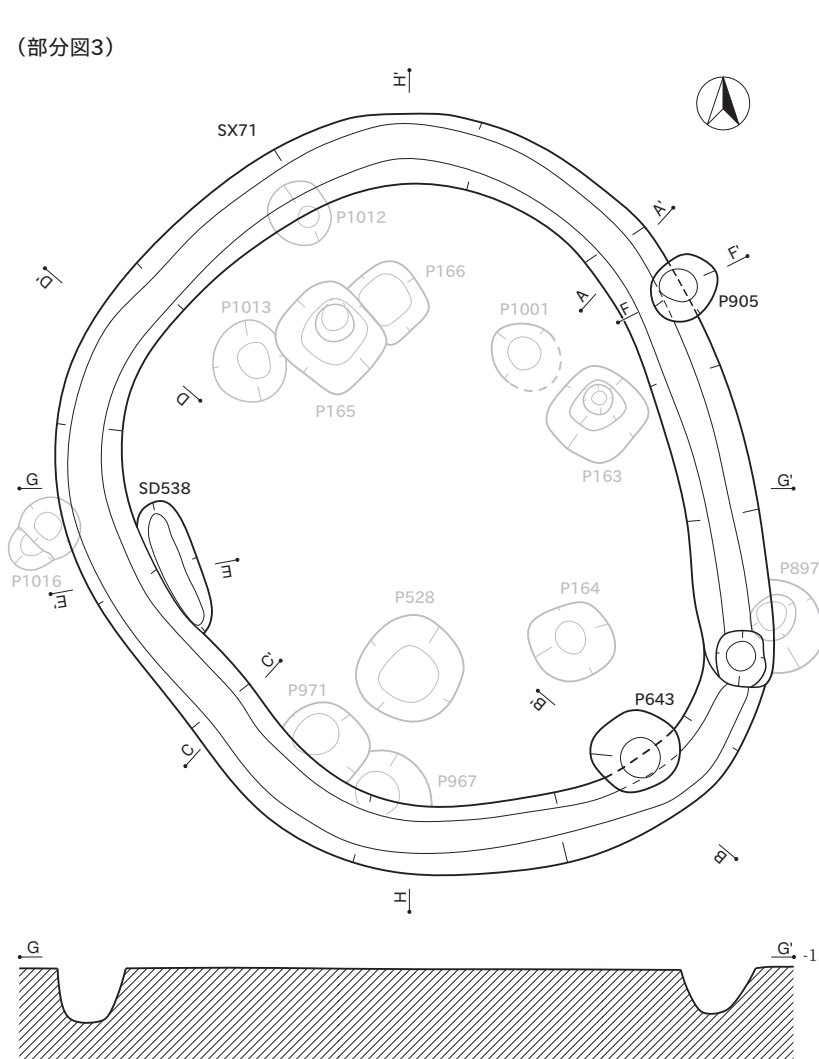


- SD538**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を多量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。



- P905**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒色砂質土(10YR1.7/1)の混合 骨を多量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 2 黒褐色砂質土(10YR3/1) 骨を多量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 3 黒色砂質土(10YR2/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 4 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりあり。

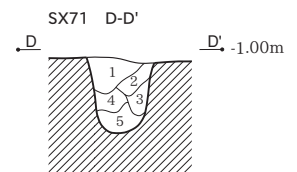
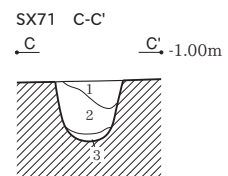
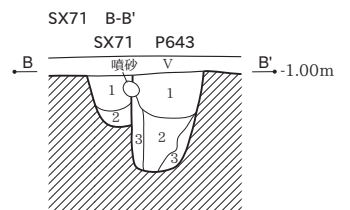
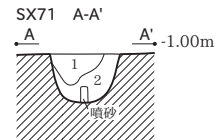
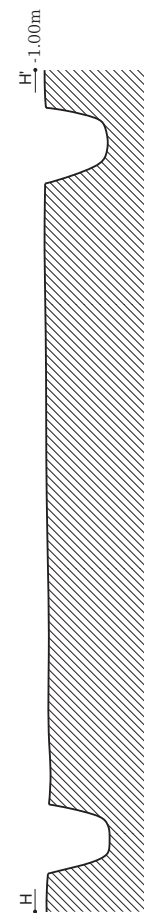
(部分図3)



- SX71 A-A'**
- 1 黒色砂質土(2.5Y2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

- SX71 B-B'**
- V層 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR3/2)の混合 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/3)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/3)の混合 灰オリーブ色砂(5Y4/2)少量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 噴砂 オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 黒色砂質土(10YR2/1)微量混入。

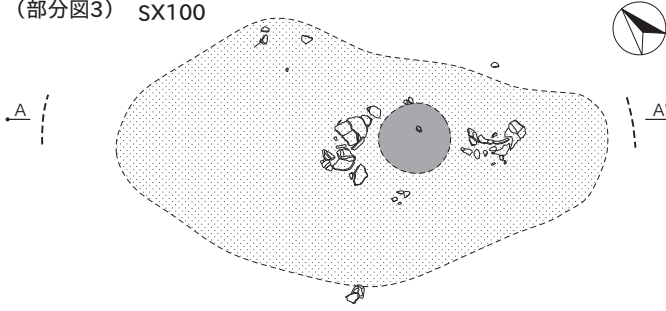
- P643 B-B'**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 黒褐色砂質土(10YR2/2)少量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR1.7/1) 黒褐色砂質土(10YR2/2)中量・灰オリーブ色砂(5Y4/2)少量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土(10YR2/1)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



- SX71 C-C'**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土(10YR1.7/1)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりあり。

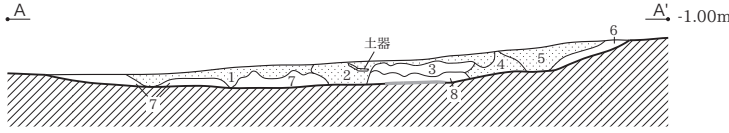
- SX71 D-D'**
- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒色砂質土(10YR2/1) 黒褐色砂質土(10YR2/2)中量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 灰オリーブ色砂(5Y4/2)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図3) SX100

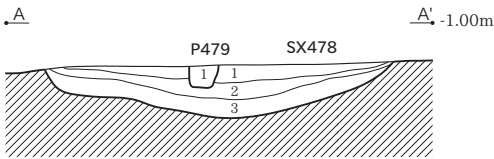


SX100

- 1 黒褐色粘質シルト(2.5Y3/1) 炭化物を少量含む。粘性弱い。しまりやや強い。
- 2 黒褐色粘質シルト(2.5Y3/2) 炭化物を中量含む。粘性弱い。しまりやや強い。
- 3 黒色粘質シルト(5Y2/1) 炭化物を多量含む。粘性弱い。しまりやや強い。
- 4 黒褐色粘質シルト(2.5Y3/2)・黒褐色砂質土(10YR3/1)の混合  
炭化物を中量含む。粘性弱い。しまりやや強い。
- 5 黒色砂質土(10YR2/1) 黒褐色粘質シルト(2.5Y3/2)少量混入。炭化物を少量含む。  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 6 黒褐色砂質土(10YR2/2) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 7 黒色砂質土(10YR2/1) 黒褐色粘質シルト(2.5Y3/1)小ブロック少量混入。  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 8 褐色砂質土(7.5YR4/3) 黒色砂質土(10YR2/1)少量混入。炭化物を中量含む。  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



(部分図3・4)



SX478

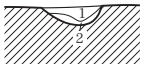
- 1 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。  
しまりやや強い。

P479

- 1 黒褐色砂質土(2.5Y3/1)・オリブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合 粘性弱い。  
しまりやや強い。

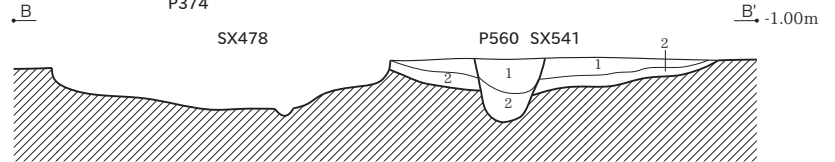
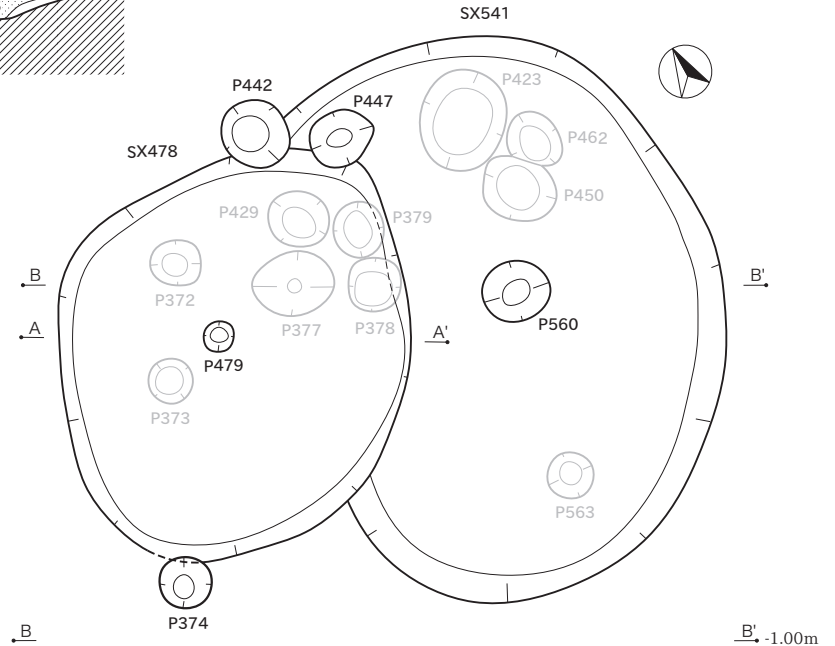
SD962

A' -1.00m



SD962

- 1 黒褐色砂質土(2.5Y3/1~10YR3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・オリブ黒色砂質土(5Y3/1)の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



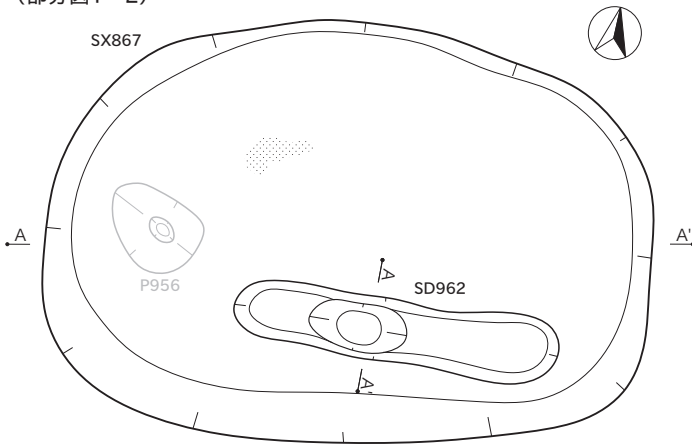
SX541

- 1 黒色砂質土(2.5Y2/1)・黒褐色砂質土(10YR3/1)の混合 炭化物を多量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

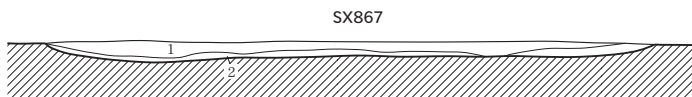
P560

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 オリブ黒色砂質土(5Y3/1)・灰オリブ色砂(5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

(部分図1・2)

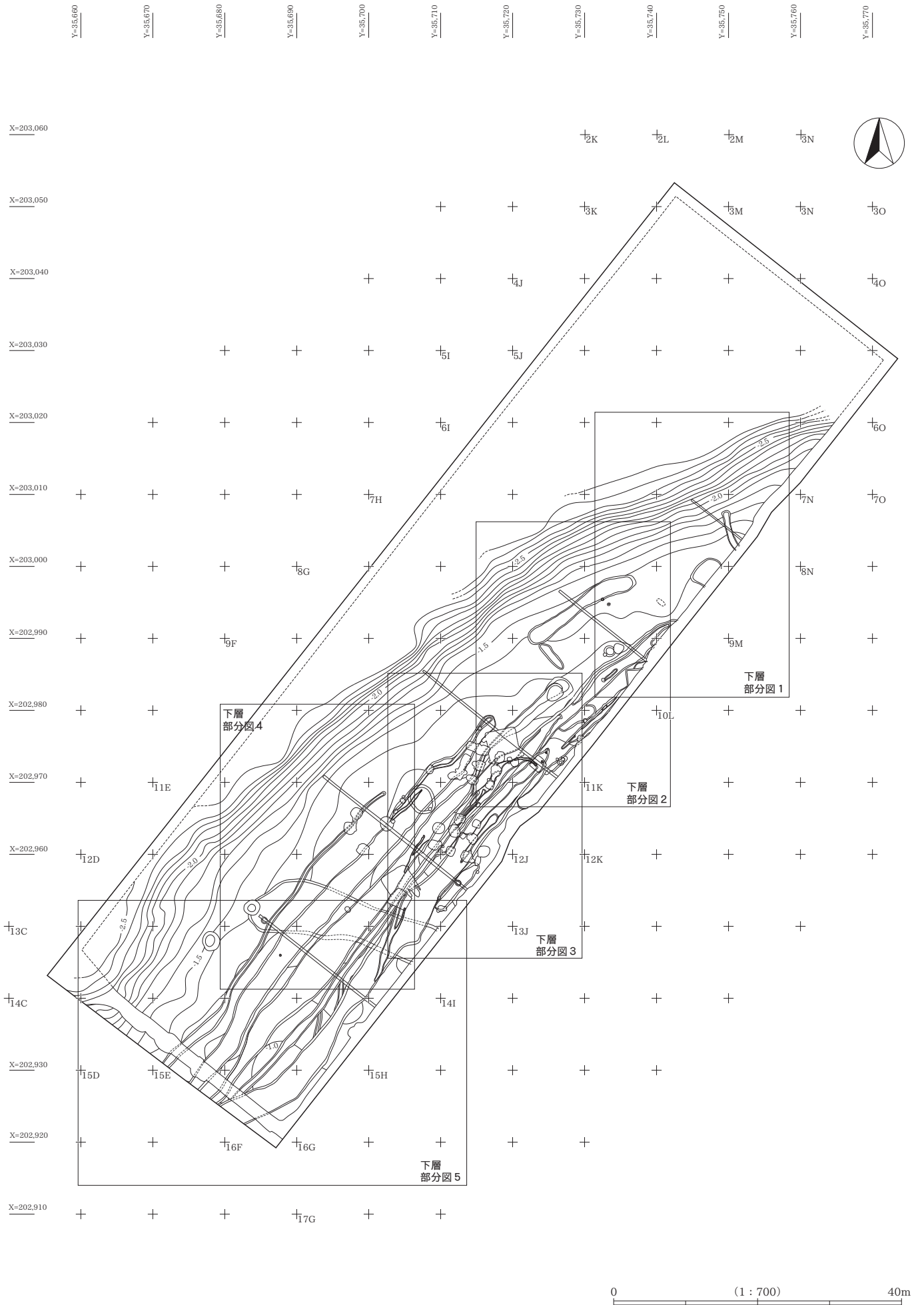


A' -1.00m

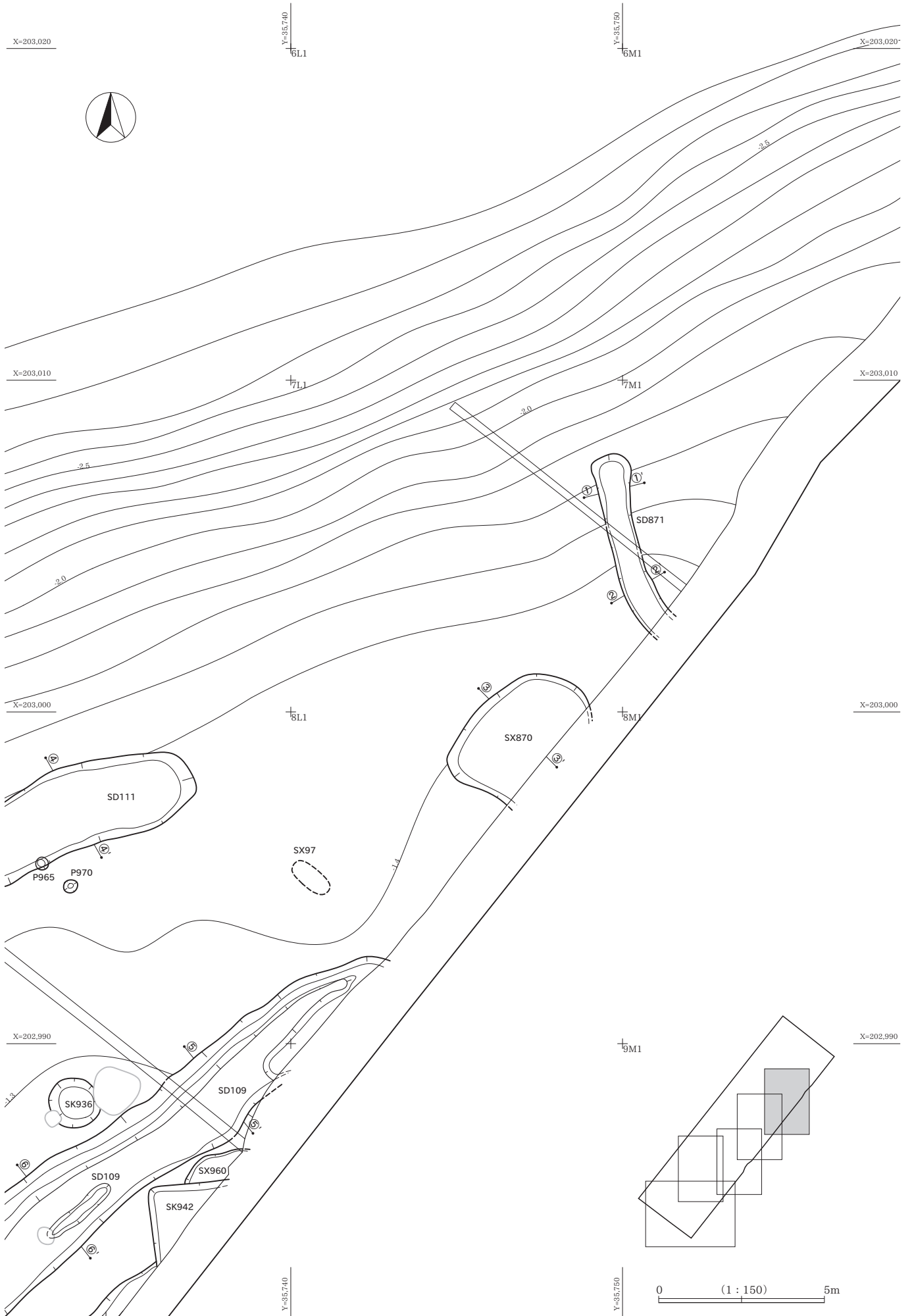


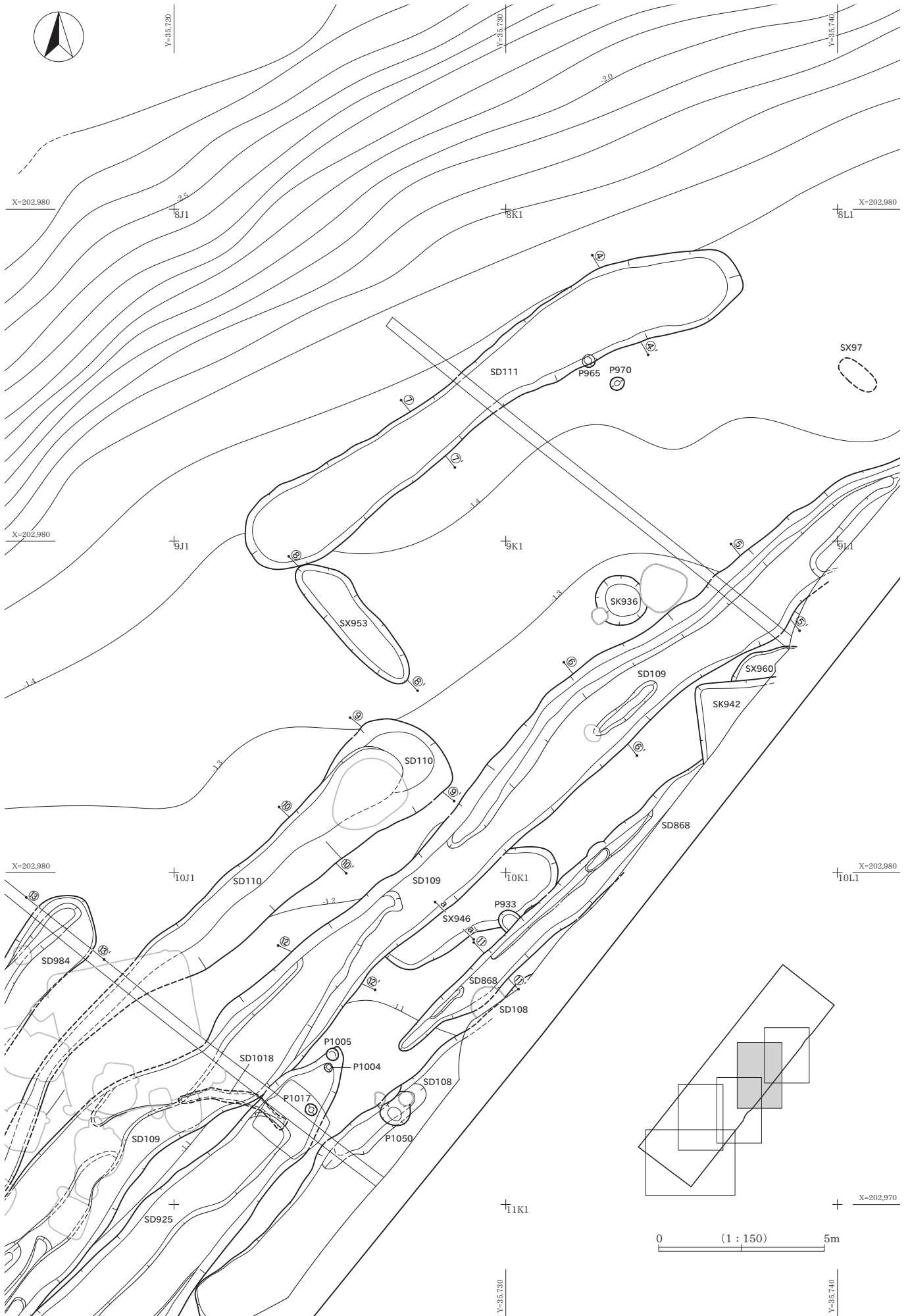
SX867

- 1 黒色砂質土(2.5Y2/1) 炭化物を多量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を少量含む。  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

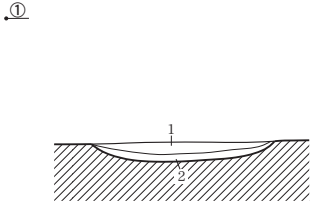








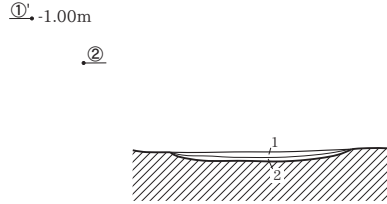
SD871 ①-①' (部分図1)



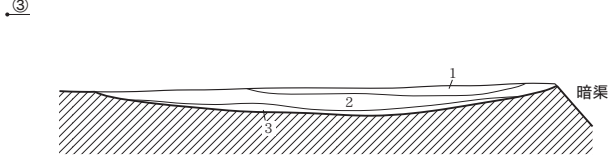
SD871 ①-①'・②-②'

- 1 黒色砂質土(5Y2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 2 黒色砂質土(2.5Y2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。

SD871 ②-②' (部分図1)



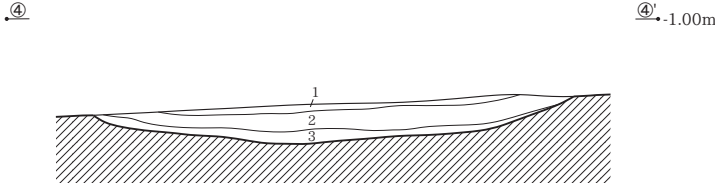
SX870 ③-③' (部分図1)



SX870 ③-③'

- 1 黒色砂質土(2.5Y2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 3 黒色砂質土(2.5Y2/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。

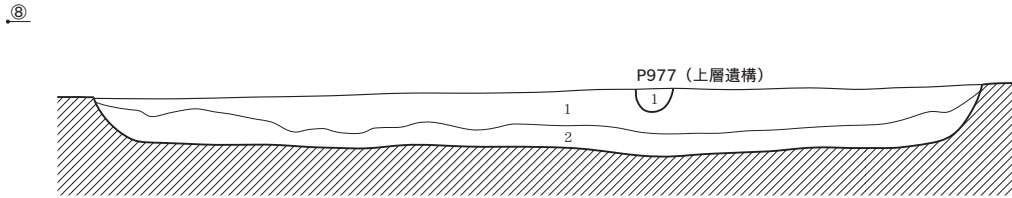
SD111 ④-④' (部分図1・2)



SD111 ④-④'

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1) 褐鉄鉱微量付着。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR1.7/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 褐鉄鉱少量付着。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR1.7/1)・暗灰黄色砂質土(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SX953 ⑥-⑥' (部分図2)



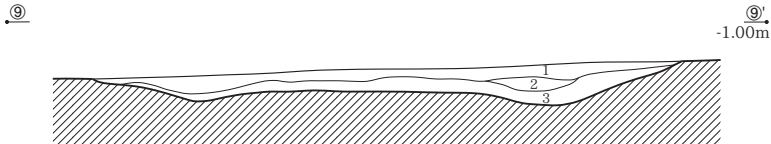
SX953 ⑥-⑥'

- 1 黒褐色砂質土(10YR3/1)・黒色砂質土(10YR2/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)・灰色砂(5Y4/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

P977

- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

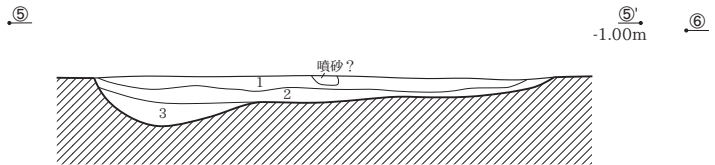
SD110 ⑨-⑨' (部分図2・3)



SD110 ⑨-⑨'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1) 炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1) にぶい黄褐色砂(10YR4/3)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR1.7/1) にぶい黄褐色砂(10YR4/3)ブロック状に多量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD109 ⑤-⑤' (部分図1・2)

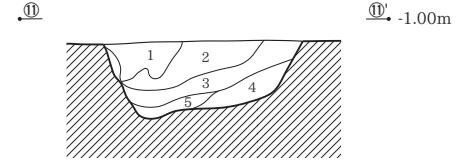


SD109 ⑤-⑤'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(7.5YR2/1)・黒褐色砂質土(7.5Y2/2)の混合 にぶい黄褐色砂(10YR4/3)少量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。

0 (1:40) 2m

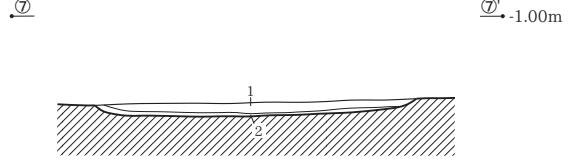
SD868 ⑩-⑩' (部分図2)



SD868 ⑩-⑩'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 にぶい黄褐色砂(10YR4/3)少量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 にぶい黄褐色砂(10YR4/3)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒褐色砂質土(10YR2/2) にぶい黄褐色砂(10YR4/3)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒褐色砂質土(10YR2/2) 灰オリーブ色砂(7.5Y4/2)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 5 オリーブ黒色砂(5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 しまりやや強い。

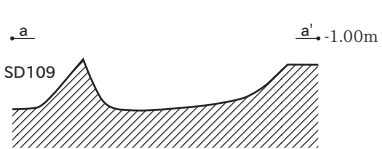
SD111 ⑦-⑦' (部分図2)



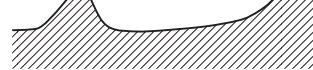
SD111 ⑦-⑦'

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1) 褐鉄鉱微量付着。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR1.7/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 褐鉄鉱少量付着。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

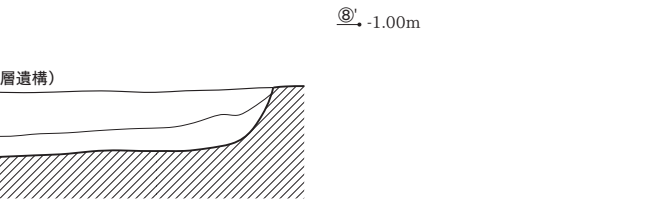
SX946



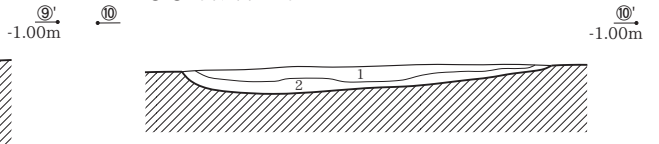
SD109



SD110 ⑩-⑩' (部分図2・3)



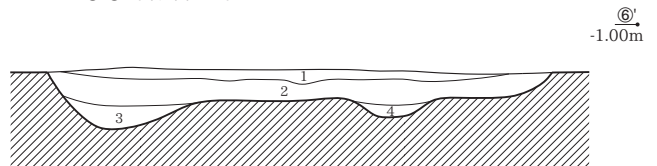
SD110 ⑩-⑩' (部分図2・3)



SD110 ⑩-⑩'

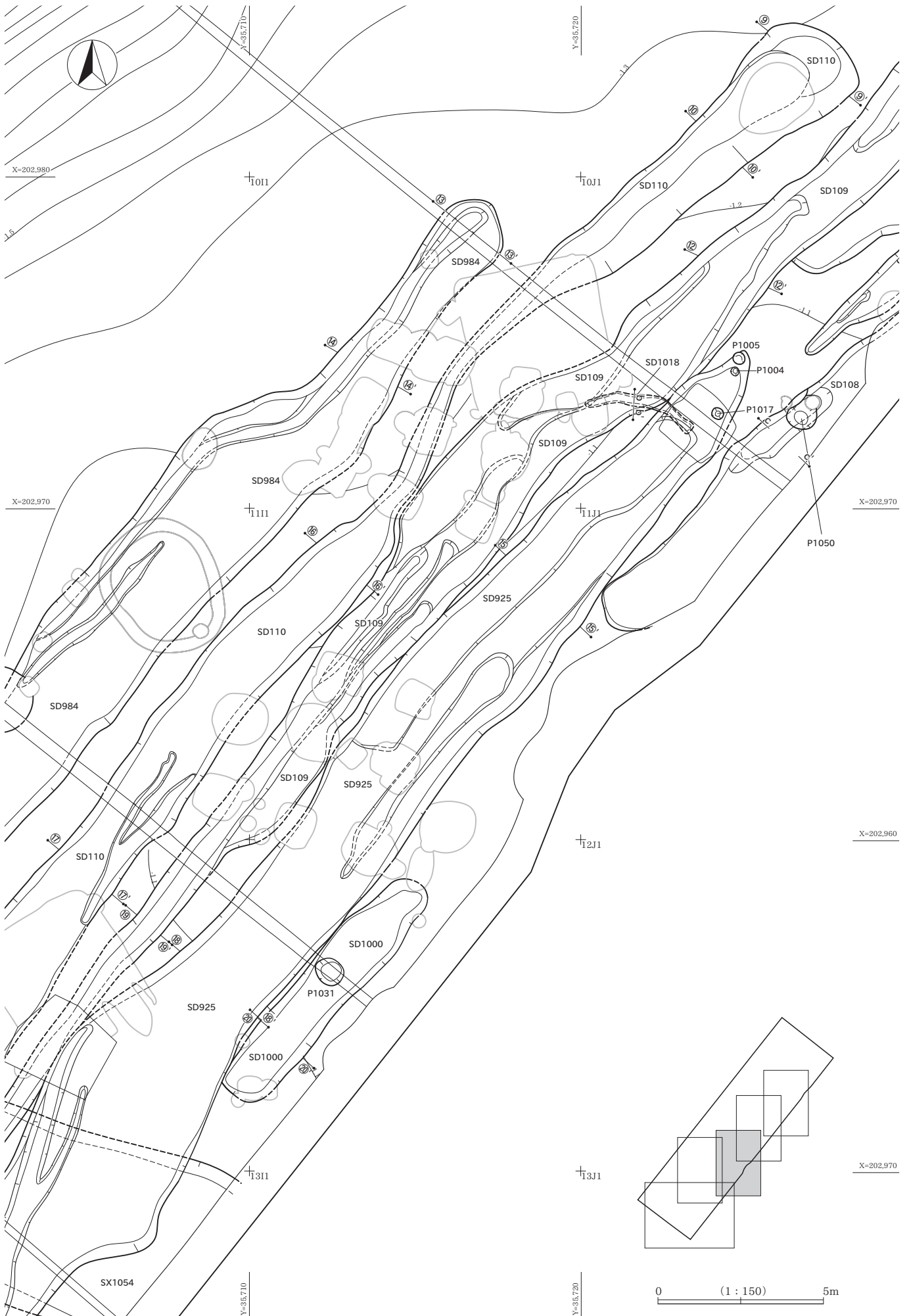
- 1 黒色砂質土(7.5Y2/1)・黒褐色砂質土(7.5Y2/2)の混合 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(7.5Y2/1)・黒褐色砂質土(7.5Y2/2)の混合 にぶい黄褐色砂(10YR4/3)混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD109 ⑥-⑥' (部分図1・2)



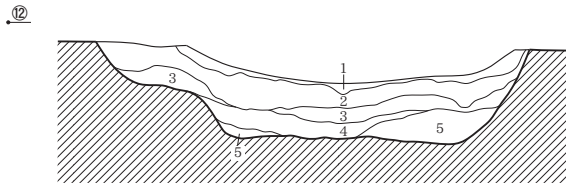
SD109 ⑥-⑥'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(7.5YR2/1)・黒褐色砂質土(7.5Y2/2)の混合 にぶい黄褐色砂(10YR4/3)少量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1) 粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 4 黒褐色砂質土(7.5Y2/2) にぶい黄褐色砂(10YR4/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



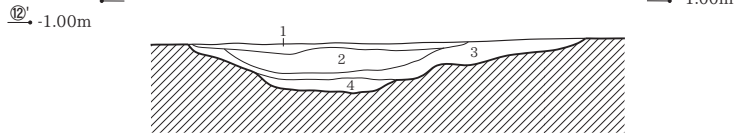


SD109 ⑫-⑫' (部分図2・3)



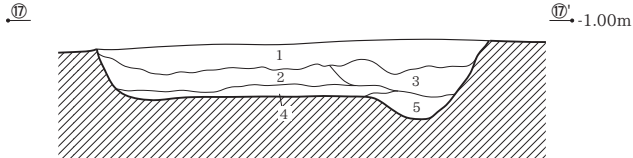
- SD109 ⑫-⑫'
- 1 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 3 オリーブ黒色砂(5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 しまりあり。
  - 4 灰オリーブ色砂(5Y4/2) しまりあり。
  - 5 オリーブ黒色砂質土(5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。

SD984 ⑬-⑬' (部分図2・3)



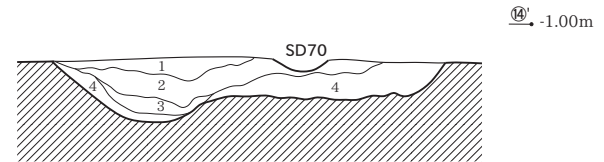
- SD984 ⑬-⑬'
- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)・暗褐色砂(10YR3/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 オリーブ黒色砂質土(5Y3/2)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD110 ⑰-⑰' (部分図3・4)



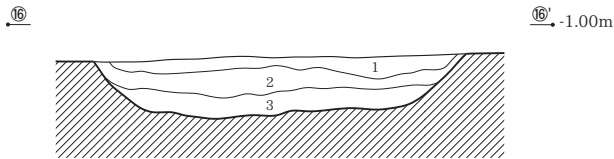
- SD110 ⑰-⑰'
- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(10YR3/2)・暗褐色砂質土(10YR3/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 オリーブ黒色砂質土(5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 オリーブ黒色砂質土(5Y3/1)・黒褐色砂質土(2.5Y3/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD984 ⑭-⑭' (部分図3)



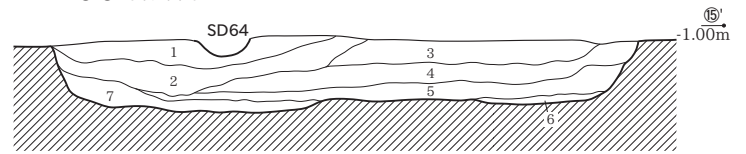
- SD984 ⑭-⑭'
- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)・暗褐色砂(10YR3/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 オリーブ黒色砂質土(5Y3/2)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD110 ⑯-⑯' (部分図3)



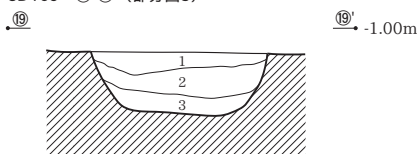
- SD110 ⑯-⑯'
- 1 黒褐色砂質土(10YR3/2)・灰黄褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 暗灰黄色砂(2.5Y4/2)・オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)の混合 しまりやや強い。
  - 3 灰オリーブ色砂(5Y4/2) しまりやや強い。

SD925 ⑮-⑮' (部分図3)



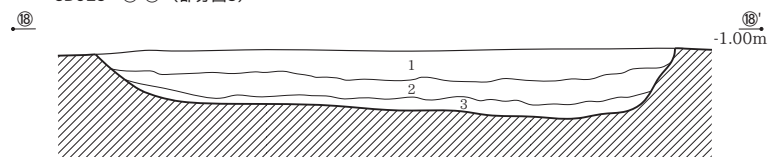
- SD925 ⑮-⑮'
- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(10YR2/3~10YR3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(10YR3/2)・灰黄褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 灰黄褐色砂(10YR4/2)・オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 灰黄褐色砂(2.5Y4/2)・オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 6 灰黄褐色砂(2.5Y4/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 7 灰黄褐色砂(2.5Y5/2)・オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD109 ⑱-⑱' (部分図3)



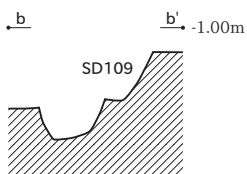
- SD109 ⑱-⑱'
- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)・灰黄褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 暗灰黄色砂(2.5Y4/2) しまりやや強い。

SD925 ⑲-⑲' (部分図3)

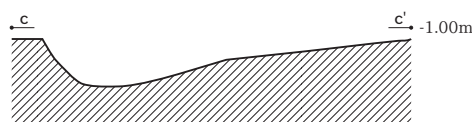


- SD925 ⑲-⑲'
- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)・灰黄褐色砂(10YR4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 にぶい黄褐色砂(10YR5/3)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 黒色砂質土(10YR2/1)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

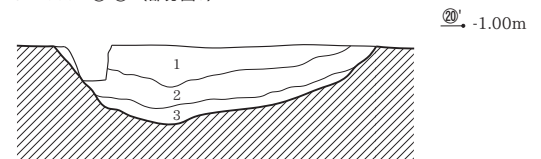
SD1018



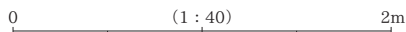
SD108

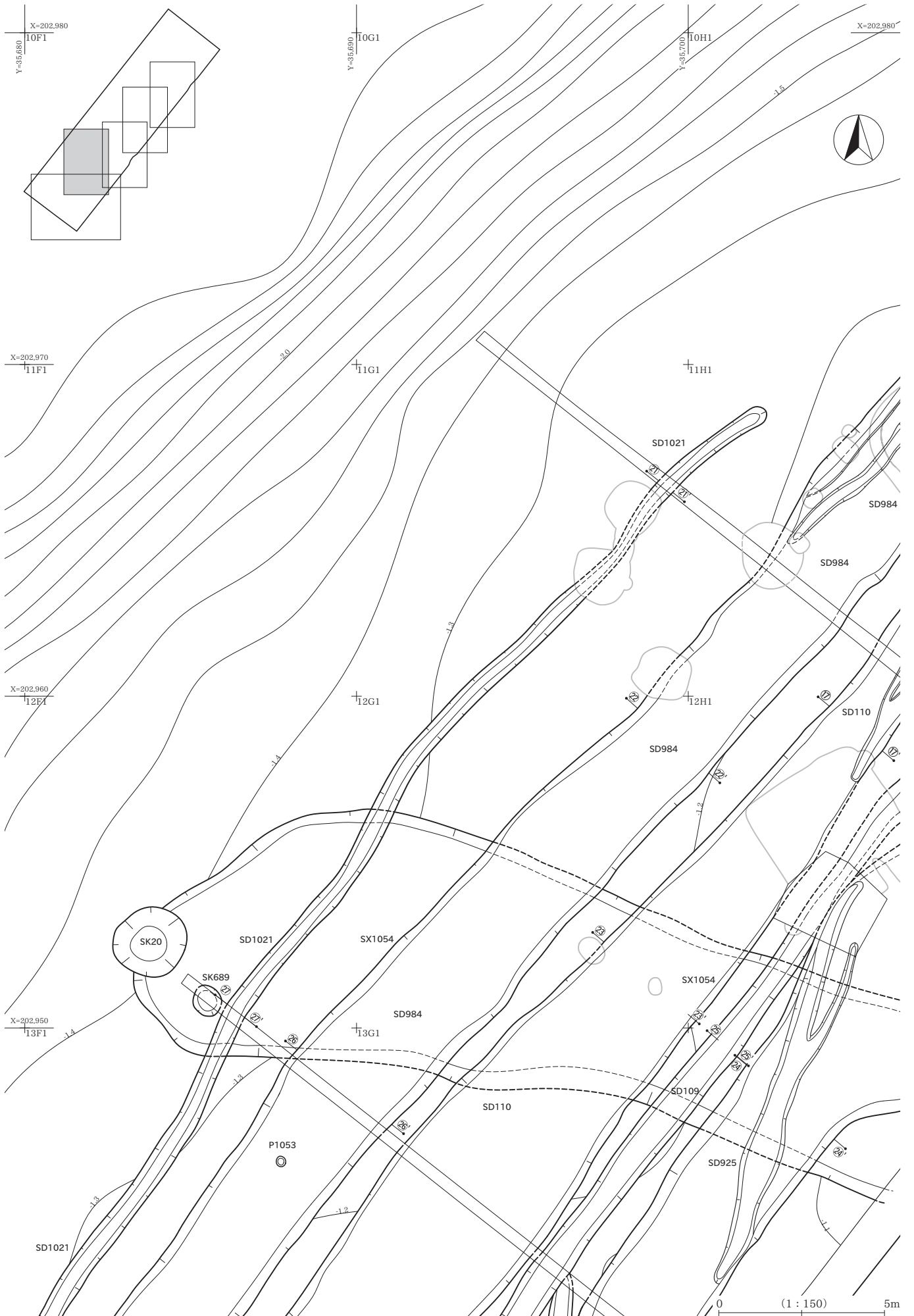


SD1000 ⑳-㉑' (部分図3)



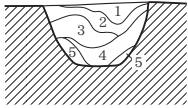
- SD1000 ㉑-㉑'
- 1 黒褐色砂質土(10YR3/2)・暗褐色砂質土(10YR3/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土(10YR1.7/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。





SD1021 ⑳-㉑' (部分図4)

⑳' -1.00m

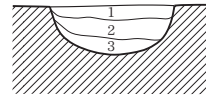


SD1021 ㉑-㉒'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR3/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒色砂質土(10YR2/1)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 5 灰オリーブ色砂(5Y4/2) 黒色砂質土(10YR2/1)多量混入。しまりやや強い。

SD1021 ㉒'-㉓' (部分図4・5)

㉒' -1.00m

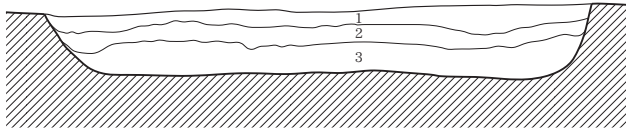


SD1021 ㉓-㉔'

- 1 黒色砂質土(10YR1.7/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR2/2) 炭化物を中量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR1.7/1) 灰オリーブ色砂(5Y4/2)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD984 ㉕-㉖' (部分図4)

㉕' -1.00m

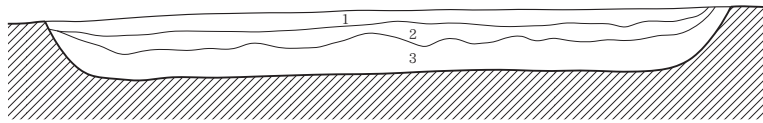


SD984 ㉖-㉗'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 におい黄褐色砂(10Y5/3)多量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 灰オリーブ色砂(5Y4/2)・におい黄褐色砂(10Y5/3)の混合 黒色砂質土(10YR2/1)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD984 ㉘-㉙' (部分図4・5)

㉘' -1.00m

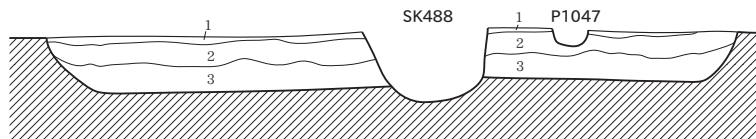


SD984 ㉙-㉚'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 におい黄褐色砂(10Y5/3)微量混入。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 におい黄褐色砂(10Y5/3)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 灰オリーブ色砂(5Y4/2)・におい黄褐色砂(10Y5/3)の混合 黒色砂質土(10YR2/1)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD110 ㉛-㉜' (部分図4・5)

㉛' -1.00m

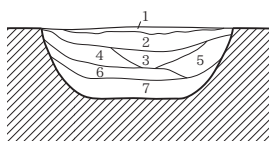


SD110 ㉜-㉝'

- 1 黒褐色砂質土(10YR3/2)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)・黒褐色砂質土(2.5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 オリーブ黒色砂質土(5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD109 ㉞-㉟' (部分図4・5)

㉞' -1.00m

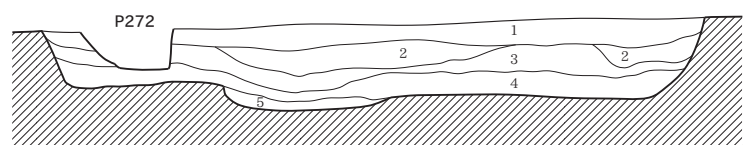


SD109 ㉟-㊱'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2~10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/1~2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 5 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・オリーブ黒色砂質土(5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 6 黄灰色土(2.5Y4/1)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 7 オリーブ黒色砂質土(5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

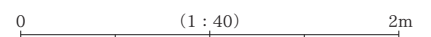
SD925 ㊲-㊳' (部分図4・5)

㊲' -1.00m



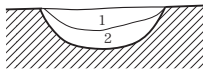
SD925 ㊳-㊴'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR2/2)・黒色砂質土(10YR1.7/1)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒褐色砂質土(2.5Y3/1~2.5Y3/2)・オリーブ黒色砂(7.5Y3/2)の混合 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 5 灰色砂質土(5Y4/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



SD1021 30-30' (部分図5)

30' -1.00m

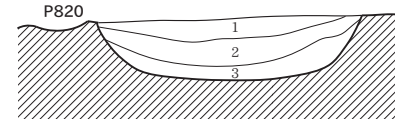


SD1021 30-30'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD1021 35-35' (部分図5)

35' -1.00m

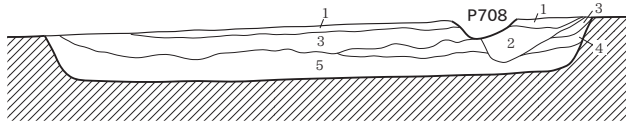


SD1021 35-35'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2)・黒色砂質土(10YR2/1)の混合。黄褐色砂(2.5Y5/3)微量混入。炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR2/2)・黒色砂質土(10YR2/1)の混合。黄褐色砂(2.5Y5/3)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD984 31-31' (部分図5)

31' -1.00m

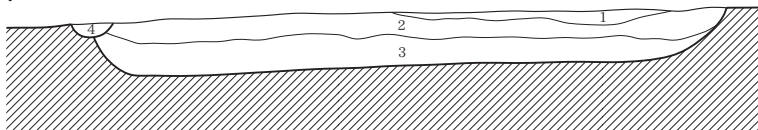


SD984 31-31'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR2/2)・褐灰色粘質シルト(10YR5/1)小ブロック中量・黒色粘質土(10YR1.7/1)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 3 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合。にぶい黄褐色砂(10Y5/3)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 黒色砂質土(10YR2/1)・にぶい黄褐色砂(10YR5/3)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 5 灰オリーブ色砂(5Y4/2)・にぶい黄褐色砂(10Y5/3)の混合。黒色砂質土(10YR2/1)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD110 32-32' (部分図5)

32' -1.00m

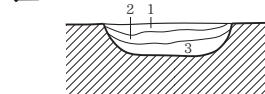


SD110 32-32'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・にぶい黄褐色砂(10YR5/3)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 にぶい黄褐色砂(10YR5/3)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合。黒褐色砂質土(10YR2/2)中量混入。しまりやや強い。
- 4 黒色砂質土(10YR1.7/1)・褐灰色粘質シルト(10YR5/1)少量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

SD1052 28-28' (部分図5)

28' -1.00m

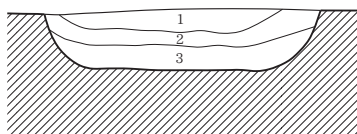


SD1052 28-28'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 2 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3)の混合。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 3 暗灰黄色砂(2.5Y4/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。

SD109 33-33' (部分図5)

33' -1.00m

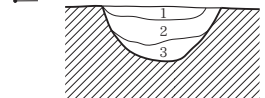


SD109 33-33'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/2) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)・灰黄褐色砂(10YR4/2)の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 暗灰黄色砂(2.5Y4/2) しまりやや強い。

SD1051 29-29' (部分図5)

29' -1.00m

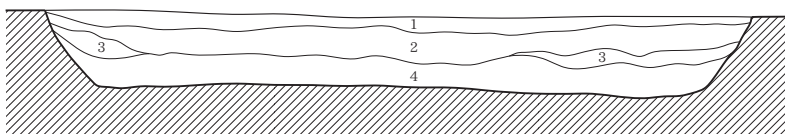


SD1051 29-29'

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2~10YR3/2) 粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/2)・灰黄褐色砂(10YR4/2)の混合。粘性ほとんどなし。しまりあり。
- 3 黒褐色砂質土(2.5Y3/2)・暗灰黄色砂(2.5Y4/2)の混合。粘性ほとんどなし。しまりあり。

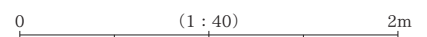
SD925 34-34' (部分図5)

34' -1.00m



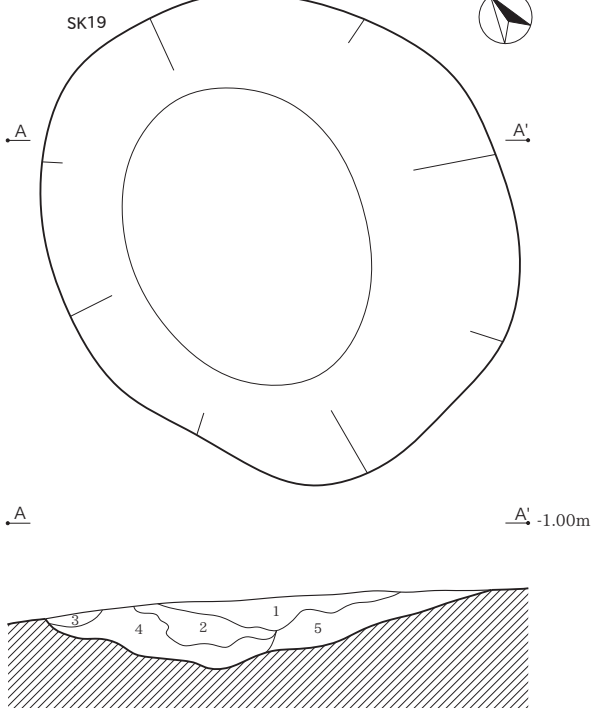
SD925 34-34'

- 1 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合。炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 2 黒色砂質土(10YR2/1)・黒褐色砂質土(10YR2/2)の混合。にぶい黄褐色砂(10YR5/3)多量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 3 黒褐色砂質土(10YR2/1)・にぶい黄褐色砂(10YR5/3)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
- 4 にぶい黄褐色砂(10YR5/3)・灰オリーブ色砂(5Y4/2)の混合。黒色砂質土(10YR2/1)中量混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。



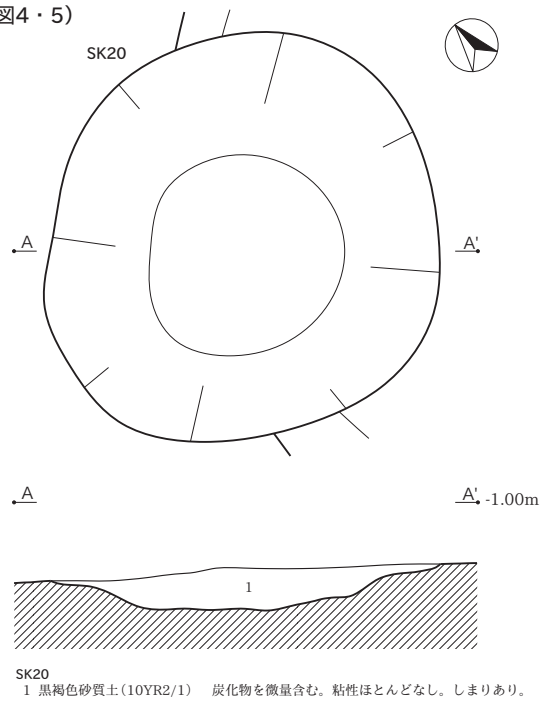


(部分図5)



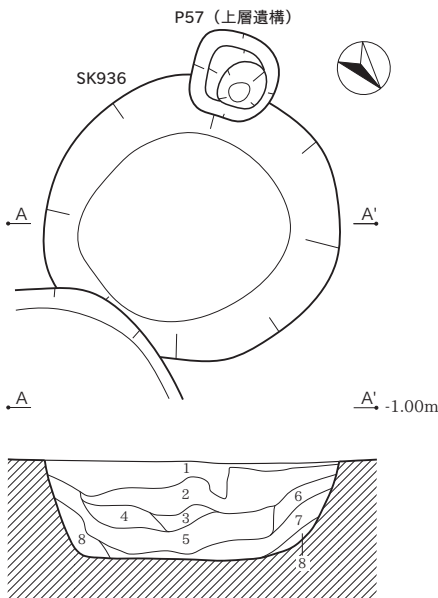
- SK19
- 1 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/2)・黒褐色粘土 (2.5Y3/1) の混合  
未分解有機物中量混入、粘性あり。しまりあり。
  - 2 黒色砂質土 (2.5Y2/1) 未分解有機物中量混入、粘性あり。しまりあり。
  - 3 オリーブ黒色砂質土 (5Y3/2) 未分解有機物少量混入、粘性弱い。  
しまり弱い。
  - 4 オリーブ黒色砂質土 (5Y3/2) 未分解有機物中量混入、粘性あり。  
しまりあり。
  - 5 黒褐色砂質土 (2.5Y3/2)・黒色砂質土 (10Y2/1) の互層 粘性弱い。  
しまりあり。

(部分図4・5)



- SK20
- 1 黒褐色砂質土 (10YR2/1) 炭化物を微量含む。粘性ほとんどなし。しまりあり。

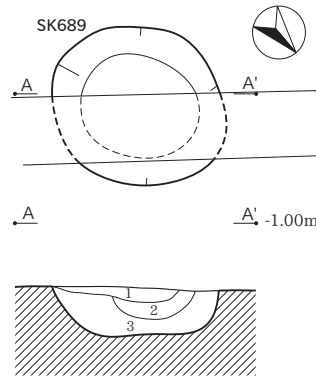
(部分図1・2)



- SK936
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1)・黒褐色砂質土 (2.5Y3/1) の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土 (10YR1.7/1~10YR2/1) 粘性ほとんどなし。  
しまりやや強い。
  - 3 黒褐色砂質土 (2.5Y3/1~10YR3/1) 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1)  
混入。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 4 黒色砂質土 (5Y2/1)・オリーブ黒色砂質土 (5Y3/1) の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 5 黒色砂質土 (7.5Y2/1)・黒褐色砂質土 (2.5Y3/1) の混合  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 6 黒褐色砂質土 (10YR3/1) 粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 7 黒褐色砂質土 (2.5Y3/1)・オリーブ黒色砂質土 (5Y2/2) の混合  
粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 8 オリーブ黒色砂質土 (5Y3/1)・灰色砂 (5Y4/1) の混合  
粘性ほとんどなし。しまりあり。

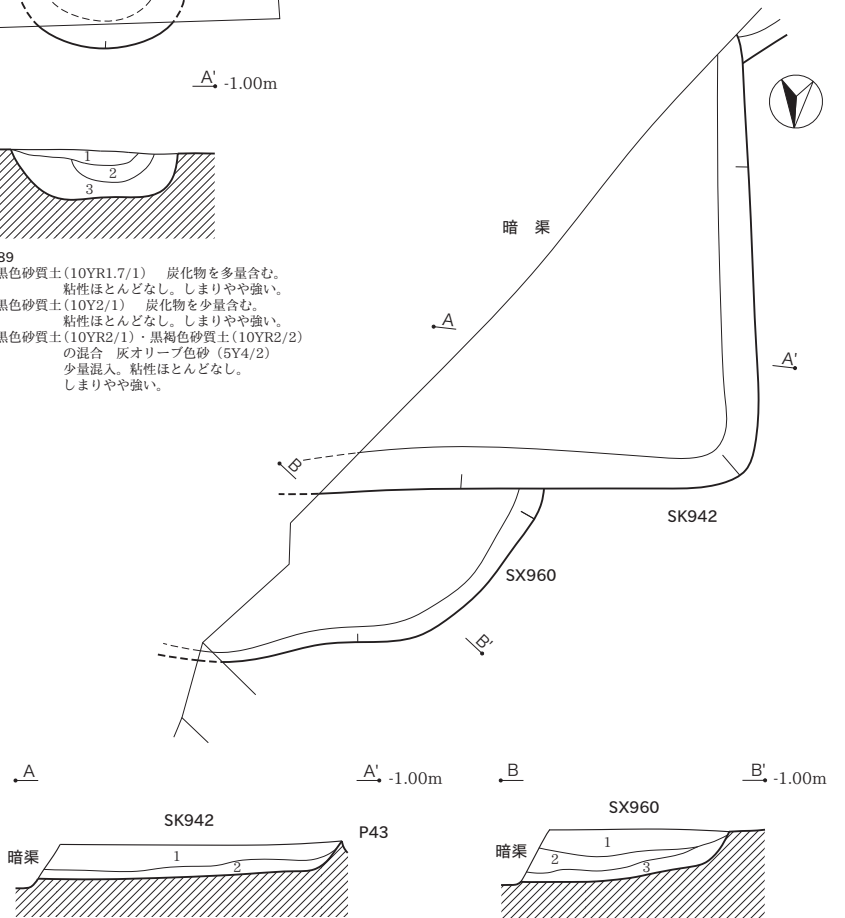
0 (1:40) 2m

(部分図4・5)



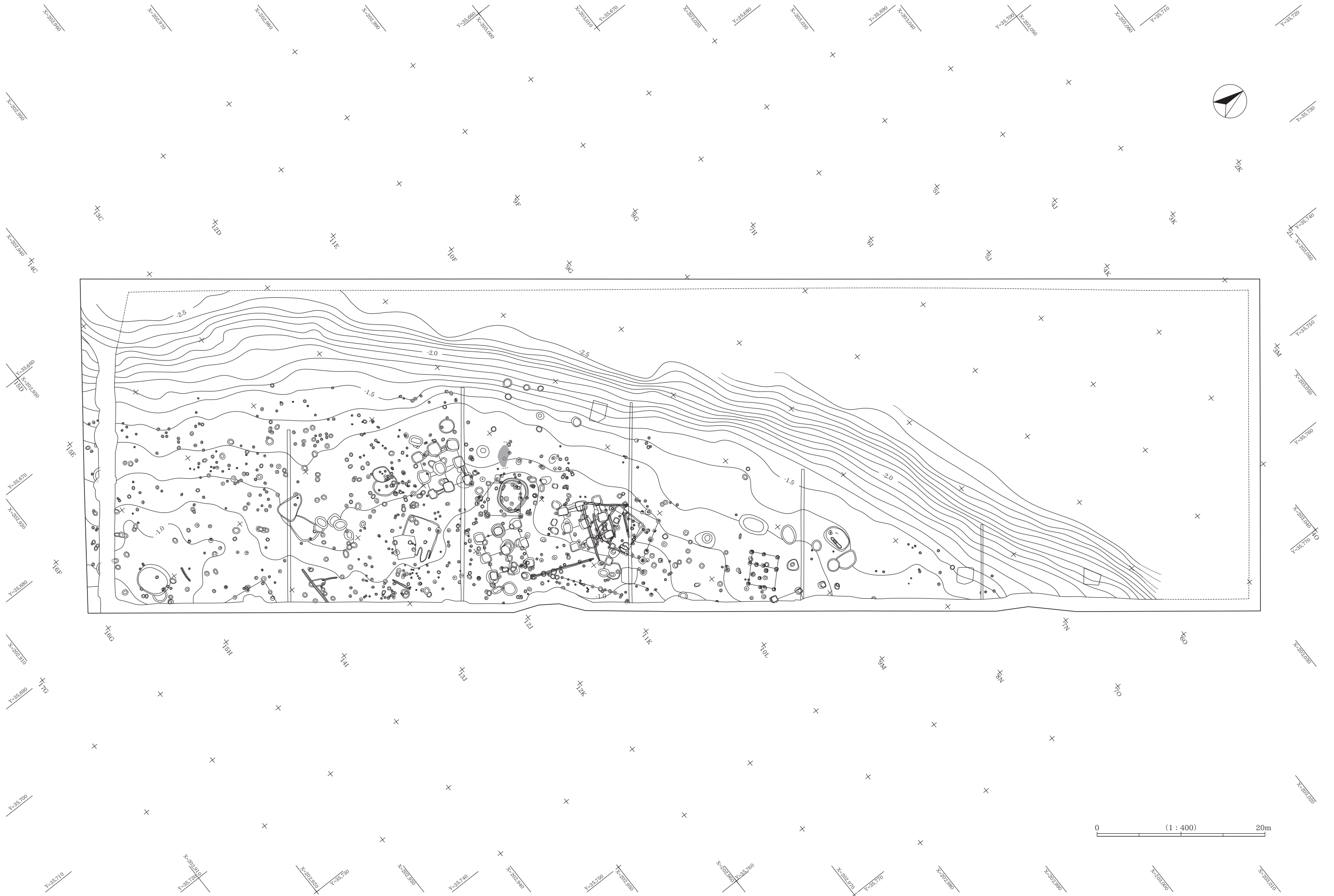
- SK689
- 1 黒色砂質土 (10YR1.7/1) 炭化物を多量含む。  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒色砂質土 (10Y2/1) 炭化物を少量含む。  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 3 黒色砂質土 (10YR2/1)・黒褐色砂質土 (10YR2/2)  
の混合 灰オリーブ色砂 (5Y4/2)  
少量混入。粘性ほとんどなし。  
しまりやや強い。

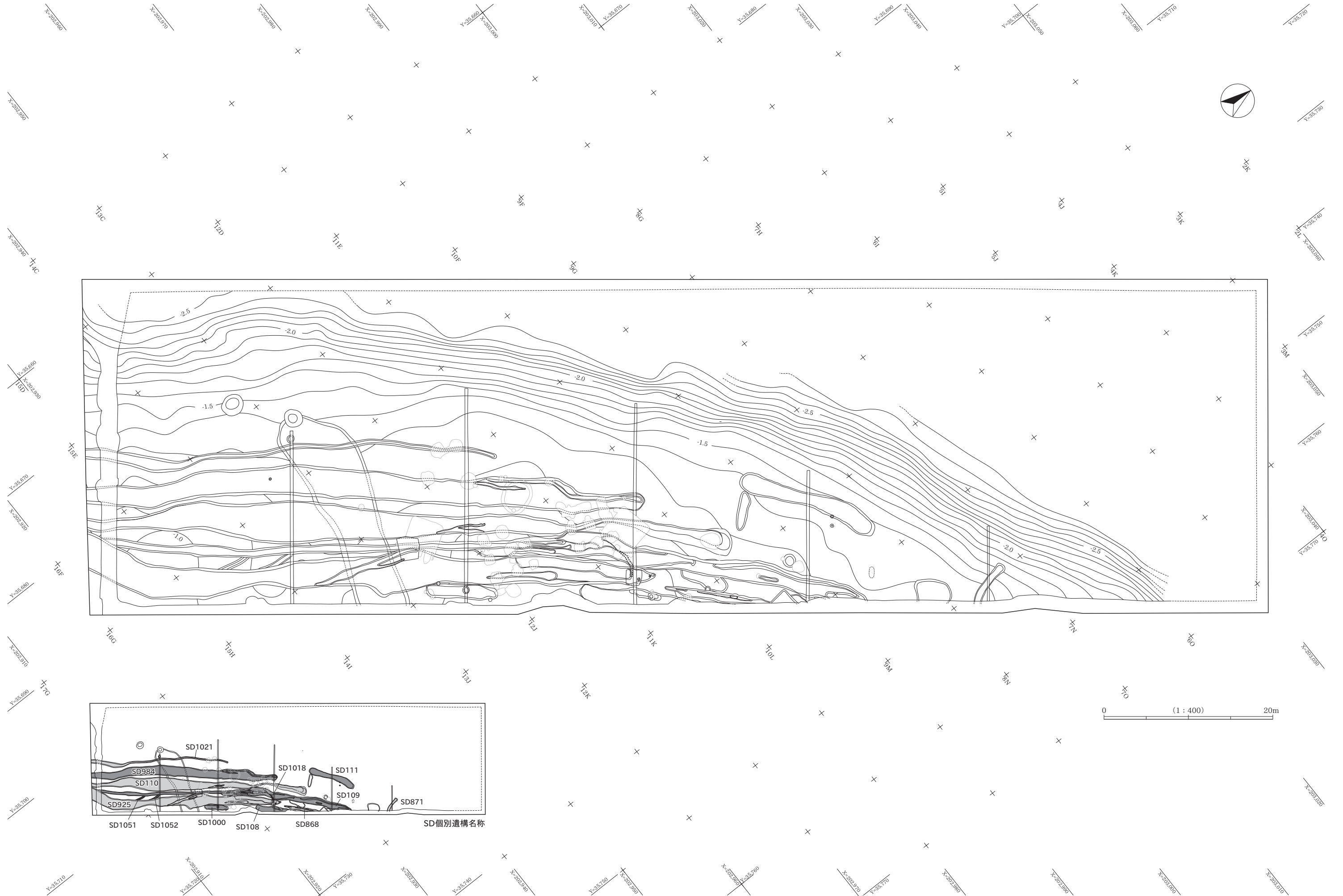
(部分図1・2)



- SK942
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1)・黒褐色砂質土 (10YR2/2) の混合  
炭化物を少量含む。粘性ほとんどなし。しまりやや強い。
  - 2 黒褐色砂質土 (10YR2/2) 灰オリーブ色砂 (7.5Y4/2) 中量混入。  
粘性ほとんどなし。しまりやや強い。

- SX960
- 1 黒色砂質土 (10YR2/1) 炭化物を少量含む。  
粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 2 黒褐色砂質土 (2.5Y3/1) 炭化物を微量含む。  
粘性ほとんどなし。しまりあり。
  - 3 黒褐色砂質土 (2.5Y3/1) オリーブ褐色砂 (2.5Y4/3)  
中量混入。炭化物を微量含む。  
粘性ほとんどなし。しまりあり。

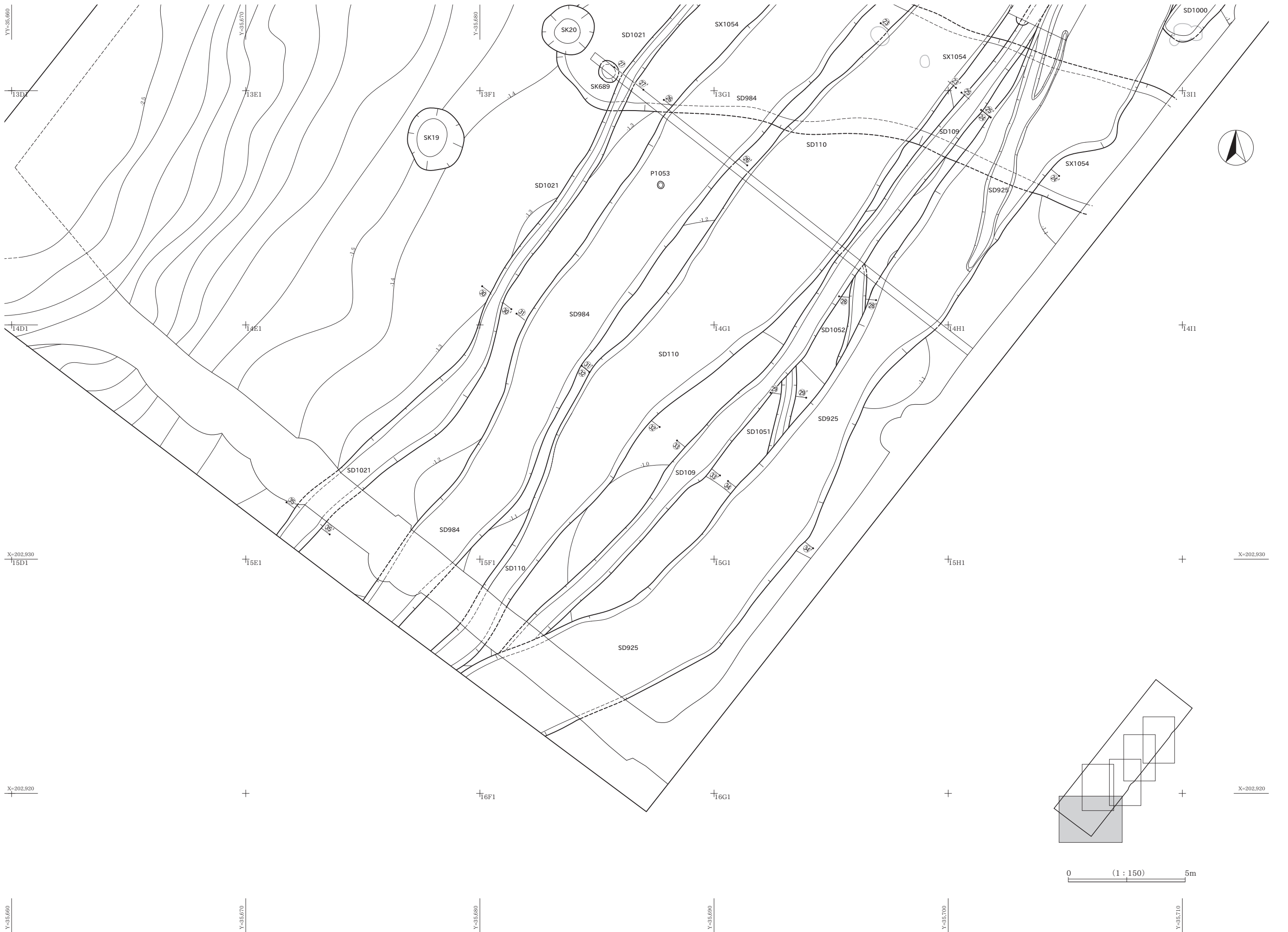




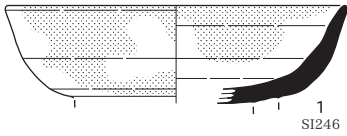








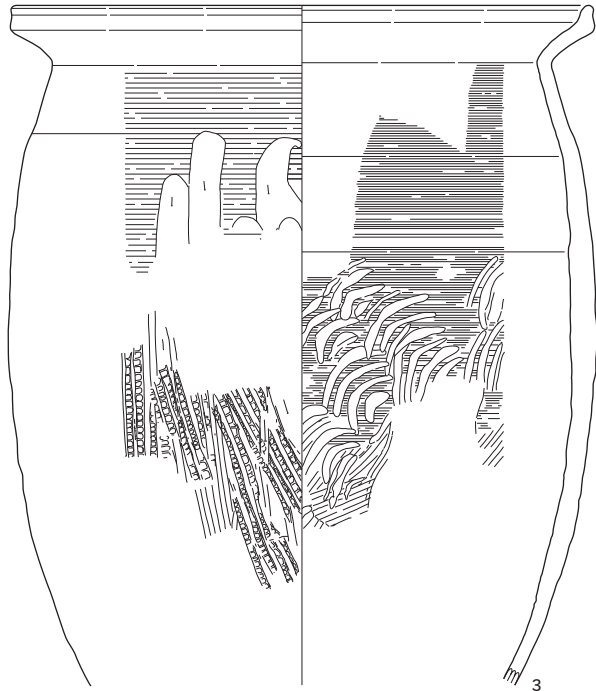
上層遺構出土土器  
SI246(1~3)



1  
SI246

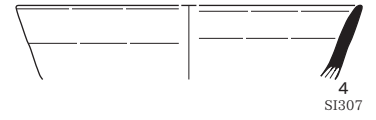


2  
SI246他



3  
SI246他

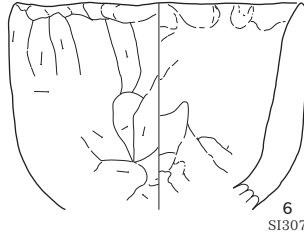
SI307(4~13)



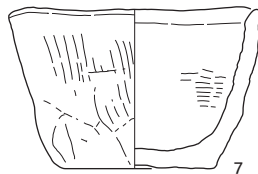
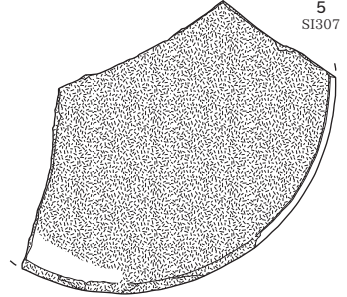
4  
SI307



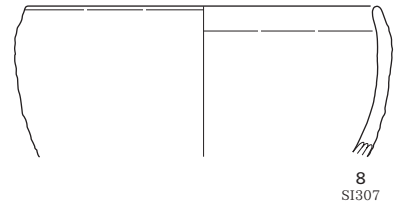
5  
SI307



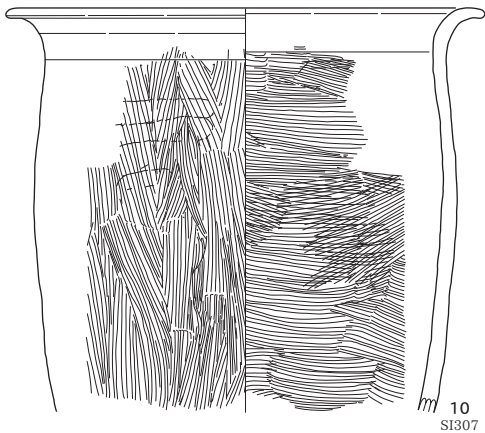
6  
SI307



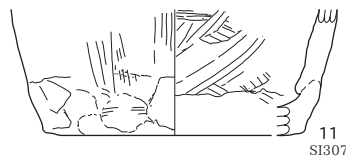
7  
SI307



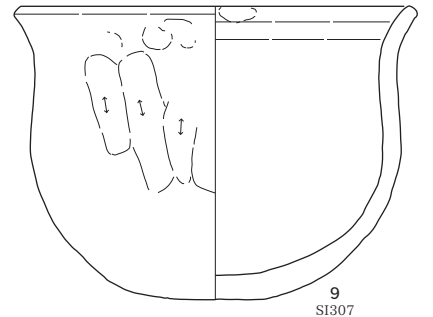
8  
SI307



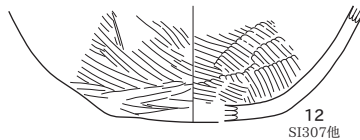
10  
SI307



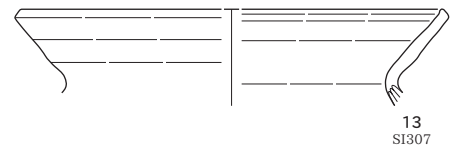
11  
SI307



9  
SI307

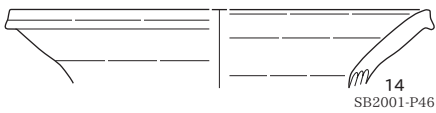


12  
SI307他



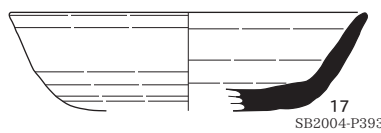
13  
SI307

SB2001-P46(14)



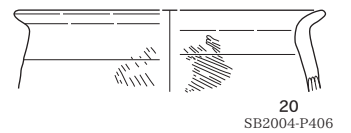
14  
SB2001-P46

SB2004-P393(17~19)



17  
SB2004-P393

SB2004-P406(20)



20  
SB2004-P406

SB2003-P113(15)

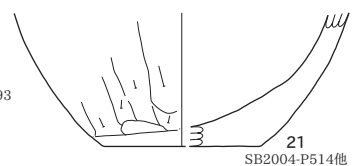


15  
SB2003-P113



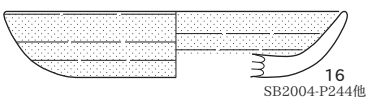
18  
SB2004-P393

SB2004-P514(21・22)



21  
SB2004-P514他

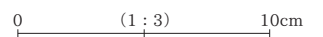
SB2004-P244(16)

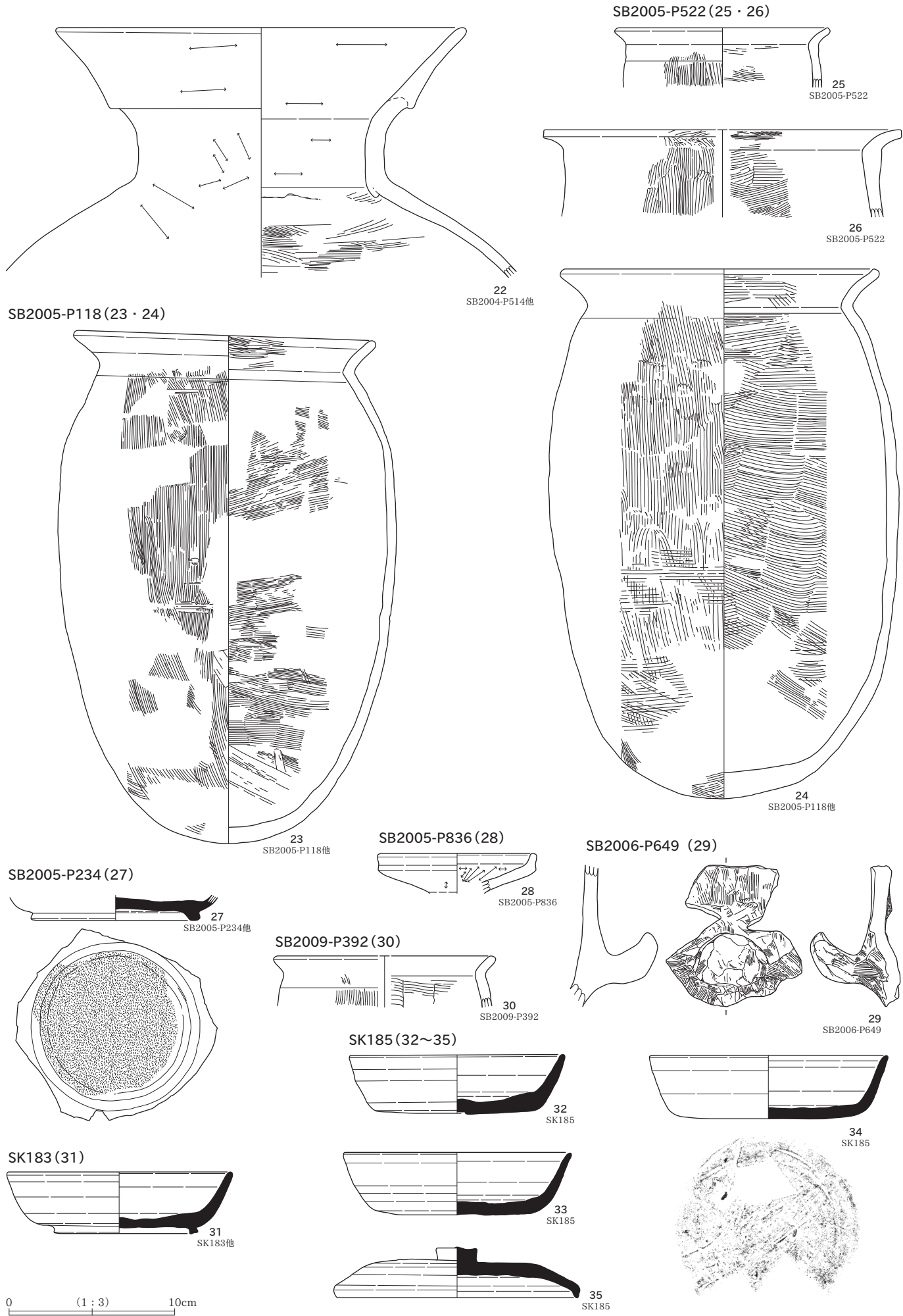


16  
SB2004-P244他

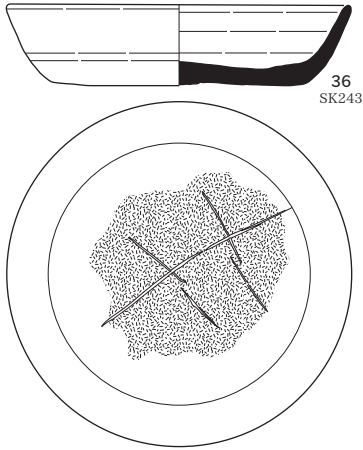


19  
SB2004-P393



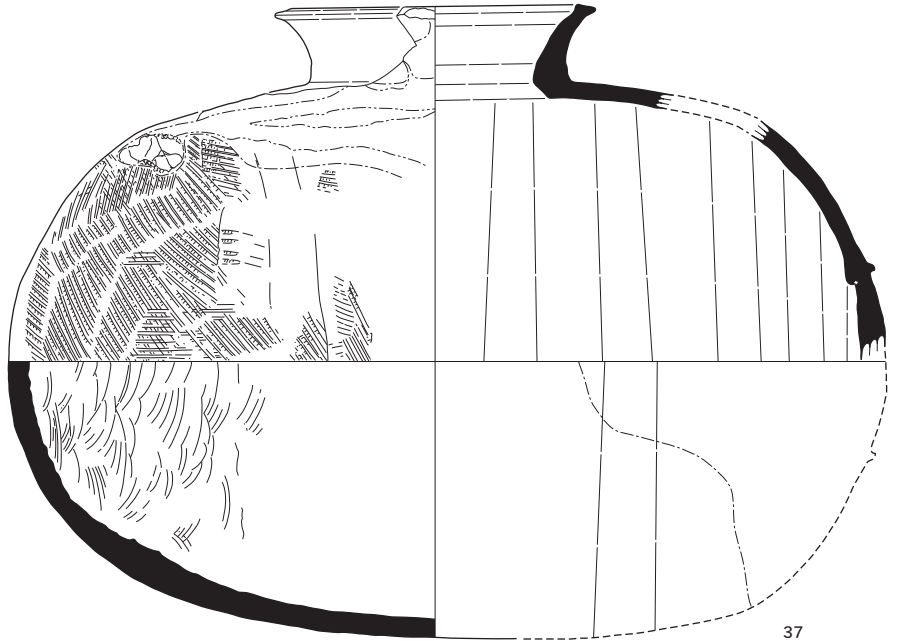


SK243 (36・37)

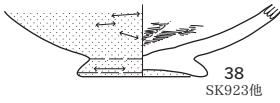


36  
SK243

37  
SK243他

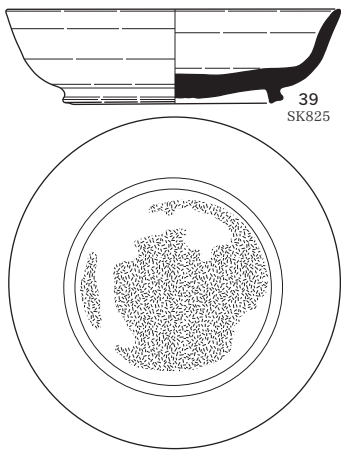


SK923 (38)



38  
SK923他

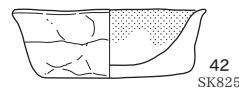
SK825 (39~46)



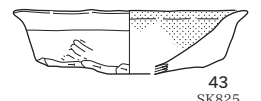
39  
SK825



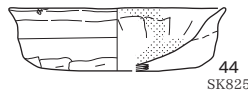
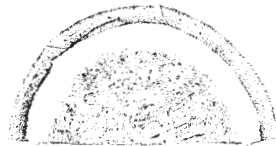
40  
SK825



42  
SK825



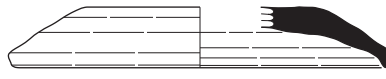
43  
SK825



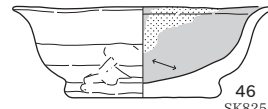
44  
SK825



45  
SK825

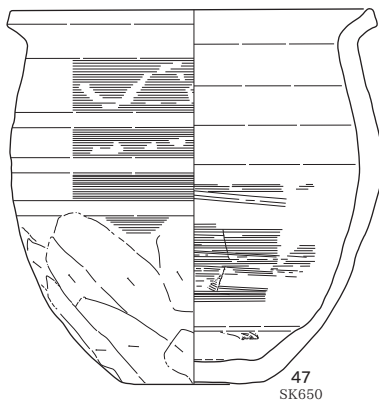


41  
SK825



46  
SK825

SK650 (47)



47  
SK650

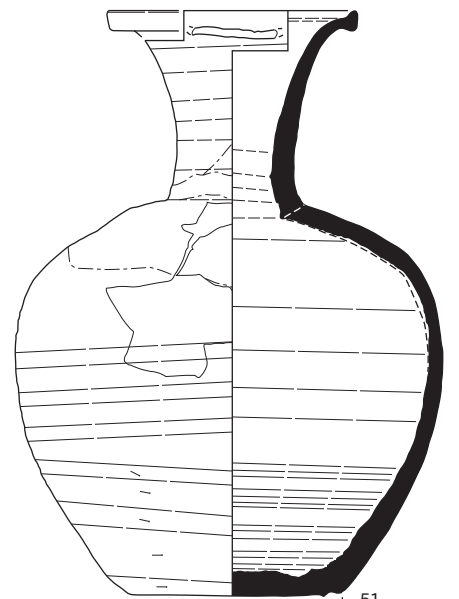
SX71 (48~54)



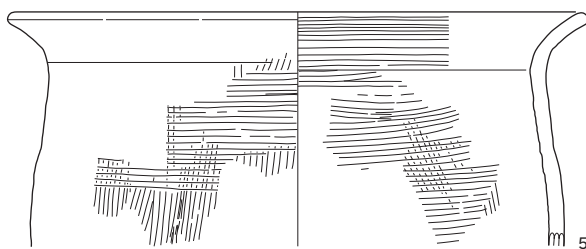
48  
SX71



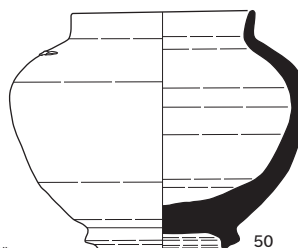
49  
SX71



51  
SX71



m 52  
SX71溝

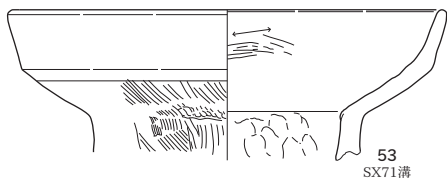


50  
SX71

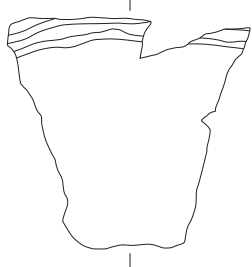
0 (1:3) 10cm



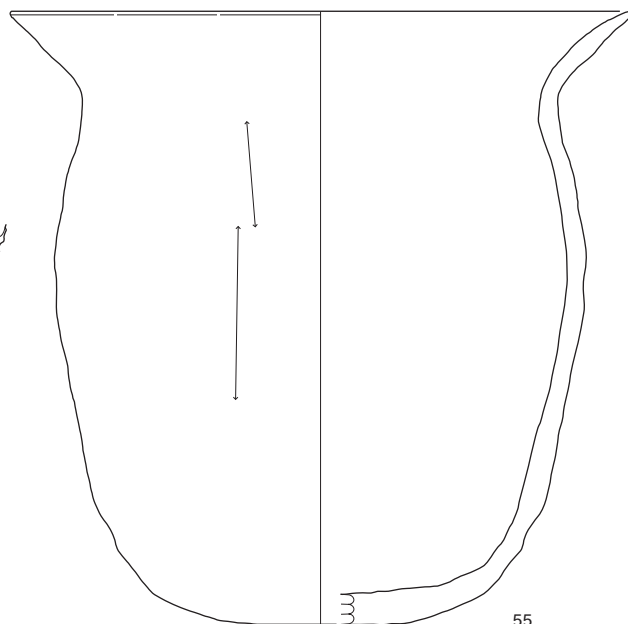
SX100(55~57)



53  
SX71溝



54  
SX71

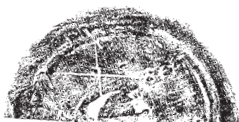


55  
SX100

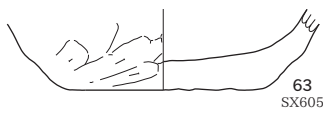
SX573 (58~62)



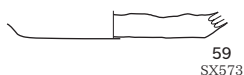
58  
SX573



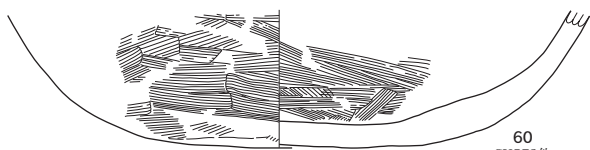
SX605 (63)



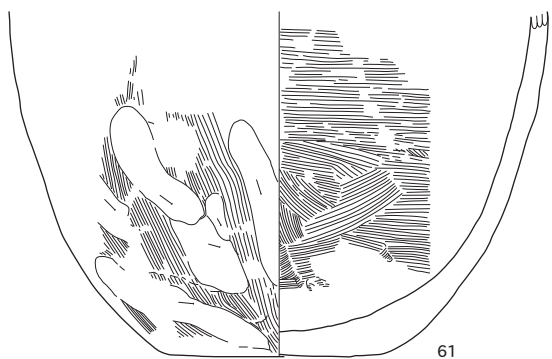
63  
SX605



59  
SX573



60  
SX573他



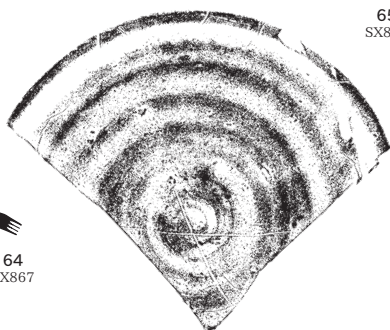
61  
SX573



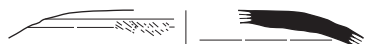
62  
SX573



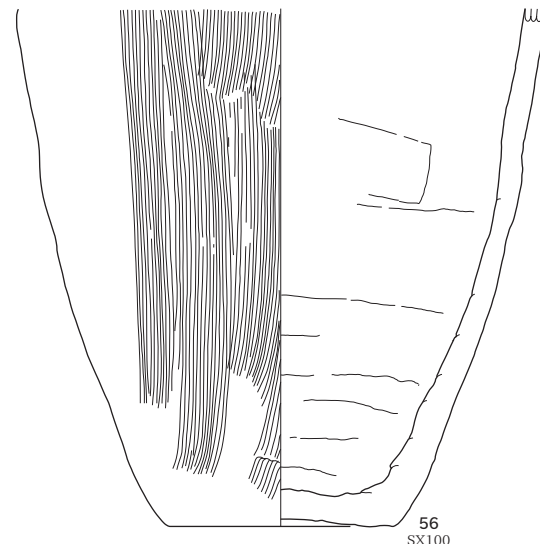
65  
SX867



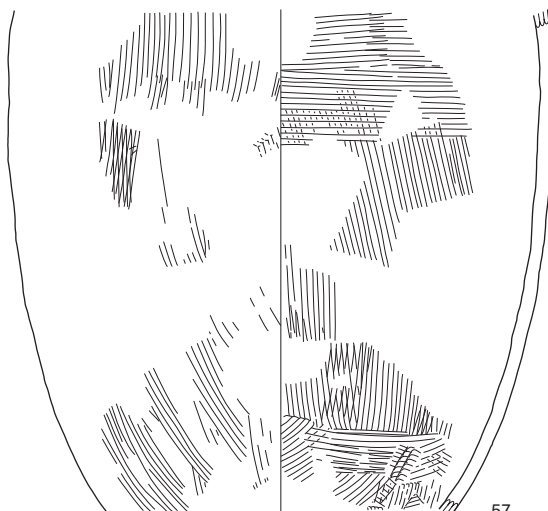
SX867 (64~67)



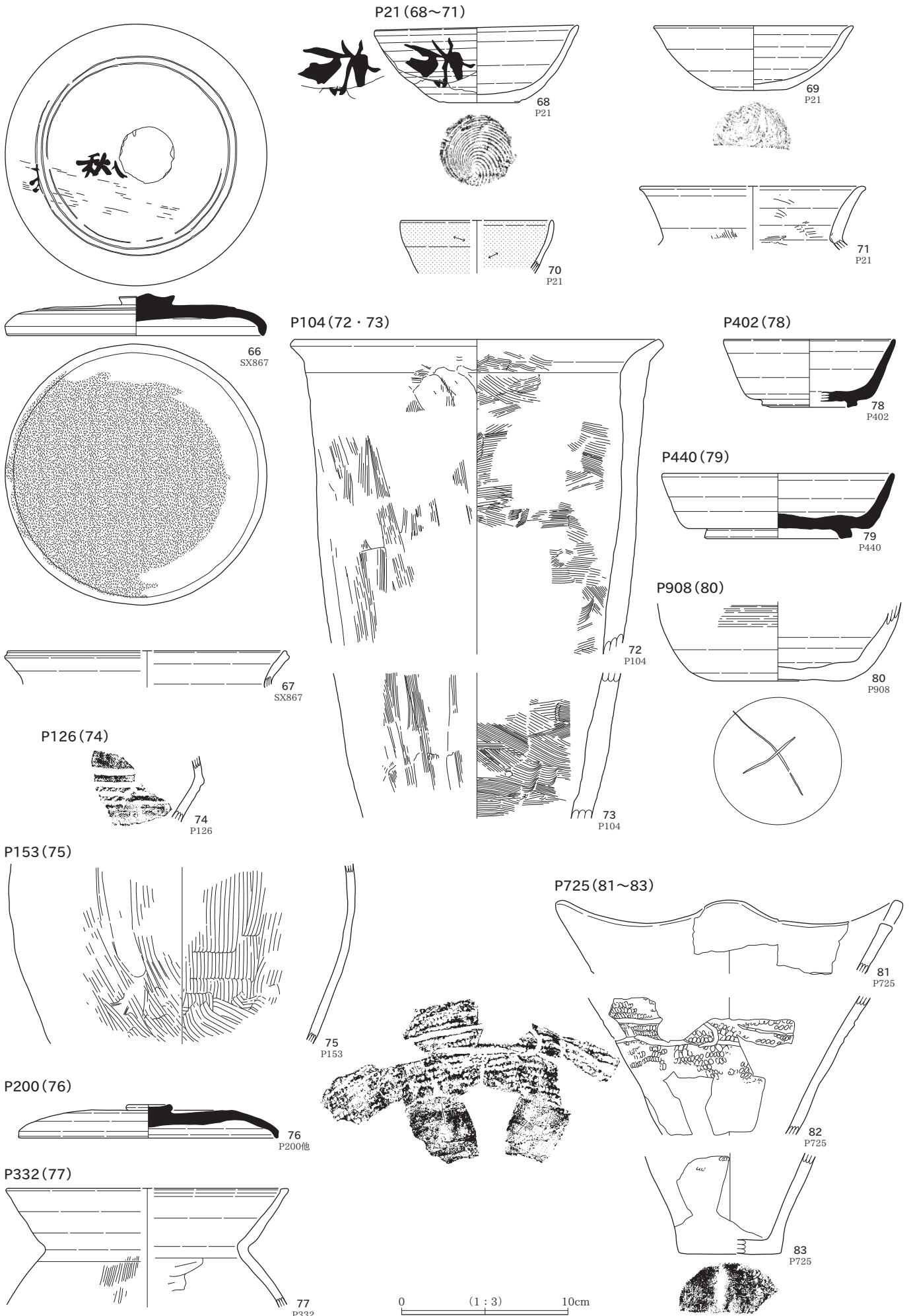
64  
SX867



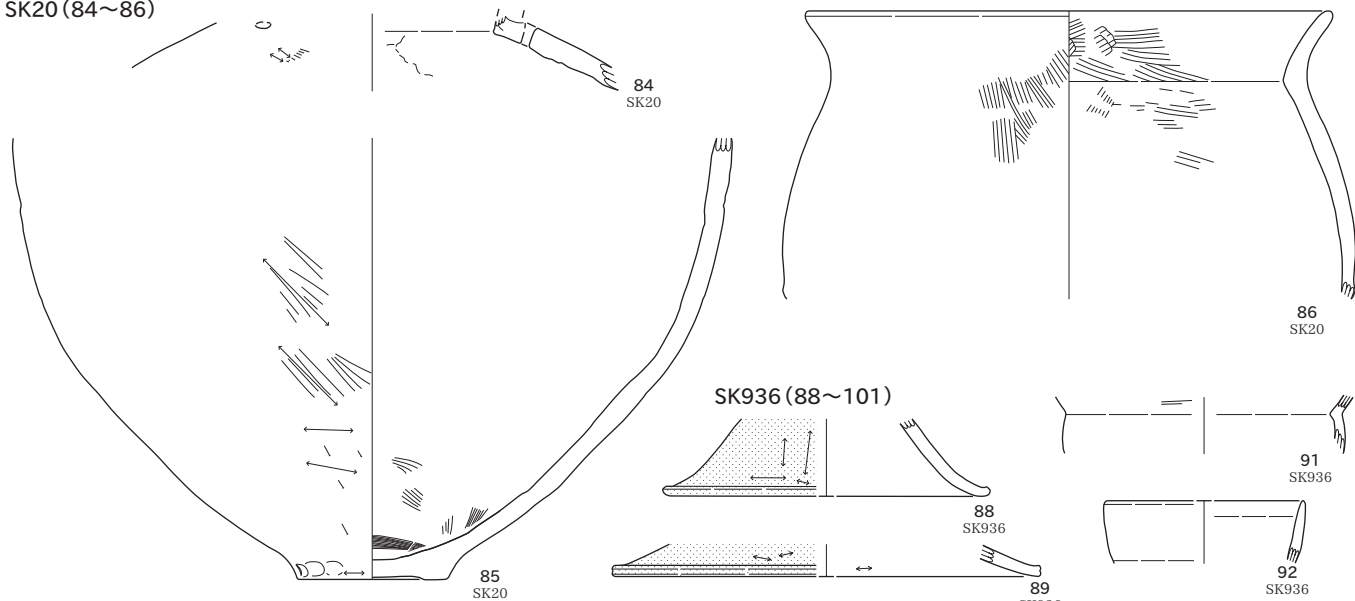
56  
SX100



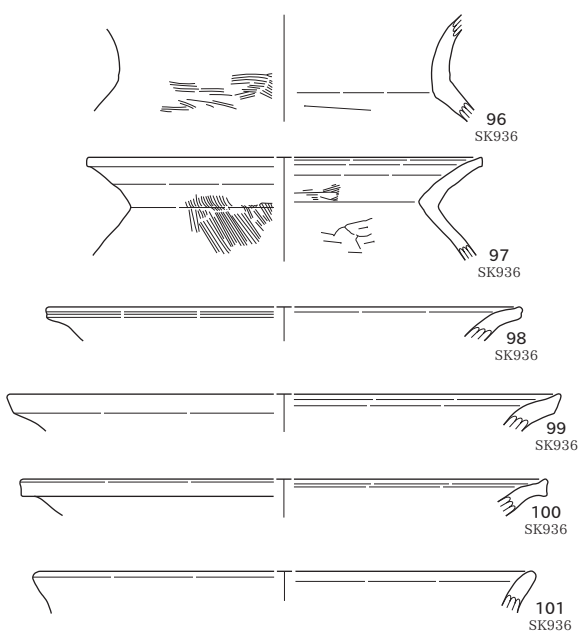
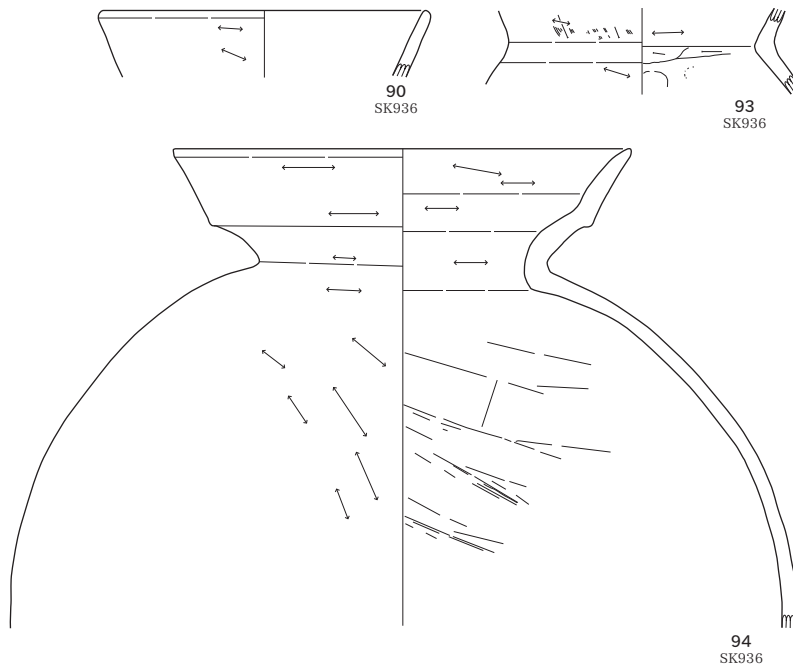
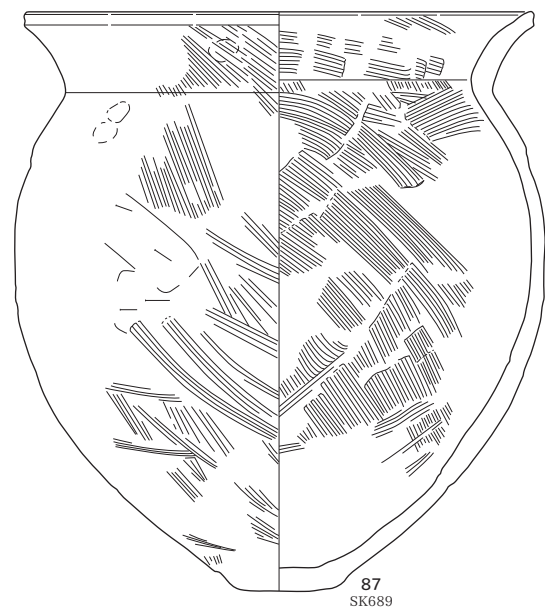
57  
SX100他



下層遺構出土土器  
SK20 (84~86)

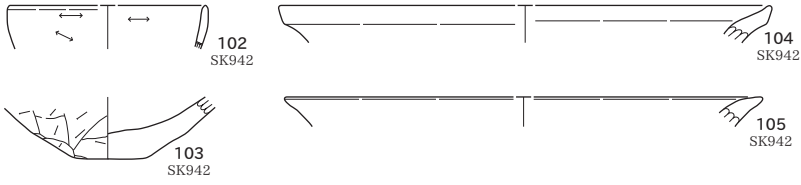


SK689 (87)

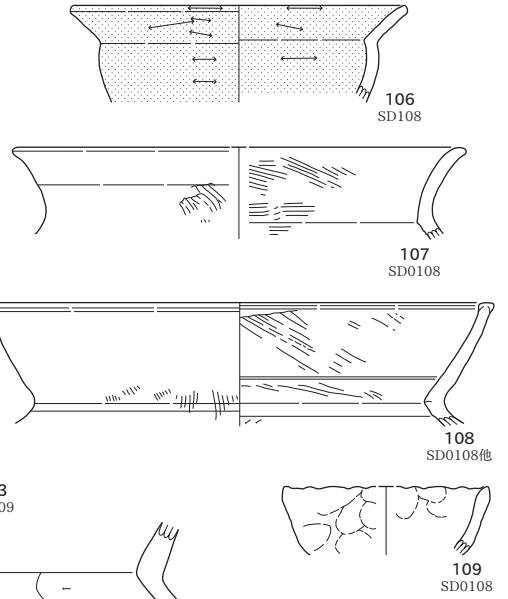


0 (1:3) 10cm

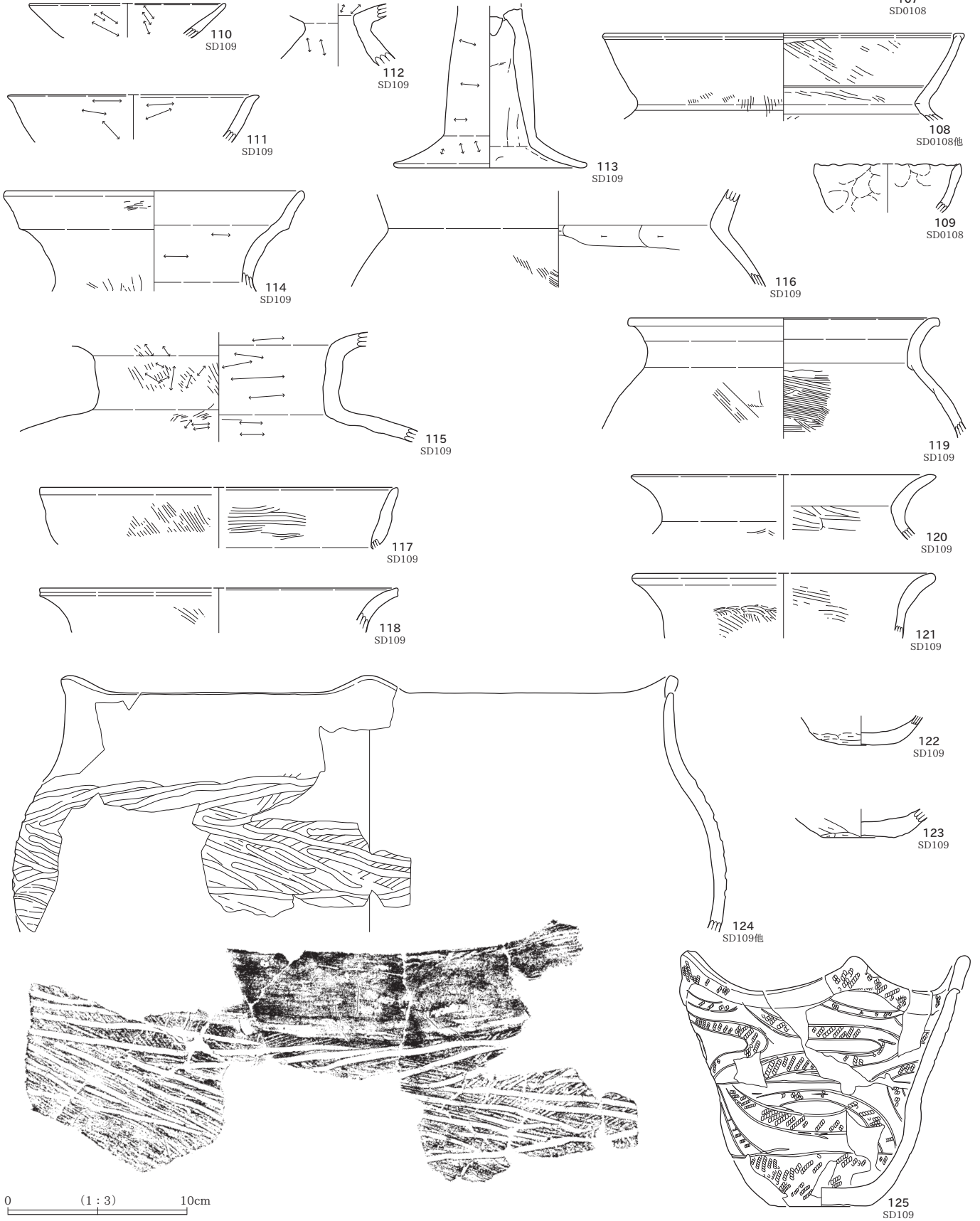
SK942 (102~105)



SD108 (106~109)

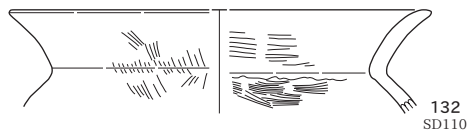
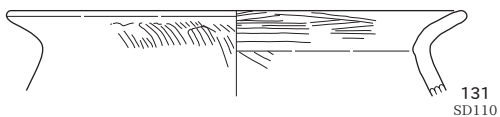
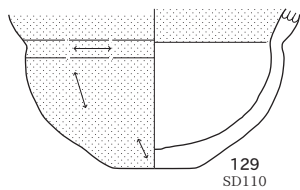
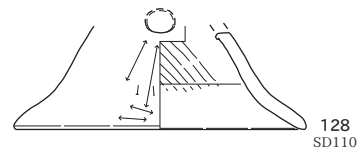


SD109 (110~125)

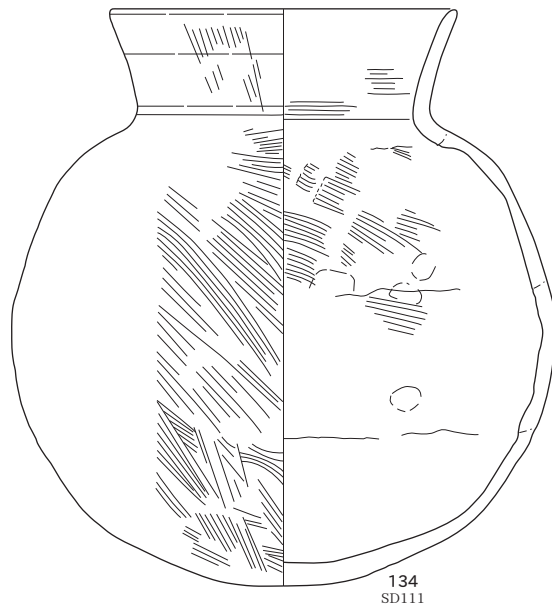




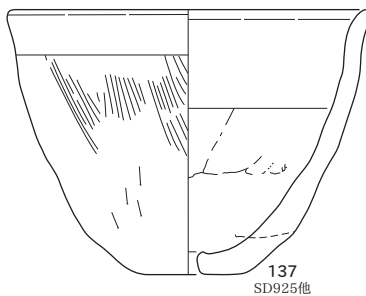
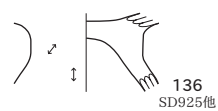
SD110 (126~132)



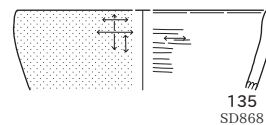
SD111 (133・134)



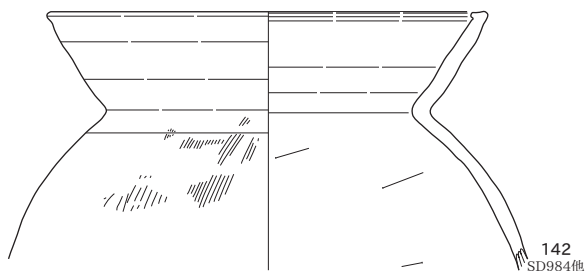
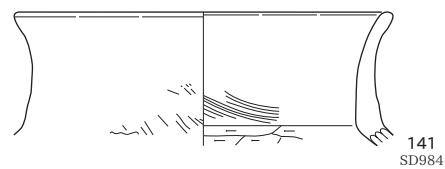
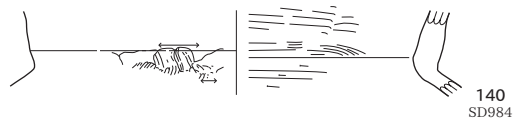
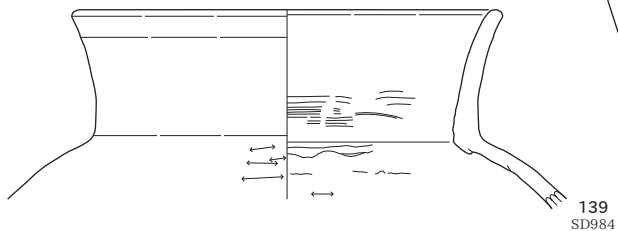
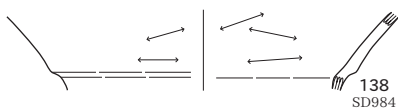
SD925 (136・137)



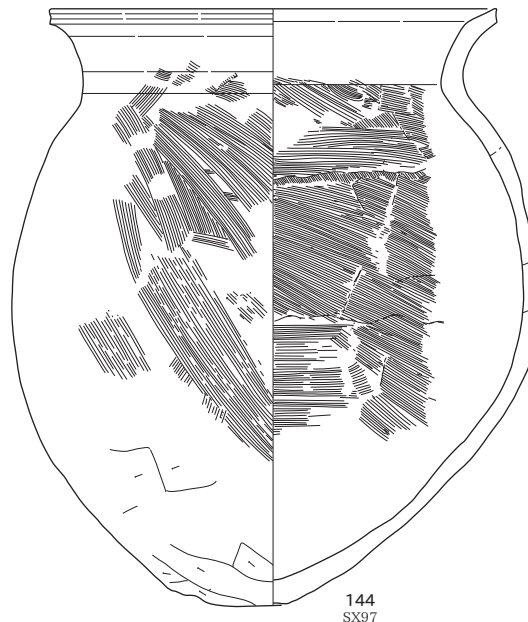
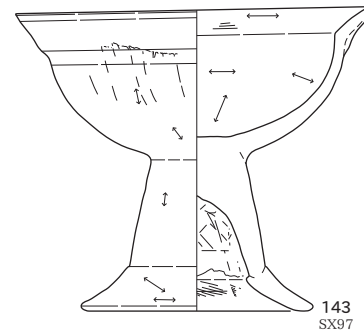
SD868 (135)

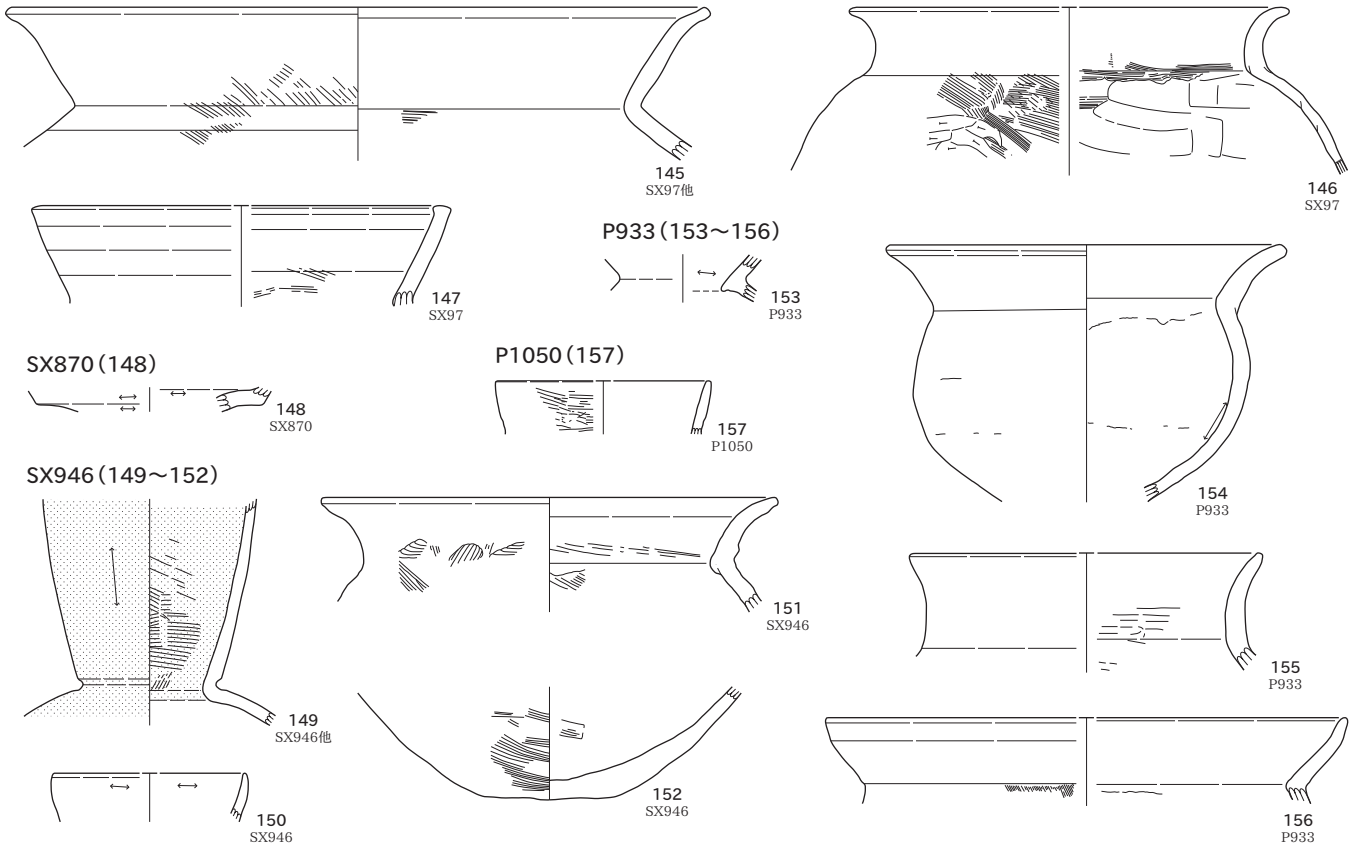


SD984 (138~142)

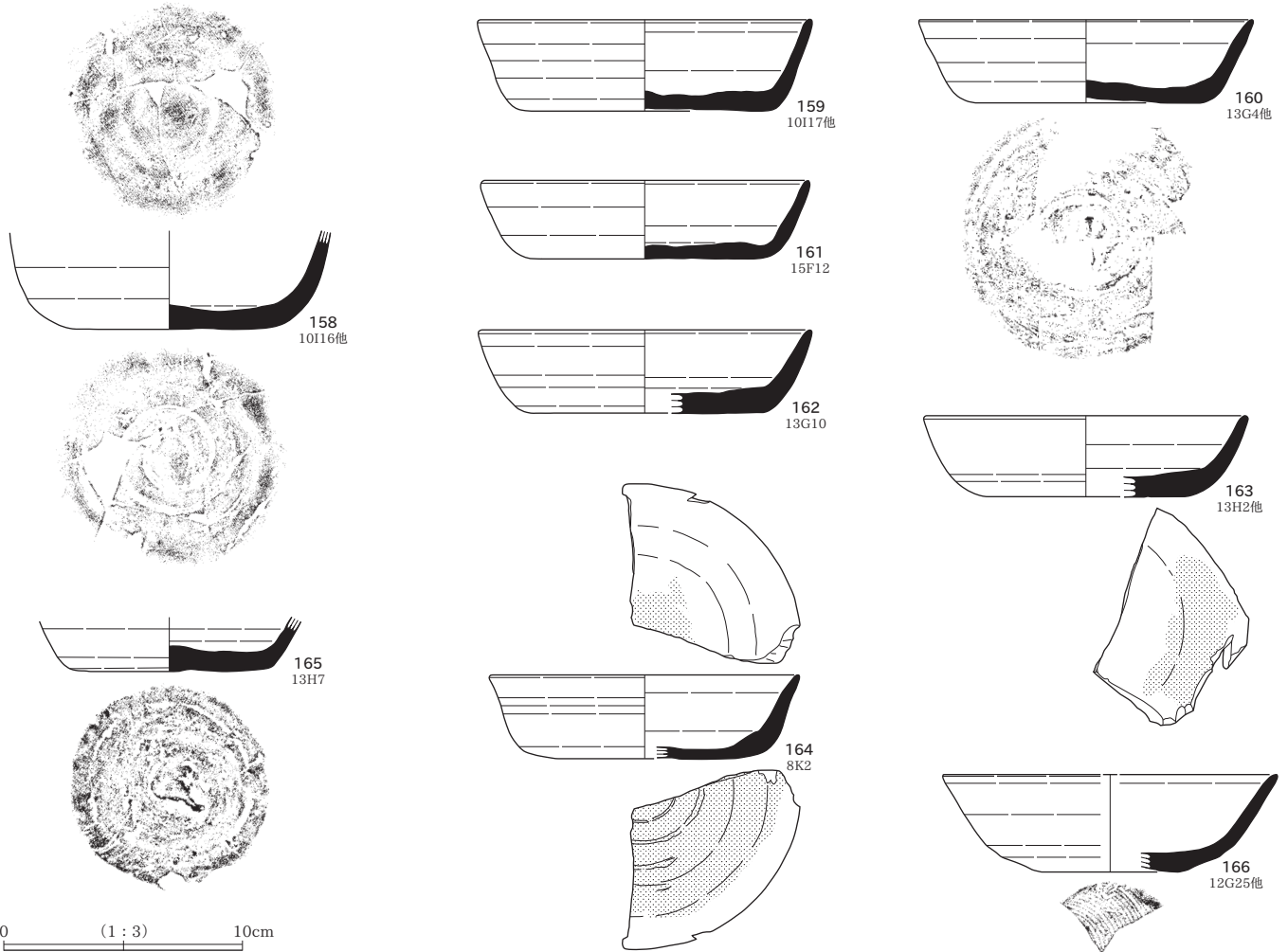


SX97 (143~147)



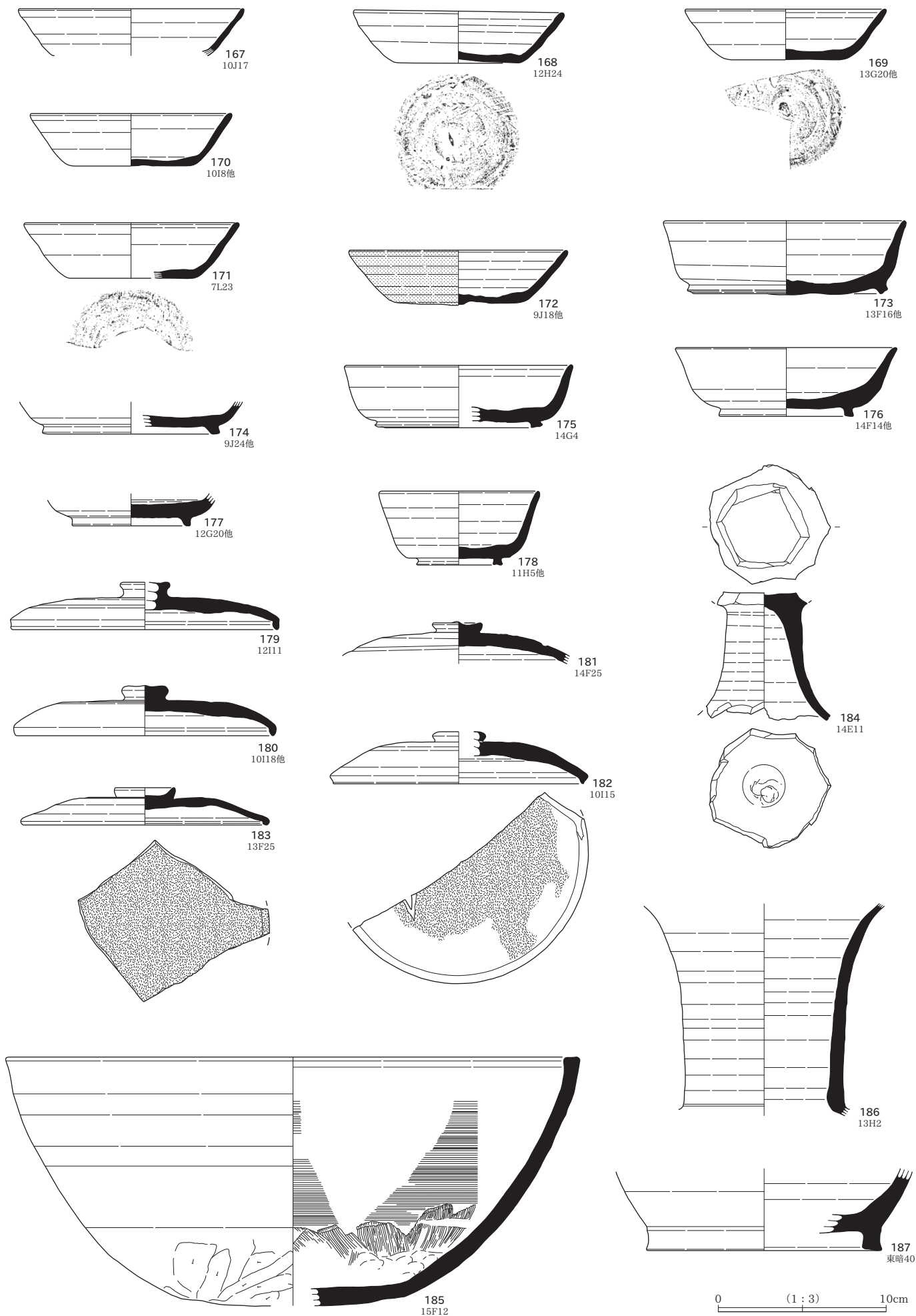


包含層出土土器 奈良・平安時代 (158~166)



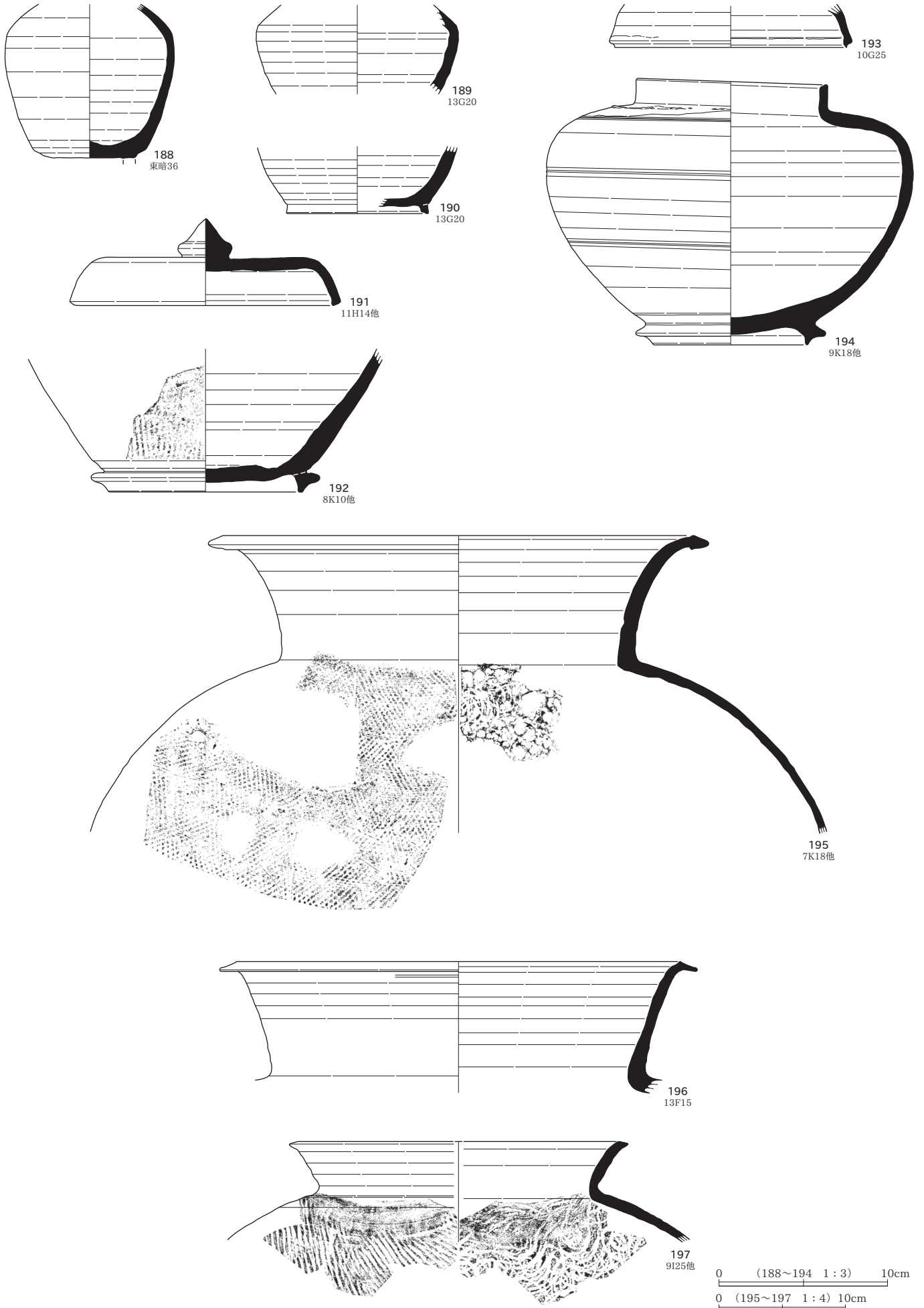
0 (1:3) 10cm

包含層出土土器 奈良・平安時代 (167~187)



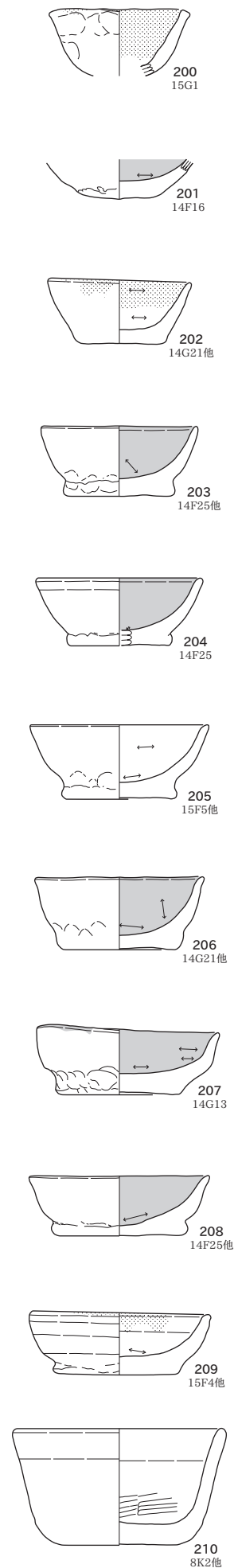
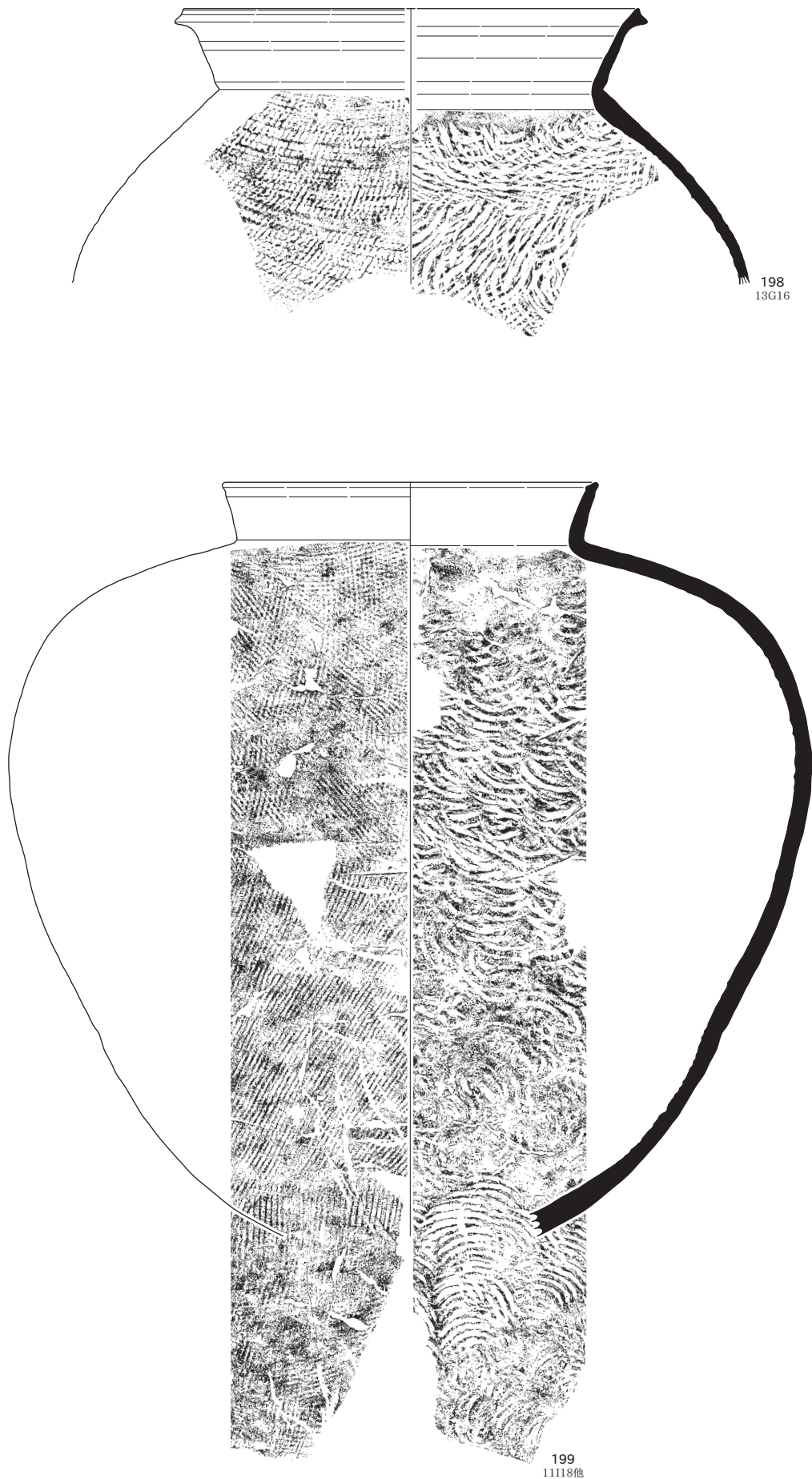
0 (1:3) 10cm

包含層出土土器 奈良・平安時代(188~197)



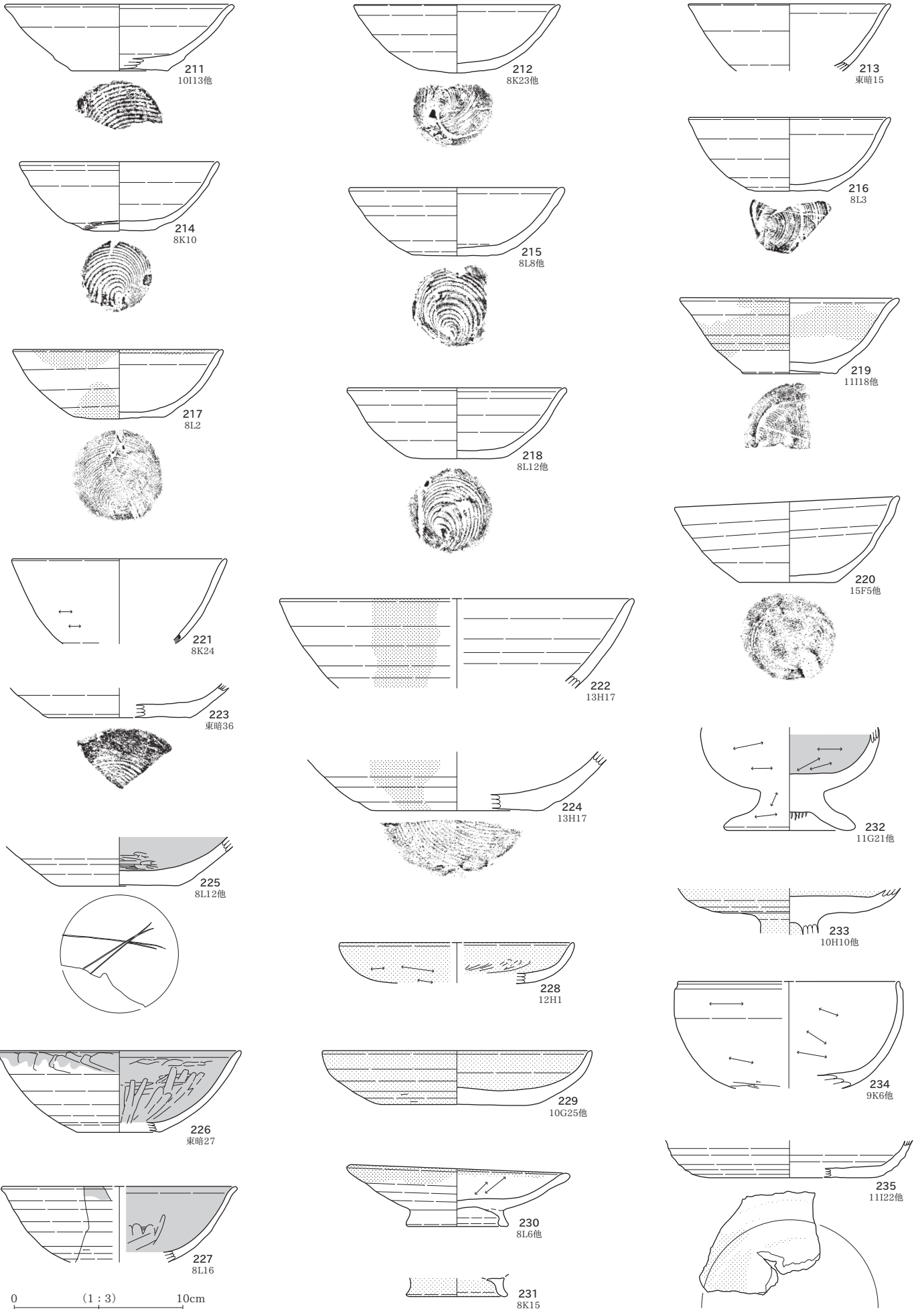


包含層出土土器 奈良・平安時代(198~210)

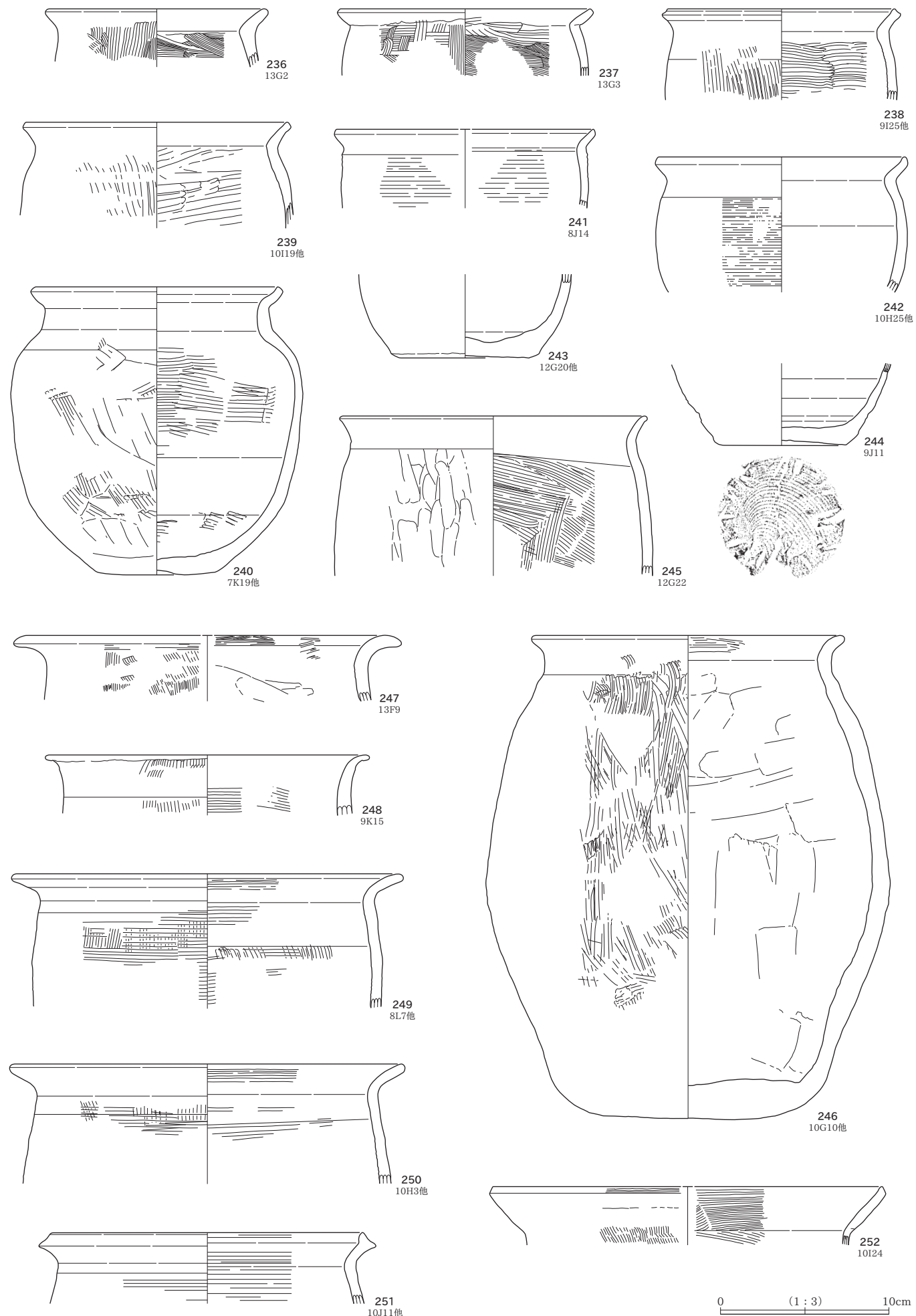


0 (200~210 1:3) 10cm  
 0 (198・199 1:4) 10cm

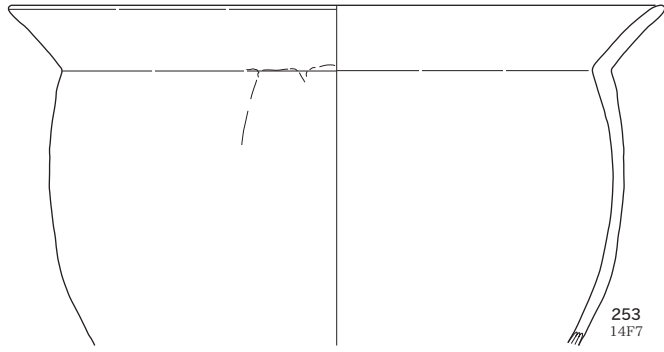
包含層出土土器 奈良・平安時代 (211~235)



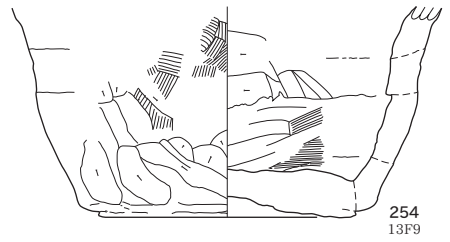
包含層出土土器 奈良・平安時代 (236~252)



包含層出土土器 奈良・平安時代 (253~265)



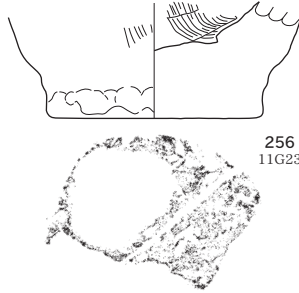
253  
14F7



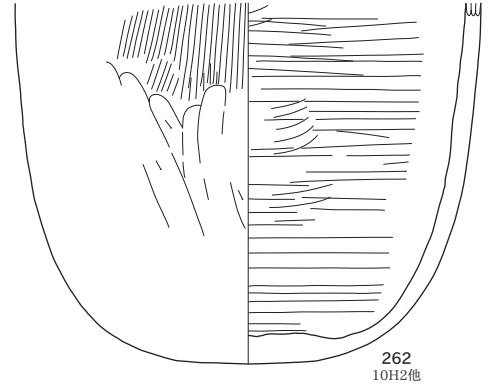
254  
13F9



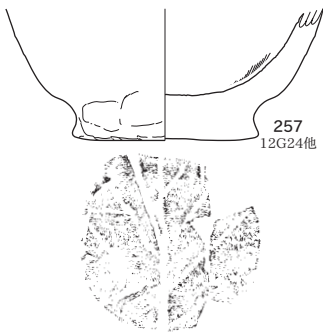
255  
13F15他



256  
11G23



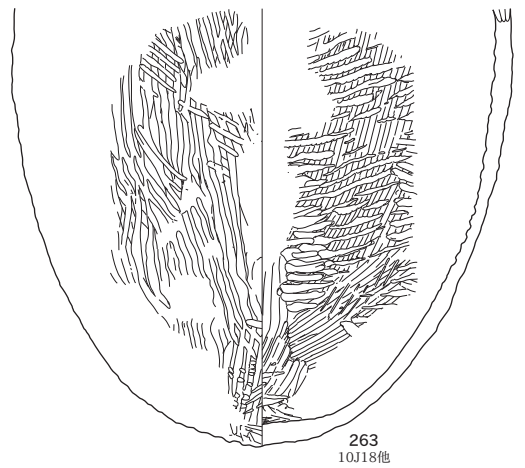
262  
10H2他



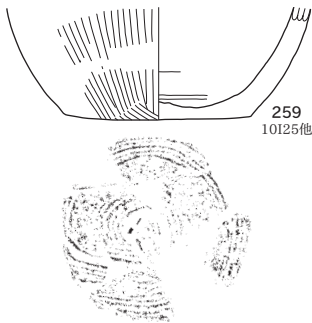
257  
12G24他



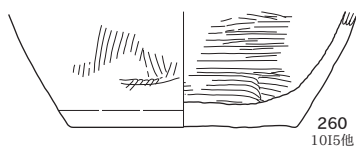
258  
7K23他



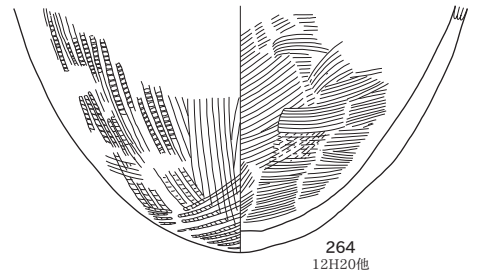
263  
10J18他



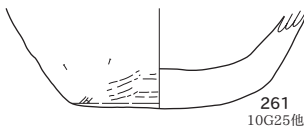
259  
10I25他



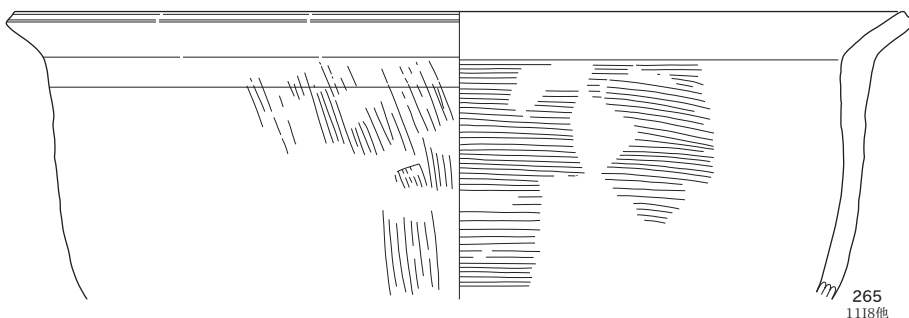
260  
10I5他



264  
12H20他



261  
10G25他

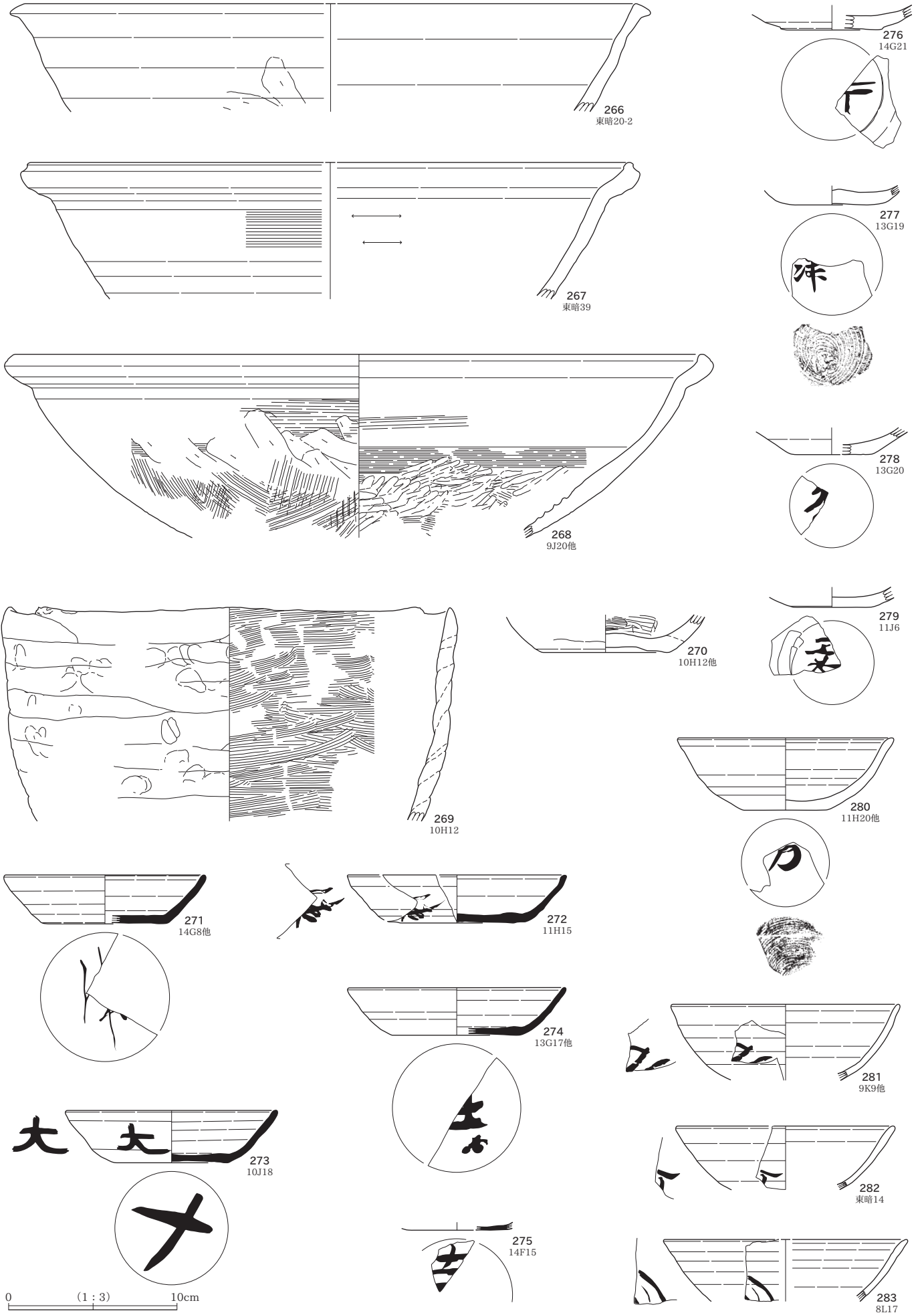


265  
11I8他

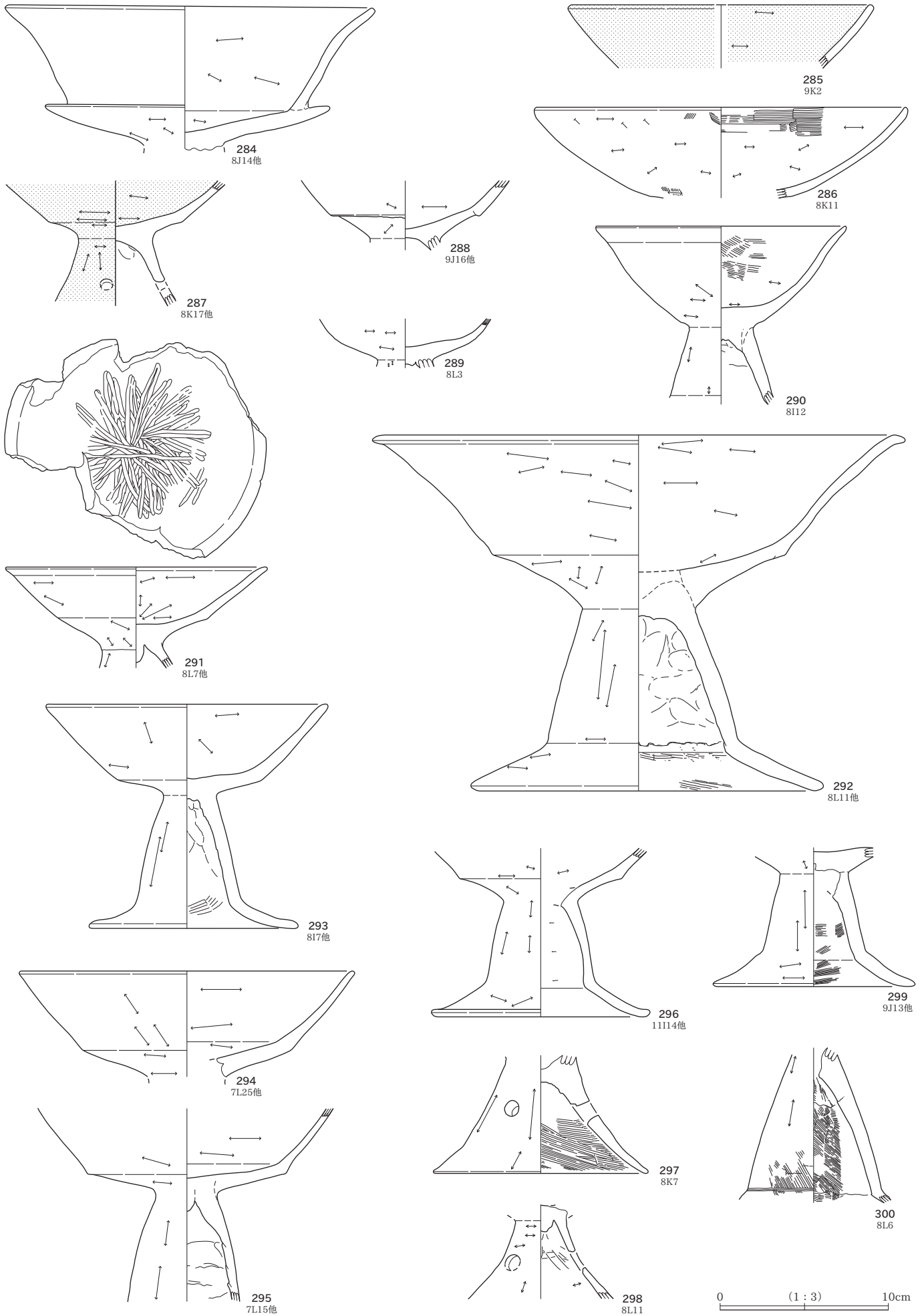
0 (1:3) 10cm



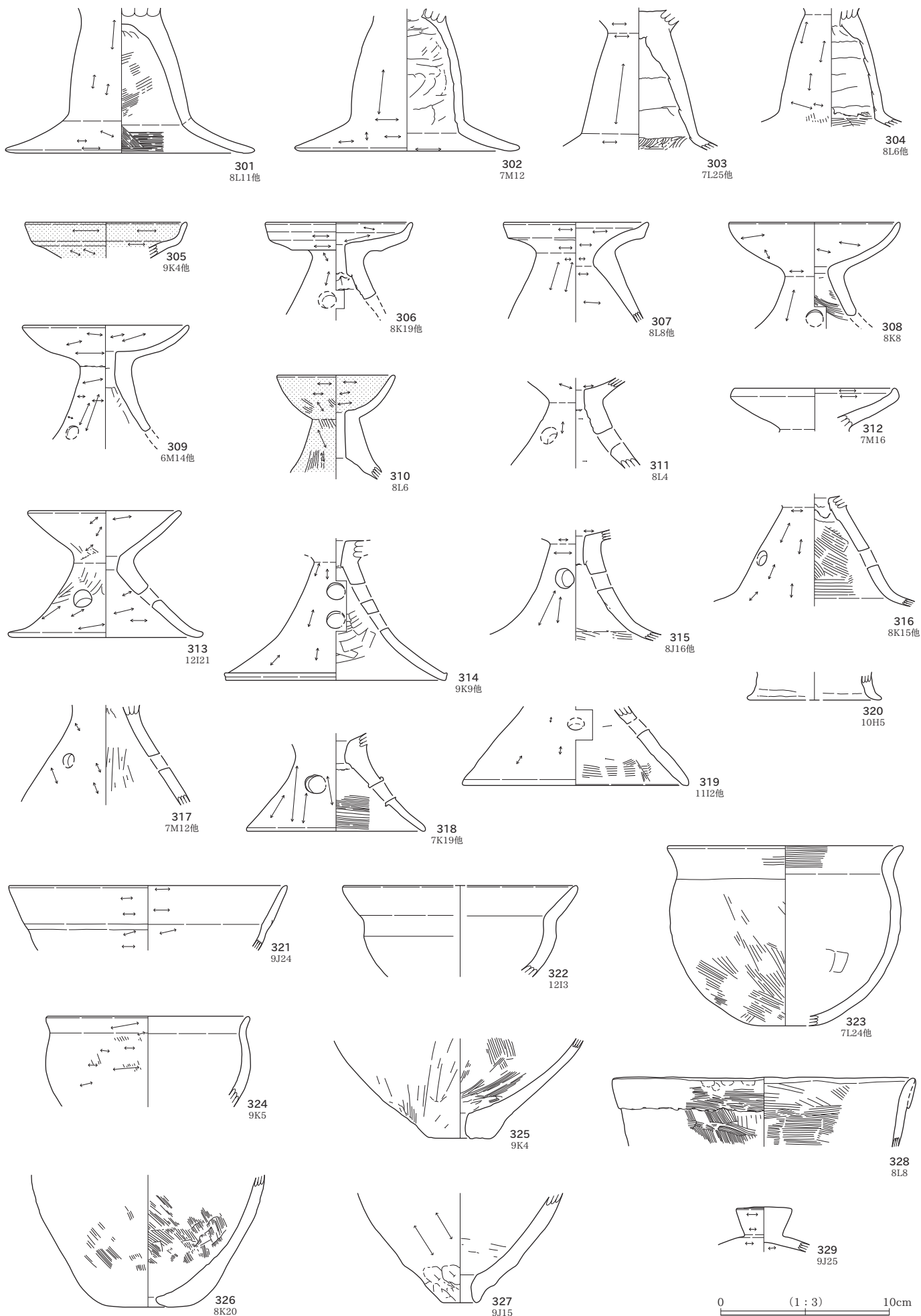
包含層出土土器 奈良・平安時代 (266~283)



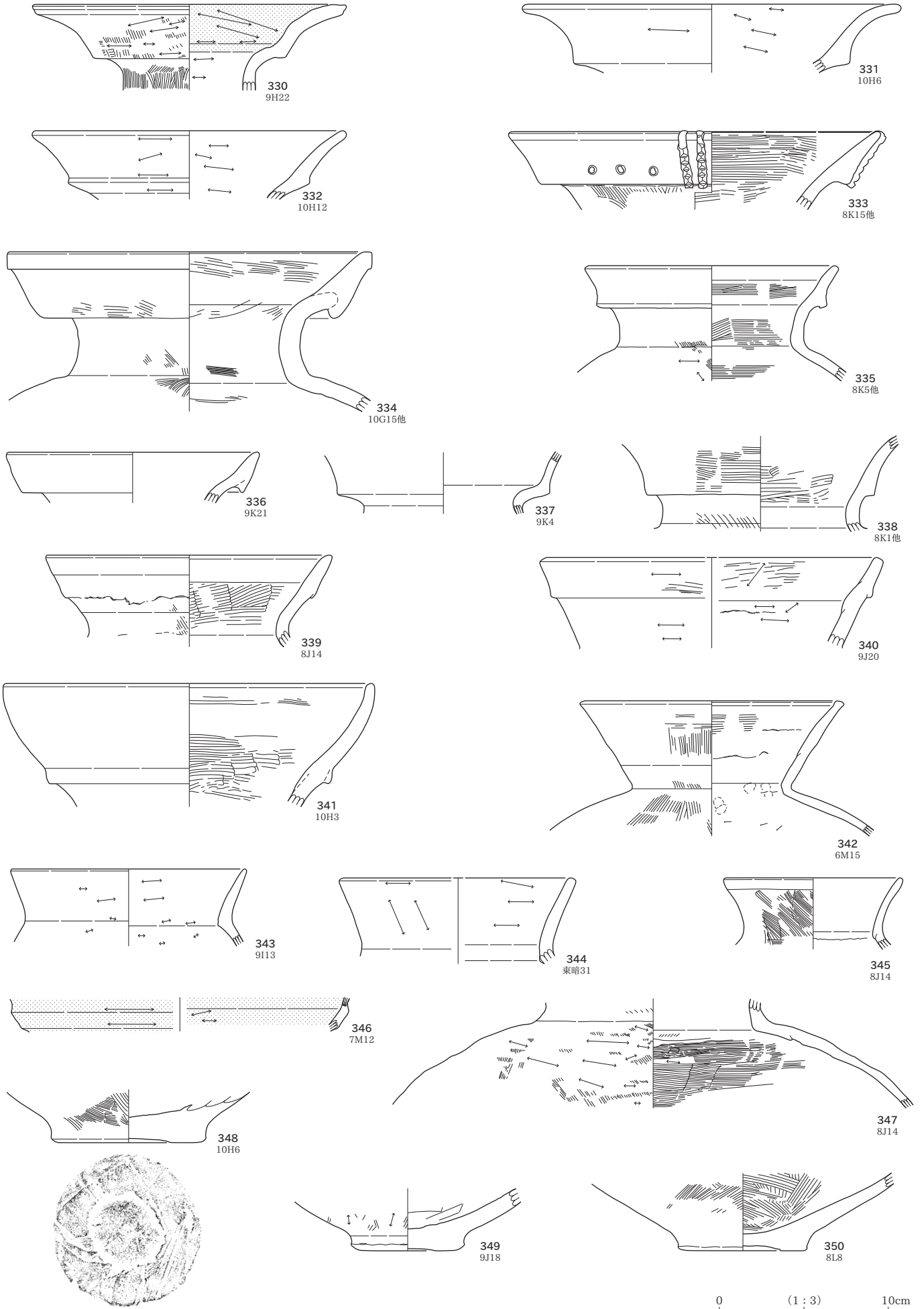
包含層出土土器 古墳時代 (284~300)



包含層出土土器 古墳時代 (301~329)

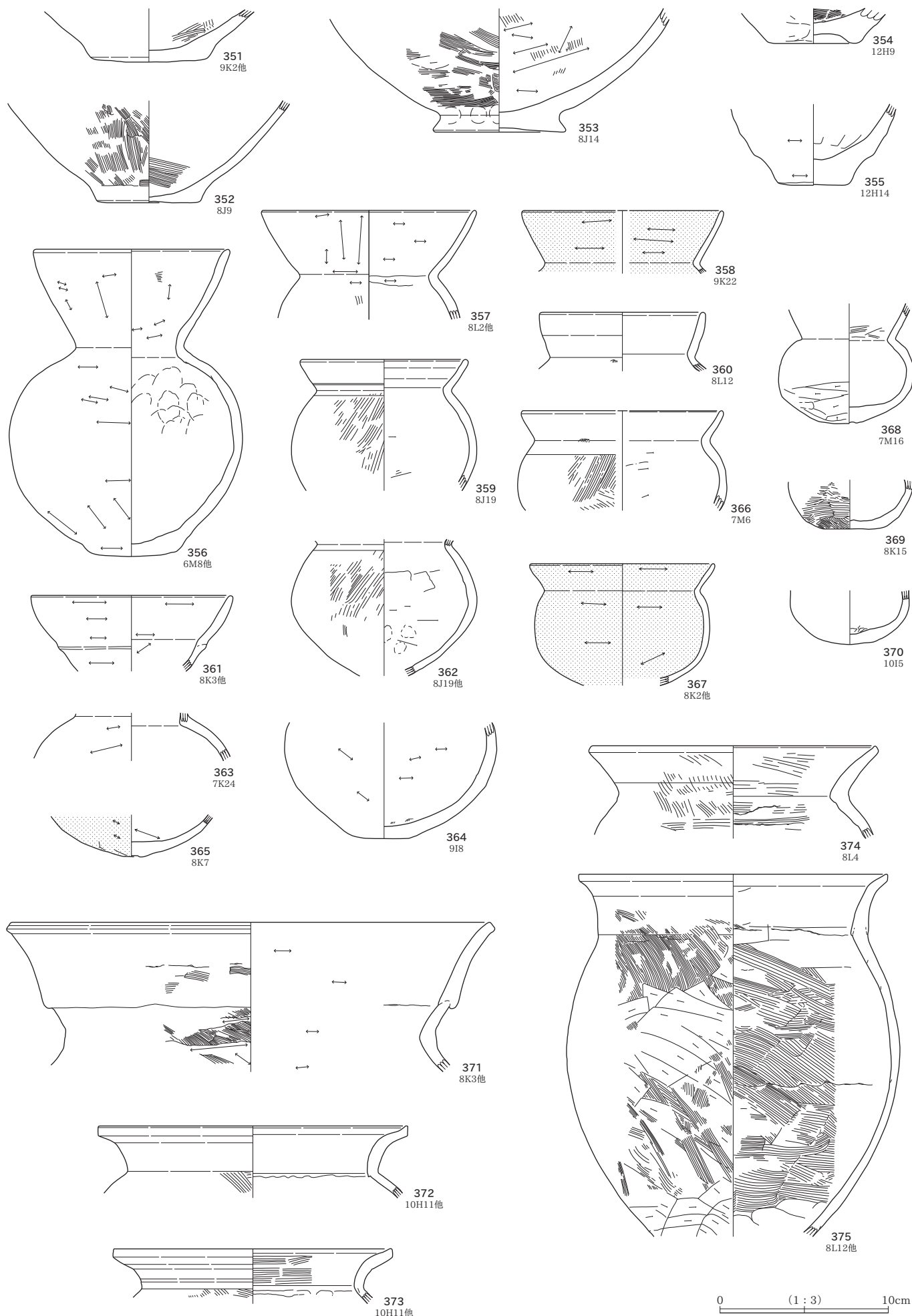


包含層出土土器 古墳時代(330~350)



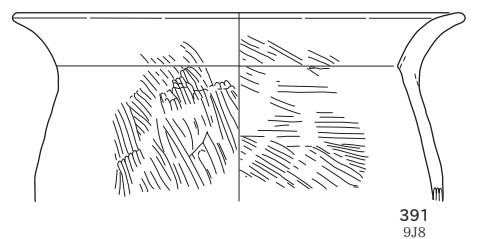
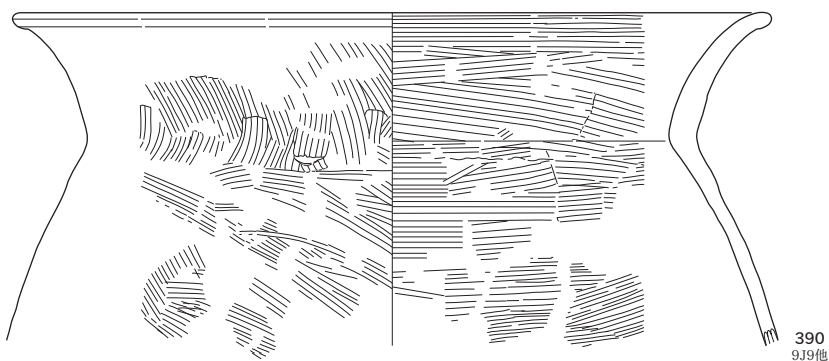
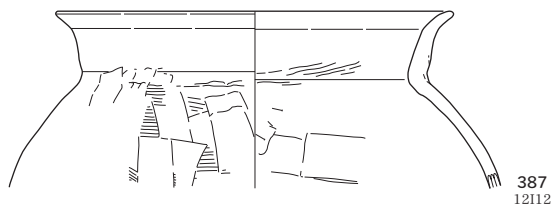
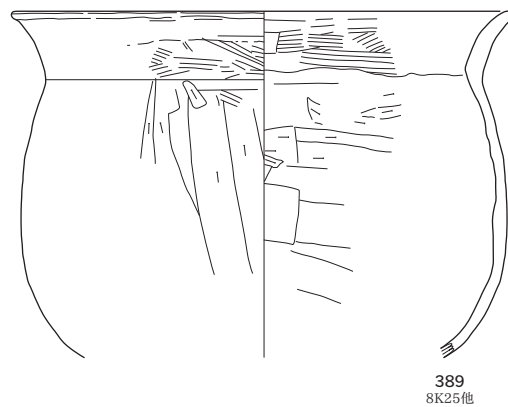
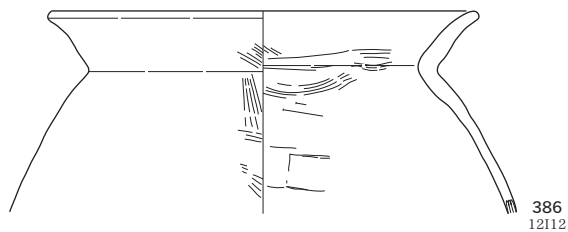
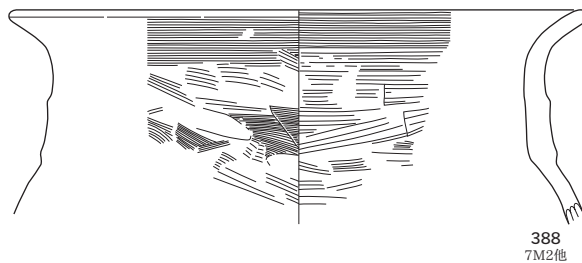
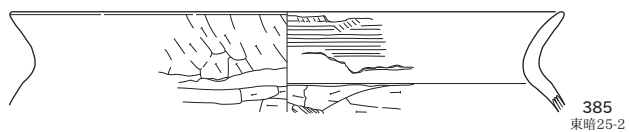
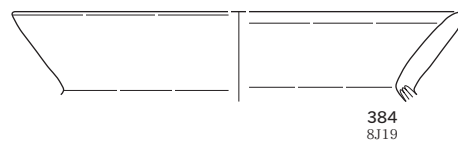
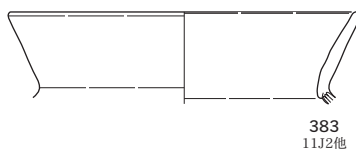
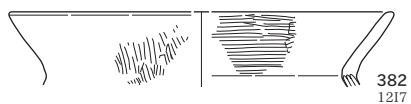
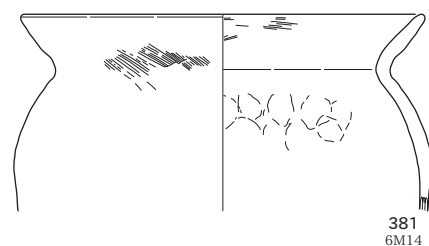
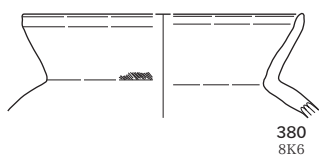
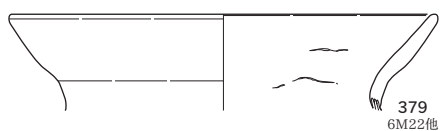
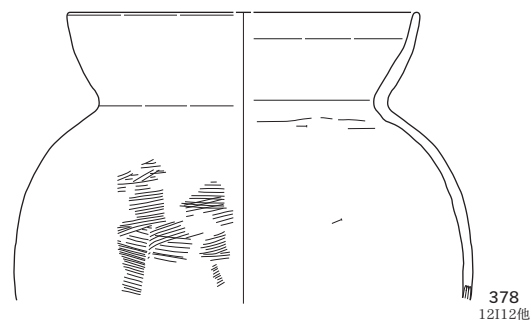
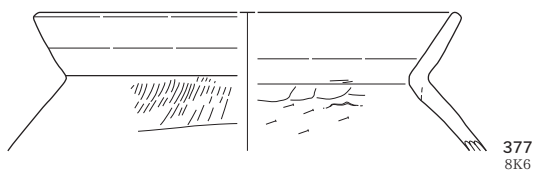
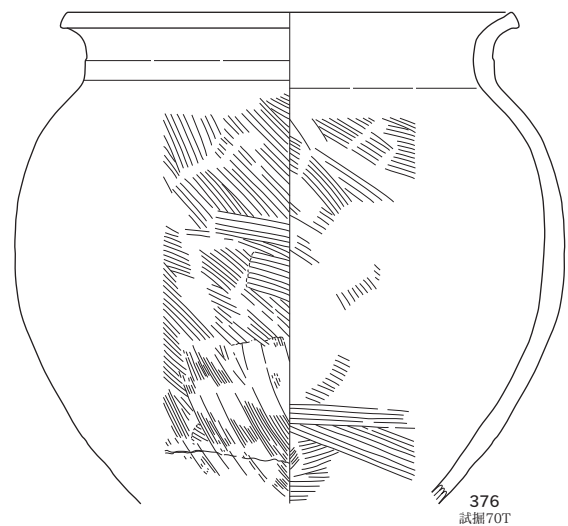


包含層出土土器 古墳時代(351~375)



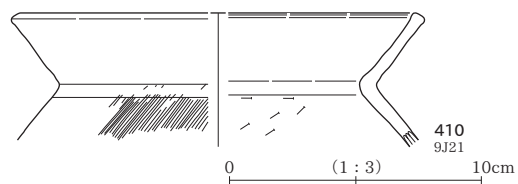
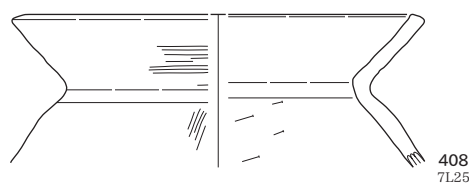
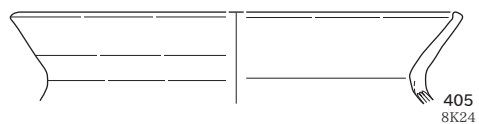
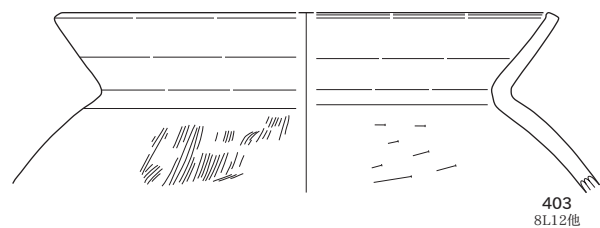
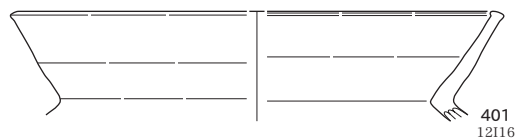
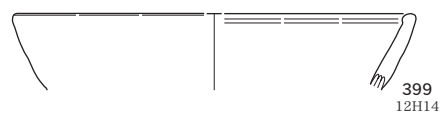
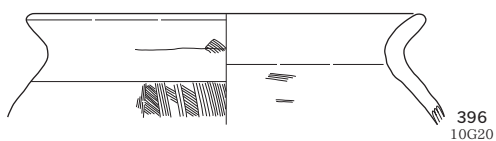
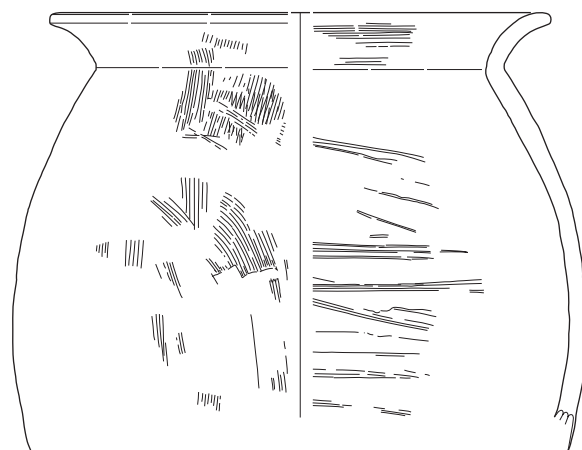
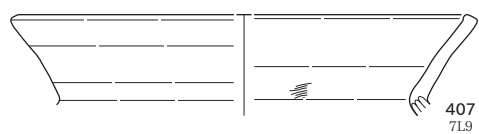
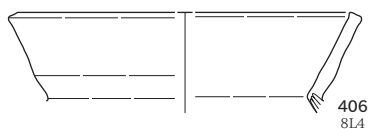
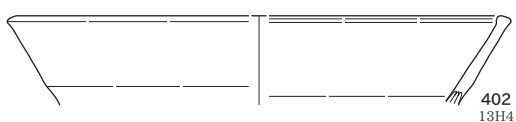
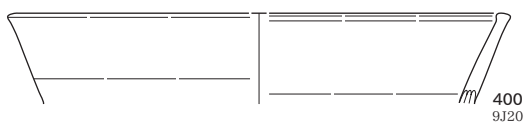
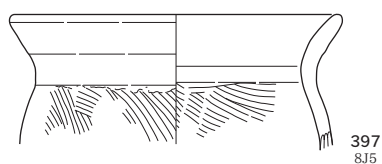
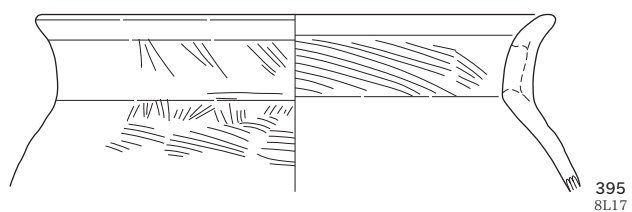
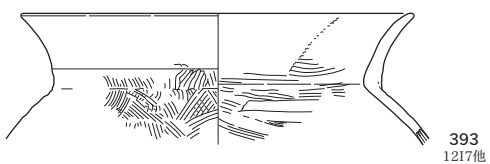
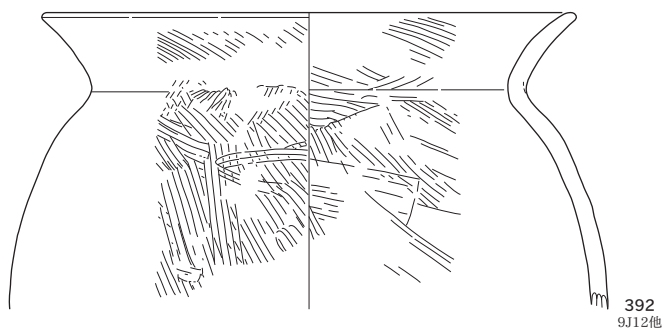
0 (1:3) 10cm

包含層出土土器 古墳時代 (376~391)



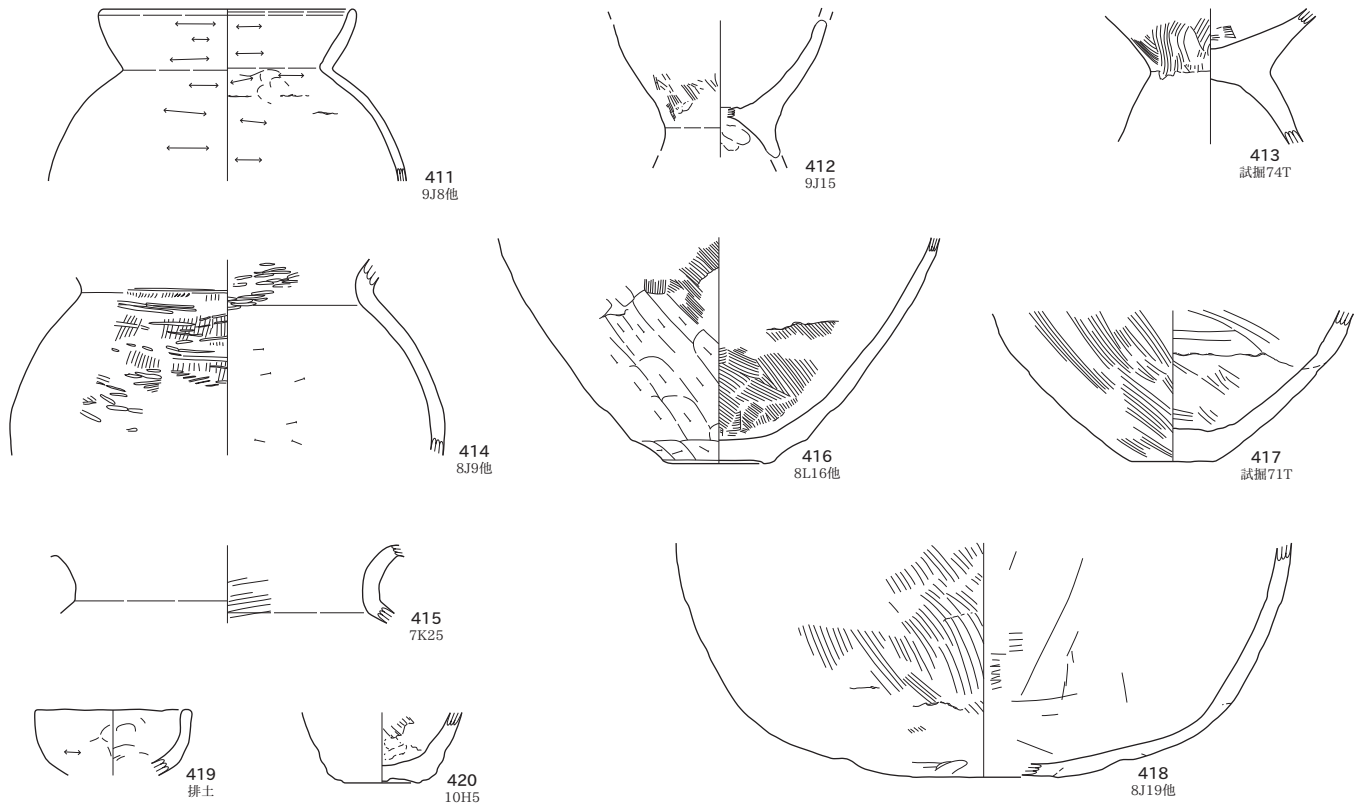
0 (1:3) 10cm

包含層出土土器 古墳時代 (392~410)



0 (1:3) 10cm

包含層出土土器 古墳時代 (411~420)

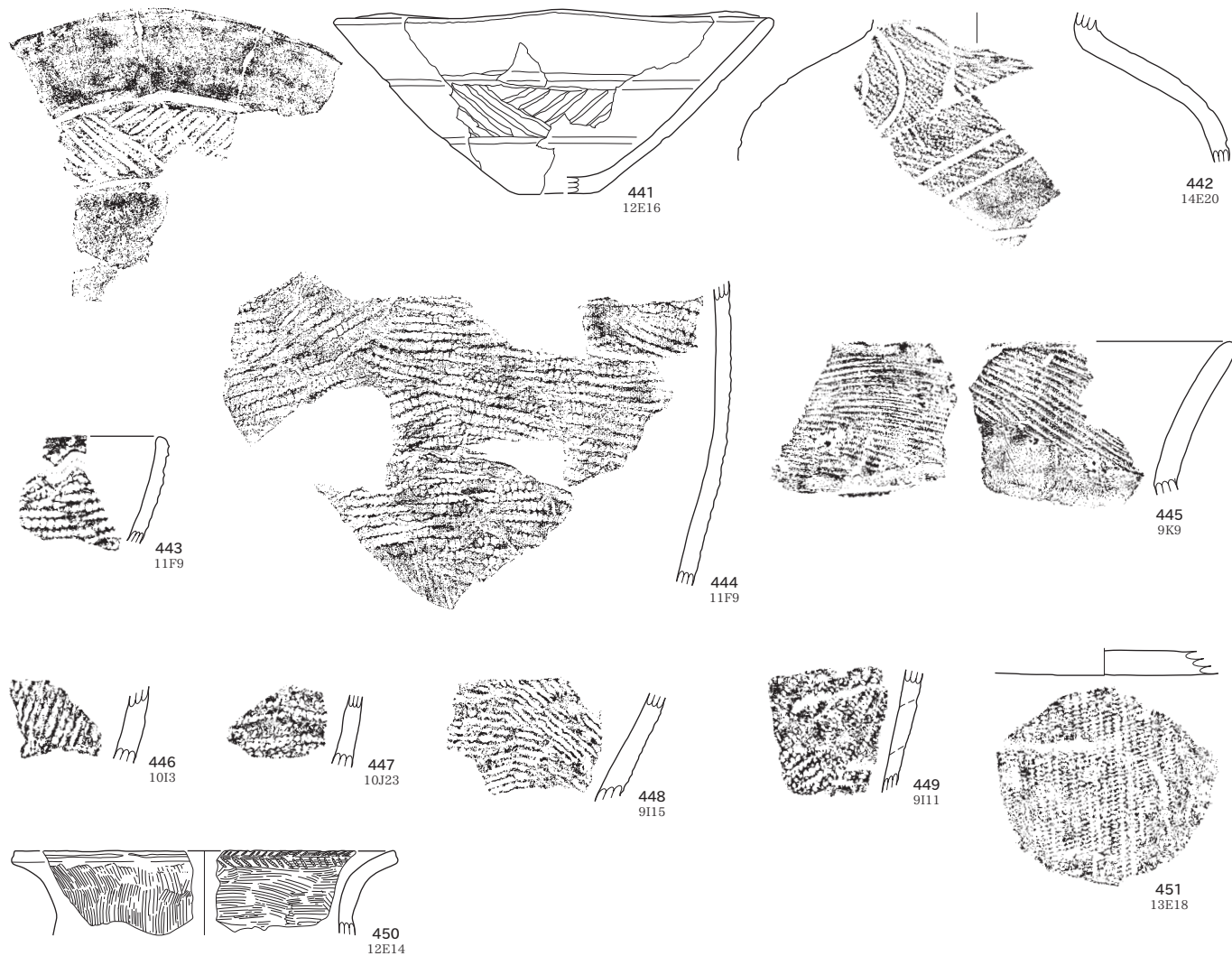


包含層出土土器 縄文・弥生時代 (421~440)

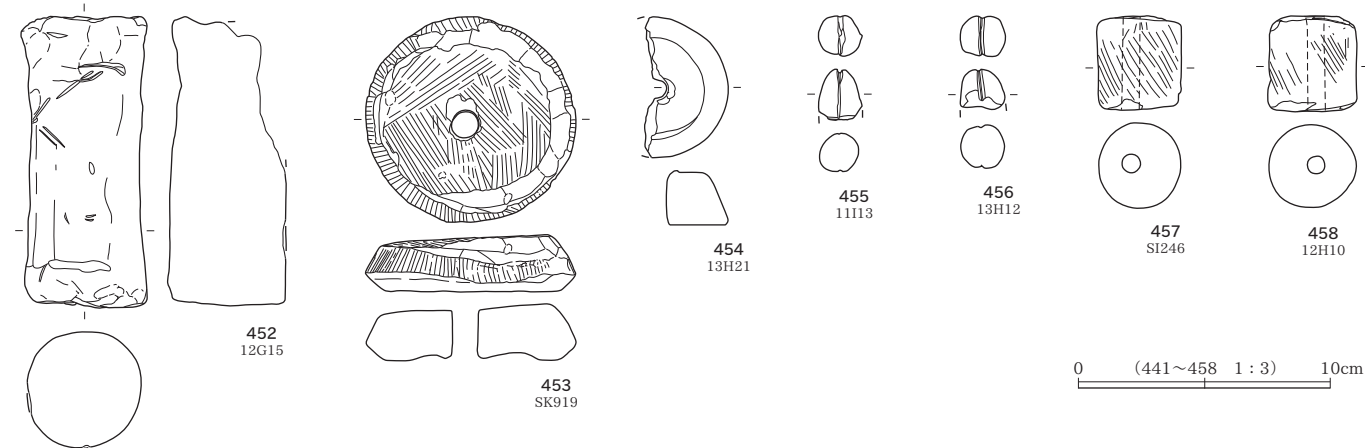




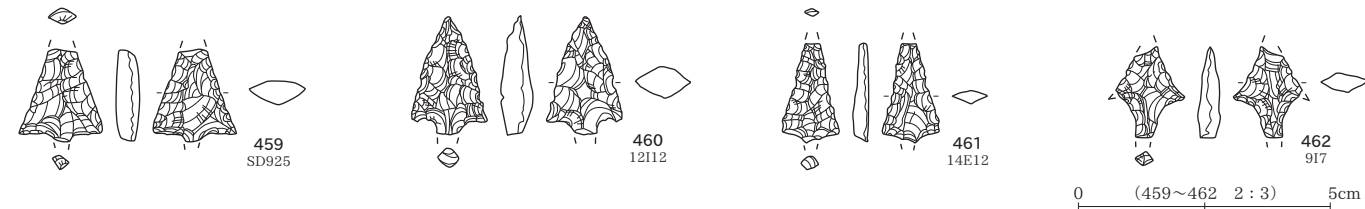
包含層出土土器 縄文・弥生時代(441~451)



土製品 (452~458)

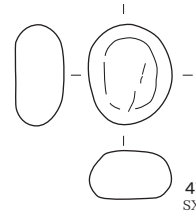
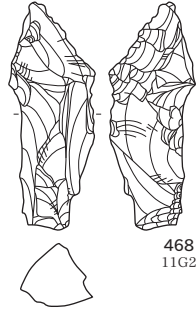
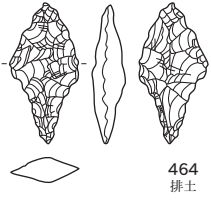
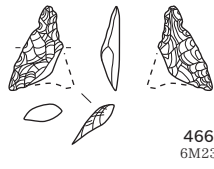
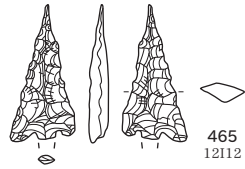
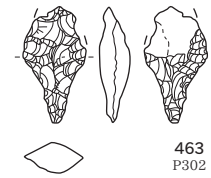


石器 (459~462)

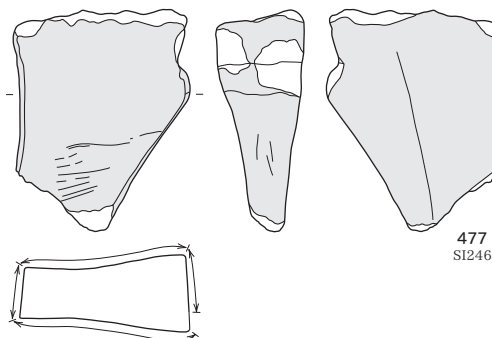
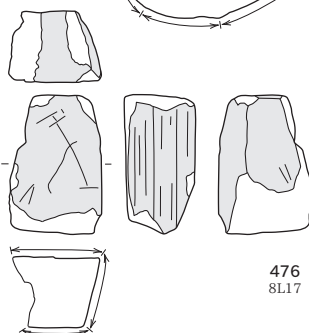
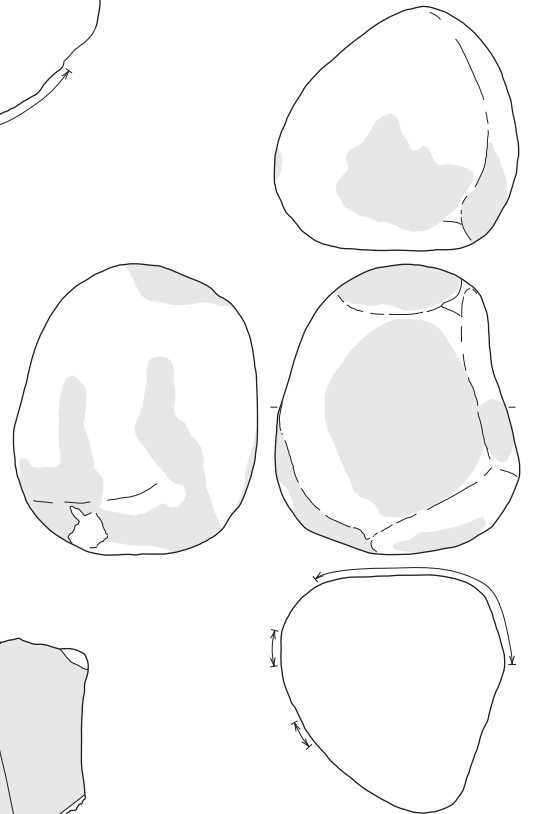
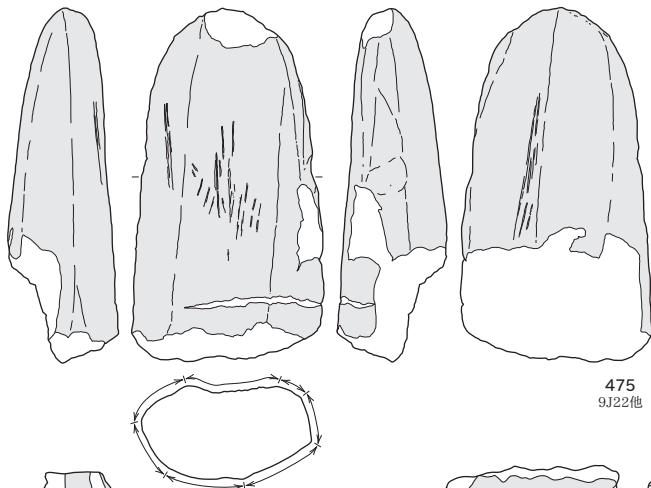
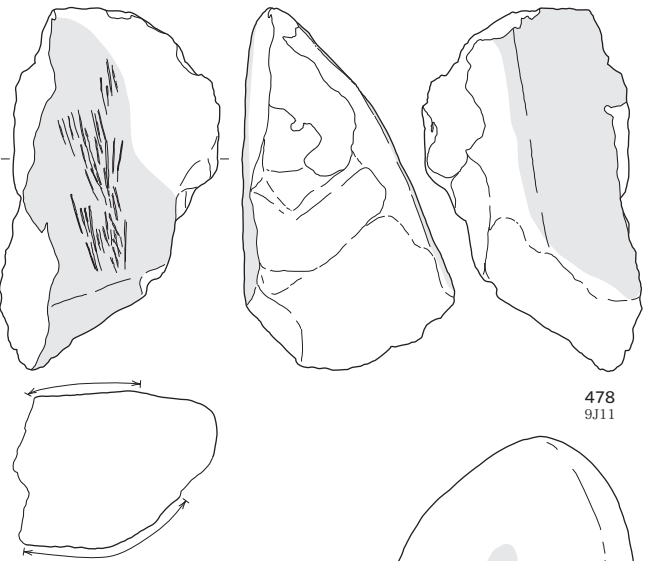
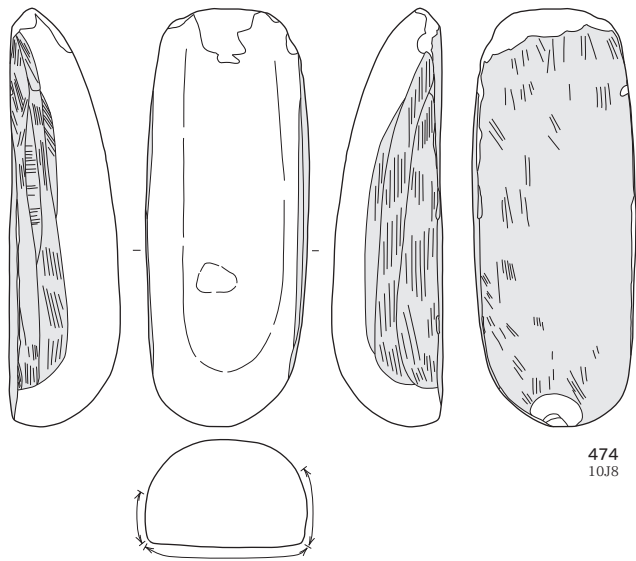


石器 (463~468)

石製品 (469~479)

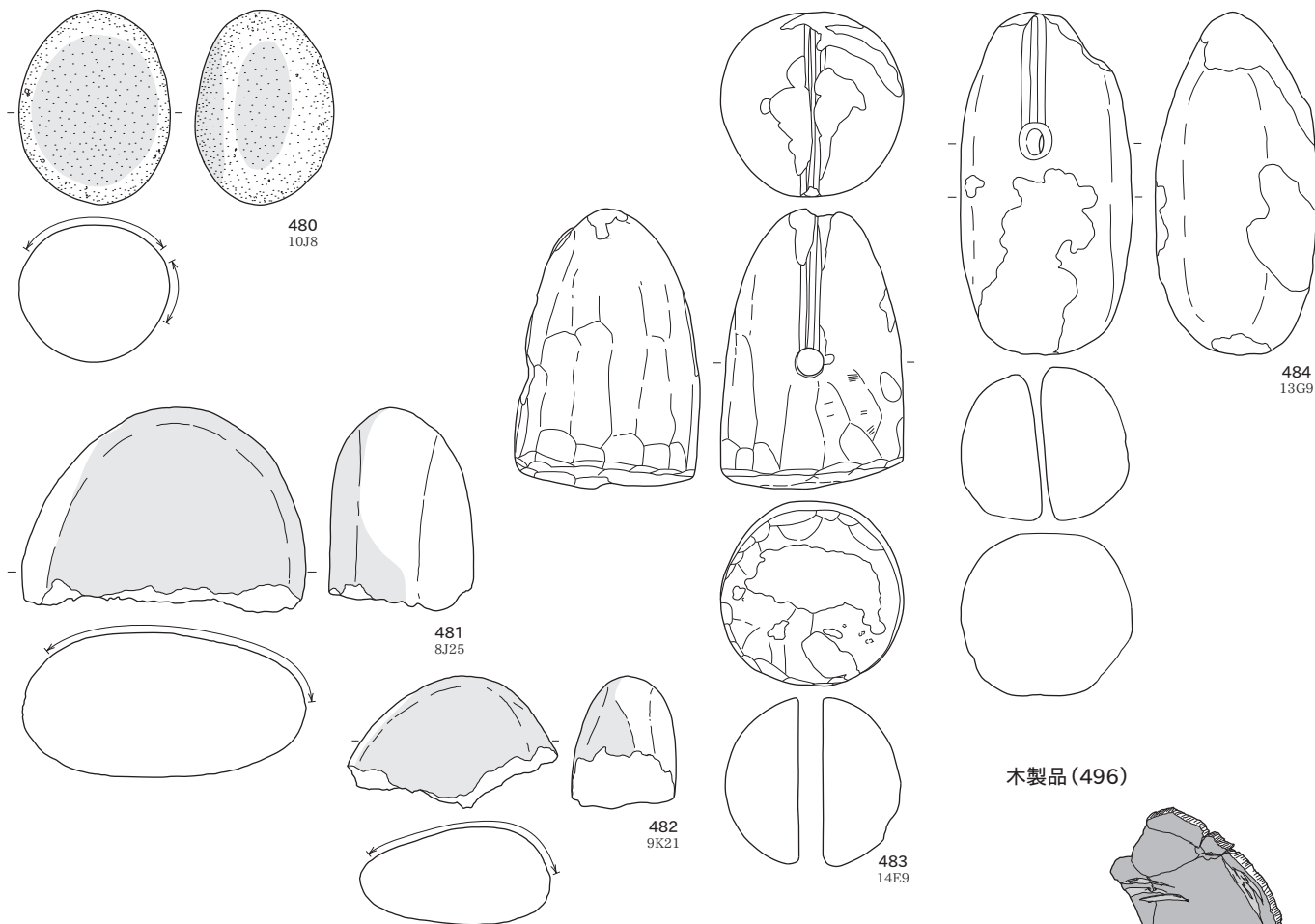


0 (463~473 2:3) 5cm

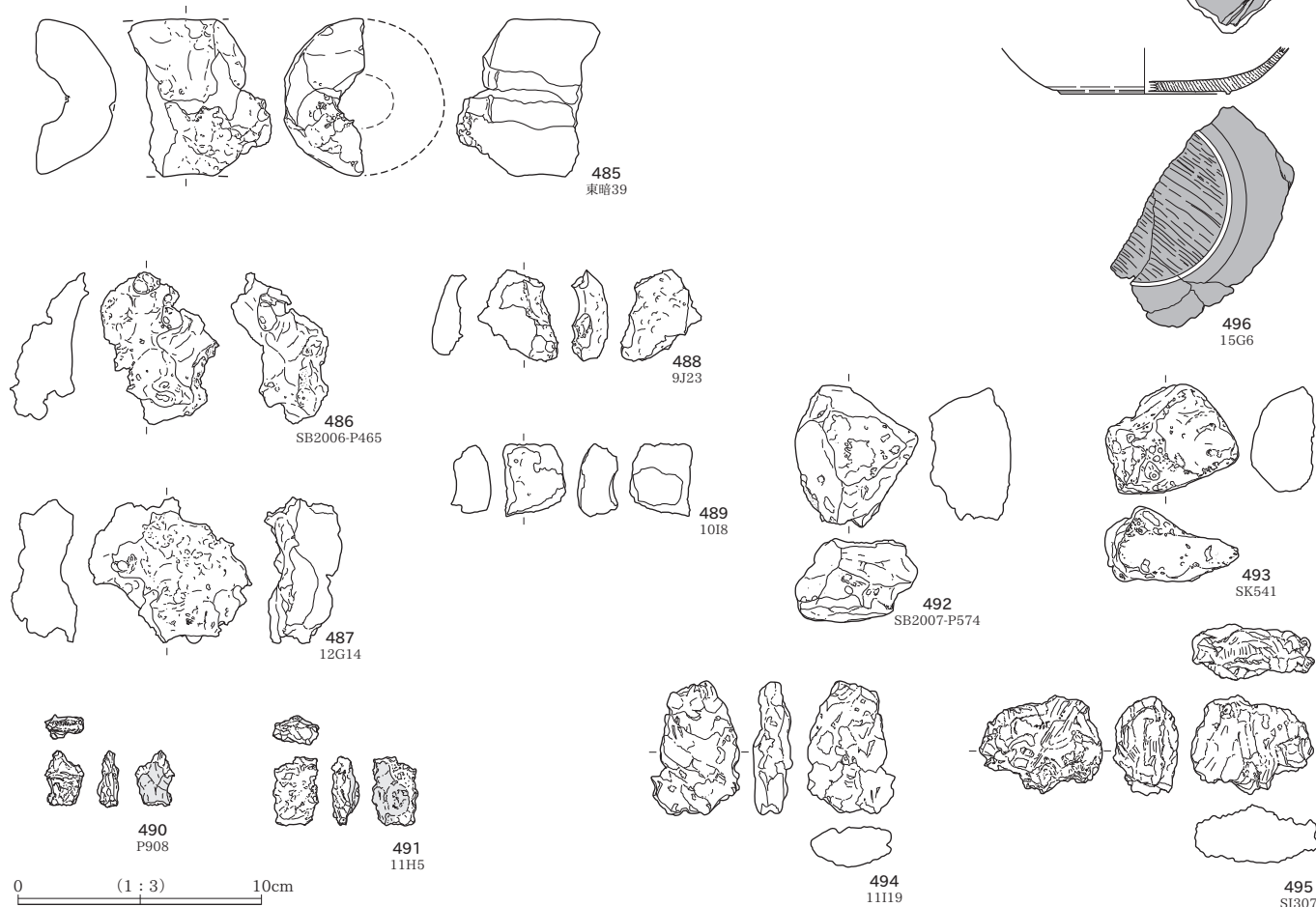


0 (474~479 1:3) 10cm

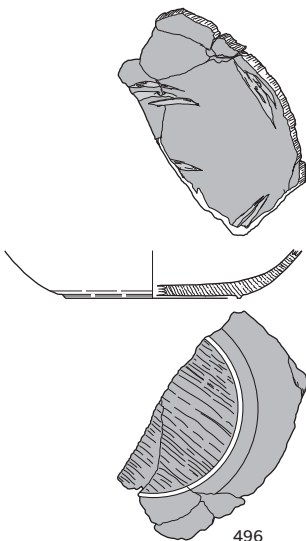
石製品 (480~484)



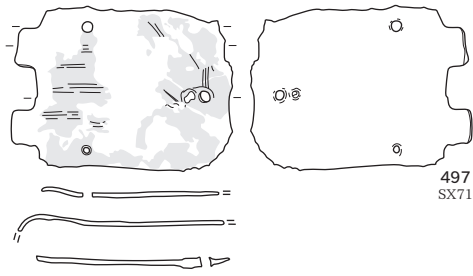
鍛冶関連遺物 (485~495)



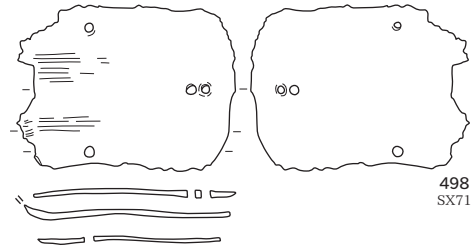
木製品 (496)



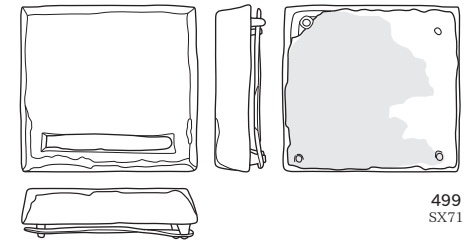
金属製品 (497~514)



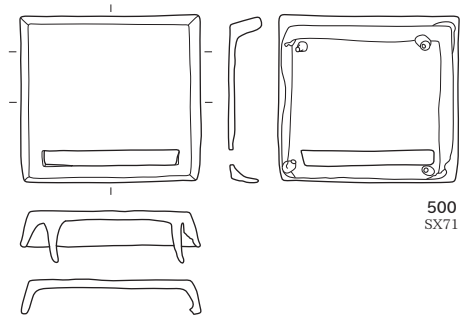
497  
SX71



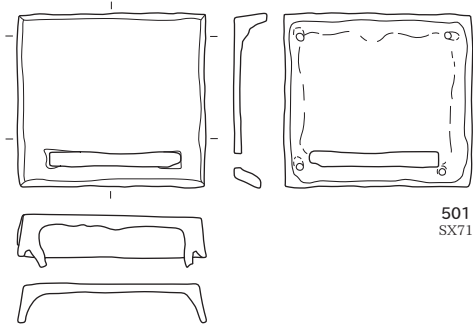
498  
SX71



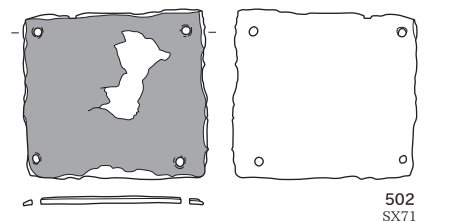
499  
SX71



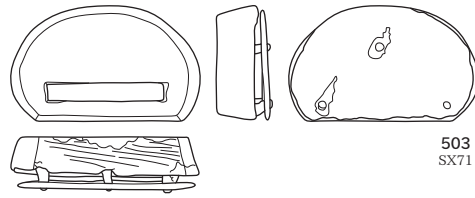
500  
SX71



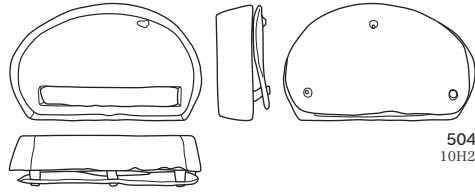
501  
SX71



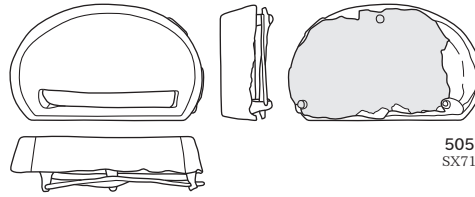
502  
SX71



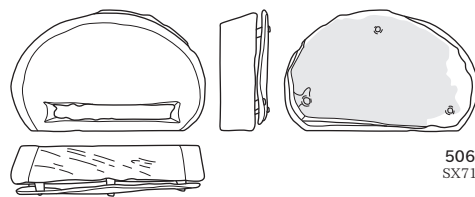
503  
SX71



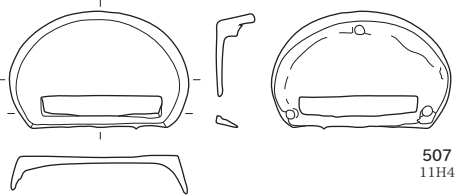
504  
10H24



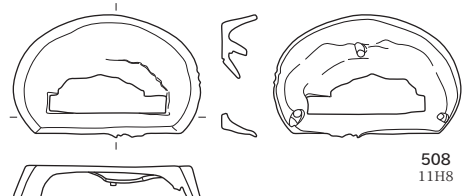
505  
SX71



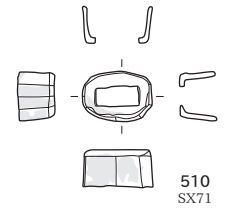
506  
SX71



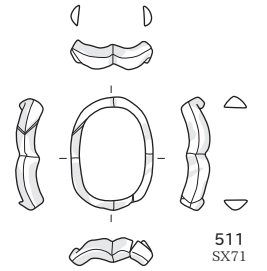
507  
11H4



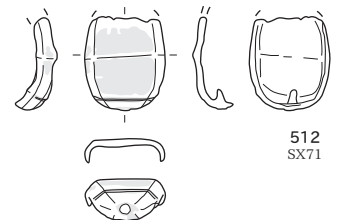
508  
11H8



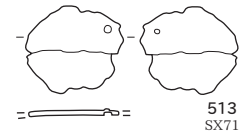
510  
SX71



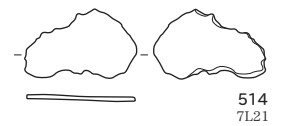
511  
SX71



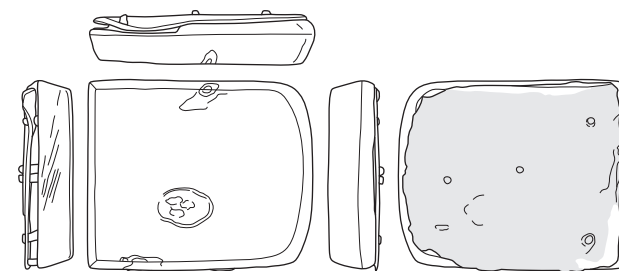
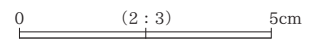
512  
SX71



513  
SX71



514  
7L21



509  
SX71





四十石遺跡周辺空中写真 1 米軍撮影 1948 年





四十石遺跡周辺空中写真 2 (北東から)



四十石遺跡周辺空中写真 3 (南から)



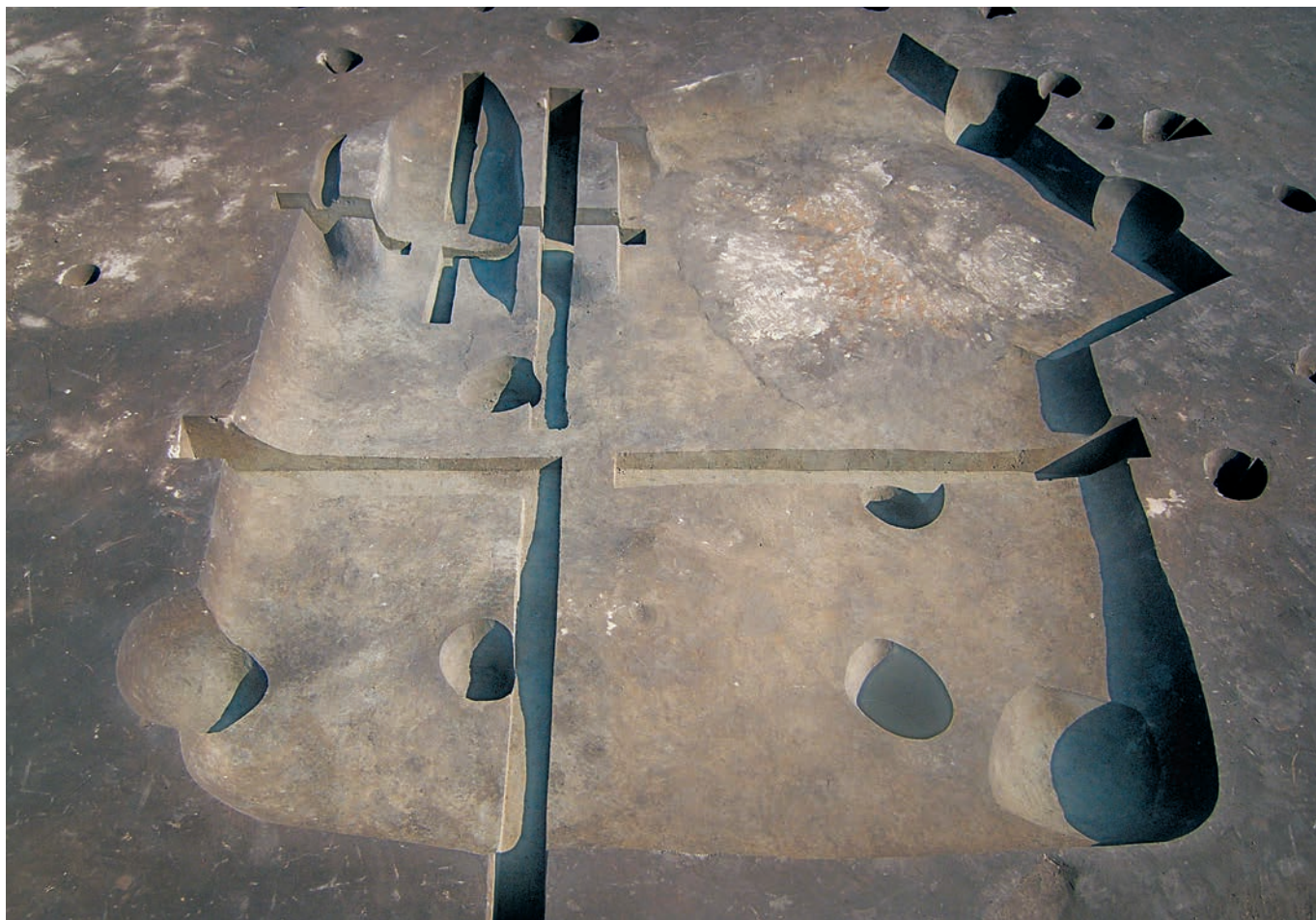


調査区全景（南から）



上層遺構 検出状況（北西から）





SI246 完掘状況（北西から）



SI307 完掘状況（西から）





SB2004・SB2005 完掘状況（北北東から）



SB2006 完掘状況（北北東から）





SX71 完掘状況（北から）



SX71 出土遺物





SB2001 完掘状況（北東から）



下層遺構 空中写真（南西から）





下層遺構 完掘状況 1 (北東から)



下層遺構 完掘状況 2 (南西から)





基本層序調査区南壁（東から）



基本層序 A（北西から）



基本層序 B（南西から）



基本層序 C（南東から）



基本層序 D（北東から）



基本層序 E（北東から）



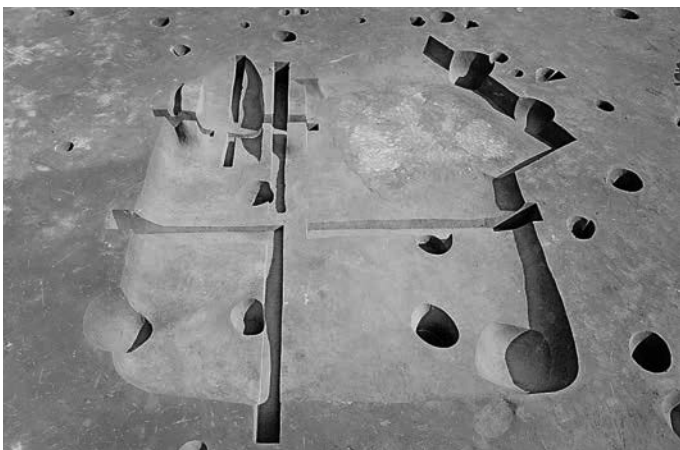
基本層序 F（北東から）



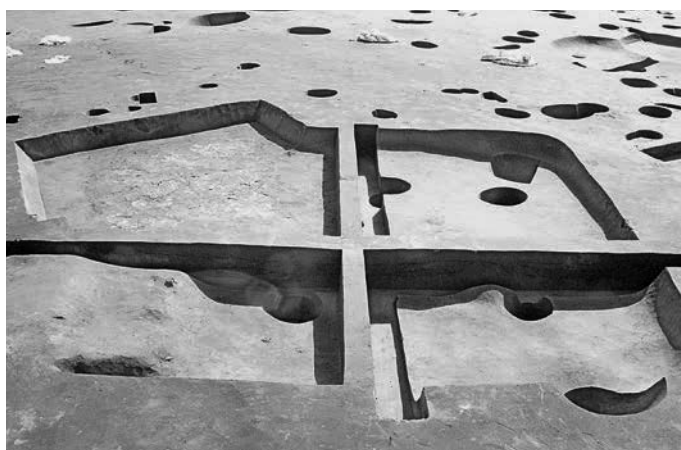
基本層序 G（西から）



SI246 プラン検出状況 (南東から)



SI246 完掘状況 (北西から)



SI246 土層断面 C-C' (北東から)



SI246 土層断面 D-D' (北西から)



SI246 カマド 土層断面 B-B' (北西から)



SI246 カマド 土層断面 A-A' (南西から)



SI246-P499 土層断面 (北東から)



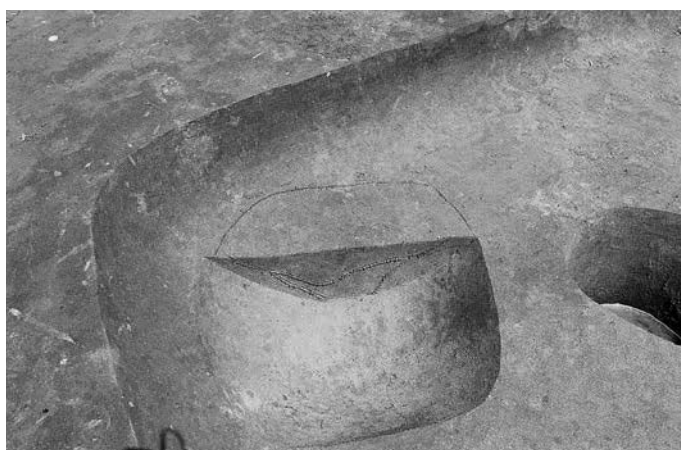
SI246-P499 完掘状況 (北東から)



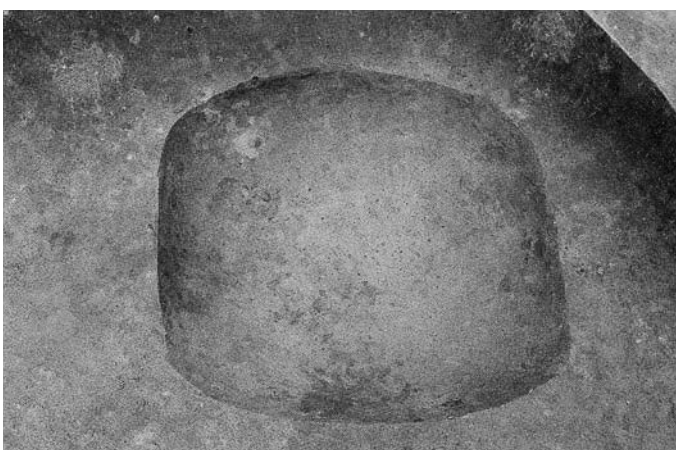
SI246-P548 土層断面 (北東から)



SI246-P548 完掘状況 (北東から)



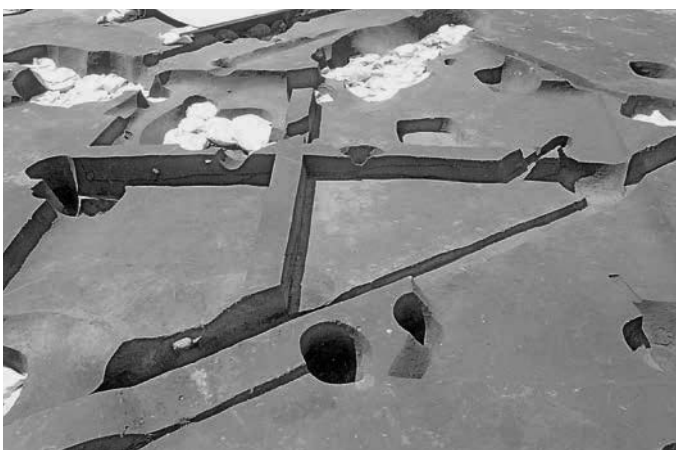
SI246-SK561 土層断面 (南から)



SI246-SK561 完掘状況 (南から)



SI307・SB2002・SB2003 完掘状況 (西から)



SI307 土層断面 D-D' (東から)



SI307 土層断面 C-C' (北から)



SI307-P828 土層断面 (北西から)





SI307 カマド A-A' 周辺遺物出土状況（南西から）



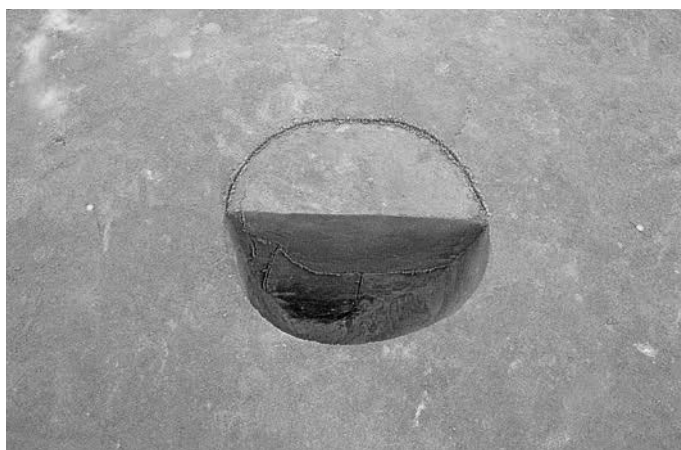
SI307 カマド A-A'（南西から）



SB2001 完掘状況（北東から）



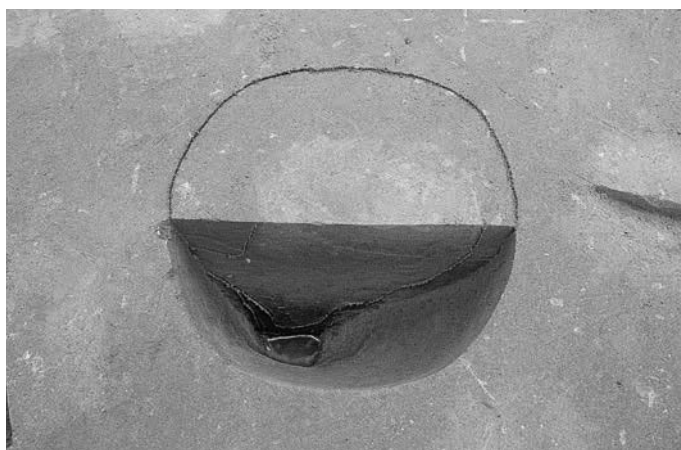
SB2001-P43 土層断面（北西から）



SB2001-P44 土層断面（北西から）



SB2001-P46 土層断面（北西から）

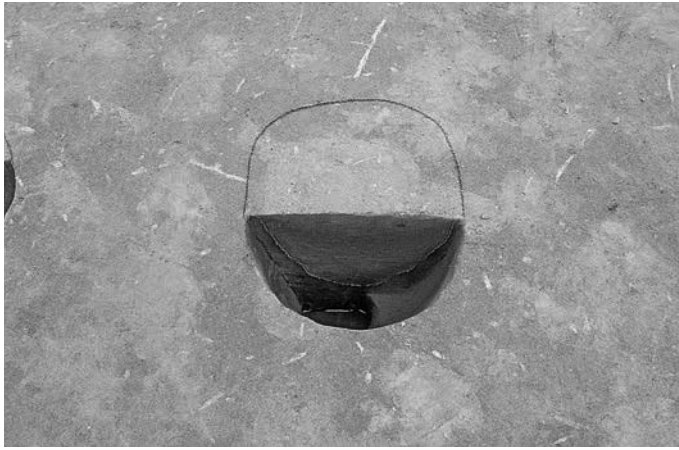


SB2001-P49 土層断面（北西から）



SB2001-P50 土層断面（北西から）

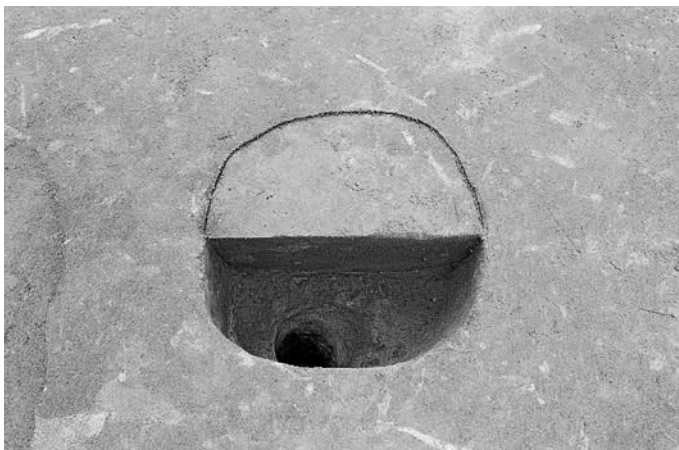




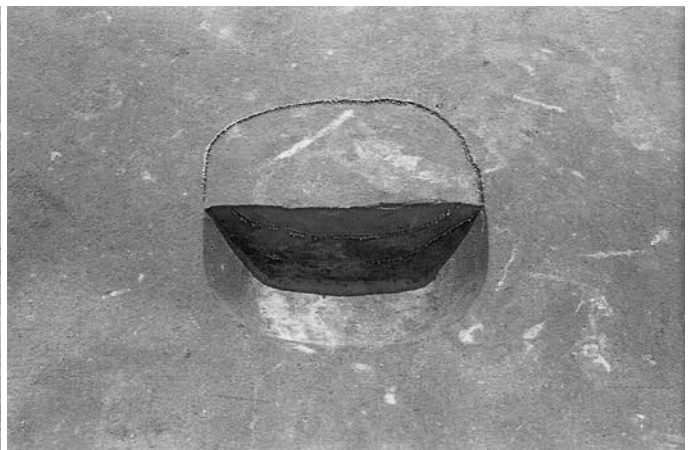
SB2001-P52 土層断面（北西から）



SB2001-P53 土層断面（北西から）



SB2001-P54 土層断面（北西から）



SB2001-P57 土層断面（北西から）



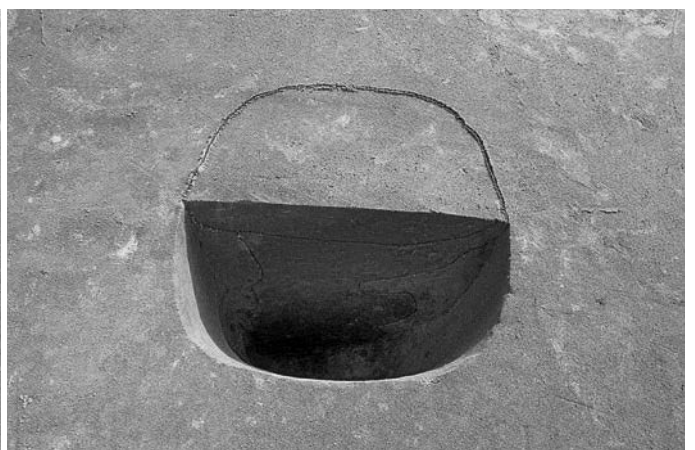
SB2002 完掘状況（北東から）



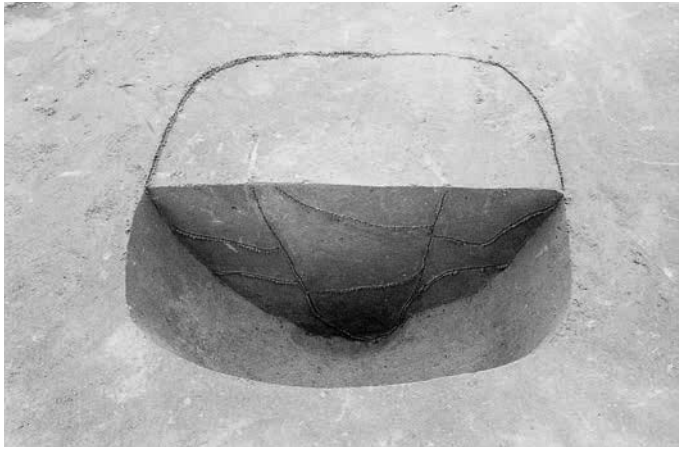
SB2002-P98 土層断面（北西から）



SB2002-P122 土層断面（北東から）



SB2002-P147 土層断面（北東から）



SB2002-P155 土層断面 (北東から)



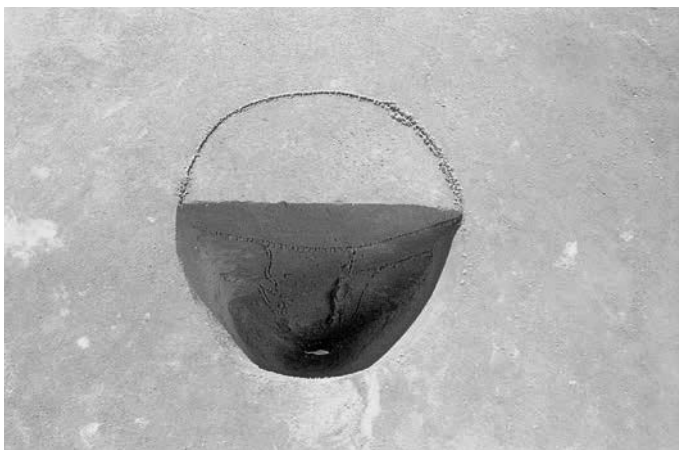
SB2002-P245 土層断面 (南西から)



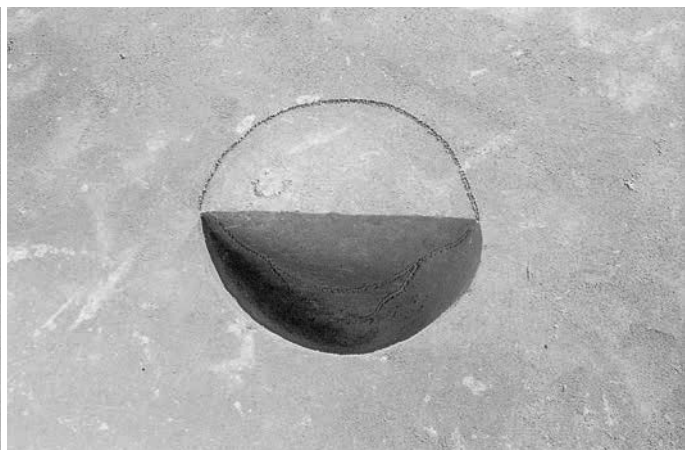
SB2002-P301 土層断面 (北から)



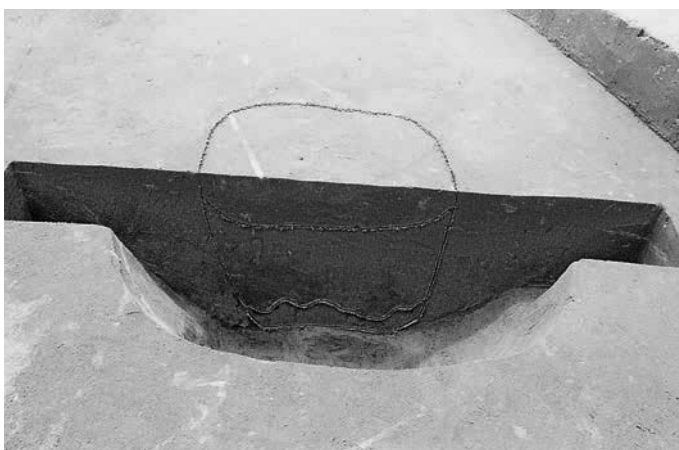
SB2002-P529 土層断面 (南東から)



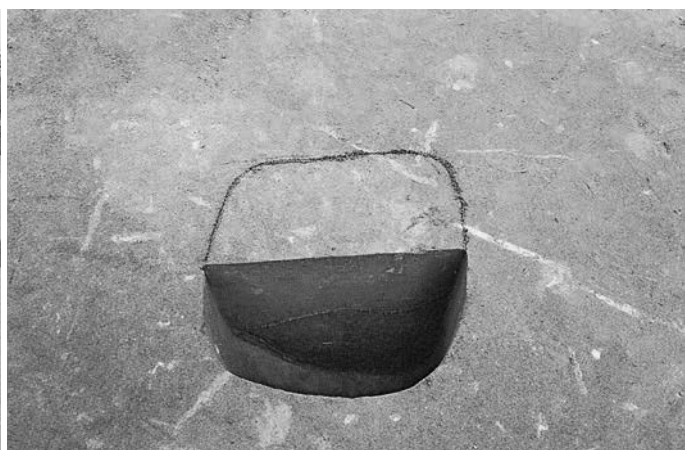
SB2002-P921 土層断面 (北から)



SB2002-P922 土層断面 (北から)



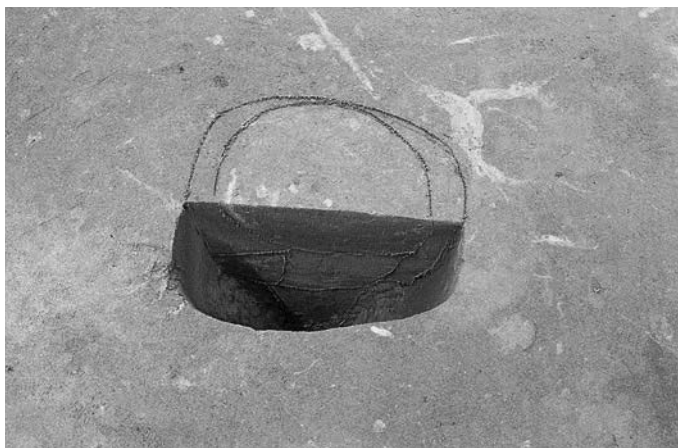
SB2003-P99 土層断面 (北西から)



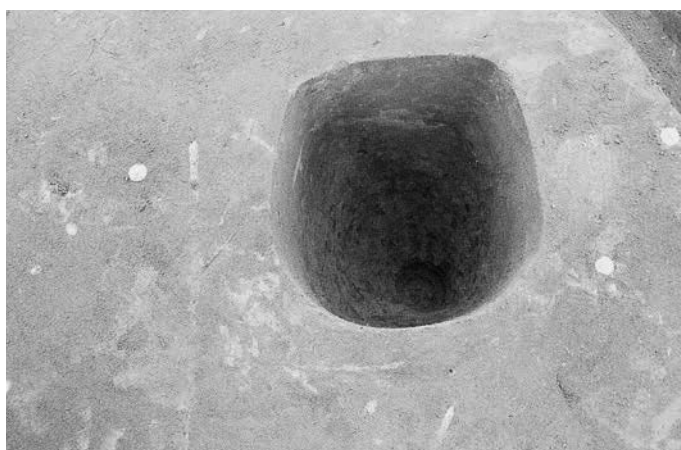
SB2003-P113 土層断面 (南東から)



SB2003-P119 土層断面 (南東から)



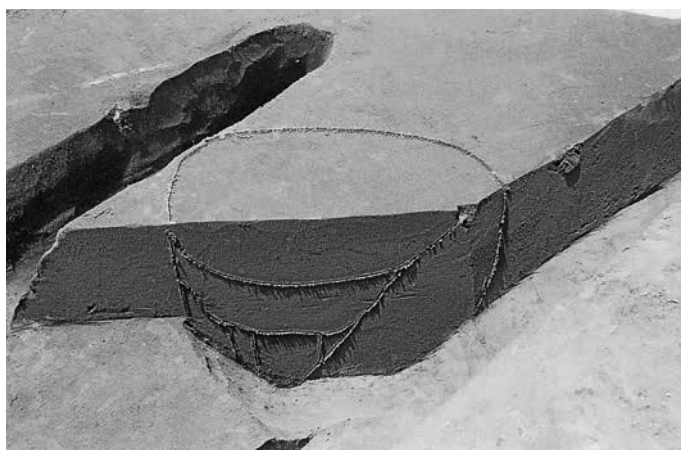
SB2003-P123 土層断面 (南東から)



SB2003-P128 完掘状況 (南東から)



SB2003-P130 土層断面 (南東から)



SB2003-P310 土層断面 (南東から)



SB2003-P524 土層断面 (北から)

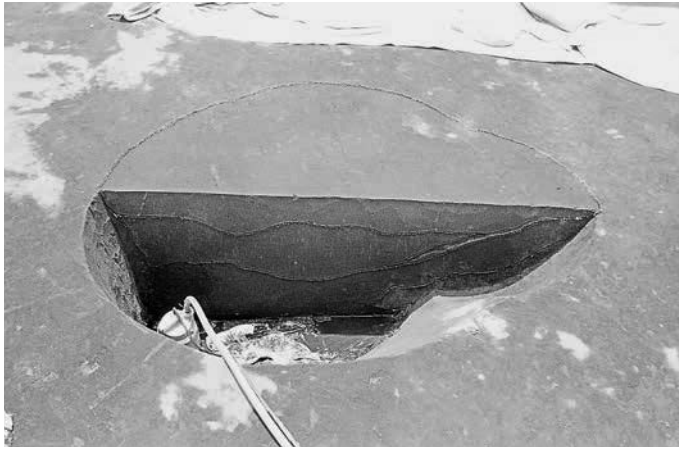


SB2004・SB2005・SB2006 完掘状況 (東から)

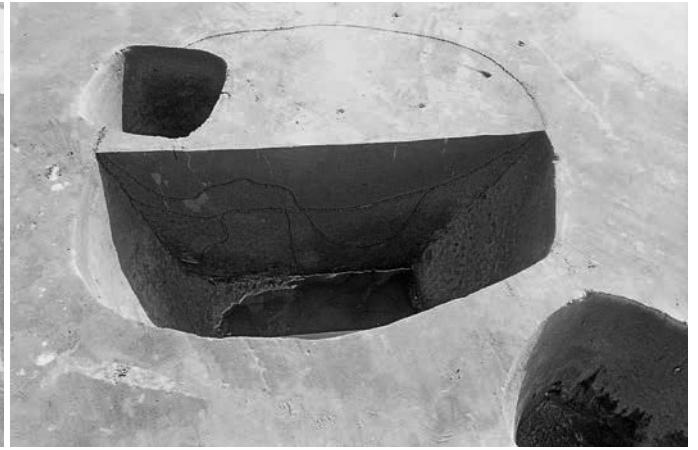


SB2005・SB2006 完掘状況 (北から)





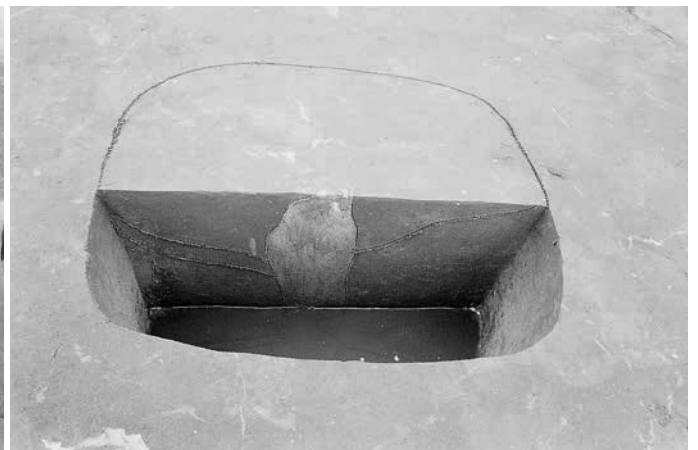
SB2004-P309 土層断面 (北東から)



SB2005-P834 土層断面 (北から)



SB2005-P835 土層断面 (北から)



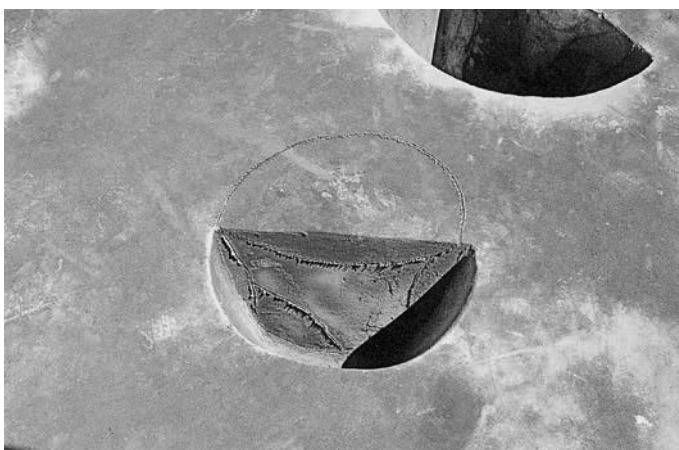
SB2006-P833 土層断面 (北から)



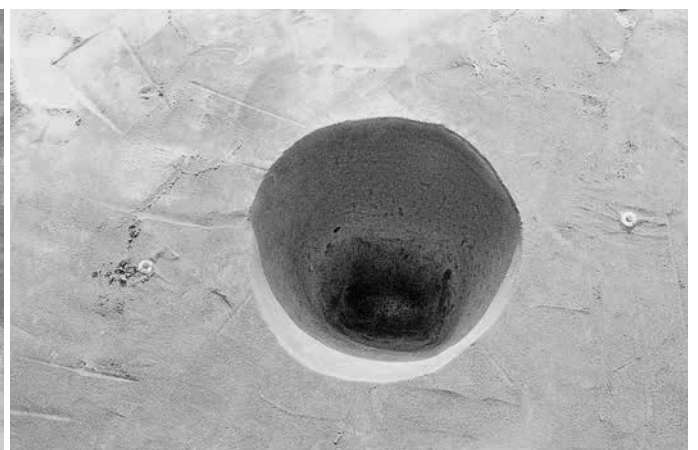
SB2007-P574 土層断面 (北西から)



SB2007-P574 完掘状況 (北西から)

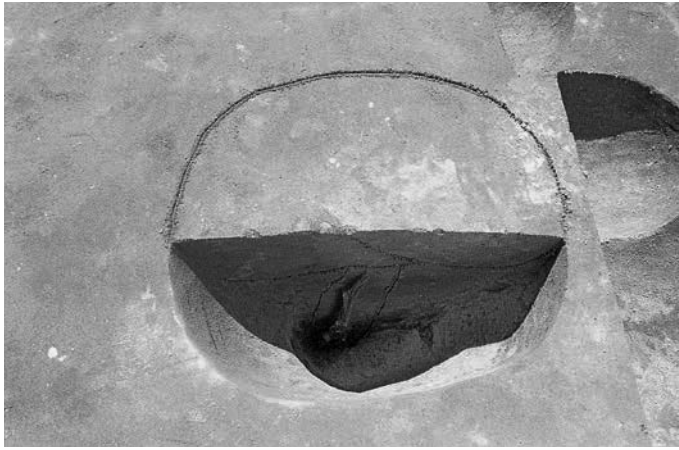


SB2007-P583 土層断面 (西から)



SB2007-P583 完掘状況 (西から)

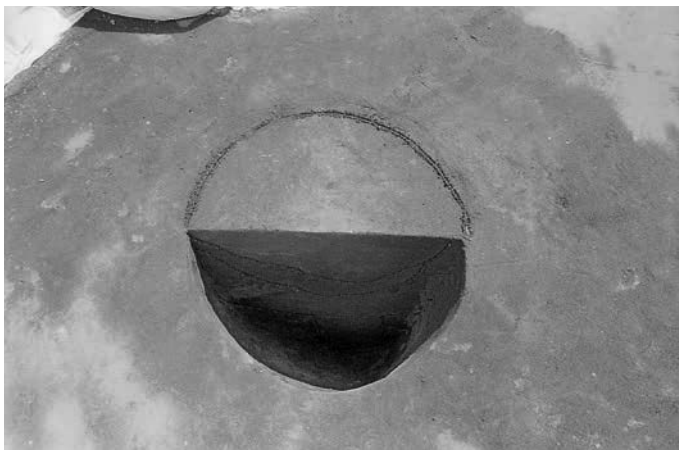




SB2007-P651 土層断面 (北東から)



SB2007-P651 完掘状況 (北東から)



SB2007-P652 土層断面 (北から)



SB2007-P652 完掘状況 (北から)



SB2008-P95 土層断面 (東から)



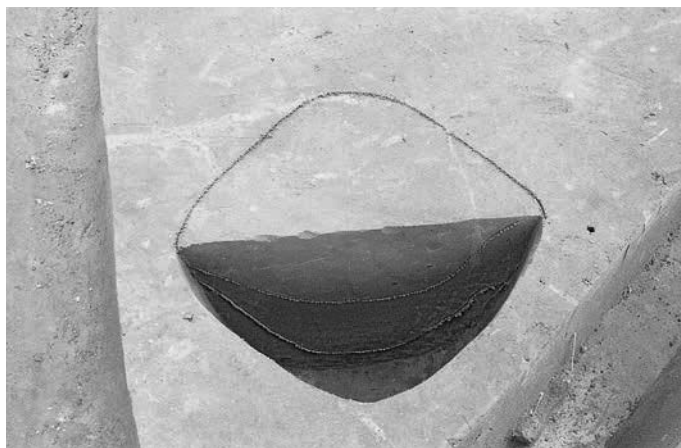
SB2008-P95 完掘状況 (東から)



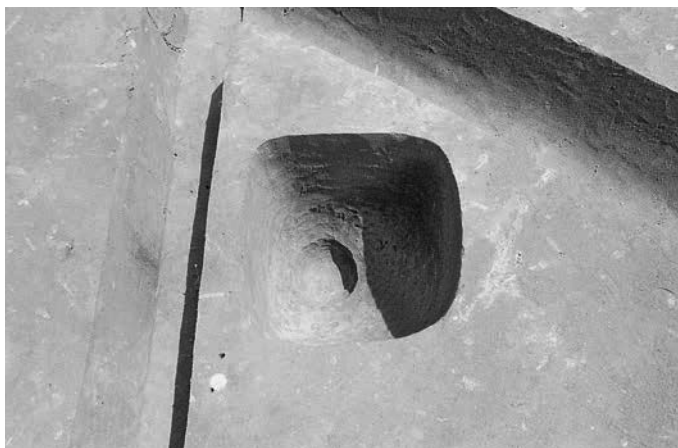
SB2008-P96 土層断面 (北から)



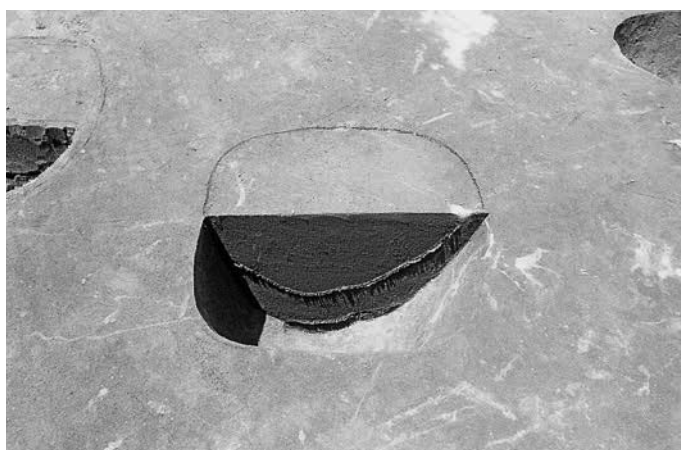
SB2008-P96 完掘状況 (北から)



SB2009-P163 土層断面（北から）



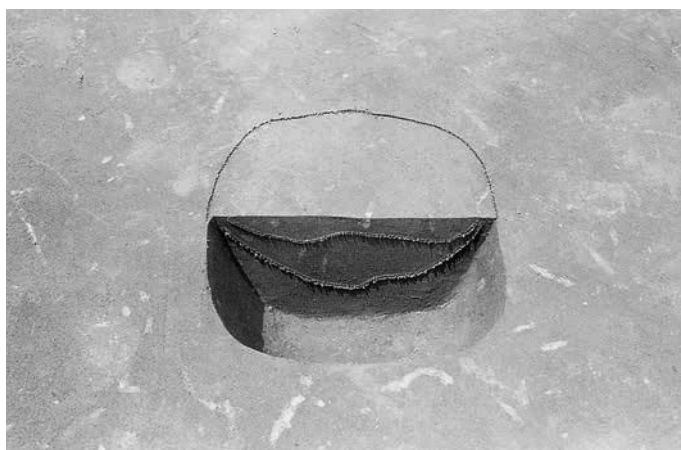
SB2009-P163 完掘状況（南西から）



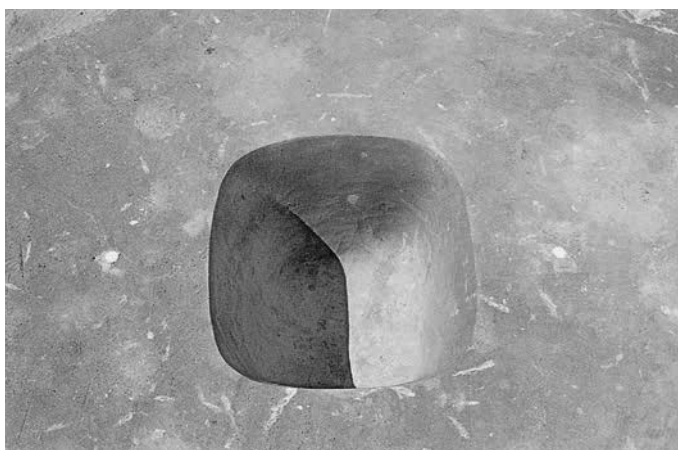
SB2009-P202 土層断面（北東から）



SB2009-P202 完掘状況（北東から）



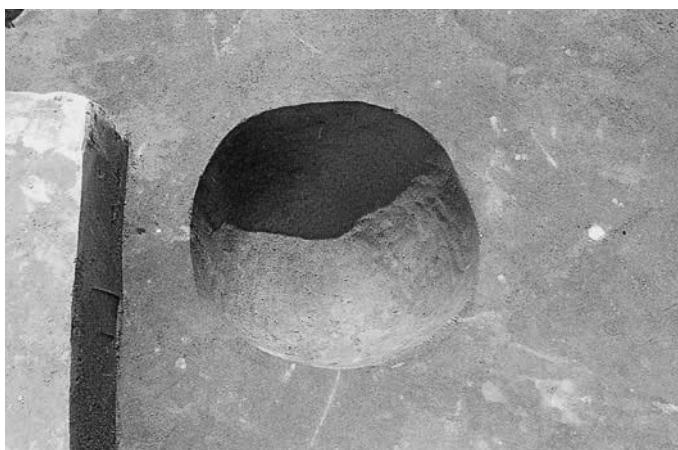
SB2009-P232 土層断面（北東から）



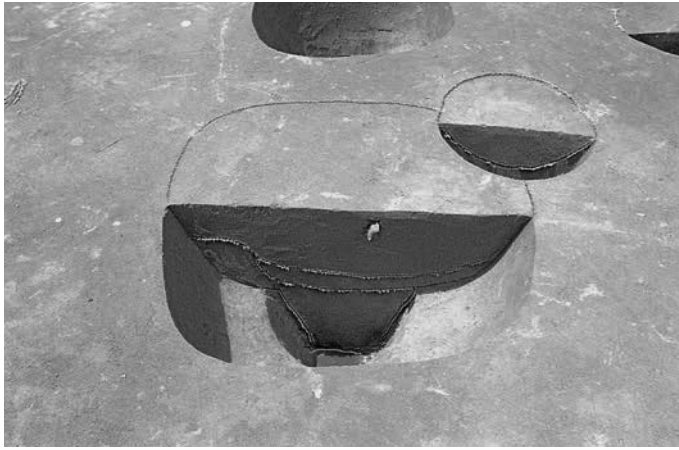
SB2009-P232 完掘状況（北東から）



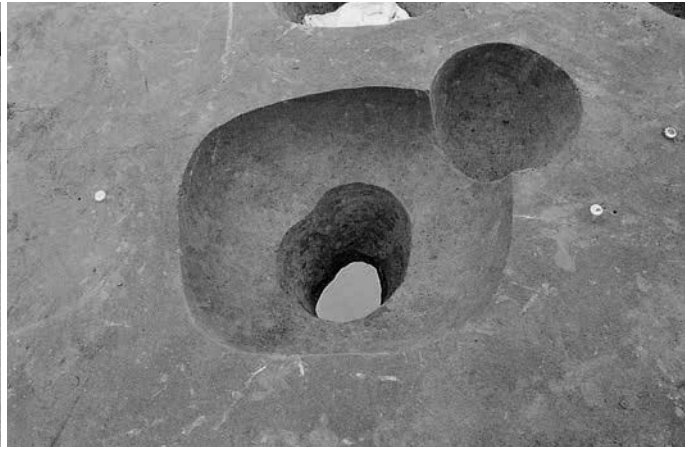
SB2009-P323 土層断面（南東から）



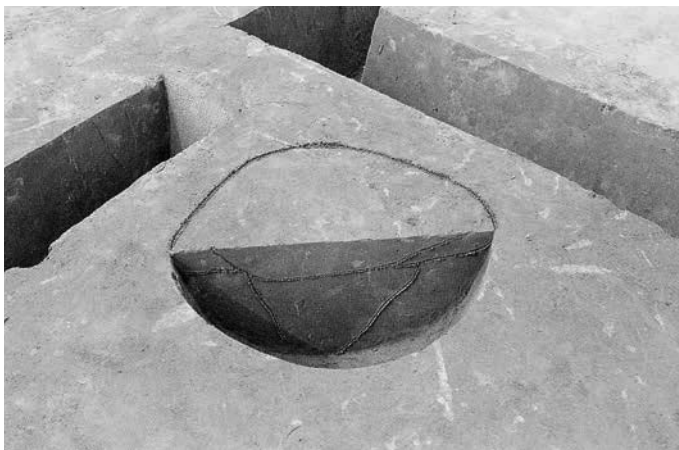
SB2009-P323 完掘状況（北西から）



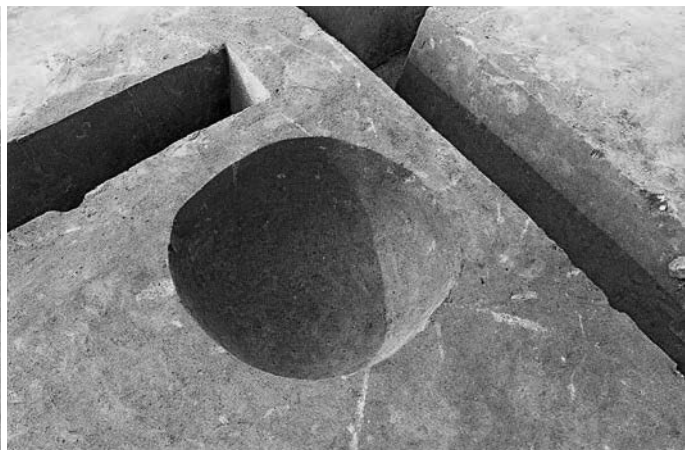
SB2009-P392 土層断面 (北東から)



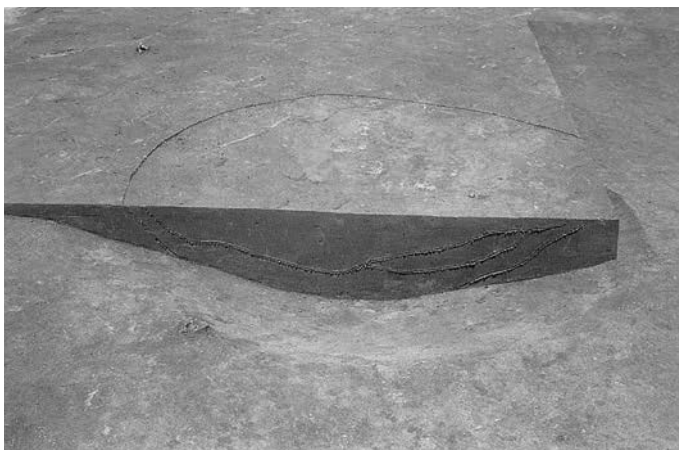
SB2009-P392 完掘状況 (北東から)



SB2009-P528 土層断面 (南から)



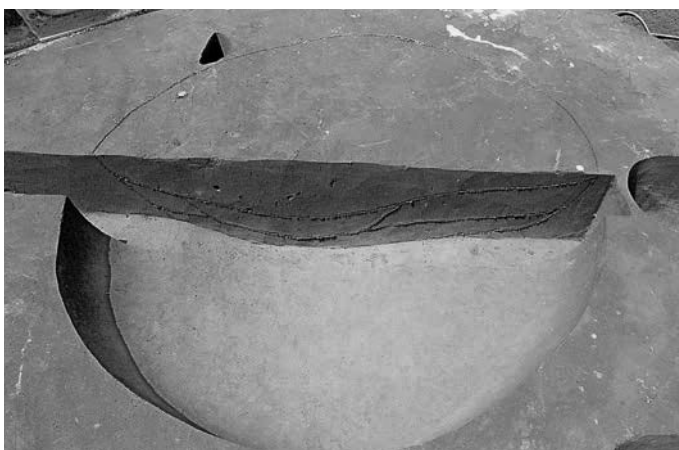
SB2009-P528 完掘状況 (南から)



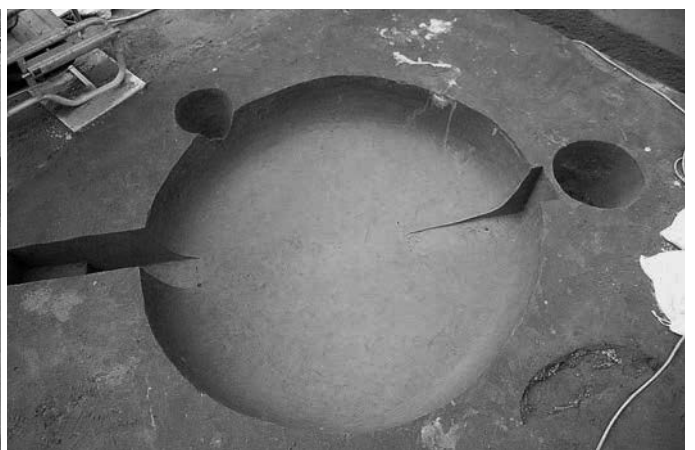
SK203 土層断面 (北西から)



SK203 完掘状況 (南東から)



SK336 土層断面 (南から)



SK336 完掘状況 (南から)

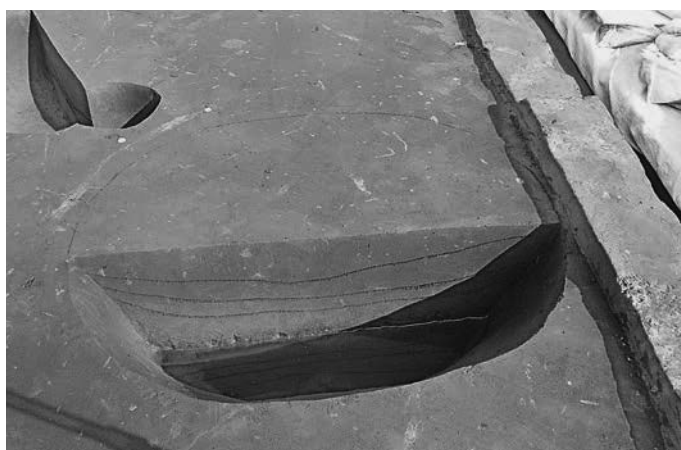




SK399 土層断面 (東から)



SK399 完掘状況 (東から)



SK441 土層断面 (北西から)



SK441 完掘状況 (北西から)



SK481 土層断面 (北西から)



SK481 完掘状況 (北西から)



SK564 土層断面 (北西から)



SK564 完掘状況 (北西から)





SK596・SK597 土層断面（東から）



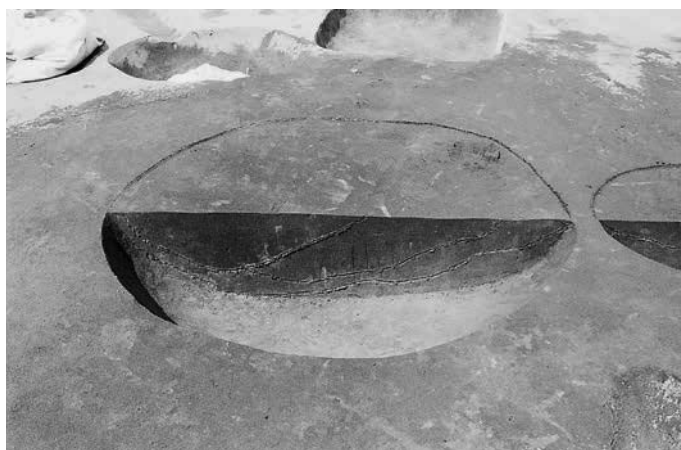
SK596・SK597 完掘状況（東から）



SK641 土層断面（北西から）



SK641 完掘状況（東から）



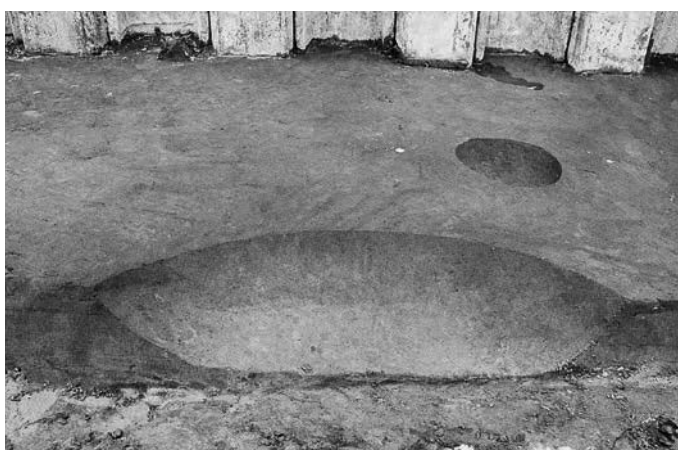
SK650 土層断面（南東から）



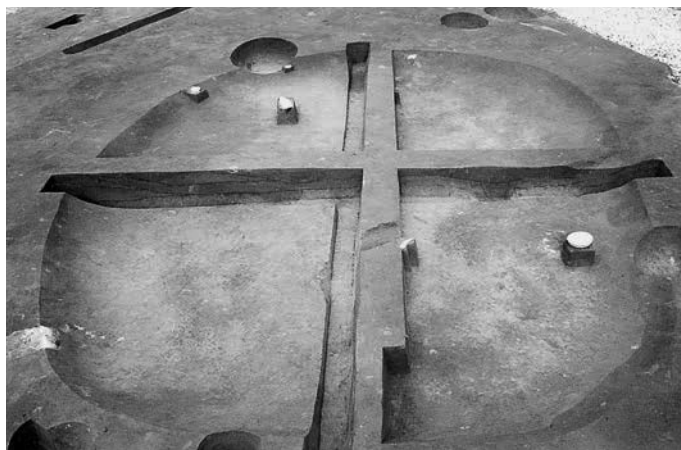
SK650 完掘状況（南東から）



SK815 土層断面（北東から）



SK815 完掘状況（北東から）



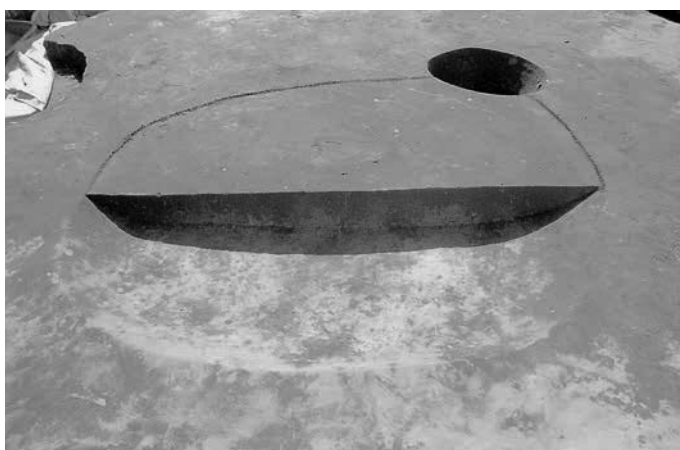
SK825 土層断面 B-B' (南から)



SK825 土層断面 A-A' (北から)



SK825 完掘状況 (南から)



SK919 土層断面 (北から)



SK912 土層断面 (西から)



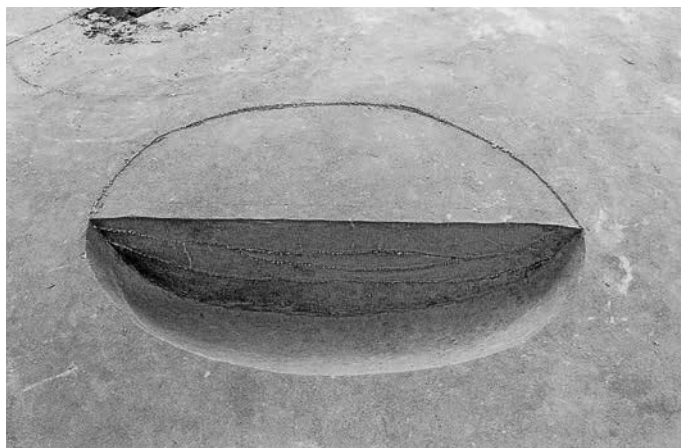
SK912 完掘状況 (西から)



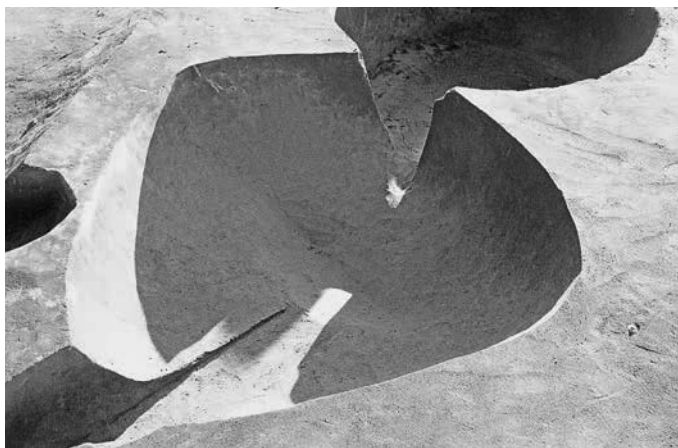
SK923 土層断面 (北西から)



SK923 完掘状況 (北西から)



SK935 土層断面 (上方) (東から)



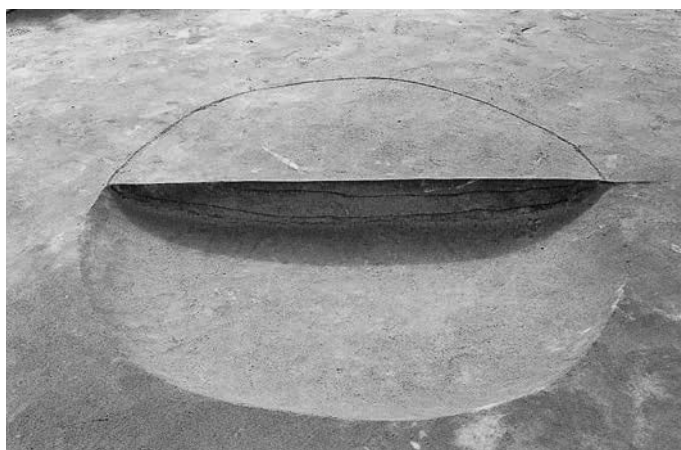
SK935 完掘状況 (東から)



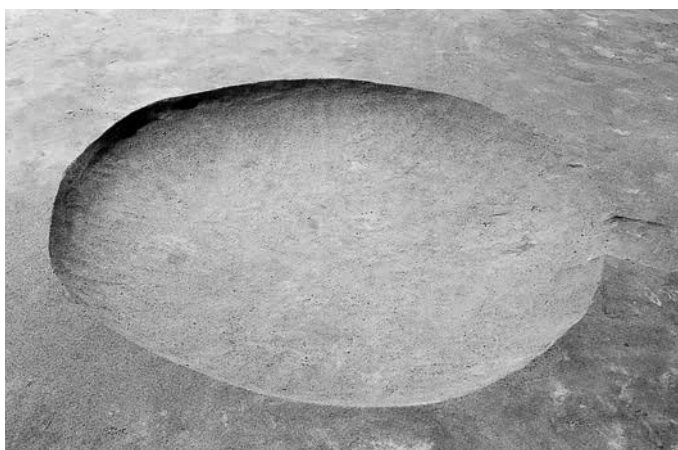
SK939 土層断面 (北東から)



SK939 完掘状況 (北東から)



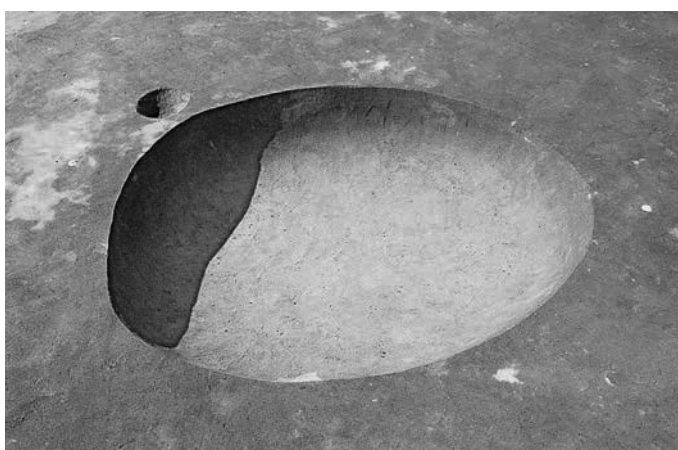
SK947 土層断面 (北東から)



SK947 完掘状況 (北東から)

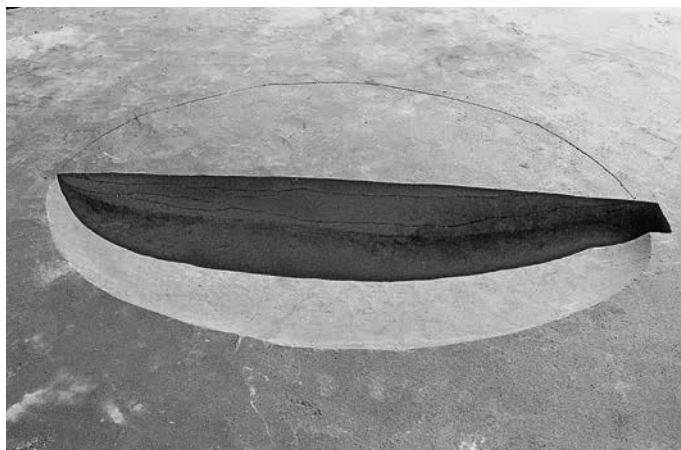


SK948 土層断面 (北東から)

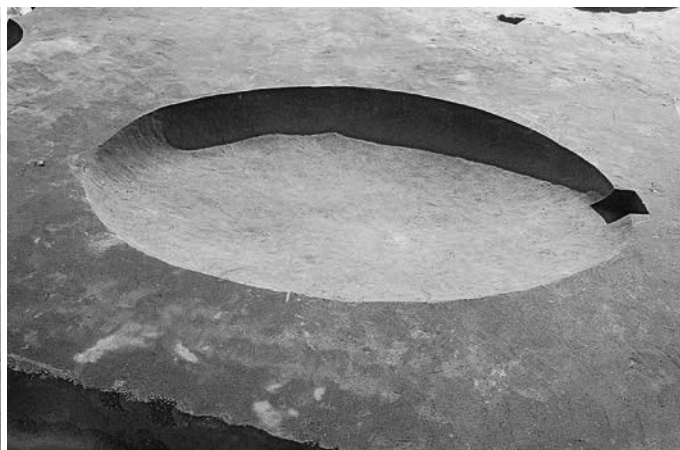


SK948 完掘状況 (北東から)





SK950 土層断面 (北から)



SK950 完掘状況 (北から)



SK1006 土層断面 (西から)



SK1006 完掘状況 (西から)



SK1023 土層断面 (北東から)



SK1023 完掘状況 (西から)



SD61・SD62・SD63・SD70・SD106 完掘状況 (北西から)



SD61・P65 土層断面 D-D' (北西から)





SD62 土層断面 C-C' (北西から)



SD63・P81 土層断面 E-E' (北西から)



SD70 土層断面 A-A' (南西から)



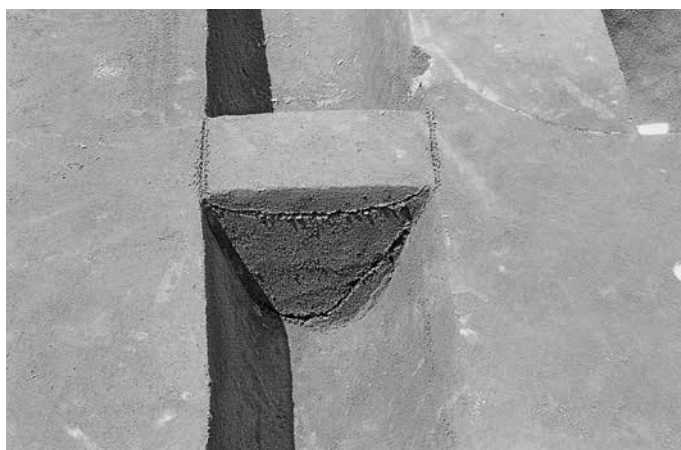
SD106 土層断面 B-B' (南東から)



SD64 土層断面 (北から)



SD64 完掘状況 (北から)



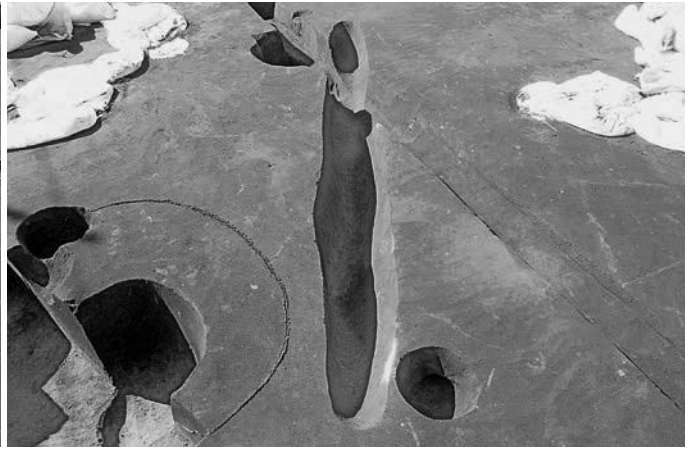
SD493 土層断面 A-A' (東から)



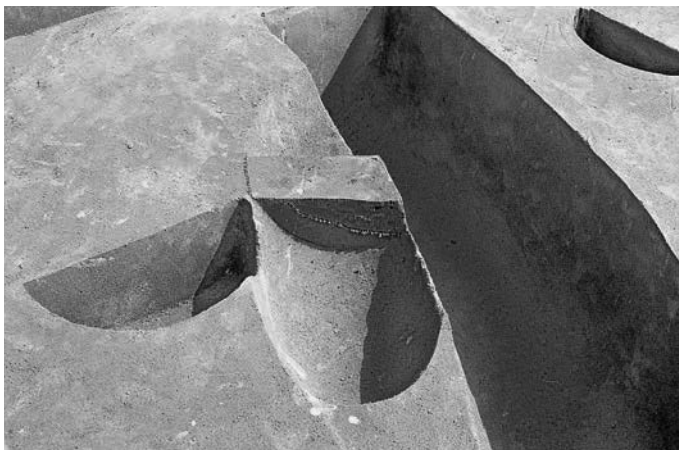
SD493 土層断面 B-B' (東から)



SD493 完掘状況（東から）



SD1009 完掘状況（西から）



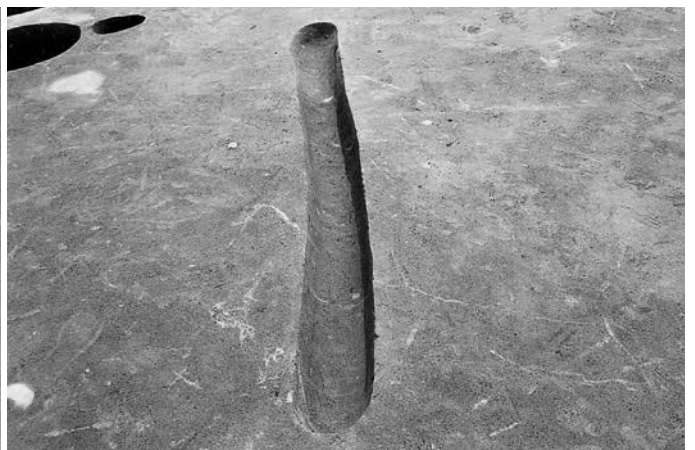
SD538 土層断面（北から）



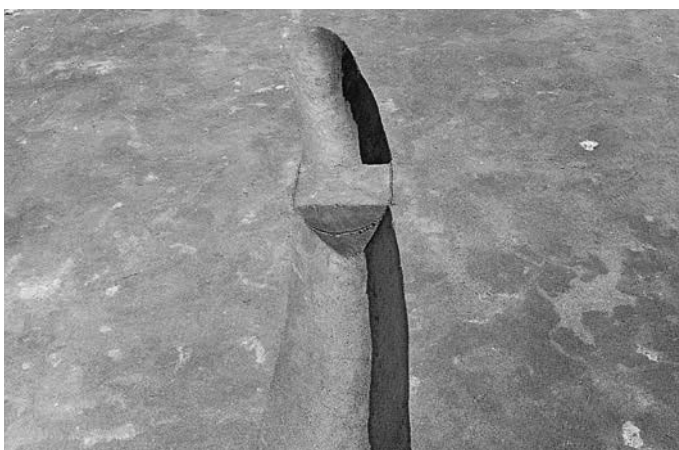
SD538 完掘状況（北から）



SD539 土層断面（北東から）



SD539 完掘状況（北東から）



SD747 土層断面（西から）

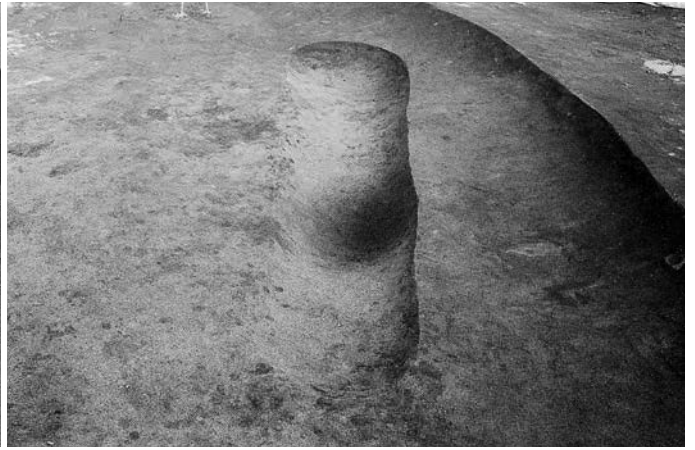


SD747 完掘状況（西から）





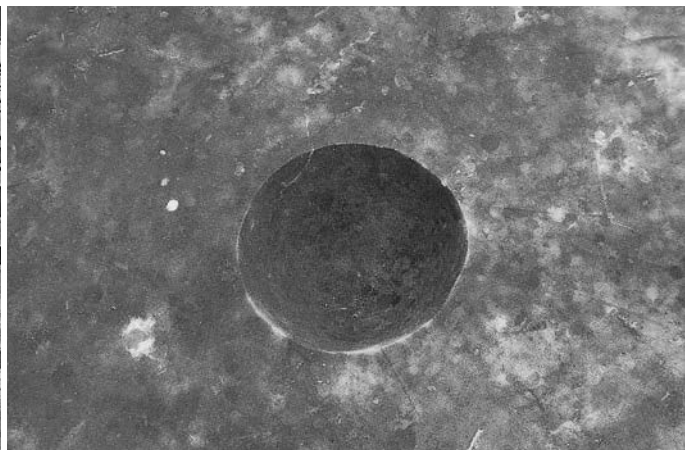
SD962 土層断面 (西から)



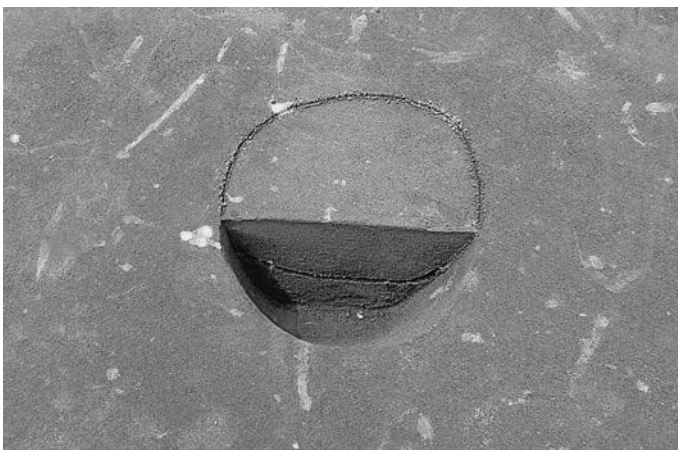
SD962 完掘状況 (西から)



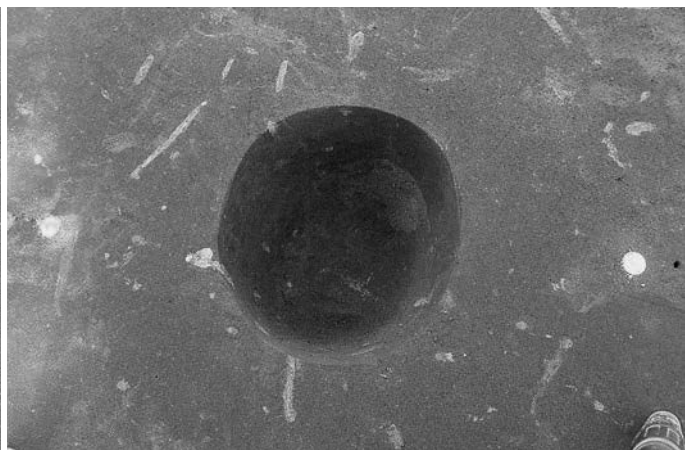
SA3001 完掘状況 (北東から)



SA3001-P388 完掘状況 (北から)



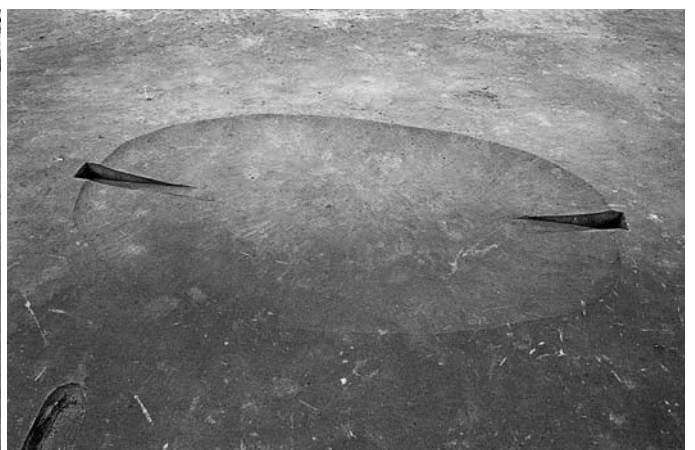
SA3001-P516 土層断面 (北から)



SA3001-P516 完掘状況 (北から)



SX59 土層断面 (南から)



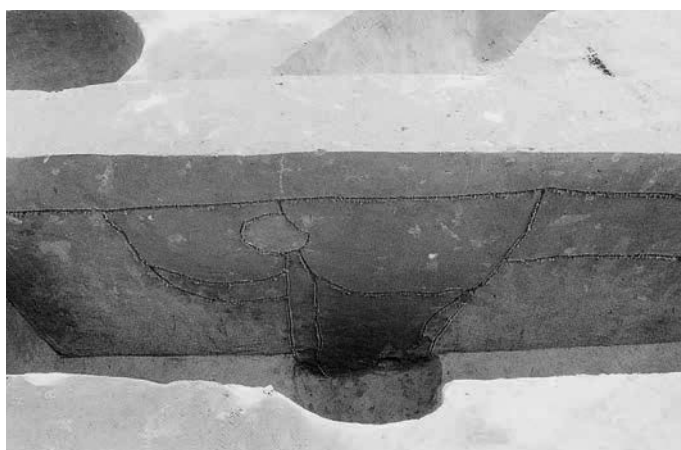
SX59 完掘状況 (南から)



SX71 完掘状況 (東から)



SX71 土層断面 A-A' (南東から)



SX71・P643 土層断面 B-B' (北東から)



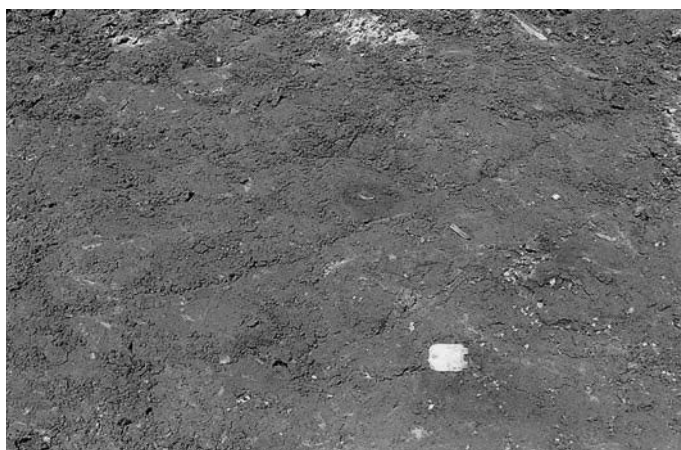
SX71 土層断面 C-C' (南東から)



SX71 土層断面 D-D' (北東から)



SX71 遺物出土状況 (北から)



SX71 遺物出土状況 (北から)



SX71 遺物出土状況 (南東から)

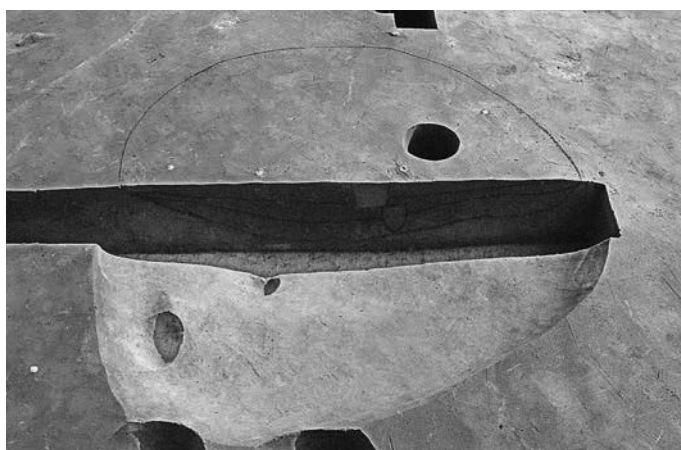




SX100 土層断面 (南西から)



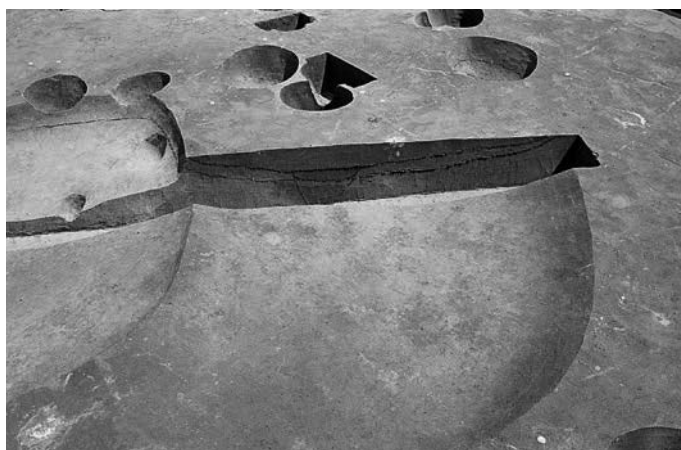
SX100 遺物出土状況 (南西から)



SX478 土層断面 (南西から)



SX478 完掘状況 (南西から)



SX541・P560 土層断面 (南西から)



SX541・P560 完掘状況 (南西から)



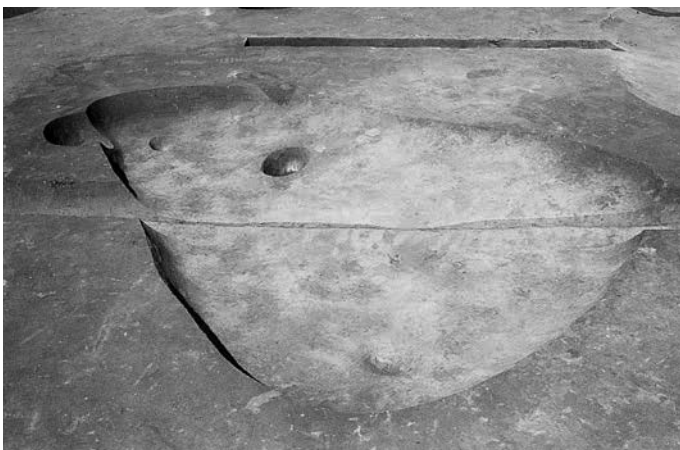
SX573 土層断面 (南西から)



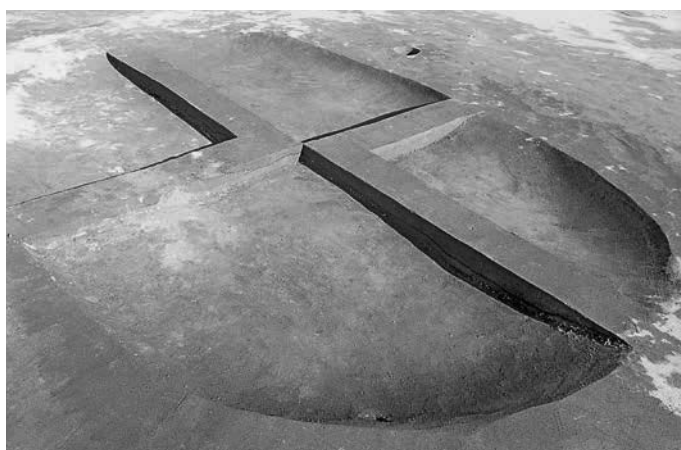
SX573 完掘状況 (南西から)



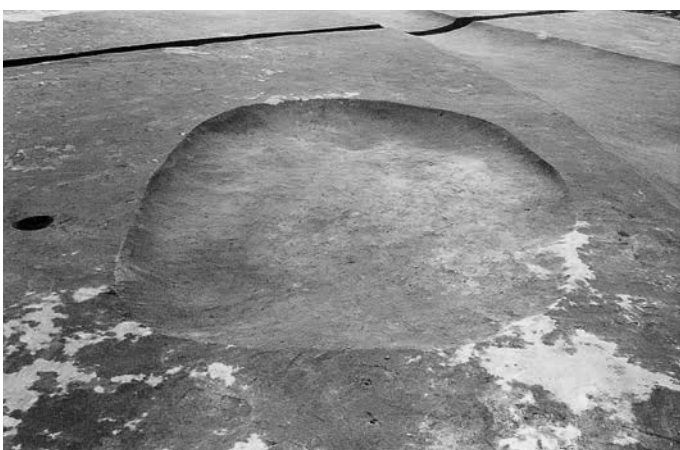
SX605 土層断面 (南から)



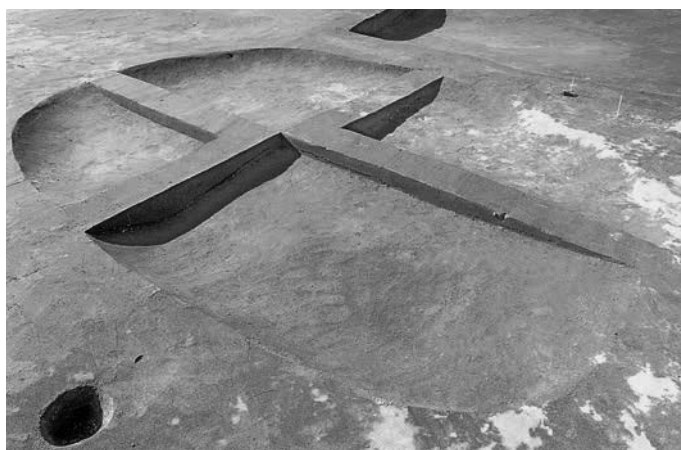
SX605 完掘状況 (南から)



SX867 土層断面 (南から)



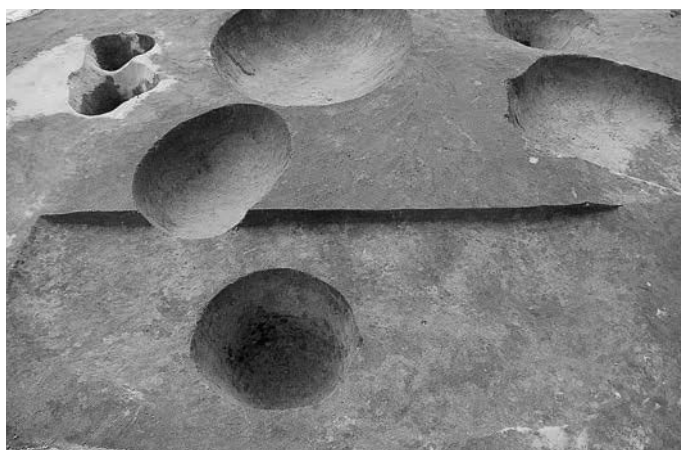
SX867 完掘状況 (東から)



SX867 土層断面 (北から)



SX867 完掘状況 (東から)

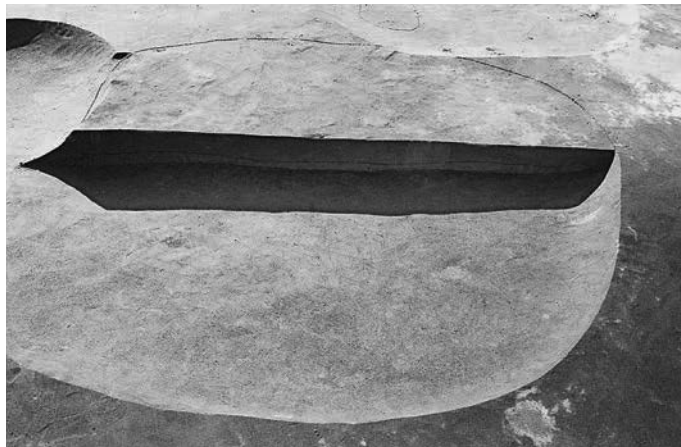


SX926 土層断面 (北東から)

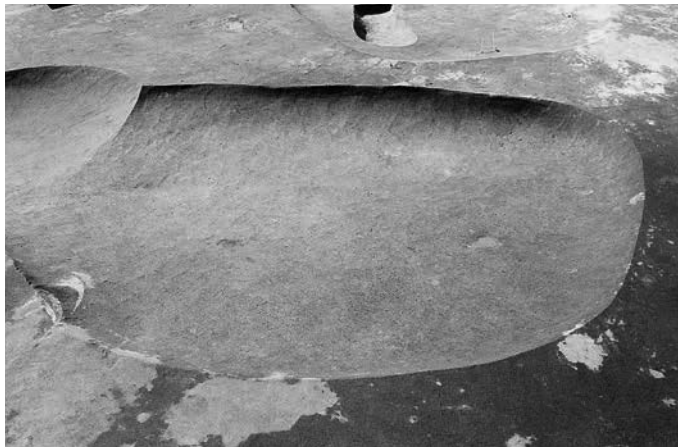


SX926 完掘状況 (北東から)

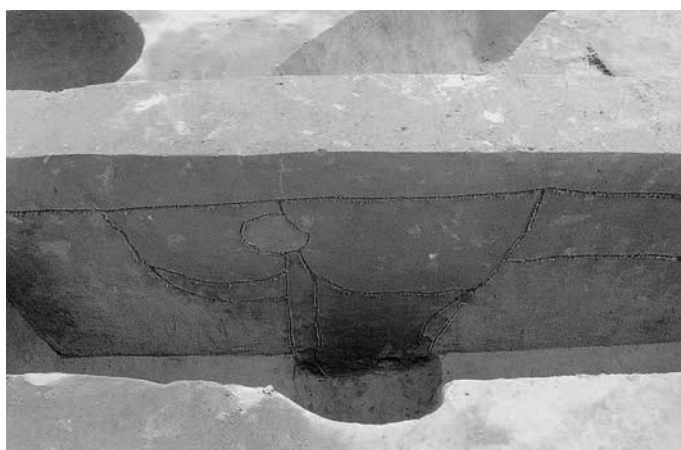




SX961 土層断面 (東から)



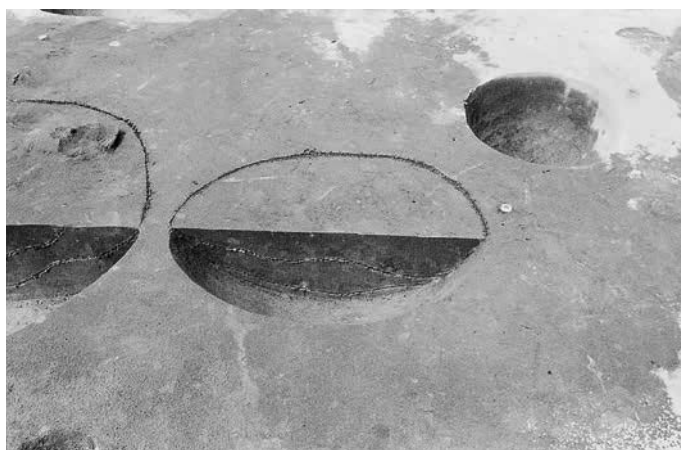
SX961 完掘状況 (東から)



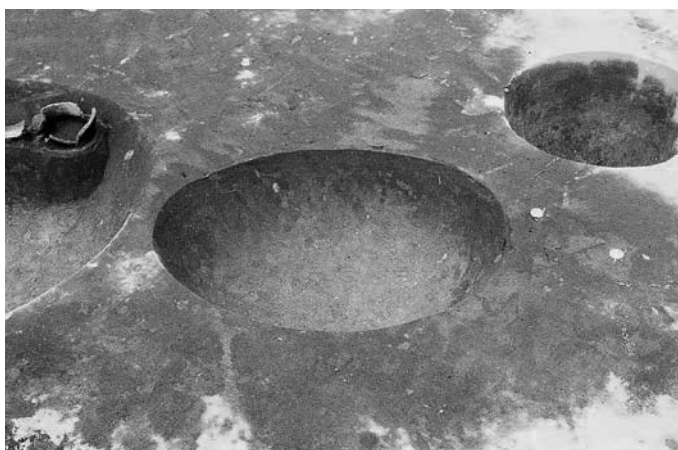
SX71 · P643 土層断面 B-B' (北東から)



P643 完掘状況 (北東から)



P826 土層断面 (南東から)



P826 完掘状況 (南東から)



P905 土層断面 (南東から)



P905 完掘状況 (南東から)



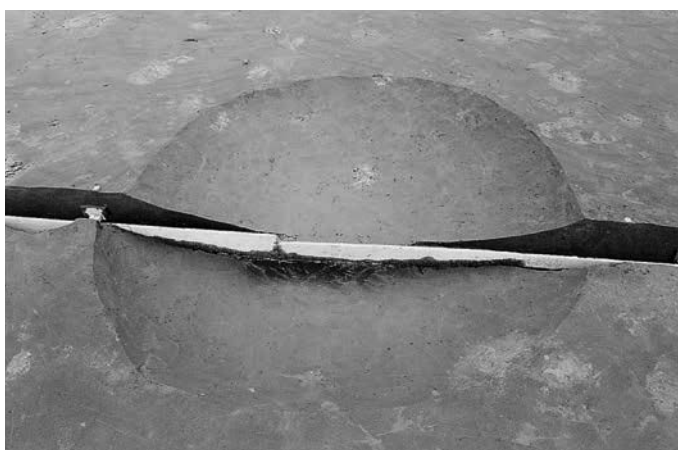
SK19 土層断面 (南西から)



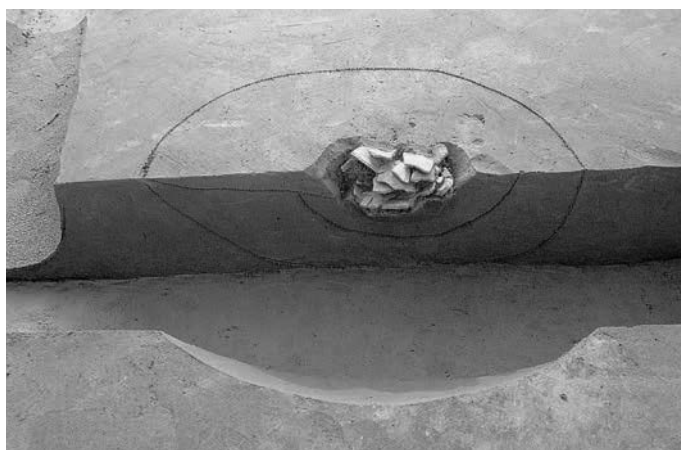
SK19 完掘状況 (南西から)



SK20 土層断面 (南西から)



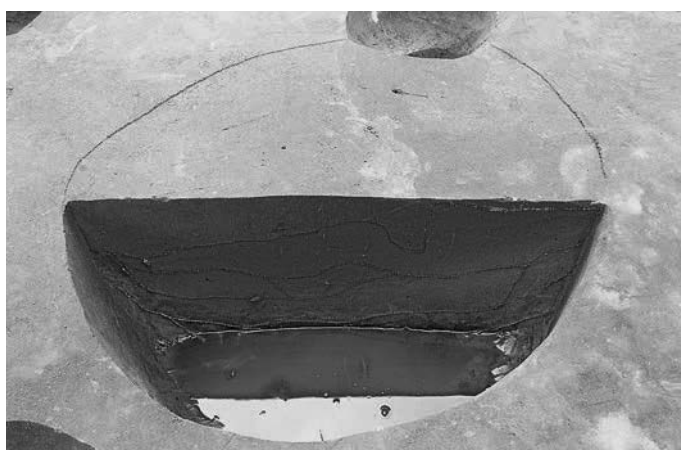
SK20 完掘状況 (南西から)



SK689 土層断面 (北東から)



SK689 完掘状況 (北東から)



SK936 土層断面 (北東から)



SK936 完掘状況 (北東から)





SK942 土層断面 (北から)



SK942 完掘状況 (北から)



SD 全景 完掘状況 (北東から)



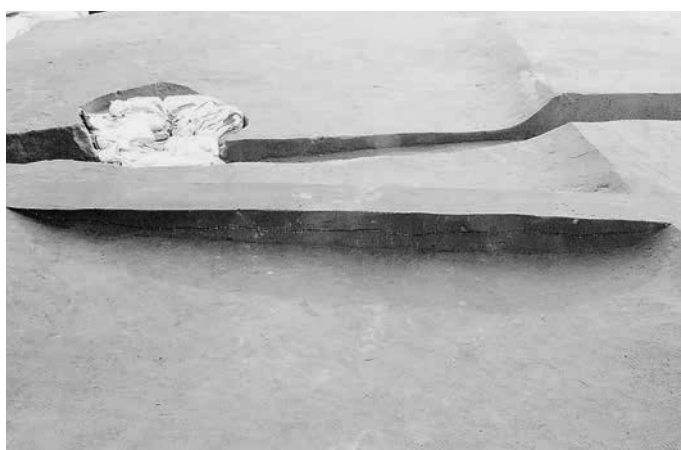
SD 全景 完掘状況 (北東から)



SD 全景 完掘状況 (北東から)



SD 全景 完掘状況 (南西から)



SD109 土層断面 A-A' (北東から)



SD109 土層断面 B-B' (北東から)



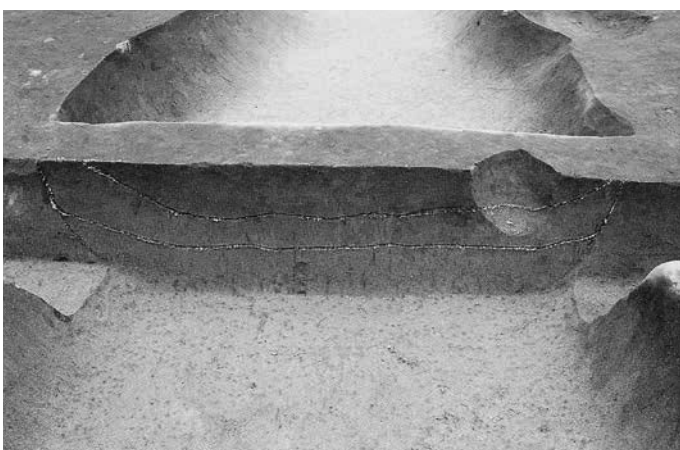
SD109 土層断面 C-C' (北東から)



SD109 土層断面 D-D' (北東から)



SD109 土層断面 E-E' (北東から)



SD109 土層断面 F-F' (北東から)



SD110 土層断面 A-A' (北東から)



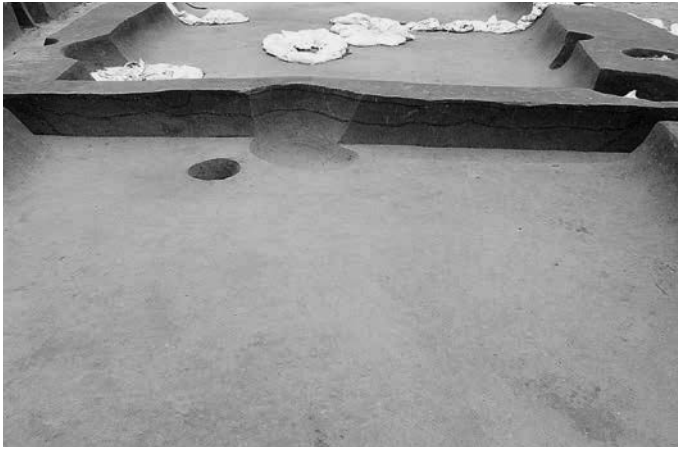
SD110 土層断面 B-B' (北東から)



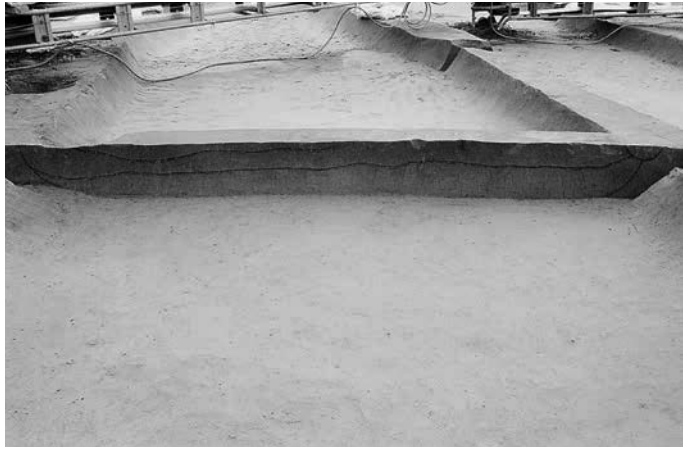
SD110 土層断面 C-C' (北東から)



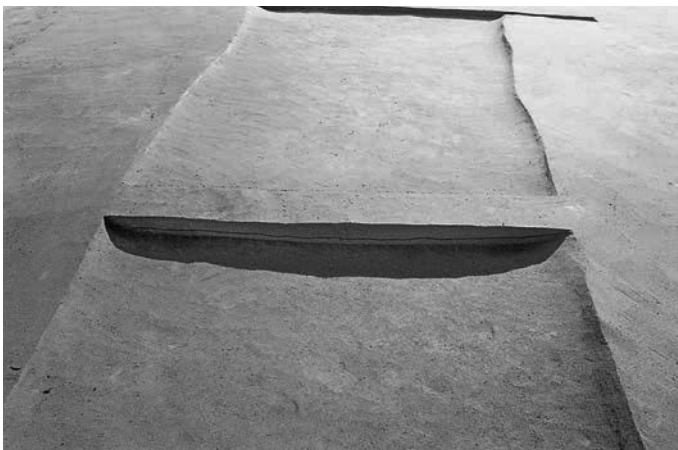
SD110 土層断面 D-D' (北東から)



SD110 土層断面 E-E' (北東から)



SD110 土層断面 F-F' (北東から)



SD111 土層断面 B-B' (北東から)



SD111 完掘状況 (北東から)



SD868 土層断面 A-A' (北東から)



SD871 完掘状況 (西から)



SD871 土層断面 A-A' (北から)



SD871 土層断面 B-B' (北から)





SD925 土層断面 A-A' (北東から)



SD925 土層断面 B-B' (北東から)



SD925 土層断面 C-C' (北東から)



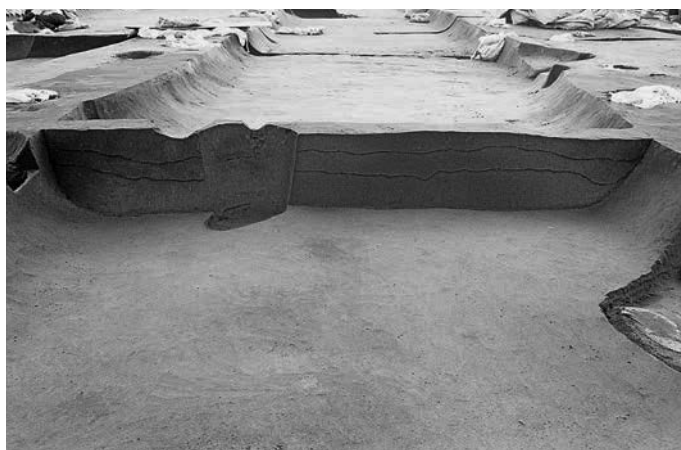
SD925 土層断面 D-D' (北東から)



SD984 土層断面 A-A' (北東から)



SD984 土層断面 B-B' (北東から)



SD984 土層断面 C-C' (北東から)



SD984 土層断面 D-D' (北東から)





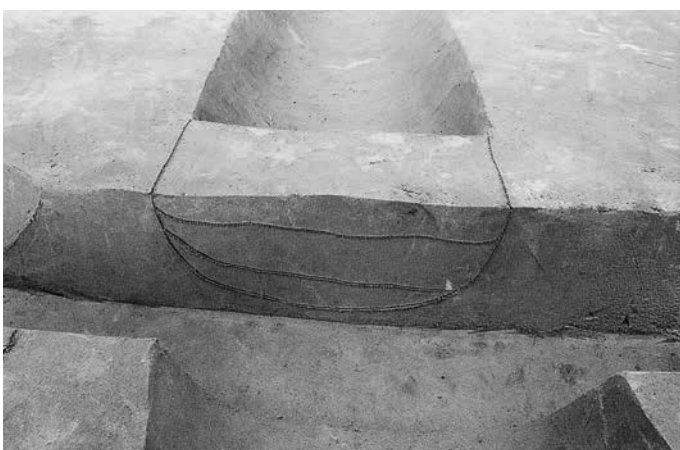
SD984 土層断面 E-E' (北東から)



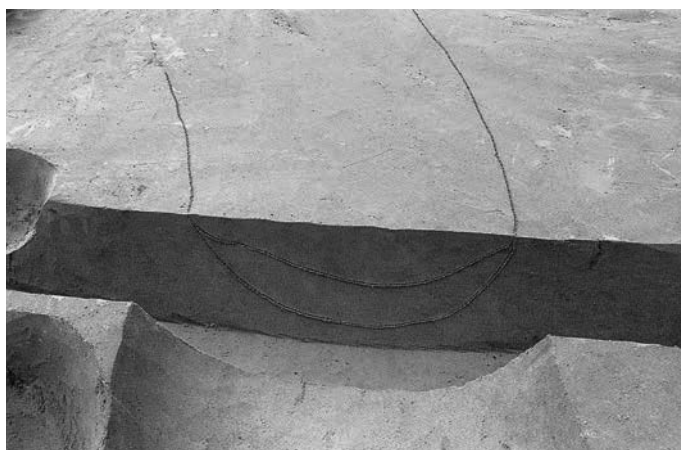
SD1000 土層断面 A-A' (北東から)



SD1021 土層断面 A-A' (北東から)



SD1021 土層断面 B-B' (南西から)



SD1021 土層断面 C-C' (北東から)



SD1021 土層断面 D-D' (北東から)



SD1051 土層断面 (北から)



SD1052 土層断面 (北から)



SX97 遺物出土状況 (南西から)



SX97 遺物出土状況 (北東から)



SX870 土層断面 (北東から)



SX870 完掘状況 (北東から)



SX953 · P977 土層断面 (北東から)



SX953 · P977 完掘状況 (北東から)



SX960 土層断面 (北東から)



SX960 完掘状況 (北東から)



調査の経過 1 2009.2.13 (北東から)



調査の経過 2 2009.3.10 (北東から)



調査の経過 3 2009.5.13 (北東から)



調査の経過 4 2009.6.23 (北東から)



調査の経過 5 2009.9.2 (北東から)



調査の経過 6 2009.12.2 (北東から)

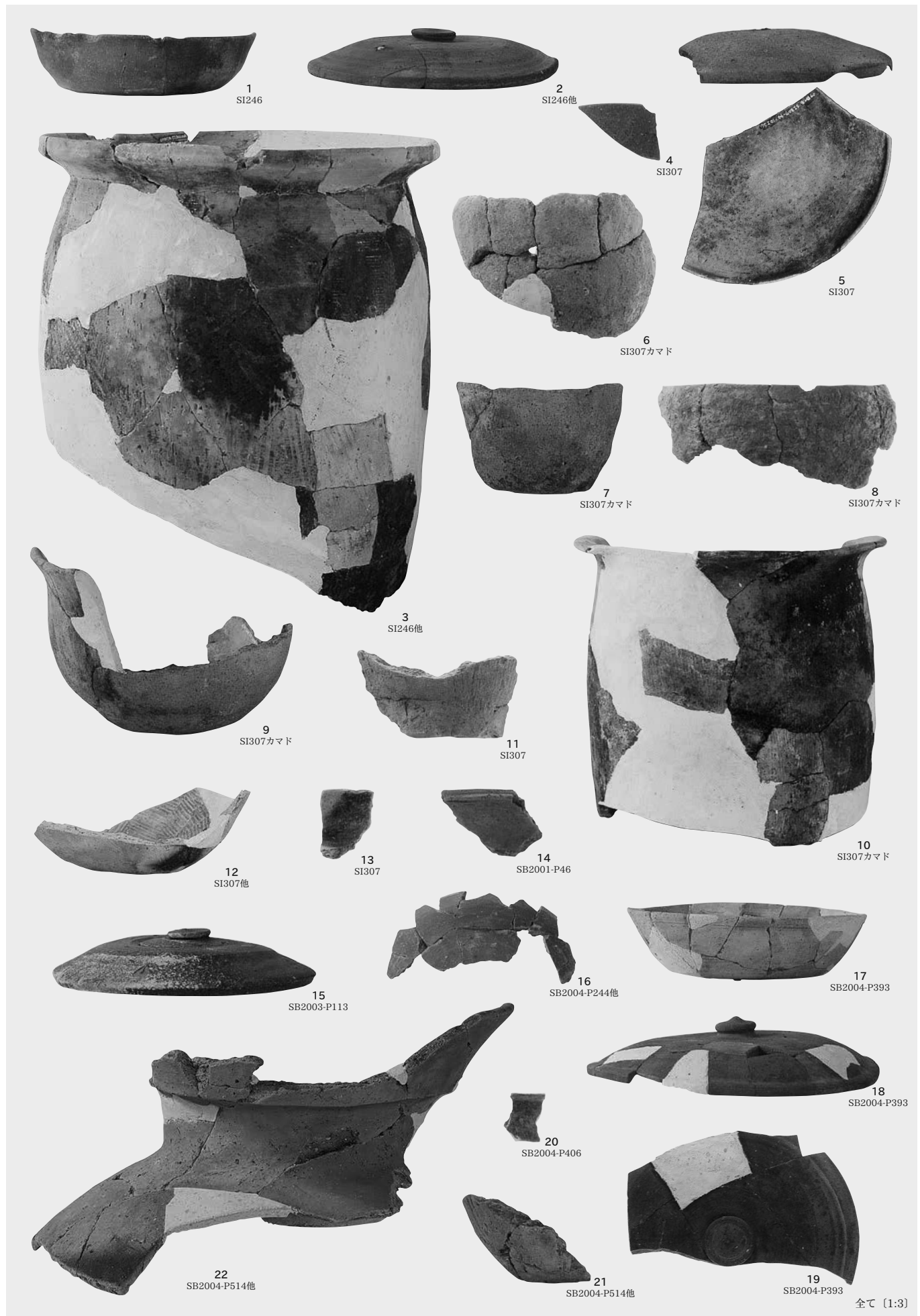


調査の経過 7 2009.12.8 (北東から)

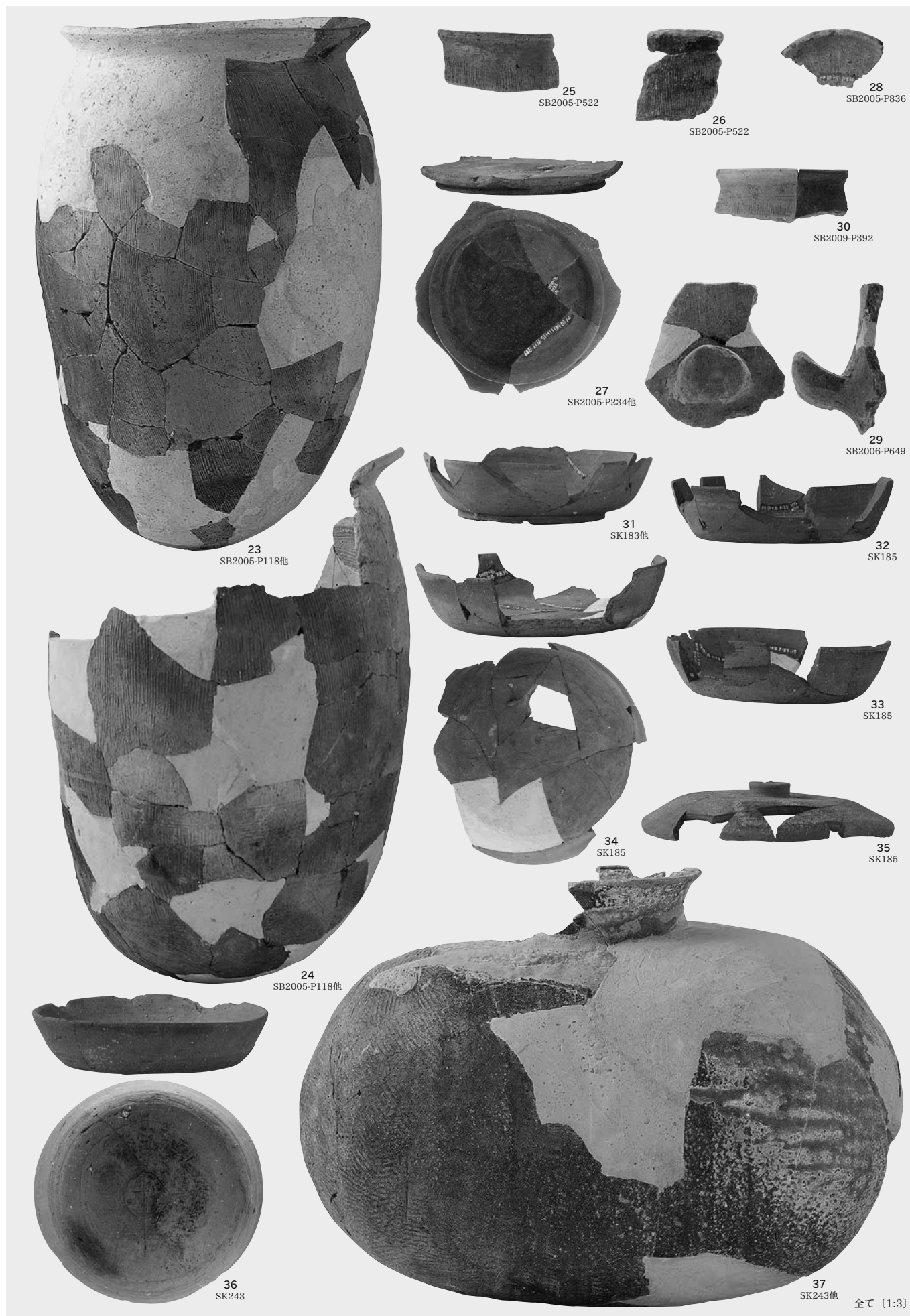


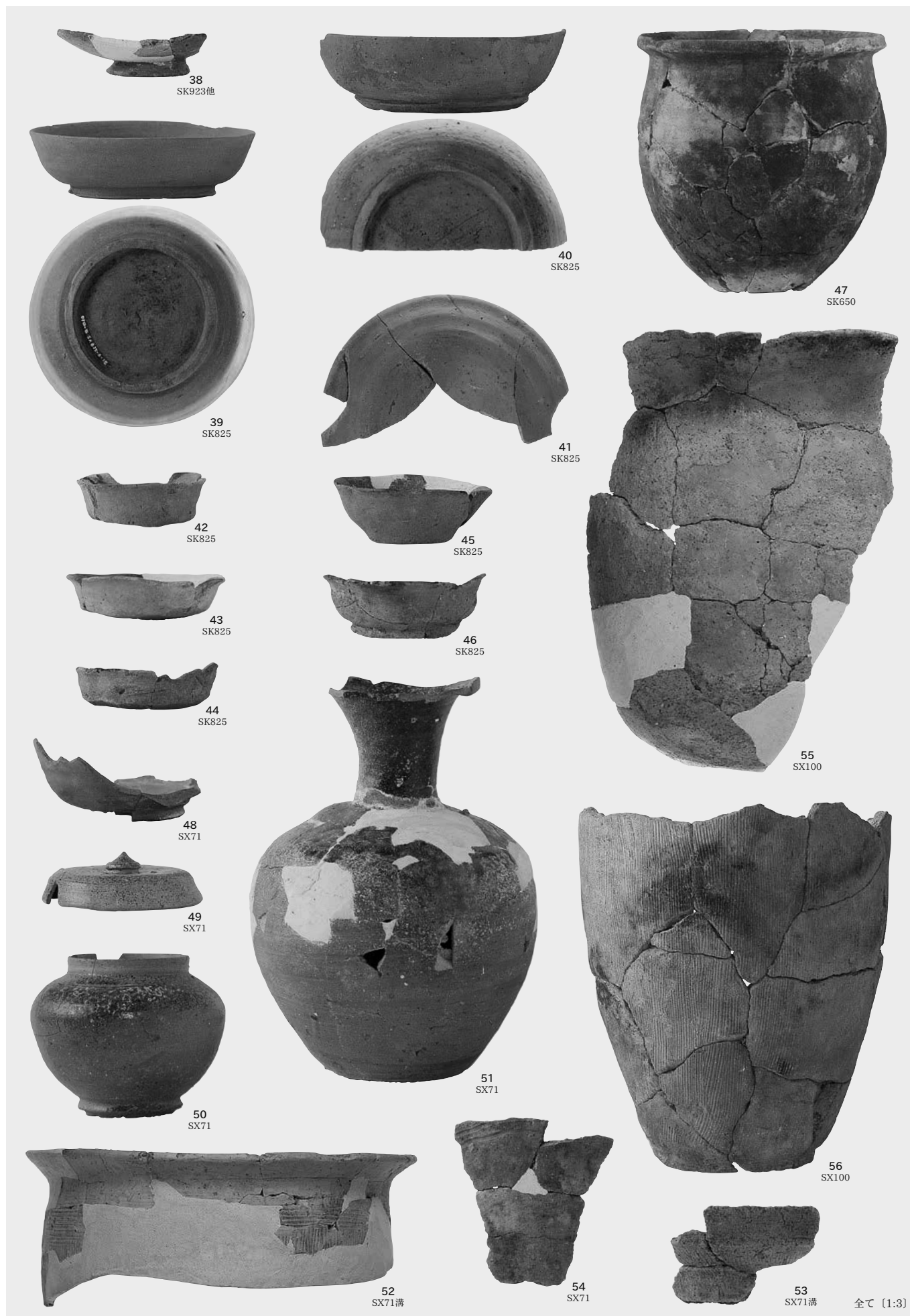
調査の経過 8 2010.2.16 (北東から)

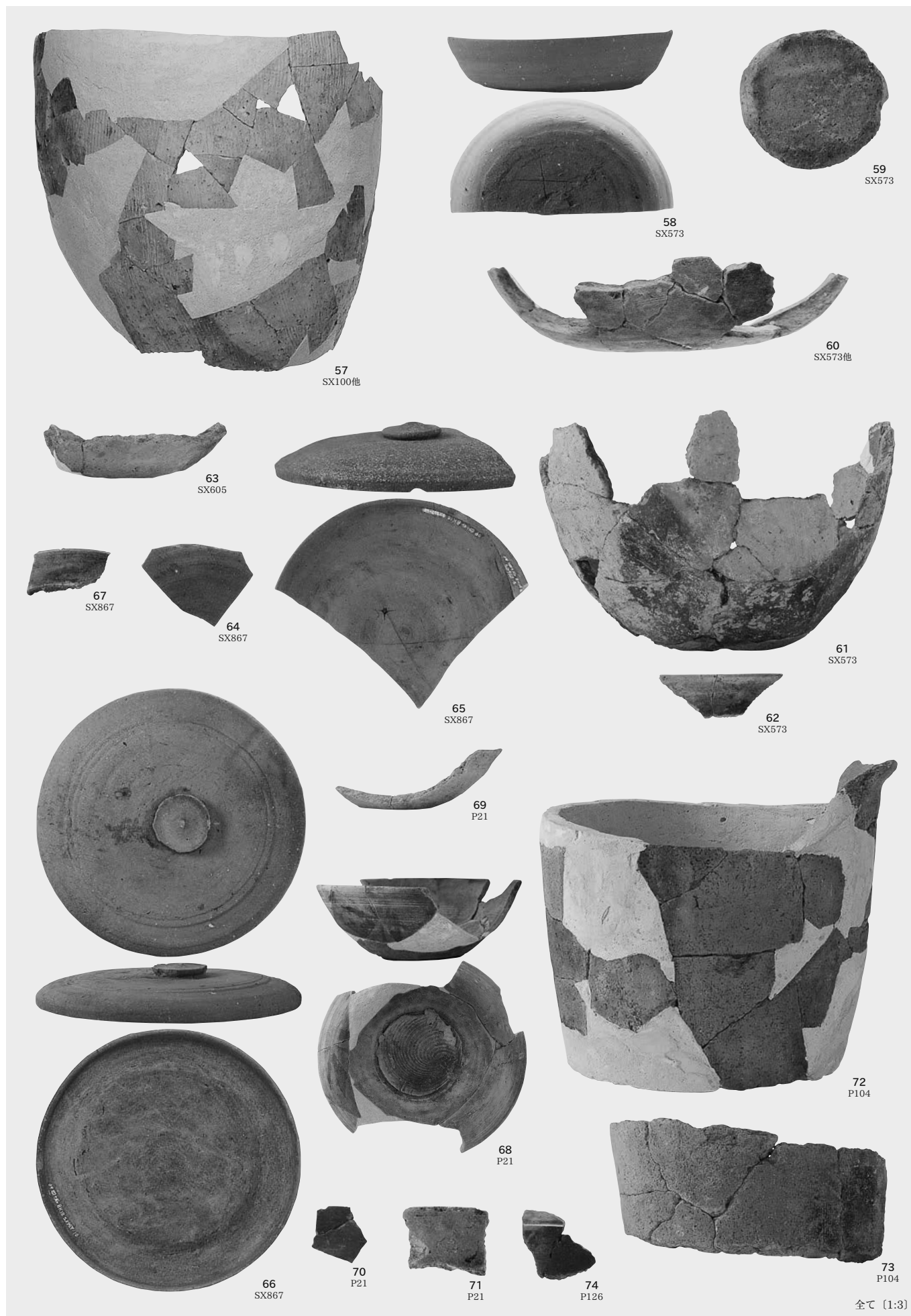


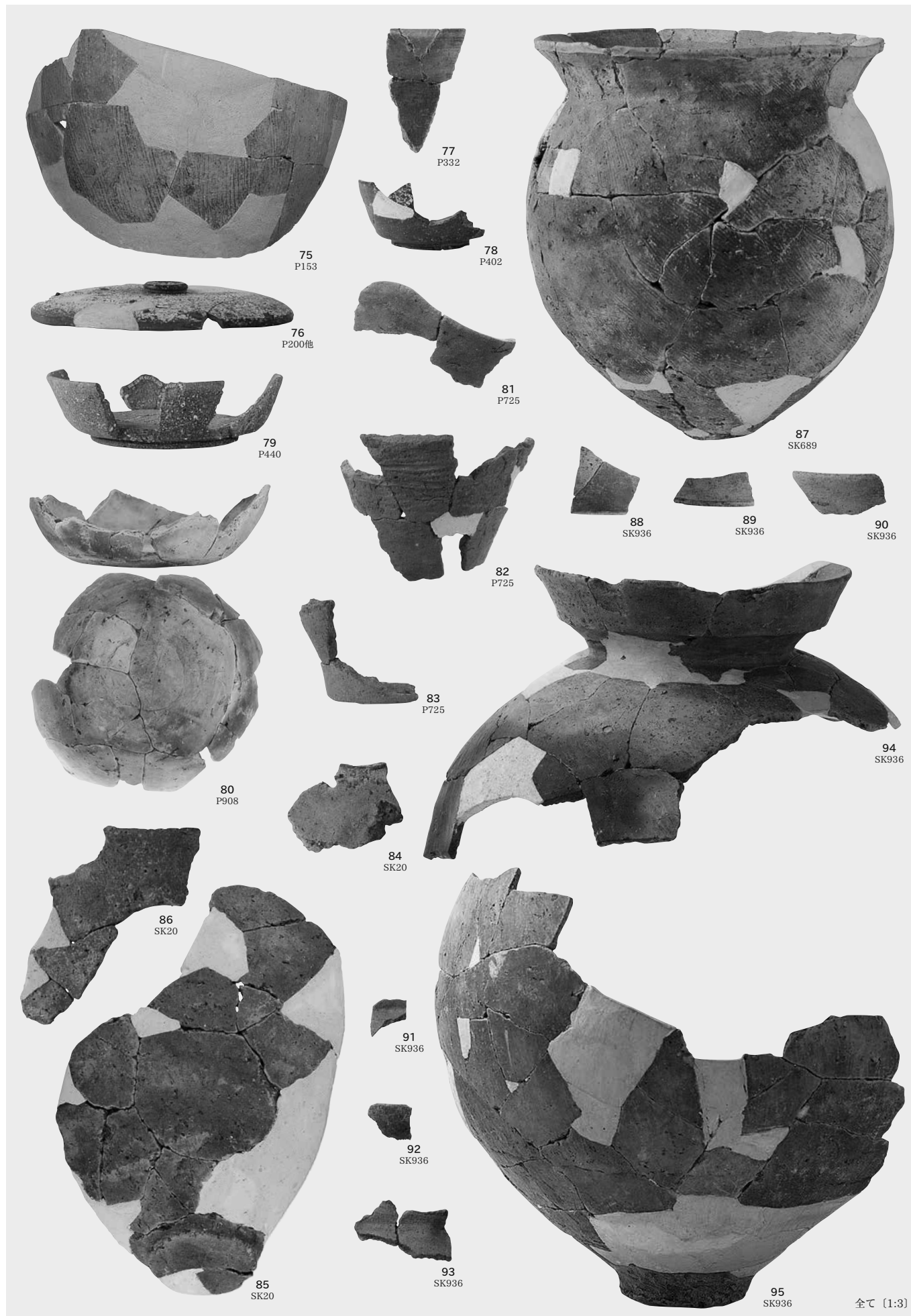




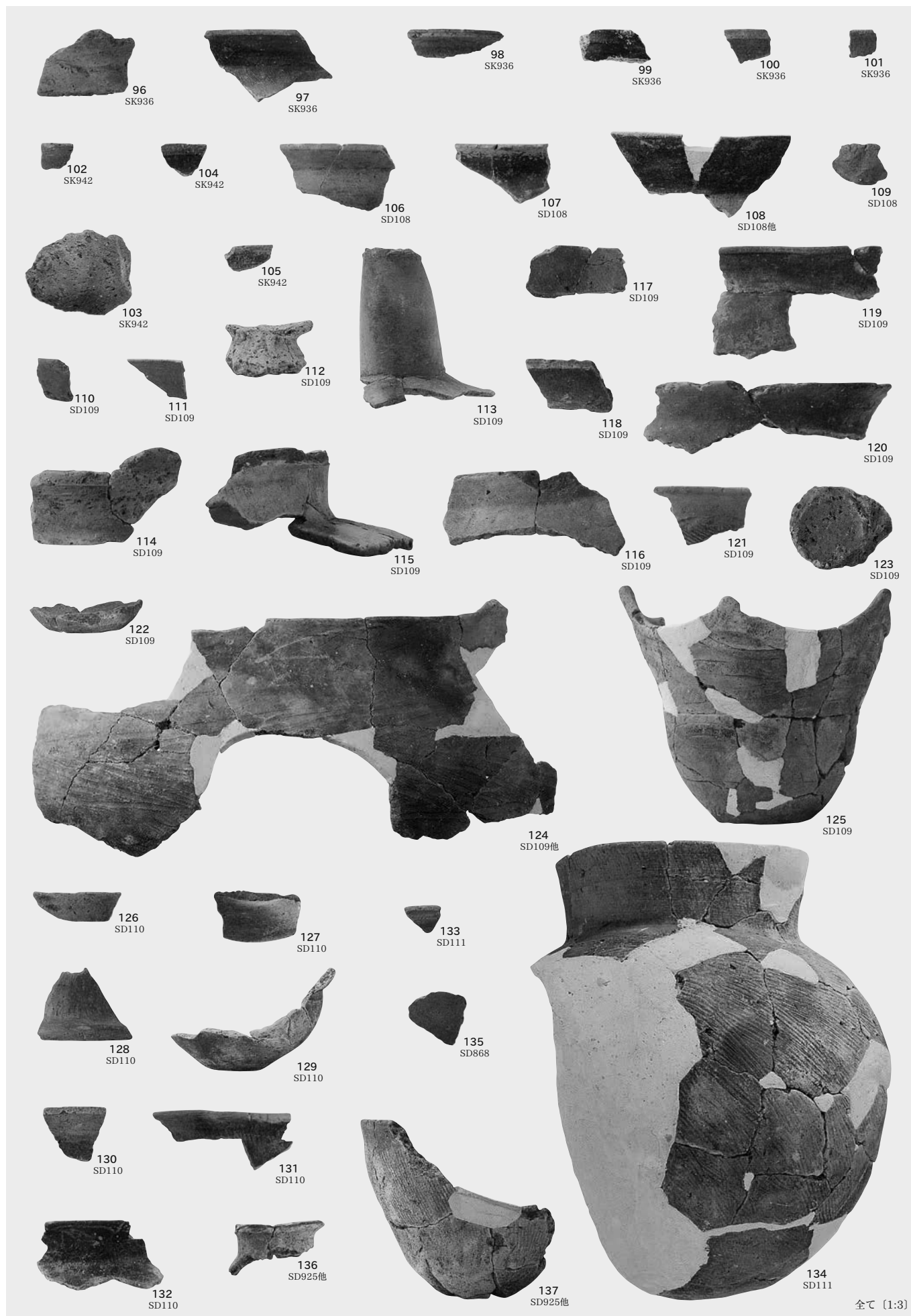




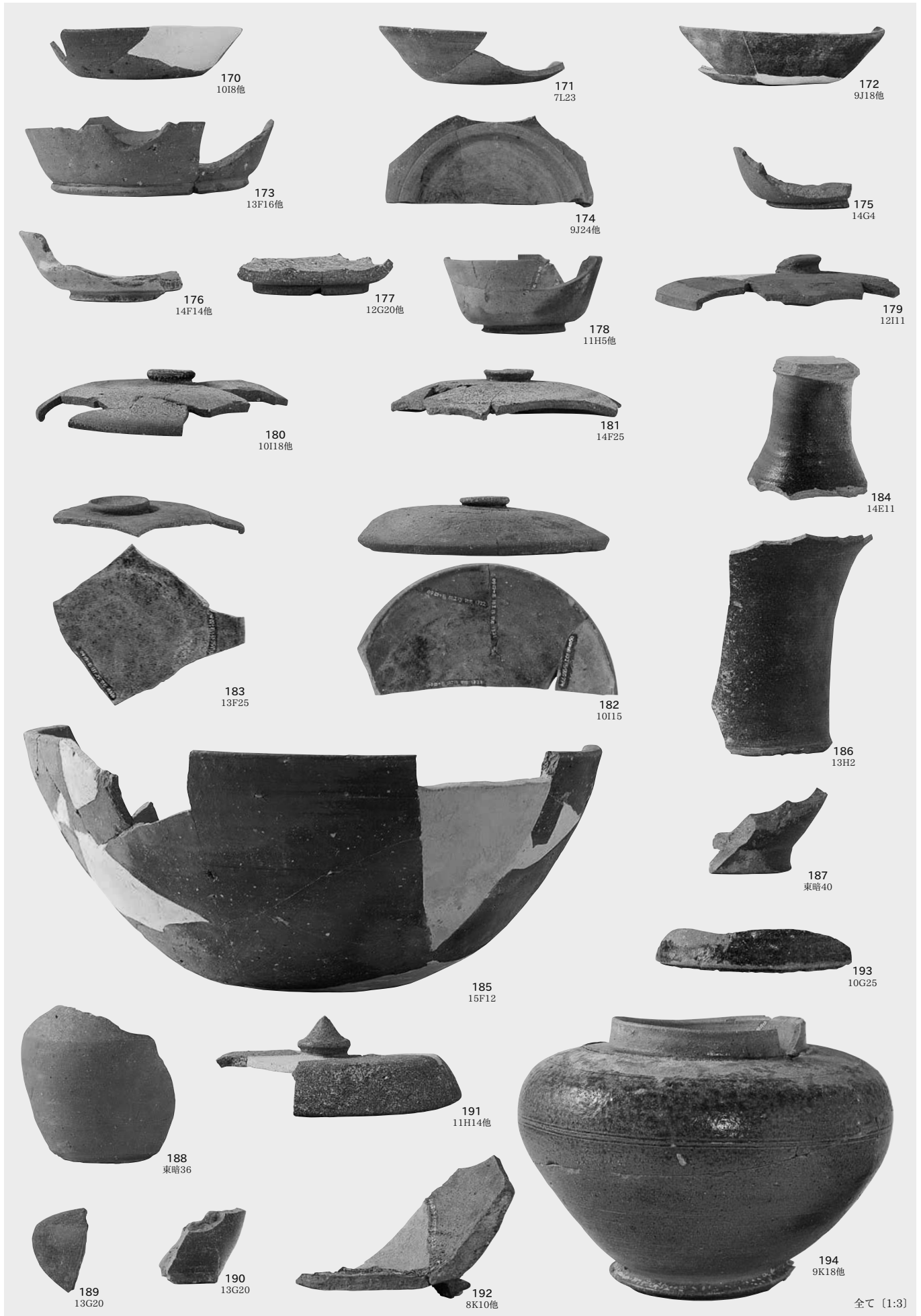














196  
13F15



195  
7K18他



198  
13G16

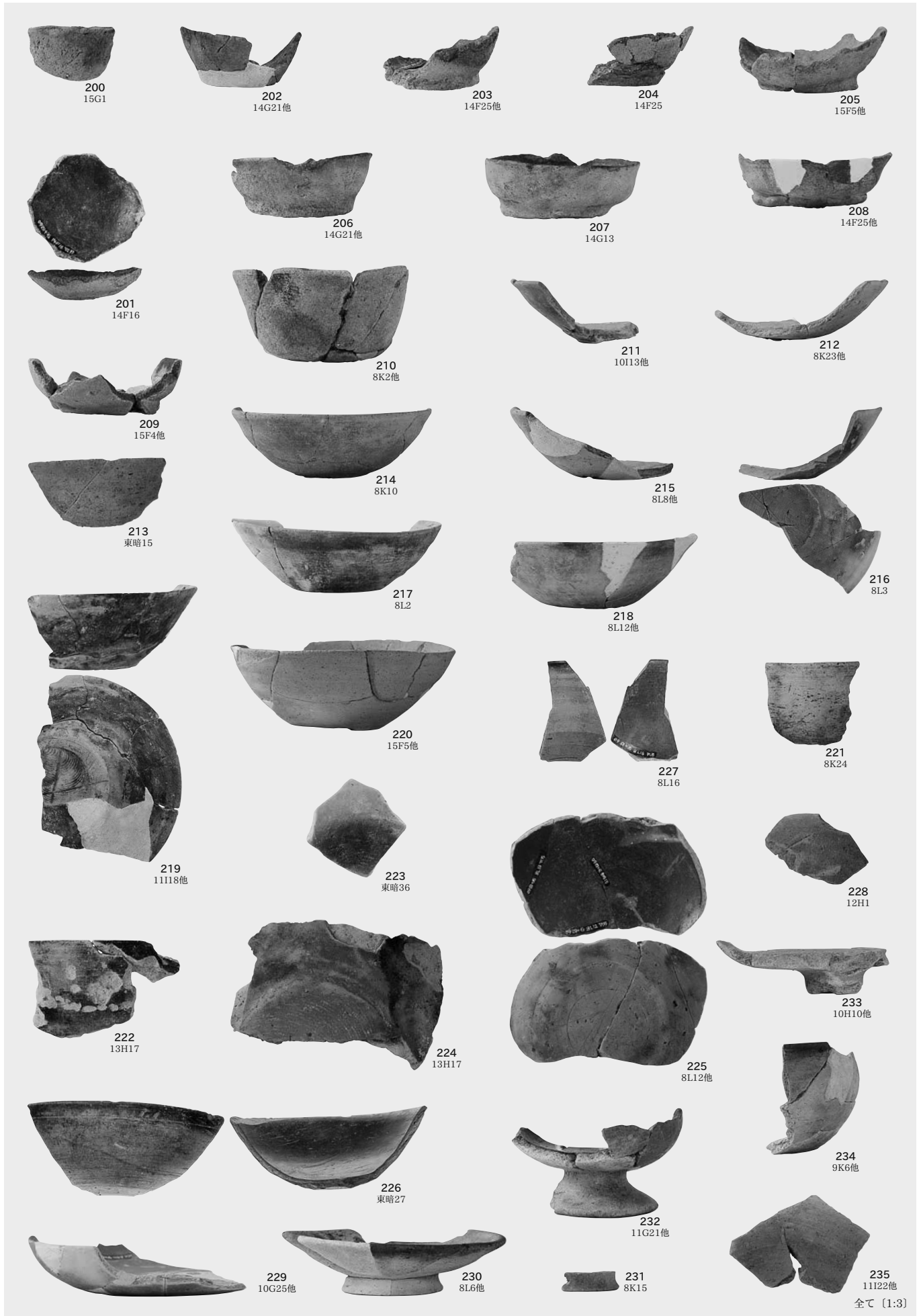


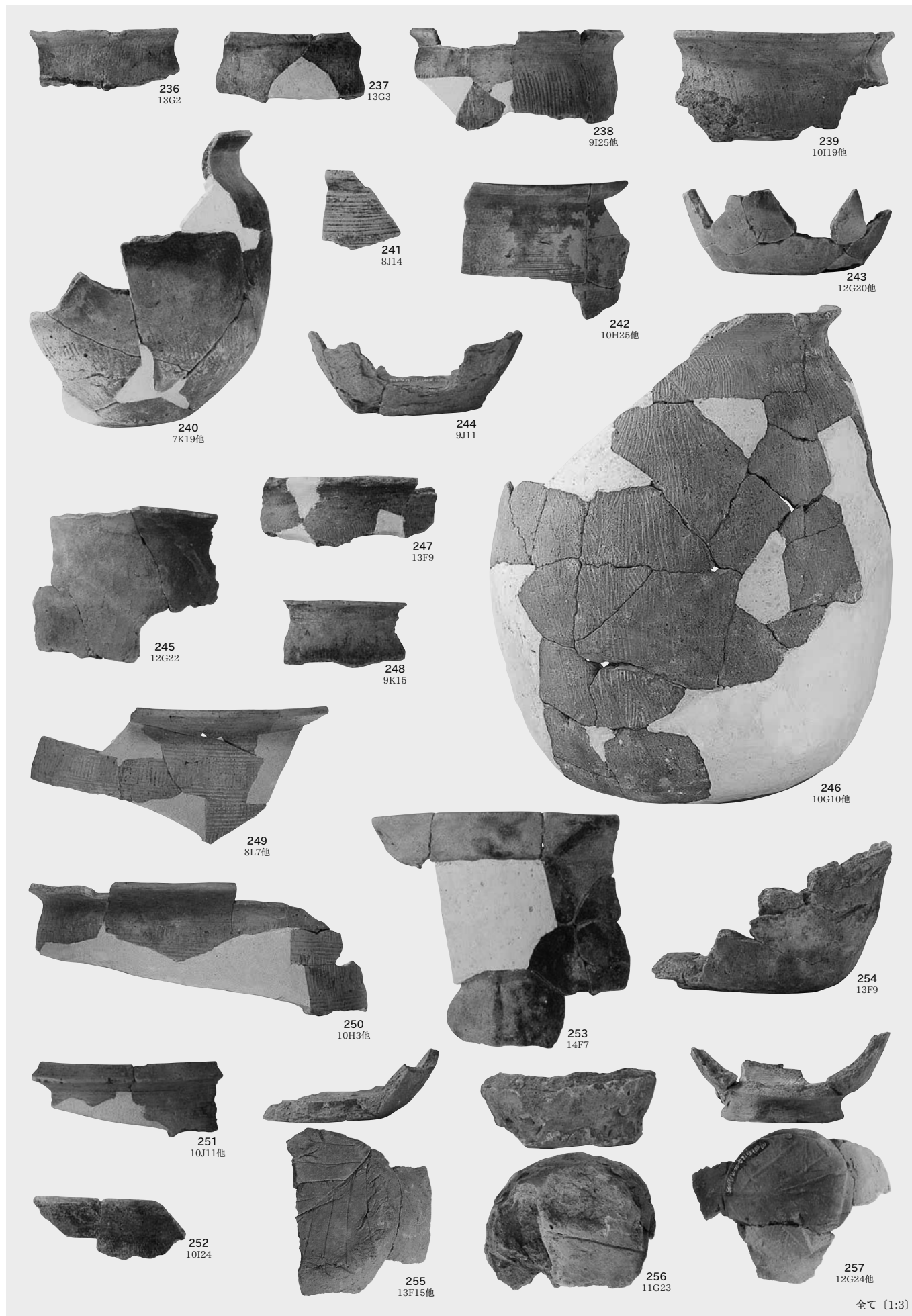
197  
9I25他

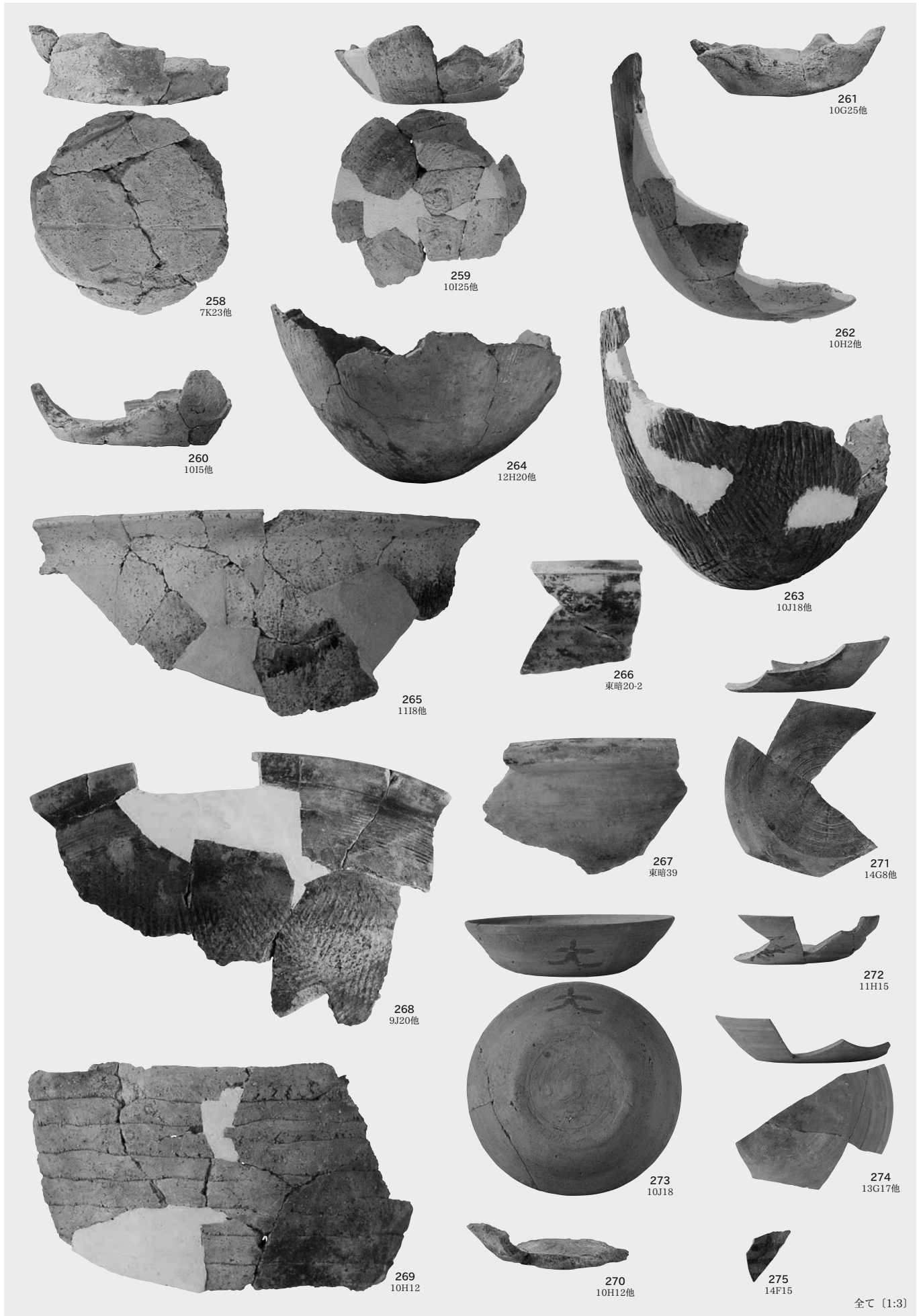


199  
11I18他



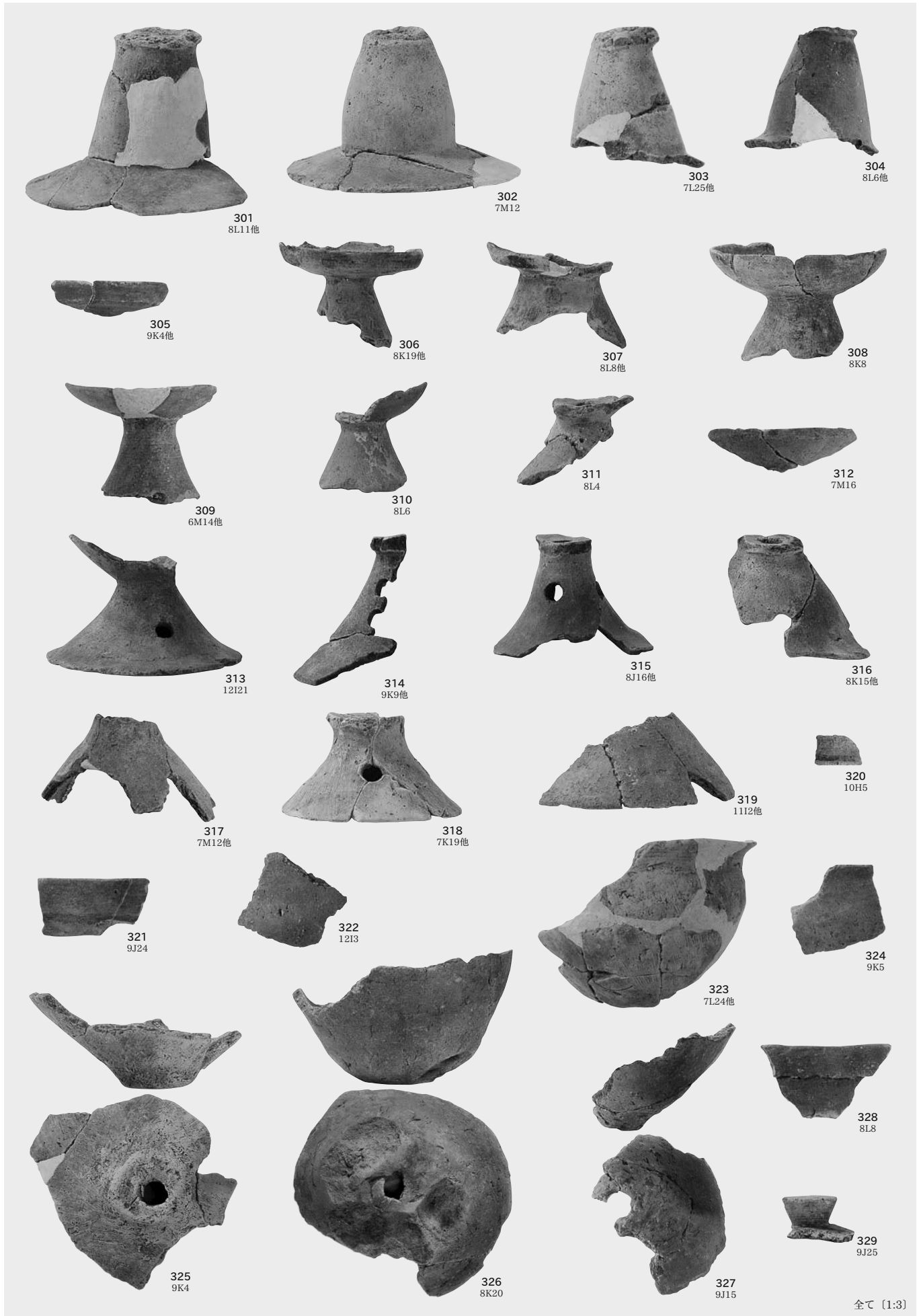


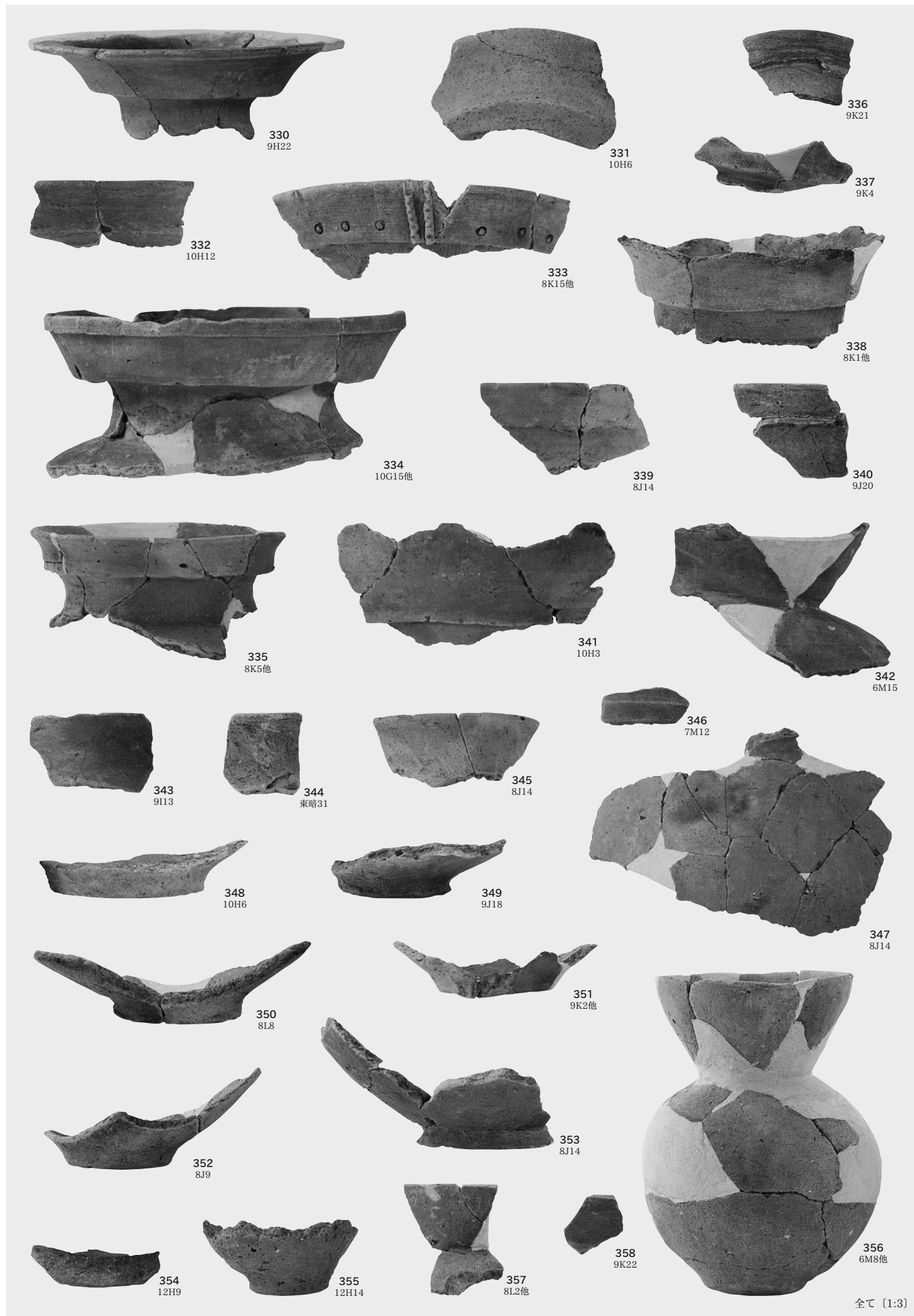


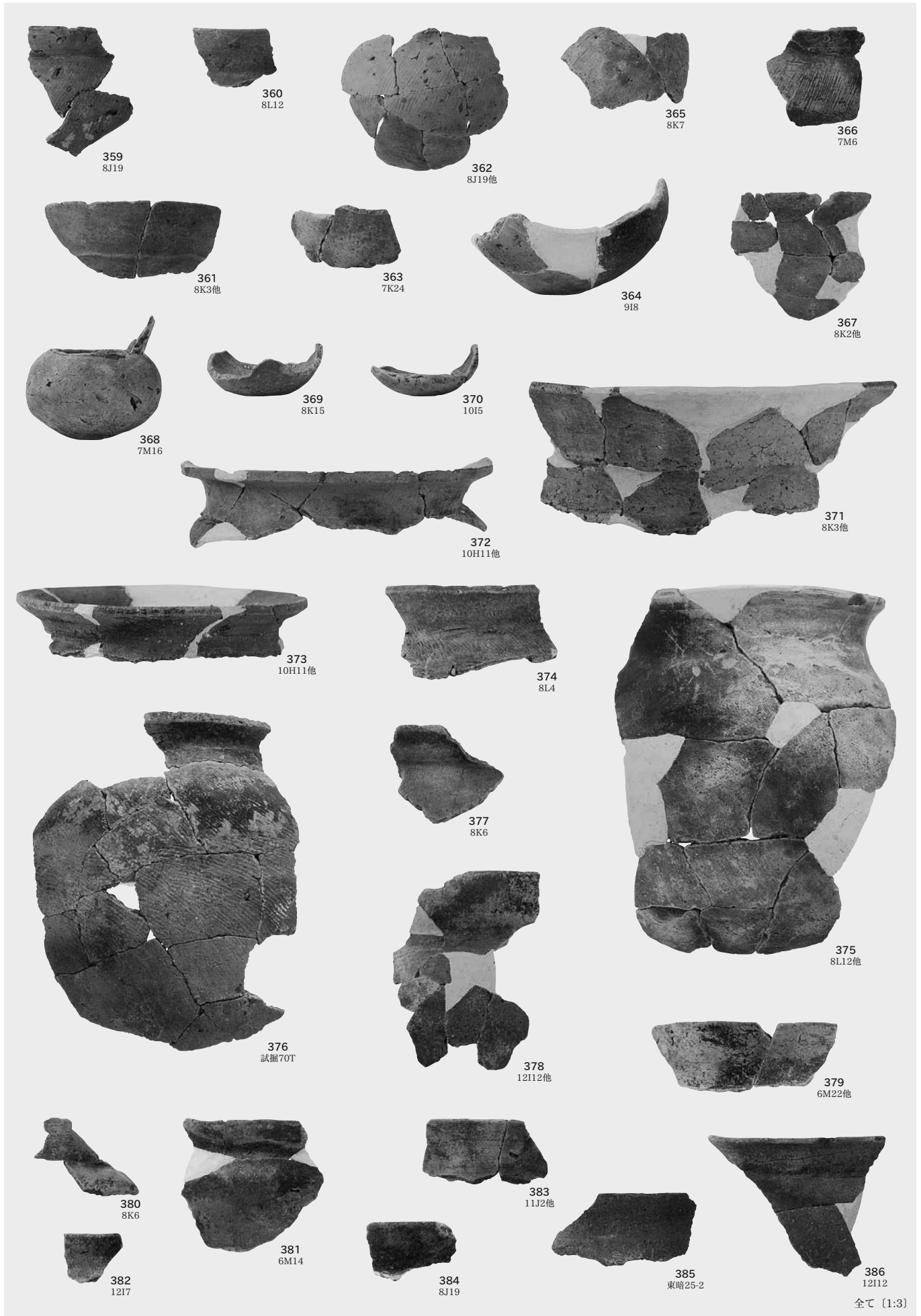






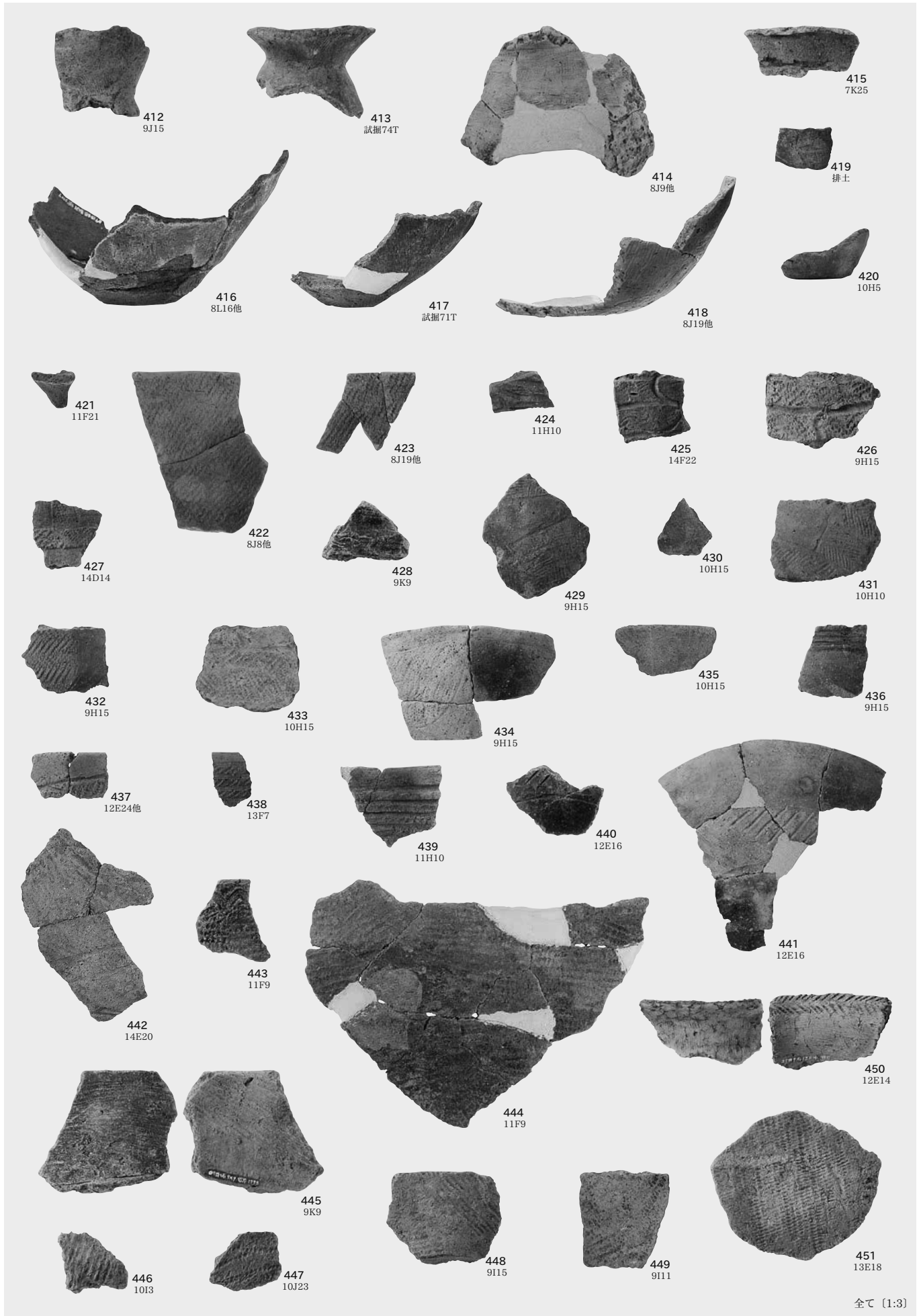


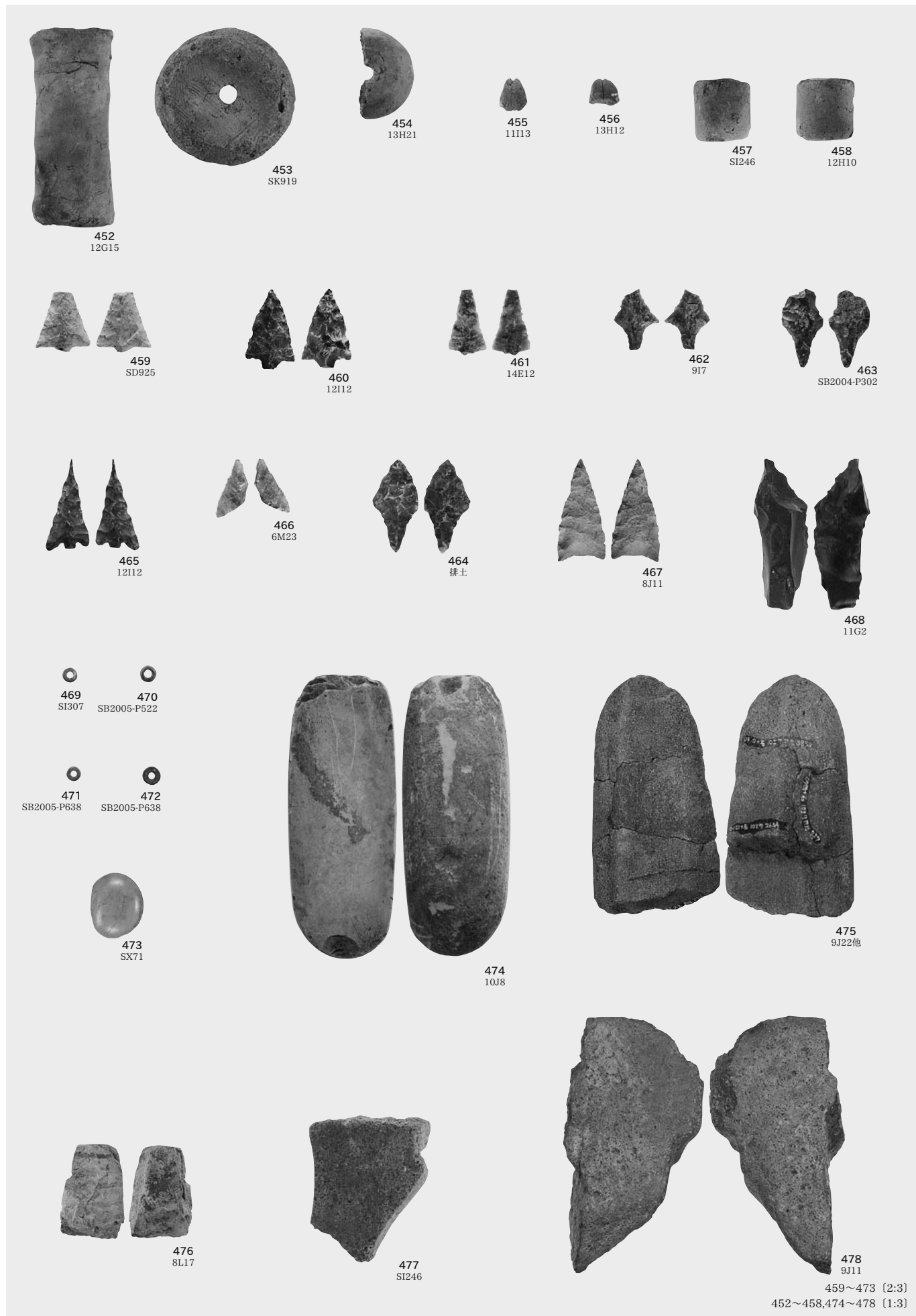














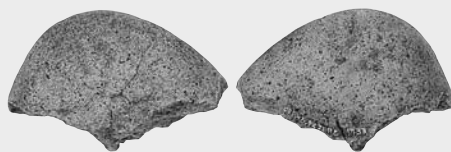
479  
8J22



481  
8J25



480  
10J8



482  
9K21



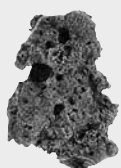
483  
14E9



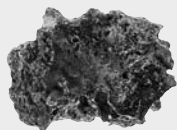
484  
13G9



485  
東略39



486  
SB2006-P465



487  
12G14



488  
9J23



489  
10I8



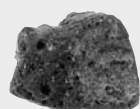
490  
P908



491  
11H5



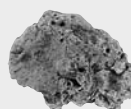
492  
SB2007-P574



493  
SK541



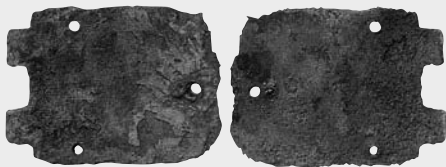
494  
11I19



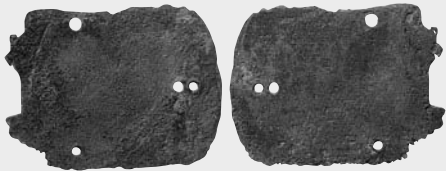
495  
SI307



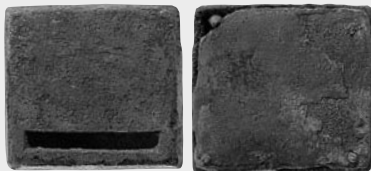
496  
15G6



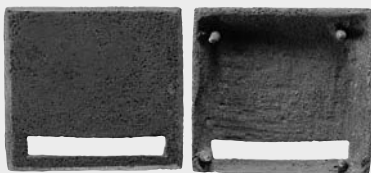
497  
SX71



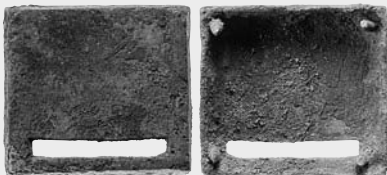
498  
SX71



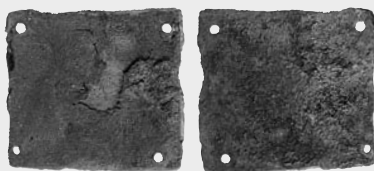
499  
SX71



500  
SX71



501  
SX71



502  
SX71



503  
SX71



504  
10H24



505  
SX71



506  
SX71



507  
11H4



508  
11H8



509  
SX71



510  
SX71



511  
SX71



512  
SX71



513  
SX71



514  
7L21



# 報告書抄録

ふりがな	しじっこいせき だいにじちようさ							
書名	四十石遺跡 第2次調査							
副書名	(仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	渡邊ますみ・奈良貴史							
編集機関	新潟市文化観光・スポーツ部文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟県新潟市西区木場2748番地1 TEL 025-378-0480							
発行年月	西暦2012年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しじっこく 四十石遺跡	にいがたけんしにしく 新潟県新潟市西区 ひがしやまあきしじっこく 東山字四十石 123番地1他	151076	737	37° 49' 42"	138° 54' 20"	20090216 ～ 20091214	5540.1 m <sup>2</sup>	埋立処分地整備 工事に伴う本発 掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
四十石遺跡	集落遺跡	縄文時代(後期) 弥生時代(前・中・ 後期)		縄文土器・弥生土器・石器				
		古墳時代(前・中 期)	土坑・溝状遺構・性格 不明遺構・ピット	土師器(布留甕含む)・石製品(白 玉含む)				
		奈良・平安時代(8 世紀初頭～9世紀 末)	竪穴住居・掘立柱建物・ 土坑・溝状遺構・埋葬 遺構・性格不明遺構・ ピット	須恵器・土師器(東北系土器・製塩 土器・「津」墨書土器含む)・黒色土 器・土製品・石製品・金属製品(銅 製腰帯具・刀子飾り金具)・鍛冶関 連遺物(銅系滓含む)・焼人骨				
要約	四十石遺跡は、越後平野のほぼ中央、海岸寄りに位置しており、西方には弥彦山・角田山が控え、東方には西川が流れる。現標高-1.1m以下の埋没砂丘上に立地し、今回の調査で2つ文化層が確認された。上層は奈良・平安時代、下層は縄文時代・弥生時代・古墳時代と捉えられ、断続的ではあるが、内水面という水辺を活かした周辺地域の要所であったことが窺われる。特に、上層では、軸筋を揃えた倉庫や焼人骨とともに帯金具がまとまって出土した埋葬施設が検出されており、東北系の土器、銅系滓、「津」墨書土器の出土と合せて、本遺跡が政治的意図により与えられた機能をもっていた可能性を示唆する。越後平野に展開する原始・古代の様子をみせる遺跡として評価される。							

## 四十石遺跡 第2次調査

— (仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書 —

2012年3月29日印刷  
2012年3月30日発行

編集 新潟市文化財センター  
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1  
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会  
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町602番地1  
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ハイングラフ  
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号